

Journal of Japanese Culture

日本文化學報

•第 79 輯•

2018. 11

韓國日本文化學會

目 次

기획 : 영화 속 한국과 일본문화

- 在朝鮮日本人浅川伯教·巧兄弟と柳宗悦の朝鮮傳統文化理解の特質 李 尚 珍 ... 5
— 初期の活動を中心に—
- 영화를 통해 본 현대 일본 여성의 비혼화(非婚化) 현상 이 윤 주 ... 33
— 『결혼하지 않아도 괜찮을까』를 중심으로—
- 미국의 대일압력과 요시다 노선의 대미협조외교에 대한 재고찰 김 남 은 ... 53
- 駅弁大会についての一考察 金 英 順1... 73
- 今井正の映画『あれが港の灯だ』に再現された在日朝鮮人への眼差し 朴 東 鎬1... 89
- 浅井了意における中国明末善書文化の受容—顔茂猷著『勉吉録』を中心に— 董 航1... 109
- 소셜마케팅을 활용한 공익캠페인 효과 이 진 희1... 129
— 일본과 국내외 기업문화 사례를 중심으로—
- 『古事記』における「神による神のまつり」—祭ることの意味について— 권 혁 성1... 147
- 가와바타 야스나리(川端康成)의 문학과 일본의 바둑문화 김 청 균1... 163
—가와바타 야스나리의 바둑 관련 에세이를 중심으로—
- 신카이 마코토의 『너의 이름은.』에 나타난 재해 윤 혜 영1... 177
- 소설 「헛간을 태우다」와 영화 「버닝」의 문화 텍스트적 변용과 확장 ... 조 헌 구1... 193
—‘WHAT’에서 ‘WHY’로의 전환을 중심으로—
- 시마자키 도손(島崎藤村)의 「식당(食堂)」론 - 노년의 수용- 천 선 미1... 211
- 마쓰모토 세이초[松本清張]연구 - 한국관련 작품을 중심으로- 한 기 련 ... 227
- 전혼세대(焼け跡世代) 소년의 전쟁 홍 진 희 ... 243
—오에 겐자부로(大江健三郎)의 『사육(飼育)』을 중심으로—
- 類義語「いそがしい、せわしい、あわただしい」の意味・用法 金 英 児 ... 261
- 韓国における大学生の日本語学習動機づけの検討—日本語関連専攻者と非専攻者の比較— 金 元 正 ... 279
- 한일 의뢰행동의 의뢰 스트라테지의 대조분석 김 중 완 ... 299
—대학생의 담화완성테스트 자료 분석을 통해서—
- 일본현대시를 통한 비유표현 수업방안 남 이 숙 ... 317
- 일본어 능력 향상을 위한 학습법에 관한 실천연구 박 혜 성 · 최 진희 ... 339
—암기와 새도잉 연습을 대상으로—
- 韓国語와 日本語의 二字 漢字語에 관한 考察 신 민 철 ... 357
- 첫대면 대화에서의 침묵극복사례에 관한 연구 이 선 옥 ... 371
—한국인 상급일본어학습자의 대화운영방법을 중심으로—
- 日本語依頼表現の丁寧さ 吳 先 珠 ... 393
—授受表現「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に—
- 일본이해 과목에서 학습자 중심 수업실천 사례 보고 조 선 영 ... 411
—교수자 부담 경감을 생각하며—
- 韓国人日本語学習者における日本語のザ行音とジャ行音の習得について 藤田蘭子 ... 433
—聞き取り調査を通して—

■ 合評會	453
■ 韓國日本文化學會 任員名簿	457
■ 韓國日本文化學會 會則	461

在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦 の朝鮮伝統文化理解の特質

—初期の活動を中心に—

李尚珍*

(e-mail : esangjin74@gmail.com)

<目次>

- | | |
|--|------------------------|
| 1. はじめに | 4. 浅川巧の「親しさの美」 |
| 2. 朝鮮伝統文化との出会い—慶州石窟庵の影
響から「朝鮮民族美術館」設立 | 5. 柳宗悦の「悲しさの美」と「親しさの美」 |
| 3. 浅川伯教の自然・ひと・ものの「調和の美」 | 6. おわりに |

キーワード：浅川伯教(Asakawa Noritaka)、浅川巧(Asakawa Takumi)、柳宗悦(Yanagi Muneyoshi)、
植民統治期(Japanese colonial period)、朝鮮伝統文化(Korean Traditional Culture)

1. はじめに

浅川伯教(1884～1964)は小学校の教員、その弟巧(1891～1931)は林業雇員(後に技手となる。)として植民統治期の朝鮮に暮らしていたとき、日本による朝鮮植民統治に直面した。多くの日本人にとって当時の朝鮮は、日本の力をもって文

* 山梨英和大学、准教授、日韓文化交流史

明化しなければならない植民の対象に過ぎないと考えられ、さらに傍観者としての在朝鮮日本人と朝鮮人の交流・交際などは考えられなかった。そのうえ、朝鮮人の日常生活用品である伝統工芸品に関心を寄せ、これを研究の対象と考える日本人は皆無であった。そういう状況のなかにあつて、浅川兄弟は朝鮮の日常的な習慣や生活様式を身につけ、生活者としての現地体験によって日常生活から朝鮮伝統文化の独自性を認識することができた日本人であった。換言すれば、浅川兄弟は朝鮮民衆の日常生活で使われる伝統工芸品を朝鮮＝異文化理解にとってきわめて重要な文化要素として認めたのである。

柳宗悦（1889～1961）は雑誌『白樺』の発刊に参加し、その後も神学の研究や西洋近代美術を日本に紹介する活動に専念していった。その『白樺』の愛読者・伯教が1914年9月にロダンから白樺派に贈られた彫刻を見るために、朝鮮時代の白磁数点を手土産にして千葉県我孫子に柳を訪ねた。そして、2年後の1916年8月、柳は初めて朝鮮に出かけ、浅川兄弟に案内してもらったが、この旅は、柳にとっては西洋から東洋に芸術的関心が向かう転換期となり、浅川兄弟には芸術を通して他者を理解するという柳の見解に共感し、他者＝朝鮮理解の方法論を見出すきっかけとなった。

これまでに浅川兄弟と柳の関係に関する研究は多方面において行われてきた。主な先行研究としてまず、「白樺派」の朝鮮認識における新たな視点を提示した李秉鎮の『「白樺派」における他者としての〈朝鮮〉－柳宗悦と浅川巧の場合－』（東京大学博士学位論文、2002年）と「『朝鮮の土となった日本人』論再考」（『日本学報』第57輯2巻、ソウル、2003年）が挙げられる。李は、柳の朝鮮理解が民芸論形成によって理論化されたことや巧の朝鮮理解のリアリティーが「白樺派」の抽象的な言説空間への批判につながったことを主張した。

次に、2000年代には表象文化としての民芸への関心が高まり、柳の民芸運動の出発点となる朝鮮における活動を、当時の朝鮮の若者たち（廉想涉や南宮璧等）

との交流や朝鮮民族美術館の設立運動などと具体的な視点からアプローチするようになり、「朝鮮における柳宗悦の受容」（金希貞、金沢大学大学院『社会環境研究』8号、2003年）、「柳宗悦を通してみる韓日文化交流の展望」（李秉鎭『日語日文学研究』56集、2006年）、「『廢墟』同人と柳宗悦」（チョ・ユンジョン『韓国文化』43集、2008年）、「柳宗悦の石佛庵認識」（姜嬉静『震檀学報』110号、2010年）などが発表された。

筆者も、「浅川伯教と朝鮮一植民地期の朝鮮陶磁研究を中心に一」（お茶の水女子大学大学院『人間文化論叢』第7巻、2004年）、「浅川伯教の朝鮮工芸論」（お茶の水女子大学大学院『人間文化論叢』第8巻、2006年）、「柳宗悦の朝鮮伝統芸術研究—浅川伯教・巧兄弟との繋がりを中心に一」（『山梨英和大学紀要』第8号、2010年）、「柳宗悦と浅川伯教の「朝鮮美術観」に関する一考察：「朝鮮民族美術館」の設立過程を中心に」（『比較文化研究』116号、2015年）などを発表し、浅川兄弟の朝鮮理解の方法論として朝鮮伝統工芸研究を取り上げ、朝鮮理解に対する彼ら独自の研究方法について問題提起をし、兄弟の思想的な基盤と朝鮮理解における実践的な行動の特徴を明らかにした。

以上の先行研究では、浅川兄弟と柳の朝鮮＝現地体験の初期の影響に関する分析が十分であるとは言えない。これらの先行研究を踏まえながら、本論文では、3人の朝鮮＝現地体験の初期の慶州石窟庵の影響に注目し、そこから「朝鮮民族美術館」設立に至る過程における3人の朝鮮伝統文化理解の特質を明確にする。

2. 朝鮮伝統文化との出会い

—慶州石窟庵の影響から「朝鮮民族美術館」設立—

1913年5月、伯教は母とともに朝鮮に渡り、京城府立南大門公立尋常小学校の図画担当の訓導として赴任した。1912年7月に彫刻家・新海竹太郎に入門してい

た伯教は、朝鮮に渡ってから夏と冬の休みには東京の新海竹太郎を訪ね、約10年間彫刻の修業を続けた。そして、「李王家の美術館に通う様に」なり、朝鮮の「白い壺に彫刻的效果を強く感じ」、朝鮮の伝統文化における美術を強く意識するようになった。¹⁾1914年9月に柳との面会の際には白磁の染付秋草文葫蘆瓶など数点を持参するほどの鑑識眼を持っていた。

弟巧は秋田県大館営林署の小林区署に5年間勤務した後、母と兄を追って1914年5月に朝鮮に渡り、朝鮮総督府農商工部山林課林業試験所に雇員として就職し、植林への関心を一層高めて養苗と造林の実験に励み、自然に逆らわず、動植物の調和を壊さないで朝鮮の山を救うことを求めていった。さらに、当時、朝鮮の人々によってその美術的・芸術的価値が認識されなかった日常生活品の白磁や民具などを集めながら、自然のなかに生まれ、自然と共存している「ひと」の暮らしに注目し、「誕生」と「保存」の原則を理解し、林業・造林の研究だけでなく、工芸の研究にも応用していった。

一方、柳は白樺派の活動を通して、1912年の秋に東京上野池の端の拓殖博覧会で朝鮮陶磁器を見て感動していたバーナード・リーチ（1887～1979）と富本憲吉（1886～1963）との交流のなかに朝鮮工芸品への関心を持ち始めた。¹⁾そして、1914年9月に伯教と朝鮮白磁に出会い、1915年12月には再び我孫子で伯教と弟巧に会い、1916年8月、柳は初めて朝鮮に出かけ、浅川兄弟に案内してもらった。13日に晋州へ、19日に海印寺へ、31日に石佛寺を訪れている。

1) 「朝鮮の室に入って四、五分たつと、自分より二、三步先へ行ったリーチが立って、堅くなっている。見るとそれは陶土や京城の工業伝習所出品にかかる花瓶や皿の現代朝鮮陶器の代表物ともいうべき箱の前だった。『あの土を買って試作をやってみたい、見給え、今の朝鮮焼だって未だ美しい部分を日本のものよりはよく保存している』（中略）『どうだ朝鮮に行ってみないか、君朝鮮に行くと土や薬を探すのは今のうちだよ、いつも君のいう科学が発達すればするほど土にも薬にも面白みの点から美しさがこわれて行く』（安堵久左〔富本憲吉のペンネーム〕「拓殖博覧会の日」『芸術新潮』新潮社、東京、1912年12月号、p. 19）。

海印寺は802年に建立され、1251年以来約8万1千枚の高麗版大蔵経の版本が保存されている。石佛寺（現在、石窟庵と呼ばれている。）は新羅時代の751年に吐含山（標高745メートル）山頂近く（標高565メートル）に建立されたが、20世紀初頭まで地元の人々も気づかず、1909年に郵便配達員が偶然発見したといわれる。1913年10月から1915年8月までの修復工事後に一般公開されるようになった。柳は修復工事からちょうど1年後に訪ね、『芸術』1919年6月号に「石佛寺の彫刻に就て」を發表し、「京城での半月の思ひ出に、此一編を浅川伯教、同巧両兄に贈る」と、浅川兄弟との交流が彼と朝鮮との関わりに重要な役割を果たしていることを示唆した。

そして、柳は「石佛寺の彫刻に就て」のなかに、朝鮮の芸術を理解することによって「隣邦の人々の心をも少なからず理解し得る喜を得た」と自らの体験を紹介している。さらに、この朝鮮＝現地体験は、柳が「三たび順礼の足を続け」たと述べているように、旅の前の「宗教的関心」が「石窟庵の宗教体験」を通して、次のように宗教的・芸術的感動と衝撃となっていったのである。²⁾

偉大な佛陀は寂然として彼が不動の姿を蓮台の上に占める。仰ぎ見る者はその相貌の莊嚴と美とに打たれざるを得ぬ。茲は全く内なる霊の世界である。彼は前に四人の女菩薩を、後に十一面の觀世音を、左右には彼が愛する十人の弟子を従へて永遠の限りない栄光を告げるのである。（中略）茲に宗教と芸術とを分ける事は出来ぬ。美と真とを二に数へる事は出来ぬ。

抗し難い動律と、動かし得ない寂靜とが茲には二にして不二である。静けさの深さである、強さである。然も是等の宗教の力は悉く朝鮮固有の美を通して、残りなく示されてある。（中略）よしその国家は亡び歴史は移るとも、是等の彫刻に於て、朝鮮は永遠なる宗教の国に活きるのである。

2) 柳宗悦「石佛寺の彫刻に就て」『柳宗悦全集著作編第6巻』pp. 130－134.

そして、柳は「此世界の傑作が、まだ一般に知れ渡ってゐないのを心惜しく感じ」て、石窟庵を紹介する「最初の一人」になって、石佛寺が建てられた統一新羅時代に「宗教に於て、芸術に於て、今日残る最大な作品の殆ど」が生れたと評価しながら、「石佛寺の彫刻も朝鮮の心を通してのみあり得る美の表現である」と述べて、宗教と芸術のみならず、「作るひと」にも関心を持つようになったことを表した。さらに柳は、石佛寺の建立者・金大城に注目し、「プラトロンが画いた様な、国宰であり信徒であり、又芸術家であり」、「宗教と芸術と冥想とを一身に兼ねた者」であると評価している。このように柳の石佛寺の体験は、宗教・芸術・ひとについての関心を持ちつつ、朝鮮伝統文化研究への意欲を掻き立てるきっかけとなり、彼の「人生哲学の根底」を支える「宗教と芸術」をもとに、朝鮮の歴史・宗教・芸術・ひとを理解する姿勢を整え始めたのである。

一方、伯教が柳の石佛寺訪問に同行したという記録はないが、1921年2月に慶州石窟庵の旅をした。そして、柳の論文が発表された4年後の1922年3月に、伯教も『朝鮮』96号に「石窟庵の宿り」を発表し、石佛寺の体験が「小羊の旅の様の、清い寂しい順礼」であったとしながら柳同様の宗教体験を、次のように述べている。³⁾

太陽が昇るに連れて円満なる御顔、肩、胸と次第に鍍金の色は下へと及んで行く丸で基督の山上の変貌だ。

モウゼはどこ居る、エイヤはどこに居る、弟子たちは居らぬか。

十大弟子は強い光に横顔をかすられて天平の技楽の面の様に

生き生きと露骨に美しく

茲にあらゆる男性の叡智と強さとが、光と成つて表はされて居る

以上のように、柳と伯教の慶州石窟庵の旅は、空間としての朝鮮＝現地体験を通して、彼らの朝鮮伝統文化理解が朝鮮伝統工芸品＝もののみならず、歴史・宗

3) 浅川伯教「石窟庵の宿り」『朝鮮』第96号、朝鮮雑誌社、京城、1923年3月、pp. 129-132.

教・芸術・ひとの多面的理解として出発する機会であった。

その後、1919年3月1日の朝鮮独立運動をきっかけに、浅川兄弟と柳は3人が主張してきた人間の内面とその表現として美術の重要性を痛感し、思想を行動に移す決意をした。具体的に、柳は「朝鮮人を想ふ」（『読売新聞』1919年5月20日～24日）と「朝鮮の友に贈る書」（『改造』1920年6月号）の発表から公に宗教や芸術を通じた他者＝朝鮮理解を主張し始め、1920年5月2日から20日間に及んで兼子夫人とバーナード・リーチを同行して再び朝鮮を訪ね、朝鮮の文化事業への貢献のために東亜日報社の協力によって京城で4回の講演会と兼子夫人の7回の独唱会を開いた。その旅行を報告した「彼の朝鮮行」（『改造』1920年10月号）のなかではじめて、柳は伯教の蒐集品である染付辰砂蓮華文壺を見て「朝鮮民族美術館」設立について言及している。

巧は、この旅行の前に、他者＝朝鮮理解の手段として朝鮮の芸術を認識していることを柳に伝え、伯教もまた同年10月13日の『京城日報』において「朝鮮人と内地人との親善は政治や政略では駄目だ、矢張り彼の芸術我の芸術で有無相通するのでなくては駄目だ」と述べている。

このことによって、3人は他者＝朝鮮伝統文化理解の方法論を再確認することとなり、同年12月には巧が柳を訪ね、「朝鮮民族美術館」設立の計画を具体化するに至った。そして、「『朝鮮民族美術館』の設立に就て」（『白樺』1921年1月号）のなかでは、まず美術館を京城に設立することを決定したうえ、設立の目的、設立活動における役割や資金募集などについて具体的な案が提示され、朝鮮における募金責任者として巧の名前が明記された。巧が美術館の設立運動に積極的であったのは、彼自身が造林の仕事を通して人間と自然の調和や「適地」を求めていたことと「その地に生れ出たものは、その地に帰るのが自然であらう」⁴⁾という柳の意見とが一致したからである。

4) 柳宗悦「『朝鮮民族美術館』の設立に就て」『柳宗悦全集著作編第6巻』p. 80.

1924年4月、現在の韓国ソウル市にある朝鮮時代の王宮・景福宮の緝敬堂内に「朝鮮民族美術館」が設立された。浅川兄弟と柳は、朝鮮民族が生み出した民族芸術・美術工芸に敬意を持ってその固有の伝統文化を守り続けることによって平和と独立がもたらされるとし、その第一歩として朝鮮民族美術館の設立を進めたのである。

柳は思想・哲学・宗教に、浅川兄弟は表現・実践に重きをおいてそれぞれが明確な世界を確立していたので、出会いからわずか10年間のうちに、韓国史上で初めてとなる工芸美術館の設立に成功したと言える。「朝鮮民族美術館」の設立は、3人の朝鮮伝統文化理解の共通点と相違点がバランスを保ちつつ、活動の基盤となっていたものと考えられる。そして、その過程において、それぞれの朝鮮伝統文化理解の特質が明確になった。

3. 浅川伯教の自然・ひと・ものの「調和の美」

伯教は、朝鮮伝統文化、とりわけ工芸品のなかに「人なつこさの美しさ」と「素朴」の美を見出してこれらの要素を「陽気」な朝鮮人のイメージと結びつけた。それは、彼が現地・現場調査を中心とする研究活動を通して、朝鮮伝統文化の構成要素としての「自然」・「ひと」・「もの」の関係に注目しながら、その「調和の美」を認識し発見していたからである。

伯教が朝鮮における「自然」と「もの」の調和に気づいたのは、1921年2月の慶州石窟庵の旅に始まる。この旅で、伯教は石窟庵内の仏像を照らす自然の光の力を見て、「美しい四菩薩は全く外からの光りに反き只仏陀の胸と御顔との反射を受けて姿を現す。（中略）光りが薄れ行くに従ひ、静かに調子を変へて」いく様を、これはまさに「光の管弦楽」、「光の音楽堂」と評価した。⁵⁾

さらに、朝鮮の陶磁器は「外の光の具合によつて、時に応じて色沢の調子が変わつたり、影が流れたりして、不思議な静かさと美しさを感じ」⁶⁾るとして、「自然」との調和によって生命力を発揮し続ける美しさ、すなわち「調和の美」に注目した。これは、伯教が朝鮮伝統文化の研究を進めていくなか、一貫した観察力の根源となっている。

そして、光線の影響を強く受ける陶磁器の形状のなかに、「生きた一つの胴体」としての「彫刻的立体感」を感じ取っていた伯教は、光線と形状の関連性について、次のように述べた。⁷⁾

よい形が様々の光を受ける事によつて現はす気持が、我々の想像以上に雄弁に心の中に迫つて来るものがある。

形的美しさは、其時の光によつて其姿を変へる。朝の光に、朝の美しさあり。夕には、夕の美しさがある。(中略)夕暮の障子の部屋にこの逆光のこの壺を見る、正面の大きな陰に肩からの光が押し寄せる、下に反射の光あり、暗い魂を透明の光で包む美しさ。

さらに伯教は、朝鮮人が「佳いものを一度握れば決して其味を失はぬ様に、何回でも創作の心を失はずにやつて行」き、「伝統を重じ、古い型を最もよく残して」と指摘した。⁸⁾そして、陶磁器の形状における美が「建築の美」、「樹木的美」、「人体の美」と同様であるとしながらも、特に、陶磁器の形状に朝鮮の人々、特に朝鮮の娘の美しき姿を見出していた。⁹⁾

5) 浅川伯教「石窟庵の宿り」『朝鮮』第96号、1923年3月、pp. 130—133.

6) 浅川伯教「朝鮮古陶器の研究に就きて」『朝鮮の陶器—第55回講演集』p. 27.

7) 浅川伯教「李朝白磁の壺」『朝』1926年5月号、pp. 2—4.

8) 浅川伯教「李朝陶器の価値及び変遷に就て」『白樺』1922年9月号、pp. 4—5.

浅川伯教「朝鮮器物の模様について」『工芸』1934年3月号、p. 48.

9) 浅川伯教「李朝白磁の壺」『朝』1926年5月号、pp. 2—4.

私はこの姿〔李朝白磁の壺〕を見つめて居る、婦人の胴体を思ふ、首を思ふ、襟筋を思ふ、乳を思ふ、腹を思ふ、破れんばかりに下から張りつめた筋肉の豊艶さを思ふ。(中略) 生命の力、合理、真理、愛、かうしたものをこの壺に見る。知らざる内に、日に日に美しくなつて行く田舎の処女の姿を思ふ。これは西洋の婦人の美しさでも無く、支那の婦人の美しさでも無い全く朝鮮の娘の美しさだ。

伯教が論文を発表し始めた1922年頃、柳は「悲哀の美」論を展開していた。柳は、朝鮮伝統文化研究における初期の「朝鮮の美」論に、「地理や隣邦との関係から来る避け得ない環境の為に、温い平和な歴史は永く保ち難かつたであらう」という「苦悶の歴史」を反映させている。¹⁰⁾そして、「朝鮮の芸術—特にその要素とも見られる線 (Line) の美は実に彼等が愛に飢える心のシンボル」¹¹⁾であつて、「朝鮮の芸術ほど愛の訪れを待つ芸術はない」「悲しさの美しさ」¹²⁾であると述べた。

浅川兄弟と柳と交流のあつた陶芸家・富本憲吉も「工芸美術が、地理的、政治的、あるいは宗教的な影響を受け、それらの密接な関係をもっている」として、「朝鮮半島の特に李朝以後の彩の少ない寂しい形、時として一種の強いなにかに触れるところはあつても、それは愉しみのない、なんとなく物悲しい人生を思わせる」と述べた。¹³⁾そして、柳同様に朝鮮伝統工芸の特徴が「寂しくあきらめて静かなる」ものであると論じた。¹⁴⁾

しかし、伯教は違つていた。朝鮮の陶磁器を「線と色沢とが全く活きた、一つ of 象徴されたトルソーのやうに感じられました。口があり、首があり、肩があり、胴があり、腰があり、足があつて、推象された美しい人体だ」と述べ、その健康

10) 柳宗悦「朝鮮の友に贈る書」『改造』1920年6月号、pp. 8-9.

11) 柳宗悦「朝鮮人を想ふ(三)」『読売新聞』読売新聞社、東京、1919年5月22日。

12) 柳宗悦「朝鮮の友に贈る書」『改造』1920年6月号、p. 8.

13) 辻本勇編『富本憲吉著作集』五月書房、東京、1981年、p. 329.

14) 富本憲吉「京城雑信」『京城雑信』『窠辺雑記』文化出版局、東京、1975年、p. 105.

美を高く評価した。¹⁵⁾また、朝鮮時代末期の茶碗を例に挙げて、「高台が厚くなつて直線的」になっていることを指摘し、これが「朝鮮だけの線」であり、「同じ気持」で「壺や鉢や他の器」などが作られていると述べた。¹⁶⁾伯教によると、これらの線は「悲哀」の感情をあらわすものではなく、「もの」の「輪郭を明瞭に残して置く」「自由な線」であり、次のように朝鮮人が毎日眺めている自然のなかに見出したものであった。¹⁷⁾

朝鮮の山岳のラインを巧妙に描いたものは、実によくあの線を掴んだものだと
思ふていつも感服する。光悦が鷹ヶ峯のラインを見つめた様に、随分飽かずあ
の鋭い山の線を睨んで自分のものにしたものらしい。

柳同様、伯教も工芸品の「形と線の動きと云ふものは、その時代の気持が現はれて居る」とし、「外界からの文化の交渉に刺激されて、思想が変わると一緒に器の形が変つて行く」と考えたが、彼はその民族の思想の根底をなすものとして、朝鮮人の日常生活にその視線を向けていた。¹⁸⁾そして、朝鮮人が描く「時代の言語」としての模様に注目していったのである。

まず伯教は、歴史上の中国大陸の影響を指摘しながらも、朝鮮独自の「自然に柔順な、人馴れのする姿」になっていく様子を強調し、時代の世相について、次のように指摘した。¹⁹⁾

高麗は仏教が盛であつたために、仏道に関係ある模様が多く、形にも画にも蓮華が非常に多く使はれて居る。(中略)李朝に成ると儒教が全盛であつたために、総べての制度が儒教式に改められた。儒教は形の教へで模様の教へでは現

15) 浅川伯教「朝鮮古陶器の研究に就きて」『朝鮮の陶器—第55回講演集』p. 27.

16) 浅川伯教『朝鮮古窯跡の研究によりて得られたる朝鮮窯業の過去及び将来』p. 18.

17) 浅川伯教「李朝陶器の価値及び変遷に就て」『白樺』1922年9月号、pp. 16—20.

18) 浅川伯教『朝鮮古窯跡の研究によりて得られたる朝鮮窯業の過去及び将来』pp. 8—9.

19) 浅川伯教「朝鮮器物の模様に付て」『工芸』1934年3月号、pp. 45—46.

実の教へで無い。夢を許さない。それで色素のきちつとしたものが作り始められる。こう成ると未来の幸福より現世の幸福を願ふ。

次に、模様の種類について、高麗時代には仏教の影響によって「白の象箴」が発達し、「白く鶴と雲とを入れて雲鶴青磁と云ひ、その白を段々殖やして行つて雲が多くなつて全面をうづめ」、朝鮮時代には儒教の影響が大きい、「儒教には形があつて模様が無い、其処に入つて来て居るものは道教の気持」であるとした。²⁰⁾

さらに、道教の「現世的理想の世界」の象徴として「寿福康寧」が生まれ、それに関連して「自然を始めとして、植物、動物、人事」が模様として使用されたと指摘した。²¹⁾

朝鮮時代の道教は民間における「長生不死」を念願する信仰として広まり、精神と身体を鍛えることによって人間が「仙人」となれると信じられたものであった。そして、日常生活のなかに「寿福康寧」と「長生不死」に関するものを模様として活用していた。

伯教は、模様のはじめが「文字」の「百態の寿福」であり、その後は「寿の字の象徴」として、「松、竹、鶴、亀、岩、水、日、雲、靈芝、鹿」などが多いと指摘している。その他には「子孫の多き事」を願う「寿福多男と云ふ文字」や吉祥の象徴の「八掛や天体の星座、太極図」などが用いられ、朝鮮人がこれらの模様の描かれた工芸品を日常生活のなか、「自分の周囲に配列して其の空気に浸る」とも述べた。²²⁾このような模様は宗教に関わりつつ、朝鮮人が自然のなかで選り出したものでもあり、朝鮮伝統工芸と「自然」との関わりの深さをあらわしていると考えられる。

このように、朝鮮人の日常生活に浸透している宗教観と工芸との関連性に注目

20) 浅川伯教『朝鮮古窯跡の研究によりて得られたる朝鮮窯業の過去及び将来』pp. 11-13.

21) 浅川伯教「朝鮮器物の模様について」『工芸』1934年3月号、p. 46.

22) 前掲書、pp. 46-47.

してきた伯教は、1934年3月の『工芸』（第40号）に発表した論文「朝鮮器物の模様に付て」以降は、朝鮮人の暮らしに密着していた「巫女思想」の影響について記述することが多くなった。すなわち、朝鮮の巫は「生前の怨恨関係を死後の巫俗世界に期することによつて、直接の復讐が避けられる」「復讐心を和らげる」という人間関係における喜怒哀楽の感情を処理するという機能を持っている。

²³⁾伯教は、この巫女の影響が「一般の家庭殊に婦女子の間に深く喰込んで居る」と指摘し、次のように述べた。²⁴⁾

巫女の教へは、魔がさすと云ふて古い器物を好まず、物の影を忌み、人物などの画は最も嫌ひた。（中略）部屋は平明にして、白紙をもつて貼り包まれ、吉祥、福寿を象徴した模様を附した数個の器物の外は、先づ何にも置かない事に成つて居る。変つた形、変つた色彩のものを決して部屋に取り入れぬ。人形などは今も極度に嫌ふ。結極白が一番無難である。

伯教は、このような「『かげ』といふものを嫌ひ、なるべく何もない『無』に一つの落ちつきを感じ、素白に帰りたい」という巫の影響によつて、朝鮮における「焼物でも、何時でも、白に帰ろうとする傾向」²⁵⁾がもたらされたと指摘し、朝鮮人が日常生活のなかに死者を懸念し、清潔を強いられ、「白色」を習慣的に好んだことにも気づいていた。朝鮮人にとって身近い色であり、高尚な色である白色の習慣について、庶民の日常生活のなかから見出し、次のような見解も述べた。²⁶⁾

23) 崔吉城『恨の人類学』平河出版社、東京、1994年、p. 22.

24) 浅川伯教「朝鮮器物の模様に付て」『工芸』1934年3月号、pp. 49—50.

25) 浅川伯教著、倉橋藤治郎編『朝鮮陶器の鑑賞』彩壺会、東京、1935年、p. 4及び浅川伯教『朝鮮古窯跡の研究によりて得られたる朝鮮窯業の過去及び将来』p. 12（「朝鮮の人の落ちつく白の色は巫女思想から来て居る」）。

26) 浅川伯教「朝鮮器物の模様に付て」『工芸』1934年3月号、pp. 49—50。浅川伯教「朝鮮現在の窯業」『世界陶器全集第16巻』河出書房新社、東京、1958年、p. 124。浅川伯教「李朝染付・鉄砂・白磁」『陶器全集17巻—李朝染付・鉄砂・白磁』平凡社、東京、1960年、p. 16.

朝鮮に来て、先づ眼につくものは白衣である。白色は古代から彼等のあこがれの色である。（中略）山は太白山、小白山、白頭山を崇め、李朝の王都は白岳を首座とし、鷄龍山の岩が白くなる時に、王都が其の処に移ると云ふて居る。白衣の習慣なども決して近いものではない。

白を模様色彩に如何に用ひられて居るかを見ると、高麗の無地の青磁に、白雲と白鶴とを象嵌して、雲鶴青磁と云ふ朝鮮のものとし、富貴を象徴した白牡丹を象嵌し、秋の野を飾る白野菊の菊象嵌とし、之れの白の部分が多くして花三嶋とし、遂に白磁に代る。

白になれば一切無難、目出度い時も、悲しい時もただ一色で間に合うことになる。貴賤や財産の有無も、白一色であれば問題はない。古いものでも洗濯をよくして、折目を正しくすれば、いずれの処にも用を弁ずる。王公より庶民に至るまで白一色に落つく。門地とか、夫や妻の面目に関することはない。

朝鮮の人は白を喜ぶ国民で、善良な人を形容して、『清白の人』といい、白についての認識と感覚が優れている。

伯教は朝鮮の陶磁器やその破片の色の变化から「青から白にと進んで行つた跡」を見出して、「時を経るに従つて白が勝つてしまつて居る」とその生命力の強さをも力説した。²⁷⁾

以上のように、伯教は常に朝鮮伝統工芸における「ひと」と「もの」との関係に注目し、「人間の心」と「器の心」が通じ合うことによって、工芸品のなかに「人格的美しさ」が豊かになり、手仕事としての工芸が発展していくと力説した。²⁸⁾それは、日本の植民統治による朝鮮伝統文化のみならず、人々の誇りが破壊されていくことを目の当たりにし、さらに、朝鮮伝統工芸研究が日本の伝統工

27) 浅川伯教『朝鮮古窯跡の研究によりて得られたる朝鮮窯業の過去及び将来』p. 12.

28) 前掲書、p. 31。

芸文化を知る鍵となり、重要な研究資料となることを認識していたからである。

そして、伯教の朝鮮伝統文化理解は、彫刻家ロダンに心酔していて、西洋の芸術に関心を持っていた彼自身が朝鮮、東洋の美に気づき、東洋主義的思想を展開していくきっかけとなった。このような東洋への回帰は、朝鮮伝統文化を媒介として行われたものである。

4. 浅川巧の「親しさの美」

巧は、工芸品が「愛されて作られ、愛する人の手に帰すべき」²⁹⁾ものであると認識し、朝鮮における彼自身の暮らしのなかにも用いて、「雨天なので朝鮮木履を履いて京城の街を歩いたが存外足もいたまなかつた。雨降りには至極便利が多いと思つた」³⁰⁾と述べているように、使い慣れていた。

そして、朝鮮人が日常的に親しんで、愛用している生活道具としての工芸品・陶磁器に注目し、調査研究を始めた。陶磁器が日常生活のなかに親しまれてきた理由として、「用を離れた器物のないこと」、「清潔に保たれ易い」、「その質の硬いことや、化学的にも侵され難い」などを挙げ、巧自身の体験のもとに「実際使用して見て壺類は湿気と呼ばず、虫や鼠の害をも完全に防ぎ得て便利である」と述べながら、用途別の陶磁器について分析を試みた。³¹⁾

また、論文「分院窯跡考」と著書『朝鮮陶磁名考』のなかに、「祭礼器」「食器」「文房具」「化粧用具」「室内用具」「道具」「容器」「雑具」「建築用材料」などの種類別の用途を分析しながら、朝鮮人に親しまれている器について、次のように述べた。³²⁾

29) 浅川巧「分院窯跡考」『浅川巧著作集』p. 64.

30) 浅川巧1922年7月16日日記『浅川巧全集』p. 100.

31) 浅川巧「朝鮮陶磁名考」『浅川巧著作集』p. 72、p. 75、p. 87、p. 106.

朝鮮に於ては食器その他の器物に陶磁器の外、真鍮器が多く使用されて居るがそれは季節によつて使ひ分けることになつて居るので、古来陶磁器は矢張り必要欠くべからざるものであつた。即ち真鍮器は堅牢で凍み破れる心配がないのと保温の効があると云ふので寒い時候に用ひられるが、夏は錆を生じ易く且つ一種の錆臭が強くなるので陶磁器を必要とする。

昔の花嫁等はクラブ白粉の瓶の代りに分院沙器の白粉壺や紅皿を持つて嫁いだ。其の壺や皿は年寄る迄愛用され朝な夕なに彼の女等のよき友となり又更に孫娘の嫁道具のうちに加へられ、そして常に軟き掌で撫で磨き上げられ今日に至つたものである。

文房具は使用者が多く文人であるために、食器などに比し扱ひが丁寧である関係もあり、よく使ひ馴らされてゐる。

巧は陶磁器の次に、木工芸品に関心を持ち、朝鮮人同様に彼自身の日常生活において愛用し、「淳美端正の姿を有ちながらよく吾人の日常生活に親しく仕へ、年と共に雅味を増すのだから正しき工芸の代表とも称すべき」と評価した「朝鮮の膳」を最初の研究対象とした。³³⁾それまでに朝鮮の木工芸品に関する研究書はなく、巧の著述『朝鮮の膳』が最初であつた。膳は自給的なものが多いために商品価値も低く、広く流通することもなかつた。これは製作者を中心としてその近傍において直接生活交換物として取引され、日常の利用に供される便利品として扱われた。巧は、まず朝鮮の膳と「作るひと」の関係に注目して、その流通過程の特徴について、次のように記録した。³⁴⁾

32) 浅川巧「分院窯跡考」「朝鮮陶磁名考」『浅川巧著作集』pp. 59-62.

33) 浅川巧「朝鮮の膳」『浅川巧著作集』p. 5.

34) 前掲書、pp. 10-11.

膳の生産地は古い時代においては、至る処山間の農村であつて、其処には膳を作ることを渡世とする専門の職人もあり、又百姓であつて農閑を利用してこれに従事する者も少なくなかつた。山奥のことであれば山中で任意の大木を伐倒し、最も適当な部分の材だけを木取りして持ち帰り、乾燥して置いて野ら仕事のひまな時、又は野外の仕事に適しない様な老人などが徐ろに細工をして出来次第最寄の市場に持つて出て、必要な雑貨と交換して帰ると云ふた風に、気の長い順序で生産されるものが少なくない。

論文「朝鮮の棚と箆筍類に就いて」では、日本との比較を通してその特徴を、次のように述べた。³⁵⁾

日本の箆筍や戸棚に見る直線の正確さでなく馴れ合つた強さである。引出しには日本の桐の箆筍などに見られる様な厘毛余裕のない手際の誇りはない。ゆるゆるがたがたで隣りの函と取り替へても自由に納まる融通性がある。此の点は日本人の職人などが評して拙なりと評する処であるが、そんなことは当初から問題として居ないらしい。尤も好いて見るとその屈託のない呑気な仕事に親しみを感ずることにもなる。

次に巧は、「工芸品真偽の鑑別は使はれてよくなるか悪くなるかの点で判然する」と定義しているように、工芸品の「実用性」と使い慣れた「利便性」をも重要な特質であると認識し、「作るひと」と「使うひと」が工芸の共同制作者であるとする新しい理論を展開した。³⁶⁾そして、「使うひと」の購入行動が「沢山ある品物のうちから気に入つたものを選択すると云ふことは、工芸を楽しむものの大きい悦び」であるとし、自らの体験をもとに買い物における朝鮮の人々の「自由の習慣」を強調した。³⁷⁾「作るひと」が「材料の質に応じ」「自然に且つ自由

35) 浅川巧「朝鮮の棚と箆筍類に就いて」『浅川巧著作集』p. 71.

36) 浅川巧「朝鮮の膳」『浅川巧著作集』p. 4.

に」作るために、朝鮮伝統工芸品には「同質同形」のものはない。そのために「使うひと」に「選択の興味」と「選択の自由」が与えられるのである。³⁸⁾朝鮮伝統工芸品の仕上げには、「使うひと」を関与させることによって、「日常の使用と手入れとを一緒に考へて」「長い間の使用手入れ」による完成を図る。³⁹⁾それは、「使うひと」の「日常の愛用に優る保存法はない」からである。具体的には、著書『朝鮮の膳』の序文に、膳と「使うひと」との関係について、次のように述べた。⁴⁰⁾

これはよく見る光景であるが（中略）農夫の一家が、その馴れない長い旅の道中に、邪魔とも思はず客車内に持ち込んでゐる荷物のうちには、新しいパカチ〔ひさご〕などと一緒に美しく拭きならされた膳を見うける。住み馴れた家も売り、農事に於ける唯一の力と頼む牛も人手に渡し、親戚知人とも別れて知らない遠い国へ旅立つその家庭にも、使ひ馴らされた膳は見捨てられないものと見える。又京城でも家移に運ばれる荷物が通るのを見てみると、満載された諸道具の上に古く美しい膳の添へられて居ないことは殆どない。

朝鮮伝統工芸品から見出された美は、その親しみから日常生活によく使われ、時間と共に粹な美を増していくものであった。そして巧は、自然と共に生きる智慧をすでに習得していた朝鮮人がその時代の主人公であることを認識したのである。「もの」は消滅していても、それを作って、愛用していた人々の思考、伝統並びに文化は伝承性・継続性を持っている。巧は、その朝鮮の民族文化に愛情を持ち、尊重しながら、朝鮮人の自覚をも呼び掛けていた。それはすなわち、当時の朝鮮総督府の植民統治政策が朝鮮民族の固有文化を無視し、さらに消滅させ

37) 浅川巧「朝鮮茶碗」『浅川巧著作集』p. 78.

38) 浅川巧「朝鮮の膳」『浅川巧著作集』pp. 11-12.

39) 前掲書、p. 31.

40) 前掲書、pp. 5-6、pp. 31-32.

ようとしていたことへの反発であった。

巧は在朝鮮日本人として17年間を朝鮮の人々と付き合い、その暮らしを見つめていて、生活用品として工芸品に内在している伝統文化を守っていくことが朝鮮民族の繁栄をもたらすと信じていた。そして、その信念が朝鮮伝統工芸研究における「親しさの美」を発見し、彼独自の朝鮮伝統文化理解に進んでいった。それは、すなわち植民支配者日本に対する非暴力的な抵抗のあらわれでもあった。

5. 柳宗悦の「悲しさの美」と「親しさの美」

柳は、「京城の阿峴里にあつた巧さんの家に泊めてもらった時から朝鮮の民芸の美へ大きく眼を開いた」。⁴¹⁾このような朝鮮暮らしに慣れてきた浅川兄弟と朝鮮に関心を持ち始めた柳の出会いは、それまでにまだ漠然としていた朝鮮伝統文化というテーマについて、研究の対象として互いに明確に認識する機会となった。

1916年の朝鮮旅行から日本に戻ってきた柳は、雑誌『白樺』1916年11月号（「編集室にて」）で今後、「吾々の驚嘆と注意とに値する」「朝鮮の美術」を「紹介したい」と強い意志を表した。このような柳の朝鮮に対する関心は、1919年3月1日の朝鮮独立運動をきっかけに積極的な活動に結びついた。同年5月に発表した「朝鮮人を想ふ」に、彼自身が「芸術に表れた朝鮮人の心の要求を味う事によって、十分な情愛を所有する一人」であり、「独立が彼等〔＝朝鮮人〕の理想となるのは必然の結果」であると訴えながら、「吾々の国が正しい人道を踏んでゐない」と反省し、日本の植民統治が朝鮮の「自由と独立とを奪った」と批判した。

さらに柳は、朝鮮の「三千年」の歴史や「日本の古芸術は朝鮮に恩を受けた」ことなどを認識しながら、朝鮮総督府の同化政策が「固有な朝鮮芸術の破壊を以

41) 柳宗悦『親和』1954年3月号、p. 6.

てした」ものであることをも批判したが、植民統治からの朝鮮の政治的な完全独立より、「国と国とを交び人と人とを近づけるのは科学ではなく芸術である。政治ではなく宗教である。智ではなく情である」という宗教や芸術への理解を優先する「植民地の平和」を強調していた。それは、柳がまだ「朝鮮に就いて十分な予備知識を持つてゐるわけではなく」、「朝鮮の芸術—特にその要素とも見られる線 (Line) の美は実に彼等が愛に飢える心のシンボルである」という朝鮮の歴史を悲しい運命とする同情的な見方を持っていたからであるが、相互理解のために「我々日本人が今朝鮮人の立場にいと仮定してみたい」という「視点の転換」をも訴えていた。

柳は1920年5月2日から20日間、2回目の朝鮮旅をするが、その直前の4月19日と20日に「朝鮮の友に贈る書」の韓国語翻訳文を『東亜日報』に掲載した（2回連載後に掲載禁止となる。）。日本語文は同年6月号の『改造』に掲載したが、先に韓国語翻訳文を発表した理由は、日本による朝鮮植民統治を「不自然な勢い・関係」であると認識し、「力の日本」ではなく柳自身が重要視している思想・哲学・宗教における「情のある日本」「正しい日本」を見て欲しいという訴えと、「日本に対する朝鮮の反感を、極めて自然な結果」であるという理解を強いメッセージとして伝えたかったからである。そして、「日本はかつて朝鮮の芸術や宗教によって、その最初の文明を産んだ」と両国の関係性を強調し、「芸術的天賦に豊かな朝鮮民族への信頼のしるし」、「情愛と敬念とのしるし」として兼子夫人の音楽会を催したことは、「もの」を通して文化・歴史を意識し、「ひと」を通して民族の主体性を認識した柳がその継承・保存のために「現地」での行動を始めるためであった。

その旅で柳は、朝鮮における生活者としての浅川兄弟の暮らしを目撃し、兄弟の日常生活のなかの朝鮮＝現地の「もの」に「直観」の感動を覚え、「友人〔＝伯教〕が蒐集していたものの内で、一つの李朝期の大壺を見出し時、今迄に経験

した事のない感情に打たれた」とし、「朝鮮の残された作品の無益な散逸を惜しんで、朝鮮民族美術館を設置したい」という意志を明らかにした。⁴²⁾

しかし、「朝鮮の友に贈る書」には、「永い間の酷い痛ましい朝鮮の歴史」が「その芸術に人知れない淋しきや悲しみを含めた」として、朝鮮の美は「悲しさの美しさ」であり、「悲哀の美」であると論じた。それについて歴史研究家・李進熙は、柳の「悲哀の美」論の形成の原因として、「学習院で白鳥庫吉に教わったこと、朝鮮へ旅立つ前に「朝鮮史発展の『他律性』のみを強調した」「二、三冊の朝鮮史」を読んだこと、「李朝のやきものについての研究も緒についてばかりで、官窯と民窯の区別さえ十分でなく、編年的考察が出来るまでに至っていなかった」ことを取り上げて、「白樺派のヒューマニズムが思想の根底にある柳に、『ものの哀れ』が強く焼きつくのはむしろ自然であった」と述べた。⁴³⁾

また李は、「悲哀の美」論にも「つくった人びと、民族の存在を見失なうことはなかった」ことを指摘しながら、「『朝鮮人を想ふ』（1919年5月）から『失はれんとする一朝鮮建築の為に』（1922年9月）、『李朝陶磁器の特質』（1922年9月）にいたる一連の論文は、沈黙を強いられていた朝鮮民族の意志を代弁し、民族の独立を訴えつづけようとするものであった」と結論付けている。⁴⁴⁾さらに李は、「朝鮮の美についての柳のとらえ方」が「1920年代の前半までは『悲哀の美』を朝鮮の美の特徴とみなしたが、1930年以後になると、そうしたとらえ方を徐々に変えている」ことを指摘し、「朝鮮陶磁号序」（1931年）の中に「朝鮮の美術に『健康な美』のあることに気づいた」と述べている。⁴⁵⁾

しかし、ここで注目すべき点は、「悲哀の美」論を言及した「朝鮮の友に贈る

42) 柳宗悦「彼の朝鮮行」『改造』1920年10月号、p. 43.

43) 李進熙「柳宗悦の朝鮮美術観」『朝鮮歴史論集下巻』龍溪書舎、1979年、pp. 369-370.

44) 前掲書、p. 370.

45) 李進熙「柳の朝鮮美術観の変遷」『暮しの創造』4号、1977年、p. 23.

書」において、「四年前私が朝鮮を訪ねて以来、只の一時でもそれ等の作品の何れかを私の室から離れた事がない」、「朝鮮の芸術よりも、より親しげな美しさを持つ作品を、他に知る場合がない」とし、「『親しさ』‘Intimacy’」が朝鮮の「美の本質」であると定義したことである。そして、「その作者と同じ血を受けた今の朝鮮の人々に、親しさを感じずにみられ」ないとも述べた。

さらに、柳の朝鮮旅行の半分は1920年代の前半に行なわれていて、柳はこの時期の朝鮮での展覧会、講演会、音楽会、窯跡調査などを通して、「どんなにか好んで町々を彷徨ひその風俗や人情に触れ、又は古器物を漁り歩」き、「愛する何物かを手にしないで家に帰る事はな」く、朝鮮＝現地における朝鮮人との交流に「溢れる喜び」を感じ、すでに朝鮮伝統文化への「親しさ」に気づき、「情」を持つようになったのである。⁴⁶⁾

そして、1921年1月に発表した「『朝鮮民族美術館』の設立に就て」において、まず柳自身が「此五年の間」に朝鮮の工芸品と「共に暮し」、「その美しさや優しさ」に気づき、「親しい心の友となつた」ことを告白している。そして、朝鮮「民族の心の脈搏や血の温味が今尚残つてゐる」工芸品の「不幸な散逸」を防止して「その民族とその自然に密接な関係を持つ朝鮮の作品、永く朝鮮の人々の間に置かれねばならぬ」ことと、「東京ではなく京城の地」に建てることを強調した。

また、「李朝陶磁器の特質」（『白樺』1922年9月号）では「朝鮮の作は吾々を強いる事は決してしない。小共が画いたものの様に奔放な自由な味ひ」があると評価した。これは、柳が固定観念を持つことなく「直観」によって自由な捉え方をし、朝鮮伝統工芸品に親しさを感じ取っていたことの表れであると、筆者は考える。毎日同じ物を見ても「直観」は同じではない。柳は1916年の初の朝鮮旅

46) 柳宗悦「朝鮮の友に贈る書」『改造』1920年6月号、pp. 32-34.

以降、直接朝鮮の「もの」をみて、「ひと」に出会って、自然に触れて、考えて、研究していくという時間を通して様々な言葉で朝鮮伝統文化に関する「直観」を述べてきたのである。

さらに、「親しさや情をこめた」朝鮮伝統工芸品の「美を伝えたい」⁴⁷⁾という希望のもとに「朝鮮民族美術館」の設立活動を続けていた柳は、1922年に発表した「朝鮮の美術」に、「動揺と不安と苦悶と悲哀」が朝鮮の歴史であり、「支那の芸術は意志の芸術であり、日本のそれは情趣の芸術であつた。然し此間に立つてひとりの悲哀の命数を負はねばならなかつたのは朝鮮の芸術である」⁴⁸⁾という「悲哀の美」論を再展開させた。ここでは、朝鮮民族が「白い着物」を着る理由に「色を楽む心の余裕を持たなかつた」⁴⁹⁾という感傷的な歴史認識を表した。

そして、その「悲哀の美」論を確信させる出来事があった。それは、柳が「李朝建築の代表であり模範であり精神で」ある「東洋の純粋な建築」と評価していた景福宮の「光化門」の破壊計画である。⁵⁰⁾それを知った柳は、必死の抗議として「失はれんとする一朝鮮建築の為に」を発表したが、日本の朝鮮植民統治に対する柳の鋭い見解は他にも「赤化に就て」（『改造』1920年12月号）、「批評—〔アレキサンダー・パウエル『日本の朝鮮統治政策を評す』〕」（『世界の批判』1922年5月号）、「日鮮問題の困難に就て」（『国際知識』1923年9月号）などに記されている。このように、柳は破壊寸前の「光化門」に、侵略され破壊されようとしている朝鮮民族の運命を見ていて、植民地朝鮮における対抗、抑圧、破壊などの現実的な社会問題に対する見解と歴史認識も加えられて朝鮮伝統文化理解を進めていったのである。

47) 柳宗悦「『朝鮮民族美術館』の設立に就て」『白樺』1921年1月号、pp. 180—181.

48) 柳宗悦「朝鮮の美術」『柳宗悦全集著作編第6巻』p. 95.

49) 前掲書、pp. 105—106.

50) 柳宗悦「失はれんとする一朝鮮建築の為に」『改造』1922年9月号、p. 25.

柳が朝鮮の歴史を「苦悶の歴史」⁵¹⁾と断定し、朝鮮の工芸における「親しさ」と「悲しさ」の美を同時に認識するような初期の混乱期を乗り越えられたのは、「朝鮮民族美術館」の設立のための活動が進んでいくなか、浅川兄弟の協力によって現地＝朝鮮の健康な朝鮮人の姿を直視し、彼らの日常生活と伝統文化に接することができたからである。

6. おわりに

浅川兄弟と柳との出会いは、3人が朝鮮民族を日本の植民統治下の被支配者としてではなく、対等な「隣人」として認識し、その民族文化の普遍性を確信する契機となった。この3人の確信は、1910年代のもの＝朝鮮白磁との出会いから現地＝慶州石窟庵の旅の影響に起因し、朝鮮民族が生み出した伝統文化・美術工芸に敬意を持ってその固有の伝統を守り続けることによって平和と独立がもたらされるとし、その第一歩として「朝鮮民族美術館」を設立するに至ったのである。

現地＝朝鮮における生活者としての視線を保ち続けた浅川兄弟の朝鮮伝統文化理解の特徴は、朝鮮の自然・ひと・ものの「調和の美」と「親しさの美」の発見にある。その発見は、兄弟が朝鮮人町に暮らしながら朝鮮人との積極的な交流や衣食住の実体験をもとに日常生活における伝統工芸について関心を高めていったことと、周りの朝鮮人たちが実践的かつ積極的な兄弟を信頼し、日常生活におけるありのままの姿を見せていたことによって、可能であった。

そして、柳は「朝鮮民族美術館」の設立運動や朝鮮における文化運動のリーダー的な存在であり、朝鮮における生活者の兄弟に、研究対象としての朝鮮伝統文化

51) 柳宗悦「朝鮮の美術」『柳宗悦全集著作編第6巻』p. 100.

認識を促した。それは1916年の朝鮮の旅で、柳が白樺派活動を通して心酔していた宗教的・芸術的な実体験が現地＝慶州石窟庵で実現し、人間らしさのための「個の自由と表現」の重要性に気づき、思想を確立していったからである。そして、朝鮮伝統文化における「悲哀の美」の認識を克服し、「親しさの美」を発見しながら、時代的な限界を乗り越えて、兄弟と共に他者＝朝鮮（民族）、異文化＝朝鮮（伝統文化）への理解を深化させていった。

日本の朝鮮植民統治における「同化政策」が強化されていくなか、朝鮮民族の伝統的な習慣・文化を理解しながら、民衆の日常生活のなかに普遍性を見出すことは容易ではなかったが、浅川兄弟と柳は朝鮮と日本の伝統工芸品の使用において、共感できる要素を明確に認識していた。そこには、現地＝朝鮮における体験と当時の国家的・権力的な植民政策への批判をあらわす彼らの自立主義がある。この二つの特質が、今日の韓国と日本においても3人の朝鮮伝統文化理解が受け入れられる大きな要因である、と筆者は考えている。

【参考文献】

- 浅川巧（1927）「分院窯跡考」蝦名則編（1978）『浅川巧著作集』八潮書店、pp. 59－62、p. 64。
——（1929）「朝鮮の膳」『浅川巧著作集』pp. 4－6、pp. 10－12、pp. 31－32。
——（1930）「朝鮮の棚と箆筒類に就いて」『浅川巧著作集』p. 71。
——（1931）「朝鮮茶碗」『浅川巧著作集』p. 78。
——（1931）「朝鮮陶磁名考」『浅川巧著作集』p. 60、p. 72、p. 75、p. 87、p. 106。
—— 1922年7月16日日記（1996）『浅川巧全集』草風館、p. 100。
浅川伯教（1922）「壺」『白樺』9月号、白樺社、pp. 2－4。
——（1922）「李朝陶器の価値及び変遷に就て」『白樺』9月号、pp. 4－5、pp. 16－20。
——（1923）「石窟庵の宿り」『朝鮮』第96号、朝鮮雑誌社、pp. 129－133。
——（1926）「李朝白磁の壺」『朝』5月号、朝鮮芸術社、pp. 2－4。

- (1934) 「朝鮮器物の模様に付て」 『工芸』 3月号、pp. 45-50.
- (1934) 「朝鮮古陶器の研究に就きて」 『朝鮮の陶器—第55回講演集』 p. 27、p. 35.
- 浅川伯教著、倉橋藤治郎編 (1935) 『朝鮮陶器の鑑賞』 彩壺会、p. 4.
- 浅川伯教 (1956) 『李朝の陶磁』 赤星五郎発行、座右宝刊行会、p. 1.
- (1958) 「朝鮮現在の窯業」 『世界陶器全集第16巻』 河出書房新社、p. 124.
- (1934) 『朝鮮古窯跡の研究によりて得られたる朝鮮窯業の過去及び将来』 中央朝鮮協会、pp. 8-9、pp. 11-13、p. 18、p. 31.
- (1960) 「李朝染付・鉄砂・白磁」 『陶器全集17巻』 平凡社、p. 16.
- 崔吉城 (1994) 『恨の人類学』 平河出版社、p. 22.
- 辻本勇編 (1981) 『富本憲吉著作集』 五月書房、p. 329.
- 富本憲吉 (1912) 「拓殖博覧会の一日」 『芸術新潮』 12月号、新潮社、p. 19.
- (1975) 「京城雑信」 「京城雑信」 『窯辺雑記』 文化出版局、p. 105.
- 李進熙 (1977) 「柳の朝鮮美術観の変遷」 『暮しの創造』 4号、p. 23.
- (1979) 「柳宗悦の朝鮮美術観」 『朝鮮歴史論集下巻』 龍溪書舎、pp. 369-370.
- 柳宗悦 (1919) 「石佛寺の彫刻に就て」 『柳宗悦全集第6巻』 筑摩書房、1981年、pp. 130-134.
- (1919) 「朝鮮人を想ふ (1) ~ (5)」 『読売新聞』 読売新聞社、5月20~24日.
- (1920) 「彼の朝鮮行」 『改造』 10月号、p. 43.
- (1920) 「朝鮮の友に贈る書」 『改造』 6月号、pp. 8-9、pp. 32-34.
- (1921) 「『朝鮮民族美術館』 の設立に就て」 『柳宗悦全集第6巻』 p. 80、pp. 180-181.
- (1922) 「失はれんとする一朝鮮建築の為に」 『改造』 9月号、p. 25.
- (1922) 「朝鮮の美術」 『柳宗悦全集第6巻』 p. 95、p. 100、pp. 105-106.
- (1954) 『親和』 3月号、p. 6.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 10.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 08.
계재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦の朝鮮伝統文化理解の特質
—初期の活動を中心に—

李 尚 珍

本論文は、日本による朝鮮植民統治期に朝鮮に暮らした日本人浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦が朝鮮伝統文化に関心を持ち、研究していく初期の活動を中心に、彼らの朝鮮伝統文化理解の特質を分析したものである。

1916年、浅川兄弟と柳は初めて現地＝朝鮮での時間を共にし、朝鮮の人々の生活のなかに深く内在している伝統文化の「固有の美」を強く意識するようになり、その美を保存・継承していくために1924年に「朝鮮民族美術館」を設立するに至った。この美術館の設立は、彼らが初期の活動を通して朝鮮伝統文化における「固有の美」としての「調和の美」と「親しさの美」を見出した強い意志と信念があったから可能だったのであろう。

The Asakawa Brothers' and Yanagi Muneyoshi's Understanding of Korean
Traditional Culture in the Colonial Period
—Focusing on their early activity—

Lee, Sang-Jin

This study analyzes the Asakawa Brothers' and Yanagi Muneyoshi's theories of Korean traditional culture in colonial Korea, to investigate the process of their research and the content of their writings, and to examine the characteristics of their views of Korean and its traditions.

The Asakawa Brothers' and Yanagi Muneyoshi traveled in Korea in 1916 and recognized "unique beauty" in Korean traditional culture, which was closely connected to the lives of the Korean people. In 1924, they established the National Folk Museum of Korea in Seoul to preserve and transmit this beauty.

In this study, I argue that their strong will and conviction are manifested in the "beauty of harmony" and "beauty of intimacy" of Korean traditional culture that they sought as they established the National Folk Museum of Korea, which was the fruit of their union.

영화를 통해 본 현대 일본 여성의 비혼화(非婚化) 현상

- 『결혼하지 않아도 괜찮을까』를 중심으로 -

이 윤 주*

(e-mail : yoonju112@naver.com)

< 목 차 >

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1. 들어가며 | 3. 영화를 통해 본 여성을 비혼으로 유인하는 사회문화적 요인 |
| 2. 자발적·비자발적 비혼 시대 | 3.1. 가족 개호의 최적임자 |
| 2.1. '생애미혼율'의 증가 | 3.2. 결혼과 비혼의 딜레마 |
| 2.2. 비혼의 증가 요인 | 4. 나오며 |

キーワード : 結婚(Marriage), 非婚(Non-marriage), 生涯未婚率(Ratio of lifetime no marriage), 女性(Women), 家族(Family), 介護(Care), 出産(Birth), 映畫(Film)

1. 들어가며

비혼¹⁾, 만혼, 저출산 등에 따른 다양한 사회문제는 비단 어제오늘만의 일이 아니다. 한국에서도 매일같이 쏟아지는 언론 기사를 통해 인구감소에 대한 심각성을 인지해야 한다는 목소리가 높아지고 있다.

현대 일본에서도 결혼에 대한 인식 변화, 고령화와 저출산 문제 등으로 초래되는 여러 가지 사안들로 골머리를 앓고 있다. 그러나 한국사회나 일본사회나

* 전북대학교 일본학과 강사, 일본 사회·문화 전공.

1) 미혼이라는 개념은 아직 결혼하지 않은 상태, 또는 그런 사람을 의미한다. 그러나 미혼이라는 어휘가 '원래 결혼을 해야 하는 것이나 하지 않은 것'의 의미를 일컫는 경향이 크다고 하여 '혼인상태가 아님'이라는 보다 구체적인 의미로 여성 학계에서는 비혼으로 사용하고 있다. 본 논문에서는 비혼이라는 용어를 주로 사용하되 참고문헌이나 자료에서 다루는 고유명사는 그대로 원어를 사용해 미혼으로 표기하기도 했다.

이러한 심각성을 낱이 쏟아내고 있을 뿐 실질적 대안을 심도 있게 다루지는 못한다. 그 이유는 결혼, 비혼, 출산, 돌봄의 문제는 여전히 가족의 문제, 즉 사회적 문제로 인식하는 경향이 강하기 때문이다. 게다가 인구감소의 원인을 여성의 사회진출로 인한 출산의 저하를 가장 큰 원인으로 뽑는 일은 그 책임 소재를 여성에게 전가하는 분위기가 강하게 형성되어 있음을 알 수 있는 대목이다.

일본 총무성(総務省) 통계국의 「국세조사(国勢調査)」(2015)에 따르면 도쿄도, 오키나와현, 아이치현 등 8개 지역에서만 인구증가 추세를 보인 반면, 오사카부, 히로시마현, 오카야마현 등 39곳 도부현(道府県) 지역에서는 2010년도부터 꾸준히 감소 추세를 나타내고 있다. 전국 1,719 시정촌(市町村) 중 82.5%에 해당하는 1,419 시정촌에서 인구감소를 보이고 있는 것이다. 연령별 인구 추이도 살펴보면 15세 미만 인구는 총인구의 12.6%, 15세~64세 인구는 60.7%, 65세 이상 인구는 26.6%를 차지했다. 여기에서 눈여겨봐야 할 점은 15세 미만 인구는 1980년 이후 감소 추이가 이어져 조사개시(1920년) 이래 가장 최저 수치이며, 이와 반대로 65세 이상 인구는 최고 수치를 기록하고 있다는 점이다. 15세 미만 인구 비율은 세계에서 가장 최저 수준이며, 반면 65세 이상 인구 비율은 세계에서 가장 높은 수준이다. 일반세대를 세대 인원별로 분류한 자료에서는 1인 세대가 34.5%로 가장 많은 비율을 차지했다. 2010년과 비교하면 세대 인원이 2인 이하인 경우는 꾸준히 증가하고 있다. 그러나 3인 이상의 인구는 계속 감소하고 있으며 특히 6인 이상 세대의 인구는 10%나 감소했다.²⁾

이처럼 현대 일본의 인구감소와 단독세대(単独世帯)의 증가는 결혼이 위험 부담이라는 인식과 함께 비혼 시대가 도래했음을 단적으로 드러낸 결과라 할 수 있다. 게다가 법적 혼인 관계로 이루어진 부부의 출산만을 정상적인 출산으로 인정하는 일본의 보수적 가족관은 인구감소를 한 층 더 촉발하는 계기가 된다.

2010년 일본 여성 8%가 “결혼하지 않겠다”고 했는데 남성 또한 10.4%가 “결혼하지 않겠다”는 견해를 보였다. 이에 대해 우에노 지즈코(上野千鶴子)는 “결혼하지 않겠다”는 일종의 수사적인 자기방어로 사회학자 야마다 마사히로(山田昌弘)의 해석을 빌어 “젊은 남녀가 왜 결혼하지 않는가. 그건 남녀 모두 결혼하면 손해 보기 때문”이라는 의견을 제시했다. 그러나 손해 보는 내용은 남녀의 입장이 각각 다름을 제시하며 “결혼하면 여성은 시간을 잃고, 남성은 돈을 잃는다. 여성이 시간을 잃는다고 느끼는 건 가사와 육아는 전부 여성이

2) 総務省(2015), 「国勢調査」, pp.8-23.

책임져야 한다는 결혼관 때문이고, 남성이 돈을 잃는다고 느끼는 건 남성이 가족을 먹여 살려야 한다는 결혼관 때문이다”. 야마다 마사히로가 주장한 “남성 생계 부양자형 모델”과 같은 보수적인 결혼관을 유지하는 남녀일수록 비혼을 선택하는 경향이 강하다는 것이다.³⁾

본고는 영화라는 대중문화가 사회적 현실을 잘 반영하는 장르인 만큼 영화를 통해 현대 일본여성이 직면하고 있는 상황과 비혼화되는 사회문화적 요인을 구체화 시켜보고자 한다. 영화는 사회를 비추는 거울이자 사회문화적 가치 및 요구들을 반영한 대표적인 대중매체이다. 특히 가정을 일상소재로 한 홈드라마라는 형식은 현시대의 가치관과 생활상, 가족상을 직접적으로 반영한다. 그러므로 영화는 사회적 변화와 더불어 대중적 가치관의 변화 흐름을 파악할 수 있는 중요한 텍스트이며, 대중에게 사회가 직면하고 있는 문제의식을 간접적으로나마 전달할 수 있는 매체이다.

영화 『결혼하지 않아도 괜찮을까』(원제: すーちゃん まいちゃん さわ子さん)는 마스다 미리(益田ミリ)의 4컷 만화를 원작으로 한 작품으로 미노리카와 오사무(御法川修) 감독에 의해 2012년에 제작되어 2013년 공개되었다. 마스다 미리는 만화가, 일러스트레이터, 에세이스트로 활동하는 작가로 그의 작품 일명 ‘수짱 시리즈’는 3~40대 여성의 결혼과 비혼, 출산, 일과 사랑 등 삶에 대한 의문을 담백하고 진솔하게 담아내며 국내에서도 큰 인기를 얻었다.

본고는 영화 『결혼하지 않아도 괜찮을까』를 통해 일본영화가 그려내고 있는 현대 일본의 비혼여성에 대한 삶을 들여다보고 여성을 비혼으로 유인하는 사회문화적 요인과 함께 현대 일본사회의 가족구조의 문제에 대해서도 분석해보고자 한다.

2. 자발적 · 비자발적 비혼 시대

2.1. ‘생애미혼율’⁴⁾의 증가

혼자서 살아가는 사람이 급증하고 있다. NHK 무연사회 프로젝트 팀은 무연

3) 上野千鶴子·水無田氣流 著(2015), 『非婚ですが、それが何か!? 結婚リスク時代を生きる』, ビジネス社, pp.28-34..

4) 생애미혼율이란, 50세 시점으로 한 번도 결혼한 적이 없는 사람의 비율을 일컫는다.

사회 보도⁵⁾를 시작하면서 이를 “독신화”라고 명명했다. 일본에서도 굶어 죽는 사람이 있다는 것과 청년층이 홈리스가 되는 실태 등을 보도했다. 산업구조의 변화, 가치관, 가족구조에 대한 인식 변화 등 거대한 사회적 흐름은 단독세대의 증가를 앞당기고 있다. 단독세대의 증가 요인 중 가장 큰 요인으로 손꼽히는 ‘생애미혼율’의 급증 배경에 무연사회 프로젝트 팀은 전문가의 의견을 취재해 네 가지로 정리했다. 첫 번째 편의점의 보급 등 혼자서 생활하는 데에 불편하지 않은 인프라의 정비, 두 번째 경제적으로 불안정한 비정규직 노동의 증가, 세 번째 라이프 스타일이 바뀌어 어느 정도 나이가 되면 결혼하지 않으면 안 된다는 사회적인 규범의 약화, 네 번째 여성의 경제력이 향상되어 결혼하지 않아도 생활할 수 있는 사람의 증가 등이다. ‘생애미혼율’ 증가는 사회적 고립으로 이어져 심각한 문제를 초래하고 있는데 실업자가 되는 경우 빈곤화될 소지의 우려, 돌봄이 필요할 경우 배우자와 자녀가 없는 경우의 문제 등이다. 이와 같은 문제는 일본의 사회시스템이 우선은 가족이, 그다음 기업이, 마지막으로 공적인 안전망이 가동되어 온 것과 깊은 관련이 있음을 지적한다. 지금까지 일본은 가족 내에서 서로 보완해주는 ‘가족 안정망’과 함께 기업이 고용을 유지해 안정적인 임금을 지불하는 ‘기업 안정망’ 그리고 사회보장이라는 ‘공적인 안정망’이 있었지만 혼자 사는 사람이 늘어나면서 가족 안전망은 점차 약해지고 비정규직 노동의 증가로 기업 안정망도 허술해지고 있다. 그렇다고 전체가 공적인 안전망만을 기대하기도 어렵다. 실제로 중장년층은 공적인 안전망을 기대하기 힘들다. 4~50대 미혼의 경우 젊은이도 고령자도 아닌 상황에서 고립을 막기 위한 정책 대상이 되기는 현재 어렵기 때문이다.⁶⁾

그러나 ‘생애미혼율’뿐만 아니라 매년 증가하는 이혼율 또한 단독세대의 증가에 일조하고 있으며, 특히 중년 이후의 이혼은 중장년층의 사회적 고립을 양산하는 기제가 된다.

5) 2010년 1월 초 NHK의 저녁 메인 뉴스 프로그램인 <뉴스 위치 9>에서 3회에 걸쳐 시리즈로 ‘무연사회 일본’을 제작, 방송했다. 이어 아침 방송 시리즈 ‘인연을 만들자’, 주말 저녁 특집 방송인 NHK 스페셜 ‘무연사회: 무연사 3만 2,000명의 충격(無縁社会~“無縁死” 3万2千人の衝撃~)’, ‘사라진 고령자 무연사회의 그늘’ 등 무연사회를 주제로 일련의 기획 프로그램을 내보내 일본 사회에 큰 반향을 일으켰다.

6) NHK 무연사회 프로젝트팀 지음, 김범수 옮김(2012), 『무연사회』, 용오름, pp.136-141.

<표-1> 혼인건수 및 이혼건수 추이(1980년~2015)

(千件)

항목	1980년	1985년	1990년	1995년	2000년	2005년	2010년	2015년
혼인건수	775	736	722	792	798	714	700	635
이혼건수	142	167	158	199	264	262	251	226

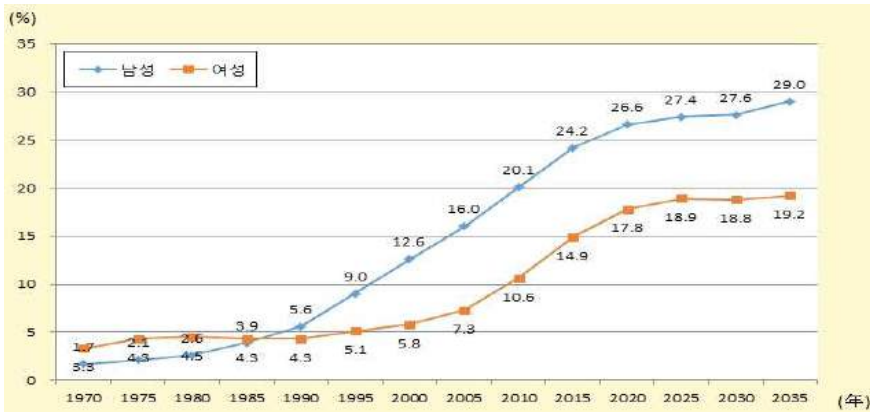
자료출처 : 후생노동성(2015), 「인구동태통계」

<표-1>에서 알 수 있는 것처럼 일본은 1980년 이후부터 혼인 건수는 감소하고 있는 데 반해, 이혼 건수가 계속 증가하고 있다. 이러한 변화는 결혼에 대한 관념이 생애를 통해 꼭 ‘해야 하는’ 통과의례에서 개인의 선택으로 변화했기 때문이다. 일본은 「남녀공동참획사회에 관한 여론조사」(내각부, 2009) 결과 결혼관에 대한 의식이라는 질문에 결혼은 개인의 자유이므로 결혼하지 않는 어느 쪽이나 상관없다는 응답이 70.0% 이상을 차지했다. 이혼에 관한 질문에도 결혼한 후 상대에게 만족할 수 없을 때는 이혼하는 것이 좋다는 응답이 50.1%로 반대라고 답한 44.8%보다 많았다. 예전과 달리 이혼에 대한 인식도 크게 변화해 더 이상 이혼을 흠으로 생각하는 경향도 많이 사라졌다.

이처럼 결혼과 이혼에 대한 인식의 변화와 더불어 ‘잃어버린 20년’이라고 불릴 만큼 오랜 시간 이어진 일본의 경제불황은 사람들의 삶의 방식과 태도에도 큰 변화를 초래했다. 이러한 현상은 자연스레 비혼의 증가로 이어졌다.

일본 여성의 미혼율 추이를 들여다보면 1980년 9.1%였던 30~34세 여성의 미혼율은 2010년에는 34.5%로 3배 이상 상승했다. 1985년 6.6%였던 35~39세 여성의 미혼율은 1990년 7.5%, 1995년 10.1%, 2005년 18.7%로 상승하고 2010년에는 23.1%로 20%를 넘어섰다. 여성의 생애미혼율은 1980년 4.4%에서 2010년 10.61%로 6% 이상 상승하는 경향을 보였다. 그러나 생애미혼율의 증가는 비단 여성의 문제만은 아니다. 다음의 도표가 보여주듯 오히려 남성의 미혼 증가는 큰 폭으로 상승하는 결과가 도출되었다. 앞으로 지금까지의 비혼화, 만혼화의 흐름이 변하지 않는다면 생애미혼율은 더욱 상승할 것으로 추측된다.

<표-2> 생애미혼율의 추이(장래 추계 포함)



자료출처: 후생노동성(2015), 「후생노동백서」에 의해 정리.

(注) 2010년까지 「인구통계자료집(2015년)」, 2015년 이후는 「일본의 세대수의 장래 추계」에 의해 작성, 45~49세의 미혼율과 50~54세의 미혼율의 평균이다.

2.2. 비혼의 증가 요인

비혼 인구의 증가 원인에 대해 전문가들은 여러 가지 의견을 제시하고 있지만, 젊은 세대를 중심으로 결혼과 비혼에 관한 의식조사에서 “독신의 자유로운 생활을 잃고 싶지 않아서”, “경제적으로 여유가 없어서”가 가장 많은 비율을 차지했다.⁷⁾ 일본은 한국과 마찬가지로 생애에 걸쳐 대부분이 결혼하는 ‘보편혼’(universe marriage)사회였다. 독신의 자유를 누리고 싶은 세대도 시간이 지나면 결혼이라는 관습에 순응했던 것이 지금까지의 역사적 흐름이었다. 그러나 이렇게 보편혼에 속해 있는 세대의 연령층은 빠르게 상승 중이다. 인생의례에서 결혼이 보편적으로 행해지던 흐름은 점차 약화되는 경향을 보이고 있는 것이다. 그러나 이러한 문제에서 주의 깊게 생각해 봐야 할 부분은 자발적으로 결혼을 거부하는 것이 아니라 과반수가 응답한 “경제적으로 여유가 없어서”라는 답변에 있다.

1980년 이후부터 이어지고 있는 일본의 급격한 비혼율 증가는 젊은 세대를 둘러싼 사회·경제 상황의 변화와 무관하지 않다. 특히 비정규고용 증가와 더불어 임금 저하가 가장 큰 원인이라 할 수 있다. 1980년 이후 대기업과 정부가 진행한 신자유주의 경제 논리 이념은 다양한 근무방식이라는 이름 아래 인건

7) 内閣府(2014), 「平成26年版 小児化社会対策白書」 p.17.

비 압박으로 이어지며 남녀의 비정규고용화·저임금화가 추진되고 파트 타임, 아르바이트, 파견사원, 계약사원, 촉탁 등의 비정규고용이 일반화되기에 이른다.

1980년대 후반부터 비정규고용의 형태는 2010년대 초반까지 꾸준히 증가하는 경향을 보였다. 비정규고용 노동자 비율은 1985년 16.4%에서 2010년 34.4%까지 상승했다. 이 비율은 남녀 모든 계층에서 상승했지만, 특히 젊은 세대 계층의 상승 폭이 컸다. 농림업을 제외한 전 사업에서 15~24세의 비율이 1985년 14.9%에서 2010년 46.5%로 급격히 증가했으며, 25~34세의 비율도 9.8%에서 24.5%로 각각 상승했다.⁸⁾

1990년대 후반에는 대학교를 졸업해도 취직하기 힘든 이른바 ‘취업빙하기’의 시대를 맞이하게 된다. 그 후에도 신규 졸업자 채용 인원수의 삭감은 이제껏 유지해온 일본형 경영이나 일본형 복지사회의 지속가능성에 타격을 주게 된다. 특히 출생자 수가 많은 ‘제2 베이비 붐 세대’⁹⁾가 본격적으로 취업전선에 유입되는 시기와 겹치면서 이 시기를 중심으로 수많은 니트(NEET), 프리터(フリーター), 청년무업(無業)자가 탄생하게 되었다. 이러한 흐름으로 인한 사회 양극화 속에 약자로서의 청년세대 존재가 주목을 받기 시작한다. ‘노력하면 그만큼의 보상이 있는 사회’로서의 일본사회, 특히 고도경제성장기 이후 당연시되었던 이 가치관에 대해 회의감이 생기기 시작했다. 자유기고가인 아카기 도모히로(赤木智宏)는 『청년을 방치하는 나라- 나를 전쟁으로 내모는 것은 무엇인가』, 『마루야마 마사오(丸山真男)를 때리고 싶다』 등을 통해 “희망은 전쟁”이라고 표현하여 논란을 일으키기도 했다. 아카기 도모히로의 발언은 현재 일본사회의 심화된 양극화가 ‘불공평’과 격차를 양산해 내는 사회 환경을 리셋(reset)하고 싶다는 표현을 과장하여 직접적으로 표현한 것이다. 비정규고용 등 불안정한 환경에 놓인 청년세대로부터의 이의제기는 사회운동으로까지 이어졌다. 예를 들어 사회운동가 아미야 가린(雨宮処凛)은 자신의 저서 『Precariat-디지털 일용직 세대의 불안한 삶』에서 불안정한 고용·노동 상황에 놓인 비정규직·파견직·실업자·노숙자들을 가리켜 ‘프레카리아트’라고 불렀다.¹⁰⁾

8) 厚生労働省(2013), 「労働経済の分析」, p.183.

9) 1971~1974년 사이 고도경제성장기에 출생한 세대를 일컫는 말로 사용.

10) 工藤 啓·西田亮介(2014), 『無業社会: 働くことができない若者ものたちの未来』, 朝日新聞出版,

이와 같은 결과에서 주목해야 할 점은 젊은 층의 인구가 감소하고 있는 와중에도 정규고용은 계속 감소하고 있다는 사실이다. 비정규고용의 증가는 곧 저임금으로 생활해야 하는 계층의 증가를 나타내고 정규직과 비정규직 간의 격차는 점점 더 커질 수밖에 없는 구조를 양산하기에 이른다. 이러한 사회구조는 일본의 중산층 붕괴를 빠르게 앞당기는 결과를 초래한다. 청년세대의 빈곤이나 불안정한 근로 방식은 결혼을 생각할 여유도 가질 수 없게 되었으며 가족을 이루고 살아야 한다는 기대는 점차 상실되어 가고 있다.

현시대는 법적 혼인 관계를 통해 결성된 가족에 대해 새로운 정의가 이루어져야 함을 인정해야 할 때다. 가족은 성별, 계급, 문화에 따라서 달라지고 있다. 소득과 학력이 높은 남녀만이 문제없이 결혼까지 이르며 이들은 이혼하지 않고 계속 함께 살 확률이 높다. 하지만 소득과 학력이 낮은 남녀 사이에서 결혼은 점점 희박해 지고 있으며 이들은 결혼에 골인하더라도 이혼으로 끝맺을 확률이 높다. “결혼의 탈제도화”를 개탄할 때 사회학자들은 두 가지 작용에 대해 언급한다. 첫째는 남성이 정치·경제·사회를 지배하던 시대가 끝났다는 사실이다. 이로써 여성은 불리한 조건에서 가족 관계를 유지할 필요가 없게 되었다. 둘째는 교육을 잘 받은 여성은 결혼할 남자를 만날 기회가 그렇지 않은 여성보다 많다는 사실이다. 이와 같은 사실은 장기적인 영향을 미치며 사람들이 “누구나 실현할 수 있는 이상”이었던 결혼에서 더 이상 이득을 얻지 못하게 만든다. 각각의 ‘결혼 시장’에 이러한 변화가 생기자 사람들은 친밀한 관계에 대해 이전과는 다른 기대를 품게 되었다. 남녀 중 누구의 재력에 투자할지에 대한 결정도 달라졌으며 사람들이 새로운 관계를 형성할 때 필요로 하는 신뢰의 수준 또한 바뀌었다. 변화의 흐름은 가족법의 변화와 상호 작용하며 사회에 새로운 가족 정의 방식을 내놓기에 이른다. 이러한 방식은 결혼의 의미를 완전히 변형시키고 사람들은 계급에 따라 다른 방법으로 이에 대응하기 시작한 것이다.¹¹⁾

이렇듯 비혼을 지향하는 인구의 증가는 복합적인 사회구조의 변화와 그 맥락을 같이 한다. 그러므로 비혼은 단순히 개인의 이기심으로 치부할 수 없는 문제이다. 현재 비혼인 남녀는 자발적으로 비혼인 상태를 유지하는 경우보다

pp.142-148.

11) 준 카르본·나오미 칸 지음, 김하현 옮김(2016), 『결혼시장 : 계급, 젠더, 불평등 그리고 결혼의 사회학』, 시대의 창, pp.166-169.

비자발적으로 비혼 상태에 놓일 수밖에 없는 요인들이 더 크게 작용하며 양산된 결과이기 때문이다.

3. 영화를 통해 본 여성을 비혼으로 유인하는 사회문화적 요인

3.1. 가족 개호¹²⁾의 최적임자

영화 『결혼하지 않아도 괜찮을까』는 ‘수짱 시리즈’ 『지금 이대로 괜찮은 걸까』(원제: すーちゃん), 『결혼하지 않아도 괜찮을까』(원제: 結婚しなくていいですか。すーちゃんの明日), 『아무래도 싫은 사람-수짱의 결심』(どうしても嫌いな人-すーちゃんの決心), 『수짱의 사랑』(すーちゃんの恋)을 엮은 작품이다. 영화는 과거 아르바이트로 알게 된 3명의 여성이 시간이 흐른 뒤에도 계속 연을 맺어 가며 살아가는 일상 속에 현대 일본사회에서 비혼으로 살아가는 여성이 겪고 있는 삶의 고민과 현실에 대해 담담히 그려낸다.

지은숙(2017)은 비혼에 대한 사회적 관심이 여전히 특정 분야에만 치우쳐 있다고 지적하는데 “정책적으로는 여성의 비혼화가 저출산과 고령화를 초래하는 사회문제라는 측면에만 부각되어 왔으며, 미디어에서는 이들 비혼여성을 가족부양이나 돌봄을 면제받은 채 자기실현의 일 혹은 소비에만 몰두하는 존재로 그리고 있다. 즉 기존의 담론은 비혼여성의 생애가 어떻게 구성되며 어떤 점에서 어려움을 겪는가에 대한 관심은 소홀한 채 비혼여성을 젠더질서의 밖, 가족의 대척점에 위치시키는 레토릭을 통해 남성생계부양자 중심의 질서를 재생산해온 것이다”¹³⁾라고 언급하고 있다.

『결혼하지 않아도 괜찮을까』는 기존 미디어가 양산하는 비혼여성의 이미지를 전복해 현실적인 담론들을 보여준다. 영화 속 주인공 수짱, 마이짱, 사와코상은 아직 결혼하지 않은 여성으로 영화는 이들의 삶을 투영해 일본사회 구

12) 개호(介護)는 간병과 수발을 포함해 돌보는 일을 가리키는 일본식 용어로 본 논문에서는 일본의 상황성을 나타내기 위해 개호라는 용어를 그대로 사용했다.

13) 지은숙(2017), 「비혼여성의 딸노릇과 비혼됨(singlehood)의 변화: 일본의 부모를 돌보는 딸들의 사례를 중심으로」, 『한국문화인류학 50-2』, 한국문화인류학회, p.190.

조가 안고 있는 다양한 사안들을 끌어낸다. 우선 개호에 대한 문제이다. 사와코상은 프리랜서 웹디자이너로 재택근무를 하며 자신의 어머니와 함께 치매에 걸린 외할머니를 돌보며 살아간다. 어머니와 사와코상의 생활은 외할머니의 개호에 맞춰져 있다. 그래서 밀린 일로 종종 밤을 새기도 한다. 하지만 사와코상은 지금의 생활을 벗어날 수 없음을 잘 알고 있다. “내가 만약 결혼하면 엄마 혼자 할머니 병수발 들겠지?”라며 독백하는 장면이나 여기저기 돌아다니는 반려묘 미짱을 바라보며 “나가고 싶을 때 나가고... 부럽네”라며 말하는 그녀의 내레이션은 사와코상의 일상을 가늠할 수 있는 기제가 된다. 사와코상은 자발적으로 비혼인 상태를 유지하고 있기보다는 비자발적으로 비혼인 상황에 놓여 있는 상태이다.

일본은 1990년대까지 노부모에 대한 개호는 가족이 담당하는 것으로 당연시 여겼다. 그러나 개호를 담당했던 자식들의 살인, 자살 등 극단적인 사건이 발생하기 시작하면서 개호에 대해 가족만의 문제가 아닌 사회 공통의 문제라는 인식의 전환이 일어나기 시작한다. ‘개호의 사회화’가 유행어처럼 번지며 2000년 4월 1일 개호보험제도가 도입되었다. 일본의 개호보험은 2008년 7월 한국에서 시행된 노인장기요양보험의 원조격이라 불린다. 현재 일본에서는 개호보험 외에도 단독세대의 일과 개호 생활 병행을 돕기 위한 ‘육아휴업·개호휴업 등 육아 및 가족 개호 중인 노동자의 복지에 관한 법률’이 제정되어 시행 중이지만 실제 이용률은 저조한 상태다. 2010년 발족한 ‘케어러스 재팬 연맹’은 ‘개호자 지원법을 실현하기 위한 시민 모임’을 설립해 개호 중인 가족을 지원하기 위한 추가 법률 제정의 필요성을 주장하고 있다. 그러나 이러한 다양한 시도에도 불구하고 일본사회에서 ‘개호의 사회화’는 순조롭게 진행되지 못하고 있다. 사회학자 오치아이 에미코(落合恵美子)는 가족에 의한 수발을 전제로 구성된 개호보험제도가 오히려 가족의 책임을 더 강하게 요구하는 ‘재가족화’ 현상을 초래했다고 지적한다. 특히 최근에는 자녀 혼자서 노부모를 수발하는 ‘독신개호(single carer)’의 증가로 개호의 사회화 필요성이 다시 대두되고 있다.¹⁴⁾

2016년 개호보험 개정에서는 지역포괄케어시스템을 중심으로 한 재택의료와 재택개호를 지향해 고령자들이 병원이나 시설이 아닌 재택에서 케어를 받게 하는 정책의 방향이 더욱 강조되었다. 그러나 재택중심, 자립중시라는 지향점

14) ‘개호의 사회화’ 일본이 남긴 교훈, 시사 IN 2016년 11월 24일 기사

<https://www.sisain.co.kr/?mod=news&act=articleView&idxno=27553> (검색일: 2018년 7월 15일).

은 개호보험제도라는 것이 현실적으로 가족의 돌봄 없이는 운용될 수 없는 구조가 되었다. ‘24시간체제 방문개호서비스’ 등으로 언제라도 케어가 필요한 순간에 개호 전문가의 도움을 받을 수 있는 시스템을 마련하고 있지만, 야간서비스는 적자로 인해 많은 사업자들이 기피하고 있는 상태다. 게다가 혼자 생활하는 고령자는 긴급벨이 있다고 해도 불안함을 느끼거나 몸까지 불편한 경우 적절히 대처하지 못하는 문제가 발생한다.¹⁵⁾

고령화 사회에서 개호에 대한 문제는 ‘개호살인’으로 이어질 만큼 심각한 사회문제로 인식된다. 일본 경찰청 범죄 통계표에 따르면 2007년부터 2014년까지 8년간 개호로 인한 심신 피로에 의해 발생한 살인 사건은 356건, 상해치사는 21건으로 조사되었다. 이러한 결과는 여전히 개호에 대한 책임이 가족을 중심으로 이루어지고 있음을 나타낸다.

후생성의 「국민생활기초조사」(2016) 자료에 따르면 개호가 필요한 요개호자(要介護者)를 주로 개호하는 담당자는 동거하고 있는 가족이 58.7%로 가장 많고, 이어 사업자가 13.0%로 나타났다. 동거 가족 중 가족을 개호하는 주된 담당자는 배우자가 25.2%, 자녀 21.8%, 자녀의 배우자가 9.7%로 각각 조사되었다. 또한, 개호자를 성별로 보면 남성 34.0%, 여성 66.0%로 여성이 압도적으로 많았다. 개호 시간에서도 ‘대부분 중일’이라는 수치가 가장 높았으며 남성 개호자가 3할, 여성 개호자가 7할을 담당한다는 결과가 도출되었다. 이러한 결과는 개호자가 일상생활에서 느끼는 스트레스 지수도 높을 수밖에 없는데 실제로 일상생활에서 걱정과 스트레스가 ‘있다’고 응답한 경우가 68.9%로 ‘없다’고 대답한 26.8%를 크게 상회했다. 그 원인에 대해서도 가족의 질병과 개호가 남녀 각 73.6%, 76.8%로 가장 높은 비율을 차지했다.

개호보험제도의 시행은 가족 개호 구성에 큰 변화를 초래했는데 오랜 시간 사회적 관습과 가치관으로 부모 개호의 역할을 강요받아온 며느리 개호자는 눈에 띄게 감소하는 경향을 보인다. 2000년에 31.0%에서 2013년에는 17.8%까지 하락했다. 며느리 개호자의 급격한 감소 배경은 결혼한 자녀와 부모의 동거 자체가 큰 폭으로 줄어든 가족구조의 변화와 더불어 여성의 생애과정의 변화를 들 수 있다. 1980년대까지 남성생계부양자와 전업주부로 이루어진 세대가 주를 이루었다면 2014년에는 역전되어 맞벌이 세대는 증가하고, 남성생계부양

15) 박승현(2017), 「‘가족개호’의 사회적 고립과 ‘돌봄의 사회화’ - 일본 개호보험제도의 ‘자립과 자조’의 딜레마」, 『인문사회과학연구』, 제18권 제3호, 부경대학교 인문사회과학연구소, p.131.

자와 전업주부로 이루어진 세대는 큰 폭으로 감소했다. 이와 같은 기혼여성의 취업증가는 주개호자 역할을 수행하는 것이 불가능한 며느리의 증가로 이어졌다. 또한, 자녀 수가 적은 세대가 부모 개호에 본격적으로 돌입하기 시작하면서 자신의 친정부모를 돌보지 않으면 안 되는 기혼여성이 증가한 것도 며느리 개호자의 감소 이유로 꼽을 수 있다. 이러한 며느리 개호자가 감소하는 시대에 딸은 가장 이상적인 부모 개호자로 지목된다.¹⁶⁾

영화도 이러한 사실을 직접적으로 드러내고 있는데 사와코상의 오빠 가족이 사와코상과 어머니를 방문하는 장면에서다.

사와코상의 친구(음식배달원) : 꽤나 떠들썩하네.

사와코상 : 오빠네 식구들이 와서.

사와코상의 친구: 오빠는 따로 살아?

사와코상 : 응. 처가택 근처에.

(중략)

사와코상의 오빠 : (자신의 아내에게) 슬슬 갈까?

며느리 : (자신의 아들에게) 하야토, 갈 준비해.

사와코상의 어머니 : (며느리가 음식을 치우려 하자) 내가 할게.

사와코상의 오빠 : 엄마가 치울 거야.

며느리 : 죄송해요.

사와코상 : 벌써 가는 거야?

사와코상의 오빠 : 내일 바빠서.

사와코상 : 하야토 증조할머니께 인사드려야지.

사와코상의 오빠 : 됐어, 누군지도 모를 텐데 굳이 깨울 필요가 있나.

(중략) 사와코상 오빠의 가족이 돌아간 후

사와코상 : 왜 저래?

사와코상의 어머니 : 뭐가?

사와코상 : 굳이 깨울 필요 없다니? 자기 귀찮아서 그런 거지!

사와코상의 어머니 : 그럴지도.

사와코상 : 할머니 바로 옆방에 계신 데 인사도 안 하고 가?

사와코상의 어머니 : 이젠 따로 사니까 그럴 테지.

16) 지은숙(2017), 앞의 논문, pp.194-196.

결혼한 오빠의 가족은 함께 살고 있지 않다는 이유로 외할머니의 개호에서 제외된다. 영화는 외할머니의 개호는 사와코상의 어머니가, 사와코상의 어머니는 머지않아 함께 사는 사와코상이 개호할 것이라는 사실을 짐작케 한다.

자녀세대 내에서 딸이 비혼인 경우 부모 개호에서 더 많은 책임을 지는 것은 새로운 현상이 아니다. 전후에 양산된 전쟁독신자 중에도 부모의 노후를 책임진 여성들이 많았다. 2000년대 이후 결혼규범의 약화와 저출산 문제는 개호자의 수가 줄어드는 결과를 초래했으며 남편과 아이가 없는 비혼인 딸이 부모 개호자로서 최적임자로 지목되는 변화가 일어나고 있다.¹⁷⁾

노동시장과 결혼시장의 이중침체 속에서 비혼의 증가는 법률적 결혼 외 출산하는 행위가 금기인 일본사회에서 자녀 수 감소로 이어졌고 출생률은 하락했다. 저출산을 앞세워 비혼을 사회문제화 시킨 것은 정부였다. 2007년 후생노동성 장관이었던 야나기사오 하쿠오는 “15세에서 50세 여성의 수는 한정돼 있습니다. 낳는 기계, 즉 장치의 수는 한정되어 있으니까. 한 사람 한 사람이 분발해 주시는 수밖에 없습니다.” 이 발언은 여론의 반발을 크게 샀지만, 장관의 사임으로는 이어지지 않았다. 이에 더해 “결혼 못 하는 남자, 결혼 안 하는 여자”라는 젠더화된 담론이 강화되면서 비혼은 선택의 자유를 남용한 여성들과 결혼할 수 없게 된 남성들이라는 이미지를 양산하기에 이른다. 이러한 흐름은 비혼에 대해 “비생산적”이라는 낙인을 새긴다. 그러므로 생산적인 정상가족, 이른바 부부와 자녀로 구성된 가족 형태에 권위를 부여하면서 비혼자를 “주변화(marginalization)”하며 생산적인 부분을 우선해야 한다는 의식은 가족 내 개호의 분배에도 영향을 미친다. 그 결과 재생산에 기여하지 않는 비혼자가 부모 개호에 더 많은 책임을 져야 한다는 담론을 만들어 재생산에 참여하는 정상가족의 부담을 덜어줘야 한다는 논리가 작동한다.¹⁸⁾

앞으로 비혼자에 의한 부모개호의 형태는 더욱 증가할 것이며, 특히 여성이 남성과 비교해 두 배 가까운 비율을 차지하고 있다는 사실은 비혼여성의 개호가 일본의 사회문화적 구조 속에서 더욱 강화될 여지는 충분해 보인다.

3.2. 결혼과 비혼의 딜레마

17) 지은숙(2017), 앞의 논문, pp.196-197.

18) 지은숙(2016), 「비혼(非婚)을 통해 본 현대 일본의 가족관계와 젠더질서: 사회집단으로서 비혼의 형성과 변화를 중심으로」, 『한국문화인류학 49-3』, 한국문화인류학회, pp.291-293.

수장은 요리하는 것을 좋아하고 직장에서 매니저로 일하며 신메뉴를 개발하는데도 게을리하지 않는다. 연애에서는 서툴지만 일에서만큼은 인정받아 점장에까지 오르는 여성이다. 그러나 노후에 대한 불안감을 안고 살아가며 지금의 삶에 늘 의문을 갖는다. 34세의 마이짱은 직장 내에서 발생하는 위기에 해결사 역할을 할 만큼 능력 있는 여성이다. 이렇게 자신이 하는 일에 최선을 다하고 있지만, 아직 결혼하지 않은 자신에 대해 여러 이야기를 쏟아내는 주변인들로 인해 상처받는다.

일본의 비혼화·만혼화는 증가하는 추세이지만, 정작 젊은 세대의 결혼에 관한 의식은 꽤 긍정적이다. 미혼자를 대상으로 일생을 통해 결혼에 대한 생각을 물었을 때 “언젠가 결혼할 것”이라고 답한 사람이 18~34세 미혼자 중 남성이 86.3%, 여성이 89.4%로 미혼인 젊은 세대 대다수가 장래 결혼에 대해 기대를 품고 있었다.¹⁹⁾ 그러나 그 바람과 달리 결혼까지 이르는 수치는 해마다 감소하고 있다.

이러한 배경은 앞에서 언급한 것처럼 일본의 오랜 경제불황이 가져온 사회구조 변화로 인한 양극화 심화가 그 주된 요인이라 할 수 있다. 그렇지만 영화에서 나타내는 것처럼 여성의 비혼화 이유는 남성과는 차이가 있다. 바로 여전히 뿌리 깊게 남아 있는 결혼구조의 보수화 경향이다. 대표적으로 결혼하면 당연시되는 여성의 출산 담론은 여성의 몸에 대한 배려 없이 모든 여성을 출산할 수 있는 몸으로 간주한다는 데서 기인한다. 그러나 결혼을 한다고 해서 모든 여성이 출산할 의지가 있는 것도 출산할 수 있는 것도 아니다. 환경문제를 비롯해 원인 모를 이유로 아이를 가질 수 없는 몸도 존재하며, 아이를 낳아 기를 수 없는 상황에 출산을 포기하는 여성도 존재한다. 게다가 가치관의 변화는 여성 스스로 자신의 몸에 대한 결정권자임을 분명히 하며 출산이 필수가 아닌 선택으로 생각하는 경향이 강화되고 있다. 그럼에도 여성에게 ‘결혼=출산’이라는 등식은 여전히 강력한 힘을 발휘하며 여성을 압박하는 장치가 된다.

남자친구 : 가족들한테 자기 소개하려고 해. 서두르는 것 같지만 둘 다 나이도 있고 하니깐. 확실히 해 두고 싶어.

사와코상 : (미소지으며) 좋아.

남자친구 : 참, 우리 부모님이 언제 손주 보냐며 성화셔. 미안한데 임신 가능

19) 厚生労働省(2015), 「厚生労働白書」, pp.67-68.

진단서 같은 거 받아올 수 있을까?

사와코상 : (당황하며) 그게... 잘 모르겠지만 병원에 한 번 가볼게.

남자친구 : 부탁해.

사와코상 : 자기는?

남자친구 : 어? 나도 검사하라고?

사와코상 : 왜 나만 그런 검사 받아야 해?

남자친구 : 그거야 뭐...

사와코상 : 결과가 안 좋으면 어떡하게? 자기가 문제라면 어쩔 건데?

사와코상은 할머니의 개호로 고민했지만, 남자친구와의 결혼을 긍정적으로 생각한다. 그러나 남자친구의 요구에 대해 “도저히 용서가 안 되더라고. 내가 선택을 잘못된 걸까? 그 사람 정말 좋아했는데... 괜찮아. 다 끝난 일이야”라며 수짱과 나누는 대화에서 그 관계를 더는 지속할 수 없음을 분명히 한다.

영화 『결혼하지 않아도 괜찮을까』는 그렇다고 결혼구조의 보수성에 대해 전적으로 남성의 책임으로만 돌리지 않는다. 결혼구조의 보수성이 유지될 수 있는 기제에는 한편으로 그 구조에 편입되고 싶은 여성의 욕망도 존재한다. 남편과의 관계 속에서 안온하게 생활을 영위하려는 여성의 심리도 작용하기 때문이다.

파트타임 직원 : 두 분 월급은 얼마 받아요? (정)직원이니깐 30만엔은 되겠죠?

수짱 : 그러면 좋게. 세금 떼고 20만엔 조금 넘어.

수짱의 동료직원 : 대충 그래.

파트타임 직원 : 뽀뽀하네요.

수짱 : 언제까지 할 수 있을지 모르겠어.

파트타임 직원 : 역시 빨리 결혼하는 게 좋겠네요.

수짱 : 치카짱은 귀여우니까 곧 좋은 남자 생길 거야.

파트타임 직원 : 좋은 남자 있어요. 사법시험 중이라 자주는 못 만나지만 잘 되면 한 방에 인생역전이죠.

수짱 : 인생역전?

수짱의 동료직원 : 일단은 내 사람으로 만들어야 결혼하지.

파트타임 직원 : 그거 경험에서 우리나라의 말 같아요.

오늘날의 젊은 여성들과 달리 과거 좀 더 윗세대 여성들의 경험은 거의 항상 결혼이라는 관점에서 틀 지워졌다. 심지어 그 여성이 결혼을 하지 않은 경우에도 사정은 마찬가지였다. 여성들에게 “Striking out on one’s own”이란 말이 부모의 집을 떠나는 것을 의미하게 된 것은 얼마 되지 않았다. 지금의 장년층 세대는 소수의 예외를 제외하고는 모든 여성에게 집을 떠난다는 것은 곧 결혼하는 것을 의미했다. 대부분의 남성들과는 대조적으로 대다수 여성들은 여전히 외부 세계로의 진입을 애착관계(attachment)의 형성과 동일시하려는 경향이 강하다. 남성들은 아직 독신이고 단지 미래의 관계들을 기대하고 있을 뿐일 때 자아에 관한 여성의 서사는 그럴 때조차 ‘우리’의 관점에서 표현되는 경향이 있다.²⁰⁾ 마이짱은 표면적으로 독립적이며 소위 잘나가는 커리어 우먼의 상징처럼 보이지만 유부남과의 은밀한 연애에 점점 지쳐가고 변화하기 위해 적극적으로 결혼 시장에 들어가 캐릭터 중 유일하게 결혼에 이르는 인물이다. 수짱과의 대화에서 “결혼정보업체에 등록했어. 인생을 한번 바꿔보려고” 말하는 마이짱 역시 자신이 처한 시점을 타파하기 위해 또 다른 세계로의 진입을 추구하는 매개체를 결혼으로 상징하고 있다.

여성의 심리 이면에는 남성이 여성인 자신보다 안정적인 임금을 받는다는 기대감도 내재해 있다. 일본은 여성의 경우 정규·비정규의 임금 격차는 남성과 마찬가지로 큰 폭으로 상승하고 있으며 이에 더해 정규·비정규라는 같은 고용 형태에서도 남성보다 낮은 임금 체계로 인해 훨씬 더 열악한 상황에 놓여 있다. 이제 ‘일한다는 것’의 개념은 자아실현의 장치가 아니라 생존과 밀접한 관련이 있는 것이다. 그렇지만 여성이 처한 상황은 여전히 공감받기 어려운 구조이다.

수짱 : 지금 아르바이트 뽑는 중인데 괜찮으세요?

남성 면접자 : 다음 달에 36살이 되는데 꼭 좀 부탁드립니다.

(중략)

남성 면접자 : 경기불황으로 힘들 때고 거느린 식구도 있어서 빨리 직원이 됐으면 해서요. 점장님도 아르바이트로 시작했죠?

수짱 : 그런 얘기는 이런 자리에서 말씀드리기 곤란하네요. 죄송합니다. 서빙

20) 앤소니 기든스 지음, 배은경·황정미 옮김(1996), 『현대사회의 성·사랑·에로티시즘』, 새물결, pp.96-104.

뿐만 아니라 주방보조도 가능하신가요?

남성 면접자 : (기분 나빠하며) 이력서 보시면 알 텐데요. 난 사실 이런 일을 할 사람이 아닙니다.

수짱 : 예?

남성 면접자 : 여자는 남자가 얼마나 절박한지 몰라요.

(중략)

남성 면접자 : 뭐 잘났다고! 내 시간만 낭비했잖아.

수짱 : 이건 아니죠. 정장 차림이길래 젊은 사람보다 더 열심히 할 각오로 왔나 기대했어요. 하지만 이 일을 가볍게 여기는 분을 채용할 순 없어요. 기대한 저야말로 시간 낭비였네요.

남성 면접자: 당신 시간 따워야! 남자도 없이 한가하게 살다가 점장 된 거 아니냐고!

수짱 : 그것도 틀렸어요!

여성의 사회진출이 증가하기 시작하면서 결혼 후 맞벌이 부부의 가정 형태도 증가했다. 일과 가정의 양립문제가 발생하면서 정규직에서 비정규고용 형태로 이동하는 여성들 또한 많아지고 있다. 일과 가정의 양립문제가 사회적으로 공론화된 시기는 1990년대로 그 역사가 길지 않다. 이전까지 일과 가정의 양립문제가 이슈화되지 않은데는 여성이 사회진출을 하더라도 결혼과 동시에 퇴사하는 문화가 보편화 되어 있었기 때문이다. 또한, 일본의 고도경제성장기에는 남편의 급여만으로도 중산층의 생활이 가능했기 때문에 일과 가정의 양립문제는 크게 표면화되지 못했다. 그러나 계속된 일본사회의 경제불황과 가치관의 변화는 근대가족 담론이 지향한 남성의 공적영역과 여성의 가내영역 구조가 붕괴되는 결과를 초래한다. 근대 이후 성립한 가정 이데올로기는 여성을 가정의 주체로 규정지었다. 사회가 빠르게 변화하고 있음에도 가정의 주체는 여성이라는 인식은 여전하다. 그러므로 여성은 결혼과 동시에 일과 가정의 양립 혹은 둘 중 하나를 포기해야 한다. 대다수 포기의 대상은 일이다. 영화 말미 마이짱은 변화를 위해 결혼했지만, 일을 포기한 순간 경력 단절이 발생하고 임신을 하게 되면서 자신의 선택이 과연 옳았는지 계속 자문하면 혼란스러워한다. 사람은 때로는 행복한 결혼의 패러독스처럼 결혼을 염원했음에도 결혼 생활 자체에는 불만 가득한 혹은 무언가 결핍되었다는 딜레마를 겪게 되는 것이다.

4. 마치며

여성만화를 원작으로 제작된 영화 『결혼하지 않아도 괜찮을까』는 현재 일본사회가 안고 있는 무거운 사안에 대해 소시민들의 생활과 인간관계 속에서 담담하게 그려낸다. 영화는 대중에게 주인공 수짱, 마이짱, 사와코상을 통해 묵직한 메시지를 던진다.

첫 번째는 개호에 관한 문제이다. 초고령사회인 일본은 비혼화와 만혼화 그에 따른 저출산으로 이어지는 흐름에서 ‘독신개호’라는 정점에까지 이르며 사회적 문제로까지 번지고 있다. ‘노노개호(老老介護)’, ‘인인개호(忍忍介護)’, ‘개호살인(介護殺人)’, ‘개호피로(介護疲労)’, ‘개호자살(介護自殺)’이라는 말까지 등장하며 가시화된 개호에 대한 문제는 심각한 수준에 이르렀다. 이러한 사안의 발생은 혼자서 가족의 개호를 담당할 수밖에 없는 비혼자가 일상적인 생활마저 유지할 수 없는 구조가 양산된 결과라 할 수 있다.

두 번째는 결혼하고 싶지만 할 수 없는 일본의 사회적 구조이다. 고용의 불안정, 결혼·가족구조의 보수화 경향, 일과 가정 사이의 딜레마 등은 청년세대를 결혼이라는 제도에서 더 멀어지게 만든다. 이러한 구조적 악순환은 가족의 붕괴를 비롯해 홀로 죽어가는 무연사(無緣死)까지 등장하며 심각한 사회문제를 야기한다.

일본은 법률적 혼인 외 출산에 대해 엄격한 잣대를 드리우고 있다. 결혼은 일반적으로 출산과 양육 등 가족적 책임이 수반되는 중대한 사건임에도 불구하고 시대적 변화에 반하는 보수적 구조를 고수하는 경향이 강하다. 일본은 2014년 기준 혼외자 출생률이 2.3%로 OECD 국가 중 한국(1.9%)에 이어 두 번째로 낮다. OECD 27개국의 평균 혼외자 출생률은 40.5%로²¹⁾ 한국, 일본과는 비교할 수도 없는 수치이다. 한부모 가구를 비롯해 미혼모와 미혼부의 부정적 인식에 대한 전환이 필요할 때이며 다양한 가족 형태를 수용해야만 출산율 상승을 기대할 여지가 있다.

현재 일본의 가족 형태는 다양하게 변화하고 있으며 혈연보다 시간과 공간의 공유를 통해 연대를 형성하는 가족 형태도 등장하고 있다. 가족규범의 약화

21) ‘한국 혼외자 출생률 OECD 최하위’ 서울경제 2018년 10월 1일 기사

<http://www.sedaily.com/NewsView/1S5QSIOTCF> (검색일: 2018년 10월 1일).

는 이러한 구조를 촉발하는 기제가 된다. 영화는 개호의 문제, 결혼과 출산의 형태에 대해 이제 새로운 패러다임을 구축해야 할 시기가 도래했음을 간접적으로나마 대중에게 전달해 가고 있다.

【참고문헌】

- 박승현(2017) 「'가족개호'의 사회적 고립과 '돌봄의 사회화' - 일본 개호보험제도의 '자립과 자조'의 딜레마」, 『인문사회과학연구』, 제18권 제3호, 부경대학교 인문사회과학연구소, p.131.
- 앤소니 기든스 지음, 배은경·황정미 옮김(1996) 『현대사회의 성·사랑·에로티시즘』, 새물결, pp.96-104.
- NHK 무연사회 프로젝트팀 지음, 김범수 옮김(2012) 『무연사회』, 용오름, pp.136-141.
- 준 카르본·나오미 칸 지음, 김하현 옮김(2016), 『결혼시장 : 계급, 젠더, 불평등 그리고 결혼의 사회학』, 시대의 창, pp.166-169.
- 지은숙(2016) 「비혼(非婚)을 통해 본 현대 일본의 가족관계와 젠더질서: 사회집단으로서 비혼의 형성과 변화를 중심으로」, 『한국문화인류학 49-3』, 한국문화인류학회, pp.291-293.
- _____ (2017) 「비혼여성의 딸노릇과 비혼됨(singlehood)의 변화: 일본의 부모를 돌보는 딸들의 사례를 중심으로」, 『한국문화인류학 50-2』, 한국문화인류학회, pp.190.
- 工藤 啓·西田亮介(2014) 『無業社会: 働くことができない若者ものたちの未来』, 朝日新聞出版, pp.142-148.
- 上野千鶴子·水無田気流 著(2015) 『非婚ですが、それが何か!? 結婚リスク時代を生きる』, ビジネス社, pp.28-34.
- 厚生労働省(2013) 「労働経済の分析」, p.183.
- _____ (2015) 「人口動態統計」
- _____ (2015) 「厚生労働白書」, pp.67-68.
- 総務省(2015) 「国勢調査」, pp.8-23.
- 内閣府(2009) 「男女共同参画社会に関する世論調査」
- <https://survey.gov-online.go.jp/h21/h21-danjo/2-2.html> (검색일: 2018.05.21.)
- 内閣府(2014) 「平成26年版 小児化社会対策白書」 p.17.
- ‘개호의 사회화’ 일본이 남긴 교훈, 시사 IN 2016년 11월 24일 기사
- <https://www.sisain.co.kr/?mod=news&act=articleView&idxno=27553> (검색일: 2018.07.15.)
- ‘한국 혼외자 출생률 OECD 최하위’ 서울경제 2018년 10월 1일 기사
- <http://www.sedaily.com/NewsView/1S5QSIOTCF> (검색일: 2018.10.1.)

< 영상자료 >

御法川修(2013) 『すーちゃん まいちゃん さわ子さん』

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 08.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

映画の通じてみた現代の日本女性の非婚化現象

— 『結婚しなくていいですか』を中心に—

李允柱

本論文は、日本映画を通じて非婚で生きる女性の状況と社会的な要因の具体化を試みたものである。女性漫画を原作として制作された映画『結婚しなくていいですか』は、現在の日本社会が抱える重い事案に対し、庶民の生活と人間関係の中で淡々と描き、重いメッセージを投げかけている。現代日本の人口減少と単独世帯の増加は、結婚が負担だという認識と共に非婚時代が到来したことを端的に示している。そのうえ、法的な婚姻関係で行われた夫婦の出産だけを正常な出産と認める日本の保守的な家族観は、人口減少をさらに触発する契機となる。

日本社会で長い間、持続してきた雇用の不安定、家族構造の保守化の傾向、仕事と家庭との間のジレンマなどは“生涯未婚率”人口が増えるきっかけとなる。映画はこのような日本社会の構造的な問題に対してアプローチしている。家族介護の問題、さらに非婚者が介護を担うようになる仕組みについて言及し、またこれらの問題の原因について、女性の非婚化にともなう少子化に関して疑問を示す。映画はこのような構造的悪循環を間接的に言及し、家族構造に対して新しいパラダイムを構築しなければならない時期が到来したことを大衆に伝えている。

The phenomenon of non-maritalization of modern Japanese women seen through the movie

— Sue, Mai & Sawa: Righting the Girl Ship —

Lee, Yoon-Ju

This study examines situations and social factors regarding non-married women from the analysis of a Japanese movie. Based on a woman's comic book, the movie *Sue, Mai & Sawa: Righting the Girl Ship* sends a strong message, drawing on a complex issue of present-day Japanese society, especially in the lives and relationships of the petit bourgeoisie.

The declining populations and the increase of one-person households in modern Japan clearly show that an age of non-marriage has arrived with the perception that marriage is a burden and a risk. Moreover, Japan's conservative family values, which only acknowledges births stemming from legal marital relationships serves as impulses that triggers population decline.

Unstable employment, the conservative tendency of family structure, and the dilemma between work and home, which have long been a part of Japanese society, consist of a mechanism that increases the populations including “the ratio of a lifetime without marriage.” The movie addresses the structural problems of Japanese society. It mentions the problem of family care and highlights the manner in which non-married persons become responsible for elderly care. In addition, it calls into question the non-maritalization of women as a fundamental reason for the low birth rate, when considering the causes of this problems. The film conveys the message that a time has come when a new paradigm should be constructed concerning family structure, indirectly mentioning the current structural vicious circle.

미국의 대일압력과 요시다 노선의 대미협조외교에 대한 재고찰

김 남 은*

(e-mail : manbo5533@hanmail.net)

<목 차>

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 서론 | |
| 2. 점령기 일본의 대미추종의 정치 현실 | 4. 오키나와 반환과 대미협조외교 |
| 3. 조기 강화조약과 대미협조외교 | 5. 결론 |

키워드: 日本の外交(Japanese diplomacy), 対米協調外交(Japan's Cooperative Diplomacy with the US), 吉田路線(Yoshida Line), サンフランシスコ講和条約(San Francisco Peace Treaty), 沖縄返還(The recovery of Okinawa)

1. 서론

일본 외교에서 가장 중요한 과제는 미국의 압력이며, 이때 문제의 본질은 일본의 선택이 ‘협조적 입장을 취할 것인가’ 아니면 ‘자주적 입장을 취할 것인가’라는 대일압력에 대한 대응방식에 있다.¹⁾ 일본이 항복문서에 서명한 1945년 9월 2일부터 샌프란시스코 강화조약이 발효된 1952년 4월 28일까지 일본의 모든 의사결정은 미국에 있었고 일본은 외교권을 포함한 주권을 모두 상실했다. 그럼에도 불구하고 그것이 비록 지배와 피지배의 수직적 관계이기는 했지만, 미군정 점령 초기 일본 정부는 GHQ(연합군 총사령부)와 긴밀한 교섭을 진행하고 있었으며, 점령 말기에는 조기강화를 위한 미국과의 교섭에서 예정된 독립국을 대표하는 정부로서 인정받고 있었다. 전후 일본 외교는 지배와 피지배의 구조 속에서 대외교섭이 거듭되는 역설적 상황에서 형성된 것이다.

그러나 문제는 이러한 일본 외교의 구조적 한계가 주권회복 이후에도 계속 이어져

* 고려대학교 BK21Plus 중일언어문화교육연구 사업단 연구교수, 현대일본정치외교사 전공
1) 마고사키 우케루(2013) 『미국은 동아시아를 어떻게 지배했나』 (양기호 역), 메디치미디어, p.32

하나의 시스템으로 정착되어졌다는 점이다. 미국의 간접통치 하에서 일본은 미국의 대일점령정책에 적극적으로 ‘협조’했으며, 샌프란시스코강화조약이 발효된 이후에는 냉전체제의 국제사회에서 미일동맹체제에 철저히 편승하는 입장을 보였다. 그 과정에서 미국에 대한 ‘협조’는 무엇보다 중요한 요소였으며²⁾ 그 정신은 요시다 노선으로 이어져왔다.³⁾ 즉 요시다 노선은 동아시아 국제질서의 변화에 순응하고 미국의 전략에 적극적으로 협조하는 가운데 숙성되어진 일본의 국가전략이자 방위정책이며 외교정책이다. 요시다 시게루(吉田茂)가 점령기 동안 줄곧 수상의 자리를 유지할 수 있었던 것도 미국에 적극적으로 협조한 대가였다.

한편 전후 일본 외교론의 대부분이 요시다 노선을 축으로 이루어지게 된 것은 고사카 마사타카(高坂正堯)가 1964년 2월 『중앙공론』(中央公論)에 “재상 요시다 시게루론”(宰相吉田茂論)을 발표하면서부터이다.⁴⁾ 이 글은 1963년 1월 고사카가 같은 잡지에 “현실주의자의 평화론”(現實主義者の平和論)을 게재해 주목받은 이후의 성과물이다.⁵⁾ 고사카는 요시다의 업적을 높이 평가한 대표적인 인물로서 요시다에 대해 다음과 같이 언급하고 있다.

실제로 요시다는 맥아더와 대등한 입장에서 말할 수 있는 인물이었다. (중략) 요시다는 무엇보다도 일본의 부흥을 고민하고 있었고 전후 개혁이 이 목적에 맞지 않을 경우 철저히 저항했다.⁶⁾

여기에서 고사카는 요시다가 “무엇보다도 일본의 부흥을 고민하고 있었고, 전후 개혁이 이 목적에 맞지 않을 경우 철저히 저항했다.”고 언급하고 있다. 이러한 요시다 예찬론은 1984년 5월 나가이 요노스케(永井陽之助)가 『문예춘추』(文藝春秋)에 게재한 “요시다 독트린은 영원하다”로 이어졌다.⁷⁾ 이 시기 ‘요시다 독트린’이라는 용어와 함께 일본을 성공으로 이끈 ‘재상 요시다’상이 정착되었다. 이후 요시다에 대한 이와 같은

2) 이원덕(2005) 「일본의 동아시아지역 형성정책의 전개와 특징」 『일본연구논총』 22, p.66

3) 요시다 노선이란 일반적으로 요시다를 필두로 자유당계의 흐름을 이어받은 관료 출신 정치가를 중심으로 한 세력으로 ‘보수본류’라고도 불린다. 요시다 노선은 정치가와 인맥으로 연결된 관료, 이들의 비호 아래서 재건에 성공한 대기업 경영자들의 총칭으로 정계, 관료, 재계의 주류가 참가한 삼위일체가 보수정권을 이어 온 권력기구집단이라고 할 수 있다. 이들 중 요시다 노선의 형성에 가장 중요한 역할을 담당했던 이는 이른바 ‘요시다 학교’에서 충원된 이케다 하야토(池田勇人)와 사토 에이사쿠(佐藤榮作) 등과 같은 고급 관료 출신의 정치가들이다.

4) 高坂正堯(1964) 「宰相吉田茂論」 『中央公論』 79(2) 참조

5) 高坂正堯(1963) 「現實主義者の平和論」 『中央公論』 78(1) 참조

6) 高坂正堯(2006) 『宰相吉田茂』 中央公論新社, p.33

7) 永井陽之助(1984) 「吉田ドクトリンは永遠なり」 『文藝春秋』 pp.382-405

연구는 무수히 많이 쏟아져 나왔으며,⁸⁾ 2009년 2010년 요시다에 대한 두 권의 평전을 출판한 기타 야스토시(北康利)는 “인기에 연연하지 않는 신념의 정치인 요시다”를 흠미한 일본정치 현실에 대비해 부각시키려 시도했다.⁹⁾

특히 2011년 3월에 일어난 동일본대진재 이래로는 대중평론 수준에서 강력한 리더십 대망론에 편승해 요시다의 리더십이 주목받기 시작했다.¹⁰⁾ 우익적 논조의 잡지 『Will』 2010년 6월호의 특집 제목은 “지금이야말로 요시다 시게루 대망론”(今こそ「吉田茂」待望論)이었다. 특집 대담에서 와타나베 쇼이치(渡部昇一)는 전전의 만주에 대한 적극정책과 만년에 보인 적극적인 재군비 옹호론을 들어 요시다를 재평가했다. 그의 대담 상대는 『혁명 반골, 요시다 시게루(赫奕たる反骨 吉田茂)』의 저자 구도 미요코(工藤美代子)였다. 그녀는 요시다가 메이지 2세대로 태어나 메이지유신 세대의 기백과 교양을 물려받은 사람이며, 인기와 지지율에 연연하지 않는 반골 기질을 가진 사람이었다고 평가하고 있다.¹¹⁾

반면 요시다에 대한 비판의 목소리도 존재한다. 전직 외교관 마고사키 우케루(孫崎享)에 의하면 요시다는 일반 시민에게 각인된 수상의 거만한 모습과는 판이하며, 점령

- 8) 먼저 요시다의 리더십에 대한 예찬론 또는 찬미론이라고도 할 수 있는 긍정적인 평가를 내리고 있는 연구로서 高坂正堯(1968)『宰相吉田茂』中央公論新; 工藤美代子(2010)『赫奕たる反骨, 吉田茂』日本經濟新聞出版社; 北康利(2009)『吉田茂: ポピュリズムに背を向けて』講談社; 北康利(2010)『吉田茂の見た夢: 獨立心なくして國家なし』扶桑社 등의 연구서와 渡部昇一·工藤美代子(2010)「今こそ「吉田茂」待望論」『Will』 6, pp.62-73; 北康利「吉田にみる復興への志」(2011)『歴史通』 7, pp.66-77 등의 연구논문이 있다. 물론 이에 대한 비판의 목소리도 적지 않다. 片岡鐵哉(1992)『さらば吉田茂: 虚構なき戦後政治史』文藝春秋; 孫崎享(2012)『戦後史の正体 1945-2012』創元社, 등이 이에 해당한다. 요시다 독트린에 관한 논의를 다루고 있는 연구로서는 永井陽之助(1984)「吉田ドクトリンは永遠なり」『文藝春秋』 5; 片岡鐵哉(1992)「さらば吉田茂: 虚構なき戦後政治史」『文藝春秋』; 三浦陽一(1996)『吉田茂とサンフランシスコ講話』(上·下) 大月書店; 中西寛(2003)「吉田ドクトリン」の形成と変容: 政治における「認識と当爲」との關連において」『法學論叢』 152(5·6), pp.276-314 등이 있다. 요시다의 전기류에 해당하는 것으로는 猪木正道(1995)『評伝吉田茂』全 4卷, ちくま學芸文庫; 井上壽一(2009)『吉田茂と昭和史』講談社; 工藤美代子(2010)『赫奕たる反骨, 吉田茂』日本經濟新聞出版社 등이 있으며, 村井哲也(2008)『戦後政治体制の起源: 吉田茂の「官邸主導」』藤原書店과 楠綾子(2009)『吉田茂と安全保障政策の形成: 日米の構想とその相互作用, 1943-1952』ミネルヴァ書房와 같이 국내정치에 초점을 두거나 안보정책에 초점을 둔 연구도 존재한다. 이 밖에도 ジョン·ダワ(1981)『吉田茂とその時代』(上·下) (大窪憲二譯) TBSブリタニ; リチャード B. フィン(Richard B. Finn)(1993)『マッカーサーと吉田茂』(上·下) 同文書院インターナショナル와 같이 미국의 시각에서 다룬 요시다의 연구가 있다.
- 9) 北康利(2012)『吉田茂: ポピュリズムに背を向けて』上·下, 講談社; 北康利(2010)『吉田茂の見た夢: 獨立心なくして國家なし』扶桑社 참조
- 10) 남기정(2013)「요시다 시게루의 전후 구상과 리더십: “군대없는 메이지국가”구상과 “기지국가”의 현실」『일본 부활의 리더십: 전후 일본의 위기와 재건축』동아시아연구원, pp.29-32
- 11) 渡部昇一·工藤美代子(2010)「今こそ「吉田茂」待望論」『Will』 6, pp.62-73

군과 대등한 줄다리를 하는 요시다의 모습은 신화에 지나지 않는다.¹²⁾ 즉 요시다야 말로 본질적 중미 그 자체이며,¹³⁾ “고사카를 비롯한 요시다를 찬미하는 이들은 요시다가 구축한 종속적인 미일관계의 강력한 옹호자일 뿐”이라는 것이 마고사키의 평가이다.¹⁴⁾ 또한 가타오카 데츠야(片岡鐵哉)는 1992년 『요시다 시게루여 안녕히: 허구 없는 전후 정치사(さらば吉田茂: 虚構なき戦後政治史)』에서 “일본을 국가 없는 민족으로 만든 원흉”으로서 요시다를 지목한 바 있다.¹⁵⁾

이처럼 요시다에 대한 평가는 다양하며, 그것이 긍정적이든 부정적이든 간에 전후 일본의 형성자로서 중요한 역할을 했다는 점만은 인정하지 않을 수 없다.¹⁶⁾ 전후 일본을 논할 때 요시다에 대한 평가가 제외되는 경우가 거의 없을 정도로 요시다 노선은 전후 모든 내각의 기본적인 국가정책으로서 채택되어 일본 정치에 강력하게 뿌리내리고 있다.

그러나 본 논문이 주장하고자 하는 것은 요시다에 대한 예찬론이나 비판론과 같은 이항 대립적인 평가가 아니다. 일반적으로 요시다를 비롯해 요시다의 뒤를 이은 이케다 하야토(池田勇人)와 사토 에이사쿠(佐藤榮作) 등과 같은 관료 출신의 정치가들의 외교 노선은, 대미의존성을 용인하고 현상유지를 주장하면서 대미협조관계를 주장한 것으로 평가되어 왔다. 그러나 고사카나 와타나베가 주장하는 것처럼 요시다가 맥아더와 대등한 입장에서 전후 개혁이 목적에 맞지 않을 경우 철저히 항의했거나 재군비 옹호론자였다면, 요시다는 미국의 압력에 대해 ‘협조’가 아닌 ‘자주’ 노선을 선택한 인물로 평가되어야만 한다.

본 논문은 이러한 문제의식을 가지고 요시다 노선의 대미협조외교를 재고찰함으로써 일본의 대미외교에 있어서의 구조적 문제점을 밝히는데 있다. 구체적으로는 패전 직후부터 1960년대까지의 국제정치변화와 일본 국내정치체제의 특수성에 초점을 맞추어 미국의 대일압력에 대해 일본 외교가 어떠한 지향성을 가지고 있는지를 분석하고자 한다.

2. 점령기 일본의 대미추종의 정치 현실

점령 개시기 일본에게 가장 중요한 외교과제는 포츠담선언 수용과 항복의 의미를 일

12) 마고사키 우케루(2013), p.63

13) 위의 책, pp.43-45

14) 위의 책, p.70

15) 片岡鐵哉(1992) 『さらば吉田茂: 虚構なき戦後政治史』 文藝春秋, p.33

16) 渡辺昭夫(1999) 「戦後日本の形成者としての吉田茂」 北岡伸一, 五百旗頭眞(編) 『占領と講和: 戦後日本の出発』 情報文化研究所, pp.166-178

본의 국가적 생존과 연결시켜 명확하게 하는 일이었다. 구체적으로는 점령군의 일본 장악 이후 일본 정부에게 얼마만큼의 국내통치권이 남아 있는가에 대한 문제, 점령군은 일본 정부를 통한 간접통치를 행할 것인가 아닌가에 대한 문제, 특히 국내 통치권을 둘러싼 점령군과 일본 정부의 경계선이 가장 중요한 문제였다.¹⁷⁾ 일본으로서는 천황제를 유지시키고 일본 정부에 의한 간접통치의 희망을 버릴 수가 없었다. 그러나 미국 정부는 1945년 8월 15일 일본의 모든 재외 외교기간의 재산과 공문서를 압수한다는 통첩을 각국에게 보냈으며, 11월 4일에는 도쿄에 있는 중립국이나 연합국 대표와의 직접적인 접촉 또한 금지시켰다. GHQ와의 교섭이 일본의 외교의 전부가 되어 버린 것이다.

이러한 상황에서 일본은 천황제 유지와 일본 정부 해체를 피하기 위해 GHQ 측에게 스스로의 이용 가치를 인정받는 일에 몰두했다. 일본 정부로서는 점령군에게 믿음을 주는 자세를 취하는 것이 중요했으며 특히 GHQ의 전쟁범죄자 처리문제에 대해 대책을 강구해야만 했다. 1945년 9월 2일 항복문서에 서명한 직후인 9월 13일에는 이미 전쟁범죄자 범위에 대한 내용이 일본 정부에게 통보되었다. 범죄자 종류는 직접 전쟁을 계획하고 수행한 자, 그것을 묵인한 책임자, 전쟁에 대한 정치상의 책임자로 분류되었다.¹⁸⁾ 그러나 이들 모두가 전쟁범죄자로 포함된다면 구세력 모두가 전쟁범죄자로 처벌받는 것과 같은 것이었다. 이에 일본 정계, 재계 등 구세력의 불안과 동요는 극에 달하고 있었으며, 이들은 전쟁범죄자로 처벌받지 않기 위해 자기변명과 책임회피에 바빴다. 천황뿐만 아니라 당시 수상이었던 히가시구니노미야 나루히코(東久邇宮稔彦王)와 고노에 후미마로(近衛文麿) 국무대신도 전쟁책임은 도조 히데키(東條英機) 군벌에 있다는 것을 신문기자들에게 밝히면서 대외적인 자기변명을 아끼지 않았고, 서로 앞을 다투어 맥아더와 접촉하기 시작했다. 특히 고노에는 맥아더와의 회견에서 도조 군벌의 책임을 강조하고 천황을 중심으로 한 귀족세력과 재벌은 이 독단적인 군부의 개전행위를 막으려 했다고 주장했다.¹⁹⁾

항복문서에 서명한 외무대신으로 잘 알려져 있는 시게미쓰 마모루(重光葵)는 이와 같은 패전 직후 일본의 정치현실을 다음과 같이 일기에 쓰고 있다.

전쟁범죄자 체포가 시작되고 나서 정계와 재계 등 구세력의 불안과 동요는 극에 달했다. 특히 내각에 있던 히가시구니노미야 수상이나 고노에 대신 등은 모든 방법을 동

17) 이오키베 마코토(2002) 『일본 외교 어제와 오늘』 (조양욱 역), 다락원, pp.45-46

18) 重光葵(1988) 『(續) 重光葵手記』 中央公論社, p.359

19) 위의 책, pp.266-267

원하여 책임을 피하고자 안전부절 못했다. 최고 간부들이 부지런히 맥아더 주변을 떠돌면서 자기 안전만 피하려고 한다. (중략) 누구 할 것 없이 체면과 자존심을 내던지고 점령군에 달라붙는 모습은 입에 담기조차 부끄럽다.²⁰⁾

여기에서 시게미쓰는 점령군에게 아부를 서슴지 않는 일본 정부가 입에 담기조차 부끄럽다고 언급하고 있다. 또한 요시다가 일본 내각 인사에 깊이 관여하여 미국과 도모했던 사실을 들어 일본 정부는 꼭두각시 정권이라고 한탄했다.

1945년 10월 9일 시데하라 기주로(幣原喜重郎) 새 내각이 성립되었다. 요시다 외상이 획책한 것이다. 요시다는 하나하나 맥아더 총사령부로부터 의향을 청취해서 인선을 결정했다. 유감스럽게도 일본 정부는 꼭두각시 정권이 되어 버렸다.²¹⁾

GHQ 최고사령관 더글라스 맥아더(Douglas MacArthur)에 대한 인식과 태도에서도 당시 일본의 대미추종의 현실이 잘 드러난다. 1946년 10월 『지지신보』에 “권력자 숭배”라는 제목의 한 논설이 실렸다. 내용은 맥아더 전기가 출판되어 베스트셀러가 된 이래, 맥아더를 맹종하는 투고가 신문이나 잡지에 쇄도하고 있음을 지적한 것이다. 즉 2천 년에 걸쳐 뱃속까지 스며든 통치자에 대한 숭배를 조심해야한다는 경고의 메시지였다. 논설에 따르면 이런 식의 투고는 얼마 전까지만 해도 천황 전용이었는데 이제는 맥아더용으로 쓰이고 있으며 “살아있는 신”, “저 하늘의 태양”, 심지어 일본 최초의 천황인 “진무천황(神武天皇)의 재림”과 같은 용어들이 맥아더를 지칭하는 말로 사용되었다. 『닛폰 타임스』에 실린 한 논설도 이러한 현상에 대해 다음과 같이 경고했다.

정부는 걸출한 신이나 위인 혹은 지도자가 국민에게 선물한 것이라는 사고방식을 고치지 않는 한 민주정치는 조만간 파멸을 맞이할 것이다. 맥아더 원수가 일본을 떠나면 사람들은 바로 그 다음날부터 다른 누군가 신이 될 만한 존재를 찾아 나설 것이다. 그 밑에서 다시금 태평양전쟁을 치른 독재정치가 재현되거나 않을까 우리는 심히 걱정스러운 따름이다. (중략) 맥아더 원수가 전후 일본을 통치하면서 보인 지혜와 이 나라를 민주화하는 데 기울인 노력이 보답하는 길은 그를 신으로 떠받드는 것이 결코 아니다. 오히려 그 반대이다. 그런 비굴한 마음을 버리고 세상 어느 누구에게도 머리를 조아리지 않는 자존심을 지키는 것이야말로 보답이 될 것이다.²²⁾

20) 重光葵(1988), pp.252-253

21) 위의 책, p.270

이와 같은 맥락으로 시게미쓰도 다음과 같이 비난하고 나섰다.

지조도 없고 자주성도 없는 일본 민족은 과거에도 중국문명이나 유럽문명의 세례를 받으면서 표류해 왔다. 그리고 오늘날 적국의 지배에 만족하는 것도 모자라 심지어 추종하여 환영하고, 더 나아가 맥아더를 마치 신처럼 떠받들고 있다. 이런 태도는 황실이나 서민들이나 다 마찬가지다.²³⁾

이처럼 일본은 스스로 승전국 맥아더에게 신성불가침성을 인정하고 있었으며 이와 같은 사실은 맥아더의 회고에서도 잘 드러난다.

나는 일본 국민에 대하여 사실상 무제한의 권력을 가지고 있었다. 역사상 어떤 식민지 총독이나 정복자도 내가 일본 국민에게 행사했던 권력을 휘둘렀던 사례가 없을 정도이다. 군사점령이라는 것은 결국 한쪽은 노예가 되고 다른 한쪽은 주인 역할을 하는 것이다.²⁴⁾

당시 맥아더는 미국의 대일점령이 일본 국민을 노예로 삼는 것과 같은 것이며 미국은 곧 일본 국민의 주인이 되는 것이라고 인식하고 있었다. 점령기 동안 맥아더를 비롯한 휘하 사령부의 권한은 무조건적인 항복을 기초로 한 절대적인 것이었기 때문에, 미국에 협조하는 사람이 노골적으로 나타난 것이 어찌면 당연한 일이지도 모른다. 특히 GHQ의 전범처리를 두려워 한 구세력에게 대미협조 이외의 선택지는 없었다.

이처럼 패전 직후부터 일본 정치세력을 중심으로 미국을 추종하는 사람들이 노골적으로 나타나기 시작했으며, 이러한 현상은 샌프란시스코강화조약에 따라 일본이 주권을 회복한 뒤에도 여전히 이어졌다. 강화조약 발효 이후에도 일본외교가 얼마나 대미 추종적이었는지에 대해서는 1957년 외무성 차관이었던 오노 가쓰미(大野勝巳)가 잘 설명하고 있다.

일본 정치가나 관료들은 외교를 점령군을 상대로 하는 섭외사무 정도로 인식했다. (중략) 미일안보체제를 금과 옥조로 여기고, 모든 것에 미국의 눈치를 보면서 행동을 결정하는 미국추종적 태도가 일본 내에 완전히 정착되었다. 그 결과 외교 감각이라고

22) 존 다우어(2009) 『패배를 껴안고』 (최은석 역), 민음사, p.524

23) 重光葵(1988), p.253

24) 더글라스 맥아더(1993) 『맥아더 회고록』 (반광식 역), 一信書籍出版社, pp.33

는 자취를 감추었다. 즉 점령 당국에 복종하면서 어떻게 관계를 잘 맺을까를 생각하고, 점령군의 말을 잘 듣는 것이 외교라고 생각하게 되었다. 외교적 경륜이라고는 손톱만큼도 보이지 않게 되었다. 독립국의 지위를 회복한 뒤 일본은 외교 감각을 회복하려고 해도 오랜 타성으로 인해 몸이 말을 듣지 않았다. 여전히 점령군의 중추세력인 미국에 의존하고 있었다. 자주독립의 정신은 한번 상실하면 두 번 다시 회복할 수 없음을 보여준다.²⁵⁾

오노에 의하면 일본은 자주적인 판단은 물론 점령군의 말을 잘 듣는 것이 외교라고 생각할 정도로 외교적 감각을 잃어버렸으며, 점령 이후에도 일본 스스로가 모든 것을 점령군에게 의탁할 만큼 일본 내 미국추종적 태도는 정착되어 버렸다. 또한 오노가 “자주독립의 정신은 한번 상실하면 두 번 다시 회복할 수 없음”이라고 언급할 정도로 전후 일본 외교는 미국에서 벗어나는 것이 불가능한 것처럼 보였다.

3. 조기 강화조약과 대미협조외교

전후 역사 가운데 미국과의 관계를 가장 중시했던 정치인은 요시다 시게루로 알려져 있다. 요시다에 의하면 일본 외교의 근본은 대미협조이며, 이는 “메이지 이후의 외교의 태도를 지키는 것”, 즉 대미협조라는 일본의 외교적 선택은 “미군에 점령을 받는 일시적인 상태에 대한 타성이 아니라 메이지 이후 줄곧 이어져 온 일본 외교의 근본”이다.²⁶⁾ 점령기 요시다는 전후 초대 내각인 히가시구니 내각의 외상으로 입각하여 점령군과 일본 정부 간을 잇는 가교역할을 맡고 있었으며, 히가시구니 내각의 뒤를 이은 시데하라 기주로(幣原喜重郎) 내각에서도 외상으로 “전쟁에는 졌지만 외교에서 승리해 보인다.”²⁷⁾는 각오로 연합군 총사령부와의 교섭에 열중하고 있었다. 이처럼 요시다는 시데하라 내각부터 맥아더와의 교섭창구를 독점하고 있었으며 이때부터 실로 10년간 요시다 시대가 열렸다고 보아도 무방하다.

한편 패전 직후 일본 정치에 압도적 영향력을 행사하고 있었던 미군정은 전전의 일본을 지탱한 보수적 가치와 제도를 완전히 폐기하고자 했으며, 대신 ‘비군사화’와 ‘민주

25) 大野勝巳(1978) 『霞が關外交: その伝統と人々』 日本經濟新聞社, pp.33

26) 吉田茂(1998) 『回想十年』 1, 中央公論社, pp.22-35

27) 鏑木清一(1972) 『日本政治家100選』 秋田書店, p.170

화' 내지는 '평화'와 '민주주의'라는 슬로건을 내걸었다. 1946년 5월 수상의 자리에 오른 요시다는 이러한 미군정의 점령정책을 적극적으로 지지하면서 “재군비는 제국헌법에 의해 명백하게 포기”되었을 뿐만 아니라, “재군비의 논의는 국민의 한 사람으로서도 정부의 입장에서조차 생각하고 싶지 않”다는 것을 명백히 했다.²⁸⁾ 이와 같은 인식은 다음과 같은 글에도 잘 나타나 있다.

도대체 나는 재군비 등을 생각하는 자체가 가장 어리석은 것이며 세계정세를 모르는 바보의 잠꼬대라고 말해주고 싶다. 타국이 미국과 필적할 만한 군비를 갖게 되면 그 자체로서 미국에게 큰 부담을 줄 뿐 아니라, 패전한 일본이 아무리 애쓰더라도 미국과 같은 군비란 도저히 바라볼 수 없다는 것이 내가 재군비를 반대하는 이유 중의 첫째이고, 둘째로는 국민의 실정으로 보아 재군비의 배경이 되는 심리적 기반이 완전히 상실되어 있는 점이다. 셋째는 이유 없는 전쟁에 끌려갔던 국민으로서의 패전의 상처가 많이 남아 있으며 아직 그 처리가 끝나지 않은 것이 많다. 오늘날 혼자만의 힘으로 나라를 지키는 국가는 없으며 공동방위가 주된 관념이다.²⁹⁾

또한 한국전쟁 발발 이후 이 전쟁에 일본인 의용군을 파견해야 하는 문제가 하나의 쟁점으로 부각되자, “정치적으로 생각해 보았을 때 의용군은 허락하고 싶지 않다.”는 요시다는 입장을 단호했다. 그가 의용군 파견을 반대한 이유는 “강화조약 내지는 조기 강화가 실현되기 어렵다고 하는 사정도 생각하지 않으면 안 되며, 만약 강화조약이 실현된다고 해도 일본을 호전국(好戰國)이라고 여겨 조약 안에 여러 가지 어려운 조건 등을 삽입하는 것을 강요받을 일”을 우려했기 때문이다.³⁰⁾

그러나 한국전쟁을 계기로 미국은 기존의 입장을 바꾸어 일본에게 재군비 압박을 크게 가하기 시작했으며, 일본 내에서도 국내 치안을 둘러싼 재군비 논의가 활발하게 진행되기 시작했다. 한국전쟁 발발 약 보름 후인 1950년 7월 8일 맥아더는 요시다에게 서간의 형식으로 7만 5천명 규모의 경찰예비대의 창설과 해상보안청의 8천명 증원을 명령했다.³¹⁾ 이에 요시다 내각은 8월 10일 정령(政令)으로서 경찰예비대령을 공포하고 당일로 시행에 들어갔으며, 8월 23일에는 약 7천명의 경찰예비대 대원의 입대가 정식으로 이루어졌다. 10월에는 경찰예비대 조직 강화를 위해 일본제국의 군인이었던 3,297

28) 大嶽秀夫(2005) 『再軍備とナショナリズム』 講談社, pp.81-82

29) 吉田茂(1958) 『回想十年』 2, 新潮社, pp.160-161

30) (1950년 7월 29일) 「吉田茂『國會答弁・衆議院本會議』 大嶽秀夫(1991) 『戦後日本防衛問題資料集: 非軍事化から再軍備へ』 1, 三一書房, pp.443-444에 수록

31) (1950년 7월 8일) 「マッカーサー書簡・警察予備隊設置」 大嶽秀夫(1991), p.427에 수록

명이 추방 해제되어 경찰예비대의 간부로 채용되었다.³²⁾ 지금까지 재군비를 반대해 오던 요시다가 기존의 입장을 바꾸어 경찰예비대 창설에 적극적으로 협조하고 신속하게 일본 경찰예비대를 탄생시킨 것이다.

요시다의 회고에 따르면 “나는 전부터 경찰력의 부족을 우려하고 어떻게 해서든지 충실하게 해야 할 필요가 있다고 통감하고 있었기 때문에 총사령관의 지시에 대하여는 특별한 관심을 가지고 받아들였다. 오히려 절호의 기회라고까지 생각했다. 또한 빨리 실현되도록 바로 관계관청의 책임자로 하여금 서한의 요청에 대한 조치에 협조토록 하였다.”고 밝히고 있다.³³⁾ 요시다의 이러한 입장변화는 경찰예비대 창설이 미국의 재군비 요구를 만족시키는 동시에 대내적 안전문제를 해결하는 대안이라고 판단했기 때문이었지만, 사실 요시다는 자신의 최대과제인 조기강화를 실현시키기 위한 정치적 이익을 무엇보다 우선으로 생각하고 있었기 때문이다.³⁴⁾

1950년 10월 요시다가 미 해군으로부터 한국 내의 소해업무를 요청받아 이를 해상 보안청 하에 편성된 일본의 특별 소해대(掃海隊)가 담당하도록 한 사실에서 이러한 요시다의 의도는 잘 드러난다. 당시 해상 보안청 장관이었던 오오쿠보 다케오(大久保武雄)의 회상에 따르면, 한국 내의 소해업무는 일본 헌법에 저촉될 수 있는 중요한 사안이었기 때문에 작업은 비밀리에 실행되었다. 하지만 이 작업 중에 한척의 소해정이 침몰하여 한명이 사망하는 사건이 발생했는데, 이때 오카자키(岡崎) 관방 장관은 요시다의 말을 대신해 “일본 정부는 유엔군에게 전면적으로 협조하고 그에 따라 강화조약을 일본에게 유리하게 이끌지 않으면 안 된다.”고 전하면서 계속 작업할 것을 명령했다. 즉 요시다는 미국 내 일본 조기강화에 대한 반대의 주장이 미군부의 대일 의구심에서 비롯된 것이라고 인식하고 있었기 때문에, 이를 설득하고 미군부의 신뢰를 얻기 위해 한국 내의 소해업무가 헌법에 저촉될 수 있는 사안이었음에도 불구하고 이를 비밀리에 실행하도록 지시한 것이었다.³⁵⁾

1951년 1월 29일 대일강화문제 담당 국무성 고문으로 임명된 덜레스(John F. Dulles)와 요시다와의 강화조약 조기체결을 위한 교섭이 본격적으로 시작되었다. 교섭이 시작되자 안전보장을 둘러싼 두 가지 문제가 제기되었는데, 하나는 일본의 재군비 문제였으며 다른 하나는 강화 후의 미군 주둔을 일본이 어떠한 형식으로 인정하는가라는 문

32) 김남은(2017) 「강화와 안보를 둘러싼 미일교섭과 일본의 전략: 요시다 시게루를 중심으로」 『일본근대학연구』 56, pp.359-360

33) 吉田茂(1958), pp.142-143

34) 김남은(2017), p.360

35) 김남은(2017), p.360

제였다. 덜레스는 일본이 재군비를 통해 자유세계에 공헌해줄 것을 요구했으며,³⁶⁾ 요시다는 “재군비의 발족에 대해서”(再軍備の發足について)라는 문서를 통해서 덜레스를 만족시킬만한 제안을 했다.

평화조약 및 미일협력협정의 실시와 동시에 일본에 있어서 재군비를 발족할 필요가 있다. (중략) 첫째, 육·해군을 포함한 새로운 5만의 보안대(가칭)를 만든다. 이 5만 명은 예비대와 해상보안대와는 별개의 카테고리로 훈련하고 장비에 있어서도 예비대와 보안대 보다 강력한 것으로 하고 국가치안성의 방위부에 소속시킨다. 이 5만 명은 일본에 재건될 민주적 군대의 출발이 된다. 둘째, 자위기획본부라는 명칭의 기관을 국가치안성의 방위부에 부설한다. 여기에는 영·미 군사사정에 통달한 기술자를 기용하여 이들을 미일협정에 의해 설치되는 공동위원회의 사업에 참여시키는 한편, 이것을 장래의 민주적인 일본 군대의 참모본부로 발전시켜야 할 것이다.³⁷⁾

여기에서 요시다는 덜레스에게 “육·해군을 포함한 새로운 5만의 보안대”창설을 제안하고 있으며, 이들을 “예비대와 해상보안대와는 별개의 카테고리로 훈련하고, 장비에 있어서도 예비대와 보안대 보다 강력한 것”으로 할 것을 주장했다. 덜레스는 이러한 제안을 받아들여 경찰예비대와 별도로 5만 명의 보안대를 설치하고 이를 정식 군인으로 발족하기로 했으며, 국가안전보장성을 설치하는 것에도 합의했다.³⁸⁾ 결과적으로 요시다는 미국의 재군비 요구에 동의하고 미국의 기지 취득을 전제로 한 강화조약과 안보조약을 체결했으며, 이러한 결과로만 보자면 요시다는 대미협조외교로서 평가되어야 한다.

그러나 요시다가 점령기 일본에서 누구보다 미국에 협조하는 인물이었다고 해서 ‘자주외교에 대한 회구(希求)’마저 결여하고 있었던 것은 아니다. 일본 재군비를 줄곧 반대해 오던 요시다는 전략은 첫째, 재군비로 인한 국민의 경제적 부담을 줄이고, 둘째,

36) 外務省(編)(2002a) 『日本外交文書: 平和條約の締結に關する調書』 III, 外務省, pp.560-561

37) 外務省(編)(2002b) 『日本外交文書: 平和條約の締結に關する調書』 IV, 外務省, pp.53-54

38) 大嶽秀夫(2005), pp.93-95 그러나 처음부터 이러한 합의가 도출된 것은 아니었다. 요시다는 줄곧 재군비에 반대하는 입장을 표명해 왔으며, 한국전쟁 발발 이후에도 재군비에 거부하는 입장은 단호했다. 예를 들어 1950년 9월 15일 미국이 ‘재군비와 기지 취득’을 전제로 한 대일강화 구상을 전해왔을 때에도 요시다는 외무성을 통해 ‘A작업’, ‘B작업’, ‘C작업’, ‘D작업’을 완성시켜 미국의 요구에 대비하고자 했다. 그 중에서도 ‘D작업’은 1950년 10월 중국이 한국전쟁에 참전함에 따라 강화문제가 한층 더 긴급한 문제로 부각되자, 요시다 내각이 1951년 1월 강화조약 교섭을 위한 덜레스 방일에 대비하여 최종안으로 내어놓은 것이다. ‘D작업’에서도 요시다는 재군비 반대의 입장은 견지되고 있으며, 대신 안전보장을 위한 협력체제가 필요하다는 주장을 제기했다(이와 관련해서는 김남은(2017), pp.363-366 참조).

자신의 최대 정치적 과제인 조기강화를 실현시키는 한편, 셋째, 아시아 여러 나라의 일본 군국주의 부활에 대한 우려를 불식시키고자 하는 것에 있었다. 경제적 부담과 조기 강화 실현의 목적 이외에도, 요시다는 일본의 주권이 회복될 때까지 소련을 비롯한 주변국에게 재군비를 한다는 빌미를 제공하고 싶지 않았다. 일본의 재군비는 포츠담선언과 극동위원회의 결정을 정면으로 위배하는 것이며 또 이를 소련이 구실로 삼기에 충분한 것이기 때문이었다. 요시다는 미국의 대규모적인 일본 재군비 계획을 추종하다 보면 결국 일본이 한국전쟁에 참전하게 될지도 모르며, 그렇게 되는 경우에는 중소에 대해서 직접적으로 적대행위를 해야 하는 입장이 될 것이라고 예측하고 있었다.³⁹⁾

반면 이상과 같은 이유에서 요시다가 재군비에 반대하는 입장을 견지하면서도 다른 한편으로는 재군비의 필요성을 역설했다는 점에 주목할 필요가 있다. 예를 들면 “독립국인 이상 절대적으로 군대조직은 필요하다.”고 주장하거나, “평화조약 이후 일본의 재군비는 반드시 이루어질 것이다. 일본은 안전을 위해 재군비해야만 한다.”는 의견을 피력했다.⁴⁰⁾ 또한 “국력이 허락된다면 바로 군대를 가지고 싶다고 생각한다.”고 밝히기도 했다.⁴¹⁾ 즉 일본의 재군비는 요시다 자신의 생각과 반드시 위배되는 것이 아니었으며, 문제는 재군비가 요시다 자신의 생각보다 시기상 빠르다는 것에 있었던 것이다.

이러한 ‘자주외교에 대한 회구’는 요시다가 미국과의 ‘평등한 협력자’가 되는 것을 외교의 기본목표로 삼고 있었던 점에서도 잘 드러난다. 1950년 10월 13일 외무성이 밝힌 “조약대책초안”에서는 일본이 민주주의 진영의 평등한 일원으로서 미국과 긴밀히 협력할 것을 강조했으며, 1951년 1월 20일 강화문건 “D작업”에서도 “협력자의 자세로 조약을 체결하여야 한다.”는 것을 명확히 했다. 또한 1951년 1월 31일 요시다가 미국에 제출한 비망록에서는 “미일 양국은 평등한 자세로 상호의 안전협력을 해야 한다.”고 밝혔다.

요컨대 요시다는 ‘대미협조’를 일본 외교의 근본으로 여기면서도, 다른 한편으로는 미국으로부터의 ‘자주성’ 내지는 ‘평등한 협력자’가 되는 것을 목표로 강화조약과 더불어 안보조약을 체결했다. 이러한 요시다의 선택은 미국에 대한 ‘협조’외교와 ‘자주’외교의 이중적 아이덴티티로 평가할 수 있으며, 이 이중적 아이덴티티는 요시다 노선을 이어받은 전후 일본의 내각에서도 잘 드러난다.

39) 吉田茂(1958), pp.175-176

40) 外務省(編)(2002a), p.573

41) (1952년 8월 5일) 「吉田茂『保安廳長官としての軍示』」(『毎日新聞』), 大嶽秀夫(1992) 『戦後日本防衛問題資料集: 講和と再軍備の本格化』 2, 三一書房, p.449

4. 오키나와 반환과 대미협조외교

요시다의 우등생이라고 불리며 요시다 노선의 대표적인 추종자로서 수상을 역임한 사람은 이케다 하야토(池田勇人)와 사토 에이사쿠(佐藤榮作)가 대표적이다. 전후 역대 내각이 미일안보조약을 축으로 하고 있었다는 점에서는 모두 요시다 노선에 속한다고 할 수 있지만, 특히 이케다와 사토 내각은 요시다 노선이라고 하는 이념에 가장 충실한 정책을 실천하고 있었다. 1960년대 일본은 고도경제성장과 정치안정이 지속되던 시기였으며, 이케다는 경제우선주의의 요시다가 택했던 노선의 연장선에서 정책을 주도하고 있었다. 국내정치 면에서는 국민소득배증 계획이라는 대국민 약속을 내걸었으며, 외교적인 면에서는 당시 미국의 베트남전쟁 수행에 일본이 협력할 것인가라는 문제에 있어 자주적인 입장을 취하고 있었다. 그것이 가능했던 이유는 경제성장으로 인한 일본의 국제적 지위향상과 관련이 있다.

1960년 6월 19일 수상 취임 직후 이케다는 미국을 방문하여 6월 22일 ‘케네디·이케다 공동성명’을 발표했다. 이 성명은 미일 양국이 동반자관계에 기초하여 각료급의 미일경제무역위원회를 설치에 동의한다는 골자를 다룬 것이다. 일본의 경제발전으로 인한 미국과의 격차해소가 보다 대등한 입장에서의 대미외교를 가능하게 했으며, 이케다는 일본의 지위를 격상시켜 미국과 대등한 동반자의 관계로 발전시키고자 했다. 이러한 점에서 이케다는 요시다의 ‘자주외교에 대한 회구’를 잘 계승한 인물로 볼 수 있다. 그렇다고 해서 이케다의 ‘자주외교에 대한 회구’가 자주외교 노선의 헌법 개정이나 미국으로부터 독립하여 국제사회의 독자세력으로 나아가는 것을 목표로 한 것은 아니었다.⁴²⁾

1964년 11월 이케다의 뒤를 이은 사토 내각은 한일국교정상화, 중일관계의 진전, 오키나와 반환 등의 주요한 정책을 추진했으나, 대미관계에서 최대의 과제는 오키나와 반환이었다. 사토는 이케다와 같이 요시다 노선을 계승하여 대미협조외교와 미일안보조약의 틀에서의 경제발전을 중시했으나, 외교적으로는 전후 상실한 오키나와를 회복하는 것을 최고의 현안과제로 삼았다. 1965년 8월 19일 전후의 수상으로서는 처음 오키나와를 방문한 사토는 “오키나와가 본토로 반환되지 않는 한 우리나라에서 전쟁은 끝났다고 할 수 없다.”라고 언급하여 오키나와 반환과 관련한 대미외교에 자신감을 보였다.

42) 현진덕(2013) 「요시다 노선과 하토야마 노선: 전후 일본외교정책의 2개의 이념형」 『일본문화연구』 45, p.615

그러나 사토는 미일관계에 저해가 되지 않는 선에서 반환을 추진해야 한다는 신중한 입장이었다.⁴³⁾ 1967년 11월 14, 15일 양일에 걸쳐 워싱턴에서 열린 사토와 존슨(Lyndon B. Johnson) 대통령과의 회담에서 오키나와의 시정권을 일본에 반환한다는 방침 하, 오키나와의 지위에 대해 공동으로 그리고 계속적으로 검토할 것을 내용으로 하는 합의가 이루어졌다. 일본 국내에서는 오키나와의 반환을 둘러싸고 미군기지에 있는 핵무기를 어떻게 처리할 것인가에 대한 문제에 초점이 맞추어졌다. 이에 대해 사토는 비핵반환이 될지, 핵을 남겨둔 상황에서의 반환이 될지는 ‘백지상태’라는 말만 반복했다.

그러나 존슨 대통령과의 회담 직후인 1967년 12월 11일 중의원 예산위에서 사회당의 나리타 도모미(成田知巳)가 제기한 질의에 대해 사토는 “우리는 핵에 대한 세 가지 원칙, 즉 핵을 만들지 않고, 핵을 보유하지 않으며, 핵을 들여오지도 않을 것이라는 점을 확실히 말해 두는 바이다.”라는 이른바 ‘비핵3원칙’을 답변으로 내놓았다.⁴⁴⁾ 또한 1969년 11월 19일, 20일 워싱턴에서 열린 사토·닉슨 회담을 통해서 21일 “비핵, 본토 수준으로 1972년에 오키나와의 시정권을 반환한다.”라는 내용의 공동성명을 발표했다. 이 성명에는 주일미군이 한국 및 대만의 안전을 위해 작전행동을 할 경우 일본은 오키나와로 핵을 유입하는 문제 등을 포함한 미국의 사전협의 제의에 즉각 호응할 것을 약속한다는 취지의 문장이 기재되었다.⁴⁵⁾ 그러나 사전협의제도가 이 공동성명에 포함되어 있다고 하더라도 미국은 핵무기의 존재 여부를 확인해 주지 않는 것을 기본 정책으로 삼고 있기 때문에, 사실상 핵에 대한 사전협의는 불가능한 것이었다. 즉 미국은 오키나와를 반환하는 대신, 긴급 시 오키나와에 핵 반입을 포함한 기지 사용의 자유를 확보한 셈이다.

한편 1960년대 미국은 세계무대에서 영향력이 감소되기 시작했으며 일본과도 무역마찰이 심화되고 있었다. 두 차례의 섬유마찰 중 제1차는 이케다 내각 시기에 발생했고 제2차는 1960년대 말 70년대 초 사토 내각 시기에 발생했다. 제1차 섬유마찰은 미일 양국의 협조로 어느 정도 순조롭게 해결되었으나, 제2차 섬유마찰은 미국 국내정치와

43) 이시카와 마스미(2006) 『일본 전후 정치사』 (박정진 역), 후마니타스, p.149

44) 위의 책, pp.150-151

45) ‘긴급 시 핵무기 재반입’을 포함한 오키나와 기지 자유 사용 문제는 1969년 11월 사토·닉슨 회담에서 가장 치열히 논쟁을 벌였던 사안이다. 공동 성명 제8항은 다음과 같은 내용을 담고 있다. 즉 총리대신은 핵무기에 대한 일본 국민의 특수한 감정 및 이를 바탕으로 한 일본 정부의 정책에 대해 상세히 설명했다. 대통령은 깊은 이해를 표시하고 미일안보조약의 사전협의제도에 관한 미국 정부의 입장이 손상됨이 없이, 또 오키나와 반환을 이 같은 일본 정부의 정책에 배치되지 않도록 실시한다는 취지를 총리대신에게 확인했다.

오키나와 반환문제가 연계되어 양국의 심각한 대립을 초래하고 있었다. 1960년대 큰 폭으로 증가한 일본의 대미섬유수출에 대하여 닉슨 대통령은 주요 관계 국가들과 협력하여 자발적으로 대미수출을 규제하는 방법으로 섬유문제를 해결하려고 했다. 그러나 이러한 방침에 일본은 강하게 반대했으며 자민당 섬유대책특별위원회, 중의원 상공위원회, 참의원 상공위원회 등은 미국의 섬유제품수입정책에 반대하는 결의안을 통과시켜 미국에 공식적으로 항의표시를 했다. 뿐만 아니라 GATT에서 섬유제품에 대해 협의하자는 미국의 요구도 거절했다.

이는 일본이 미국의 정책에 공식적으로 반대한 최초의 사례이다. 이것이 가능했던 이유는 1968년 일본 GNP가 1,419억 달러를 넘어서면서 미국과 구소련에 이어 세계 3위의 경제대국으로 성장했다는 데 있다. 일본은 경제 성장을 배경으로 외교적 자주성을 확보하고자 했으며, 당시 일본 내에서 오키나와 반환문제를 둘러싸고 민족주의가 강하게 일어나고 있었던 것도 하나의 이유였다. 문제의 해결은 1969년 11월 대미섬유수출을 자율적으로 규제해야한다는 미국의 요구를 일본이 받아들이고, 미국은 오키나와를 일본에 반환하기로 하면서 매듭지어졌다. 이는 적어도 경제문제에 있어서 일본과 미국의 대등한 관계설정이 가능하게 되었다는 것을 의미하는 것이다. 이처럼 고도성장기 대미협조외교는 일본의 경제발전을 등에 업고 미국과의 종속외교에서 탈피하기 위해 선택적으로 자주적 입장을 취하는 양상을 보이고 있었다.

그러나 사토가 오키나와 반환을 위해 미국에게 지불해야만 했던 정책상의 대가는 첫째, ‘한국·대만 조항’이다. 이는 미국이 오키나와 반환 이후 아시아의 안전보장에 대해 일본 측에 일정의 책임분담을 요구한 것으로, 일본 정부가 한국이나 대만의 안정보장에 관여할 용의가 있음을 공식적으로 표명했다는 점에서 의미가 크다. 이 조항에 대해 일본 내에서의 반발은 컸으나 사토는 오키나와 반환을 위해서 이를 수용할 수밖에 없는 입장이었다. 둘째, 핵 반입 밀약이다. 내용은 미국 유사시 일본에 핵 반입을 일본 정부가 동의한다는 것이다. 이 밀약의 전모에 대한 일본 측의 증언은 발견되지 않았지만, 미국 측 당사자의 회고 등을 통해 역사적 사실로 알려져 있다.⁴⁶⁾ 셋째, 섬유교섭이다. 미국과의 섬유마찰에서 사토는 일본의 대미수출에 대한 자유규제로 이 문제를 해결했으며, 이 또한 오키나와문제를 해결하기 위한 하나의 대가였다.⁴⁷⁾

이상에서 살펴본 바와 같이 요시다 노선은 한편으로는 대미협조외교에서 크게 이탈하거나 하는 외교정책을 펼치지 않으면서도, 다른 한편으로는 오키나와 반환과 비핵3

46) 이시카와 마사미(2006), p.158

47) 田中明彦(1997) 『安全保障』 讀賣新聞社, pp.221-230

원칙, 미일안보관계 틀 재확인과 같은 대미일변도의 의존성에서부터 탈피하고자 하는 일련의 움직임을 통해 ‘협조’외교와 ‘자주’외교의 이중적 아이덴티티를 표출하고 있었다. 특히 오키나와 반환은 사토가 미국에 대한 많은 양보를 통해 이룬 것이기는 했으나, 미국과의 외교에서 원하는 바를 이루었다는 점에서 ‘자주’외교의 단면을 보여준 것이라고 평가할 수 있다. 또한 섬유문제라는 제한적 범위의긴 하지만 사토 내각 시기에 발생한 섬유마찰은, 미일관계가 경제영역에서 평등한 경쟁자 관계로 발전한 최초의 사례이다.

5. 결론

1945년 패전과 함께 새로운 세계의 헤게모니 국가로서의 지위는 미국이 차지한 반면, 일본은 미국의 간접통치로 인해 미국에 협조하고 그 틀 안에서 발전을 모색하지 않으면 안 되는 상황에 직면했다. 전후 역사 가운데 미국과의 관계를 가장 중시했던 정치인은 요시다 시게루였으며 그 정신은 요시다 노선으로 이어져왔다. 또한 요시다 노선이 일본 정치에 강력하게 뿌리내리고 있는 만큼, 일본의 외교 노선도 대미의존성을 용인하고 대미협조외교를 지향하고 있다고 평가되어왔다.

그러나 누구보다 일본 재군비를 반대해 왔던 요시다가 신속하게 경찰예비대를 조직하고 유엔군에게 전면적으로 협조하면서, 강화조약체결을 위한 델레스와의 회담에서 일본의 육·해군을 포함한 새로운 5만의 보안대 창설을 주장하는 등 미국에 적극적으로 협조하는 외양을 보였던 것은, 일본이 조기강화조약 체결을 통해 독립국가로서 국제사회에 복귀하는 것을 당시 일본의 최대과제로 여겼기 때문이다. 요시다는 형식상이라도 미국으로부터의 ‘자주성’ 내지는 ‘평등한 협력자’가 되는 것을 외교의 기본목표로 삼았으며, 이러한 ‘협조’외교와 ‘자주’외교의 이중적 아이덴티티는 요시다 노선을 이어받은 전후 일본의 내각에서도 잘 드러난다.

1960년 6월 22일 이케다는 미일 양국이 동반자관계에 기초하여 각료급의 미일경제무역위원회를 설치에 동의한다는 ‘케네디·이케다 공동성명’ 발표를 통해 일본의 지위를 격상시켜 미국과 대등한 동반자의 관계로 발전시키고자 했다. 이케다의 뒤를 이은 사토 내각은 요시다 노선을 계승하여 대미협조외교와 미일안보조약의 틀에서의 경제발전을 중시했으나, 외교적으로는 전후 상실한 오키나와를 회복하는 것을 최고의 현안과제로 삼았다. 결과적으로 오키나와 반환은 ‘한국·대만 조항’과 핵 반입 밀약, 섬유교섭 등

사토가 미국에 대한 많은 양보를 통해 이룬 것이었지만, 미국과의 외교에서 원하는 바를 이루었다는 점에서는 자주외교의 단면을 보여준 것으로 평가할 수 있다. 요컨대 요시다 노선은 대미협조외교에서 크게 이탈하거나 하는 외교정책을 펼치지 않으면서도 선택적으로 자주적 입장을 취하는 양상을 보여 왔으며, 이러한 대미 ‘협조’외교와 ‘자주’외교의 이중적 아이덴티티는 그 길항관계에도 불구하고 결과적으로 일본 외교에서 상호보완적으로 동일행위의 표리를 이루어 왔다.

【參考文獻】

한국어 문헌

- 김남은(2017) 「강화와 안보를 둘러싼 미일교섭과 일본의 전략: 요시다 시게루를 중심으로」 『일본근대학연구』 56, pp.359-360, pp.363-366
- 남기정(2013) 「요시다 시게루의 전후 구상과 리더십: “군대없는 메이지국가”구상과 “기치국가”의 현실」 『일본 부활의 리더십: 전후 일본의 위기와 재건축』 동아시아연구원, pp.29-32
- 더글라스 맥아더(1993) 『맥아더 회고록』 (반광식 역), 一信書籍出版社, pp.33
- 마코사키 우케루(2013) 『미국은 동아시아를 어떻게 지배했나』 (양기호 역), 메디치미디어, p.32: p.63 p.70, pp.43-45
- 이시카와 마사미(2006) 『일본 전후 정치사』 (박정진 역), 후마니타스, p.149, pp.150-151, p.158
- 이원덕(2005) 「일본의 동아시아지역 형성정책의 전개와 특징」 『일본연구논총』 22, p.66
- 이오키베 마코토(2002) 『일본 외교 어제와 오늘』 (조양욱 역), 다락원, pp.45-46
- 존 다우어(2009) 『패배를 꺼안고』 (최은석 역), 민음사, p.524
- 현진덕(2013) 「요시다 노선과 하토야마 노선: 전후 일본외교정책의 2개의 이념형」 『일본문화연구』 45, p.615

일본어 문헌

- 大嶽秀夫(1991) 『戦後日本防衛問題資料集: 非軍事化から再軍備へ』 1, 三一書房, p.427, pp.443-444
- _____ (1992) 『戦後日本防衛問題資料集: 講和と再軍備の本格化』 2, 三一書房, 1992, p.449
- _____ (2005) 『再軍備とナショナリズム』 講談社, pp.81-82, pp.93-95
- 大野勝巳(1978) 『霞が關外交: その伝統と人々』 日本經濟新聞社, pp.33
- 片岡鐵哉(1992) 『さらば吉田茂: 虚構なき戦後政治史』 文藝春秋, p.33
- 鍋木清一(1972) 『日本政治家100選』 秋田書店, p.170
- 外務省(編)(2002a) 『日本外交文書: 平和条約の締結に関する調書』 III, 外務省, pp.560-561, p.573
- _____ (2002b) 『日本外交文書: 平和条約の締結に関する調書』 IV, 外務省, pp.53-54
- 高坂正堯(1963) 「現實主義者の平和論」 『中央公論』 78(1), pp.38-49
- _____ (1964) 「宰相吉田茂論」 『中央公論』 79(2), pp.76-111
- _____ (1968) 『宰相吉田茂』 中央公論新社, p.33
- 重光葵(1988) 『(續) 重光葵手記』 中央公論社, pp.252-253, pp.266-267, p.270, p.359
- 田中明彦(1997) 『安全保障』 讀賣新聞社, pp.221-230

- 渡辺昭夫(1999)「戦後日本の形成者としての吉田茂」北岡伸一, 五百旗頭眞(編)『占領と講和: 戦後日本の出発』情報文化研究所, pp.166-178
- 渡部昇一・工藤美代子(2010)「今こそ「吉田茂」待望論」『Will』6, pp.62-73
- 吉田茂(1958)『回想十年』2, 新潮社, pp.142-143; pp.160-161
- _____(1993)『回想十年』1, 中央公論社, pp.22-35

· 논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
· 논문 심사 일자 : 2018. 11. 08.
· 게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

アメリカの対日圧力と吉田路線の対米協調外交の再考察

金男恩

戦後日本の外交における最も重要な課題は、アメリカの圧力に対する日本の選択が「協調」なのか、それとも「自主」なのかという問題である。この二つの傾向性がいつも整合的に現れるわけではないが、日本外交の主体を担ったのは「協調」路線であり、その精神は吉田路線として継承されてきた。しかしながら、吉田路線がアメリカの「協調」を何よりも重要視したとして、アメリカとの不平等な関係から脱皮しようとする認識すら欠如していたわけではない。つまり、彼らはアメリカとの「協調」の枠の中で、それが「形式上の自主」であっても「自主」を獲得しようと努力をしていたのである。たとえ、吉田茂は講和条約の早期実現のため、そして池田勇人はアメリカとの関係を対等なパートナーとして発展させるため、佐藤栄作は沖縄の返還を実現させるため、日米協調路線を前面化していた。このように、戦後日本の外交において「協調」と「自主」は相互補完的で同一行為の表裏関係を成していると言える。

Reconsideration of the US's Pressure on Japan and the Yoshida Line's
Cooperative Diplomacy with the US

Kim, Nam-Eun

The most important issue in Japan's postwar diplomacy is whether Japan chooses to be "cooperative" or "autonomous" American pressure. Although these two tendencies do not always appear consistently, the "cooperation" route characterized Japanese diplomacy, and its spirit has been passed down as the Yoshida Line. However, Yoshida Line attaches importance to America's "cooperation" more than to anything else, trying to escape from an unequal relationship with the United States. In other words, the policy sought "independence" even though it was "formally autonomous" in the framework of "cooperation" with the United States. For Yoshida Shigeru to realize the peace treaty promptly, and Hayato Ikeda to develop relations with the United States as an equal partner, Eisaku Sato developed the Japan-US cooperative route to realize the return of Okinawa. In this way, it can be said that "cooperation" and "autonomy" are complementary and form a front-back relationship of the same act in Japan's postwar diplomacy.

駅弁大会についての一考察

金 英 順*

(e-mail : rinkai@konyang.ac.kr)

<目次>

1. 序論
2. 駅弁大会と駅弁の「脱駅」化
3. 駅弁販売の多様化：駅弁大会と主要駅への回帰
4. 小括

キーワード：駅弁(EKIBEN), 駅弁大会(EKIBEN Fair), 実演販売(Demonstration sale), 輸送販売(Transportation sale), 駅弁ランキング(EKIBEN Ranking)

1. 序論

駅弁はその名の通り「駅で売る弁当」として、鉄道駅を拠点に発達してきた。駅弁の発祥については諸説があるが、1885年「宇都宮駅」の白木屋旅館がつくった梅干し入りのおにぎりが定説になっている¹⁾。

駅弁のこれまでの推移を概略的に時代区分してみると、第一期は、駅弁が始まった1880年代から1930年代までの「黎明～発展期」に設定することができよう。日本政府の強力な近代化政策・産業の推進とともに人的・物的な輸送ニーズが高まり、基幹産業である鉄道の発達が積極的に進められた時期である。鉄道輸送の増加にともないニーズが高まった駅弁が長距離移動・旅行の「食」として定着していった時期である。第二期は、

* 建陽大学校 Global Frontier School、教授、日本地域研究

1) 最初の駅弁がいつどこから始まったのかについては、1877年の梅田駅説・神戸駅説、1883年の上野駅説、1885年の宇都宮駅説等の諸説があるが、一つの通説になっているのは宇都宮説である。

詳しくは、金(2011)を参照されたい。

「駅弁の変遷と多様化-鉄道交通との関係を中心に-」『日本近代学研究』(第31輯) pp.191-208

第2次世界大戦前後から敗戦までの「代弁食～軍弁期」である。1942年の食糧管理法、1945年の旅行者外食券制度の導入²⁾により食糧制限が厳しさを増すなか、長距離旅行者に提供していた「代用食」も途絶え、軍人に提供する「軍弁」以外は駅弁の調製及び販売が中止された、まさに「駅弁の暗黙期」と言える時代である。第三期は、戦後高度経済成長期から1990年代までの、駅弁の「全盛期」といえる期間である。ただ、この時期は、新幹線の開通やマイカーブームなど交通手段の多様化と重なり、駅弁を取り巻く環境が厳しくなっていく時代である³⁾。それにもかかわらず、「全盛期」と位置づけたのは、駅弁業界において駅弁発達のための多様な試みが行われた「挑戦」の時代であったからである⁴⁾。第四期は、2000年代から現在に至るまでであるが、駅弁のアイデンティティといえる販売拠点の見直しが進んだ「脱駅変革期」として特徴づけることができる。従来からの駅弁大会に加えネット販売も積極的に進められ、駅弁が必ずしも駅を媒介としない「脱駅化」の勢いが増しているのである。近年、長距離移動・鉄道利用がもっていた非日常的なイメージが希薄になりつつあることも駅弁の見直しが求められる背景といえる。

駅弁のイメージ変化が進むなかで、ひとときその存在感を放つ販売形態として「駅弁大会」を挙げることができる。身近な所で手にすることができるような便宜を図りながらも、駅弁本来の長距離旅行・特産物がもつ特別感を保つための工夫が目立つ。そこで以下においては、「脱駅」の代表的な販売形態として注目される百貨店の駅弁大会を取り上げる。駅弁の販売形態の変化が駅弁業者や駅弁のあり方に及ぼした影響と課題について検討する。これらを通して、駅弁の持つ現代的意味と位置づけについて考察する。

2. 駅弁大会と駅弁の「脱駅」化

駅の構内営業から始まった駅弁は、通信販売や全国各地で開催される「駅弁大会」によって今や駅弁の「脱駅化」が進んでいる。駅、旅情といった駅弁のアイデンティティとなる要素から離れた販売方法であり、駅弁大会などが続く背景が気になるところである。

人気駅弁として名高い「ますのすし」⁵⁾は、富山の郷土料理として1912年初販売から現

2) 旅行者は地方長官の発行する外食券（100グラム券一種類）がないと、駅弁が買えないことになる。

3) 新幹線の登場による移動時間や停車時間の短縮、開かない窓などは駅弁販売に不利な条件となる。

4) 小林祐一・小林裕子『駅弁革命』、交通新聞社、2010年

「東京の駅弁にかけた料理人の苦悩、試行錯誤、挑戦」と、「東京発の大ヒット駅弁を次々と生み出したプロセス」に注目している。

在まで続くロングセラー駅弁一つである。他の駅弁同様、「ますのすし」も以前は富山駅まで出向いて行かないと購入できない、「特別な弁当」であった。しかし、今や東京駅の「駅弁屋祭」のような全国有名駅弁を取り扱う常設店まであり、当地に行かずとも購入できる。また、駅弁大会でも評判が高く、ほとんど毎年、人気駅弁として上位にランクされている。主要駅、大会期間という制限のつくものの、比較的に近い場所で常時購入できるようになった。さらに、コンビニ販売のようないつでもどこでもという便利さを追究しないことは、駅弁のもつ贅沢さを持って他の弁当との差別化を図る戦略として考えられる。

差別化戦略の効果の観点からすると、駅弁販売を行う調製元はもちろんのこと購入者にとっても「駅弁大会」は特別であろう。有限の大会期間中にご当地からの業者に会って、試演を通して駅弁づくりを直接見て手にする、駅弁ならではの特別感、贅沢さを味わうことができる貴重な機会だからである。

駅弁大会の歩みをみると、全国に散ばっていた駅弁を一カ所に集めて販売する形での大会は1953年、大阪高島屋が初と言われている⁶⁾。同大会の第1回目は1952年に開催されているが、大会名の「全国の観光とうまいもの大会」及び販売状況において駅弁販売の有無はわかりにくい⁷⁾。つづく1953年の第2回「全国の観光とうまいもの大会」では「有名駅弁即売会」が設けられ、「約10点ほどの駅弁が出品された」という証言があり⁸⁾、これをもって1953年を駅弁大会の起点とみるのが定説になっている。大会名に「駅弁」という用語は使われていないが、駅弁には「観光」と「うまいもの」の両方の意味合いが含まれていることから販売につないだものと見受けられる。戦後、10年も経っておらずまだ食糧難の厳しい、いわば「ひもじい」時代であったにもかかわらずこの企画は「大成功」をおさめており⁹⁾、その後の駅弁大会へつながっていった。

一方、関東では横浜高島屋が1960年に「全国のうまいもの大会-併設有名駅弁食堂」(1月14日～18日)を開催している¹⁰⁾。大会名の副題に「駅弁」という用語が使われており、「観光」や「うまいもの」の一部としてではなく、駅弁だけの特設扱いである。さ

5) 本舗源； <http://www.minamoto.co.jp/>(検索日2018.07.01)

6) RJ-Essential

<http://rail-j.com/esse/index.php?%B1%D8%CA%DB%C2%E7%B2%F1>

7) この大会の企画発案者は井垣久次氏である。1953年に高島屋大阪本店で日本初の駅弁大会を企画開催し、その後、高島屋提携先である京王百貨店に異動し、1966年京王百貨店新宿店にて「元祖有名駅弁と全国うまいもの大会」を企画開催している。(wikiwand；

<http://www.wikiwand.com/ja/%E4%BA%95%E5%9E%A3%E4%B9%85%E6%AC%A1>)

8) 林順信・小林しのぶ(2000年)『駅弁学講座』 集英社新書、p.132

9) 林順信・小林しのぶ(2000年) p.133

10) 林順信・小林しのぶ(2000年) p.132

らに、ポスターには「ヨコハマの旅の味」として、東海道線では横浜駅、大船駅、小田原駅、静岡駅、浜松駅、豊橋駅の5駅を、信越本線では、高崎駅、横川駅の2駅、東北本線では黒磯駅の1駅、北陸本線では富山駅、金沢駅の2駅、合わせて4路線11駅をもカバーしている。これらの駅は「有名」駅弁の販売駅であり、駅弁販売が各地の駅構内から中心地へ集結し、新たな販売経路を模索し始めた当時の様子が伺える¹¹⁾。

横浜大会から5年後の1965年、九州では熊本に本店を置く「鶴屋」が「九州駅弁当大会うまいもの大会」を開催している。特記すべきは、国鉄の熊本鉄道管理局の後援を得て、門司と熊本の駅弁の実演販売、折尾、博多、三角、八代、宮崎の駅弁の輸送販売が行われたことである¹²⁾。今日の駅弁大会において定番となっている実演販売と輸送販売を組み合わせる販売方法の始まりとして注目される。

鶴屋の初期の大会名をみると対象地域と出品について検討が続いた様子が伺える。初回の大会名は「九州駅弁当大会うまいもの大会」であったが、翌年の第2回には「有名駅弁とうまいもの大会」、第3～4回には「西日本有名駅弁とうまいもの大会」、第5回には「有名駅弁当とうまいもの大会」、第6回には「全国有名駅弁当大会名物うまいもの大会」と、一貫した大会名を確定できないまま毎年の大会を開催し続けたのである。しかし、第7回以降(1971年から2018年まで)では「全国有名駅弁当とうまいもの大会」と、「全国」「駅弁+α」の展開として定着している。また、開催場所も九州から西日本へ、全国へとその範囲が拡大していく。第55回(2018年1/31～2/14)では「57店舗で100種類以上の駅弁、66店舗6000品以上のお菓子やお惣菜」が参加している¹³⁾。参加の店舗も品目も「うまいもの」の方が多数ではあるが、多くの顧客の目当ては駅弁に集まる¹⁴⁾。

11) 11駅には老舗の駅弁調整元の販売拠点があり、現在まで続いているロングセラーの「有名」駅弁を持つ。以下は該当駅弁調整元のURLを参照に作成した。

横浜駅(崎陽軒:1908年創業、「シウマイ弁当」:1954年発売～現在)、大船駅(大船軒:1898年創業、「鰯の押寿司」:1919年発売～現在)、小田原(東華軒:1888年創業、「鯛めし」:1907年初売～現在)、静岡((株)東海軒:1889年創業、「元祖鯛めし」:1897年発売～)、浜松(自笑亭:1854年創業「ウナギ弁当」～現在)、豊橋(壺屋弁当部:1889年創業、「稲荷寿司」:明治末期発売～現在)、高崎駅(たかべん:1884年創業、「鶏めし弁当」:1934年発売～現在)、横川駅(おぎのや:1883年創業、「峠の釜めし」:1933発売年～現在)、黒磯(フタバ食品:1945年創業、「九尾釜めし」:1957年発売～2005年、横川の釜めしと並ぶ黒磯駅一番人気の駅弁であったが、2005年駅弁事業脱退により中断される)、富山(源:1908年創業、「ますのすし」:1912年発売～現在)、金沢(大友楼:1830年創業、「お贄(にえ)寿司」:石川の郷土料理で押し寿司の一種であるが、現在は発売中断されているのか、URLに紹介なし)

12) 駅弁資料館: <http://kfm.sakura.ne.jp/ekiben>(検索日2018.07.01.~8.30)

13) くまニッチ: <https://kuma-niche.com/ivent/event/2018zenkokuekiben>(検索日2018.07.30.)

14) 有名駅弁という知名度の高さと話題性、主催側の客寄せのマーケティング戦略、それに合わせたマスコミの報道など、焦点は駅弁にある。京王の場合、「(2004年) 期間中2週間の売上高は5億9315万円、…一般に、物産展の売上げは1週間で1億円」であることから、売上の方も駅弁の方が高く示されている(以上、

一方、「駅弁の甲子園」とも呼ばれている京王百貨店新宿店の駅弁大会は鶴屋より1年遅れた1966年にスタートしている。大会は大阪高島屋で初の駅弁大会をリードした、前述の井垣九次氏が高島屋の提携先であった京王百貨店に異動し企画発案し、開催に成功させたイベントである¹⁵⁾。京王百貨店新宿店がオープンした1964年は、ちょうど戦後日本の高度経済成長のシンボルである、東京オリンピックの開催、東海道新幹線の開通がなされた記念すべき年である。その2年後、好景気の活発なエネルギーを背景に京王百貨店の「元祖有名駅弁と全国うまいもの大会」が始まったのである。

第1回「元祖有名駅弁と全国うまいもの大会」(2月11日～20日)では、売上げ額は4千6百万円、出品の駅弁数は30種程度であったが¹⁶⁾、以降、半世紀にわたり一度も途絶えることなく、継続開催に成功している¹⁷⁾。初回から開催名に「駅弁」という用語を使っていること、しかも「元祖」という用語をつけることによって、駅弁大会の「発祥」の百貨店というイメージを構築することにも成功している。京王百貨店が駅弁大会のメッカとして発展できたもう一つの決定的な成功要因として、新宿という地の利を行かした点が挙げられる。新宿という東京の巨大なターミナル駅に位置していること、都庁舎やビジネスビルが連なる新宿西口に位置するデパートの集客力が功を奏したといえる。

駅弁大会の発祥の地である大阪の場合、1953年の1回開催のみで中止し、2001年に再開までおよそ半世紀がかかった。スタートは阪神百貨店梅田本店である。開催名は2001年第1回から2018年第18回まで、「全国有名駅弁とうまいもんまつり」(通称阪神駅弁大会)となっている。「全国・有名駅弁・うまいもの」というタイトルで、大会ではなく「まつり」という用語が使われている。大会のように競うものではなく、「食」を「楽しむ」ことにイメージ転換を図っている様子が見て取れる。後発の大会主催者として、旅情の一部としてご当地の特産物でつくった弁当食を楽しむという駅弁本来の姿を追究することで他

RJ-essential: <http://rail-j.com/esse/index.php?%B1%D8%CA%DB%C2%E7%B2%F1> 参照。

15) ウィキペディア；<https://ja.wikipedia.org/wiki/井垣久次>(検索日018.08.01)

16) 京王百貨店；<https://www.keionet.com/corp/effort/ekiben/history.html>(検索日018.07.01~8.30)

第1回目の売上高のランキングをみると、第1位「かに寿し」(山陰本線 鳥取駅)、第2位「九尾釜めし」(東北本線 黒磯駅)、第3位「えびめし弁当」(上越線 新津駅)、第4位「いかめし」(函館本線 森駅)、第5位「うなぎ飯」(東海道本線 浜松駅)である。

17) 日本百貨店協会 NEWS LETTER;(検索日018.07.20)

<http://www.depart.or.jp/cgi-bin/dl.cgi?key=uWs0g%2BkPWgih14aBiNxv2OJAmI5gE9hWpVM7C0T0UGtmhTcSx29GC5HpKJkq%0AejYPDwGhygf5ZIWX7NPMQNIDnPBfNziXjzZ6kTQFMbdnxwGGB1BV8ANOhvr%2F%0AIwG2fQeZT8Mr%2F%2B1yEmuoW436Bj8NK%2BJ4z1%2FzPD51RKv%2BT9o1jKvffEUS1YS7%0A%2Bf6Ae%2BwP8woBB4x%2FLW1cnsSACdmR52Yti0Cypen7%2F3nW%0A>

の大会との差別化を図っているように見受けられる。

ここで、駅弁大会の名前について再度みておきたい。駅弁大会の規模(駅弁出品数、販売量、顧客数)を基準に全国の3大駅弁大会と言われる京王・鶴屋・阪神の3大会についてみると、いずれの場合も「全国」「有名駅弁」のプラスアルファとして「うまいもの」を入れた名称となっている。1953年初の大会では、「駅弁」という名称は使われず、「うまいもの」の一部とする位置づけであったのに対し、今では、通称「駅弁大会」と呼ばれるに至っており、駅弁の認知度が上昇していることは明白である。一方、いまなお大会名に「うまいもの」が「駅弁大会」と併記される背景としては、駅弁単体での集客力が問われる現実的問題も考えられる。その一方で、「うまいもの」のカテゴリーの中に駅弁を定着させる、駅弁の地位向上につながるイメージ戦略として有効であることもいうまでもない。

つぎにデパートでの開催であるが、駅弁業者の立場では、デパートを利用する広い層からの集客効果のねらいがまず考えられる。客入りの少ない1月に有効な集客イベントとして駅弁大会を活用するデパートのメリットは、駅弁大会の始まりから明らかである。駅弁大会の将来を予測するうえでは、前述の駅弁業者とデパート側協働の相乗効果を加え、実演販売に注目する必要がある。顧客の目の前で行われ、駅弁に対する好奇心を刺激する実演販売は集客力や販売実績を高めるインパクトの強い販売方法である。近年、全国のあらゆる売り場において様々な形での駅弁大会が開かれている。

駅弁大会における主要な販売形態として「輸送」と「実演」があるが、実演には火が使われ、その設備に一定のスペースが必要となる。一方の輸送販売では、輸送方法の多様化、駅弁業者の技術向上と大量生産によるバックアップ体制も整いつつある。実演販売が困難な小規模のスーパーなどでは輸送販売を中心に、開催実績をもつ3大大会では実演販売を目玉にと、多様な参加者、販売方法による駅弁大会の開催の環境が整ってきている。もはや当該駅固有の名物として、調製元の拠点となる地域をベースに駅弁を取り扱うということは現実的ではなくなったといえよう。

3. 駅弁販売の多様化：駅弁大会と主要駅への回帰

前章で述べたように、駅弁販売の動向として「脱」地元駅の勢いは確実に進みつつある。主要デパートにおける駅弁大会や拠点駅での常設販売の影響によるものであるが、近年では主要駅への回帰が観察される。ここでは、駅弁の「脱駅」化の動向を知る手

がかりとして、駅弁大会での実演販売の状況に焦点を当て、つづいて、主要鉄道駅での駅弁販売の状況とその影響についてみていく。

駅弁大会では2018年を基準にして鶴屋55回・京王53回・阪神18回と、3大駅弁大会は毎年恒例の開催となっている。イベント的な要素を積極的に取り入れた、注目度の高い大会構成となっており、マスコミからも大々的に取上げられている。開催先のデパートにとってはまたとない集客のチャンスといえる。特に、駅弁大会の特徴の一つである実演販売はイベント性に富み、近年では食材の特徴や調理方法などを競わせる「～と～の対決」のようなゲーム感覚を取り入れた実演販売の駅弁も増えている。

実演販売は大会場で駅弁業者が自社の人気駅弁の調製過程を試演するものである。全課程を見せることによりコンビニ弁当とは違う、地方特産物の材料でいねいにつくっている郷土料理であるという視覚的な効果や信頼度を高め、その他の弁当類に比べて割高である場合も、値段相応の価値がある一食として購買欲を刺激する。主催するデパート側としては集客力の高いイベントであり、駅弁業者にとっては既存の駅弁愛好者のみならず不特定多数のデパート客にも自社製品をアピールする絶大な宣伝効果がある。また、デパートの広報ネットワークを使用し容易に駅弁の知名度を高めることができる絶好のチャンスである。双方にとって相乗効果の高い駅弁大会の特徴、なかでも実演販売の効果こそが今日の駅弁人気を支える原動力のひとつといえる。以下では、駅弁大会の代表格である京王駅弁大会を中心に実演販売の変化に着目し、駅弁大会の明と暗を捉えていきたい。

第1回「元祖有名駅弁と全国うまいもの大会」(1966年)は10日間にわたって開催された。23の駅弁が出品され、そのうち、実演販売を行った駅弁は5種であった¹⁸⁾。実演販売をした駅弁は、北海道森駅「いかめし」、新潟県新津駅「えびめし弁当」、長野県長野駅「きじ焼丼」、静岡県浜松駅「うなぎ飯」、鳥取県鳥取駅「かに寿し」であり、このうち、「きじ焼丼」以外は売上げ上位5位にランキングインしている¹⁹⁾。実演販売は駅弁大会の目玉となるイベントとして重要であるが、売り上げにも大きく影響していることがわかる。また、出品された23の駅弁のうち「笹子餅」(山梨県笹子駅)以外はすべて「特殊弁当」²⁰⁾類に入るもので、この傾向は第2回以降の駅弁大会でも継続的に観察されてお

18) 駅弁資料館：<http://kfm.sakura.ne.jp/ekiben/ehtaikaikeio.htm>(検索日2018.07.01~08.30)

地域的に分布を見ると、北海道1、宮城1、福島1、栃木3、群馬3、千葉1、神奈川1、新潟2、富山1、福島1、山梨1、長野2、静岡2、愛知1、鳥取1、岡山1であり、四国や九州からの駅弁は出品されていない。

19) 駅弁大会のランキングは実演販売による売り上げ個数でつけられるが、1回目の場合、実演と輸送販売を合わせてつけられたもので、1位は「かに寿し」、2位は「九尾の釜めし」、3位は「えびめし」、4位は「いかめし」、5位は「うなぎ飯」である。

り、駅弁大会においては普通弁当より特殊弁当の方が注目を集めていることがわかる。

それでは、駅弁大会にはどのくらいの駅弁が出品されているのだろうか。第1回23種からスタートし、第2回(1967年)から第20回(1985年)までは第11回(1976年：23種)を除いて30～40種で続いていたが、21回(1986年)60種、第24回(1989年)100種、第36回(2001年)150種、第39回(2004年)200種、第53回(2018年)300種へと増加している²¹⁾。特に、1980年代後半からの増加が目立つが、同様の傾向は駅弁大会の売上げ額でも確認することができる。1987年(第22回)3億円から、1989年(第24回)に4億円、2000年(第35回)に5億円、2003年(第38回)に6億円、2010年(第45回)に7億円を記録している²²⁾。

このように、大会では年々出品数と売上げ額がともに増加し続けるなか、実演販売に参加する駅弁にはどのようなものがあるのだろうか。

第1回(1966年)から第53回(2018年)にいたるまで、実演販売の数量でベスト5にランクインした駅弁をみると²³⁾、トップは森駅の「いかめし」(阿部商店：1903年創業)で、53回全ての回においてベスト5入りしている(順位別の内訳をみると、53回のうちの50回も1位となっている)。「いかめし」のあとを横川駅の「峠の釜めし」(荻野屋：1885年創業)24回、富山駅の「ますのすし」(本舗源：1990年創業)22回、長万部駅の「かにめし」(かにめし本舗:1928年創業)21回、米沢駅の「牛肉どまん中」(新杵屋：1921年)18回、厚岸駅の「かきめし」(氏家待合所：1917年創業)15回の順に続き、1回だけという駅弁は26種

20) 北海道、駅弁紀行；<http://www.hokkaido-jin.jp/issue/sp/200411/yogo.html> (検索日2018.06.03)

一般的に「サケ、ホタテ、イカなど、1種類の食材をメインにしている駅弁のこと」を特殊弁当、「ご飯とおかず数種を詰め合わせた駅弁のこと」を普通弁当という。「幕の内弁当」は代表的な普通弁当である。しかし、交通公社の時刻表(現：JTB時刻表)1968年10月号による当時の駅弁販売駅と特殊弁当のリストを見ると、「ひさご弁当」(宇都宮駅)、「峠の釜めし」(横川駅)のように、容器の特徴はあっても1種類の食材ではなかったり、「シウマイ」(横浜駅)のご飯類ではないものも「特殊弁当」類として取り扱っていることから、その定義は区々であることがわかる。

以上、駅弁資料館；<http://kfm.sakura.ne.jp/ekiben/eb196110.htm>

21) 以下の資料をベースに作成

京王百貨店；<https://www.keionet.com/corp/effort/ekiben/history.html#history1999>(検索日018.07.01~8.30)

駅弁資料館；<http://kfm.sakura.ne.jp/ekiben/ehtaikaikio.htm>(検索日018.07.01~8.30)

22) 京王百貨店；<https://www.keionet.com/corp/effort/ekiben/history.html>(検索日018.07.01~8.30)

J R 東日本グループの駅弁最大手である日本レストランエンタプライズ(NRE)でも、2007年度の駅弁販売個数は約654万個、2000年以来7年間で4割以上増加するなど、過去最高の実績を挙げている。

以上、産経新聞(2008.1.30.)；

http://www.sankei.co.jp/enak/2008/jan/kiji/30life_ekiben.html

23) 上記にも述べたように、駅弁大会のランキングは実演販売による売上げ個数でつけられる。但、1回目の場合は実演と輸送販売を合わせてつけられたものである。

類である24)。

出品数から考えると5位以内の確率は、1966年(23種)21.7%、1967年～1976年(30～40種)16.6～12.5%、1986年(60種)8.3%、1989年(100種)5%、2001年(150種)3.3%、2004年(200種)2.5%、2018年(300種)1.6%で、年々倍率は高くなっている。このような状況下、15回以上もベスト5入りを果たしているということは相当の競争力のある調製元といえる。実際、これらの調製元は上記の創業年からもわかるように駅弁業界の老舗であり、ロングセラーを記録している代表的な駅弁を商品として持っている。

ところで、駅弁大会の売上額は2010年以後、減少に転じたものと思われる。実際に、<表1>で示すように2010年をピークに実演販売の駅弁数は年次別に増減はあるものの減少傾向にあるように見受けられる。2010年～2018年までの実演販売の売上額ベスト5をみると、以下のとおりである。

<表1 京王駅弁大会(2010年～2018年)実演販売個数ベスト5>25)

	1位	2位	3位	4位	5位	合計(個)
45回 2010	森駅： いかめし 63,814	米沢駅： 牛肉どまん中 26,825	小淵沢駅： 甲州かつサンド 16,636	西明石駅： ひっぱりだこ飯 14,477	厚岸駅： かきめし 14,166	121,752
46回 2011	森駅： いかめし 51,525	米沢駅： 牛肉どまん中 24,086	青森駅： 浜焼きホタテ海鮮 ひつまふし 19,515	厚岸駅： 氏家かきめし 14,831	一ノ関駅：前沢牛 ローストビーフ肉巻 にぎり寿司 12,960	109,957
47回 2012	森駅： いかめし 40,242	松江駅： 島根牛みそ玉井 18,892	米沢駅： 牛肉どまん中 15,544	米原駅： 近江牛としよめ し 13,169	仙台駅：しお味 仙台みそ味牛たん 弁当 11,862	87,847
48回 2013	森駅： いかめし 38,846	稚内駅：食べく らべ四大かにめし 22,770	米沢駅： 牛肉どまん中 16,451	仙台駅：厚切り 牛たん弁当 12,654	厚岸駅： 氏家かきめし 12,030	90,721
49回 2014	森駅： いかめし 32,534	米沢駅： 牛肉どまん中 17,691	釧路駅： たらば三昧弁当 12,767	広島駅： 炙りあなごめし 12,411	厚岸駅： 氏家かきめし 11,798	75,403

24) 阿部商店；<http://www.ikameshi.co.jp/>(検索日2018.08.01)
 荻野屋；<http://www.oginoya.co.jp/>(検索日2018.08.01)
 本舗源；<http://www.minamoto.co.jp/>(検索日2018.08.01)
 新杵屋；<http://www.shinkineya.com/info/index.html>(検索日2018.08.01)
 氏家待合所；<http://www.kakimeshi.com/ujjie/>(検索日2018.08.01)

25) 下記の資料を参考に作成。

駅弁資料館；<http://kfm.sakura.ne.jp/ekiben/ehtaikaikeio.htm>(検索日018.07.01~8.30)

資料2：京王百貨店；<https://www.keionet.com/corp/effort/ekiben/history.html#history1999>
 (検索日018.07.01~8.30)

50回 2015	森駅： いかめし	横川駅： 峠の釜めし	武雄温泉駅：佐 賀牛三昧ステー キ&すき焼き弁当	米沢駅： 牛肉どまん中	厚岸駅： 氏家かきめし	
	33,421	21,388	13,754	13,234	12,390	81,797
51回 2016	森駅： いかめし	米沢駅： 牛肉どまん中	金沢駅：のどぐ ろと香箱蟹弁当	厚岸駅： 氏家かきめし	武雄温泉駅： 佐賀牛三昧ステー キ&すき焼き弁当	
	25,688	19,129	12,717	10,785	10,076	68,319
52回 2017	森駅： いかめし	米沢駅： 牛肉どまん中	武雄温泉駅：佐 賀牛三昧ステー キ&すき焼き弁当	西明石駅： 金色のひばりだ こ飯	厚岸駅： 氏家かきめし	
	26,127	22,116	13,591	10,566	10,419	72,400
53回 2018	森駅： いかめし	米沢駅： 牛肉どまん中	うに貝焼き食べ らべ弁当	西明石駅：金色 のひばりだこ飯	厚岸駅： 氏家かきめし	
	23,103	14,162	13,525			

2010年以降も人気駅弁は「いかめし」「牛肉どまん中」(全9回)、「かきめし」(8回)であることがわかる。上位にあった「峠の釜めし」(24回)、「ますのすし」(22回)、「かにめし」(21回)はランクインされていないが、53回(2018年)の出品駅弁リストから確認すると「峠の釜めし」、「ますのすし」は実演販売ではなく輸送販売となっており、「かにめし」の場合は出品されていない。

一方で、実演販売の総売り上げ個数をみると、2010年に121,752個から、2017年に72,400個へと7年間に約40%も減少している。2000年代は駅弁出品数も売り上げ額も増加し、NHK²⁶⁾にも取り上げられるほどであったが、上記の表を見る限りでは2010年を境にして、販売個数は減少に転じているといえよう。背景としては、廃業、あるいは撤退する調製元の増加が考えられる。1960年代に400社以上あった駅弁業者が2018年では97社と最盛期の1/4以下に減っているのである²⁷⁾。そして、デパートにおける駅弁大会そのものに陰りが出てきている可能性も否めない。第53回(2018年)では3大駅弁大会といわれる「京王・阪神・鶴屋」の合同企画による「新作牛肉駅弁対決」の他に、「海の幸焼き対決」、「人気の海鮮ウニ対決」も同時に行われた²⁸⁾。合同企画の結果をみると、第1位「熊本あか牛と鹿児島黒毛和牛の牛肉めし」(調製元:松栄軒×監修:鶴屋百貨店)、第2位「米沢牛 伝統の百年焼肉弁当」(調製元:松川弁当店×監修:京王百貨店

26) 『ワンダー×ワンダー』(2010年) NHKアーカイブス

https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009050631_00000

『ワンダー×ワンダー』は、NHK総合テレビジョンで不定期の土曜日に放送されていたドキュメンタリー番組で、駅弁大会については、2010年3月13日「めざせ!駅弁日本一」というテーマで放送された。(閲覧日:2018.07.01)

27) travel.watch; <https://travel.watch.impress.co.jp/docs/news/1022883.html> (閲覧日:2018.07.01)

28) 3社のそれぞれの大会期間は京王が1月10日~23日、阪神が1月24日~30日、鶴屋が1月31日~2月14日)である。

新宿店)、第3位「酒乃蔵 牛肉弁当」(調製元:淡路屋×監修:阪神梅田本店)である²⁹⁾。出品の調製元はそれぞれが老舗で³⁰⁾、駅弁大会にも人気駅弁として上位にランクインされるところであるが、同大会に実演駅弁の売上個数をみると、第1位「いかめし」(23,103個)、第2位「牛肉どまん中」(14,162個)、第3位「うに貝焼き食べくらべ弁当」(13,525個)で、初の合同企画は3位以内にはランクインされていない。駅弁の「対決」や「実演」は「話題性の喚起」を呼び起こすための販売戦略といえるが、上記の結果をみる限りでは百貨店主催の駅弁大会の陰りを防ぐことはできないかもしれない。

このような駅弁大会をめぐる動向の背景として主要駅の常設売場の影響を考えねばならない。東京駅の「駅弁屋祭」はその代表格で、全国有名駅弁を取り扱う常設の売場が多くできている。「駅弁屋祭」はJR東日本の傘下にある(株)日本レストランエンタプライズ(以下NRE)が2012年8月、東京駅構内に設置した日本最大級の駅弁店である。全国の有名駅弁を毎日200種以上取りそろえ、毎日が「駅弁祭り」で「華やかで活気溢れる東京駅の新名所」となるべく企画されたという³¹⁾。その他にも、同じく東京駅に「駅弁屋踊」、新宿駅に「駅弁屋頂」、上野駅に「駅弁屋匠」、仙台駅に「駅弁屋祭」など、NREのエリアで設置されている駅弁屋は全部で62個所に達している³²⁾。しかし、限りのあるスペースで、全国の有名駅弁を全部取り扱うことは物理的に困難と予想される。したがって主要な、一部の人気駅弁にニーズが集中し、従来のようにそれぞれの地域で地元の特徴を生かした駅弁をつくり続けるということはもはや困難かもしれない。

常設店の開設の他に実演販売の面でも駅弁大会の見直しを迫る新たな潮流が観察される。2012年から「駅弁大將軍」を選ぶ「駅弁味の陣」が開催され、2018年にはJR東日本管内の1都16県と北海道・福井県・兵庫県・広島県・鹿児島県の駅弁もエントリーし、計56品が出品されている³³⁾。さらに、「駅弁屋祭」では「店内の実演厨房(駅

29) 京王百貨店; http://keio-dept-blog.cocolog-nifty.com/blog/2018_1/index.html(検索日018.07.01~8.30)
なお、同結果は京王大会の集計によるものである。

30) 松川弁当店1899年創業、松栄軒1929年創業、淡路屋1903年創業

31) 2016年11月2日付(株)日本レストランエンタプライズの報道資料「東京駅『駅弁屋祭』11月9日(水)リニューアルオープン」

<http://www.nre.co.jp/Portals/0/release/161102.pdf#search=%27%E9%A7%85%E5%BC%81%E5%B1%8B+%E7%A5%AD+%E8%AA%95%E7%94%9F%27>(閲覧日:2018.07.01)

32) 地域別にみると、東北(青森2、岩手4、宮城8、秋田1、山形2、福島3)、甲信越(新潟1、山梨1、長野1)、関東(群馬3、埼玉2、千葉1、東京18、神奈川)、東海(静岡3)である。

以上、(株)日本レストランエンタプライズ;

<http://www.nre.co.jp/tabid/217/atype/1/typeid/2/Default.aspx#step1>

33) JR東日本「JR東日本ニュース(2018.9.26.)」;

<https://www.jreast.co.jp/press/2018/20180926.pdf#search=%27%E9%A7%85%E5%BC%81%E5%9>

弁厨房) で各地の駅弁製造会社イチ押し商品を、出来立てで提供」という実演販売も行っている³⁴⁾。デパートでの駅弁大会の活性化により駅弁の「脱駅化」が進められてきたが、いま再び駅弁の「駅構内化」が進む情勢といえる。

4. 小括

1880年代、構内営業で始まった駅弁は、地域特産物、旅情、鉄道輸送を基盤に発達した食文化であった。1960年代以降、社会諸状況の変化を受けた駅弁大会の始まり、活性化によって、調製元の拠点となる該当駅から百貨店へと売り場を変えていった。そして、2010年代には再び「駅」に戻って構内営業化する傾向がみえてきた。

駅への帰還とはいえ、有名駅弁が全国の主要駅で販売されるという、旅情や地域の観光振興につなぐ当初の駅弁の役割とはかなり変わってきている。調製元に及ぼす影響もさることながら、「非日常」の食から「日常」の食へ転換を余儀なくするものである。大勢の人が往来する主要鉄道駅に常設の販売拠点が確保できたことは駅弁の認知度を向上させることは間違いないだろう。その一方において、主要地域において年に数回開催される駅弁大会では維持されていた駅弁の希少性、話題性、恒例イベントとしての楽しみ方はもはや期待しにくいかもしれない。構内営業の駅弁から駅弁大会へ、そして主要拠点駅での常設販売へと、駅弁の販売形態の変化とその影響は食文化としての駅弁の位置づけに影響を及ぼすものであると考える。

【参考文献】

- 阿部商店；<http://www.ikameshi.co.jp/>(検索日2018.08.01)
氏家待合所；<http://www.kakimeshi.com/ujie/>(検索日2018.08.01)
駅弁資料館；<http://eki-ben.web.infoseek.co.jp/>(検索日2018.08.01)
駅弁の小窓；<http://www.ekibento.jp/>(検索日2018.07.01)
荻野屋；<http://www.oginoya.co.jp/>(検索日018.08.01)

1%B3%E3%81%AE%E9%99%A3+2018%27

34) NRE;

http://www.nre.co.jp/ekiben/tabid/228/Default.aspx?itemid=960&dispmid=430&brnid=66#dnn_TabTopPanecinemacafe.net(検索日2018.07.01.~08.30)

- 金谷俊一郎(2010)『駅弁と歴史を楽しむ旅：ベスト100食、おいしい史跡めぐり』PHP新書
(株)ジャパンフードシステム「駅弁のもしり館」(http://www.japanfoodssystem.co.jp/monoshiri/olddays_01.html)
(閲覧日:2018.08.01)
- (株)まるい弁当 (http://maruibentou.info/marui_kaisyaannai.html) (検索日2018.08.01)
- 金英順(2011)『駅弁の変遷と多様化-鉄道交通との関係を中心に-』『日本近代学研究』第31輯、韓国日本近代学
会、191-208頁
- 金英順(2011)『「駅弁」ネーミングにみる地域的特徴-九州を中心に-』『日本近代学研究』第33輯、韓国日本近代
学会、436-453頁
- 金英順「脱」駅の進む駅弁』『日本文化研究』67輯、韓国日本文化学会
京王百貨店；<https://www.keionet.com/corp/effort/ekiben/history.html>(検索日018.07.01)
- 国土技術研究センター：http://www.jice.or.jp/knowledge/japan/commentary/01#jump_07
(検索日2018.07.15.)
- くまニッチ：<https://kuma-niche.com/ivent/event/2018zenkokuekiben>(検索日2018.07.30.)
- 小林しのぶ(2005)『ニッポン駅弁大全』文芸春秋
- 金英順(2010)『全国美味駅弁決定版』、JTBパブリッシング、p.26-32
- 小林祐一・小林裕子『駅弁革命』交通新聞社、2010年
- 林順信・小林しのぶ(2000年)『駅弁学講座』、集英社親書、p.136
- 桜井寛・はやせ淳(2014)『知識ゼロからの駅弁入門』幻冬舎
- 社団法人日本鉄道構内営業中央会(<http://www.ekiben.or.jp/main/>)(検索日2018.07.01)
- 新幹屋；<http://www.shinkineya.com/info/index.html>(検索日2018.08.01)
- 自笑亭；<http://www.jishowtay.jp/>(検索日2018.08.1)
- 総務省統計局「1-7 都道府県別面積」(<http://www.stat.go.jp/data/nenkan/zuhyou/y0107000.xls>)(検索日
2017.10.01)
- 中村武志(1975)『目白三平 駅弁物語』平河出版(初出『潮』(1966年1月~7月))
- 日光鱒鮭本舗株式会社；<http://www.masuzushi.com/company/index.html>(検索日2018.07.01)
- 日本国土交通省 (http://www.mlit.go.jp/tetudo/nandemo/13_03a.html) (検索日2018.06.03)
- 日本鉄道構内営業中央会 駅弁のホームページ；<http://www.ekiben.or.jp/main/>
(検索日2018.06.03)
- 林順信・小林しのぶ(2000)『駅弁学講座』集英社新書
- 東日本旅客鉄道株式会社；<https://www.jreast.co.jp/press/2017/20170921.pdf#search=%27%E9%A7%85%E5%BC%81%E5%91%B3%E3%81%AE%E9%99%A32017%27>(検索日2018.06.03)
- 「100年前の『駅弁』でどんなの？—JR東のイベントで—」
@niftyニュース；<https://news.nifty.com/article/item/gourmet/12142-203485/>
(検索日2018.06.03.)
- 本舗源；<http://www.minamoto.co.jp/>(検索日2018.07.01)
- 北海道、駅弁紀行；<http://www.hokkaido-jin.jp/issue/sp/200411/yogo.html>(検索日2018.06.03)
- 吉田慎治(2008)『ニッポンの駅弁』樫出版
- BSジャパン；<http://www.bs-j.co.jp/ekiben/>(検索日2018.05.20)
- JR東日本「JR東日本ニュース(検索日2018.9.26.)」；[https://www.jreast.co.jp/press/2018/20180926.pdf#sea
rch=%27%E9%A7%85%E5%BC%81%E5%91%B3%E3%81%AE%E9%99%A3+2018%27](https://www.jreast.co.jp/press/2018/20180926.pdf#search=%27%E9%A7%85%E5%BC%81%E5%91%B3%E3%81%AE%E9%99%A3+2018%27)
(検索日2018.05.1.)
- NHKアーカイブス
https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009050631_00000

(閱覽日:2018.07.01)

NRE; http://www.nre.co.jp/ekiben/tabid/228/Default.aspx?itemid=960&dispmid=430&brnid=66#dnn_TopPanecinemacafe.net(檢索日2018.07.01.~08.30)

RJ-Essential ;

<http://rail-j.com/esse/index.php?%B1%D8%CA%DB%C2%E7%B2%F1>(檢索日2018.07.01)

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09

<要旨>

駅弁大会についての一考察

金英順

本稿では、駅弁の「食」としての位置づけに大きな影響を与えた特徴的な販売方法である「駅弁大会」について、その特徴と歩みに注目した。構内営業から始まった駅弁は、地域の特産物、鉄道輸送、旅情を基盤に発達した食文化であった。「駅弁大会」は駅弁が本来もつこのような特徴を継承・維持しながらも、画期的な販売方法を取り入れることによって戦後の駅弁を支えてきた。さらに、主要駅で主要な駅弁を集め常設販売するという近年の販売形式につながる取り組みとしても注目される。「駅弁大会」は、日本において新幹線の運行開始、自動車利用の普及、レジャー産業の発達など、日本社会状況がダイナミックな変化を続けていた1960年代以降始まり、活性化した。調製元の拠点駅から離れ、都市部の百貨店へと販売拠点を変え、イベント性を強調しながら、3大大会を中心におよそ50年間の歩みを進めてきた。2010年代に入り、駅弁販売拠点としての「駅」の活性化、構内営業が進みつつある。ただ、本来の売り場である鉄道駅への帰還とはいえ、有名駅弁を全国の主要駅で販売するという販売形態へとシフトしたのである。旅情や地域の観光振興につなぐという、当初の駅弁のような役割が期待しにくいのが現状である。調製元に及ぼす影響もさることながら、「非日常」の食から「日常」の食へと駅弁のアイデンティティにも大きな影響を及ぼすものとして注目される。駅弁大会から主要駅へと販売拠点の移行する傾向がみられるなか、駅弁のアイデンティティ、その特長が再び問われている。人の往来の多い場所での集中的に取り扱うという販売方法の面では駅弁大会と共通しているが、一年に数回開催し実演販売やランキング付けなど多様なイベント的な要素が特徴的であった駅弁大会では保持されていた駅弁の希少性、話題性、イベントとしての楽しみはもはや期待しにくいかもしれない。

A Study on EKIBEN fair

Kim, Young-Soon

This paper focused on the features and history of the 'Ekiben fair', which is a characteristic sales method that had a great influence on the positioning of Ekiben as food culture. Ekiben has developed as a food culture based on local specialty products, railway transportation, and for traveling. 'Ekiben fair' has supported the development of Ekiben in the dynamic change since the 1960s, by its innovative selling methods. It also affects permanent sales at the station. Manufacturers moved away from the base station, changed sales base to department stores in urban areas, reinforced the event nature, and advanced about 50 years, mainly in the three major fairs. In the 2010s, revitalization of "station" as the station base for selling Ekiben, promotion of in-station business development is progressing. However, even though it returned to the original railway station, it shifted to a sales form that sells some famous Ekiben at major stations throughout the country. It is difficult to expect roles like the original Ekiben, which will lead to travel and regional tourism promotion. It also has changed the image of Ekiben as well as the food of "everyday" from "special" food. As the sales base tends to shift to the main station from the 'Ekiben fair', the identity of Ekiben and its features are questioned again. In terms of the sales method of intensively dealing with places where crowded by people, it is common with the Ekiben fair, but it is characterized by diverse event-like elements such as demonstration sale and ranking held several times a year. It may be hard to expect rarity, topicality, and enjoyment as an event of Ekiben that was held at the 'Ekiben fair'

今井正の映画『あれが港の灯だ』に 再現された在日朝鮮人への眼差し

朴東鎬*

(e-mail : mdpdh@naver.com)

<目次>

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. はじめに | 3. 境界人 朴春明/木村秀夫 |
| 2. 実在する他者の客観的描写 | 4. おわりに |

キーワード：今井正(Imai Tadashi), あれが港の灯だ(That's the light in the port), 在日朝鮮人(Korean Japanese), 李承晩ライン(Syngman Rhee Line), 戦後日本映画(Post-war Japanese Films)

1. はじめに

1945年日本の敗戦直後、朝鮮人の帰国は直ちに実施された。しかし、帰国後の生活混乱や祖国の情勢不安、日本政府の輸送費負担の縮小などによって帰国できなかった約60万人の朝鮮人が日本への残留を余儀なくされ、言わば在日朝鮮人¹⁾という特殊な存在が形成されることとなる。現在、在日朝鮮人は戦前に渡日した1世から3、4世にまで至る。彼らは、植民地の宗主国に定着して戦後も続いた「植民地の時間」²⁾を生き抜いてきた。その点からすると、高麗人や朝鮮族などの民族的マイノリティーとは異なるとも言える。特に、戦後も持続された日本的オリエンタリズムと分担された祖国の情勢の中で激動の生涯を強いられたにも関わらず、差別社会日本に抵抗しながら自分たちならではの独自の朝鮮文化と社会を形成してきた。このような在日朝鮮人の特殊性は、戦後多様な芸術テキス

* 慶尚大学、講師、戦後日本映画

1) 戦前から日本に居住している朝鮮人とその子孫を指称する用語として在日朝鮮人、在日韓国人、在日韓国・朝鮮人、在日コリアン、コリアン・ジャパニーズ、在日橋胞、在日同胞などと多様に使われている。本稿では歴史・エスニック(ethnic)的視点から在日朝鮮人と表記する。

2) 김중곤(2014) 「‘재일’ & ‘조선인’으로서의 정체성과 가치지향성 - 재일 조선인 3세를 중심으로」 『통일인문학』 제59권, 건국대학교 인문학연구원, p.31.

トで戦前の植民地支配や戦争責任問題を想起させる重要な創作モチーフとなった。

戦後、日本では「公的記憶(public memory)」から排除されてきた朝鮮人B・C級戦犯と日本軍「慰安婦」などが多様な大衆文化の領域で「ヴァナキュラーな記憶(vernacular memory)」として表象された。³⁾この過程で多くの知識人や芸術家は「国家記憶」と結びつく「公的記憶」の矛盾に対し、拮抗しながら日本のナショナルヒストリーを鋭く批判した。⁴⁾当時の日本大衆文化は侵略戦争と植民地支配に対する反省や謝罪もなく、被害者である朝鮮人(非日本人)を戦争記憶を情緒的・教訓的に転換するために利用したのである。結果的にこれは個々人(日本人)のトラウマ的記憶(PTSD)と結びつき、戦争に対する一律的な「公的記憶」となり後に日本の「国家記憶」として編成されることに繋がった。

特に日本映画界の今井正、今村昌平、浦山桐郎、大島渚のような進歩的な社会派監督たちは、戦後の国家改革という仮面の中で歴史的加害意識が忘却され、民族的被害意識が全面的に拡散すること⁵⁾に対する異議申立てのために植民地支配の産物である「在日朝鮮人問題」を取り上げた。

その中でも今井正は植民地期の末期、朝鮮人の監督崔寅奎^{千エ・インギョ}⁶⁾と共に国策映画『望楼

3) クラック(Cluck Carol)は慰安婦に対する記憶のされ方を論じた「記憶の作用 - 世界中の「慰安婦」(Operations of memory : Comfort Women and the World)」で、記憶の領域を大きく公的記憶、ヴァナキュラーな記憶、個人的記憶、メタ記憶に分けている。公的記憶は国家記憶と結びつく多様な活動、例えば記念儀式や国家儀式、記念日などの公的な記念活動により形成される国民的記憶である。ヴァナキュラーな記憶は、フランス語で「記憶作業(travail de memoire)」の場として最も特権化された記憶である。記憶作業はマスメディアと個々人の直接的な行動主義によるものであり、彼女はこのような記憶を生産する人々を「記憶の活動家」と言う。個人的記憶はヴァナキュラーな記憶の領域に属する記憶で、個人が外部から得た情報を自分の記憶と結びつけることにより形成される記憶である。最後に、メタ記憶は一つの記憶が公的な議論の対象になった場合、これがもう一つの記憶のフィールドを構成しながら形成される記憶である。この四つの記憶の間には、対話的關係が存在する。つまりメタ記憶は公的記憶とヴァナキュラーな記憶そして、個人的記憶と共に持続的に変化しながら公的な戦争記憶の場を作り上げるのである。キャロル・グラック著、梅崎透訳(2002)「記憶の作用 - 世界中の「慰安婦」」『岩波講座 8 近代日本の文化史 感情・記憶・戦争 1935-55年 2』岩波書店、pp.200-207.

4) 丁智恵(2013)「1950～60年代のテレビ・ドキュメンタリーが描いた朝鮮のイメージ」『マス・コミュニケーション研究』第82巻、日本マス・コミュニケーション学会、p.111.

5) 윤건차 저, 박진우 외 역(2009)『교착된 사상의 현대사 - 1945년 이후의 한국·일본·재일조선인』창비, p.218.

6) 崔寅奎は植民地期の末期、今井正と共に朝鮮人の皇民化を通じて戦争動員を扇動する国策映画を製作した監督である。アイロニカルなことに解放後彼は、日本の植民地鍛圧に対する民族的な抵抗をテーマとした映画『自由万歳』(1946)、『罪なき罪人』、『独立前夜』(1948)などを製作しながら活発に活動した。しかし、反民族行為特別調査委員会に逮捕され公判を持ったいた最中、韓国戦争が勃発して北朝鮮の人民軍に連れ去られたが、その後の行方は分からない。http://www.kmdb.or.kr/db/per/00008525(検索日2018.08.23.)

の決死隊』(1943)⁷⁾と『愛の誓ひ』(1945)を製作した監督である。これらの映画は日本が戦時状況を朝鮮人たちに内面化させ、同化談論のような非可視的な概念を具体化するための手段であった。8) ジャパニーズ・ネオリアリズムの巨匠であり、戦後の民主主義と反戦映画を象徴する今井正が戦時中、朝鮮人の参戦動員を促す国策映画を製作したことはあまり知られていない。実際、これらの映画に対し、今井正本人も自分の作品だと明かしたことはなく、また戦後これらの映画を今井正の作品として取り上げた映画評論家は一人もいなかった。唯一、佐藤忠雄の『日本映画の巨匠たちⅡ』(1996)でこれらの映画を今井正の主な作品リストに載せているが、本文でこれに関する言及はない。9)

しかし、晩年に今井正が書いた手記「戦争占領時代の回想」(1986)では戦前、学生時代に左翼運動をやって何回か捕まり、転向手記を書いて戦争中に戦争協力映画を何本か製作したことに対し、「そのことが自分が犯した誤りの中で一番大きいことであり、そのために戦後なかなか自信を持てなかった」と振り返っている。10) 戦後、ヴィットリオ・デ・シーカ (Vittorio De Sica) やロベルト・ロッセリーニ (Roberto Rossellini) などのイタリアの映画作家の影響を受けた今井正は「敗戦国である日本でこそ、そのようなりアリズムが必要だ」¹¹⁾と考え、日本社会のマイノリティに対する差別問題をテーマとした多様な作品を製作する。12) その中でも『あれは港の灯だ』(1961)、『橋のない川 第2部』(1970)、『戦争と青春』(1991)では戦前に国策映画を製作したことを反省するかのよう朝鮮／朝鮮人に関する内容を扱い続けている。これは単なる「偶然」もしくは「戦後の転向」によるものではなく、崔盛旭が主張したように「今井正の朝鮮／朝鮮人への思いが重ねられた記憶のバランプセスト(palimpseste)」¹³⁾に違いない。つまり、今井正は戦時中に製作した

7) 映画「望楼の決死隊」の場合、その企画は日本側から持ち掛けられたものではなく、高麗映画協会の映画監督である崔寅奎によるものであった。しかし、「朝鮮映画令」に基づき映画製作が朝鮮映画製作株式会社の一社に統合されたため、当時「半島及び満洲向け」の映画を製作しようとした東宝が参加し、今井正と合作することになった。崔盛旭(2010)「今井正と朝鮮」『スクリーンのなかの他者』岩波書店, p.165.

8) 김대근(2017)「일제강점기 국책영화의 헤게모니 전략 - 조선영화령 공포 이후의 영화를 중심으로」『인문콘텐츠』 제47호, 인문콘텐츠학회, p.117.

9) 前掲書, 崔盛旭(2010) p.170.

10) 今井正(1986)「戦争占領時代の回想」『戦争と日本映画～講座日本映画(4)』岩波書店, pp.204 ; 渡辺直紀(2016)「太平洋戦争期の日韓合作映画について—今井正／崔寅奎の『望楼の決死隊』(1943)『愛の誓ひ』(1945)を中心に」『武蔵大学人文学会雑誌』第48巻第1号, 武蔵大学人文学部, p.179 재인용.

11) http://static.cinema-magazine.com/old_page/kyosyo/imai.htm(検索日2018.11.9.)

12) … 今井正が戦後の日本社会の差別問題を臆することなく取り上げた作品としては、原爆症の少女を描いた『純愛物語』(1957)、黒人と日本人との間で生まれた混血児の姉弟の人種差別問題を提示した『キクとイサム』(1959)、在日朝鮮人の漁師の目を通して李ライン問題を描いた『あれが港の灯だ』(1961)、被差別部落をテーマとした『橋のない川 第1、2部』(1969、1970)がある。

13) 前掲書, 崔盛旭(2010) p.183.

戦争協力映画(イポテキスト：hypotexte)に対する一種の贖罪意識の中で朝鮮／朝鮮人をモチーフとし続けたのである(イペルテキスト：hypertexte)。…

特に映画『あれが港の灯だ』(1961)では李ライン(李承晩ライン、平和線以下、李ライン)¹⁴を背景に、日本の漁船で船員として働いている在日朝鮮人2世の青年の苦悩を描いている。この映画は、戦後の日本映画で日本と韓国の挟間で葛藤する在日朝鮮人を全面的に取り上げた異例の作品である。何より、当時の日本映画が在日朝鮮人を「清く、正しく、美しく」描いていた風潮とは異なり、のちの時代に争点となる「挟撃される在日朝鮮人」のアイデンティティー問題を先駆的に扱った点から、最も注目すべき作品として評価されている。¹⁵

現在に至るまでこの作品に注目し、監督の道徳的後悔とその克服や李ラインを取り巻く韓・米・日の政治的問題に焦点を当てた研究¹⁶はあるものの、映画の主なモチーフである在日朝鮮人の表象に関して議論した研究はまだ充分とは言えない。従って、本稿ではこ

14) 韓国政府は1952年マッカーサーラインの撤退に控えて、1945年トルーマン大統領がアメリカ海岸に隣接した大陸棚の天然資源に対する排他的管轄権の行使を主張する、言わばトルーマン宣言(Truman Proclamation)を先例として韓国海岸の50-60海里までを境界線として区画する平和線を宣言し、水域内で操業する日本の漁船を拿捕、抑留した。このような李ラインの評価は論者によって異なっている。藤井賢二は韓国政府の一方的な李ライン宣言は日本の主張をいさぎよく理解せず、日本より優位に立つための強烈な意識を見せている。特に李ライン宣言に対する米・中(中華民国)・英三か国の抗議に対応し、その名を「平和線」に変えたが、拿捕される日本漁船が続出している状況で平和線という呼称はいささか奇異であると否定的に評価する。藤井賢二(2006)「公開された日韓外交正常化交渉の記録を読む - 李承晩ライン宣言を中心に」『東洋史訪』第12号、兵庫教育大学東洋史研究会、pp.62-63. 오제연(オ・ジェヨン)はこの境界線の表面的な目的は漁業資源の確保などのための海洋主権宣言であるが、その裏には韓日会談を控えて日本を圧迫し、有利な位置に立つための協商カードであったことを指摘する。오제연(2005)「특집: 한일관계의 역사와 미래 - 평화선과 한일협정」『역사문제연구』제14호, 역사문제연구소, p.41. 一方、배규성(ベ・ギュソン)はこの宣言が当時としては冒険的な主張だったが、現在の国際社会が認めている国連海洋法協約(1982, UNCLOS)とほぼ一致する点から慣習国際法、あるいは国際法(国際条約)に反していないことを指摘しながら、国連海洋法協約のEEZ(自国管轄権)規定における沿岸国の管轄権拡張に先駆的な役割を果たしたと主張する。배규성(2013)「이승만 라인(평화선)의 재고찰 - 해양법 발전에서의 의의와 독도 문제에서의 의미」『일본문화연구』제47집, 동아시아일본학회, pp.235-236. 李ラインが韓日会談と現代の海洋法において重要な役割を果たしたとは言え、当時韓国政府の武力行為と人質外交は、戦後の日本社会で韓国と在日朝鮮人に対するネガティブなステレオタイプを形成させる決定的な契機となったのは事実である。

15) 高柳俊男(2005)「日本映画のなかの在日コリアン像」『歴史のなかの在日』藤原書店、pp.236-237.

16) 関連研究としては、前掲書、崔盛旭(2010)；임상민(林相珉)(2012)「이승만 라인과 재일코리안 표상 - 영화 「저것이 항구의 등불이다」 론」『日語日文学』제83권 제2호, 한국국어언어문학회, pp.505-522がある。日本映画における今井正と朝鮮を考察した崔盛旭は、ジュネット(G rard Genette)のイペルテキスト性(hypertextualit )の概念を借りて、朝鮮／朝鮮人を扱った今井正の映画が植民地を含む現在のポスト・コロニアリズム言説の中で、イペルテキスト性をなしていると主張する。一方、韓国で唯一この映画に注目した林相珉は、李ラインと帰国事業、未決された韓国送還事業を取り巻く韓・米・日の三角構図からすると、この映画は韓国政府の不当性と違法性を正当化し、かつ米を削除することによってジレンマに陥った在日朝鮮人の問題として単純化していると指摘する。これらは今井正に関する研究が少ない中、彼と彼の作品を再発見させる貴重なものである。

の映画に再現された在日朝鮮人への眼差しを考察したい。そのため、まず映画に再現された在日朝鮮人像が、同時代の映画とどのように異なるのかを具体的に探ることとする。そして、在日朝鮮人を取り巻く当時の社会的コンテクストを中心に、映画が境界人としての生涯を強いられた彼らをどのように表象しているのかを分析する。この研究は差別社会日本を生きてきた在日朝鮮人の生涯と歴史を理解すると共に、植民地期の末期国策映画の監督として知られている今井正を再照明する作業でもある。

2. 実在する他者の客観的描写

映画『あれが港の灯だ』は、戦後今井正が朝鮮／朝鮮人を扱った最初の作品である。李ラインを背景に日本と韓国の挟間で苦悩する在日朝鮮人の姿を描いたこの作品は、第12回ブルーリボン賞の助演男優賞とシネマ旬報のベスト7位(1961年)を記録するなど高く評価された。¹⁷⁾

以下、映画の主なストーリーラインを説明する。日本の漁船で船員として働いている在日朝鮮人の青年朴春明(以下、春明)は、木村秀夫という通名を使いながら自分の出自を隠している。ある日、李ライン付近で操業中に韓国の警備船(劇中、怪船と呼ばれる)の威嚇射撃で甲板長が死亡する事件が発生する。このことで春明は自分の出自が明かされることを恐れる。そんな中、春明が朝鮮人であることを知っている元同僚の石田まで街に現れ、彼は耐えきれなくなるが、同じ在日朝鮮人の売春婦金玉順(以下、玉順)との出会いを機に船を降りる決意を固める。しかし、春明の母親からの手紙で既に彼が朝鮮人であることを知っていた漁労長は彼に仕事を辞める必要はないとなだめ、船員たちにも春明が朝鮮人であることを明かす。その後、船員たちもいつもと同じように、春明ではなく木村として彼に接する。しかし、出航以降李ライン付近で韓国の警備船が現れると、春明に対する彼らの態度は一変する。小銃を抱えた一人の警備官が飛び移ると、船員たちは彼の銃を奪い船

17) 封切り後映画は「よく調べられた現実の上に立って切実な今日的テーマを持ち、それを各人物が過不足なく表現している」などの高い評価を付けた。しかし、李ラインと対置状態にある地域での評価は異なった。長崎と下関などでは興行に失敗して、封切りして一週間で上映を打ち切る温度差を見せた。内藤寿子(2008)「脚本家・水木洋子と映画『あれが港の灯だ』」『湘北紀要』第29号、湘北短期大学、pp.101。また一部では「主人公の苦悩を正当化するために、李ラインの正当性を主人公に認めさせている。映画は立場が異なる二つの正当性で苦しむ悲劇を描いているが、これが一体誰のための訴えなのか判らない」などと映画のポジショニングの曖昧さを批判する声もあった。・前掲書、임상민(2012) pp.507-508。

室に追い込む。春明は何とかこの場をおさめようと韓国語で警備官とやりとりをするが、このことが引き金となり、船員たちからスパイだと疑われる。その時、韓国の警備船がまた近づいてくると船員たちは一斉に海に飛び込み、急行してきた日本の巡視船に救出される。春明も逃げようとするが、警備官に撃たれて倒れる。春明は警備官にパンチョッパリ(半日本人)と罵倒されながら顔を踏みにじられる。結局、彼は誰にも救われることなく命をおとす。

この映画のキャッチフレーズ「二つの祖国に青春を奪われた男の絶叫！俺の祖国はどこにある…」から分かるように、映画は李ラインを背景に在日朝鮮人2世の苦悩をテーマとしている。映画のシナリオは、戦後日本を代表する脚本家水木洋子が執筆した。彼女は当時のラジオで李ライン関連のニュースを聞き、それをバックに生死の極限状態に追い込まれた漁民たちの生活像を描こうとした。そのため、まず門司、戸畑、博多、長崎などでシナリオハンティングを行い、李ライン問題が及ぼす影響を把握した。また、日本の漁業関係者だけではなく、職業と階層が異なる在日朝鮮人とも面談したが、この時、大韓民国を支持する人々と朝鮮民主主義人民共和国を支持する人々、日韓新和会の関係者などとも面談した。¹⁸⁾

水木洋子がシナリオを執筆した当時、日本社会は李ライン問題によって嫌韓感情が極度に高まっていた。実際、1947年から韓日協定が締結される1965年まで李ライン付近で操業中に拿捕された日本の漁船は328隻、船員数は3,911名(送還された漁船数142隻、船員数3,903名、8名は抑留中に死亡)¹⁹⁾にも及んだ。特に、日本の新聞とテレビなどのメディアでは、韓国政府の非人道的で暴力的な側面を強調するために抑留された日本人が苦しむ姿などが積極的に報道され、結果的に彼らに対する韓国政府の処遇は、日本に居住する在日朝鮮人に対する処遇と関連づけられることになった。当時、韓国に抑留された船員たちの家族を取材した雑誌では「朝鮮人は日本人の税金で学校に行ったり、日本の米を食べて、その上悪いことばかりしている」「全部追い払え」「朝鮮人なんか撃ち殺せ」などの内容を確認することができる。²⁰⁾つまり、李ライン問題による韓国政府への不満が在日朝鮮人に対する極度の嫌悪感を醸成させたのである。

韓国と在日朝鮮人に対するネガティブな認識が蔓延していた当時の社会的風潮からすると、李ラインの不当性や違法性を主張するのが当然である。しかし、水木洋子は李ライン

18) 前掲書, 内藤寿子(2008) p.99.

19) 前掲書, 오제연(2005) p.43.

20) 三枝英子(1956. 02)「日本の漁夫を帰してください - 李ラインの撤廃を訴える」『婦人公論』;前掲書, 内藤寿子(2008) p.102 再引用.

問題を「被害者＝日本の善良な漁民たち」「加害者＝韓国の警備隊」という単純な図式では扱わない。このような図式だと李ラインの意味が矮小化され、さらに李ラインへの反感を在日朝鮮人に対する暴力で解消する可能性があるかと判断したためである。21)水木洋子は李ライン問題を政治的な脈絡で解釈するのではなく、これによって窮地に陥った在日朝鮮人と日本人の視点から描こうと考え、朴春明／木村秀夫という人物像を作り上げたのである。このような作意は今井正監督のインタビューでも窺える。

顔を合わしていれば、お互いいい人間だし、話もあるのに、そこに民族的な、あるいは政治的な問題がからむと争いがおこる。まあ、馬鹿げた話ですね。この現実をドラマのなかに集約してみたかったです。だから、李ラインは一つの舞台なんで、李ラインを直接描いたわけではありません。22)

上記の内容で分かるように、今井正も李ラインを取り巻く在日朝鮮人と日本人個人々の姿に焦点を当てようとした。それは同時代の進歩的な映画監督たちが製作した社会派映画と教育映画に登場する定型化された在日朝鮮人ではなく、差別社会日本を生きていた在日朝鮮人の姿を客観的に描いたものである。このような今井正の作意は、在日朝鮮人の売春婦玉順と帰国事業²³⁾に関連した場面で確認することが出来る。

李ライン問題で葛藤する春明は、在日朝鮮人の売春婦玉順と出会う。ここで注目すべき点は、玉順が在日朝鮮人女性のエスニック・アイデンティティー(ethnic identity)を象徴する「チマチョゴリ」を着るような女性像ではなく、「売春婦」であることにある。このような設定は、戦前朝鮮人の女性に付与されたイメージが戦後も存続されていることを表わしているためである。梁仁實によると、戦後の日本映画において在日朝鮮人の女性を表す幾つかの表象として「逞しく、清く、美しいオモニ」や「働く女性」があげられる。この中で、働く女性の職業はホステスやスナック経営者、炭鉱関連の労働者などであった。これらの

21) 前掲書、内藤寿子(2008) pp.100-101.

22) 清木千代太(1970.03)「お茶漬けの味 その他」『キネマ旬報』； 前掲書、崔盛旭(2010) p.207 再引用。

23) 韓国戦争以降、在日朝鮮人社会で北朝鮮は社会主義祖国として尊敬され「海外公民」というプライドを持った同胞たちは、北朝鮮を祖国として仰いだ。このような状況の中、大村収容所では北朝鮮への帰国を希望する人々の無期限断食闘争や韓日会談を取り巻く混乱と圧力などが絡まれ、国際赤十字委員会の仲裁により北朝鮮と日本政府の協議の上、1959年12月から朝鮮人の帰国が実施された。これが言わば帰国事業(帰国運動、帰還北送事業、帰還業務などと南北の力学関係によってその名称は多様である(通常韓国では、北送と言う)。しかし、帰国事業はその実相が明らかになるにつれ、在日朝鮮人史において大きな悲劇として記憶されることになった。윤건차 저, 박진우 외 역(2016)『자이니치의 정신사 - 남·북·일 세 개의 국가 사이에서』한겨레출판, p.404.

表象は戦前、銃後婦人の役割が重視されていた日本人の女性、言わば「軍国のお母さん」とは異なるもので、労働者若しくは、売春婦として動員された朝鮮人の女性に対する視線が戦後「文化表象レベル」で再生産されたのである。²⁴⁾このような視点からすると、在日朝鮮人の玉順の職業が「売春婦」という設定も、戦前朝鮮人の女性に要求された女性像が再現されたのだと言える。つまり本作はポスト・コロニアリズム(post-colonialism)的存在である彼女を通じ、当時日本社会が持っていた在日朝鮮人の女性に対する視線を描いているのである。

春明と玉順は、一目で互いに朝鮮人であることを見抜く。親しくなった二人は強制連行によって日本に來られた経緯や子供の頃から日本人に差別されてきた過去を吐露する。二人が会話する場面で、帰国する朝鮮人を歓送するシーンが挿入される。しかし、ここで玉順は、在日朝鮮人の帰国を肯定的で好意的に評価していた当時の社会的雰囲気とは異なった視点を表す。彼女は、帰国する在日朝鮮人たちを見ている春明に次のように言う。

玉順「38度線の北は働き者の天地やって。私らの祖国が出来たんやって李さんは言うよ。北の報道が正しいなら、誰もみんな帰りがたがったはずよ。でも、知らんから。じゃあ、南に行くかと言われても知らんから不安。どっちも不安や。北に帰るのもパルジャ(팔자)や。運命だよ。ここに残るのもパルジャや。運命よ」

(00:58:35～00:59:05)

<図1> 春明と玉順／帰国する在日朝鮮人たち



資料: 00:58:28, 00:59:19

玉順は、当時帰国する在日朝鮮人が持っていた漠然とした期待と希望に対し、不安な

24) 梁仁實(2003)「戦後日本映画における「在日」女性像」『立命館産業社会論集』第39巻第2号, 立命館大学産業社会学会, p.47.

気持ちを客観的に表している。このような描写は、同時代に帰国事業を賛美していた社会派映画や教育映画では見当たらない。例えば、映画『キューポラのある街』では在日朝鮮人一家の帰国を、主人公である日本人の少女が自分の過ちを反省して主体性を確立させる重要な事件として位置づけている。²⁵⁾その他、森園忠の『オモニと少年』(1958)、青山通春の『日本の子どもたち』(1960)、望月優子の『海を渡る友情』(1960)などの教育映画でも帰国事業が重要なモチーフとして扱われている。²⁶⁾これらの映画に登場する在日朝鮮人は貧困と主体性などの現実的な問題を帰国を通じて克服し、また周辺の良心的な日本人は彼らの帰国を共感し、励ますという共通されたパターンを持つ。…

高柳俊男は、戦後在日朝鮮人と彼らの帰国をテーマとした映画が多数登場した契機が在日朝鮮人運動の路線転換による在日朝鮮人の存在規定の変化、特に祖国を再発見する熱気の中で起こされた「帰国事業」であると指摘する。1955年の在日朝鮮人運動はそれまでの民戦(在日朝鮮統一民主戦線)を解消し、在日本朝鮮人総联合会(以下、朝鮮総聯)を結成した。朝鮮民主主義人民共和国のまわりに結集し、その「公民」としての立場から躍進祖国のために推進した帰国事業は、日本の左翼の人々の在日朝鮮人観に大きな変化を及ぼし、社会派の映画監督たちにとっても在日朝鮮人を新たな目で見つめる機会となったのである。²⁷⁾もちろん、このような認識の変化が彼らを日本社会の一員として認めたり、「赤い在日朝鮮人」に対する警戒と反感を完全に消滅させたわけではない。しかし、少なからず日本人に「在日朝鮮人＝治安攪乱者」という既存のネガティブなイメージをなくすのにある程度寄与したとは言える。²⁸⁾すなわち当時在日朝鮮人問題と帰国事業を扱った映画は、在日朝鮮人観の変化という新たな時代の流れを反映したと評価することができる。

これらの映画が在日朝鮮人を冷徹な歴史意識を持った存在として描写し、帰国事業を人道的次元で扱った点においては共感するが、このような表象が当時の在日朝鮮人の実相を事実に描いたとは言いがたい。これは四方田犬彦が指摘したように、在日朝鮮人を取り巻く差別と迫害の物語を隠蔽し、すべて甘やかでヒューマニスティックな物語の中に封印

25) この映画を浦山桐郎と共同脚色した今村昌平は、当時を「北朝鮮を天国のように大変良いところだとデタラメを書いていた。それが一番気持ちに深く引っかかてます」と振り返る。

<http://www.bestlife.ne.jp/movie/taidan/imamura/01.html>(検索日2018.08.31.)

26) …梁仁實(2004)「戦後日本の映像メディアにおける「在日」表象—日本映画とテレビ番組を中心に」、立命館大学大学院 博士学位請求論文, pp.31-32

27) 高柳俊男(1997)「映像にみる在日朝鮮人」『アリラン文化講座4』, 文化センターアリラン, pp.10-11.

28) 外村大(2014)「日本人は「在日朝鮮人問題」をどう考えてきたか?」『ヨーロッパ研究』第14号, 東京大学大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構ドイツ・ヨーロッパ研究センター, p.57.

するためには、道徳的な朝鮮人が必要だったのに過ぎない。²⁹⁾これらの映画に登場する定型化された在日朝鮮人と帰国事業に対する賛美は、あくまでも日本人たちの理想なのである。実際、劇中在日朝鮮人が帰国する理由は明確に明されず、単に「朝鮮人は朝鮮に帰るべきである」という論理を前提に展開されるだけで、なぜ彼らが帰国せざるを得なかったのか、つまり民族的差別と偏見による究極の貧困などの肝心なところに関する具体的な説明は一切描かれない。興味深いことに、在日朝鮮人の帰国は良心的な日本人との友情をより深め、日本人の過ちを反省させる触媒剤として機能するパターンが多い。

帰国事業の実相は、テッサ・モーリス＝スズキ(Tessa Morris-Suzuki)が指摘したように北朝鮮と日本がそれぞれの目的を果たすために共助した策略と欺瞞、裏切りに満ちた国際政治のパワーポリティクスに塗れていたものであった。³⁰⁾つまりこれらの映画は、映画という大衆的な媒体を通じて、在日朝鮮人問題を日本内部の問題として公論化し、これを再考させる契機を提供した点から一定の意義を持つものの、在日朝鮮人がおかれていた厳しい環境を描くより、彼らと日本人のヒューマニズムな物語を強調する手段として帰国事業を美化しているのである。

このような点からすると、今井正の映画『あれが港の灯だ』は帰国事業を取り巻く当時の在日朝鮮人の立場を、より客観的に描写する差別性を見せている。日本人によって「想像された他者」ではなく、差別社会日本を生きていた「実在する他者」の姿を描いているのである。何より、1958年に発生した「小松川事件」や「李ライン問題」で韓国と在日朝鮮人に対する反感が極度に高まっていた当時、在日朝鮮人の姿を客観的に収めた点は、その後製作された在日朝鮮人をテーマとした映画の先駆的な役割を果たしたとも言える。特に、1980年代まで在日朝鮮人を戦前の歴史的な過ちに対する「免罪符」として置換していた点³¹⁾からすると、本作が持つ意義は大変大きい。

3. 境界人 朴春明／木村秀夫

映画の前半には、李ライン問題で自分の出自が明かされることを恐れる春明の葛藤と苦

29) 四方田犬彦(2001)『アジアのなかの日本映画』岩波書店, p.73.

30) テッサ・モーリス＝スズキ著、田代泰子訳(2011)『北朝鮮へのエクソダス - 帰国事業の影をたどる』朝日新聞社, p.392.

31) もちろん、大島渚のような監督は例外だと言える。彼はテレビドキュメンタリー「忘れられた皇軍」(日本テレビ、1963)を起点として多様な作品を通じて朝鮮／朝鮮人問題を表明し、日本／日本人たちに戦争責任や植民地支配問題に対する反省を促した。

悩が描かれている。劇中、春明は朝鮮で生まれ、日本で成長した在日朝鮮人2世である。多くの2世は祖国に接したことがないが、祖国志向的な傾向が強い1世たちと地域コミュニティ(在日朝鮮人社会)などの影響により、祖国に対する連帯意識を持っている。しかし、彼らの成長過程でアイデンティティーの混乱は不可欠なものである。何より、日本社会に深く根付いている差別と偏見は、朝鮮人としての「民族的な自覚」を妨げる最も大きな要因であった。実際、戦前から存続されてきた朝鮮人に対する蔑視は多くの朝鮮人をニヒリズム(nihilism)に陥らせた。朴慶植はこれに関して次のように述べている。

私たちが植民地の時代にはニヒリズムにおちいったものですが、朝鮮人がいやになってくる。いつも朝鮮人はバカにされてどこにいても職につけない。まして希望どおりの仕事にはつけない。一所懸命働いてもろくに賃金も貰えない。子供は学校でいつもバカにされる。そういうことで虚無意識・ニヒリズムにおちいったんですね。だから人間としての誇りが無い。朝鮮人は本当にいやだと、これこそ人間的じゃないわけです。

(中略)

日本では在日朝鮮人が、以前から民族的な主体性を持っていないようにしているわけです。戦前も戦後も。現在でも在日朝鮮人は日本社会にとって無用の存在という風に見られているわけです。朝鮮人自身にもそう思っている人がいます。日本の権力者だけでなく、日本人の大部分が迷惑な存在だと思っているのです。悪いことばかりすると思っている。だから国へ帰れと。日本にいるんだったら帰化して日本人になれと。しかし、たとえなっただとしてもやはり差別する。ということは、歴史的に在日朝鮮人の役割を正しく位置づけて評価していないんです。³²⁾

実際、ニヒリズムに陥った多くの在日朝鮮人は、自分の出自を隠して生きなければならなかった。この映画でもそのような在日朝鮮人の姿が主人公春明を通じて如実に現れる。劇中、春明の同僚石田は、八百屋の久美子に好感を抱きながらも近づけない春明に「なぜ胸を張って歩かんのだ。昔ならどうか…お前はいつまで隠してるつもりじゃ」と問う。春明は「日本人が俺たちの足ば折った。胸を張って歩けというけど、差別される世の中で無理言うな」と答える。ここで、石田が言う「昔」というのは「植民地期」である。彼は、戦後朝鮮人に対する差別がなくなったように言うが、春明のセリフ「差別される世の中で無理な

32) 朴慶植(1992)『在日朝鮮人・強制連行・民族問題』三一書房, p.39 ; 井上厚史(2001)「近代日本社会における在日朝鮮人の自己認識 - 「文化国家」と「自己のテクノロジー」」『総合政策論叢』第2号, 島根県立大学総合政策学会, p.170 再引用。

こと言うな」で分かるように、朝鮮人に対するネガティブな認識は戦前と戦後を貫くものであった。事実、日本社会で朝鮮人は、戦前の「野蛮人」「劣等民」から、戦後「無用な存在」「第三国民」³³⁾「招かざる客」「悪者」として蔑視されてきた。³⁴⁾このような日本人の認識に対し呉林俊は、「戦後日本社会のすべての価値観が帝国主義的・封建的な思考から民主主義に変わっていたが、朝鮮人に対する認識は爪の垢ほども変わることがなかった」と批判する。³⁵⁾戦前の軍国主義から戦後の民主主義という大変化の中でも、朝鮮人に対する日本人たちの頑固なステレオタイプは、多くの在日朝鮮人をニヒリズムに陥らせた。また、これは個々人の民族的アイデンティティーの確立を妨げる根本的な要因となったのである。本作で春明も、朝鮮人が抱えていたニヒリズムによって日本人の美香子に近づけない。このような彼の姿は、日本人と朝鮮人の間に「支配者と被支配者」という戦前の二項対立的な関係がまだ存続していることを暗示しているのである。…

この映画が製作された当時、在日朝鮮人問題が本質的に日本内部の問題であったにも関わらず、日本のマスメディアは、常に分担された朝鮮との関係で政治的に把握しようとした。彼らは、在日朝鮮人社会を民族主義・利己主義の代表でもあるかのように表象していた。特に1950年代後半の日本のテレビニュースなどでは、毎晩李ライン問題と在日朝鮮人の犯罪が報道され、日本人たちの記憶に韓国政府の不当性と在日朝鮮人の危険性を印象付けさせた。³⁶⁾

このような社会的状況からすると、この映画は時代の流れに挑発するような作品だと言える。何より、李ライン付近で操業する漁船の船員が在日朝鮮人2世というユニークな設定を通じて、朝鮮人でも日本人でもない彼らのアイデンティティーを事実的に描写している。劇中、主人公春明は韓国と日本どちらにも帰属できない「境界人」として描かれる。例えば、漁労長の妻が韓国を憎み続けていると「向こうだって食えんから」「目の前で国の悪口をいうやつはぶっ叩いて投げ飛ばしたくなる」と言いながらも、一方では日本人に成り切ろうとしたり、ボクシングの試合では日本人選手を応援するなどの矛盾した姿を見せる。これは多重的で、混種(hybrid)的な2世たちの姿を端的に見せてくれる場面である。

特に後半では在日朝鮮人に対する韓国と日本両側の視線を通じて、彼らの姿を赤裸々

33) ここで第三国民と言うのは、戦後日本に居住している朝鮮人や台湾人などの旧植民地国家の国民を指称する用語であり、日本人と旧植民地国民を区別する一つの範疇であった。しかし、闇市などが問題になるにつれ、朝鮮人に対する新たな差別と非難を象徴する用語として使われた。前掲書, 윤건차(2016) p.132.

34) 前掲書, 井上厚史(2001) p.175…

35) 呉林俊(1971)『朝鮮人としての日本人』合同出版, p.153 ; 前掲書, 井上厚史(2001) p.171 再引用.

36) 前掲書, 윤건차(2009) p.182.

に描写する。漁労長に春明が朝鮮人だと聞いた船員たちは、今まで通り漁業仲間として受け入れる。この時点ではまだ、彼らに春明が朝鮮人だという実感はない。しかし、李ライン付近で操業中に韓国の警備船が現れると、彼に対する態度は一変する。春明を見る船員たちの目が「漁業仲間の木村」から「朝鮮人の春明」に変わっていったのである。韓国の警備船の威嚇射撃で兄を失った船員松村が春明を見ながら「あちらさんのスパイが乗っ取るんじゃけん」と言うと、周りの船員たちも徐々に春明を疑い始める。松村が刃物を春明に振り回そうとすると、石田は「木村に罪はないんけん」と言いながら庇う。しかし、春明が飛び移ってきた警備官と話すと、石田の視線までもが変わり始める。

警備官 「この船はどうせ捕まるんだ。奴らをうまく引き渡せばお前は助けてやる。母国を裏切ることはしないだろうな」

春明 「なぜやたらに撃つんだ！」

警備官 「命令だから仕方がないね」

春明 「殺しあうのは嫌いだ」

警備官 「そりゃあそうだよ。好きな奴はいないよ」

春明 「警備官なんかどうしてやってんだ？」

警備官 「お前が魚をとるのと同じさ」

春明 「家族はいるのか？」

警備官 「親父が一人、百姓やってる」

春明 「みんな国じゃどうやってるんだ？」

警備官 「ラジオで日本の流行歌や浪花節を聞いているよ」

春明 「まさか」

警備官 「ほんとうだ」

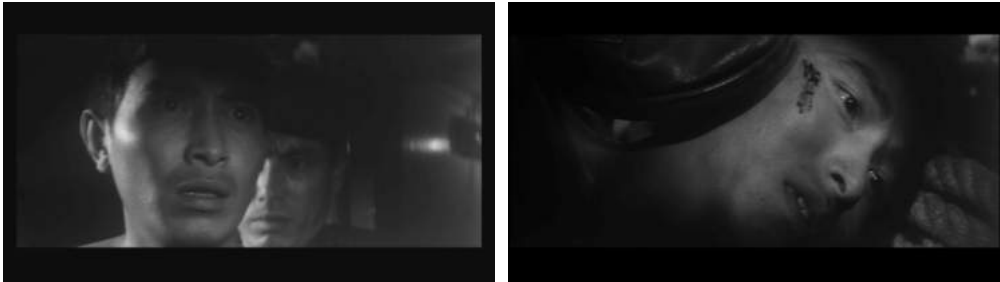
春明 「(ニヤリとしかける)」

(01:35:20～01:36:15)

船員たちは、陰悪な雰囲気の中で二人を見つめている。ここで二人が交わした日常的な会話でニヤリとする春明を見た石田はもう彼を木村として見なくなる。ちょうどその時、エンジンが止まり、韓国の警備船がまたも近づいてくると、船員たちはみんな助けにきた日本の巡視船に向かって海に飛び込む。春明も逃げようとするが、石田の銃口が向けられる。つまり、警備官との会話が春明を「漁業仲間の木村」から「韓国のスパイ」に変えたのである。置き去りにされた春明は、乗り移ってきたほかの警備官に撃たれて倒れる。警備官は

パンチョッパリと罵りながら春明の顔を踏みにじる。結局、春明は自分の祖国と日本両方に捨てられて死んでしまう。これは、当時在日朝鮮人をモチーフとした映画のほとんどがハッピーエンディングを迎え、かつ彼らに対する肯定的で楽観的なメッセージを発していたことと比較すると、極めて異例な結末である。何より、主人公春明が自分の祖国にまで捨てられる設定はとても興味深い。

<図2> 春明と警備官／踏みにじられる春明



資料: 00:01:36:34, 01:39:31

過去李承晩政権は、在日朝鮮人を李ラインと共に韓日会談のための圧迫カードとして位置づけただけで、彼らの法的地位などの処遇に関しては消極的な態度をとった。以降の朴正熙政権も、彼らを口実に韓日協定を妥結し、さらに在日朝鮮人の「学園浸透スパイ団事件」を捏造して特裁政権を維持した。つまり、これらの政権は在日朝鮮人を対日外交と政権維持の手段として利用しただけで、彼らがおかれていた劣悪な環境などには関心がない「棄民政策」で一貫したのである。

韓国社会は、在日朝鮮人に対し「同じ民族」「冷戦(反共)」「開発主義(成金)」といった固定されたイメージを拡散、再生産してきた。解放後、植民地歴史に対する集合的記憶(collective memory)の形成過程で、在日朝鮮人は韓国社会が志向する方向性によって有用な存在であった。言い換えれば、在日朝鮮人自体を理解するのではなく、韓国社会が培養する「歴史認識の枠」の中で形象化したのである。³⁷⁾特に、李承晩政権の「反日主義」と「反共主義」において在日朝鮮人はとても重要な手段であった。李承晩政権は李ラインに国家主権(national sovereignty)の概念を加え、反日主義と反共主義を政治的に利用した。この過程で帰国事業を支持する日本社会の左傾化や日本共産党

37) 권혁태(2007) 「재일조선인과 한국사회 - 한국사회는 재일조선인을 어떻게 표상해왔는가」 『역사비평』 제78호, 역사문제연구소, p.245-246.

と朝鮮総聯の活動などは、彼の専横を隠して大衆の支持を得られる最も簡単な方法であった。38)実際、当時の多くの韓国人が共有していた日本／日本人に対する不信と警戒心は、現実的な対日認識として根付いており、在日朝鮮人に関する知識と理解がない韓国人たちに彼らも日本人と同等であると誘導し、レッドコンプレックス(red complex)を想起させる存在となった。つまり、当時の韓国人たちは対日認識の延長線上で在日朝鮮人を認識したのである。従って、劇中警備官が春明の顔を踏みにじりながらパンチョッパリと罵る行為も、当時の韓国社会が持っていた対日認識によって形成された在日朝鮮人に対するネガティブな認識が反映されたのだと言える。

このように、映画『あれが港の灯だ』は李ラインを背景として在日朝鮮人2世のアイデンティティーの混乱と、それによる苦悩を描いている。特に、境界人としての生涯を強いられた彼らの姿を韓国と日本両側の視線を通じて事実に描写している。これは1970年代以降、在日朝鮮人が主体となり、民族的マイノリティーとしての自画像を描いた映画の主なテーマとなっていた点からすると、本作が彼らの実相を直視したことの傍証となる。

4. おわりに

本稿では、映画『あれが港の灯だ』に再現された在日朝鮮人への眼差しを考察した。この映画を製作した今井正は、植民地期の末期、朝鮮人の監督崔寅奎と共に朝鮮人の戦争動員を扇動する二本の国策映画を製作した。ジャパニーズ・ネオリアリズムの巨匠であり、戦後の民主主義と反戦映画を象徴する今井正が、国策映画を製作したことはあまり知られていない。しかし、戦後彼はそのことを「自分が犯した一番大きいな過ちだ」と反省し、自分の作品で朝鮮／朝鮮人を重要なモチーフとして扱っている。特に、映画『あれが港の灯だ』は、彼の悔悟の念が最も反映された代表的な作品である。

戦後、在日朝鮮人運動の路線転換などを機に新たな在日朝鮮人観を形成した社会派映画の監督たちは、自分の作品で在日朝鮮人問題と帰国事業を主なテーマとして扱った。彼らが製作した映画で、在日朝鮮人は日本社会の民族的差別と偏見、貧困といった現実的な問題に挫けず、明るくて元気に生きる存在として定型化され、また日本人は、彼らを通じて自分の主体性を確立していくパターンが多い。これらの映画は、帰国事業を重

38) 前掲書, 오제연(2005) p.31.

要なテーマとして扱いつつも楽観的な態度で一貫している共通点を持つ。このような描写が在日朝鮮人問題を日本内部の問題として公論化しようとした点はある一定の意義を持つものの、当時の在日朝鮮人がおかれていた実相を事実に描いたとは言い難い。映画の中の在日朝鮮人は、日本人の理想的な観念から「想像された他者」に過ぎないためである。

しかし、映画『あれが港の灯だ』は、同時代の映画とは異なり、冷静な眼差しで在日朝鮮人の実相を描いている。特に在日朝鮮人の売春婦玉順は、戦前朝鮮人の女性に強い「働く女性」のイメージが戦後も存続していることを表す、言わばポスト・コロナリズム的存在である。また帰国事業を単に美化するのではなく、当時在日朝鮮人が抱いていた帰国に対する不安を客観的に収めている。何より、これを日本人ではなく「実在する他者」である在日朝鮮人を通じて描いた点は強い説得力を持つ。

本作は、李ラインを背景として韓日両国の挟間で苦悩をする在日朝鮮人2世の混種性と多重性を描写しながら、さらに、彼らに対する韓国と日本の視線を赤裸々に描いている。後半、主人公春明が乗った漁船が李ライン付近で韓国の警備船に拿捕されると、春明は同僚たちにスパイだと疑われ、結局彼は韓国の警備官に撃たれパンチョッパリと罵られて死んでしまう。このような設定には、当時の反日主義と反共主義の中で形成された韓国社会の対日認識が反映されている。つまり、韓国と日本どちらにも帰属できない「境界人」としての生涯を強いられた在日朝鮮人2世の姿を事実に描いているのである。在日朝鮮人のアイデンティティー問題が、1970年以降に登場する在日朝鮮人の自画像映画の主なテーマとなっていた点からすると、この映画は在日朝鮮人を扱った映画の先駆的な役割を果たしたとも言える。

このように、映画『あれは港の灯だ』は李ライン問題と帰国事業などの在日朝鮮人を取り巻く問題を通じて、彼らの姿を事実に描いている。もちろん歴史・政治的な視点からすると、本作が李ライン問題に関する韓・米・日三国の交錯関係を充実に描写したとは言い難い。しかし、戦後の日本映画で在日朝鮮人2世たちの実相を描いた嚆矢的な作品として重要な意味を持つ。この研究では主にナラティブや登場人物のセリフなどを当時の社会的脈絡と関連付け、在日朝鮮人の表象を探ってみたが、今井正の映画を研究する上でミザンセーンとモンタージュのリアリズム的な表現も欠かせないものだと考えている。従って、今後彼の多様な作品の分析を通じてその特徴を考察していきたい。

【参考文献】

- 권혁태(2007) 「재일조선인과 한국사회 - 한국사회는 재일조선인을 어떻게 표상해왔는가」 『역사비평』 제78호, 역사문제연구소, p.245-246.
- 김대근(2017) 「일제강점기 국책영화의 헤게모니 전략 - 조선영화령 공포 이후의 영화를 중심으로」 『인문콘텐츠』 제47호, 인문콘텐츠학회, p.117.
- 김종곤(2014) 「'재일' & '조선인'으로서의 정체성과 가치지향성 - 재일 조선인 3세를 중심으로」 『통일인문학』 제59권, 건국대학교 인문학연구원, p.31.
- 배규성(2013) 「이승만 라인(평화선)의 재고찰 - 해양법 발전에서의 의의와 독도 문제에서의 의미」 『일본문화연구』 제47집, 동아시아일본학회, pp.235-236.
- 오제연(2005), 「특집: 한일관계의 역사와 미래 - 평화선과 한일협정」 『역사문제연구』 제14호, 역사문제연구소, p.41.
- 윤건차 저, 박진우 외 역(2009), 『교착된 사상의 현대사 - 1945년 이후의 한국·일본·재일조선인』 창비, p.182, p.218.
- _____, 박진우 외 역(2016), 『자이니치의 정신사 - 남·북·일 세 개의 국가 사이에서』 한겨레출판, p.132, p.404.
- 임상민(2012), 「이승만 라인과 재일코리안 표상 - 영화 「저것이 항구의 등불이다」 론」, 『日語日文学』 제83권 제2호, 한국어어일문학회, pp.505-522.
- 한국영화데이터베이스(<https://www.kmdb.or.kr/db/per/00008525>. 検索日2018.08.23.)
- 井上厚史(2001) 「近代日本社会における在日朝鮮人の自己認識 - 「文化国家」と「自己のテクノロジー」」 『総合政策論叢』 第2号, 島根県立大学総合政策学会, p.170-175.
- キャロル・グラック著, 梅崎透訳(2002) 「記憶の作用 - 世界中の「慰安婦」」 『岩波講座 8 近代日本の文化史 感情・記憶・戦争 1935-55年 2』 岩波書店, pp.200-207.
- 高柳俊男(1997) 「映像にみる在日朝鮮人」 『アリラン文化講座4』 文化センターアリラン, pp.10-11.
- _____(2005) 「日本映画のなかの在日コリアン像」 『歴史のなかの在日』 藤原書店, pp.236-237
- 崔盛旭(2010) 「今井正と朝鮮」 『スクリーンのなかの他者』 岩波書店, pp.163-188.
- 丁智恵(2013) 「1950~60年代のテレビ・ドキュメンタリーが描いた朝鮮のイメージ」 『マス・コミュニケーション研究』 第82巻, 日本マス・コミュニケーション学会, p.111.
- テッサ・モーリス-スズキ著, 田代泰子訳(2011) 『北朝鮮へのエクソダス - 帰国事業の影をたどる』 朝日新聞社, p.392.
- 外村大(2014) 「日本人は「在日朝鮮人問題」をどう考えてきたか?」 『ヨーロッパ研究』 第14号, 東京大学大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構ドイツ・ヨーロッパ研究センター, p.57.
- 内藤寿子(2008) 「脚本家・水木洋子と映画 『あれが港の灯だ』」 『湘北紀要』 第29号, 湘北短期大学, pp.99-102.
- 藤井賢二(2006) 「公開された日韓国交正常化交渉の記録を読む - 李承晩ライン宣言を中心に」 『東洋史訪』 第12号, 兵庫教育大学東洋史研究会, pp.62-63.
- 梁仁實(2003) 「戦後日本映画における「在日」女性像」 『立命館産業社会論集』 第39巻第2号, 立命館大学産業社会学会, p.47.
- _____(2004) 「戦後日本の映像メディアにおける「在日」表象 - 日本映画とテレビ番組を中心に」, 立命館大学大学院 博士学位請求論文, pp.31-32.
- 四方田犬彦(2001) 『アジアのなかの日本映画』 岩波書店, p.73.
- 渡辺直紀(2016) 「太平洋戦争期の日韓合作映画について - 今井正／崔寅奎の『望楼の決死隊』

(1943)『愛の誓ひ』(1945)を中心に」『武蔵大学人文学会雑誌』第48巻第1号, 武蔵大学人文学部, p.179.

週刊シネママガジン映画監督巨匠の歴史第30回今井正(http://static.cinema-magazine.com/old_page/kyosyo/imai.htm. 検索日2018.11.9.)

日本映画黄金対談今村昌平監督第1回(<http://www.bestlife.ne.jp/movie/taidan/imamura/01.html>. 検索日2018.08.31.)

DVD<あれが港の灯だ>東映株式会社

·논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

今井正の映画『あれが港の灯だ』に再現された在日朝鮮人への眼差し

朴東鎬

戦後、日本の民主主義映画や反戦映画を象徴する今井正は、ジャパニーズ・ネオリアリズムの巨匠である。アイロニカルなことに彼は植民地期の末期、朝鮮人の監督崔寅奎と共に朝鮮人の皇国臣民化を通じて戦争参戦を促す二本の国策映画を製作した。戦後今井正本人は、このことを「自分が犯した一番大きな過ちだ」と反省し、幾つかの作品で朝鮮／朝鮮人を扱っている。特に、李承晩ライン問題を背景とした『あれが港の灯だ』には、そのような今井正の悔悟の念が最も反映されている。在日朝鮮人2世のアイデンティティー問題を先駆的に扱った本作は、戦後日本映画に再現された在日朝鮮人の表象研究において最も注目すべき作品の一つであると評価されている。従って本稿ではこの作品に注目し、映画に再現された在日朝鮮人への眼差しを考察した。そのため、まずこの映画と同時代の社会映画や教育映画に再現された在日朝鮮人像の相違性を探ってみた。そして、李承晩ラインと在日朝鮮人を取り巻く当時の社会的コンテクストを中心に、祖国と日本どちらにも帰属できない境界人としての生涯を強いられた彼らを、映画どのように再現しているのかを分析した。この研究は、差別社会日本を生きてきた在日朝鮮人の生涯と歴史を理解すると共に、戦前国策映画監督として知られている今井正を再照明する作業でもある。

The gaze on Korean Japanese represented in the movie
“That’s the light in the port” directed by Imai Tadashi

Park, Dong-Ho

Imai Tadashi is a great master of Japanese Neorealism known for his anti-war and post-democracy Japanese films. Ironically, at the end of the Japanese colonial era, he directed two nationally-run films with Korean director Choi, In-Gyu, which instigated Joseon people to participate in the war through the Japanese imperialistic policy. Imai Tadashi regretted this as “the biggest mistake he had committed,” and he treated Joseon and Joseon people as important motifs in various post-war films. His repentant attitude was best reflected in the movie ‘*That’s the light in the port,*’ which is based on the case of ‘Syngman Rhee Line.’ This movie played a leading role in revealing the identity issues of second generation Korean Japanese and is considered the most remarkable work for studying the representation of Korean Japanese in post-war Japanese films. Accordingly, I studied the viewpoints on Korean Japanese presented in this movie. I compared different images of Korean Japanese based on social conscience and educational movies of the same age as this film. Based on the issue of Syngman Rhee Line and the social discourse regarding Korean Japanese, I analyzed how this film represented the Korean Japanese who were forced to live as “border riders,” not being able to have either Korean or Japanese identities. This work helps understand the life and history of Korean Japanese who have lived through discriminative Japan society. It also sheds new light on Imai Tadashi who is known as the director of nationally-run films of the colonial era.

浅井了意における中国明末善書文化の受容

—顔茂猷著『迪吉録』を中心に—

董 航*

(e-mail: 2020wataru@gmail.com)

<目次>

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1. はじめに | 4.1. 『迪吉録』全体への横断的な利用 |
| 2. 先行研究に見る浅井了意の仮名草子執筆と善書受容 | 4.1.1. 原著の徳目 |
| 3. 勸善思想家顔茂猷と『迪吉録』 | 4.1.2. 著者の評論(=原著の思想) |
| 4. 浅井了意の『迪吉録』受容 | 4.2. 自著同士の相乗効果への配慮 |
| | 5. おわりに |

キーワード：善書(Zensho)、迪吉録(Tekkitsuroku)、浅井了意(Asai Ryoi)、仮名草子(Kanazōshi)、仏教(Buddhism)

1. はじめに

本稿の目的は、浅井了意(生年不詳～1691)の仮名草子に見られる中国明末の勸善思想家¹⁾顔茂猷(1578～1637)著『迪吉録』の影響を中心に検討し、その中国明末善

* 日本国お茶の水女子大学大学院博士後期課程、比較社会文化学

1) 酒井忠夫が明末善書の盛行ぶりをその時代ならではの思想風潮と見取り、「善書運動」と位置付けているのに対して、呉震はそれを踏まえてこの思想風潮を実質的に「勸善運動」、顔

書文化受容の態度を明らかにすることである。

善書は勸善書ともいい、中国の宋代に現れ明末清初期に盛行を極めた儒仏道の三教融合が見られる勸善懲悪を趣旨とした通俗的な道德読本である。内容としては、『迪吉録』のような具体的な故事や生活事象を通して教訓を説き聞かす説話集もあれば、それと並んで範立本編纂『明心宝鑑』のような儒教を始めとする三教の経書・文献から収集された箴言集もある。これらの中国善書は本国のみならず、十五世紀頃の朝鮮や江戸時代の日本にも伝播し、当時の知識人に共鳴され、文学・文化・思想・道德などの側面から社会発展に影響を与えた。

善書研究について、専門書を著した酒井忠夫²⁾は、近世初期の日本と明末清初の中国の学問・文化を支える歴史的社会的要素が相通じていたことが、中国の善書の日本文化への吸収を促したと述べる。同書の約四十年後の増補版では、さらに中国善書の宗教結社との関連や庶民生活への影響について実証的に明らかにし、江戸時代の日本文化に及ぼす中国善書の影響並びに流通を整理した。

酒井の増補版とほぼ同時期に清代善書の専論を著した游子安³⁾は、中国江南地区を中心とした研究調査を行い、善書の伝播と流通の社会背景、読者の考え方ないし善書と他の勸戒書との関係を整理し、善書の制作は善人・善書・善会または善堂という「三位一体」によって形成された完全なシステムであることを述べた。つまり、善書は文書の体裁のみならず民間宗教信仰の具現でもあり、善書と慈善活動の関わりから明清以後の社会的変遷を究明することができると指摘した。

上記酒井の研究が日本における中国善書文化の影響が示唆されているにとどまっているのに対して、肖琨は「江戸期善書に関する研究」⁴⁾として、儒学・仏教・国学・神道・民間信仰など広汎に及ぶ江戸時代思想全般への深甚な影響とその「日本化」の様相と構造を具体的に明らかにした。そして、三教合一的善書思想は「自我」形成と深く関わる思想として江戸期民衆の低層から上層階級に広まり、

茂猷を勸善思想家と指摘している。(呉震(2016)『明末清初勸善運動思想研究』(修訂版)上海人民出版社、pp.1-3.)

2) 酒井忠夫(1960)『中国善書の研究』弘文堂、同氏(1999-2000)『増補中国善書の研究 上・下』国書刊行会。

3) 游子安(1999)『勸化金箴：清代勸善書研究』天津人民出版社。

4) 肖琨(2011)「江戸期善書に関する研究」立命館大学、博士論文。

善書を抜きにしては江戸時代思想史全体さらには朝鮮王朝も含めた東アジアの思想史全体も理解しえないことを結論的に述べた。

以上の研究から、中国宋代以降の庶民社会の発展及び三教兼修風潮の下で作成され流通した善書とそれにより形成された善書文化は、近世日本に伝播し影響を及ぼしたことがうかがえる。日本における善書受容の様相における研究は、中国明末清初期の社会実態をよりの確に捉えるための独特な視点で、東アジアを始めとする儒教文化圏の学者に展開されていたのである。

2. 先行研究に見る浅井了意の仮名草子執筆と善書受容

本稿で対象とする浅井了意は、自著の中に数々の中国伝来の説話を取り入れている。了意は近世国文学史上において非常に名高い仮名草子の代表的な作者であるとともに、浄土真宗大谷派の僧侶でもある。著書は、仮名草子、報告文学(記録文学)、地誌、注釈、仏書、漢籍の翻訳など多岐にわたるジャンルに及び、計七十部六百巻にのぼる⁵⁾。

了意の仮名草子研究⁶⁾においては、その内容が何を典拠としているのかを調査することが大前提である。例えば彼の仮名草子作家としての名を高めた教訓書『堪忍記』について、「『迪吉録』の女鑑によるは勿論、官鑑・公鑑からも得て、この書の数多い中国種の説話の大半の出拠は『迪吉録』から発見できる」ということが指摘されている⁷⁾。遍歴小説『浮世物語』には、上記のほかに明代刊行の類書『天中記』や宋代の孫光憲撰『北夢瑣言』なども数か所引用されている⁸⁾。近世

5) 北条秀雄(1972)『改訂増補浅井了意』笠間書院、同氏(1974)『新修浅井了意』笠間書院、野間光辰(1972)「了意追跡」北条秀雄『改訂増補浅井了意』笠間書院、pp.227-267.

6) 本稿では、特に注記しない限り、浅井了意著、浅井了意全集刊行会編(2007)『浅井了意全集』全十九冊、岩田書院所収の仮名草子、仏書を引用する。以下『了意全集』と略記する。

7) 中村幸彦(1961)『近世小説史の研究』桜楓社、pp.30-62.

8) 前田金五郎(1965)「『浮世物語』雑考」『國語國文』第34巻第6号、京都大學國文學會、pp.29-54、同氏(2005)『近世文学雑考』勉誠出版にも所収。

怪異小説の始祖とされる『伽婢子』は中国明代の怪異小説集『剪灯新話』『剪灯余話』から翻案されている⁹⁾。了意の遺著である『狗張子』は『剪灯新話』を含めて広く六朝・唐・宋の志怪・伝奇小説に原拠を求めている¹⁰⁾。

一方で、成海俊¹¹⁾は、中国明代の箴言集『明心宝鑑』の日本への影響を重視することを主張する酒井の指摘を受け継ぎ、日本における『明心宝鑑』受容の思想史的研究を行い、『堪忍記』『浮世物語』の勸善観を通して了意の『明心宝鑑』受容の特徴を整理した。彼は『浮世物語』が「天」という絶対的存在に基づき、「知足安分」と連携した勸善を教訓とした庶民向けの書であるのに対し、『堪忍記』は勸善懲悪のために広範囲の身分層の人間に対して社会生活の正道を示している書であるとする。この成の研究と相前後して、黄昭淵¹²⁾は善書の受容研究をし、中でも怪談をテーマとする『剪灯新話』とその影響を受けた『伽婢子』との関わりについて検討した。黄は東アジアにおける『剪灯新話』受容の完成形である怪談集『伽婢子』では日本的な場面設定を行っているが、底辺に流れている考え方は中国伝来の思想であり、その思想は三教一致に基づく善書思想であると述べている。

ここまで見てきたように、浅井了意の仮名草子がどのような書物を使って翻案したかを明らかにする典拠論とともに、善書受容の思想史的研究も行われてきており、天道・応報といった三教一致に基づいて勸善懲悪を訴えるという善書思想が、了意の仮名草子の中に反映されていることがうかがえる。しかし、『迪吉録』が『明心宝鑑』と同様に了意の二著作『堪忍記』『浮世物語』の中にかかされていたものの、了意にとって如何なる存在だったのかという思想内容までに踏み込んだ考察はそれほど行われていない。少なくとも『堪忍記』に即して見る限り、

9) 富士昭雄(1966)「伽婢子の方法」『名古屋大学教養部紀要』第 10 輯、pp.1-18.

10) 富士昭雄(1967)「浅井了意の方法—狗張子の典拠を中心に—」『名古屋大学教養部紀要人文科学・社会科学』第 11 輯、pp.30-47.

11) 成海俊(1999)「日本における『明心宝鑑』受容の思想史的研究」東北大学、博士論文。

12) 黄昭淵(1999)「中国善書の受容と怪談・奇談の展開：仮名草子・浮世草子を中心に」早稲田大学、博士論文。同氏(2004)『일본 근세문학과 선서』보고사にも所収。

典拠調査以外の論文は多くない¹³⁾という研究も見られる。

浅井了意の処女作といわれる『堪忍記』は、万治二(1659)年に刊行された仮名草子作品の一つであり、世の中で広く好評を博しており、初版以来、版を重ね息長く読み継がれた¹⁴⁾。同書の全説話の二十五章百七十話に対して、小川は前掲中村の研究を参考にした上で、原話に密着した行文なのかを比較することによって、そのうちの四十八話は『迪吉録』に出拠を求められると推定できると示した¹⁵⁾。花田は原拠や原拠収載書の指摘などに主眼を置き小川指摘以外のものに関してさらに四話を挙げた¹⁶⁾。このような調査視点を踏襲する場合、同書第九章の八、第十一章の五、第十四章の七、第十六章の七、第廿二章の十二という五話も『迪吉録』の影響を受けたと筆者の考察では見出されたが、引用比較の詳細については紙幅の制限により割愛とする。以上のように、『堪忍記』は『迪吉録』から計五十七条の説話を素材として採取・利用しているということが明らかになった。そこで、善書及び善書文化に対する了意の受容を全面的に究明するためには、国文学の仮名草子研究の成果を利用し、『堪忍記』における『迪吉録』の引用を思想的側面から考察することが必要であると考えられる。

以上の先行研究状況を踏まえて、本稿では、浅井了意の仮名草子における中国明末の勸善思想家顔茂猷著『迪吉録』の影響を中心に検討し、その『迪吉録』受容の特徴を明らかにすることを試みたい。具体的には、まず顔茂猷の勸善思想の特質を示して『迪吉録』の内容構成を紹介し、次に『迪吉録』が『堪忍記』『浮世物語』で如何に受容されたのかを考察する。最後に、茂猷と了意との共通点と相異点に注目し、先行研究に見られる了意の中国善書文化の受容と照らし合わせて彼の『迪吉録』に対する受容態度を明らかにする。

13) 柳牧也(2004)「『堪忍記』についての疑義—その構成と内容のこと—」『近世初期文芸』第21号、近世初期文芸研究会、pp.24-37.

14) 浅井了意著、坂巻甲太校訂(1993)『浅井了意集』国書刊行会、pp.319-324.

15) 小川武彦(1975)「『堪忍記』の出典・上の一 —中国種の説話を中心に—」『近世文芸研究と評論』第10号、近世文芸研究と評論の会、pp.52-68、同氏(1977)「『堪忍記』の出典・上の一 —中国種の説話を中心に—」『近世文芸 研究と評論』第13号、近世文芸研究と評論の会、pp.1-12.

16) 花田富二夫(1997)「浅井了意の文事」長谷川強編『近世文学俯瞰』汲古書院、pp.47-62、具体的には『堪忍記』第十三章の五、第廿一章の四・五、第廿三章の三の四話である。

3. 勸善思想家顔茂猷と『迪吉録』

本章では、勸善思想家顔茂猷の生涯と代表作『迪吉録』¹⁷⁾を簡単に紹介する。

顔茂猷は、字は壯其あるいは光衷、中国福建省漳州府平和県出身の人である。天啓四(1624)年に茂猷は挙人になり、死去する三年前の崇禎七(1634)年に進士を特賜されたことから、郷紳¹⁸⁾としてその一生を過ごしてきたといえよう。実は彼は「郷紳は国の望みであり、家に居て善を為せば、郡県を感化させ、州里によい風習をもたらし、後進を培育することができる。その功績は士人に比べると百倍になる」¹⁹⁾(筆者訳)²⁰⁾とあるように、郷紳と士人の身分・資格を区別していた。ここでいう「善を為せば」の具体的な行動として、茂猷が郷里の士人を集め、三教兼修・道德実践を促す雲起社の結社が挙げられよう。彼の著作集である『顔壯其集』²¹⁾にも「為善は衆生の済度・勸化をもって第一とする。(中略)若し有志者を得て(勸善)の荷担を興起すれば、人の心もこの世も円満になる」²²⁾とあるように、茂猷は講学活動を行い絶えず行善を实践することによって、社会全般における善い気風の醸成と善い人材の育成に努めていた。

『迪吉録』は、茂猷の勸善思想及び知識人としての立場を示した著書であり、

17) 国立公文書館所蔵『迪吉録』は明崇禎四(1631)年版(請求番号：子 077-0009)と清乾隆四十三(1778)年版(請求番号：308-0097)の二種類の版本がある。明版は清版より一巻多く首巻がある。本稿では、清版を参考にしつつ、明版を底本にしており、以下は『迪吉録』と略記する。

18) 寺田隆信(2009)『明代郷紳の研究』京都大学学術出版会、p.371。本書において、「郷紳」は生員・監生・挙人・進士などの身分乃至資格をもち、郷里に居住する者の総称であったと定義付けられている。

19) 『迪吉録』(度集・郷紳家居懿行之報)、54上。原文は、「郷紳、國之望也。家居而為善、可以感郡縣、可以風州里、可以培後進、其為功化、比士人百倍」。

20) 以下、特に断りがない限り、中国語の訳は筆者による。

21) 『顔壯其集』の現存する刊行本として、国立国会図書館所蔵の明末刊行本『顔壯其集』十六冊(合五冊)(請求記号：YD-古-6781~6782)、国立公文書館所蔵の明末刊行本『雲起集』十二冊(請求番号：308-0104)が挙げられる。『雲起集』に収録された「雲起会語」が『顔壯其集』にはないにもかかわらず、両者は内容的にほぼ一致していると指摘されている(前掲書、呉震(2016)、p.79)。本稿は国立国会図書館所蔵の明刊本『顔壯其集』を参考にし、以下『顔壯其集』と略記する。

22) 『顔壯其集』(第七冊・雲起説鈴)、65上~65下。原文は「為善以度人勸化為第一。度人勸化必以共了性命為極則。若得有意思者興起擔荷、便會滿心滿世也」。

官民間わず有益なものであったとされている。『迪吉録』は首巻と本文の八巻から成っている。その構成を見てみると、「一卷」から「度巻」までの四巻は官鑑で、いわゆる官僚の行うべき道德の事例の説話を鑑戒として具体的に示したものである。「兆巻」から「平巻」までの四巻は公鑑であり、孝悌など家族道德から始まり、明末の庶民道德一般に関する事例を述したものである。各巻名の頭文字、すなわち「一・心・普・度・兆・世・太・平」には「一心に(衆生を)濟度すれば兆世が太平になる」という意味的なつながりがあり、そこに『迪吉録』の思想的趣旨が示唆されていると考えられる。「平巻」の末尾には、婦徳に関する事例を集めた篇として女鑑が附される。『迪吉録』は歴史的な事例を大量に引用し、説話の末尾に自らの評論を付け加えて勸善懲悪を訓戒することが特徴である。

『迪吉録』自序の冒頭において、茂猷は「世界は只此の慈悲で一脈を引接する。天帝は之をもって法界を監督し、聖賢仙佛は之をもって衆生を濟度し、(中略)閻魔大王は之をもって幽冥界を監査する」²³⁾ということを示し、一儒者として仏・道を融合し、慈悲心をもって勸善を行い救世する趣旨を明確に示した。

以上で述べたように、茂猷は、官民間わずに皆、因果応報に従うものであり、自ら積善を行い、人に勸善を行うように常に努めることこそが人生一大事だという趣旨を『迪吉録』で一貫して主張したのである。

4. 顔茂猷著『迪吉録』を中心に

本章では、まず『堪忍記』『浮世物語』において『迪吉録』の徳目・著者の評論(=原著の思想)がどのように受容されたのかを考察し、原著全体に対する了意の横断的な利用は如何なるものかを示す。最後に顔茂猷と比較して、自らの著作に相乗効果を生み出すための了意の配慮を整理する。

23) 『迪吉録』(首巻・迪吉録自序)、1上~1下。原文は「世界至此慈悲接引一脈，天帝以之提轉法界，聖賢仙佛以之超度群倫，(中略)閻羅大王以之殛察幽冥」。

4.1. 『迪吉録』全体への横断的な利用

了意は茂猷の勸善思想と『迪吉録』を全体的に把握した上で、原著に対する横断的な利用を自由にかつ柔軟に遂行したと推察される。以下では、『堪忍記』『浮世物語』を例に原著の徳目(説話との対応関係)と著者の評論(思想)とに分けて考察する。

4.1.1. 原著の徳目

『堪忍記』は、浅井了意が堪忍の種類を性質・職業などに分けて主題毎に章立てを考え、女性のみならず人間全般に目を向けた書物として完成させたものである。上述したように、同書の全説話百七十話のうちの五十七話は『迪吉録』の影響を受けたとされている。この五十七話のうち、二十八話は原著『迪吉録』における徳目と説話との対応関係が明らかに読み取れると考えられるが、その一例を以下に示す。

『迪吉録』：「開封長婦幼婦生死巧換」²⁴⁾(平集・孝逆報)

『堪忍記』：「開封の翁が新婦の賢なる事」²⁵⁾(廿一 姑につかふる堪忍)

『迪吉録』の平巻女鑑門・孝逆報において、婦人は姑に誠を尽くして仕えるべきであるということが各説話に託して勸戒されている。孝逆報の下にある「開封長婦幼婦生死巧換」という説話では、開封の翁の貪欲な兄嫁が孝行心のある弟嫁の金を盗み、弟嫁を殺したことに天が怒り、雷に命じて罪のある兄嫁を殺し、弟嫁を生き返らせることが語られている。例に見られるように、了意は原著における徳目と説話との対応関係のまま、『堪忍記』第廿一章「姑につかふる堪忍」において、嫁が姑に孝行を尽くすべきであるという趣旨を「開封の翁が新婦の賢なる事」に託して強調した。

一方で、原著における説話と徳目に一対一ではなく、柔軟に対応する話数は二十九条と考えられる。その例を以下のように示す。

24) 『迪吉録』(平集・孝逆報)、72 下～73 下。

25) 『了意全集』(仮名草子編 1・堪忍記)、pp.137-139。

『迪吉録』：「馬翁不以愛子狀其婢再生子貴顯」²⁶⁾(兆集・寛下之報)

『堪忍記』：「宋の馬翁公被官をめぐみし事」²⁷⁾(九 主君の堪忍)

『迪吉録』：「劉寛仁洽三郡官至上公」²⁸⁾(度集・吏治循良之報)

『堪忍記』：「後漢の劉寛か事」²⁹⁾(九 主君の堪忍)

上記の例に挙げた『堪忍記』の二つの説話は共に第九章「主君の堪忍」に収録されている。ここでは、貴賤・上下の品を問わず、人の主君となる者は、部下に慈しみ深く接し、咎をなだめて、何事にも堪忍すべきであることが教訓とされている。了意は、主君が部下に激しくあたれば、家は和合しなくなり、次第に国は乱れるため、これより大きな損はないと主張している。そのため、彼は、家事使用人に寛大な処置を講じることが強調される「馬翁不以愛子狀其婢再生子貴顯」と、地方のまつりごとを治めるにあたって諸階層の人々に仁をもって接することが説かれる「後漢の劉寛か事」とを、共に第九章「主君の堪忍」に統括し、柔軟に原著を利用していた。

以上のように、了意は『迪吉録』元来の応報徳目と説話との対応関係に拘泥せず、職業や階層を超越した人間としてのつながりに注目し、原著全般を柔軟に取り入れることによって、より自由度の高い著述を遂行したとあってよいだろう。

4.1.2. 著者の評論(=原著の思想)

『迪吉録』の特徴が、茂猷が説話の末尾に自らの評論を付け加え読者に善悪応報・勸善懲悪を訓戒した歴史的説話集であることを前節で述べた。『堪忍記』の構成も『迪吉録』のパターンを受け継ぎ、説話の末尾に評論を付け加えるという形式である。本節では、原話の末尾に附される評論ともいべき著者の意見を了意がどのように受容したのかを考察する。

結論としては、了意は『迪吉録』を取り入れる際、個々の説話を単なる素材と

26) 『迪吉録』(兆集・寛下之報)、87 上～87 下。

27) 『了意全集』(仮名草子編 1・堪忍記)、p.53.

28) 『迪吉録』(度集・吏治循良之報)、7 上～8 上。

29) 『了意全集』(仮名草子編 1・堪忍記)、p.55.

して取り入れて再構成・再編集したのではなく、同じ応報徳目の下に集積した一連の原話の趣旨と評論を併せて参考にしたと考えられる。

その理由を示す例として、まず『堪忍記』から一話を挙げる。第七章「色欲をとどむへき堪忍」において、了意は性的な欲望をとどめる堪忍として全七話を例に挙げて述べており、そのうちの三話は『迪吉録』の内容と共通している。以下、その中から「王勤政が女を殺してむくひける事」を例示する。本説話の大意は次のようである。王勤政が隣人曹可叔の妻と深い契を交わしたく、二人で駆落ちすると約束した。しかし約束の日を待ちきれずに、彼女は夫を殺してしまった。王はそれを耳にして驚きのあまり逃げた。しかし、行く先の宿に二人分の食事が出されたことから、王はどれだけ遠く逃げたとしても不倫相手の夫即ち曹の亡霊が追ってくることに気付き、里に帰り自首したという話である。そして、末尾に以下のような了意の意見が附されている。

①かの色にまどひて忍ぶ事をわするれば、心は物に飽くことをしらず。いよいよほしむまゝにすれば、いよいよさかりにおこるぞかし。つとめてこれをつゝしめば、又をのづから心おさまる。儒道には、礼にかへれとすゝめたり。②人の妻ををかし、他のゆるさぬ娘ををかす。これまずその礼にそむく。③色欲の事は、鳥けだもの・昆虫の類にいたるまでいづれか愛せざる。人の人たる道より、をのれが欲にまかせて、ほしむまゝに無礼をおこなはず、なんぞ鳥けだものにたがはさらんや。④まして忍びざる非道より悪をまねき、わざわひをもとめ、身をほろぼし、命をうしなふ。まことにいましむへし。

『堪忍記』：「王勤政が女を殺してむくひける事」³⁰⁾

本説話に関して、素材として「王勤政誘奔婦不果然為鬼所隨」³¹⁾を受容したことがすでに前掲小川の研究によって明らかになっているものの、思想史的な側面として著者の評論に関する研究は深く行われてこなかった。王には曹を殺す気が

30) 『了意全集』(仮名草子編 1・堪忍記)、pp.35-37.ここでは論考上の便宜のため、引用文に①、②、③などで番号をつけておく。

31) 『迪吉録』(兆集・漁色宣淫之報)、73下。茂猷の評論の原文は「王勤政無欲殺其夫也、婦自計死之、而政以宣淫當其辜奸之謀殺也、殆非意所能規避與」。

なかったが、曹の妻が自ら計らい夫を死なせたという説話に対して、茂猷は「王は公然と淫乱をするから、姦通の意あつての謀殺に当たることになり、思うままに罰は避けられるものではない」とあるように、簡略に評論をつけた。

しかし、了意の評論は本説話に対する評論のみならず、当該説話と共に『迪吉録』の兆卷宣淫門・漁色宣淫之報に収録された「張舉子從擲釵婦相對就刃」³²⁾からも着想を得ていたと考えられる。具体的には、①は「若者の欲實は至らぬ所がない。口腹の欲と同様に、放縱するほど狂気になる。自ら身を慎むほど、益々恬淡となり欲が少なくなる」、②は「冥律曰く、人の妻を犯す者は子無き報を、人のうちの娘を犯す者は子孫淫乱の報を与えられる」、③は「己の欲に任せ無礼をふるまうことは鳥獸と異ならぬか」、④は「少しずつ忍びながら戒めていく方がました。人を傷つけずに済むし、陰徳も積む」といったところから、それぞれ相互に密接な相関関係が読み取れる。

つまり、了意にとって『迪吉録』は単なる話材の源泉のみならず、著者の評論をも参照できる書物であった。しかもこのような参照は、先ほど検討した徳目と同様に、了意が評論も横断的に柔軟に利用していたものであると推察される。

次に『浮世物語』からもう一例を示しておく。『迪吉録』の世卷機巧門・機巧僥幸之報「唐三盜以得金而喪命」³³⁾を翻案した『浮世物語』巻三の六「ぬす人の事」という説話がある。宝物を手にした三人の盗人がいた。飯を買いに行った一人が宝物を独占するために飯に毒を投与した。留守の二人が宝物を山分けするために飯を買ってきた人を殺そうとした。結局、投毒者は殺害され、殺人者も毒死したことが語られている。末尾に了意は以下のように意見を述べている。

そのことく、輕薄・表裡をいたす事、主君の氣にいりて物をもらひ、知行の加増をも給はらんと、たがひに目かけて、我人をそしり、人われをそしり、たがひに、へつらひうそをつく故に、天罰あたりて、両方ながら身上を滅却する、かの

32) 『迪吉録』(兆集・漁色宣淫之報)、74下～75上。茂猷の評論の原文は、「少年欲實，何所不至，辟如口腹嗜味，愈縱愈狂，力自斂飭，則益淡將去矣，(中略)陰律有云，姦人妻者，得絶嗣報，姦人室女者，得子孫淫泆報，(中略)何似漸忍漸戒，亦省些腸斷，累些陰功乎，有倡此蠱人者，罪亦必及之」。

33) 『迪吉録』(世集・機巧僥幸之報)、71下～72上。

ぬす人のたぐひなり。(前略)まことの侍は、人のよきをねたます、人のあしきをばかくしてひろめず、をのれ他人の善悪を鏡として身をつゝしみ、こと葉をつゝしみて礼あつく、心だて正直なり。国をおさむる主君は、この人をあけて用ひらるべし。たゞし、この人をする事、賢なる君にあらずしては。

『浮世物語』：「ぬす人の事」³⁴⁾

原話「唐三盗以得金而喪命」には評論が附されていない以上、これは原著と相異なる了意の独特な補足であり、人間の悪行に対する応報として天罰が与えられるという訓戒であるとうかがえよう。が、原著の同徳目「機巧僥幸之報」の下にある他の説話には茂猷が意見を付け加えている点を見落としてはならない。「春申君陰図受刺殺」³⁵⁾に「二人はこの意を立てる時はすでに神明を怒らせてしまった」、「宋齊丘沈景昇而誅死」³⁶⁾に「これはすなわち応報だ」、「李循模攘貢囑選不售竟恨死」³⁷⁾に「なんと鬼神がそれ故賞罰の意を示し善悪の報を顕彰するのではないか。ああ、畏れるべし」という評論がそれぞれ附されており、いずれも「ぬす人の事」に附した了意の評論と呼応していることが推察される。

ここまで見てきたように、了意は『迪吉録』を素材庫として題材を選択・利用したのみならず、原話の末尾に加筆された著者の評論、さらには、そこに含まれた中国明代の善書が持つ勸善懲悪的思想と因果応報的要素³⁸⁾も必要に応じて適宜取り入れたのであった。

4.2. 自著同士の相乗効果への配慮

以上のように、勸善懲悪的思想や因果応報的要素を複数の著作において機能させることによって、個々の著作がもたらす以上の結果を生み出すことは、著者の意識的な執筆活動であると考えられる。

34) 『了意全集』(仮名草子編 1・浮世物語)、pp.366-368.

35) 『迪吉録』(世集・機巧僥幸之報)、70 下。原文は、「二人立此意、已得罪神明矣」。

36) 『迪吉録』(世集・機巧僥幸之報)、71 上。原文は、「即此便是報應」。

37) 『迪吉録』(世集・機巧僥幸之報)、73 下。原文は、「豈非鬼神故示與奪之意、以彰善惡之報哉。吁、可畏也已」。

38) 成海俊(1996)「『明心宝鑑』が日本文学に与えた影響—ことに浅井了意の『浮世物語』を中心として—」『日本文学』第 45 巻第 6 号、日本文学協会、pp.11-21.

まず「堪忍」という仏教用語の用例を考えてみよう。『堪忍記』冒頭の第一章「忍の字の評」³⁹⁾において、了意は「堪忍」を「万事を心のままにふるまはず、つつしみつとめてよくこらゆるを、堪忍とは申す事也」と解釈し、娑婆世界、いわば堪忍世界⁴⁰⁾で生活を営む人々を対象に、儒教でいう五常や仏教でいう五戒⁴¹⁾を持って常に自らを戒め堪忍を第一とすることを本書の基調として定めた。「堪忍」は『堪忍記』各章の題目だけではなく、評論に当たる部分においてもキーワードとしてしばしば提示されている。「堪忍」という言葉が遍歴小説『浮世物語』において、了意の意見というべき主人公浮世房の諷誡教訓に当たる部分にも現れたことは注目に値する。

『浮世物語』巻二の三「大坂くんだり 付 大工異見物かたりの事」⁴²⁾にある「おやかた、異見するやう、万事みな、初めは成がたけれとも、功をつみて鍛煉すれば上手になる。とかく堪忍なければ、いつれの道も仕ならひおぼゆることなし」は、その一例である。これに対して、『堪忍記』第十四章「職人の堪忍」の冒頭⁴³⁾には「初めは立れもせず、しやれかうべも落やすけれども、つとめて堪忍し、やうやく調錬して、人をもばかすほどには成と聞えたり」と書いてある。よく見比べれば、両者は「堪忍」という言葉を共通に使用しただけではなく、「堪忍」を訓戒する際の口調も極めて一致していることがうかがえる。

次に、意識的に自著同士に相互に関連性を持たせるという点は、上記した『浮世物語』と『堪忍記』に共通な「堪忍」及び「堪忍」の教訓のみならず、『堪忍記』と了意著述の仏書『阿弥陀経鼓吹』^{あみだきょうくすい}との間にも見られる。

和田恭幸⁴⁴⁾は『阿弥陀経鼓吹』から「忍相具サニ予ガ所述ノ堪忍八軸二書ス」

39) 『了意全集』(仮名草子編1・堪忍記)、p.20.

40) 『了意全集』(仏書編1・阿弥陀経鼓吹)、p.670.原文は、「娑婆ハ梵語ナリ翻シテ堪忍ト云フ 悲華経曰云何名娑婆是諸衆生忍受三毒及諸煩惱能忍斯惡故名忍土矣」。

41) 五戒は仏弟子として守るべき五つの戒めであり、不殺生・不偷盗・不邪淫・不妄語・不飲酒の五つである。五常は仁・義・礼・智・信を指し、儒教倫理説の根本となる教義である。

42) 『了意全集』(仮名草子編1・浮世物語)、pp.343-345.

43) 『了意全集』(仮名草子編1・堪忍記)、p.90.

44) 和田恭幸(1992)「『堪忍記』の性格」『近世文芸』第55号、日本近世文学会、pp.1-8.

45)など「堪忍」にまつわる諸々の教訓を選出し『堪忍記』との比較検討を行った。本書が、仏教関係者が仏書で足りないところを『堪忍記』の中の説話で補う使命を担った存在であり、仏書とは別々に教化していないところから、『阿弥陀経鼓吹』から『堪忍記』への参照指示が出されたと指摘した。前田一郎⁴⁶⁾は、なぜ『堪忍記』に仏法宣揚の役割が付与されたかに関して、了意は早くから唱導を課題としながらも、三部経について解説してくれる人もおらず時期も合わなかったため、仮名草子という媒体を選んだと述べた。

一方、茂猷は『迪吉録』を警世救世の書と位置付け、「迪吉録全集は講読に備えて用いるものである」と述べ、本書を日常生活における手引きとして大いに参照してほしいと考えていた。こういった茂猷の願望は『顔壯其集』においても繰り返し述べられていた。『迪吉録』の利用場面や方法として、茂猷は「郷約の時に弁舌者を選抜し講読内容をその時ごとに変えるようにする。内容の順次更新は聞き手も話し手も倦厭にさせない。礼儀正しい講読の場に観衆も集まる。若し一郷の老少が集い共に聞き習うことができたなら、これが大禮大樂になる」⁴⁷⁾としたように、詳細に提案している。その理由として、「善事は常に身をもって行う。善人は常に口をもって講ずる。善書は常に世に向かって伝える。郷約の時に(中略)観衆が大勢集まるから、善書の伝播・教化が最も速い」⁴⁸⁾と彼は考えていた。

このように、茂猷は『顔壯其集』において『迪吉録』への参照指示、了意は『浮世物語』や『阿弥陀経鼓吹』において『堪忍記』への参照指示をそれぞれ出したのである。それは、両者ともそれらを個別の著作ではなく、自らの思想体系において民衆に善を伝え広め、正道を示す教材としての役割を果たす一書と位置付けたからではないかと考えられる。

45) 『了意全集』(仏書編1・阿弥陀経鼓吹)、p.671.

46) 前田一郎(1990)「浅井了意の思想—『勸信の論理』と仮名草子—」『眞宗研究』第34号、眞宗連合學會、pp.101-123.

47) 『顔壯其集』(第七冊・雲起説鈴)、65上～65下。原文は「迪吉録全集以備講説之用。若郷約時輪換講條、擇善講著次第迭説。(中略)蓋輪換講條、則聽者不厭、次第迭説、則講者忘倦、有禮有儀、則聳人觀瞻。若得招一郷父老兒童共習聽之、大禮大樂在是矣」。

48) 『顔壯其集』(第七冊・雲起説鈴)、54下。原文は「善事要時時在身、善人要時時在口、善書要時時在世。至郷約時、過舟時、和尚祭孤訪經時、觀者甚衆、傳化尤速」。

5. おわりに

本稿では、文筆に優れ、真宗教団の一員として仏教思想を立脚点に著書を記した浅井了意が、儒教を主導とする三教融合論者である顔茂猷の勸善思想及びその著書『迪吉録』をどのように受容したのかを整理した。その結果、了意が時代や読者に応じて個々の話材から道德綱目・著者評論だけではなく、自らの思想全体の枠組みにおける各著作の役割分担に至るまで、『迪吉録』を最大限かつ横断的に参照・利用していたことがうかがえた。

近世初頭の日本では、民衆を教化し社会を安定させるために、仏教は「政治の論理に基づき、全人民を対象に、人倫の指導者・思想善導の牽引車としての任務を負わされた」⁴⁹⁾のである。そうした時代の下で、了意は『堪忍記』において、人間は善悪がすべて天に知り尽くされ、天より自らの善悪行為に対応する賞罰を受けるため、日常生活を送る中で堪忍を第一として積善すべきことを訓戒していた。『堪忍記』の約六年後に著した『浮世物語』においても、了意は主人公浮世房の口を借りて現実社会を単に諷刺・批判するのではなく、善を為し天に応報を任せるといふ『堪忍記』に相通ずる趣旨を繰り返し伝えていた。

一方、明末清初期の中国においては、社会変動が非常に激しくなり、各階層の矛盾や衝突が日増しに深刻になっていた。このような乱世の中で生業を営む人々に精神的な安らぎをもたらし日々の行動指針を与える勸善書は、儒教の宗教化と三教一致的な道德実践化が同時進行する風潮の中で、盛行を極め広く読まれていた。そのような中で、茂猷は、人間は「元命自作、多福自求」を信じて儒教でいう孝悌忠信(=五倫)、仏教でいう戒行修心(=五戒)を日常生活の中で励行し、「常に善言を述べ、善事を談じ、善報を説く」⁵⁰⁾ことに努めるべきであると『迪吉録』を通して読者に訴えていた。

49) 長谷川匡俊(1979)「近世浄土教における理想的僧侶像」圭室文雄・大桑斉編『近世仏教の諸問題』雄山閣、p.197.

50) 『迪吉録』(世集)、1上。原文は、「時時述善言、談善事、説善報、則度已多矣」。

成の研究⁵¹⁾と照らし合わせてみると、今の身分や地位を素直に受け止め、ひたむきに因果応報を信じて為善すれば必ず天道から善報を与えられるということが、了意の中国善書文化を受容する際の共通的态度であることがうかがえる。そもそも勸善の本質が人々の精神生活を向上させたいという願望を特徴としており、明末善書流通と善行実践の動力源ともなっていたという状況が中国の明清時代にも日本の江戸時代にも共通して見られる⁵²⁾。

しかしながら、顔茂猷と浅井了意の思想のよりどころの相異点について考察すると、顔茂猷は社会秩序の再建や世道人心の改善に苦心し、善書の普及や道徳の向上に大きな役割を果たした一儒者・一郷紳であった。それに対して、浅井了意は不遇な流浪生活を長期にわたり送ったが、「学を志して唱導を懐う」⁵³⁾という人間教化への本懐に変わりがなく、遂に出家得度をして大谷派に帰参した一仏者・一僧侶である。つまり、境遇や思想的背景を異とする両者の儒仏道の三教融合を捉える視座が根本的に異なっているのである。

なお、本研究を通して儒教的・世俗的孝から仏教的・究極的孝へと漸進する了意の孝道論も興味深い課題であるという認識を得たが、この点は別稿を期したい。

〔後記〕本稿は韓国日本文化学会2018年度第55回国際学術大会における報告を基に大幅に加筆・修正した上でまとめたものである。

【参考文献】

小川武彦(1975)「『堪忍記』の出典・上の一 ―中国種の説話を中心に―」『近世文芸 研究と評論』第10号、近世文芸研究と評論の会、pp.52-68

51) 成海俊(2001)「『堪忍記』の思想―『明心宝鑑』からの引用を中心に―」『日本思想史研究』第33号、日本思想史研究会、pp.56-69.

52) 肖琨(2015)「善書をめぐる近世仏教の交流」末木文美士編『比較思想から見た日本仏教』山喜房佛書林、pp.142-157.

53) 『了意全集』(仏書編3・観無量寿経鼓吹)、p.729.原文は、「吾昔志于学懐于倡導而無人之解與亦不遇時輕毛飄々徒老矣」。

- 小川武彦(1977)「『堪忍記』の出典・上の二 —中国種の説話を中心に—」『近世文芸 研究と評論』第13号、近世文芸研究と評論の会、pp.1-12
- 黄昭淵(1999)「中国善書の受容と怪談・奇談の展開：仮名草子・浮世草子を中心に」早稲田大学、博士論文
- 黄昭淵(2004)『일본 근세문학과 선서』보고사
- 呉震(2016)『明末清初勸善運動思想研究』(修訂版)上海人民出版社
- 酒井忠夫(1960)『中国善書の研究』弘文堂
- 酒井忠夫(1999-2000)『増補中国善書の研究 上・下』国書刊行会
- 肖琨(2011)「江戸期善書に関する研究」立命館大学、博士論文
- 肖琨(2015)「善書をめぐる近世仏教の交流」末木文美士編『比較思想から見た日本仏教』山喜房佛書林
- 寺田隆信(2009)『明代郷紳の研究』京都大学学術出版会
- 中村幸彦(1961)『近世小説史の研究』桜楓社
- 成海俊(1996)「『明心宝鑑』が日本文学に与えた影響—ことに浅井了意の『浮世物語』を中心として—」『日本文学』第45巻第6号、日本文学協会、pp.11-21
- 成海俊(1999)「日本における『明心宝鑑』受容の思想史的研究」東北大学、博士論文
- 成海俊(2001)「『堪忍記』の思想—『明心宝鑑』からの引用を中心に—」『日本思想史研究』第33号、日本思想史研究会、pp.56-69
- 野間光辰(1972)「了意追跡」北条秀雄『改訂増補浅井了意』笠間書院、pp.227-267
- 長谷川匡俊(1979)「近世浄土教における理想的僧侶像」圭室文雄・大桑斉編『近世仏教の諸問題』雄山閣
- 花田富二夫(1997)「浅井了意の文事」長谷川強編『近世文学俯瞰』汲古書院
- 富士昭雄(1966)「伽婢子の方法」『名古屋大学教養部紀要』第10輯、pp.1-18
- 富士昭雄(1967)「浅井了意の方法—狗張子の典拠を中心に—」『名古屋大学教養部紀要人文科学・社会科学』第11輯、pp.30-47
- 北条秀雄(1972)『改訂増補浅井了意』笠間書院
- 北条秀雄(1974)『新修浅井了意』笠間書院
- 前田一郎(1990)「浅井了意の思想—『勸信の論理』と仮名草子—」『眞宗研究』第34号、眞宗連合學會、pp.101-123
- 前田金五郎(1965)「『浮世物語』雑考」『國語國文』第34巻第6号、京都大學國文學會、pp.29-54
- 前田金五郎(2005)『近世文学雑考』勉誠出版
- 柳牧也(2004)「『堪忍記』についての疑義—その構成と内容のこと—」『近世初期文芸』第21号、近世初期文芸研究会、pp.24-37
- 游子安(1999)『勸化金箴：清代勸善書研究』天津人民出版社

和田恭幸(1992)「『堪忍記』の性格」『近世文芸』第55号、日本近世文学会、pp.1-8

論文投稿日：2018.10.11

論文審査日：2018.11.07

掲載確定日：2018.11.09

〈要旨〉

浅井了意における中国明末善書文化の受容
—顔茂猷著『迪吉録』を中心に—

董航

中国善書は近世日本に伝来した後に、外来文化として当時の知識人によって受容され再編されることが進められていた。浅井了意(生年不詳～1691)は国文学、特に近世文学史上において、非常に名声の高い仮名草子の代表的な作者であると同時に、浄土真宗大谷派の僧侶でもある。彼の教訓書『堪忍記』・遍歴小説『浮世物語』が共に中国明末勸善思想家顔茂猷(1578～1637)が著した善書『迪吉録』を取り入れたことは従来の研究で明らかになっている。

本稿の目的は、浅井了意の仮名草子における中国明末の勸善思想家顔茂猷著『迪吉録』の影響を中心に検討し、彼の中国明末善書文化の受容姿勢を明らかにすることである。具体的には、まず顔茂猷の勸善思想の特質を示して『迪吉録』の内容構成を紹介する。次に『迪吉録』が『堪忍記』『浮世物語』で如何に受容されたのかを考察する。最後に、茂猷と了意との共通点と相異点に注目し、先行研究における了意の中国善書文化の受容と照らし合わせて、彼の『迪吉録』からの参照利用を究明する。

Asai Ryo'i's acceptance of moralistic culture in the Late Ming Dynasty of China
—Focusing on Yan Maoyou's *Tekkitsuroku*—

Dong, Hang

Chinese Zensho, which means Chinese common moralistic books, were creatively rebuilt by intellectuals in Early Modern Japan; their arrival during this period resulted in a kind of “mainlandization” that had an impact on subsequent cultures. Asai Ryo'i, born circa 1691, was a highly renowned author of Kanazōshi in the field of national literature—with a focus in modern literature—and a Buddhist monk of Jodo Shinshu Otani-ha. It has been acknowledged that Zensho *Tekkitsuroku*, written by the moralistic philosopher Yan Maoyou (1578-1637) in the Late Ming Dynasty of China, was accepted by Ryo'i and adopted in his admonitory book *Kanninki* and itinerant novel *Ukiyomonogatari*.

The main purpose of this paper is to discuss how Maoyou's moralistic thought and *Tekkitsuroku* had an influence on Ryo'i's Kanazōshi, as well as provide evidence that illuminates Ryo'i's accepting attitude toward Chinese Zensho in the Late Ming Dynasty of China. The paper is organized in the following manner: first, I will outline the characteristics of Maoyou's moralistic thought and introduce the composition of *Tekkitsuroku*; second, I will elucidate the reception of *Tekkitsuroku* in Ryo'i's books, *Kanninki* and *Ukiyomonogatari*; and third, I will compare the obtained results with existing research on Ryo'i's Buddhist evangelist considerations of Chinese moralistic culture and clarify his acceptance of *Tekkitsuroku* while focusing on the similarities and differences between Ryo'i and Maoyou.

소셜마케팅을 활용한 공익캠페인 효과

— 일본과 국내외 기업문화 사례를 중심으로 —

이진희*

(e-mail : jinnybest@gmail.com)

< 목 차 >

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 서론 | 3. 사례 연구 |
| 1.1 연구배경과 목적 | 3.1. 국내 기업 사례 |
| 1.2 연구방법과 구성 | 3.2. 일본 기업 사례 |
| 2. 이론적 고찰 | 3.3. 해외 기업 사례 |
| 2.1. 소셜마케팅과 공익연계마케팅 | 4. 결론 및 제언 |
| 2.2. 기존 연구 고찰 | |

キーワード : 企業の社会的責任(Corporate social responsibility), ソーシャルマーケティング(Social marketing), 概念的理解と公益連携マーケティング(Social and cause-related marketing), 企業文化 (Corporate culture), 社会的価値(Social value)

1. 서론

1.1 연구배경과 목적

우리 생활에서 마케팅이란 단어는 광고와 마찬가지로 친숙하고 21세기 기업에서 마케팅은 필요하고 중요하다고 생각한다. 따라서 일반 소비자들은 마케팅 하면 매출을 올리기 위한 하나의 상술인 상업 마케팅을 많이 인식하고 있다. 그 예로 콜라나 커피하면 코카콜라, 펩시콜라를 떠올리고 스타벅스 커피를 생각하게 된다. 제품을 떠올릴 때 어느 순간 브랜드를 같이 생각하게 된 것이다. 그러나 음주운전방지 캠페인이나 마약 금지 캠페인하면 공익광고를 떠올리지 브랜드를 떠올리지는 않는다. 기업이 세계적인 제품 브랜드를 갖기 위해서는 소비자가 원하는 것을 끊임없이 조사하고 그들의 욕구를 충족시킬 수 있는 제

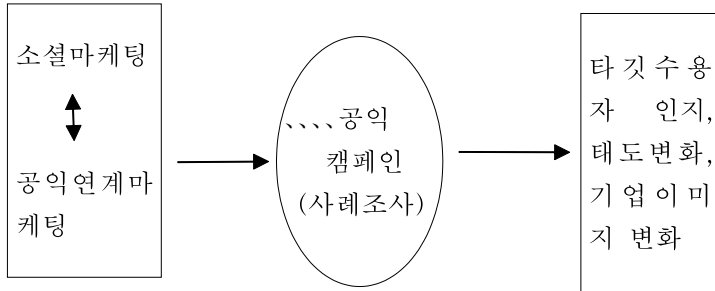
*、송실사이버대학교 경영학부 교수 마케팅 전공

품을 개발한다. 그리고 적절한 가격을 측정해서 타깃 소비자가 구매하기 편한 곳에서 제품을 유통한다. 또, 브랜드 개발과 광고, 다양한 프로모션을 통해 제품을 소개하고 이미지를 높임으로써 소비자가 구매할 수 있도록 전략을 세우고 실행한다. 이러한 과정을 통해 기업은 이윤을 추구하며 연구와 개발에 투자해 브랜드 가치를 올리기 위해 애쓴다. 이런 마케팅 활동을 활용해 소비자 개인적 가치향상 뿐 아니라 사회적인 가치를 높일 수 있는 방법은 무엇인가에 대한 답이 소셜마케팅이다. 소셜마케팅의 대표 학자인 마이클 로스차일드(Michael L. Rothschild), 앨런 안드리아슨(Alan R. Andreasen) 등은 소셜마케팅의 정의를 개선하고 보완해 소셜마케팅을 하나의 분야로 정착시켰으며, 여러 가지 건강과 사회문제를 해결하는데 적용시켜 왔다. 소셜마케팅은 특히 공중보건 분야에서 행동 변화에 효과적인 전략과 원리로써 채택되어왔다. 상업 마케팅은 소비자의 제품 구매를 통한 기업의 이윤이 우선이며, 소셜마케팅은 마케터의 이윤 추구가 아닌 타깃 수용자의 행동 변화를 통해 건강하고 질 높은 삶을 지향함으로써 사회의 이익을 실현하는 데 목적이 있다. 21세기의 소비 문화는 개인적 욕구 만족에서 그치는 것이 아니라 개인적 삶의 가치 더 나아가 사회적 가치와 사회적 이익을 추구하기 위한 것이다. 이에 따라 사회적 공익 캠페인이 효과적이기 위해서는 소셜마케팅 전략을 활용하여 타깃 수용자의 태도를 전환시켜 사회적 이익을 추구해야 할 것이다. 따라서 본 연구의 목적은 소셜마케팅의 개념적 이해와 공익연계마케팅을 통해 기업이 이기적인 이익이 아닌 사회적 가치와 사회적 이익을 실현하기 위한 방법을 도출하고자 한다. 이를 위해 국내, 일본, 해외 기업문화 캠페인 사례를 중심으로 살펴보고자 한다. 또, 여러 사례 고찰을 통해 공익 캠페인의 효과를 높이기 위한 여러 방안과 아이디어를 창출해 사회적 가치와 사회적 이익을 실현하는데 도움이 되고자 한다.

1.2 연구 방법과 구성

본 연구는 이론적 고찰과 기존 연구 자료를 중심으로 사례를 살펴보고 당면한 사회적 문제 해결을 위한 소셜마케팅 활용전략을 도출해내고자 한다. 따라서 소셜마케팅과 공익연계마케팅의 개념과 정의를 살펴보고 기존 연구를 통해 사례의 효과성을 알아본다. 국내와 일본, 해외사례를 토대로 비교분석하여 결론을 도출하고자 한다. 본 연구의 구성은 서론에서 연구배경과 목적, 연구방법과

구성에 대해 설명하고 본문에서 이론적 고찰을 통해 기존 연구와 사례분석을 살펴보고자 한다. 또한 이를 비교 분석하여 결론과 제언을 제시하고자 한다.



<그림 1> 연구 방법

2. 이론적 고찰

2.1. 소셜마케팅과 공익연계마케팅

마케팅의 유명한 학자인 필립 코틀러와 제럴드 잘트만(Philip Kotler & Gerald Zaltman, 1971)이 소셜마케팅을 정식으로 소개했으며, 소셜마케팅을 “제품의 기획, 가격 책정, 커뮤니케이션, 유통, 마케팅 조사 등을 개입시켜 아이디어(social ideas)를 수용할 수 있도록 하는 프로그램을 고안하고 실행하며 통제하는 과정”이라고 정의했다. 이를 토대로 소셜마케팅이라는 분야가 틀을 마련하게 되었다. 소셜마케팅은 주로 흡연, 마약, 폭력, 폭음 등 사회문제 중 건강과 관련된 문제를 주로 다루었다. 이는 소셜마케팅이 기존의 상업마케팅과 달리 수용자가 원하는 제품 혹은 서비스를 제공해 자발적인 행동을 유도함으로써 ‘행동의 변화’를 추구하기 때문이다. 예를 들어 금연 캠페인의 경우, 소셜 마케팅은 흡연자가 왜 흡연을 하는지, 어떻게 하면 흡연보다 금연이 더 유익하다는 것을 느끼게 할 수 있는지, 흡연 행동을 유도하는 요인은 무엇인지, 혹은 흡연의 습관을 깰 수 있는 다른 대체 행동이나 대체품은 없는지 고민하고 이에 대한 전략을 수립해 자발적인 금연을 유도하는 것이다. 소셜마케팅은 마케팅에 그 뿌리를 두고 있기 때문에 기획과정이 상업 마케팅과 같다. 소셜마케팅의 기획과정은 첫째, 해결해야 할 사회문제를 분명히 정의하고 어떤 방향으로 해결

해야 할지 의도(Purpose)와 초점(Focus)을 정한다. 둘째, 상황 분석(situation analysis)을 한다. 셋째, 타겟 수용자를 잠정적으로 설정한다. 넷째, 구체적인 목표와 목적을 설정한다. 다섯째, 타겟 수용자를 상대로 한 조사연구를 통해 권장 행동을 가로막는 장애나 경쟁 행동, 권장 행동을 촉구하는 이점, 다른 영향요인 등을 찾아낸다. 여섯째, 포지셔닝(positioning) 전략을 수립하고 브랜딩을 고려한다. 일곱째, 전략적 마케팅 믹스를 개발한다. 여덟째, 소셜 마케팅 프로그램의 모니터링과 평가 계획을 수립한다. 아홉째, 예산을 수립하고 자금조달 방법을 모색한다. 열 번째, 구체적인 실행 계획을 세운다. 사회적 가치를 목적으로 하는 것은 공익연계마케팅도 마찬가지이다. 이렇게 사회적 가치와 사회적 공헌이 중요시 된 것은 기업의 사회적 책임과 관련이 있다. 사회적 책임은 1960년대 미국을 중심으로 나타났다. 당시 기업들이 이윤추구와 주주이익 극대화를 목표로 급속히 성장하면서 노동착취 등의 문제가 제기되고 비난 여론이 거세게 일었으며 기업이 사회구성요소로서 사회가 함께 성장해야 한다는 개념에서 사회적 책임이라는 말이 사용되었으며 2000년 이후에는 기업의 윤리성, 투명성과 맞물려 기업경영의 한 기준으로 판단되고 있다. 최근 글로벌 금융위기 이후 전세계적으로 기업의 사회적 책임에 대해 관심이 커졌다. 미국 조지아대학교 아치 캐럴 교수는 기업의 4가지 책임 중 하나로 자선적 책임 강조했다. 자선적 책임은 사회적 책임과 같은 의미로 사회적 기부, 보육시설 운영, 사회복지시설 운영 등 사회의 공익을 위한 자선활동을 할 책임으로 정의하였다. 이런 환경적 영향으로 공익연계마케팅은 기업의 사회적 책임 활동의 하나로 소비자의 구매를 통해 얻은 수익의 일부를 자선활동이나 공익에 기부하는 마케팅이라고 정의할 수 있다. 즉, 기업의 이윤과 이미지를 높이고 소비자를 기업 활동에 참여하도록 하며 기업이 후원하는 비영리 단체를 통해 기업의 자원과 인지도를 빌어 사회문제를 해결할 수 있는 전략이다. 따라서 소셜마케터는 전략적 문제 뿐 아니라 윤리적 문제도 함께 고려해야 한다. 공익연계마케팅과 기업의 사회적 책임 활동은 점점 활발해지고 있으며 불가피한 것으로 여겨진다. 2010년 미국에서의 소비자 조사에 따르면 기업이 공익을 지향했으면 좋겠다는 답이 89%였고, 기업의 공익활동에 직접 참여하고 있다 라는 답이 78%였다. 이 중 거의 절반은 공익과 연계된 물건을 산다고 답했다. 이렇게 소비자가 기업의 사회적 책임 활동을 요구하고 지지하는 것은 전 세계적으로 증가하는 추세이다. 사회적 가치 향상을 목적으로 하는 소셜마케팅과 공익연계마케팅은 서로 비슷하게 생

각할 수 있다. 그러나 차이점이 있다. 둘 다 공익을 실현한다 하더라도 공익연계마케팅의 핵심은 기업의 이윤에 있으며 소셜마케팅은 개인의 행동변화라는데 있다. 그러나 기업은 모든 사회책임 활동이 공익연계마케팅처럼 직접적으로 이윤추구와 관련이 없더라도 여러 사회 자선활동을 통해 기업 이미지와 신뢰제고라는 목적을 기반으로 두고 있다. 소셜마케팅의 주체는 보통 비영리단체로서 예산과 자원의 부족으로 포괄적인 프로그램이나 프로그램 평가를 할 수 없다는 어려움이 있다. 또한 대중의 관심을 끌기 위해 여러 사회문제나 이슈들이 경쟁을 벌이기 때문에 대중의 관심을 받기 어려운 경우가 많다. 따라서 타겟 수용자의 행동변화를 유도하기가 어려워진다. 이에 소셜마케터가 사회적 책임 활동을 하려는 기업과 전략적인 파트너십을 체결한다면 더욱 효과적인 소셜마케팅 전략을 세울 수 있게 될 것이다. 즉, 공익연계 마케팅과 소셜마케팅을 연결하면 사회적 공익을 실천하고 공익캠페인의 효과를 높일 수 있다.

2.2. 기존 연구 고찰

소셜마케팅에 대한 기존 연구는 주로 소셜네트워크 마케팅이나 소셜미디어 마케팅 등을 다뤘다. 이원영은 2017년 대한산업안전협회 학술연구에서 소셜마케팅과 큐레이션 미디어: 소셜네트워크에 대한 내용을 연구하였으며 병무청과 경영컨설팅연구 2017년 학술연구에서는 1인 미디어시대의 소셜마케팅, 소셜미디어 마케팅에 대한 연구를 하였다. 주로 SNS를 통한 소셜마케팅의 방법과 소셜마케팅의 변화에 대해 기술한 것이다. 또한 공익연계마케팅 연구에 있어서도 SNS를 활용한 연구가 대부분이었다. 방진숙의 2016년 숙명여자대학교 석사논문인 SNS를 이용한 공익연계마케팅의 설득효과 연구에서도 소셜네트워크를 활용한 효과에 대해 분석하였으며, 김동훈의 2017년 박사논문에서는 공익연계마케팅의 광고 소구 유형이 소비자 태도에 미치는 영향에 관한 연구를 통해 소비자에 영향을 미치는 광고에 대한 분석을 하였다. 이렇게 기존의 연구가 소셜마케팅과 공익연계마케팅을 연결한 효과분석 보다는 많이 활용하고 있는 소셜네트워크나 소셜미디어 부분에 초점이 맞춰져 있다. 따라서 본 연구에서는 연구 목적에서 밝힌 바에 따라 소셜마케팅과 공익연계마케팅이 사회적 문제와 관련된 공익캠페인을 타겟 대상에게 어떻게 효과적으로 수용되어 행동변화를 가져 올 것인가에 대한 사례연구를 통해 앞으로의 공익캠페인 전략을 세우고 실행하는데 도움을 줄 수 있다는데 의미가 있다.

3. 사례 연구

3.1. 국내 기업 사례

..소셜마케팅을 공익연계마케팅으로 연결할 때 효과적인 것이다. 공익연계마케팅의 시작은 1983년 미국의 아메리칸 익스프레스 카드회사가 자유의 여신상을 복구하기 위해 소비자가 카드를 쓸 때마다 1센트를 자유의 여신상 재단에 기부한 데서 찾을 수 있다. 당시 아메리칸 익스프레스는 총 170만 달러를 기부했으며 28%의 수익률 증가를 이루었다. 이런 마케팅 활동은 활발히 진행되고 있다. 요플레 브랜드는 소비자가 요플레 제품을 산 후 그 뚜껑을 회사에 보내면 핑크 리본 캠페인으로 잘 알려진 수잔코멘 유방암재단에 10센트를 기부하는 ‘생명 구하기’ 캠페인을 진행했다. 이 캠페인은 12년간 계속 진행되었고 그 결과 총 2,500만 달러를 기부했다. 국내에서도 1995년 삼성전자의 ‘작은 나눔 큰 사랑’ 캠페인은 공익연계 마케팅의 효시로 여겨진다. 이는 소비자가 제품을 구매할 때마다 구매가의 1%를 고객이 지정한 사회복지기관에 후원하는 캠페인으로 총 300여억 원을 기부했다. 또, 홈플러스의 ‘생명의 쇼핑카드’는 203개의 제휴사가 함께하는 캠페인으로 제품을 구매하면 구매액의 1%를 소아암이나 백혈병을 앓는 어린 환자들을 위해 기부한다. 아웃도어 브랜드 라푸마는 ‘깃대 중 보호 캠페인’으로 수익금의 일부를 생태환경을 살리는 데 지원했고 오투기는 진라면의 판매 수익금 5%와 천하무적 야구단의 광고 출연료를 ‘꿈의 구장’ 건립기금으로 기부했다. 국내 기업들도 공익캠페인에 소셜마케팅을 적용한 사례가 많이 있다. 오비맥주 카스가 온라인 공익광고를 통해 음주운전 예방 캠페인을 펼쳤다. 오비맥주는 연초 잦은 술자리와 회식 등으로 발생할 수 있는 음주운전 사고를 예방하기 위해 카스의 ‘건전 음주 캠페인’ 영상을 제작해 공식 페이스북과 인스타그램, 유튜브와 소셜미디어 등에 공개했다. 광고 캠페인은 ‘부딪쳐라. 끝까지 Fresh하게!’라는 메시지를 주제로 즐겁고 책임 있는 술자리를 만들자는 취지로 기획했다. 소비자들이 평소 음주운전에 대해 갖고 있는 생각과 행동을 살펴보기 위해 몰래 카메라 형식으로 제작했다. 총3편으로 1,2편에서는 주인공들이 음주운전을 시도하려는 과정에서 주변 친구들이 어떤 반응을 나타내는지 보여준다. 음주운전을 시도하려 하자 친구들이 음주운전을 만류한다. 마지막 편은 술을 마신 후 대리 운전기사를 기다리고 있는 주인공을

위해 가족이 일일 대리기사로 깜짝 등장해 용기와 격려를 전하는 내용으로 음주운전의 경각심을 높이면서 가족애와 감동의 메시지를 전달하였다.

같은 기업의 사회공헌 공익캠페인이라도 국민들이 커다란 관심을 지닌 고질적인 사회 문제를 대상으로 활동을 펼치는 게 더 주목을 받게 된다. SK의 ‘자녀 안심하고 학교 보내기’와 같이 한국 사회가 지닌 문제를 해결하기 위한 사회 공헌 활동 캠페인이 이에 해당된다. 또, 삼성생명의 ‘생명의 다리’ 캠페인이 스토리텔링화하고 있으며, 이를 모방한 프로그램들이 나오고 있다. OECD 국가 중 자살률 1위인 우리나라의 사회 문제를 해결하기 위해 삼성생명은 작은 아이디어의 불빛을 켜다. 우리나라에서 투신자 수가 가장 많은 장소인 마포대교에 생명의 희망을 불어넣기로 한 것이다. 어두운 밤에 사람이 지나가면 자동으로 불빛이 켜지고 “밥은 먹었어?”, “내일은 해가 뜬다”와 같이 다정하게 말을 거는 듯한 메시지를 붙여 극단적인 선택을 피할 수 있게 도와주었고, 마포대교를 생명의 다리로 바꾸었다.

우리나라 기업 중 글로벌 사업을 하는 기업들은 국내뿐만 아니라 해외에서도 사회 공헌 활동을 펼치고 있다. 예를 들면 삼성 베트남 법인은 부산에서 베트남 신부 피살 사건이 일어나자 현지에 한국에 시집 올 신부들을 위한 ‘신부교실’을 설립했다. 이 예비 신부들에게 한국의 문화, 역사, 생활상식, 요리 등을 가르치고, 현지 실사팀까지 꾸려 한국의 베트남 다문화 가정을 직접 방문해 애로사항을 듣고 상담해 주고 있다. 여러 사례를 통해 소셜마케팅과 공익연계마케팅을 연결한 공익캠페인 전략은 기업이 갖고 있는 쟁점을 해결하면서 동시에 마케팅력을 강화하고 사회공헌적 활동을 펴는 기업 이미지를 한층 높여줄 수 있다. 기업이 이윤추구에만 몰두한다는 정부, 소비자들의 시선을 사회적 공헌활동을 통해 사회적 가치를 함께 높여가고자 노력한다는 인식으로 변화시킬 수 있다.

3.2. 일본 기업 사례

마케팅 차원에서 자선 사업의 국제화도 이제는 보편화가 되었다. 소니(Sony), 도요타(Toyota), 히타치(Hitachi) 등 미국에 진출한 200개가 넘는 일본 기업들은 정례적으로 자선 활동을 펼치고 있다. 도요타는 미국 전역에 걸쳐 청소년 대상 체육 행사나 마약 퇴치 운동 등을 후원함으로써, 이들이 성인이 되었을 때 외국산 도요타에 대해 거부감이 전혀 생기지 않도록 꾀하고 있다. 타이

어 제조 브랜드인 브리지스톤(Bridgestone)은 자동차 레이싱 경주 F1을 주최하는 국제자동차연맹(FIA, Fédération Internationale de l'Automobile)과 연계하여 다양한 공익 캠페인을 주최해왔다. 2005년 5월 유럽에서 시작하여 전 세계 70여 개국에 걸쳐서 진행하고 있는 '씽크 비포 유 드라이브 (Think Before You Drive)' 캠페인은 브리지스톤의 대표적인 교통안전 캠페인이다. 이 캠페인은 기본적인 일상 속에서 쉽게 준수되지 않는 교통안전과 직결되는 '유아용 카시트 사용', '안전벨트 착용', '교통사고 시 목 보호를 위한 머리받침대 조절', '타이어 상태 점검'이라는 4가지 안전 가이드라인을 알렸다. 이런 노력으로 브리지스톤은 국제자동차연맹으로부터 2006년 '세계도로교통안전상(World Prize for Road Safety, the Environment and Mobility)'을 수상했다. 또 같은 해에는 세계의 교통안전에 관한 보고서 '메이크 로드 세이프(Make Roads Safe)'를 국제자동차연맹과 함께 제작하여 교통 재해에 대한 관심을 높이고, UN을 비롯하여 G8 등에게 관련 법안이나 가이드 제작 등 국제적인 협력을 요청했다. 2006년 당시 해마다 약 120만 명이 교통사고로 목숨을 잃었고, 개발도상국에서는 3분당 한 명의 어린이가 교통사고로 죽어간다는 사실 및 교통사고의 심각성을 널리 알리고자 하는 노력의 일환으로 캠페인을 함께 진행했다. 2008년에는 자동차가 환경에 미치는 부정적인 영향의 감소를 도모하는 국제적인 친환경 캠페인 '메이크 카즈 그린(Make Cars Green)'을 진행했다. 이 캠페인을 통해 2008년 '세계 환경의 날'을 맞아 일반 운전자들이 쉽게 실천할 수 있는 친환경 운전습관 10가지를 비롯하여, 자동차의 부정적인 환경 영향의 최소화를 위한 각국의 정책입안자, 자동차 업계, 일반 운전자의 역할을 제시했다. 마쓰시타전기는 기업은 사회에 공헌해야 한다는 창업자 마쓰시타 고노스케(まつしたこうのすけ | 松下幸之助)의 철학을 반영하여 사회적 가치를 높이는데 노력하였다. 환경, 공정한 사업, 노동, 인권, 안전 위생, 정보보안, 소비자 만족 등 공익적 차원에서 사회공헌 캠페인을 펼치고 있다. 아지노모토그룹(味の素株式会社)은 '음식과 건강'으로 세계인의 보다 나은 생활에 공헌하는 것을 이념으로 식품, 아미노산, 의약품 등의 사업을 전개하고 글로벌 활동, 로컬활동, 재단 활동, 종업원 활동 지원 등의 사회적 공헌활동을 수행하고 있으며, 글로벌 활동으로서 국제네트워크 형성과 베트남, 방글라데시, 인도네시아 등 6개국에 식량자원과 교육, 인력양성 등의 신규 프로젝트를 지원하고 있다. 일본은 새로운 기업문화 전략으로 세계화의 변화에 대처하고 있다. 사회와 문화에 흐르는 젊

은이들의 하류문화가 일본사회와 마케팅에 큰 영향을 미치고 있다. 차를 비롯한 허세의 소비가 아닌 공익을 위한 돈을 열기에, 공익연계마케팅이 주가 되고 있다. 과거의 CEO들은 대기업이 중심이었지만 닌텐도와 유니클로를 비롯한 현재의 CEO들은 원칙을 잃지 않고 새로운 전략을 구사해 큰 성과를 올리고 있다. 일본의 제조업은 신뢰와 스리와아세(擦)合わせ, 서로 부딪치며 세밀하게 맞춰 나간다), 5S(整理(SEIRI)정리, 整頓 (SEITON)정돈, 清掃(SEISOU)청소, 清潔(SEIKETU)청결, 躰(SHITUKE)습관)라는 장인정신을 바탕으로 과거도, 잃어버린 10년에도, 현재도 일본에서 손꼽히는 주력 산업이다. 일본에서 가장 사랑받는 회사는 대기업이 아니라 고객에게 감동을 주고 끊임없이 노력하는 회사들이며, 선점한 시장에 따라잡히지 않기 위한 일본 기업의 노력은 계속되고 있다. 정치와 경제에 이르기까지 일본 시스템은 세계화를 두고 변화에 기로에 서 있고 노력하고 있다.

3.3. 해외 기업 사례

..소셜마케팅을 효과적으로 캠페인에 적용한 사례 중 하나가 미국에서 시행된 청소년 흡연방지 캠페인 ‘트루스(Truth)’이다. 이 캠페인은 12~17세의 청소년을 대상으로 1998년 미국 플로리다주에서 시험적 프로그램으로 시작해 전국으로 퍼져갔다. 보통 금연 캠페인은 담배의 폐해를 공포소구로 보여주는 것이 대부분이다. 10대에게 ‘흡연을 하면 폐암에 걸릴 확률이 높다’라는 메시지는 고루하며 10대에게 관심조차 갖게 만들 수 없다. 이 프로그램에서는 이런 진부한 메시지가 아닌 영화 포스터를 패러디해 ‘담배 회사 CEO의 비밀’이란 제목의 광고를 선보였다. 말보로 광고를 패러디해서 ‘만약 담배광고가 진실을 말했다면...’이라는 카피와 함께 시체를 신고 가는 세 마리 말의 이미지를 담은 광고, 수천 명의 젊은이가 ‘담배는 하루에 1200명을 죽인다’ 등의 피켓을 들고 담배 회사 앞에서 시위하는 장면의 광고까지 다양한 광고를 선보였다. 담배 회사를 공공의 적으로 삼고 금연 행동의 상징인 ‘트루스’와 그들의 거짓된 모습을 대조함으로써 많은 인지도를 얻었다. 또, 주황색 바탕에 특별한 비주얼 없이 “흡연자들은 청산가리를 들이마신다. 담배 회사는 사람들이 생각하는 것보다 더 유독한 물질을 넣는다. 당신은 무엇을 할 것인가?” 라는 직설적인 메시지를 담은 광고를 통해 청소년이 직접 담배 회사에 대항하기 위해 금연할 것을 촉구했다. 조사결과를 보면 타깃 수용자인 12~17세의 미국 청소년 중 75%가 한 편

이상의 트루스 광고를 정확하게 설명할 수 있다고 답했다. 또한 그 중 90%는 광고가 설득력 있으며, 85%는 광고가 흡연하지 말아야 하는 좋은 이유를 주었다고 답했다. 트루스 캠페인은 경쟁상대를 정해 뚜렷하게 차별화한 포지셔닝의 대표적인 방법이다.

두 번째 사례는 미국 위스콘신주 시골에서 진행된 ‘로드크루(road crew)’이다. 이 프로그램은 음주운전 방지 목적이 있으며 이점 중심 포지셔닝을 활용한 예이다. 위스콘신의 한 시골마을 성인들의 여가는 주말에 선술집에 모여 술을 마시는 것이다. 그러나 집에 가려면 버스나 택시 등의 대중교통 수단은 없고 거의 자가용이 유일한 교통수단이다. 그러다보니 음주 운전 사고가 빈번했고 조사결과 주로 21~34세의 젊은 미혼 남성이 많았다. 그들은 음주 운전이 위험하다고 인식하지만 별다른 대안이 없다고 생각하며 그렇다고 음주를 포기할 마음이 없다. 대신 집까지 데려다 주고, 자가용만큼 편안하고, 한 선술집에서 다른 선술집까지 데려다 주는 서비스가 있다면 비용이 들더라도 기꺼이 이용하겠다고 답했다. 이런 조사를 바탕으로 집과 선술집을 오가는 리무진 서비스가 생겼으며 그 이름이 로드크루이다. 이는 이점을 중심으로 포지셔닝에 성공한 소셜마케팅 프로그램이다. 이 두 개의 성공적 소셜마케팅 프로그램에는 브랜드가 있다. 소비자들이 유명 브랜드를 통해 이미지, 느낌, 아이덴티티를 차별화 하는 것처럼 ‘트루스’나 ‘로드크루’는 브랜딩을 통해 쉽게 이해하고 각인되어 성공할 확률을 높였다. 상업 마케팅에서의 브랜드 자산의 효과가 소셜마케팅 프로그램에서도 적용될 수 있으며 그 효과도 높게 나타나고 있음을 알 수 있다. 또, 1983년 약물남용의 부작용을 예방하자는 취지에서 생긴 미국의 약물남용 저항 교육프로그램은 젊은 세대에게 쉽게 다가갈 수 있도록 강의나 설교보다는 앱이나 소셜미디어 등의 SNS를 활용해 라이프스타일 코칭 개념으로 재탄생하였다. 이렇게 시대와 타깃 대상에 맞게 커뮤니케이션 매체를 활용해야 한다. 소셜마케터는 소셜미디어와 소셜네트워크를 잘 활용해야 한다. 그 예로 신종 플루가 급속하게 퍼져나갔던 2009년~2010년 당시 미국 질병통제예방센터는 다양한 소셜 미디어를 통해 소비자에게 메시지를 빠르게 전달했다. 신종플루의 증상을 알리는 유튜브 동영상은 200만 번 이상 클릭되었고 플루 관련 메시지는 아이들의 부모, 친구, 가족, 직장동료에게 소셜네트워크를 통해 퍼져나갔다. 최근 여러 캠페인은 웹사이트를 필수로 가지고 있으며, 앱이나 소셜미디어를 통해 쌍방향 커뮤니케이션을 가능하게 한다. 소셜과 공익연계마케팅의 연

결을 보여주는 좋은 사례는 레드 캠페인이다. 레드 캠페인은 2006년 세계적인 팝그룹 'U2'의 리드 싱어 보노(Bono)와 미국의 변호사이자 사회 운동가인 바비 슈라이버(Bobby Shriver)가 시작한 캠페인이다. 이는 세계적인 기업과 협력해 레드 제품을 만들고 제품 수익의 일부를 아프리카의 에이즈 예방 비영리 단체인 글로벌 펀드에 기부해 왔다. 여기에 참여한 기업은 나이키, 갭, 애플, 아멕스 카드, 스타벅스, 아르마니, 벨베디어 보드카, 컨버스 운동화를 비롯해 점점 늘어나고 있다. 이들은 레드 캠페인의 상징인 빨간색으로 제품의 일부 혹은 전부를 포장하거나 괄호 안에 'RED'라는 글씨를 넣은 로고를 트레이드마크로 해 제품을 생산하고 판매한다. 2006년 캠페인을 시작한 이래 레드 제품을 통해 1억 7000만 달러(1870억 원) 이상이 모금되었고 750만 명 이상의 생명을 구했다고 보도 되었다. 이는 참여 기업의 이미지 제고와 기업의 사회적 책임 활동에 동참하려는 소비자의 증가, 비영리 단체였던 글로벌 펀드의 인지도 상승, 그리고 아프리카의 에이즈 예방에 상당히 기여했다는 평가를 받고 있다.

미국 버스 회사 트레일웨이즈(Trailways)의 홈프리(home free) 캠페인은 한국 기업이 앞으로 어떠한 방향으로 사회 공헌 활동을 하는 것이 바람직한가를 보여주는 모범 사례다. 트레일웨이즈는 국제경찰서장협회를 통해 해마다 150만 명이 넘는 미국 젊은이들이 가출 청소년으로 집계된다는 사실을 알아냈다. 이들 중 많은 수의 청소년들이 돈이 부족해서 집으로 돌아가지 못하고 있었다. 집으로 돌아가고 싶어 하는 가출 청소년들의 유일한 바람은 집으로 돌아갈 경비를 마련하는 것이었다. 트레일웨이즈의 '홈 프리 캠페인'은 바로 이런 가출 청소년들에게 무료로 트레일웨이즈에서 운행하는 버스를 이용해 집으로 돌아가게 해주는 것이었다. 캠페인이 널리 알려지기 시작하자 캠페인에 동참하기를 원하는 단체들의 수가 늘어났다. 간관협회는 캠페인에 사용될 간관을 기증했으며, 오락게임제조업협회에서도 포스터 제작 비용을 후원했다. 청소년들 수만 명이 이 캠페인을 통해 가정으로 돌아갈 수 있었다.

미국 출판사인 맥그로힐(McGraw-Hill)과 서적 공급업체인 달톤(Dalton) 등은 가독층이 감소하자 가독층 증가를 위해 협의회를 설립했고 사원들의 자원 봉사 활동을 적극적으로 지원하고 있다. 필립 모리스(Philip Morris)는 '단순한 담배 회사'에서 '다양한 공중을 늘 배려하는 대기업'으로 변신하는 전략을 펼치고 있다. 이 차원에서 제너럴 푸즈(General Foods)와 크라프트 푸즈(Kraft Foods)를 인수해 교육 개혁 프로그램, AIDS 프로그램, 기아 해결, 남아메리카

다우림 지대 보전, 예술 등에 막대한 자금을 지원하고 있다.

소셜 미디어 시대에 접어들면서 사회 공헌 활동도 기업 주도가 아닌 소비자와 수혜자 중심으로 변화하고 있다. 펩시(Pepsi)는 사람들의 아이디어를 현실화하는 사회 공헌 활동인 펩시 리프레시 프로젝트(Pepsi Refresh Project)로 큰 호응을 얻었다. 온라인 페이지를 만들어 누구나 사회에 기여할 수 있는 아이디어를 올리도록 했으며 가장 많은 투표를 얻은 아이디어는 경제적 지원과 더불어 펩시 직원, 도소매 협력업체, 지역 미디어 파트너와 힘을 합쳐 실현할 수 있도록 전 방위적으로 도왔다. 이 온라인 페이지에는 1만 2000건이 넘는 아이디어가 올라왔으며 실제로 1000개가 넘는 아이디어가 실현되었다. 펩시는 이 프로젝트를 통해 펩시와 소비자, 그리고 착한 아이디어가 만나면 세상을 리프레시할 수 있다는 것을 보여 주었다.

네덜란드 상조회사 DELA는 사람들이 소중한 사람들이 갑자기 떠났을 때 사랑한다는 말, 고맙다는 말을 왜 진작 하지 못했을까 후회한다는 것을 알았다. 그래서 “왜 너무 늦을 때까지 기다리나요?(Why Wait Until It's Too Late?)”라는 메시지로 ‘평소에 진심과 사랑을 표현하기’ 캠페인을 펼쳤다. 갑자기 소중한 사람들을 방문해 속마음을 표현하는 이벤트를 벌였는데, 이 감동적인 영상은 빠르게 퍼져나갔다. 또한 캠페인의 일환으로 ‘디어(Dear)’ 한 글자만 써 놓은 백지 신문광고를 게재해 편지로도 마음을 표현할 수 있도록 용기를 주었다.

영국의 자전거 거치대 제작업체인 바이크독 솔루션스(BikeDock Solutions)는 자사 제품을 직접적으로 알리지 않고, 도심의 자전거 도난 사고의 심각성을 알리는 캠페인을 펼쳤다. 먼저 런던의 변화가에 세워 놓은 자전거의 자물쇠를 잘라 타고 달아나는 뺑뺑한 도둑의 영상과 이를 외면하는 시민들에 대한 몰래 카메라 동영상을 만들어, 얼마나 자전거 도난 사고가 쉽게 일어나는지를 보여줬다. 그리고 영국에서만 연간 53만 건의 자전거가 도난당한다는 점을 알렸다. 이는 SNS를 통해 빠르게 확산되었고 학교, 도서관 등 공공 기관에 우선적으로 자전거 거치대가 필요하다는 여론을 형성시켰다. 바이크독 솔루션은 자사 제품에 대한 공익적 관점에서 사회적 공감대를 형성했고, 수요를 만들어 내어 브랜드 인지도, 고객층 확보에 성공했다.

〈表1〉 사례조사

공익캠페인	국내사례	국외사례	일본사례
소셜: 흡연방지 캠페인		트루스(Truth), 미국	
소셜: 음주운전방지 캠페인		로드크루(road crew), 미국	
소셜: 약물남용저항프로그램		SNS를 활용한 라이프코칭, 미국	
공익연계+소셜마케팅	삼성전자의 작은 나눔 큰사랑	아메리칸 익스프레스 카드회사의 자유의 여신상 복구, 미국	소니, 도요타, 히타치 등의 청소년 대상 체육행사나 마약퇴치 운동 후원
공익연계+소셜마케팅	홈플러스의 생명의 쇼핑카드	요플레의 생명구하기 캠페인에 기부, 미국	브리지스톤의 교통안전캠페인, 친환경 운전습관10가지 캠페인
공익연계+소셜마케팅	라푸마의 깃대종보호 캠페인	레드캠페인-에이즈 예방 단체에 기부, 미국	마쓰시타 전기의 사회공헌 캠페인
공익연계+소셜마케팅	오뚜기 진라면의 꿈의 구장 건립기금 기부	버스회사 트레일 웨이즈의 홈프리 캠페인, 미국	아지노모토그룹의 글로벌 사회공헌 활동
공익연계+소셜마케팅	오비맥주 카스의 건전음주 캠페인	맥그로힐 출판사와 서적공급업체 달톤의 가독층 증가 협의회 설립 지원, 미국	
공익연계+소셜마케팅	SK의 자녀 안심하고 학교보내기	필립모리스의 교육개혁프로그램, 기아해결, 남아메리카 다우림 지대보전, 예술 등 지원	
공익연계+소셜마케팅	삼성생명의 생명의 다리 캠페인		

공익연계+소셜마케팅	삼성 베트남 법인의 신부교실	팻시의 리프레시 프로젝트, 미국	
공익연계+소셜마케팅		상조회사 DEAL의 평소에 진심과 사랑을 표현하기 캠페인, 네덜란드	
공익연계+소셜마케팅		자전거 거치대 제작업체 바이크독 솔루션스의 몰래 카메라 동영상 제작, 영국	

4. 결론 및 제언

。기업이 이윤만 추구하던 시대에서 사회적 가치를 함께 추구해야 하는 시대로 변화하면서 사회적 책임, 윤리적 경영의 중요성이 커지게 되었고 기업은 상업적 이윤추구와 함께 사회적 문제도 같이 해결해 나가야 하는 역할도 담당하게 되었다.

마케팅의 역할도 상업적 마케팅 중심에서 소셜마케팅의 역할이 증대되고 있다. 기업의 전략 중 윈(win)-윈(win) 전략은 기업과 소비자가 함께 좋은 전략이다. 여기에 또하나의 윈(win)이 더하여 윈-윈-윈 전략이 이뤄지고 있다. 기업은 공익연계 마케팅으로 이미지를 높이고 수익을 늘리며 소비자 또한 공익 활동에 참여해 만족감을 느낀다. 그리고 기업이 후원하는 비영리 단체도 기업의 자금력과 인지도를 빌어 후원하는 사회적 문제의 인지도 상승 및 문제 해결을 가능케 한다. 결국, 비영리 단체는 소셜 마케팅의 원리와 전략을 이용해 사회 문제를 해결하고자 하는 소셜 마케터의 역할과 함께 기업과 파트너십을 체결해 부족한 예산이나 자원문제를 해결한다는 점에서 공익연계 마케팅과 소셜 마케팅의 연결고리를 형성한다.

사례연구를 통해서도 살펴본 바와 같이 소셜마케팅과 공익연계마케팅을 연결고리로 기업이 함께 공익캠페인을 진행한다면 기업과 소비자, 사회가 좋아질 수 있다. 사회적 문제를 해결하고 사회적 가치가 증진될 때 개인적 삶의 가치

도 높아지고 지역사회의 관계도 돈독해질 것이다. 이런 공익 캠페인의 효과가 매출액처럼 정확히 나타나는 것은 아니지만 인지의 변화, 이미지의 변화를 가져오고 무엇이 중요한가를 깨닫게 된다. 기업이 사회적 책임을 다하기 위해 사회공헌활동을 하는 데는 막대한 비용이 들어간다. 하지만 기업의 사회공헌 활동은 점점 더 늘어가고 있다. 이는 사회공헌 활동을 통한 기업의 지속 가능 경영을 꾀하기 때문이다. 또한 G세대의 등장으로 사회책임과 공익활동은 더욱 더 피할 수 없게 되었다. G세대란 세계화를 뜻하는 글로벌(global)과 녹색을 뜻하는 그린(green)의 영어 첫 스펠링에서 따온 것으로 1980년대 후반에 태어난 젊은 층이다. 이들은 진취적이고, 미래 지향적이며, 환경을 고려하고, 나눔과 공유, 협동을 지향하기 때문에 기부와 자선에도 관심이 많다. 그래서 이러한 요인들로 소셜마케팅과 공익연계마케팅은 지속될 것으로 보인다.

본 연구는 사례연구를 통해 공익캠페인 효과가 소셜마케팅과 공익연계 마케팅을 연결할 때 높아지는 것을 알 수 있으며 기업이 소셜마케팅을 통해 기업의 제품이나 서비스를 알리고 구매하도록 하는 것에서 이런 제품이나 서비스를 통해 소비를 하면서 사회에 기여할 수 있다는 뿌듯함을 느끼게 되어 인지와 태도의 변화를 가져오게 된다는 것을 설명하였다. 따라서 기업의 사회적 책임과 사회적 공헌이 기업과 사회에 얼마나 중요한 영향을 끼치는 것인지도 알 수 있으며 그런 의미에서 기업과 사회가 문제 해결을 위해 함께 해야 한다는 것을 강조하였다. 그러나 앞으로의 연구에서는 더 많은 사례와 연구를 통해 효과를 높이기 위한 고찰이 함께 이루어져야 할 것이다.

【참고문헌】

- 김동훈, 2017. 공익연계마케팅의 광고 소구 유형이 소비자태도에 미치는 영향에 관한 연구, 한성대학교 박사학위논문.
- 김자경 · 김정현, 2001. 공익연계 마케팅에 대한 고찰, 한국언론학보, 45권, 1229-7526 KCI. pp.5-40.
- 방진숙, 2016. SNS를 이용한 공익연계마케팅의 설득효과연구, 숙명여자대학교 석사학위논문.
- 백혜진, 2013, 소셜마케팅, 커뮤니케이션북스.
- 백혜진, 이혜규, 2013. 효과적인 헬스메시지 전략, 커뮤니케이션북스.
- 박기임, 2013. 중소기업, SNS 마케팅으로 신시장 일군다. Trade Focus 연구보고서, 12(47). 한국무역협회 국제무역연구원.
- 병무청, 2016. 효율적 소통을 위한 1인 미디어 시대의 소셜마케팅, 경영컨설팅연구 89호,

pp.22-23.

이원영, 2017. 소셜마케팅과 큐레이션 미디어: 소셜네트워크, 대한산업안전협회, 237호, pp. 68-69.

아이뉴스, 2011. 5. 25. 컨버스, 에이즈 퇴치운동 '레드 캠페인' 진행.

이데일리, 2010. 6. 23. 식음료 · 패션업계, '공익 연계 마케팅' 활발.

전자신문, 2018.1.16. 오비맥주 카스, 온라인 공익광고 통해 음주운전 예방 캠페인.

중앙일보, 2013. 8. 5. 사회 공헌에도 판치는 '골목상권'.

Nan, X., & Paek, H.-J.(in press). "Social responsibility in international advertising".

Hong Cheng. (Ed.), Handbook of International Advertising. Prentice Hall.

PRSA(2011). Silver Anvil Award Winner "Pepsi Refresh Project." PRSA.

<http://www.ebay.com.au>(검색일:2018. 05.09)

<http://www.protectthetruth.org/truthcampaign.htm>(검색일: 2018. 05.09)

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.

논문 심사 일자 : 2018. 11. 08.

게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

ソーシャルマーケティングを活用した公益キャンペーンの効果に関する研究
-日本と韓国企業文化の事例を中心に-

李珍喜

一般消費者は、マーケティングと言えば、売上高のための商業マーケティングを多く認識している。しかし、企業の社会的責任 (corporate social responsibility) が強調されている21世紀では、消費者個人の価値の向上および社会的な価値を高めることができる方法は何なのかを考えるようになった。社会的価値、社会的貢献をマーケティングするためにソーシャルマーケティングが必要である。本研究は、ソーシャルマーケティング (Social Marketing) の概念的な理解と公益連携マーケティング (cause-related marketing) を通じた企業の努力を事例を中心に考察した。このような事例を考察し、公益キャンペーンの効果を高めるための様々な方策やアイデアを創出することは社会的価値と社会的貢献に役立つとわかった。

韓国と日本における、海外公益キャンペーンの事例を通じて、ソーシャルマーケティングと公益連携マーケティングで良い企業文化と企業イメージを形成することができ、消費者と社会的価値が高まることである。したがって、ソーシャルマーケティングと公益連携マーケティングの効果は持続するものと見られる。

Effectiveness of Public Campaigns Using Social Marketing:
-Focus on Domestic, Japanese, and Overseas Corporate Culture Cases-

Rhie, Jin-Hee

In general, consumers are aware of that commercial marketing is used to increase sales. However, in the 21st century, where the emphasis is on corporate social responsibility, it has become necessary to think about ways to increase social value, as well as enhance consumers' personal values. This study examines corporate efforts through the lens of a conceptual understanding of social and cause-related marketing. By examining these cases, this study aims to contribute to the realization of social values and benefits by creating a variety ways to enhances the effectiveness of public campaigns. In the case of Korean, Japanese, United States, and Europe public campaigns, social and public interest marketing could be used to create good corporate culture and image and enhance consumers and social values. Therefore, social and cause-related marketing should continue.

『古事記』における「神による神のまつり」

-祭ることの意味について-

권혁성*

(e-mail : yunafiaa77@gaill.com)

< 목 차 >

- | | |
|----------------------------|-------|
| 1. 序論 | 3. 結論 |
| 2. 本論 | |
| 2.1. 岡田精司・水林彪による神話と祭祀の対応関係 | |
| 2.2. 『古事記』における神のまつり | |

キーワード：祭儀神話(sacred festivals myth)、古事記(KOJIKI)、日本書紀(NIHONSHOKI)、祭祀(Religious service)、アマテラス(amaterasu)

1. 序論

『古事記』では多くの祭りをする場面が現われるが、その中で「神が神をまつる」場面がある。それはもちろん神々の物語¹⁾である上巻を中心に現われる内容である。『古事記』の中で「神が神をまつる」ということがいままてどのように把握されてきたのか、次の一例を挙げて確認してみる。

天照大御神、忌服屋に坐して、神御衣を織らしめし時に、其の服屋の頂を穿ち、天の斑馬を逆剥ぎに剥ぎて、墮し入れたる時に、天の服織女、見驚きて、梭に陰上を衝きて死にき。²⁾

* 순천대학교, 강사, 고전문학

1) 『古事記』では多くの神々が登場するが、天の世界である高天原の天つ神と、地上世界である足原中国の国つ神に分けることができる。『古事記』の中で天孫である天皇が祭る対照は、天つ神だけである。

2) 山口佳紀・神野志隆光(1997)『古事記』(小学館、p.63. 以下『古事記』)

アマテラスが 베를 짜는 신성한 방에 계시며 신에게 바칠 옷감을 짜게 하고 계실 때, 그 지붕 천장에 구멍을 뚫고 천마의 가죽을 거꾸로 벗겨 떨어뜨려 넣었더니, 베를 짜던 하늘의 직녀는 그것을 보고 놀라 베틀에 음부를 찔러 죽고 말았다. (말의 가죽을 벗겨서 신성한 베 짜는 방에 집어 던지는 것은 중대한 침범이다.)

これは、天照大御神が、天の石屋にこもる前に、天の服織女に神御衣を織らせる場面であるが、『古事記全註釈』では『日本書紀』と比較し、「神御衣を織らしめし時に」と『古事記』ではあるにもかかわらず、「アマテラスが自ら織られたと解すべきであり」、「ここは歴代の天皇が大嘗祭(だいじょうさい)や神衣祭(かんみそさい)を行はせられるといふ厳然たる事実が神話に反映したものである」といい、『古事記注釈』では「とにかくこの辺の記事が伊勢神宮の神御衣祭への暗視をふくんでいるのは確かなようである」などと言っている。つまり『古事記』での「神が神をまつる」という行為が、現実の祭祀の根源であると言っているのである。

これらの注釈は、『古事記』や『日本書紀』を祭儀神話とし、祭祀と『古事記』(または『日本書紀』)の神話が具体的に対応するという把握から成る。方向性は異なるが、祭祀と神話が対応することを認めることから、論議を成り立たせていることは同じなのである。岡田精司氏は、次のように述べている。

記紀神話が祭儀神話であることは、これまでも実に多くの研究が積み上げられており(個別の神話群と祭儀との対比には論議がのこされているけれども)、疑問をささむ余地がない。ここで重要なことは、その〈祭儀〉は決して民俗的な年中行事一般ではなく、「神祇令」(『養老令』)の四時祭の項に記載された、宮廷の祭りに限られることである。³⁾

このように「記紀神話」を祭儀神話として、祭儀とともに神話が発展してきたととらえ、それが「記紀神話」となったとする。それは宮廷祭祀と対応する「記紀神話」という前提から成り立つものとして把握しているのである。それに対して水林彪氏は、一つの神話から成る『古事記』『日本書紀』という「記紀神話」に対する批判から論議が始まる。それは祭儀とともに発展してきた神話ではなく、律令国家において「それが成立した時点での政治

3) 岡田精司(1992)『古代祭祀の史的研究』(塙書房、p.292.)

思想」として『古事記』の神話をとらえるものである。それは『記紀神話と王権の祭り 新訂版』第一部の「はじめに」、巻末の「結びにかえて」に示されている。

『古事記』は太安万侶が、律令国家とはどのような国家であるかを語ろうとして、心血を注いで創作したところの政治思想的作品である。『古事記』は、まず何よりも、そのようなものとして読まれねばならない。⁴⁾

『古事記』の本然の姿を知ろうとするならば、我々は、二〇世紀の「神話」から徹底的自由にならなければならない。そして、そのためには、『古事記』をば、その生まれ育った七世紀末から八世紀初頭の日本社会の中に置き返し、そこにおいて存在していたがままの姿において、これに向き合うことから始めなければならない。⁵⁾

これらによって水林氏の立場は明らかに表明されている。それは「『古事記』と『日本書紀』という二つの作品を同列に論じた」ことへの批判であり、自らの方法論に対する確認でもあって、「一語一語、一文一文の意味を確定し、そして、作品全体の意味（作者がその作品において、語ろうとし、語りえたこと）を明らかにする営みのことである。」のように『古事記』世界全体の把握を目指している。このように岡田氏と水林氏の神話に対する把握について、岡田氏は『古事記』と『日本書紀』を「記紀神話」として、古代から受け継がれてきた一つの祭儀神話を見出そうとする立場なのに対して、水林氏は『古事記』『日本書紀』は別々の作品であり、『古事記』こそが律令国家の祭儀神話だという違う立場から神話を把握している。

それは、個々の祭祀が『古事記』『日本書紀』に対応することを認めることによって成り立っている。岡田氏に対しては、『古事記』『日本書紀』の神話は、その全体が異なるものであることを、まず言わなければならない。一つの神話が「記紀神話」という二つのテキストとなったのではなく、二つのテキストが、それぞれの神話を成り立たせているからである。水林氏の場合、そのような「記紀神話」論から脱却し、あくまで『古事記』の神話としての把握は正当であろう。だが岡田氏と同じような、祭祀と神話との対応は検討されるべきである。その対応が認められないことになれば、論議として成り立っていないことになる。祭祀の全体的な構造を把握することが成されないまま、『古事記』や『日本書紀』神話の

4) 水林彪(2001)『記紀神話と王権の祭り 新訂版』(岩波書店、p.6)

5) 水林彪(2001)『記紀神話と王権の祭り 新訂版』(岩波書店、p.376.)

一部分を対応させるような方法では、祭祀を祭祀としての全体的な意味、『古事記』『日本書紀』の全体的な意味を見ることはできない。その全体的な意味を見るためには、『古事記』『日本書紀』を、二つの違う神話の物語として捉え、神話としての構造を把握し、祭祀もまた祭祀としてその構造を把握する必要がある。そしてそこから「古事記における祭祀」がどのように描かれているか、祭祀を含んで成り立つ神話の世界を明らかにしていくことが出来るはずである。

もちろん「まつる」という行為が実際に無いと言うのではない。だが『古事記』の中には「人が神をまつる」ことだけではなく「神が神をまつる」という行為を含めて成り立っているのである。なぜ『古事記』の中には「神が神をまつる」という行為が現われているのか。それは現実のレベルで考えるのではなく、あくまで『古事記』の中でその意味は問われるべきなのである。ここからは『古事記』の「神が神をまつる」ということがどのような意味をもつのか、『古事記』の中で、それを明らかにしていきたい。

2. 本論

2.1 岡田精司・水林彪による神話と祭祀の対応関係

神野志隆光著『古代天皇神話論』6)に、『古事記』『日本書紀』の神話との具体的な対応把握について「岡田説、ないし岡田説に代表される成立論的祭儀神話論のみの問題ではない。成立論とは全く異なる質の論議が、律令祭祀と『古事記』『日本書紀』神話との対応という点から展開されている—具体的には、水林彪『記紀神話と王権の祭り』の論—が、それにもかかわるのである。」とあるように、岡田氏と水林氏は神話に対する立場の違いがあり、「記紀神話」と祭祀の対応、『古事記』と祭祀の対応という方法的違いはあるが、最初に述べたように両氏の論は、祭祀と神話との対応を認めることから始まっているのである。

その個々の祭祀と、神話の対応関係が両氏ともに重なるところが多いことは見て明らかである。その対応関係は『古事記』において、認められるものなのであろうか。次の表が、岡田氏・水林氏が認めている祭祀と神話の具体的な対応関係である。

6) 神野志隆光(1999)『古代天皇神話論』(若草書房、pp.251-253.)

〈表1〉

区 分	神 話	宮廷祭祀
	イザナギ・イザナミの国生みの物語	八十島祭
	火神カグツチの誕生	鎮火祭
	イザナギのアワギ原での禊	道饗祭
高天原神話	機殿の話	神衣祭
	天岩戸ごもり	神嘗祭
	アメノウズメの舞	鎮魂祭
	スサノオの高天原からの追放	大祓
	天孫降臨	年頭予祝型の即位 礼または祈年祭
日向神話	海神宮訪問の物語	新嘗・神今食
	海幸山幸の物語	新嘗・神今食
イワレヒコ 伝承	神武東征＝イワレヒコの大和入りの物語	鎮魂祭

岡田氏は「記紀神話」を、高天原－日向－イワレヒコ系列を一つづきとした「高天原系」として、宮廷神話ととらえ、出雲神話は「緒異伝の間の不安定さ、〈国ゆずり〉の新しさ」などからその枠に入らない、宮廷神話ではない神話として把握する。つまり「高天原系神話」と宮廷神話との対応を認め、「出雲系神話」は「高天原系神話」と全く性格を異にするのであり、宮廷神話の原形には含まれないとする。次に水林氏の神話と祭祀の対応関係を見てみよう。

〈表2〉 7) 毎年の祭祀

	祭祀の性格	『古事記』	『日本書紀』 本文
祈年祭	天神地祇に 対する幸祈 願	崇神天皇の天神地祇祭祀	神武、崇神天皇の天 神地祇祭祀
鎮花祭	疫よけのた めの大物主 祭祀	大国主神の大物主祭祀 崇神天皇の大物主祭祀	× 同左
三枝祭	同上	同上	同上
大忌祭	水害防御	×	天武天皇の祭祀
風神祭	風害防御	×	天武天皇の祭祀
神衣祭	天照大御神 祭祀	天照大御神が高天原で神衣 を織らせている物語	×
月次祭	各氏宅神祭 祀	崇神天皇の天神地祇祭祀	同左
鎮火祭	火害防御	火神による伊耶那美の死	×
道饗祭	疫神撃退	伊耶那岐の黄泉国からの帰 還	×
大祓	罪の祓へ	須佐之男命の犯罪 仲哀天皇の罪と死	×
神嘗祭	天照大御神 祭祀	天照大御神の高天原におけ る「大嘗」	×
相嘗祭	地祇祭祀	崇神天皇の天神地祇祭祀	神武、崇神天皇の天 神地祇祭祀
鎮魂祭	天皇の魂ふ り	天照大御神の天の石屋こも り	×
毎年大嘗祭	高天原の 神々の末裔 の天皇への 服属と天皇 の呪能獲得	天照大御神の高天原での 「大嘗」 天忍穗耳命の聖婚	×

7) 表1は、筆者が岡田氏の『古代王権の祭祀と神話』 「記紀神話の成立」 『古代祭祀の史的研究』によって整理したものであり、表2は水林氏の『記紀神話と王権の祭り 新訂版』 pp.209-210.の引用である。

即位祭祀

	祭祀の性格	『古事記』	『日本書紀』本文
惣天神地祇祭	天神地祇祭祀	崇神天皇の天神地祇祭祀	神武、崇神天皇の天神地祇祭祀
踐祚	天皇の高天原の呪能の獲得	天神御子降臨	×
毎世大嘗祭	海原と葦原の領有と呪能の獲得	大国主の国譲り 穂々手見命の御饗と聖婚 代々天皇の御饗と聖婚	×
			×
			同左

水林氏の『古事記』と祭祀の対応は、岡田氏のように「記紀神話」の成立過程を、もともとは「高天原系の伴造奉仕の由来神話が基本」であり、それが体系化し、「記紀」神話へと展開するのは、第一段階として欽明朝ごろ、第二段階の改変がなされたのは、七世紀初頭－推古朝ごろである。その後、「大王家の最高守護神の変化」と、「出雲神話の成立」という大きな変動があった。そして天武朝に記紀神話体系として完成した。というような一系統の発展的神話と見るのではなく、律令国家の問題として、律令祭祀と対応する『古事記』の神話を見るのである。それは太安万侶が創作した物語である『古事記』が、「憲法」として新しい祭祀体系を完成させ、律令国家が「祭祀演劇国家」として成り立つということである。水林氏の論は、祭祀と『古事記』神話の対応を認めることで成り立っている。祭祀と神話の対応について、両者が重なるところが多いと述べたがそれを整理すれば次のようになる。

祭 祀	岡田説	水林説
祈年祭	天孫降臨	崇神天皇の天神地祇祭祀
神衣祭	機殿の話	天照大御神が高天原で神衣を織らせている物語
鎮火祭	火神カグツチの誕生	火神による伊耶那美の死
道饗祭	イザナギのアワギ原での禊	伊耶那岐の黄泉国からの帰還
鎮魂祭	アメノウズメの舞	天照大御神の天の石屋こもり

	神武東征＝イワレヒコの大和入りの物語	
即位儀	天孫降臨	天神御子降臨
大祓	スサノオの高天原からの追放	須佐之男命の犯罪 仲哀天皇の罪と死

両氏の祭祀と神話の個々の対応は「祈年祭」以外、ほとんど意見を同じくすることが分かる。

「祈年祭」については、岡田氏は「元旦朝賀がその前身は年頭予祝を背景にした祭祀儀礼」であり「このような性格の正月儀礼を治世の開始に当たって大規模に挙行するのが「即位の式」であるから、年頭予祝としての性格は即位の儀礼に「そっくりあてはまる」として、天孫降臨神話が祈年祭の祭儀神話だとする。それに対して、水林氏は祈年祭を惣天神地祇としている。即位の惣天神地祇が祈年祭と同様の儀式であるとし、「その天皇の「世」に豊穰と幸の来たらんことが祈願された」とする。この「祈年祭」以外は個々の祭祀と神話の対応は、ほとんど同じなのである。つまり方法は違うが、祭祀と対応する祭儀神話として『古事記』『日本書紀』の物語を認めることを前提としていることでは共通性をもっている。

岡田氏と水林氏の『古事記』（または『日本書紀』）の神話に対する立場について述べてきた。それは、個々の祭祀が『古事記』『日本書紀』に対応することを認めることによって成り立っているのである。

岡田氏に対しては、『古事記』『日本書紀』の神話は、その全体が異なるものであることを、まず言わなければならない。『古事記』の世界の物語と、『日本書紀』の世界の物語は全体として別なものであり、別な神話というのがふさわしい。『古事記』『日本書紀』の神話は、多少異なるが、もとは一つの共通の神話があった、という考えは成り立たないとかいいようがないのである。たとえば『古事記』と『日本書紀』の葦原中国の平定物語を比較してみよう。

2a) 天照大御神の命以て、「豊葦原千秋長五百秋水穂国は、我が御子、正勝吾勝々速日天忍穗耳命の知らさむ国ぞ」と、言因し賜ひて、天降りしき。⁸⁾

8) 『古事記』上巻、p.99.

アマテラスオオマキミの 명으로 “토요아시하라노치아키노나가이호아키미즈 호노쿠니는, 나의 아들 마사키즈아카즈카치하야히아메노오시호미미노미코토가 통치할 나라이다.”라고 위임하시고, 하늘에서 내려보냈다.

2b) 天照大神の御子正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊は、高皇産靈尊の御娘栲幡千千姫を娶り、天津彦彦火瓊瓊杵尊を生みたまふ。故、皇祖高皇産靈尊、特に憐愛を鍾めて崇養したまふ。遂に皇孫天津彦彦火瓊瓊杵尊を立てて、葦原中国の主とせむと欲す。9)

아마테라스오오카미의 아들 마사카야카즈카치하야히아마노오시호미미노미코토는 타카미무스히노미코토의 딸 타쿠하타치지히메와 결혼하여 아마즈히코히코호노니기노미코토를 낳으셨다. 그래서 황조 타카미무스히노미코토는 특별히 총애하여 귀중하게 양육하셨다. 이렇게 해서 이 황손 아마즈히코히코호노니기노미코토를 새워서 아시하라노나카즈쿠니의 군주로 삼으려고 생각하셨다.

『古事記』ではアマテラスが、豊葦原千秋長五百秋水穂国は自分の子である正勝吾勝々速日天忍穗耳命が支配する国としていきなり宣言する。そして、オオクニヌシが国を譲り、アマテラスによって鏡・剣が授与されることで、天孫による地上世界の支配は保証されることになる。

それに対して『日本書紀』ではアマテラスは何の役割も果たさない。皇祖であるタカミムスヒが、天津彦彦火瓊瓊杵尊を格別にいつくしみ、その天津彦彦火瓊瓊杵尊を立てて葦原中国の支配者にしようとしたのである。この後も『日本書紀』では、一貫してタカミムスヒが主導する。このように『古事記』と『日本書紀』の世界は完全に違うものとして語られているのである。それを、もとは一つの共通の神話があったと言えるのであろうか。『古事記』『日本書紀』を、通じて元来の伝承の姿をうかがうことなど出来ないのである。

水林氏の場合、そのような「記紀神話」論から脱却し、『日本書紀』から離れ、あくまで『古事記』だけの神話の把握は正当であろう。だが岡田氏と同じような、祭祀と『古事記』神話との対応を認める論議は検討されるべきではないか。具体的なその神話と祭祀の対応が認められないことになれば、論議として成り立っていないことになる。

祭祀の全体的な構造を把握することが成されないまま、『古事記』や『日本書紀』神

9) 小島憲之他(1994)『日本書紀』神代下、(小学館、p.111. 以下『日本書紀』)

話の一部分を対応させるような方法では、祭祀を祭祀としての全体的な意味、『古事記』『日本書紀』の全体的な意味を見ることはできない。その全体的な意味を見るためには、『古事記』『日本書紀』を、二つの違う神話の物語として捉え、物語としての構造を把握し、祭祀もまた祭祀としてその構造を把握する必要がある。そして、そこから『古事記』における「神を祭る」ことの意味は何か、明らかにしていくことが出来るはずである。

2.2 『古事記』における神の祭り

『古事記』の中で「神が神をまつる」場面として取れるのは計五例である。その用例を挙げると、

2c) 「今吾が生める子、良くあらず。猶天つ神の御所に白すべし」といひて、即ち共に参る上り、天つ神の命を請ひき。爾くして、天つ神の命以て、ふとまにに卜相ひて詔ひしく、「女の先づ言ひしに困りて、良くあらず。亦、還り降りて改め言へ」とのりたまひき。10)

지금 우리가 낳은 자식은 좋지 않다. 천신이 계시는 곳에 올라가서 천신의 지시를 구하자. 그렇게 해서 천신은 사슴의 어깨뼈를 붉은 벗나무로 태워, 그 갈라진 모양으로 신의 뜻을 묻는 점을 치고 말씀하셨다. 여자가 먼저 말을 걸었기 때문에 좋지 않았다. 돌아 내려가서 남자부터 다시 말을 걸어라.

2d) 天照大御神、忌服屋に坐して、神御衣を織らしめし時に、其の服屋の頂を穿ち、天の斑馬を逆剥ぎに剥ぎて、墮し入れたる時に、天の服織女、見驚きて、梭に陰上を衝きて死にき。11)

아마테라스오오미카미가 베를 짜는 신성한 방에 계시며 신에게 바칠 옷감을 짜게 하고 계실 때, 그 지붕의 천장에 구멍을 뚫고 타카아마노하라의 얼룩말의 가죽을 거꾸로 벗겨 떨어뜨려 넣었더니, 베를 짜던 하늘의 직녀는 그것을 보고 놀라 베틀의 북에 음부를 찢려 죽고 말았다.

2e) 「能く我が前を治めば、吾、能く共与に相作り成さむ。若し然らずは、国、成ること難けむ」といひき。爾くして、大国主神の曰ひしく、「然らば、治め奉る状は、奈何に」

10) 『古事記』上卷, p.35.

11) 『古事記』上卷, p.63.

といひしに、答へて言ひしく、「吾をば、倭の青垣の東の山の上につき奉れ」といひき。12)

나를 잘 제사 지내면 내가 너와 함께 나라를 잘 만들어 완성시키겠다. 만약 약에 그렇게 하지 않으면 나라를 완성하는 것은 어려울 것이다. 라고 말했다. 그래서 오오쿠니누시가 그렇다면 당신을 제사 지내고 모실 방법은 어떻게 하면 될까요. 라고 묻자 나를 야마토의 푸른 담처럼 둘러 싸는 동쪽 산 위에 제사 지내고 모셔라 라고 말했다.

2f) 「唯に僕が住所のみは、天つ神御子の天津日繼知らすとだる天の御巢の如くして、底津石根に宮柱ふとしり、高天原に氷木たかしりて、治め賜はば、僕は、百足らず八十垌手に隠りて待らむ。」13)

다만 나의 거처만은 천신의 자손이 신성한 황위를 계속 이어가는 하늘의 주저 처럼 해서 대반석 위에 궁의 기둥을 굽게 세워 타카마야노하라에 용마루가 치솟아 닿을 정도로 높이 세우고 제사 지내주면, 나는 아주 많은 길이 굽어진 모퉁이를 지나 걸어간 끝에 있는 이 이즈모에 은퇴해 숨어 살겠습니다.

2g) 「此の鏡は、専ら我が御魂と為て、吾が前を拜むが如く、いつき奉れ」とのりたまひ、～此の二柱の神は、さくしろ伊須受能宮を拜み祭りき。14)

이 거울을 항상 나의 영혼이라 여겨 나를 모시듯 제사지내라. 그리고 계속 말하기를, 그래서 이 두 기둥의 신은 이스즈미야를 받들어 모셨다.

である。各用例の「まつる」場面をみると、2c) は伊耶那岐命・伊耶那美命が国生みがうまくいかず、天つ神の命に指示を求めた場面であり、天つ神の関与によって正しく国を「修理ひ固め成す」ことが果たされていく。

2 d) は須佐之男命の「悪しき態(わざ)」が止まないことによって、天照大御神が天の石屋にこもる。その結果、高天原と葦原中国が悉く闇くなり、あらゆる災いが起こるが、天照大御神が天の石屋から出で坐すことによって、「高天原と葦原中国と、自ら照り明ること得たり。」となる。つまり天照大御神は高天原だけではなく、葦原中国を含める二つの世界の秩序原理であることが示される中に語られている。

12) 『古事記』上巻、pp.95-96.

13) 『古事記』上巻、p.111.

14) 『古事記』上巻、pp.115-116.

2e) は大国主神が国を作っていく過程で、大物主神をまつることによって、葦原中国を秩序ある世界として完成させる。それは神産巢日神の御子である、少名毘古那神と「海を光して依り来る」神である大物主神の助けによって果たされる。

2f) は大国主神が国を譲る条件として「天つ神なる御子の住む宮殿のような住居（すみか）」と、自分を「まつる」ことを要求し、天つ神の血統である迹々芸命（アマテラスの孫）の降臨の準備が整う場面である。

2g) は迹々芸命が降臨する時に天照大御神が迹々芸命と思金神に鏡を「専ら我が御魂と為て、吾が前を拝むが如く、いつき奉れ」と命令する場面である。

この鏡をまつることで、後に天皇の世界が天照大御神によって保障されるようになる。つまり天皇が支配することになる葦原中国は、必ず高天原という天の世界の関与によって成り立っているのであって、葦原中国自ら成り立つことはない。それは伊耶那岐命・伊耶那美命から始まった国作りが、大国主神によって完成され、天孫に譲られるまで一貫している。

「神が神をまつる」行為は、一貫されて天の側の関与によって作られる「天孫の支配すべき国」が完成していく中で意味をもつ。

次に上に挙げた五つの用例を表として整理してみる。

	いつ	どこで	だれが	だれを	なぜ	どのように
1	国生み	高天原	(イザナギ、イザナミ)	天つ神	国生みがうまくいかなかった	ふとまにに卜相て天に上がって
2		高天原	服織女			神御衣を織らしめ
3	国作り	葦原中国	大国主	大物主	国作りのため	倭の青垣の東の山の上につき奉る
4	国譲り	葦原中国		大国主	国譲りのため	
5	天孫降臨	葦原中国	迹々芸と思金神	天照大御神	天皇の世界の保障のため	鏡を御魂として吾が前を拝むが如く

この表を見ると、2を除けばその結果は明確である。それは「国生みが果たされる」→「国作りの完成」→「国譲り」→「天皇の世界の保障」の過程である。用例2の例外はあるが、それは、天皇が支配するべき「国」に関わるところでのみ、「まつる」ことは現われるのである。

次に用例3と4の場合、いずれも「まつる」ことが「治む」と表現されているのに注目したい。上巻で「治む」と表記されて、文脈上「まつる」の意味になるのはこの二例だけである。その対象となる大国主神、大物主神はいずれも国つ神であって、だからこそ用例5のように、「拝み祭りき」（おろがみまつりき）のような表現ではなく、「治む」で表現されているのである。

「治む」の意味は「あるべき状態に正しくおちつかせる」（すべての『古事記』注釈書：治むは、多義語であって、統治、収める、治療する、修復する等、）であって、「祭る」と直接的に表現された用例5とは、同じ「まつる」であってもレベルが違うのである。

そのことについてもっと詳しく述べてみると、用例5で迺々芸命が降臨するときに、天照大御神が「吾が前を拝むが如く、いつき奉れ」と命令したのは迺々芸命と思金神だけである。

2h) 「天児屋命・布刀玉命・天宇受売命・伊斯許理度売命・玉祖命、扨せて五りの伴緒を支ち加へて天降しき。是に其のを八尺の勾瓏・鏡と草那芸剣と、亦、常世思金神・手力男神・天石門別神を副へ賜ひて、詔ひしく〜」¹⁵⁾

と多くの神を加えて降臨するのに、なぜこの二神だけに命令したのか。それは迺々芸命の場合は天孫であることから、当然のことであって、また思金神は天照大御神と共に国作りに関与した高御産巢日神の子であるからであろう。

思金神は天の石屋の場面で神々の先頭に立ち、伊斯許理度売命（いしこりどめのみこと）に鏡を作らせ、その後の葦原中国の荒振る国つ神を言趣ける¹⁶⁾場面でも、「思金神と八百万の神」と表現されるほど重要な位置を占めているのである。

天照大御神はこの二神だけに、祭ることを命令した。つまりだれでも祭れるのではないことを現している重要な場面である。神々の世界で「祭る」ことは天つ神の子孫だけに限られているということであろう。用例2dを見ればそれはもっと確実になる。大国主神が自分を「治め賜はば」と要求した時、「僕が子等百八十の神は、即ち八重事代主神、神の御尾前と為て仕へ奉らば、違ふ神は非じ〜」¹⁷⁾（내 자식들인 많은 신은, 야에코토시로누시노카미가, 여러 신의 선두에 서고 또 뒤에 서서 모신다면 거역하는 신은 없을 것입니다.）と「仕へ奉る」とは言っているが、「祭る」とは言っていないのである。それはいうまでもなく、大国主神が天孫ではないからである。

15) 『古事記』上巻, p.115.

16) 言むける: 말이 이쪽을 향하게 한다. 즉 상대방이 복종의 뜻을 표현하는 말.

17) 『古事記』上巻, p.111.

3. 結論

「神が神をまつる」行為は、一貫して天の側の関与によって作られる「天孫の支配すべき国」が完成していく中で意味をもつ、と前で述べたが、それを整理してみる。まずは国つ神である大国主神と大物主神の場合はどちらも「治む」と表現されていて、「祭る」とは表現されていない。それは国を「あるべき状態に正しくおちつかせる」ことに二神がかかわるからである。この二神が現われる「国作り」「国譲り」の場面で、内容的には「治む」が「祭る」の意味になるが、直接的に「祭る」とは表現されない。国つ神らは、天つ神を「仕え奉る神」だからであって、天つ神の血統に対して「祭られる神」「祭る神」にはなれないのである。『古事記』中巻、次の二つの用例を見てみたい。

3a) 即ち意富多々泥古命を以て、神主と為て、御諸山にして、意富和之大神の前を拝み祭りき。¹⁸⁾

즉시 오오타타네코노미코토를 제주로 하여 미와야마에서 오오미와노오오카미(오오모노누시노카미)를 받들어 제사했다.

3b) 是に、天皇、患へ賜ひて、御寝しませる時に、御夢に覺して曰はく、「我が宮を修理ひて、天皇の御舎の如くせば、御子、必ず真事とはむ」と、如此覺す時に、ふとまにに占相ひて、何れの神の心ぞと求めしに、爾の祟りは、出雲大神の御心なりき。故、其の御子を、其の大神の宮を拝ましめに遣さむとする時に、誰人を副はしめば、吉けむとやらなひき。爾くして、曙立王、卜に食ひき。¹⁹⁾

그래서 천황이 걱정하시며 주무시고 계셨을 때, 꿈에 신이 나타나서 일러주길 “나의 궁을 천황의 궁전과 같이 수리한다면, 황자는 틀림없이 제대로 말을 할 것이다.” 라고 일러 주었을 때, 사슴 뼈를 태우는 점을 쳐서 어느 신의 마음인가를 알아보았더니, 그 재앙은 이즈모노오오카미(오오쿠니누시노카미)의 뜻에 의한 것이었다. 그래서 황자를 그 대신의 궁을 참배시키려 보내려고 했을 때, 누구를 딸려 보내면 좋을까 하고 점을 쳤다. 그랬더니 아케타츠노미코가 점괘에 나왔다.

18) 『古事記』中巻, p.185.

19) 『古事記』中巻, p.207.

3aは、国に疫病が流行ったとき、それをおさめるために天皇が直接、大物主神を祭るのではなく、大物主神の子孫である意富多々泥古命に祭らせる。また、3bのように、御子が言葉を話せないが、それは大国主神の祟りだと判る。だがこれもまた、天皇が直接、大国主神を祭ることはせず、曙立王に祭らせるのである。つまり、国つ神である大国主神と大物主神に対して、天皇が直接まつことはしない。

『古事記』上巻の「神々の物語」でも天照大御神を「祭る」ことは誰にでもできることではなく、迺々芸命と思金神のように天つ神の子孫たる天つ神だけが「祭る」ことのできる神なのだ。『古事記』において「神が神をまつる」ということは、「天皇の支配すべき国が完成」していくなかで、天皇の始祖たる高天原の天つ神々だけが行うものだと結論づけることができよう。また中巻以降の地上世界の物語において、天つ神らだけが、天皇によって祭られることにもつながる。それは『古事記』は実際の祭祀と関わりを持たせて語られるものではないのだ。『古事記』は天皇の世界を確認する物語であることに注意しなくてはならない。

【참고문헌】

- 青木周平(1995)「古事記神話における天神の位置」『古事記研究－歌と神話の文学的表現－』おうふう社, pp.26-64.
- 青木由紀子(1977)「海と山」『講座日本文学 神話下』至文堂, pp.34-58.
- 阿部真司(1998)「『古事記』の中の大物主神－「国作り」と「天下」成立の中での役割－」『古事記の神々』上5-1, 高科書店, pp.307-318.
- 岡田精司(1970)『古代王権の祭祀と神話』塙書房, p.102.
- 岡田精司(1992)『古代祭祀の史的研究』塙書房, p.292.
- 神野志隆光(1999)『古代天皇神話論』若草書房, pp.251-253.
- 水林彪(2001)『記紀神話と王権の祭り 新訂版』岩波書店, p.6.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 08.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 『古事記』における「神による神のまつり」
 -祭ることの意味について-

権赫晟

今まで『古事記』の神話は祭儀神話とされてきた。それは祭祀とともに神話があり発展してきたとらえ、それが体系化されて『古事記』や『日本書紀』となったとすることである。

しかし、実際に行われてきた「神祇令」での祭祀は、祟りや災いを予防するために、繰り返して行われる継続的な行事である。それに対して、『古事記』で語られているものは、崇神天皇の時、疫病が流行し、多くの人民が死んだ。天皇が夢託を請うと、夢の現れた大物主大神によって、それが大神の祟りによるものであることを知らされた。そこで天皇は、神託に従い、大神を祭らせ、国の平安を取り戻す。すなわち、神を祭ることにより、「天下が安らぎ、人民が榮える」ことが可能になった。とあるように、ある意味危機が訪れた時、それを回復するために、継続的ではなく、臨時的に行われたものなのである。

もちろん『古事記』にも「この鏡を、我のごとくいつも祭れ」とアマテラスが命令されたことが、継続的に守られてきたものもある。だがそこには、天皇の支配する国に対しての危機はみとめられない。それは、天皇の支配する国が、アマテラスによって限りなく保障されてきたことを意味するのだ。

 “festival of God by God” of “Kojiki”
 -About the meaning of worshipping you-

Kwon, Hyuk-Sung

The myth of “Kojiki,” thus far, has been considered to be a festival myth. It is thought that myths develop and redevelop alongside rituals, and as these systematized, they became “Kojiki” or “nihonshoki.”

However, religious services for “the deities of heaven and earth” that have been performed are continuous events to be repeated and carried out to prevent evil. In contrast, for this ritual, a contagious disease was prevalent at the age of the Emperor Sujin, and many people died of “Kojiki.” In other words, it became a festival for “peace and people to prosper around the world” with God. In a sense, where there was a crisis, this ritual was performed, and so it is not continuous but temporary.

There is some part of the ritual that has been followed continuously because Amaterasu gave an order to “always worship this mirror like me” and applied this to “Kojiki.” However, the crisis for the country, which the Emperor rules over, is not accepted there. This means that the country that the Emperor rules over has been guaranteed limitlessly by Amaterasu.

가와바타 야스나리(川端康成)의 문학과 일본의 바둑문화*

—가와바타 야스나리의 바둑 관련 에세이를 중심으로—

김 청 균**

(e-mail : kgsiga321@hanmail.net)

< 목 차 >

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 서론 | 4. 바둑의 현대화 |
| 2. 바둑발전의 동력 | 5. 결론 |
| 3. 조화로서의 바둑 | |

키워드 : 川端康成(Yasunari Kawabata), 囲碁文化(Culture of Go), 吳清源(Chingwian U), 調和(Harmony), 新布石(New Strategic Move)

1. 서론

2016년에 열렸던, 한국의 이세돌 기사와 인공지능 알파고와의 대국은 가히 세간의 이목을 모은 문화적 사건이었다. 그 이래로 바둑에 대한 관심과 인기는 점점 더해가고 있는 바, 이러한 관심과 인기는 바둑이 오랜 전통을 갖는 동아시아의 게임이라는 사실과 결코 무관하지 않다.

그런데, 이와 같이 바둑이 유구한 전통을 자랑하는 놀이임에도 불구하고, 바둑을 소재로 한 문학 작품은 그다지 존재하지 않으며, 소위 메이저급 작가의 경우에 바둑과 관련한 작품을 남긴 이는 참으로 드물다고 할 수 있다. 이러한 점을 살펴보았을 때, 일본근현대문학을 대표하는 작가로 1968년 노벨문학상 수상자이

* 이 논문은 2015년 대한민국 교육부와 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임 (NRF-2015S1A5B5A07041971)

** 연세대학교, 강사, 일본근현대문학

기도 한 가와바타 야스나리(川端康成)는 매우 이채로운 존재이다. 가와바타는 바둑을 소재로 한 소설과 에세이, 그리고 바둑 관전기를 남기고 있는 것이다.

위와 같은 점에 주목하여 본고에서는 가와바타의 문학 세계를 일본의 바둑 문화와의 관련 속에서 분석하여 그 특질을 파악하고자 한다.

일본의 신감각과 작가의 한 사람으로 작품 활동을 시작한 가와바타 야스나리는 『이즈의 무희(伊豆の踊子)』¹⁾, 『설국(雪国)』²⁾, 『산소리(山の音)』³⁾ 등 걸작을 발표하였으며, 그 작품에는 일본의 서정성이 깊이 투영되어 있다.

그런데, 이러한 작품 경향과 관련하여 매우 이색적이면서도 간과할 수 없는 점은 가와바타가 열렬한 바둑애호가로서 바둑 관전 기사를 지내기도 하였다는 점이다. 이와 같은 체험을 바탕으로 가와바타는 소설 『명인(名人)』⁴⁾을 비롯하여 바둑 관전기와 『우칭위안 기담(吳淸源棋談)』⁵⁾ 등 바둑을 소재로 한 에세이를 남겼다. 가와바타의 바둑 관련 작품은 가와바타 작품의 기저에 흐르는 일본의 서정성 뿐 아니라, 일본의 바둑문화를 읽어낼 수 있는 훌륭한 자료라는 점에서 주목할 만하다.

가와바타의 바둑 관련 작품은 일본의 바둑문화와 밀접하게 관련되어 있다는 점에서 바둑문화와 문학을 아우르는 학제적, 통섭적 연구가 필수적으로 요구된다 할 수 있다. 일본의 바둑문화와 문학, 양쪽 모두에 대한 깊이 있는 이해 없이는 가와바타의 바둑 관련 작품은 연구가 용이하지 않다. 그러한 이유 때문인지 가와바타 야스나리의 바둑 관련 작품은, 가와바타의 소설 『명인』을 제외하면 이렇다 할 연구 대상이 되어 있지 않은 실정이다. 그런 점에서 일본의 바둑문화와 관련한 가와바타의 작품 세계를 보다 심도 있게 파악하기 위해서 가

1) 단편소설 『이즈의 무희(伊豆の踊子)』는 1926년 1월부터 2월까지 『분게이지다이(文芸時代)』에 발표되었고, 1927년 3월 긴세이도(金星堂)에서 간행한 단편집 『이즈의 무희(伊豆の踊子)』에 수록되었다.

2) 장편소설 『설국(雪国)』은 1935년 1월부터 1947년 10월까지 『분게이춘추(文芸春秋)』, 『가이조(改造)』 등에 단속적으로 발표되었고, 1937년 6월에 소겐사(創元社)에서 이를 개정 증보한 『설국(雪国)』이 간행되었다. 이후 다시 이를 개작한 『설국(雪国)』이 1948년 12월 소겐사(創元社)에서 간행됨으로써 완결되었다.

3) 장편소설 『산소리(山の音)』는 1949년 9월부터 1954년 4월까지 『가이조분게이(改造文芸)』 등에 단속적으로 발표되었고, 1954년 4월에 지쿠마쇼보(筑摩書房)에서 간행되었다. …

4) 장편소설 『명인(名人)』은 1951년 8월에서 1954년 5월까지 『신초(新潮)』 등에 단속적으로 발표되었고, 1954년 7월 분게이춘추신사(文芸春秋新社)에서 간행한 『우칭위안 기담·명인(吳淸源棋談·名人)』에 수록되었다.

5) 『우칭위안 기담(吳淸源棋談)』의 간행 사항에 대하여는 본 논문의 「2. 바둑발전의 동력」의 본문 중에서 설명하기로 한다.

와바타의 바둑 관련 에세이를 연구할 필요가 있다.

이러한 문제의식을 가지고 본고에서는 가와바타 야스나리의 바둑 관련 에세이를 중심으로 일본의 바둑문화와의 관련을 시야에 넣어 분석함으로써 가와바타의 문학 세계의 특징을 파악하고 일본의 바둑문화에 대해 고찰해 보고자 한다. 구체적으로는 『우칭위안 기담』, 『신포석 청춘(新布石青春)』⁶⁾등, 가와바타 야스나리의 바둑 관련 에세이를 대상으로 이들 에세이를 일본의 바둑문화와의 관련을 시야에 넣어 고찰하기로 한다.

가와바타의 바둑 관련 에세이는 기본적으로 전근대(前近代) 시기 일본의 바둑 전통에 대한 긍정에서 출발한다. 그러나 한편으로 가와바타는 일본의 바둑을 상대화하여 평가하려는 노력을 게을리하지 않는다. 가와바타는 중국 등 타국의 바둑 전개에 대하여도 관심을 기울인다. 그리하여 가와바타는 궁극적으로는 바둑 발전의 원동력이 무엇인지에 대하여도 탐구하고자 하였고, 동시에 바둑은 본질적으로 어떤 게임인지를 살펴보고자 하였다.

이러한 점을 염두에 두고 본고에서는 가와바타의 바둑 관련 에세이를 통하여 가와바타가 바둑 발전의 동력이 무엇이라고 생각하였는지, 또 가와바타가 존경하고 있던 기사 우칭위안이 바둑의 본질을 어떻게 생각하였는지 분석하고자 한다.

일본의 바둑은 근현대기에 접어들어 이 시기의 일본이 사회 각 영역에서 엄청난 변화를 겪은 것과 마찬가지로 크나큰 변모를 보여주었다. 신포석(新布石) 등 바둑에 관한 이론의 현대화가 이루어졌고, 전문기사제가 도입되고 각종 기전이 창설되었다. 이러한 변화 속에 출중한 기사들의 출현으로 일본 바둑은 크게 발전하게 된다. 가와바타 야스나리는 일본 바둑의 현대화가 이루어지던 이 시기에 바둑 관전기를 쓰기도 하는 등, 그 변화를 몸소 가까이에서 체험한 작가이다. 일본 바둑의 현대화라는 격변의 시기에 가와바타는 그 변화를 어떻게 바라보았는지도 시야에 넣어 가와바타의 바둑 관련 에세이를 분석하기로 한다.

2. 바둑발전의 동력

가와바타 야스나리는 기본적으로는 소설가이지만, 슈사이 명인(秀哉名人)의

6) 『新布石青春』은 『木谷実選集』第二卷(日本棋院, 1968年8月)의 「月報」에 처음 수록되었다. …

은퇴바둑 관전기⁷⁾, 슈사이 명인과 우칭위안 간의 대국 관전기⁸⁾의 경우에서처럼 바둑의 관전기를 쓴 적도 있고 가장 좋아하는 취미의 하나가 바둑이기도 하였던 인물이다. 실제 작품에 있어서도 슈사이 명인의 은퇴바둑을 소재로 한 바둑 소설 『명인』을 남기고 있는데, 이 작품은 그의 대표작의 하나로 간주된다. 그와 동시에 가와바타는 바둑과 관련된 에세이를 몇 편 남기고 있는데, 그 중 가장 큰 비중을 차지하는 것은 『우칭위안 기담』이다.

이러한 점을 염두에 두고 본고에서는 『우칭위안 기담』을 중심으로 가와바타의 바둑 관련 에세이에 대하여 분석하되, 본고의 제4장 「바둑의 현대화」에서는 ‘바둑의 현대화’와 관련된, 가와바타의 생각을 보여주는 에세이 『신포석 청춘(新布石青春)』도 분석의 대상에 넣어 고찰하기로 한다.

『우칭위안 기담』은 『요미우리신문(読売新聞)』의 석간(夕刊) 지면에 1953년 8월 19일부터 12월 7일까지 총 41회에 걸쳐 연재된 에세이다. 이 에세이는 그 이듬해인 1954년 7월에 문예춘추신사(文芸春秋新社)에서 간행한 『우칭위안 기담·명인(吳淸源棋談·名人)』에 수록되었다.

가와바타는 1953년에 우칭위안을 인터뷰하여 『우칭위안 기담』을 썼다. 중국 출신으로 1928년 도일하여 일본에서 바둑기사로 활동하였던 우칭위안은 이때 나이 39세로 일본에 온지 25년째를 맞이하고 있었다. 이 시기는 우칭위안의 바둑 기량이 절정에 올라 바둑계의 1인자로서 군림하던 시기⁹⁾로 그런 만큼 이 에세이의 저변에는 우칭위안에 대한 존경심이 자리잡고 있다.¹⁰⁾

7) 슈사이 명인은 에도시대(江戸時代)의 바둑명문가 중의 하나였던 혼인보(本因坊) 가의 마지막 세습 혼인보였던 인물로 기타니 미노루(木谷実)를 상대로 한 그의 은퇴바둑은 1938년 6월 26일부터 12월 4일까지 두어졌다. 가와바타 야스나리는 이 바둑의 관전기를 『도쿄니치니치신문(東京日日新聞)』과 『오사카마이니치신문(大阪毎日新聞)』에 연재하였다. 이 관전기의 해설은 우칭위안이 담당하였다. ……

8) 슈사이 명인과 우칭위안 간의 대국 관전기는 1922년 2월 8일과 9일자 『국민신문(國民新聞)』에 게재되었다.

9) 우칭위안은 도일 이후 그 바둑 실력으로 바로 주목을 받게 되었고, 1933년에는 기타니 미노루와 함께 ‘신포석(新布石)’을 발표하여 각광을 받았다. 1940-50년대에 우칭위안은 일본 바둑계의 1인자로 인정받으며 전성기를 구가하였다. ……

10) 가와바타가 우칭위안을 바둑 기사로서 그 실력을 매우 존중하고 있었음은, 바둑을 소재로 한 가와바타의 소설 『명인(名人)』에도 드러난다. 『명인』에는 슈사이 명인의 은퇴바둑을 중심으로 기사들의 대국 시의 미묘한 심리적 갈등의 일단이 드러나고 있다. 『명인』에서 슈사이 명인은 오타케(大竹) 7단(이는 기타니 미노루 <木谷実>가 모델임)이 둔 흑 121의 수를 예도에 어긋난 수라고 오해한다. 그런데, 가와바타는 오타케 7단이 흑 121 수를 둔 의도를 설명하기 위하여 우칭위안의 “흑이 121을 두어도, 백은 122로 받지 않고 8의1로 산다. 그러면 팻감으로 쓰기 어렵게 된다.”(川端康成(1980) 『名人』, 『川端康成全集』第11卷, 新潮社, p.557) 라는 견해를 소개한다. 이는 바둑

우칭위안에 대한 이러한 존경심을 바탕으로 한 이 에세이는 다소 의외의 출발을 보여준다. 1953년 8월 21일에 『요미우리신문(読売新聞)』의 석간(夕刊) 지면에 게재된 『우칭위안 기담』의 제2회분 「전통(伝統)」의 시작 부분에는 다음과 같은 대목이 나온다.

이번에 우 씨(吳氏)의 이야기를 듣고 내가 잘못 생각한 것을 바로잡게 된 것이 하나 있다. 이전부터의 나의 의심이 풀린 것이기도 했다. 그것은 중국의 바둑 실력에 대해서이다.¹¹⁾

가와바타는 우칭위안과의 인터뷰를 통해서 자신이 중국의 바둑 실력에 대해서 잘못 알고 있었음을 깨닫게 되었다고 말하고 있는데, 그렇다면, 가와바타는 중국의 바둑 실력에 대해서 어떻게 평가하고 있었을까? 이 점을 보여주는 단서가 되는 것은 다음의 인용 대목이다.

진정한 바둑은 일본에서 만들어졌다고 말할 수 있다. 중국의 바둑의 예(芸)는 지금이든 300년 전이든 일본에 비하여 이야깃거리가 되지 않는다. 바둑이 드높아지고 깊이 있게 된 것은 일본인에 의해서였다. 옛날에 중국으로부터 이입된 많은 문물이 중국에서 훌륭하게 발달하고 있던 것과는 달리 바둑은 일본에서만 훌륭하게 발달했다. 다만 그것은 에도막부(江戶幕府)가 보호를 해 준 뒤로 근세의 일이다.¹²⁾

가와바타는 기본적으로 일본의 바둑 전통에 자부심을 가지고 있다. 제대로 된 바둑 문화가 꽃 핀 것은 일본에서이고, 그것도 에도시대에 이르러서였다고 가와바타는 생각한다. 그러한 바둑의 발전은 에도막부의 보호에 의해서 가능했다고 생각한다. 그런데, 일본바둑의 발전에 대한 이러한 진단은 정확한 진단이라고는 할 수 없다. 일본만 놓고 보았을 때 에도시대에 막부의 보호 하에 일본의 바둑이 눈부신 발전을 이룬 것은 틀림 없는 사실이나, 그러한 발전이 오직 일본에서만 존재했다는 가와바타의 인식에는 오류가 있다. 바로 이 점을 깨우쳐 준 이가 우칭위안이다. 다음을 보기로 하자.

에 관하여 우칭위안의 이야기는 굳게 신뢰할 수 있다고 하는 신뢰감, 나아가 우칭위안에 대한 존숭의 감정에 기반한 것으로 여겨진다.

11) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, 『川端康成全集』第25卷, 新潮社, p.243.

(이하 본 논문에서 일본어 문헌으로부터의 인용 시, 한국어 역은 본 연구자에 의한다.)...

12) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.244.

중국의 바둑은 건륭(乾隆) 시절에 가장 융성하였다고 우씨의 이야기를 듣고 알게 되었다. 그 건륭제의 원년은 일본의 겐분(元文) 원년(1736년), 도쿠가와(徳川)도 8대 쇼군 요시무네(吉宗) 시절이다. 그리고 건륭 시절은 60년 계속되었다. 일본의 기사로 말하면 기성(棋聖) 혼인보(本因坊) 도사쿠(道策)는 건륭으로부터 34,5년을 거슬러 올라가는 겐로쿠(元祿) 15년에 별세한다. 중국의 강희(康熙) 41년에 해당한다. 또한 명인 조와(丈和)는 건륭 시절의 마지막에 어린 아이였다.¹³⁾

가와바타는 우칭위안을 통하여 중국의 청(淸) 왕조의 전성기에 해당하는 건륭 시절이 또한 중국 바둑이 가장 융성한 시기였음을 알게 된다. 이 건륭 시절은 시기적으로는 일본의 8대 쇼군 요시무네의 시기와 겹치며 일본 바둑의 명인으로 이름 높은 도사쿠의 이후 시기, 그리고 조와 명인이 활약하기 이전의 시기에 해당한다. 그리고 이 건륭 시절의 중국 바둑이 얼마나 강했는지는 건륭 시절의 고수가 일본의 몇 단 정도에 상당하는지에 대한 가와바타의 질문에 우칭위안이 “대단합니다. 명인급이겠지요.”¹⁴⁾ 라고 대답하는 데서 여지없이 드러난다. 이로부터 건륭 시절 중국 바둑의 실력이 에도시대의 일본 바둑에 필적함을 알 수 있다.

그렇다면, 여기서 궁금해지는 것은 어떻게 건륭 시절의 중국 바둑이 에도 시대의 일본 바둑에 필적할 정도로 강할 수 있었는지 하는 것이다. 이에 대하여도 우칭위안은 “건륭 시절은 문화가 가장 번영한 시절로…”¹⁵⁾, “바둑도 귀족, 부호가 보호 장려했습니다. 건륭 시절은 천하가 태평하고 중국의 국력이 충실하여 유복하기도 했으니까 바둑도 융성했습니다.”¹⁶⁾ 라고 말하고 있다.

요컨대 국력이 충실하고 천하가 태평하여 문화가 번영하는 분위기 속에서 바둑이 융성할 수 있었다는 것이다. 이는, 일본 바둑이 에도시대에 융성할 수 있었던 것이 오랜 전란이 수습되고 평화가 이어지는 가운데 조닌 문화(町人文化)가 번영하고 이러한 시대 분위기 속에서 막부가 지속적으로 바둑을 보호 육성하였던 데 있었던 것과 궤를 같이한다.

“갓가지 학예의 재능이 나라와 시대에 의하는 운명은 여러 가지를 생각하게 한다.”¹⁷⁾ 라고 가와바타가 적고 있는 데서 드러나듯이 바둑 또한 문화를 형성

13) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.245.

14) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.246.

15) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.248.

16) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.248.

하는 다른 분야의 경우와 마찬가지로 각 나라의 국력, 그리고 시대 분위기에 따라 융성하기도 하고 쇠퇴하기도 함을 가와바타는 인식하게 된 것으로 보인다. 또한 가와바타는 우칭위안을 통하여 중국 바둑에도 융성한 시기가 있었음을 알게 됨으로써 일본 바둑에 대한 지나친 자부심에서 어느 정도 벗어날 수 있게 된 것으로 여겨진다. 이와 같이 바둑 발전의 동력이 각 나라의 국력과 시대 분위기라는 점을 깨닫고, 일본 바둑에 대한 지나친 자부심에서 벗어날 수 있었던 점이 가와바타가 우칭위안과의 인터뷰에서 얻은 성과였음을 알 수 있다.

3. 조화로서의 바둑

당대 일본의 바둑 1인자였던 기사 우칭위안과의 인터뷰를 바탕으로 씌어진 『우칭위안 기담』은 그 주된 인터뷰의 소재가 바둑이니만큼 당연히 바둑이란 무엇인가 하는 점이 결코 피해갈 수 없는 논점으로 부각된다. 바둑의 본질에 관하여 우칭위안은 어떻게 생각하고 있었을까? 이를 가장 여실히 드러내 보이는 대목은 바로 다음의 인용 대목일 것으로 생각된다.

“바둑은 조화의 모습이라고 나는 생각합니다. 바둑은 다툼이나 승부라기보다 조화라고 생각합니다. 돌 하나 돌 하나가 상응하여 마지막에 한판의 바둑이 조화로운 것으로 성립하는 것입니다.”¹⁸⁾

“내 생각으로는 바둑이라는 것은 하나하나 돌을 포개 가는 것입니다만, 그 하나하나의 돌에는 작용이랄까, 힘이랄까 그런 것이 어디에 돌이 놓이든 있는 거지요. 그 하나 하나의 돌의 힘이 완전한 조화를 이루면 완전히 종합적인 힘을 갖는 것입니다. 가령 세 개의 돌이 있다고 해도 그 세 개의 돌을 합친 힘은 15가 되기도 하는가 하면, 10이 되기도 합니다. 몇이라도 됩니다. 즉, 세 개의 돌의 종합적인 조화 여하에 따라서 그 힘은 커지기도 하고 작아지기도 하지요. 그러므로 나는 자신의 돌 하나하나가 최고의 작용과 조화를 가지도록 힘쓰는 것입니다. 상대도 물론 그에 열심일 터입니다. 그리하면 거기에 또한 상대의 돌과 자신의 돌, 즉 백돌과 흑돌의 조화가 생긴다고 생각합니다. 이 경

17) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.248.

18) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.265.

우, 백과 흑 두 사람의 기량에 현격한 차가 있어서는 조화는 깨져버리겠지요. 조화에는 두 사람의 상응하는 힘이 필요하겠지요.”¹⁹⁾

주지하다시피 바둑은 흑을 쥔 사람과 백을 쥔 사람이 한 수 씩 교대로 착수하여 최종적으로는 집의 많고 적음으로 승부를 겨루는 놀이이다. 바둑 대국을 하게 되면 필연적으로 두 대국자 간에 승패가 갈리게 된다. 바둑이 승부라는 것은 그 누구도 부인 못할 엄연한 사실이다. 그럼에도 바둑은 단순히 승부라는 점으로만 귀착되지 않는다. 그런 점에서 상기 인용에 보이는, 우칭위안의 ‘바둑은 조화’라는 주장은 설득력이 있다. 대국자가 놓아가는 돌 하나하나의 작용의 대소 여부에 따라 그 결과로 승패는 자연스럽게 갈리게 될 것이다. 대국 상대보다 돌의 조화를 이룬 이는 이기게 될 것이고, 조화를 이루지 못한 이는 지게 될 것이다. 돌의 조화 여부에 따라 승패가 갈리는 것이다. 그러므로 무엇보다도 바둑 대국에 있어서는 자신의 돌이 조화를 이루도록 하지않으면 안된다.

그런데, 이와 같이 자신의 돌의 조화를 꾀하는 데서 더 나아가 바둑에는 보다 큰 차원의 조화가 존재할 수 있다고 우칭위안은 생각한다. 비슷한 기량을 가진 두 사람이 자신의 바둑에서 조화를 추구할 경우, 그들은 각각 자신의 돌 안에서 조화를 이루게 되는 데서 나아가 상대의 돌과의 조화마저도 이룰 수 있다는 것이다.

우칭위안은 “바둑은 조화이니까 무리해선 안 됩니다. (중략) 바둑의 승부는 보통의 승부와 조금 다르다고 저는 생각합니다. 거기에는 인위적인 것이 적어서 거의 자연의 현상이라고 해야 하는 바, 자연의 현상을 단지 승부라고 이름 붙였을 뿐이 아닐까요?”²⁰⁾ 라고까지 말하는데, 이를 통해 ‘바둑은 조화’라는 우칭위안의 생각이 일종의 바둑예찬론에 도달함을 알 수 있다. 바둑이 승부를 겨루기는 하되, 바둑은 이기고 지는 것에 주안점을 두는 다른 오락과는 달리 인위적인 것보다는 자연의 이법(理法)에 순응하여야 한다는 이치를 구현한다는 것이다.

그런데, 바둑의 본질이 조화에 있고, 그러므로 자연의 이법에 순응하여야 한다는 우칭위안의 생각은 자연스럽게 바둑의 기원(起源)에 대한 독특한 견해로 이어진다. 우칭위안은 “바둑의 시작은 승부 겨루기나 놀이가 아니고 천문(天文)이나 역학을 연구하는 도구였다.”²¹⁾ 라는 견해를 제시하는 것이다. 그러나

19) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, pp.265-266.

20) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.266.

바둑의 기원(起源)이 천문이나 역학을 연구하는 것과 관련이 있다는 이 견해는 일반적으로 받아들여지는 것이 아니다. 바둑 연구가인 마스카와 고이치(益川宏一)가 중국에 있어서나, 전후 일본에 있어서나 바둑의 기원은 충분히 고찰되지 못하였다고 이야기하고 있으며²²⁾, 미즈구치 후지오(水口藤雄)가 “바둑의 기원에 관한 정보는 불확실한 면이 많다.”²³⁾ 고 말하는 바와 같이 바둑의 기원은 아직도 분명히 밝혀지지 못한 상태에 있다. 그러나 바둑의 기원이 천문이나 역학에 있다고 가정하면, 자연의 이법을 따른다는 점에서 바둑의 본질이 조화에 있다고 보는 견해는 더욱 설득력이 있게 될 것이다. 이러한 점에서 우칭위안이 가지고 있는 바둑의 본질과 기원에 관한 생각은 하나의 논리 구조를 가지는 자연스런 사유의 소산임을 파악할 수 있다.

4. 바둑의 현대화

『우칭위안 기담』에서 우칭위안은 ‘바둑은 조화’임을 강하게 피력하기는 하나, 그렇다고 해서 그는 바둑이 승부라는 사실을 망각하지는 않는다. 우칭위안은 바둑이 승부이기도 하다는 사실을 직시하고 바둑이 승부를 겨루는 좋은 게임으로 자리 잡기 위한 하나의 방안을 제시한다. 다음을 보기로 한다.

“제 이상(理想)으로서는 바둑은 하루 안에 끝내도록 하고 싶습니다.”

“하루 안에라고 해도 몇 시간 정도...”

“6시간 정도에 끝내는 것이 좋지 않을까요? 한 사람의 제한 시간이 6시간, 두 사람이면 12시간이 됩니다. (중략) 다만 바라는 것은 바둑이 될 수 있는 한 공정한 경기가 되도록 할 것, 외국에도 널리 발전되어 갈 것, 그리고 기사의 건강을 중시할 것...”

이 세 가지가 시간 단축을 주장하는 우 씨의 주된 이유인 듯하다.²⁴⁾

우칭위안은 기사들의 대국에서 대국자 한 사람당 6시간의 제한 시간을 둘 것을 역설한다. 대국의 공정성, 외국으로의 보급, 기사의 건강 보호를 위해서는

21) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.301.

22) 益川宏一(1987) 『ものと人間の文化史59 碁』, 法政大学出版局, pp.25-26.

23) 水口藤雄(2001) 『囲碁の文化誌—起源伝説からヒカルの碁まで—』, 日本棋院, p.14.

24) 川端康成(1980) 『吳清源棋談』, p.270.

이러한 제한 시간의 설정이 긴요하다는 것이다.

그가 들고 있는 제한 시간 설정의 이유는 모두 합리성을 가지는 것들이다. 대국이 하루 내에 끝나지 않으면 중단된 대국이 다시 재개되기까지 시간을 기사가 어떻게 보냈는지 알 수 없어 공정성의 문제가 발생할 우려가 있다. 그리고 바둑이 대국에 지나치게 많은 시간이 걸리는 게임이라는 이미지가 있다면 외국에 대한 바둑 보급은 지장을 불러일으킬 수 있다. 또한 고도의 정신노동이자 육체노동이라고 할 수 있는 바둑을 생업으로 하는 기사가 장시간의 대국을 계속한다면 기사의 건강에 악영향을 미칠 가능성도 존재한다.

제한 시간 6시간 설정이라는 우칭위안의 제안은 무엇보다도 기사들의 바둑을 좋은 내용의 승부로 이끌어내기 위한 합리적 제안이라 보인다. 우칭위안은 바둑을 조화를 추구하는 것이라고만 규정하지 않고 바둑이 승부이기도 하다는 점을 분명히 인식한 바탕 위에서 합리적 제안을 한 것으로 생각된다. 우칭위안의 제안은 대국자의 시간 사용 등에 있어서 당시 아직 통용되고 있던 전근대적인 요소를 뛰어넘어 바둑의 현대화를 추구한 것이라 해도 좋을 것이다. 실제 현대 바둑은 우칭위안의, 제한 시간 6시간이라는 제안을 뛰어넘어 현재는 제한 시간이 한 사람 당 2시간 내지는 3시간인 기전이 일반적인 흐름이 되었을 뿐만 아니라 한 사람 당 제한 시간이 1시간 이내의 속기 바둑 또한 흔히 두어지게 되었다.

우칭위안의, 제한 시간에 대한 제안은 분명 바둑의 현대화에 기여하는 제안임에 틀림없다. 그런데, 바둑의 현대화라는 측면과 관련하여 결코 간과할 수 없는 우칭위안의 공헌이 있다. 그것은 바로 우칭위안과 기타니 미노루(木谷実)²⁵⁾가 공동으로 창안한 신포석(新布石)이라는 새로운 포석법의 개발이었다.

이들 두 사람의 공헌에 대하여 가와바타는 에세이 『신포석 청춘(新布石青春)』에서 “기타니 미노루, 우칭위안의 신포석시대는 두 젊은 천재의 청춘 시대였던 데에 그치지 않고 실로 또한 현대 바둑의 청춘 시대였다.(중략) 신포석 시대의 기타니와 우만큼 명확히 시대를 들끓게 하고 시대의 새로운 획을 그은 신인은 아직 나오지 않았다고 생각된다.”²⁶⁾ 라고 한다. 우칭위안과 기타니 미노루가 공동으로 창안한 신포석이 바둑의 포석에 있어 근본적 변화를 불러 일

25) 기타니 미노루(木谷実)는 우칭위안과 함께 신포석을 창안하였을 뿐 아니라, 우칭위안과 1933년부터 34년에 걸쳐 제1차 10번 승부, 1939년부터 1941년에 걸쳐 제2차 10번 승부를 겨루는 등, 일본의 정상급 기사로 활동하였다. 슈사이 명인의 은퇴 바둑을 소재로 한, 가와바타 야스나리의 소설 『명인』의 등장인물 오타케(大竹) 7단의 모델이기도 하다. ……………

26) 川端康成(1980) 『新布石青春』, 『川端康成全集』第25卷, 新潮社, p.345.

으며 바둑 현대화에 기여한 것을 두고 가와바타는 ‘시대의 새로운 획을 그은’ 것으로 평가하는 동시에 ‘현대 바둑의 청춘 시대’가 도래한 것으로까지 평가하는 것이다.

그렇다면, 가와바타가 현대 바둑의 발전에 새로운 기점을 이루는 것으로 높이 평가하는 신포석은 바둑 연구자들에게 어떻게 평가받고 있을까? 이를 살펴보기 위하여 먼저 신포석의 출현 과정을 살펴보기로 한다. 바둑 연구자인 미즈구치 후지오(水口藤雄)는 신포석이 제시되어 바둑 애호가들에게 인기를 얻었던 과정을 다음과 같이 요약한다.

1933년 여름 기타니 미노루가 『포석과 정석의 통합 (布石と定石の統合)』이라는 저서를 발표하기 위하여 신슈(信州)의 지고쿠타니온천(地獄谷温泉)에 보양을 겸하여 체재하고 있었습니다. 거기에 우칭위안이 참가하여 새로운 포석의 방식을 연구하였고, 도쿄에 돌아오고 나서는 당시의 일본기원(日本棋院) 편집장 야스나가 하지메(安永一)의 집필에 의하여 『신포석법 (新布石法)』을 출판하였습니다.

그리고 기타니와 우는 그해 가을의 정석 시합에서 ‘신포석법’을 시도하여 두 사람이 우승을 겨룰 정도로 이겨졌습니다. 인기와 실력을 갖춘 두 사람이 『신포석법 (新布石法)』을 발표하고 또한 실천하여 세간의 주목을 받게 되고 동서(同書)는 베스트셀러가 되었습니다.²⁷⁾

위의 인용으로부터도 알 수 있듯이 기타니 미노루와 우칭위안 두사람이 함께 협력하여 만들어낸 신포석은 바둑 실전에서 승리통하여 그 이론의 우수성이 입증됨으로써 더욱 각광을 받게 된다. 이러한 신포석의 의의에 대하여 미즈구치 후지오는 “근대의 바둑 전법의 일대 전기가 된”²⁸⁾ 것이자 “바둑계의 신기원을 이룩한 것”²⁹⁾으로 본다. 또한 한국의 바둑 연구자인 문용직은 바둑의 역사에서 패러다임의 혁명으로 생각되는 것은 두 번으로 그 첫째는 17세기 말 일본의 명인 도사쿠(道策)에 의해 발견된 구조주의적 사고이고 둘째는 20세기 초 우칭위안과 기타니 미노루의 중앙의 발견이라고 하여³⁰⁾ 신포석이 바둑에

27) 水口藤雄(2001) 『囲碁の文化誌一起源伝説からヒカルの碁まで一』, p.184.

28) 水口藤雄(2001) 『囲碁の文化誌一起源伝説からヒカルの碁まで一』, p.184.

29) 水口藤雄(2001) 『囲碁の文化誌一起源伝説からヒカルの碁まで一』, p.184.

30) 문용직(2006) 『바둑의 발견』, 도서출판 부키, pp.42-43.

초래한 변화가 그야말로 패러다임의 변화였다고 본다. 그리고 기쿠치 다쓰야(菊地達也)는 “신포석은 종래의 포석에 입체감과 스피드를 붙여 넣은 참신함이 있고, 이것은 에도시대부터 애써서 쌓아올린 ‘귀와 변의 바둑’에서 ‘가운데와 세력’을 향한 탈피를 담고 있었다.”³¹⁾ 고 하여 신포석의 출현으로 일본 바둑이 에도시대의 바둑에서 벗어나 현대 바둑으로 나아가기 시작한 것으로 해석한다.

이와 같이 우칭위안과 기타니 미노루의 신포석은 가히 현대 바둑의 개막을 알리는 것이었다고 할 수 있다. 소목과 외목 위주로 이루어지던 종래의 포석에 대하여 화점과 삼삼을 이용한 신포석의 발상은 스피드와 중앙을 중시하는, 바둑의 새로운 반면 운영 전략을 가능케 했다. 한마디로 신포석은 새로운 패러다임의 현대 바둑 전략을 창출한 것이었다.

신포석을 창안한 기타니와 우칭위안에 대한 가와바타의 평가는 결코 과도한 것이 아니며 바둑 애호가라면 쉽게 수긍할 수 있는 것이다. 가와바타의 독특한 점은 청년기의 기타니와 우칭위안에 의해 만들어진 신포석이 새로운 바둑의 시대의 개막을 알리는 것이라고 두 기사의 젊음과 새로운 바둑의 도래를 ‘청춘’이라는 이미지로 연결시켜 바라보았다는 점이다.

5. 결론

본고에서는 『우칭위안 기담』을 비롯한 가와바타 야스나리의 바둑 관련 에세이를 중심으로 가와바타의 문학과 일본의 바둑문화와의 관련을 고찰하였다.

가와바타는 기본적으로 일본의 바둑 전통에 자부심을 가지고 있다. 제대로 된 바둑문화가 꽃핀 것은 일본에서이고, 그것도 에도시대에 이르러서였다고 가와바타는 생각한다. 그러나 우칭위안과의 인터뷰를 통하여 바둑 또한 문화를 형성하는 다른 분야의 경우와 마찬가지로 각 나라의 국력, 그리고 시대 분위기에 따라 융성하기도 하고 쇠퇴하기도 함을 가와바타는 인식하게 된 것으로 보인다.

또한 가와바타는 우칭위안을 통하여 중국 바둑에도 융성한 시기가 있었음을 알게 됨으로써 일본 바둑에 대한 지나친 자부심에서 어느 정도 벗어날 수 있게 된 것으로 여겨진다.

당대 일본의 바둑 1인자였던 기사 우칭위안과의 인터뷰를 바탕으로 쓰인

31) 菊地達也(2000) 『木谷実とその時代』, 棋園図書, p.22.

『우칭위안 기담』은 그 주된 인터뷰의 소재가 바둑이니만큼 당연히 바둑이란 무엇인가 하는 점이 결코 피해갈 수 없는 논점으로 부각된다. 이에 대한 우칭위안의 답변은 ‘바둑은 조화’라는 것이다. 그리고 이러한 생각은 일종의 바둑예찬론으로 이어진다. 우칭위안에 의하면 바둑이 승부를 겨루기는 하되, 바둑은 이기고 지는 것에 주안점을 두는 다른 오락과는 달리 인위적인 것보다는 자연의 이법(理法)에 순응하여야 한다는 이치를 구현한다는 것이다.

일본의 바둑은 근현대기에 접어들어 이 시기 일본이 사회 각 영역에서 엄청난 변화를 겪은 것과 마찬가지로 크나큰 변모를 보여주었다. 신포석 등 바둑에 관한 이론의 현대화가 이루어졌고, 전문기사제가 도입되고 각종 기전이 창설되었다. 이처럼 바둑이 현대화되어 가는 한 단면을 가와바타의 바둑 에세이에서 살펴볼 수 있었다. 『우칭위안 기담』을 통하여 대국 시의 제한 시간을 6시간으로 하여야 한다는 바둑 현대화에 부합되는 우칭위안의 주장을 파악하였다. 그리고 『신포석 청춘』을 통하여 신포석이 창안된 시기는 곧 현대 바둑의 청춘기라고 가와바타가 평가하였음을 알 수 있었다.

【참고문헌】

- 문용직(2006) 『바둑의 발견』, 도서출판 부키, pp.42-43.
川端康成(1980) 『名人』, 『川端康成全集』第11卷、新潮社、p.557
川端康成(1980) 『吳清源棋談』, 『川端康成全集』第25卷、新潮社、pp.243-248、pp.265-270、p.301
川端康成(1980) 『新布石青春』, 『川端康成全集』第25卷、新潮社、p.345.
菊地達也(2000) 『木谷実とその時代』, 棋園図書、p.22.
水口藤雄(2001) 『囲碁の文化誌一起源伝説からヒカルの碁まで一』, 日本棋院、p.14、p.184.
益川宏一(1987) 『ものと人間の文化史59 碁』, 法政大学出版局、pp.25-26.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 川端康成の文学と日本の囲碁文化
 - 川端康成の囲碁関連エッセイを中心に -

金青均

本稿では、『呉清源棋談』をはじめとした川端康成の囲碁に関するエッセイを中心に川端康成の文学にあらわれた日本の囲碁文化について考察した。

川端康成は基本的に日本の囲碁の伝統に自負を抱いている。囲碁文化が花開いたのは日本で、それは江戸時代に入ってからだと川端は考える。しかし川端は、呉清源とのインタビューを通して、碁もまた文化を形成する他の分野と同じく、国の国力と時代雰囲気によって、隆盛したり衰退したりすることを認識するようになったと思われる。

『呉清源棋談』は、その主な話題が碁だったので、碁というものは何であるかが避けて通れない論点になる。これについての呉清源の考えは、「碁は調和」ということだった。呉清源によれば、碁は勝負を争うものではあるが、勝ちか負けかに主眼をおく他の娯楽とは異なって、自然の理法に順応しなければならないという原理を具現するものだという事なのである。

日本の囲碁界は近現代期に入り、大きな変化を成し遂げる。このような囲碁現代化の様子が川端の囲碁エッセイにあらわれる。『呉清源棋談』には対局の制限時間を6時間にすべきだという主張がみられる。また、『新布石青春』には新布石が出現した時期よ、現代囲碁の青春期であったという川端の言及がある。

 Yasunari Kawabata's Literature and the Culture of Go in Japan
 - Focusing on His Essay about Go -

Kim, Chung-Gyoon

This study examines, the literature of Yasunari Kawabata and his relations with the Go culture in Japan based on his Go-related essays such as “The Chingwian U’s Stories of Go.”

Yasunari Kawabata is proud of the tradition of Go in Japan. However, based on an interview with Chingwian U, he seems to have recognized that the culture of Go flourishes or declines according to the power of each country and the atmosphere of the times, such as in other fields that form the culture.

The question ‘What is Go?’ is emphasized as an unavoidable question, as the subject matter of the interview was Go. Chingwian U answered, ‘Go is harmony’. According to Chingwian U, Go is a competition, but it implements the logic of adapting oneself to the order of nature.

Yasunari Kawabata’s essays on Go depicts such an image of a modernized Go. “The Chingwian U’s Stories of Go” reflects his opinion that the timeframe for a match of Go should be limited to 6 hours. Also, “Springtime of New Strategic Move” reflects his appraisal regarding the period when the new strategic move was created, which indicates the florescence of modern Go.

신카이 마코토의 『너의 이름은.』에 나타난 재해*

윤혜영**

(e-mail : yun1971@cnu.ac.kr)

<목 차>

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 들어가기 | 4. 젊은 세대를 위한 메시지 |
| 2. 재해문학으로서의 의의와 가치 | 5. 나가기 |
| 3. 다키와 미쓰하의 연결이 의미하는 것 | |

키워드 : 新海誠(Makoto Shinkai), 君の名は。(Your Name.), 災害(disaster), 東日本大震災(The Great East Japan Earthquake), 災害文学(disaster literacy), 若い世代(younger generations)

1. 들어가기

2016년 8월 26일에 개봉한 신카이 마코토(新海誠)의 애니메이션 〈너의 이름은.(君の名は。)〉은 개봉 전부터 SNS를 통해 큰 화제가 되었는데, 전작(前作)인 〈언어의 정원(言の葉の庭)〉(2013)보다 100배를 넘는 흥행수입을 기록하면서 일본은 물론 전 세계의 주목을 받았다.¹⁾ 그리고 이것은 만화, 콘서트, 전시회, 성지순례를 목적으로 한 투어리즘 등 다양한 콘텐츠로 재생산되기도 하였다. 이 중 개봉에 앞서 간행된 소설 『너의 이름은.(君の名は。)』(2016.6.18. 角川文庫)의 경우 2016년 문고부문 베스트셀러 1위를 기록하였다. 영화를 보고 소설을 읽고 다시 영화를 보는 사람들이 많았다고 하는데, 영화의 경우 3인칭

* 이 연구는 2017년도 충남대학교 학술연구비에 의해 지원되었음

** 충남대학교, 교수, 일본근현대문학

1) “국내 흥행 랭킹으로는 공개 후 29주 연속으로 톱10에 들어갔고, 흥행수입 250억 엔을 넘는 역사적인 대히트를 기록하였다. 제40회 일본아카데미상에서 애니메이션 작품 중 최초로 최우수각본상을 수상하였다.” <https://eiga.com/movie/83796/> 검색일: 2016.7.31.

시점으로 전개되지만 소설은 다치바나 다키(立花瀧, 이하 ‘다키’)와 미야미즈 미쓰하(宮水三葉, 이하 ‘미쓰하’)의 1인칭 시점으로 전개된다는 점이 다르다. 신카이 마코토는 인터뷰에서 영화의 경우 음악이나 영상으로 등장인물의 마음을 표현하고 있지만 소설에서는 그들의 심정을 자세하게 묘사했다고 밝히고 있다. 그리고 그는 “영화로는 몰랐던 더욱 심도 있는 정보를 제공해주는 것이 소설”²⁾이라고 말하고 있다.

본 작품에 대한 서평이나 연구는 활발하게 진행되어 왔는데, 그 대부분은 영화의 인기비결 및 파급효과, 제작과정 등에 대한 기사 및 평론이 많은 편이고,³⁾ 작품의 주제에 접근하려는 연구 또한 계속해서 늘고 있는 추세이다.⁴⁾ 이중 문학작품으로서의 인지도에 주목하여 소설과 라이트노벨⁵⁾을 중심으로 신카이 마코토의 ‘세카이계(セカイ系)’를 검토한 연구가 있다.⁶⁾

작품의 관전 포인트는 도쿄에 사는 고등학생인 다키와 산골 마을에 사는 미쓰하라는 여고생의 몸이 서로 바뀌고 시공간을 초월하며 스토리가 전개되는 판타지적인 부분과 그 속에서 펼쳐지는 두 남녀의 아련한 사랑이야기일 것이다. 그러나 축제로 들떠 있던 마을에 어느 날 갑자기 운석이 떨어져 마을이 물

2) <https://www.bookbang.jp/article/519129> 검색일: 2018.6.12.

3) 岡崎優子(2017) 「君の名は。 : ジャパンドリームを生み出した軌跡(総決算保存版 2016年 映画業界を斬る)」 『キネマ旬報』 1741, キネマ旬報社, pp.101-104, 境治(2016) 「『君の名は。』ヒットの裏側 映画界を変えるSNSの拡散力(特集 テレビ・新聞から個人も企業も離れる そのメディアにおカネを払いますか?)」 『週刊東洋経済』 6694, 東洋経済, p.64, 高口康太(2016) 「『君の名は。』をとことん語り合おう: 観客動員1200万人! 観た人だけが分かる「もう一度観たくなる」ワケ」 『サンデー毎日』 95(48), 毎日新聞出版, pp.171-173, 樋口尚文(2017) 「〈復興ファンタジー〉がここまで化した理由:映画『シン・ゴジラ』『君の名は。』ヒットの分析(特集 コンテンツの潮流をつかむ)」 『月刊民放』 47(1), 日本民間放送連盟, pp.4-8, 김종은(2018) 「애니메이션 ‘너의 이름은.(君の名は)’ 당신에게 도쿄(東京)는...」 『국토』, 국토연구원, pp.86-92 등

4) 杉田俊介(2016) 「すばるクリティーク 『君の名は。』論 : セカイとワカイの間に」 『すばる』 38(12), 集英社, pp.202-210, 박남기(2017) 「최근 일본 애니메이션의 ‘장소’가 가진 성격과 기억의 전유를 위한 상상력」 『오늘의 문예비평』, 오늘의 문예비평, pp. 146-164, 안윤경·김현석(2018) 「해체로 읽는 신카이 마코토의 〈너의 이름은. 君の名は.〉 -이름 없이는 서로 만날 수 없는 사물들에 대해」 『만화애니메이션 연구』, 한국만화애니메이션학회, pp.75-99, 전윤경(2017) 「질 들뢰즈의 ‘되기’의 사유로 본 〈너의 이름은.〉 - ‘몸 바꾸기’의 의미를 중심으로」 『문화콘텐츠연구』 11, 건국대학교 글로벌문화전략연구소, pp.7-44, 후쿠시마 미노리(2017) 「〈너의 이름은〉에서 일본 청년세대의 사회성 부재를 읽는다.」 『문화과학』 91, 문화과학사, pp.269-289 등

5) 2016년 8월 1일에 발매된 가노 아라타(加納新太)의 『너의 이름은.(君の名は。) Another Side: Earthbound』(가도카와스니커모고)로 『너의 이름은.』의 외전소설로 알려져 있다. 4개의 단편으로 이루어져 있는데, 다키, 미쓰하의 친구인 데시가와라(勅使河原), 미쓰하의 여동생 요쓰하(四葉), 그리고 미쓰하의 아버지의 시점이 중심이 되고 있다.

6) 양원석·권희주(2017) 「신카이 마코토의 ‘세카이계’ 연구 · 『너의 이름은.』을 중심으로」 『일본연구』 28, 고려대학교 글로벌일본연구원, pp.235-258.

에 잠겨버리고 주민의 절반 이상이 죽는 재해가 발생하는데, 이것은 2011년에 발생한 동일본대지진을 떠올리기에 충분하다. 그리고 재해 그 자체보다는 이러한 환경 속에서 살아갈 수밖에 없는 인간의 삶을 조명하고 있다는 점이 주목된다.

따라서 본 논문은 등장인물의 심리와 그들을 둘러싼 환경이 자세하게 묘사되어 있는 소설 『너의 이름은.』을 중심으로 하여 재난과 재해의 양상, 그리고 등장인물들이 미증유의 사태에 어떻게 대처하고 극복하는지를 살펴보고자 한다. 이러한 작업은 재해라는 키워드로 볼 때 작품이 갖는 매력이 무엇인지를 도출할 수 있을 뿐만 아니라 작가가 작품을 통해 전달하고자 하는 현대일본사회에 바라는 모습과 지향점의 일면을 파악할 수 있다는 점에서 의미가 있다고 할 수 있다.

2. 재해문학으로서의 의의와 가치

일본은 역사적으로 재해와 재난이 끊이지 않았고, 근대 이후에도 서너 차례에 걸쳐 일어난 대지진으로 인해 일본사회와 문화는 크게 변화하였다. 특히 2011년에 발생한 동일본대지진의 경우 지진과 쓰나미라는 자연재해로 끝나지 않고 인재라고 일컬어지는 후쿠시마 원전의 방사능 유출사고로 이어졌고 이로 인해 일본사회 전체는 큰 혼란에 휩싸였다. 이 시점에서 ‘전후(戰後)’가 끝나고 ‘재후(災後)’가 시작되었다고 일컬어지기에 이르렀으며, “‘진재(震災)문학’, 또는 ‘원전(原發)문학’이라는 용어가 2011년도에 들어와 하나의 비평용어로 성립”⁷⁾ 되면서 진재문학의 역사 및 특징에 대한 연구가 활발하게 진행되었다. 『너의 이름은.』 또한 이와 맥락을 같이 하는 작품이라고 할 수 있다.

동시대인지 의심이 될 정도로 도시와 시골이 극단적으로 묘사되고 있는데, 그곳에서 사는 고등학생 남녀의 몸이 바뀌는 설정은 사람들의 관심을 끌기에 충분한 것이었지만, 두 사람의 몸이 바뀌는 현상이 사라진 뒤의 이야기에 주목하고자 한다. 어느 날 서로의 몸이 바뀌지 않게 되자 다키는 스케치로 남겨둔

7) 정병호(2012) 「3.11 동일본대지진을 둘러싼 2011년 <진재(震災)/원전(原發)문학>의 논의와 전개」 『3.11 동일본대지진과 일본』 문, pp.309-310.

풍경을 단서로 미쓰하가 살고 있는 이토모리마치(糸守町)를 찾아 나선다. 그리고 우여곡절 끝에 찾은 그 마을이 3년 전 운석낙하로 인해 없어졌고 미쓰하와 그녀의 가족, 친구를 포함한 주민 500여명이 사망했다는 사실을 알게 된다. 그가 직접 찾아간 재해지에는 ‘재해대책기본법에 의해 여기부터 출입금지 KEEP OUT 復興庁’이라는 진입금지 바리케이트가 세워져 있었다.

운석 낙하에 의해 신사를 중심으로 한 광범위한 부분이 순간 괴멸되었다. 가옥이나 산림이 파괴되었을 뿐만 아니라 충격에 의해 지표가 크게 뒤집어졌다. 직경 거의 1km에 달하는 화구가 형성되었다. 5km 떨어진 지점에서 1초 후에는 매그니튜드 4.8의 흔들림이 있었고, 15초 후에는 광풍이 불어 광범위에 달하는 마을이 막대한 피해를 입었다. 최종적인 희생자는 500명 이상에 달하는데 그것은 마을 인구의 1/3에 해당된다. 이토모리마치는 인류역사상 최악의 운석재해의 무대가 된 것이다.

화구는 원래 있었던 이토모리호 가까이 형성되었기 때문에 내부에 물이 흘러들어 결국에는 하나의 표주박 모양의 호수, 신이토모리호가 되었다.

마을 남쪽은 비교적 피해가 적었지만 피해를 모면한 천 명 정도의 주민도 이후 계속에서 마을을 떠났다. 일 년 지나지 않아 자치단체로서의 유지가 곤란해져 운석낙하로부터 14개월 후 이토모리마치는 명실공히 소멸하였다.⁸⁾

(제4장 탐방 pp.124-125.)

작품 곳곳에 재해에 대한 참상이 자세하게 기술되어 있는데, 위의 문장을 보면 재해당시의 모습과 그 뒤의 일까지 매우 자세하게 묘사되어 있는 것을 알 수 있다. 다키가 도서관 자료에서 “하룻밤에 물에 잠긴 마을·이토모리마치”라고 쓰인 것을 보는 장면이나, 그가 오쿠데라(奥寺)선배와 데이트를 한 날, ‘향

8) 「隕石落下により、神社を中心とした広範囲が瞬時に壊滅した。家屋や森林の破壊に留まらず、衝撃により地表ごと大きくえぐられ、長径ほぼ1kmにも及ぶクレーターが形成された。さらに5km離れた地点でも一秒後にはマグニチュード4.8の揺れが伝わり、十五秒後には爆風が吹き抜け、町の広範囲が甚大な被害に見舞われた。最終的な犠牲者は五百人以上にのぼり、それは町の人口の1/3にあたる。糸守町は、人類史上最悪の隕石災害の舞台となったのだ。

クレーターはもともとあった糸守湖に隣接して形成されたため、内部に水が流れ込み、最終的には一つのひょうたん型の湖、新糸守湖となった。

町の南側は比較的被害がすくなかったが、被害を免れた千人ほどの住民についても、その後は町からの転出者が相次いだ。一年を待たずして自治体としての維持が困難となり、隕石落下から十四ヶ月後、糸守町は名実ともに消滅した。」

본문 인용은 新海誠(2016)『君の名は。』角川文庫에 의하며 논자가 번역하였다.

수'라는 제목의 사진전에 동일본대지진의 직격탄을 맞은 산리쿠(三陸)라는 지역의 사진이 있었던 것 등을 보면 상황은 다르지만 동일본대지진을 떠올리게 충분하다.

신카이 마코토는 재해의 참상을 그리는데 그치지 않고 재해와는 직접적인 관련이 없는 사람과 재해지에서 살아남은 진출자의 모습까지 세세하게 묘사하고 있다.

조수석 창문으로 신이토모리호의 외곽이 내려다보였다. 반쯤 부서진 민가나 끊어진 아스팔트가 물에 잠겨 있었다. 호수에서 멀리 떨어져 있는 곳에 전신주나 첩골이 튀어나와 있는 것이 보였다. 이상한 풍경인데 텔레비전이나 사진으로 봐서 익숙해져서인지 여기는 처음부터 이런 곳이었다는 느낌이 든다. 그래서 눈앞에 있는 이 풍경에 무엇을 생각하면 좋을지-화를 내야 좋을지 슬퍼해야 좋을지 무서워해야 좋을지 또는 자신의 무력함을 한탄하면 될지 잘 모르겠다. 하나의 마을이 사라진다는 것은 아마 보통 사람의 이해를 넘은 현상인 것이다. 나는 풍경에서 의미를 찾는 것을 포기하고 하늘을 보았다. 회색구름이 신이 놓은 거대한 뚜껑처럼 머리 위에 펼쳐져 있다.9)

(제4장 탐방 pp.137-138.)

“화를 내야 좋을지 슬퍼해야 좋을지 무서워해야 좋을지 또는 자신의 무력함을 한탄하면 될지 잘 모르겠다”고 생각하는 다키의 심리묘사 부분은 애니메이션으로는 알 수 없는 소설이 주는 매력이라고도 할 수 있는데, 피해자의 시선이 아닌 재해와 전혀 관련 없는 곳에 살던 다키의 시선으로 재해지가 묘사되고 있는 점은 작품의 메시지를 고찰할 때 매우 중요한 포인트가 된다.

또한 풍경화를 단서로 미쓰하가 사는 곳을 찾아 나선 다키가 포기하려던 순간 결정적인 도움을 준 것은 라면가게 주인이었다. 그는 재해지에서 살아남아 고향을 버리고 삶의 터전을 옮긴 사람이다. 인구 1,500명 정도의 일본적이자 쇼와(昭和)적인 작은 마을, 거의 대부분이 아는 사람이거나 아는 사람의 아는

9) 「助手席の窓からは、新糸守湖の縁が見下ろせた。半壊した民家や途切れたアスファルトが水に浸っている。湖のかなり沖合いにも、電柱や鉄骨が突き出しているのが見える。異常な風景のはずなのに、テレビや写真で見慣れているせいか、ここは最初からこういう場所だったという気がしてくる。だから眼前にあるこの風景になにを思えばいいのか—怒ればいいのか、悲しめばいいのか、怖がればいいのか、あるいは自分の無力を嘆けばいいのか、よく分からなくなってくる。一つの町が失われるというのは、たぶん普通の人間の理解を越えた現象なのだ。俺は風景に興味を探すのをあきらめ、空を見る。灰色の雲が、神さまが置いた巨大な蓋のように頭上にかかっている。」

사람이라는 이토모리마치에 대한 묘사로 볼 때 그는 재해가 아니면 고향을 떠날 이유가 없었을 것이다. 어쩔 수 없는 상황에서 실향민이 된 그는 다키가 그린 그리운 고향의 풍경을 보고 다키를 이토모리호나 시립도서관에 데려다 주고, 다키가 마지막 희망을 품고 신체(神體)가 있는 곳으로 향할 때 차가 갈 수 있는 곳까지 동행한다. 헤어질 때 “네가 그린 이토모리, 그거 참 좋았다”라는 그의 말에 다키는 가슴이 메여오는 것을 느낀다. 세차게 내리는 비를 만나 추위에 떨던 다키는 작은 동굴에서 그가 정성스럽게 싸준 도시락을 먹으면서 몸이 따뜻해지는 것을 느끼고 이것이 곧 ‘무스비(ムスビ)’라고 생각하는 것이다.

동일본대지진 이후 작가로서의 사회적 책임감을 강하게 인식한 무라카미 하루키(村上春樹)는 2013년에 『색채가 없는 다자키 쓰쿠루와 그의 순례의 해(色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年)』(文藝春秋)를 발표하였는데, 여기에는 기존 작품들과는 달리 행동하고 변화하는 주인공이 조형되어 있다. 미야자키 하야오(宮崎駿) 또한 같은 해 간토(関東)대지진과 전쟁으로 혼란했던 시대임에도 불구하고 자신의 꿈을 실현하고자 노력하는 주인공을 모델로 한 〈바람이 불다(風立ちぬ)〉를 발표하였다. 신카이 마코토가 무라카미 하루키의 작품을 애독하고 미야자키 하야오를 좋아했던 것은 우연의 일치는 아닐 것이다. 신카이 마코토는 한 인터뷰에서 처음부터 진재를 염두에 두고 작품을 만들었느냐는 질문에 다음과 같이 답하고 있다.

기획서에 이미 주기성을 갖는 재해를 야기하는 것으로서 혜성을 제안했습니다. 그리고 지진도 주기성이 강한 현상입니다. 2011년 이후 일본인 대부분은 ‘우리는 주기적으로 흔들리는 지면 위에서 살고 있다’는 것을 생각했을 것입니다. “진재를 모티브로 한 영화를 만들자”는 생각은 없었지만 2011년 이후에 발상한 이야기로서 사람들이 살고 있는 곳에 주기적으로 무언가를 야기하는 것을 이야기에 넣는 것은 자연스러운 현상이었다고 생각합니다.”¹⁰⁾

동일본대지진 이후 자신을 포함한 사람들의 생각이 변했고 “내일은 나일지도 모른다”¹¹⁾고 늘 생각했다고 밝히고 있듯이, 이미 재해는 의도여부와 관계없이 일본사람들의 머리 속에 “예기된 재난. 그래서 피할 수 없는 재해”로 자리

10) https://www.huffingtonpost.jp/2016/12/20/makoto-shinkai_n_13739354.html 검색일: 2018.6.12.

11) 新海誠・小島健志(2016)「特別インタビュー 新海誠 「君の名は。」監督 興行収入100億円突破の快挙 「君の名は。」大ヒットの理由」『週刊ダイヤモンド』104(39),ダイヤモンド社, p.14.

매김하고 있는 것이다.

반복되는 재해를 잊어서는 안 된다는 경고의 메시지와 함께 작가는 재해의 참상뿐만 아니라 피해자, 실향민 그리고 재해와 관계없었던 사람을 재해지로 끌어들여 진재 및 재해에 대해 다 같이 생각하게 하는 연결고리, 즉 작품에서 여러 의미의 키워드로 반복되는 새로운 ‘무스비’를 만들어내고 있다고 할 수 있다.

3. 다키와 미쓰하의 연결이 의미하는 것

“미쓰하의 눈으로 보는 도쿄는 낮선 외국처럼 빛나고 있었다. 우리는 같은 기관(器官)을 갖고 살고 있는데 마치 다른 세계를 보고 있다”는 말과 같이 다키가 살고 있는 도쿄와 미쓰하가 사는 이모토리마치는 극과 극의 대조를 이루고 있다. 서쪽 하늘에서 떨어지는 무수한 유성이 꿈의 경치처럼 아름답다고 생각하며 다키는 도쿄의 하늘을 바라보았지만 그 유성으로 인해 이토모리마치에 살던 미쓰하는 죽었다.

그러나 이러한 사실은 어느 날 갑자기 다키와 미쓰하의 몸이 바뀌는 현상으로 인해 변화된다. 비현실적인 이 설정은 재해의 상황을 바꾸기 위한 필수요건으로 작용하게 되는데, 처음 다키와 미쓰하는 단순히 꿈이라고 생각하지만 시간이 흐를수록 현실이라는 것을 인식한다. 이러한 일련의 과정은 두 사람뿐만 아니라 독자들로 하여금 바뀐 재해의 상황을 자연스럽게 받아들이게 하는 장치로서도 작용하는데, 서로의 몸이 뒤바뀌면서 일어나는 해프닝은 유모와 홍미 유발에 효과적으로 작용하지만 재해라는 관점에서 보면 두 사람의 몸 바꾸기 즉 연결은 큰 의미를 지니고 있는 것이다.

다키의 현재 시점에서 재해가 일어난 것은 3년 전이었는데, 당시 중학생이던 다키는 여느 때와 같이 아버지와 저녁을 먹으면서 평온한 시간을 보내고 있었다. 텔레비전을 통해 혜성에 관련된 보도를 접하였는데 거기에서는 환상적인 천체 쇼에 대한 기대를 품고 흥분된 어조로 “이 정도로 장대하고 화려한 천체 현상을 목격하는 것, 또한 일본이 마침 저녁시간대인 것은 이 시대를 사는 우리들에게 정말로 천 년에 한 번 오는 행복이라고 말할 수 있지 않을까요”라고

전하고 있다. 다키를 포함한 재해지역과 관련이 없는 대부분의 사람들은 위와 비슷한 마음으로 혜성을 바라보고 있었다고 할 수 있다. 다키는 “다수파의 일본인=도쿄인”¹²⁾을 상징하는 인물이라고 할 수 있는데, 작가가 미쓰하와 바뀌는 인물이 왜 다키인지에 대해 밝히고 있지 않은 것도 이러한 맥락으로 이해할 수 있다. 재해를 겪지 않은 사람 모두가 다키일 수 있다, 다키가 될 수 있다는 가능성을 시사하면서 재해에 대한 인식의 전환을 꾀하고 있는 것이다.

몸이 뒤바뀌는 것이 현실이라는 것을 인식한 두 사람은 스마트폰에 일기나 메모를 남기는 방법으로 커뮤니케이션을 시작한다. 처음에는 자라온 환경이나 성격이 전혀 달랐기 때문에 다양한 트러블이 발생하면서 서로에 대한 불만이 쌓인다. 누군가를 사랑해 본 경험이 없어 그 표현과 대응 또한 미숙하게 그려지고 있다. 그러나 시간이 흐를수록 두 사람은 각자가 처한 환경과 지인(知人)들까지 포함하여 서로를 총체적으로 이해해간다. 결국 다키는 미쓰하의 도움으로 자신이 좋아하던 오키테라 선배와 데이트까지 하게 되지만 “미쓰하가 사는 마을에 빨리 또 가고 싶었다. 미쓰하가 되는 것은 미쓰하와 이야기하는 일이기도 했다”고 생각한다. 몸이 바뀌면서 서로의 체험을 교환하고 서로가 특별하게 연결되어 있다는 것을 인식하게 되는 것이다.

특히 다키는 재해지역에서의 삶을 경험하면서 관계의 소중함을 인식하고 결국에는 재해로 인해 죽은 사람들을 구하는 데 결정적인 역할을 한다. 이후 건설업계를 지망하여 취업활동을 하던 그가 면접 중에 “도쿄도 언제 사라져 버릴지 모른다고 생각합니다. 그래서 가령 없어져 버린다 해도 아니 없어져버리기 때문에 기억 속에서 사람들을 따뜻하게 해 줄 마을”을 만들고 싶다고 말한다. 즉 장소보다는 인간의 삶을 따뜻하게 할 수 있는 새로운 개념의 마을 만들기의 중요성과 어디든 누구든 재해의 피해자가 될 수 있다는 메시지가 동시에 내포되어 있는 것이다.

근대 이후만 보더라도 간토대지진을 비롯하여 한신·아와지대진재를 거치면서 진재를 테마로 한 작품은 계속해서 집필되어 왔는데, 대부분의 작가들은 재해의 비참한 상황을 기록하거나 재해로부터 살아남은 자에 초점을 맞추어 그들이 상처를 극복하고 삶의 의미를 되찾을 수 있는 방법을 다각도로 모색해왔다. 그러나 동일본대지진 이후에는 지진이나 방사능을 직접적으로 다루는 것조

12) 杉田俊介(2016) 「『君の名は。』論：セカイとワカイの間に」 『すばる』 38(12), 集英社, p.206.

차 터부시되는 경향이 있을 정도로 일본사람들의 충격은 매우 컸다고 할 수 있다. 이러한 상황에서 다키와 미쓰하의 몸 바꾸기라는 설정을 통해 기존 진재문학의 경향과는 달리 재해가 일어났던 과거로 돌아가 죽었던 사람들을 구출한다. 자연재해는 인간의 힘으로 어쩔 수 없는 일이지만 인재만큼은 극복할 수 있다, 극복해야 된다는 메시지가 상징적으로 그려지고 있다.

또 한 가지 몸이 바뀌는 체험을 통해 다키와 미쓰하는 변화되고 성장하였다. 다키는 생각보다 몸이 먼저 앞서고 자신이 좋아하는 선배에게 고백도 못하는 약한 청년이었다. 교우관계나 생활 등은 평범하였지만 “무언가를 향한 에너지가 느껴지지 않”¹³⁾는 캐릭터로 조형되어 있던 것이다. 그가 혼자 이모토리마치로 향했을 때 친구인 쓰카사(司)나 오쿠데라 선배가 동행한다. 이 둘을 포함하여 다키가 “라면가게 아저씨가 금방이라도 울어버릴 것 같은 약한 자신을 걱정해서 그냥 둘 수 없어서 따라왔다”고 생각하는 장면은 이를 반증한다. 그러나 다키는 “언제까지나 그런 얼굴을 하고 있을 수는 없다. 누군가 내미는 손에 의지하고 있을 수만은 없다”고 생각하면서 재해로 인해 죽은 사람들을 구하기 위해 적극적으로 노력하는 모습을 보인다. 자신에게 소중한 것을 지키려는 강한 의지¹⁴⁾, “세상이 이렇게까지 참혹한 곳이라면 나는 이 외로움만을 안고 그리고 전심전령(全心全靈)을 다해 계속 살아가는 모습을 보여주겠어. 이 감정만으로 발버둥 칠거야. 헤어져 더 이상 만날 수 없어도 나는 발버둥 칠거야”라고 생각하면서 삶에 대한 강한 의지를 보인다.

미쓰하 또한 아무런 변화 없는 좁은 시골마을에서 전통과 인습에 얽매어 살아가는 삶에 염증을 느끼던 소녀였다. 그녀의 운명은 정해져 있었다고 할 수 있는데, 다키로부터 힘을 얻고 재해로부터 자신은 물론 마을사람들을 구하려고 아버지를 설득하기 위해 필사적으로 달리면서 그녀는 다음과 같이 생각한다.

이제 아무것도 무섭지 않아. 이제 아무도 무섭지 않아. 이제 나는 외롭지 않아.

이제 겨우 알았으니까.

나는 사랑을 하고 있어. 우리는 사랑을 하고 있어.

13) 志水義夫・助川幸逸郎編(2017) 『『君の名は。』の交響』ひつじ書房, p.27.

14) 「あいつに……あいつに逢うために来た! 助けるために来た! 生きていて欲しかった!」
消えていく。あんなにも大切だったものが、消えていく。(中略)
「大事な人、忘れちゃだめな人、忘れたくなかった人!」(第6章 再演 p.206.)

그래서 우리는 반드시 다시 만날 거야.

그래서 사는 거야.

나는 끝까지 살아남을 거야.

가령 무슨 일이 일어나도, 가령 별이 떨어져도 나는 살 거야.¹⁵⁾

(제6장 재연 pp.228-229.)

두 사람의 몸이 바뀌는 것에 주목하여 이것이 “서로에게 내적 변화”를 일으켰고 “역사의 변화”¹⁶⁾가 일어났다는 지적이 있는데, 여기에서 말하는 변화는 미쓰하의 경우 제도나 전통에 얽매어 무너로 살아가야 되는 자신의 운명을 변화시켰다는 관점이고 다키의 경우 초월적인 존재가 되어 마을 사람들을 구했다는 것이다. 이 의견에는 동의하지만, 변화에 대한 지적이 매우 국소적인 범위에 머물러 있다고 생각한다. 애니메이션의 프로듀서였던 가와무라 겐키(川村元氣)가 “사람에게 가장 잔혹한 일은 살면서 사랑하는 사람을 잊어가는 일”이며 잊을 수밖에 없지만 “거기에 맞서려고 발버둥치는 것으로 생을 획득하는 것”¹⁷⁾이 중요하다고 밝히고 있듯이, 재해의 시대를 살아가는 다키와 미쓰하는 서로의 몸이 뒤바뀌는 체험을 통해 소중한 것을 인식하고 힘든 역경에서도 적극적으로 생을 영위해나가려는 인물로 변화된 것이다.

4. 젊은 세대를 위한 메시지

소설의 도입부에는 마을 전체에 방송되는 방재무선방송에서 이토모리마치의 정장(町長)선거에 대한 소식을 알리고, NHK에서 1,200년에 한 번 오는 해

15) 「もうなにも怖くない。もう誰も恐れない。もう私は寂しくない。

やっとわかったから。

私は恋をしている。私たちは恋をしている。

だから私たちは、ぜったいにまた出逢う。

だから生きる。

私は生き抜く。

たとえなにか起きても、たとえ星が落ちたって、私は生きる。」

16) 전윤경(2017) 「질 들뢰즈의 ‘되기’의 사유로 본 〈너의 이름은〉 - ‘몸 바꾸기’의 의미를 중심으로」 『문화콘텐츠연구』 11, 건국대학교 글로컬문화전략연구소, p.36.

17) 新海誠(2016) 『君の名は。』解説 角川文庫, p.261.

성의 소식을 알리는 장면이 그려지고 있다. 얼핏 보면 전혀 관계없는 것처럼 보이는 이 두 소식에 얽힌 에피소드는 기성세대와 젊은 세대를 대조적으로 그려내는 통로가 된다.

먼저 미쓰하는 10년지기 친구인 뎃시(テッシー), 사야친(サヤちん)과 함께 등교를 하다가 우연히 아버지의 정장선거 유세를 보게 되는데 그는 다음과 같이 말한다.

무엇보다도 마을(集落)재생사업의 지속과 그를 위한 마을 재정의 건전화! 이것이 실현되어야 비로소 안전하고 안심할 수 있는 마을을 만들 수 있는 것입니다. 현직으로서 지금까지 진행해온 마을 만들기를 완성하고 싶다, 더욱더 발전시키고 싶다! 그리고 새로운 정열로 이 지역을 이끌고 아이부터 노인에 이르기까지 누구나 안심하고 활기차게 활약할 수 있는 지역사회를 실현해나가고 싶다! 이것이 나의 사명이라고 결의를 다지는 바입니다.... 18)

(제2장 단서 p.23.)

그리고 그 옆에는 자신이 운영하는 건설회사의 자켓을 입고 팔에는 ‘미야미즈 도시키 응원단’이라 쓰인 완장을 찬 뎃시의 아버지가 웃으면서 서 있다. 이 장면에서 미쓰하와 뎃시에게 “이 애들도 유착하고 있군. 그거 부모님이 시킨 건가?”라고 비웃는 학생들이 묘사되어 있는데, 이 장면에는 기성세대에 대한 비판적인 시선이 담겨져 있다. 미쓰하와 뎃시의 아버지로 대변되는 기성세대 또한 안전하고 안심할 수 있는 마을을 만들기 위해 노력하고 있지만 정작 재해로부터 마을 사람들을 구한 것은 미쓰하과 뎃시를 비롯한 다키, 사야친 등 17살의 고등학생이었다.

다키가 미쓰하의 반인 ‘구치카미자케(口噛み酒)’를 마시자 재해 당일로 서로의 몸이 바뀌는 기적이 일어난다. 남자와 몸이 바뀌는 이상한 체험을 했던 할머니조차 위험을 경고하는 말을 믿지 않자 미쓰하로 바뀐 다키는 “우리가 할 수 밖에 없다”, “아무도 죽게 하지 않겠다”고 생각하고 사람들을 살리기 위해 뎃시, 사야친과 구조계획을 세운다.

18) 「なによりも、集落再生事業の継続、そのための町の財政健全化! それが実現して初めて、安全、安心な町作りができるのです。現職として、ここまで進めさせていただいてきた町作りを完遂させたい、さらなる磨きをかけたい!そして新たな情熱でこの地を導き、子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生き活きと活躍できる地域社会を実現していきたい!それが私の使命やと、決意を新たにとします……」

뎃시는 아버지 회사 창고에 있는 토목용 폭약을 이용하여 변전소의 송전탑을 폭파시켜 마을을 정전되게 하고, 어두운 밤 방송실에서 홀로 건디며 울먹이던 사야친은 자신의 역할을 다하기 위해 안정된 어조로 중복주파수를 이용하여 방재무선으로 피난지시를 한다. 사야친은 계속해서 의심을 했지만 뎃시는 이토모리호가 일본에서는 드물게 1,200년 전에 운석으로 인해 생긴 호수라는 점에서 재해발생 가능성을 굳게 믿는다. 그는 모두가 믿지 않는 가운데 가장 든든하게 미쓰하를 도왔던 것이다. 많은 사람들을 피난시키는 것이 자신들만의 힘으로 불가능하다고 생각한 미쓰하는 필사적으로 달려가 정장인 아버지를 설득한다. 그러나 그는 딸에게 병원에 가서 진찰을 받으라고 말하며 화를 낼 뿐이다.

뎃시와 사야친의 협력도 훌륭하지만 또 한 가지 주목되는 것은 다키와 미쓰하의 협력이라고 할 수 있다. 신카이 마코토가 지금까지 고독 속에서 각자 싸우는 주인공을 그린 것과는 달리 이 작품은 “둘이 떨어져 있지만 같이 싸우게 된”¹⁹⁾다는 지적과도 같이, 계획을 세우는 것은 미쓰하의 몸으로 바뀐 다키였지만 그것을 실행에 옮긴 것은 자신의 몸으로 돌아온 미쓰하였다.

황혼 무렵 다키와 만난 미쓰하는 다시 자신의 몸으로 돌아와 다키가 세워놓은 계획을 실행하기 시작한다. 뎃시와 미쓰하가 송전탑 폭발에 성공하자 방송실에 몰래 들어가 불안해하던 사야친은 안정된 어조로 천천히 피난을 권고한다. 동시에 미쓰하와 뎃시는 한창 축제가 벌어지고 있는 곳에 가서 “도망가! 산에서 불이 나, 여기는 위험해!”라고 외치면서 뛰어다닌다.

소설과 애니메이션에는 그려지지 않지만 결국에는 미쓰하가 아버지를 설득하여 주민 모두를 구출한 것으로 예측할 수 있다. 이러한 젊은이들에 대해 “운명, 유대/끈 등의 과거 지향성”이 보이며 “사회성이 부재”하고 “시행착오를 통한 관계구축”²⁰⁾이 결여되어 있다는 비판이 있다. 그러나 작가가 이 작품을 만들 때 특히 10대, 20대 청년층을 공략하면서 “사람과 사람의 커뮤니케이션”²¹⁾에 고민한 것처럼 다키와 미쓰하가 서로의 공동체 속에서 갈등을 해결하며 융화되고 같이 힘을 합쳐 문제를 해결하는 과정을 보면 위의 지적은 설득력이

19) 長山靖生(2016) 「SFのある文学誌(第49回)『君の名は。』の時場 新海ファンタジイの文脈」『SFマガジン』57(6), 早川書房, p.124.

20) 후쿠시마 미노리(2017) 「〈너의 이름은〉에서 일본 청년세대의 사회성 부재를 읽는다.」『문화과학』91, 문화과학사, p.270. p.279.

21) 진계주 新海誠・小島健志(2016) p.14.

떨어진다고 할 수 있다.

재해로부터 8년이 지난 어느날 가두 비전에는 재해로부터 인명피해가 나지 않은 우연과 행운에 대해 “이토모리마치의 용신(龍神)전설과 혜성 내방(來訪)을 관련지은 민속학적인 것부터 피난을 강행했다는 이토모리 정장의 강권발동을 칭찬하거나 의문시하거나 하는 정치적 언설, 나아가 운석낙하는 실은 예언된 것이었다고 하는 오컬트적인 것까지 잡다한 무책임한 말이 연일 생겼다”고 기술되어 있다. 마을은 재해로 인해 없어졌지만 사람들이 모두 살아남았다는 점을 감안할 때 젊은이들의 활약에 대한 언급이 보이지 않는 것이 의문이다. 앞서 혜성에 대한 환상에 들뜬 텔레비전 보도 장면을 참고해볼 때, 정치나 오컬트적인 것으로 이슈화를 하려는 미디어의 성향 및 사회에 대한 비판이 그 속에 내재되어 있는 것으로 유추해볼 수 있다.

여하튼 젊은 세대와 관련된 용어를 보면 한국에서는 3포, 5포를 넘어 7포 세대라는 말이 등장하였고, 일본에서는 모라트리움(moratorium) 인간, 니트족(NEET族), 프리터(フリーター), 히키코모리(引き籠もり) 등, 매우 부정적인 이미지의 말들이 그들을 수식어처럼 따라다닌다. 위의 용어에서 엿볼 수 있듯이 미래 사회를 이끌어 나갈 젊은이들은 꿈과 희망을 잃고 홀로 고립을 선택한 채 버블붕괴를 비롯하여 각종 재난과 재해가 끊이지 않는 불안한 시대를 살아가고 있다. 이런 시점에서 신카이 마코토는 의도적으로 젊은 세대를 겨냥한 작품을 만든 것이고, 이 작품에 삶과 죽음의 갈림길이라는 절박한 상황에서 힘을 합쳐 문제를 해결하고 삶에 대한 강한 의지를 갖는 다키와 미쓰하, 그리고 텃시와 사야친 등의 젊은이를 그려내고 있다. 재해로 고향은 잃었지만 그들이 도쿄에서 열심히 살아가는 모습으로 끝을 맺고 있는 열린 결말은 시사하는 바가 크다고 할 수 있다.

5. 나가기

이상 재해라는 키워드를 중심으로 소설 『너의 이름은.』을 고찰해보았다.

먼저 재해문학이라고 할 수 있는 이 작품에는 재해의 참상을 전달하는 것에 그치지 않고 피해자, 실향민, 재해와 관련이 없는 자를 모두 재해지로 끌어들

여 진재 및 재해에 대해 다 같이 생각하게 하는 연결고리가 형성되어 있다는 점이 특징적이다.

특히 다키와 미쓰하의 몸이 바뀌는 설정은 재해와 관련이 없던 다키를 재해 지역으로 이동하게 했고, 재해를 겪지 않은 모든 이들을 상징하는 그는 피해자인 미쓰하와 힘을 합쳐 사람들을 구출하는 데 성공한다. 동일본대지진은 천재지변이었지만, 동시에 발생한 후쿠시마원전 사고는 인재였다고 할 수 있다. 천재지변은 어쩔 수 없지만 인재만큼은 인간의 노력으로 극복해야 된다, 극복할 수 있었다는 작가의 강한 의지 또는 아쉬움이 주민들을 모두 구해내는 것으로 상징화되어 있는 것이다. 또한 서로를 이해하고 난관을 극복하는 과정에서 다키와 미쓰하는 삶 자체에 대한 강한 의지를 갖게 된다.

작품 속에는 주민들이 안심하고 안전하게 살아갈 수 있는 마을 만들기에 대한 기성세대의 포부가 어필되고 있지만 결국 재해로부터 사람들을 구한 것은 다키, 미쓰하, 텃시, 사야친 등 17세의 고등학생으로 대표되는 젊은 세대였다. 비록 재해로 인해 고향은 잃었지만 그들은 강하게 살아남아 도쿄에서 새로운 삶을 살아간다. 이러한 젊은이들의 행보 속에는 꿈과 희망을 잃고 고립되어 가는 재후(災後)의 시대를 살아가는 젊은 세대의 삶에 변화를 바라는 작가의 바람이 내포되어 있다고 할 수 있다.

【참고문헌】

- 양원석·권희주(2017) 「신카이 마코토의 ‘세카이게’ 연구 · 『너의 이름은』 · 을 중심으로」 · 『일본연구』 28 고려대학교, 글로벌일본연구원, pp.235-258.
- 전윤경(2017) 「질 들뢰즈의 ‘되기’의 사유로 본 〈너의 이름은〉 - ‘몸 바꾸기’의 의미를 중심으로」 『문화콘텐츠연구』 11, 건국대학교 글로벌문화전략연구소, p.36.
- 정병호(2012) 「3.11 동일본대지진을 둘러싼 2011년 〈진재(震災)/원전(原発)문학〉의 논의와 전개」 『3.11 동일본대지진과 일본』 문, pp.309-310.
- 후쿠시마 미노리(2017) 「〈너의 이름은〉에서 일본 청년세대의 사회성 부재를 읽는다.」 『문화과학』 91, 문화과학사, p.270. p.279.
- 志水義夫·助川幸逸郎編(2017) 『『君の名は。』の交響』ひつじ書房, p.27.
- 新海誠(2016) 『君の名は。』解説 角川文庫, p.261.
- 新海誠·小島健志(2016) 「特別インタビュー 新海誠 「君の名は。」監督 興行収入100億円突破の快挙 「君

の名は。」大ヒットの理由 『週刊ダイヤモンド』 104(39), ダイヤモンド社, p.14, p.27.

杉田俊介(2016) 「『君の名は。』論：セカイとワカイの間に」 『すばる』 38(12), 集英社, p.206.

長山靖生(2016) 「SFのある文学誌(第49回)『君の名は。』の時場 新海ファンタジイの文脈」 『SFマガジン』 57(6), 早川書房, p.124.

<https://www.bookbang.jp/article/519129> (검색일: 2018.6.12.)

https://www.huffingtonpost.jp/2016/12/20/makoto-shinkai_n_13739354.html (검색일: 2018.6.12.)

<https://eiga.com/movie/83796/> (검색일: 2016.7.31.).

논문 투고 일자 : 2018. 10. 11.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

新海誠の『君の名は。』における災害

尹惠暎

本研究は、災害というキーワードで小説『君の名は。』を考察してみたものである。

まず、この作品は災害文学と言えるが、災害の惨状を伝えるだけでなく被災者、失郷民、そして災害に関係のない人々を災害現地に引き寄せて、災害について共に考える場を作っている点に特徴がある。特に、滝と三葉の「入れ替わり」という設定は災害と関連のない滝を災害現地に移動させる装置となり、彼は被災者である三葉と力を合わせて糸森の人々を救う。ここには人災という批判を受けた福島原発事故への反省とそれを残念に思う作者の気持が表れている。また難関を克服しながら協力する過程を通じ、受け身で不満だらけであった滝と三葉は生に対する強い意志を持つようになる。結局のところ災害から人を救ったのは17才の高校生、即ち若い世代であった。作家は震災後の夢と希望を失ってしまった孤立の時代を生きる若い世代に対し、滝、三葉、テッシー、サヤちゃんを通して生へのメッセージを伝えていると言えよう。

A Study on Disaster in *Your Name*. (*Kimi no Na wa.*) by Makoto Shinkai

Yun, Hye-Young

This study examines the novel *Your Name*. as a key to studying the topic of disaster.

First of all, this work is about disaster literacy. Nevertheless, it does not avoid depicting the horrors of disasters. It is characterized by the fact that all the victims, displaced people, and people not related to the disaster are gathered together at the scene of the disaster. They develop a connection that causes them to contemplate disasters. In particular, the switching of Taki and Mitsuha's bodies causes Taki, who is unrelated to the disaster, to visit the disaster area. There, he reconnects with the victim, Mitsuha, and through her he manages to save the lives of many people by convincing them to evacuate the area. This can be considered to imply a reflection on and regret about the Fukushima nuclear accident, which has been criticized as a disaster caused by human error. In the process of overcoming the difficulties of the disaster and cooperating with each other, Taki and Mitsuha, despite the latter's passivity and numerous complaints, develop a strong will to live. After all, it was a young generation represented by a 17-year-old high school student who saved people from the disaster. In this work the writer, through the characters of Taki, Mitsuha, Desshi, and Sayachin, casts a lifeline to younger generations who give up on their dreams and hopes, and become isolated.

소설 「헛간을 태우다」와 영화 「버닝」 의 문화 텍스트적 변용과 확장 —‘WHAT’에서 ‘WHY’로의 전환을 중심으로—

조 헌 구*

(e-mail : jhy1000@knu.ac.kr)

< 목 차 >

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1. 들어가기 | 3. 『버닝』 - 『헛간을 태우다』로부터 |
| 2. 『헛간을 태우다』에 대한 두 가지 해석 | 3.1. 서사적 메타포 |
| 2.1. 『헛간을 태우다』 - 서사를 통한 이야기구조 | 3.2. 변용과 차용 |
| 2.2. 『헛간을 태우다』 - ‘나’의 이야기하기 | 4. 나가기 |

키워드 : 이·창동(Lee Chang-dong),村上春樹(Haruki Murakami), 『納屋を焼く』 (“Barn Burning”), 『버닝』 (『BURNING』), 変容と借用(Change and Borrowing)

1. 들어가기

무라카미 하루키(村上春樹, 이하 하루키)의 텍스트는 영화를 거부한다. 정확하게 이야기하면 영화적 서사에 회의적이라고 할 수 있다.¹⁾ 적어도 그런 점에서 작가와 독자는 텍스트를 만들고 소비하는 각자의 영역에서 서사에 대한 이해라고 하는 경계 영역을 공유한다. 행간의 여백마저 서사를 표현하고 있는 것

* 경북대학교, 조교수, 일본현대소설

1) 『노르웨이의 숲』을 영화화하기 위해 트란 안 흥(Tran Anh Hung) 감독이 4년에 걸친 설득작업을 펼칠 정도로 하루키는 자신의 소설을 영화화 하는 것에 거부감을 가지고 있었다. 하루키 작품을 영화로 재현하는데 이러한 곤란함이 존재하는 것은 여러 가지 이유가 있으나 대표적으로는 하루키 자신이 언급(「村上春樹一僕が翻訳をはじめる場所」 『翻訳の世界』1989年3月号, pp.22-29)하고 있는 인물들 간의 대화가 가지는 문장체적인 특징이다. 그의 대화는 ‘문장으로서 리얼’이지만 실제 인물들의 입에서 재현되면 현실성이 결여된 어색한 분위기가 연출된다.

이 하루키의 텍스트이며²⁾ 그러한 서사적 특질을 영화의 서사구조가 시청각 장치를 이용하여 표현하기에는 충분히 패러독스이다. 왜냐하면, 읽기가 아닌 보여주기를 통한 여백의 표현은 서사가 지루해질 위험성이 다분히 있으며, 그렇다고 해서 여백을 생략하면 그냥 평범한 서사에 지나지 않게 되기 때문이다.

행간의 여백이 표현을 통한 표상의 문제라고 한다면, 구조적으로 하루키의 텍스트가 영화를 거부하는 가장 큰 특징은 이야기의 시작과 끝이 예상하지 못하는 지점에 위치하고 있으며 그것을 통해 이야기하기(物語言説)의 주체가 설정한 트릭을 독자와 작가가 서로 다른 층위에서 새로이 만들어낼 수 있는 서사구조의 확장성이다. 이러한 의외성이 하루키의 텍스트가 가진 리얼리티이며 그러한 리얼리티를 바탕으로 시대 담론과 개인 담론의 경계영역이 구축되었다. 그리고 이러한 구조적 특징은 단편보다는 장편에서 더 발휘된다. 때문에 영화로 표상된 하루키의 텍스트 중에서 단편을 원작으로 한 것이 장편보다는 관객들에게 좋은 평가를 받아왔다.

2018년 이창동 감독이 발표한 영화 『버닝』은 1983년에 발표된 하루키의 단편인 『헛간을 태우다(納屋を焼く)』가 원작이다. 『헛간을 태우다』의 서사는 ‘나’와 ‘나의 걸프랜드(이하 그녀)’, 그리고 ‘그녀’의 남자친구(이하 ‘그’)에 의해 구성된다. 그러나 이들의 이야기하기를 구조적으로 파악하면 ‘그’의 특이한 욕망에 대한 고백과 거기에 집착하는 ‘나’의 이야기로서 단순화할 수 있다. ‘그녀’의 역할은 ‘나’와 ‘그’를 연결시켜주는 매개체로서 존재한다. 일종의 사건으로의 인도자 혹은 사건의 유발자인 것이다.³⁾

2) 中山徹(中山徹(2015)「リアリズム小説の条件：『村上春樹とポストモダン・ジャパン』の余白に(特集 三浦玲一)」『言語社会』(9)、Gensha, pp.180-196)는 『색채가 없는 다자키 쓰쿠루와 그가 순례를 떠난 해』(2013)에서 다자키 쓰쿠루가 신주쿠역을 바라보는 장면을 통해 하루키는 우리들이 일상에서 여러 가지 것을 직관하는 공간에 대해 이야기하지 않고 그 공간을 그저 관조한다는 것을 지적하였다. 이어서 관조는 이미지를 생성하는 것은 가능하지만, 결코 ‘典型the typical’을 창출하는 것은 불가능하다는 것과 연관 지어 하루키의 묘사가 역사적 사실에 비유되는 것이 아니라 현실적 상상력이 발휘되는 이율배반적인 문장으로 이루어져 있음을 주장하였다. 이처럼 하루키의 문장은 문장과 문장사이에서 읽어낼 수 있는 전형성이 없기 때문에 무한한 상상력이 그 자리를 채우고 있다고 할 수 있으며, 다나카의 주장 이외에도 이와 같은 하루키만의 문장 특징에 대해 많은 연구자들이 공통적으로 지적하고 있다.

3) 하루키 텍스트에 대한 대부분의 선행연구는 디태치먼트(detachment)에서 코미트먼트(commitment)로의 변화에 주목하였다. 때문에 ‘전쟁’, ‘테러’, ‘폭력’, ‘대지진’ 등 하루키 텍스트가 그리고 있는 대상에 대한 연구가 많았다. 그러나 최근에는 하루키의 특징적인 문체와 문장을 통해 타인과의 관계성에 주목하여 하루키의 이야기하기가 변화한 양상을 고찰하고 있다. 우사미 타케시(宇佐美毅(2016)「巻き込まれる男たち—村上春樹作品における〈成長すること〉の意味」『村上春樹と二十一世紀』おうふ、p.283)는 그러한 맥락에서 하루키의 남자주인공들은 거의 대부분의 경우 ‘휘말리는 존재’로서

‘나’의 이야기하기 속에서 ‘그’와 함께 그려가는 팽팽한 심리적 긴장감은 특별한 사건의 발생 없이도 충분히 스릴러로서의 면모를 가진다. ‘나’와 ‘그’가 이어가는 대화와 ‘나’의 이야기하기를 통해 표상된 ‘그’와 ‘그녀’의 모습은 행간의 여백을 통해 팽팽한 심리적 압박감을 제시하고 있는 것이다. 반면 『버닝』은 스릴러적인 긴장감의 표출보다는 3명의 인물들이 쌓아가는 드라마적 서사에 더 초점을 두고 있다. 그리고 그들의 서사 사이에 존재하는 현실과 픽션이 애매모호한 경계선을 가지고 관객들에게 리얼리티와 환상의 혼재를 통해 긴장감을 유발시키고 있다. 때문에 『버닝』은 『헛간을 태우다』에서 소재를 가져왔을 뿐 전혀 다른 결말이 준비된, 매체적인 이질감만큼이나 전혀 다른 영역의 이야기라고 할 수도 있다.

한편, ‘나’의 이야기하기라는 트릭을 전제로 『헛간을 태우다』의 서사를 재구성하면 이중적 이야기구조를 발견할 수 있다. 먼저 ‘그녀’와의 만남을 이야기하는 시작과 ‘그녀’의 실종을 이야기하는 끝을 가진 이야기구조가 그 하나이다. 그리고 또 하나는 ‘그녀’의 실종경위가 ‘그’와 관련되어 있지 않을까라는 ‘나’의 의심이 만들어낸 ‘그’와의 에피소드와 ‘그녀’의 실종이 ‘나’의 일상을 어떻게 바꾸어 놓았는지에 대한 자각이라는 이야기구조이다. 그녀의 실종을 이야기한 뒤 덧붙이는 ‘나’의 일상과 비밀상이 혼재된 이야기하기가 이러한 이중적 구조를 가능하게 하고 있다. 전자의 이야기구조가 ‘무엇을what’ 태우는가에 초점이 맞추어져 있다면 후자의 이야기구조는 ‘왜why’ 태우는 것인가가 중요하다. 그렇다고 한다면 ‘헛간’이 사라진 『버닝』에서의 서사 중심은 ‘나’와 ‘그’와 ‘그녀’가 아닌 ‘종수’와 ‘해미’, 그리고 ‘벤’이라고 하는 이름을 가진 인물들이며, 그들은 각각의 준비된 서사 구조 속에서 발생한 중층적 이미지와 대화 속에 내포된 메타포를 통해 ‘왜why’ 태우는 것인가에 대한 답을 찾아간다. 이러한 점에서 본다면 『버닝』은 『헛간을 태우다』와 여전히 강하게 연결되어 있음을 알 수 있다.

이에 본 논문에서는 먼저 『헛간을 태우다』가 가진 이중적 서사의 특질을 분석하고 이를 바탕으로 『버닝』이 표상하고 있는 서사구조를 비교하고자 한다. 그리고 『헛간을 태우다』와 비교하여 『버닝』에서 표상된 서사구조의 <차용>, <변용>, <창작>이 가진 ‘차이’를 통해 하루키의 텍스트가 가진 영화

스스로 행동을 일으키지 못하고 어떤 일에 대하여 수동적인 자세를 취하고 있는 반면, 여성주인공들은 스스로 행동하고 주위 남성들에게 행동을 강요한다고 지적하고 있다.

적 표상의 한계와 더 나아가 콘텍스트적인 측면에서 시대적 보편성이 텍스트 속에서 어떻게 확장되어 나갈 수 있는지에 대한 가능성을 살펴보고자 한다.

2. 『헛간을 태우다』에 대한 두 가지 해석

『헛간을 태우다』는 1983년에 「신초新潮」에 게재된 단편소설로서 하루키의 두 번째 단편집인 『반딧불·헛간을 태우다·그 외 단편蜚(納屋を焼く・その他の短編)』(1987)에 수록되었다. 이후 1990년 자선집에 수록될 당시 많은 부분이 개작되어 실렸으며⁴⁾, 1992년 미국의 뉴욕커지에 필립 가브리엘의 번역본(『Barn Burning』)이 게재되었다.

지금까지 진행된 많은 선행연구들에서 『헛간을 태우다』는 두 가지의 해석이 카논⁵⁾을 형성하고 있다. 먼저 히라노 요시노부(平野芳信)가 지적한 「요약하자면, 청년은 『헛간(그녀)』을 『불태운(살해한)』 것이다」⁶⁾라고 하는 해석이다. 다다 미치타로(多田道太郎)⁷⁾, 가토 노리히로(加藤典洋)⁸⁾, 무라카미 린조(村上林造)⁹⁾ 등도 같은 맥락에서 텍스트를 이해하고 있다. 이러한 해석은 ‘나’가 서술하는 이야기하기가 표상하고 있는 서사 그 자체에 중심을 둔 해석으로서 ‘이 것 외에 이 이상으로 우리들은 이 작품이 실제로 어떠한 작품인지를 확증할 수단을 가지고 있지 않다’라고 하는 가토 노리히로의 지적처럼 『헛간을 태우다』의 서사가 귀결시키고 있는 명백한 표상이 텍스트 전반을 지배하고 있다. 때문에 이러한 해석이외의 것은 ‘잘못된 읽기’라는 평가가 지배적이었다.

반면, 텍스트에서 현실감이 희박하다¹⁰⁾는 것을 근거로 하여 아이덴티티 상실이라는 측면에서 이 작품을 해석하고 하는 것이 다른 한 편의 카논이다. 다

4) 村上春樹(1990)「自作を語る 短編小説への試み」『村上春樹全作品1979-1989③』講談社、p.321.

「この作品にはけっこう手を入れた。雰囲気は少し変わったかもしれない。」

5) 正典(Canon)을 뜻하는 비평용어로서 이 논문에서는 ‘보편적인 정설’로서 받아들여지고 있는 텍스트 해석의 범위를 의미한다.

6) 平野芳信(1996)「構造と語り-村上春樹『納屋を焼く』をめぐる試論-」『日本文芸の系譜』笠間書院、p.56.

「要するに、青年は『納屋(彼女)』を『焼いた(殺した)』のである。」 필자에 의한 번역임.

7) 多田道太郎(1998)『変身放火論』講談社、pp.1-288.

8) 加藤典洋(2004)『テキストから遠く離れて』講談社、pp.1-328.

9) 村上林造(2006)「村上春樹「納屋を焼く」を読む」『あしかび』70号、pp.28-41.

10) 酒井英行(2001)『村上春樹一分身との戯れ』翰林書房、pp.1-245.

나카 미노루(田中実)는 다음과 같이 언급하고 있다.

그녀는 사라지거나, 나타나거나 하는 <없는> 세계에 있고, 『나』는 현실을 살고 있으며, 그는 그 사이를 오고간다. 말의 이면에서는 그 의미가 박탈되어, 바람과 같이 투명한 세계, 아이덴티티를 필요로 하지 않는 존재하지 않는 주체, 부재라고 하기 보다는 처음부터 존재하지 않는 세계가 펼쳐지고 있다.¹¹⁾

다나카 미노루는 ‘없다’라는 것을 잊어버려야 하는 <없는> 세계가 『헛간을 태우다』의 세계이며, 그러한 의미에서 『헛간을 태우다』는 현실 속에서 자기 자신을 잃어버리고 아이덴티티가 붕괴되어 가는 것을 그런 텍스트라고 해석하고 있는 것이다. 다시 말하면, ‘나’가 이야기하고 있는 서사보다는 대상을 통해 자각하고 있는 ‘나’의 아이덴티티 상실과 사라져가는 현실과의 괴리라고 하는 메타포에 주목한 해석으로 이해 가능하다.

그러나 텍스트의 이야기하기가 가진 구조적인 측면에서 본다면 이야기내용(物語)에 중점을 둔 『헛간을 태우다』에 대한 카논적인 두 가지 해석을 상대화시킬 수 있는 분석이 가능하다. 즉 『헛간을 태우다』를 해석하고 있는 두 가지 카논 모두 서사에 중심을 둔 것이기 때문에 하루키의 이야기하기라는 물리적 장치로 인해 생성된 화학작용이 만들어가고 있는 인물들의 관계성은 고려되고 있지 않다는 것이고, 그것을 고려한다면 『헛간을 태우다』는 ‘나’의 일상과 비밀상이 혼재된 상태에서의 이야기내용이라고 생각할 수 있다.

2-1. 『헛간을 태우다』 - 서사를 통한 이야기구조

이야기의 시작은 다음과 같다.

「그녀는 아는 사람의 결혼파티에서 처음 만나 친해지게 되었다.»¹²⁾

11) 田中実(1990) 「消えていく現実」 『国文学論考』 都留文科大学国語国文学会, p.20.

「彼女は消えたり、現れたりするくない>世界にあり、『僕』は現実に生き、彼はその双方を行き来する。言葉の裡にはその意味が剥奪され、風のように透明な世界、アイデンティティを不要にする主体非在、不在というより、初めから非在の世界が広がっている。」 필자에 의한 번역임.

12) 村上春樹(1987) 『蜚・納屋を焼く・その他の短編』 新潮社, p.53.

「彼女とは知りあいの結婚パーティーで顔を合わせ、仲良くなった。」 필자에 의한 번역임.

‘그녀’가 사라져버린 경위를 ‘나’가 진술하고 있는 것이 ‘헛간을 태우다’의 이야기구조이다. ‘그녀’는 ‘나’와 나이차이가 많이 나지만 자연스럽게 ‘나’의 걸프렌드가 되었으며, 판토마임에 능숙하고 ‘나’ 이외 몇 명의 보이프렌드를 둔 자유로운 영혼의 여자이다.

어느 날 ‘그녀’가 돌연히 아프리카 여행을 다녀와서 새롭게 사귀는 남자친구를 소개하고 ‘나’는 ‘개츠비’같은 ‘그’가 그녀가 만난 ‘첫 번째 정식 남자친구’라고 생각한다. 그 후 몇 번을 함께 어울렸고, 아내가 집을 비우고 혼자만의 휴일을 보내던 ‘나’에게 돌연 ‘그녀’와 ‘그’ 두 사람은 교외에 위치한 ‘나’의 집을 방문한다. 술을 마시고 대마초를 피우던 일탈 속에서 ‘그’는 ‘나’에게 2개월에 한 번씩 헛간을 태우는 자신의 방화벽을 이야기해준다. 그리고 ‘나’의 집 근처에서 태우기에 적합한, 그래서 곧 태울 예정인 헛간을 발견했다고 말한다.

그 후 ‘나’는 ‘그’가 암시한 집 주변에 있는 헛간을 면밀히 조사하여 5개의 유력 후보군을 상정한 뒤 매일 아침 조깅을 하며 살펴보지만 결국 태워진 헛간은 없었다. 하지만 크리스마스를 앞두고 쇼핑 중이던 ‘나’는 ‘그’를 다시 만나게 되고 ‘그’는 분명히 헛간을 태웠다고 한다. 얼마 후 ‘그녀’의 부재를 자각한 ‘나’는 ‘그녀’의 흔적을 쫓고 빈 집에 연락처를 남기며 기다리지만 별 소득이 없었다. ‘그녀’의 집에 다른 사람이 이사 온 것을 확인한 후 「그래서 나는 포기했다. 약 1년 전의 이야기이다. 그녀는 사라져 버렸다」¹³⁾로 이야기의 서사는 끝난다.

이러한 서사의 끝맺음을 통해 ‘나’는 두 가지 의도를 ‘나’의 이야기하기 속에 숨겨놓았음을 고백하고 있다. 첫 번째는 그녀가 사라진 것이 1년 전의 일이라고 하는 것이다. 그리고 1년이나 지난 사건을 다시 이야기하고 있다는 것을 통해 ‘나’는 ‘그녀’가 돌아 올 수도 있지 않을까라는 가능성을 조금은 가지고 있음을 암시한다. 두 번째는 ‘나’의 이야기하기가 전개하는 이야기내용이 ‘그녀’의 실종에 대한 ‘나’의 의심, 즉 ‘그’에게 살해당했다는 추측에서 비롯된 것임을 밝히고 있는 것이다.

2-2. 『헛간을 태우다』 - ‘나’의 이야기하기

단순히 ‘그녀’의 실종경위를 의심하고 ‘그녀’의 실종이 ‘그’와 연관되어 있을

13)村上春樹(1987)『蜚・納屋を焼く・その他の短編』新潮社、p.83.

「それで僕はあきらめた。一年近く前の話だ。彼女は消えてしまったのだ。」 필자에 의한 번역임.

것이라는 ‘나’의 추측이 100% ‘나’의 확신으로 이어지는 서사가 텍스트의 유일한 해석으로 머물지 않는 것은 마지막에 덧붙여진 이 부분 때문이다.

① 「나는 아직 매일 아침, 다섯 개의 헛간 앞을 달리고 있다. 우리 집 주변의 헛간은 아직도 어느 것 하나 불에 타서 내려앉은 것이 없다. 어디에선가 헛간이 태워졌다는 이야기도 들리지 않는다. 다시 12월이 오고, 겨울새가 머리 위를 지나 날아간다. 그리고 나는 계속해서 나이를 먹어간다. 」

② 「어둠 가득한 밤, 나는 때때로 불타서 내려앉고 있는 헛간을 생각한다.」¹⁴⁾

‘그녀’의 실종 이후 일상(①)과 비일상(②)이 혼재된 ‘나’의 이야기하기는 앞에서 진술된 ‘나’의 서사가 ‘그녀’가 아닌 ‘나’의 이야기가 될 수 있다는 가능성을 열어두고 있다. 공간적인 측면에서 본다면 그것은 더욱 명확해 진다. ‘나’에게 결혼은 비일상인 반면, ‘그녀’와 함께 데이트를 하는 것은 일상이다. 아내는 부재하며 ‘그녀’는 ‘나’의 일상 속에 자연스럽게 동참한다. ‘나’ 역시 크리스마스 선물 목록에 일상의 습관처럼 ‘그녀’의 선물을 사고 있다. 그렇기 때문에 ‘그녀’의 실종(헛간이 태워진 것) 후 난 결혼이라는 일상을 마주하면서 그녀와 함께 하였던 것이 비일상이 되어버리는 것을 인정하지 못하고 있는 것이다.

『헛간을 태우다』에 대한 두 가지 해석의 카논 중 첫 번째 ‘그녀’가 살해된 이야기라고 한다면 ‘헛간’은 ‘그녀’이다. 두 번째 ‘나’의 아이덴티티 상실에 관한 이야기라고 한다면 ‘헛간’은 ‘나’이다. 어느 쪽이든 ‘무엇what’을 태우는가에 대한 이야기이다. 그러나 이야기하기의 주체인 ‘나’를 중심에 두면 ‘나’가 궁금해 하고 있는 것은 ‘그’와 ‘그녀’이며, 그들에 대한 ‘나’의 시선은 모두 ‘왜why’라고 하는 의문점에서 시작된다. 그리고 그 의문이 해결되지 않은 상태에서 ‘나’의 일상은 비일상과 혼재되어있으며, 그러한 시간과 공간의 혼재 속에서 1년이 흐른 것이다. 또한 앞으로도 그렇게 흘러 갈 것이다.

14)村上春樹(1987)『蜚・納屋を焼く・その他の短編』新潮社、p.83.

「①僕はまだ毎朝、五つの納屋の前を走っている。うちのまわりの納屋はいまだにひとつも焼け落ちてはいない。どこかで納屋が焼けたという話もきかない。また十二月が来て、冬の鳥が頭上をよぎっていく。そして僕は歳をとりつづけていく。」

「②夜の暗闇の中で、僕は時折、焼け落ちていく納屋のことを考える。」 필자에 의한 번역임.

3. 『버닝』 - 『헛간을 태우다』로부터

2018년 공개된 이창동 감독의 영화 『버닝』은 유통회사 알바생 ‘중수’가 어릴 적 동네 친구 ‘해미’를 만나고, 그녀에게 정체불명의 남자 ‘벤’을 소개받으면서 벌어지는 이야기를 그리고 있다.

유통회사에서 아르바이트를 하고 있는 ‘중수’는 배달 도중 어린 시절 같은 마을에 살던 ‘해미’와 우연히 만난다. 얼굴이 바뀌어 잘 알아보지 못하는 ‘중수’의 희미한 기억과는 달리 ‘해미’는 한눈에 알아보고 먼저 말을 걸만큼 ‘중수’에 대한 기억을 강렬히 간직하고 있다. 이 후 만남을 거듭하며 조금씩 가까워져 간다고 생각하던 ‘중수’에게 그녀는 돌연 아프리카 여행 계획을 이야기하고 그녀의 집에 있는 고양이를 부탁한다.

여행에서 돌아온 ‘해미’를 마중나간 ‘중수’는 여행지에서 만나 같이 돌아온 그녀의 남자친구인 ‘벤’을 소개받는다. 이 후 ‘벤’이 불편한 ‘중수’이지만 ‘해미’로 인해 셋은 몇 번 어울리게 된다. 어느 날 과주의 아버지 집에서 지내고 있는 ‘중수’를 방문한 ‘해미’와 ‘벤’, 급작스러운 방문이었지만 역시 ‘해미’를 중심으로 공통의 관심사를 통해 친근한 시간을 가진다. ‘해미’가 술에 취해 잠이 들고 ‘벤’과 같이 남은 ‘중수’는 ‘벤’이 권한 대마초에 취해 집을 나간 어머니의 옷을 태웠던 어린 시절의 이야기를 고백하고 이에 ‘벤’은 ‘중수’에게 자신의 방화벽(2개월에 한 번씩 비닐하우스를 태우는)을 이야기한다. 그 날 이후 ‘해미’에게 폭언을 내뱉은 것에 대한 후회와 ‘벤’의 방화벽 이야기로 인해 왠지 모를 불안감에 휩싸인 ‘중수’는 ‘해미’의 실종을 접한다.

『헛간을 태우다』가 아무 일도 일어나지 않는 반면, 『버닝』은 ‘중수’와 ‘해미’, 그리고 ‘벤’과 관련된 각각의 서사와 사건들이 중첩된다. 그리고 장면과 대사들 역시 여러 층의 메타포를 포함하고 있어 다양한 해석이 가능하다. 그렇기 때문에 이야기내용에 대한 다양한 해석을 열어두고 있다. 이에 대해 이창동 감독은 다음과 같이 이야기한다.

영화의 구조 자체가 다양하게 해석할 수 있는 가능성이 있기 때문에 당연하다고 생각한다. 사실 계속 그런 여지를 남겨두기도 했다. 또 이 영화가 가진 미스터리 특징이나 성격이기도 하다. 영화를 어떻게 해석하고 어떤 곱들이 있는지, 그리고 관객들에게 어떻게 전해지는가가 내가 이 영화를 만든 하나의

목표다. 어쨌든 각자가 자기 나름의 해석으로 서사를 만들어서 영화를 보는 것 같다. 그 점은 당연하다고 본다.¹⁵⁾

이창동 감독의 이야기를 빌리면 『버닝』이 가진 서사의 다양한 해석가능성은 일단 영화라고 하는 매체적인 특성과 이창동 감독의 영화에 대한 철학이 복합적으로 작용하여 이루어진 것이라고 추론 가능하다. 다시 말하면 『버닝』의 이야기내용과 이야기하기는 ‘종수’, ‘해미’, ‘벤’ 모두에게 그리고 관객들에게 ‘WHY’를 끊임없이 묻고 있는 것으로 이해할 수 있다.

3.1. 서사적 메타포

『버닝』을 영화적인 표상과 이창동 감독이라는 이중적인 구조에서 접근하면 서사적 메타포가 가진 ‘WHY’를 발견할 수 있다. 『버닝』의 서사구조를 도식화 하면 ‘종수’와 ‘해미’ 그리고 ‘벤’이라고 하는 3명의 남녀가 그리는 삼각관계 이야기가 된다. 키워드로 정리하면 섹스, 질투, 방화벽의 이야기이다. 「이 영화 속에는 많은 사회적 코드, 경제적 코드, 젊은이, 예술, 문화, 영화들의 내용들이 숨겨져 있지만 단순하게 영화적으로 보여주고 싶었다」¹⁶⁾는 이창동 감독의 언급처럼 그가 서사구조를 이렇게 단순화하여 명확히 드러내면서까지 그려내고 싶었던 것은 젊은 세대 간의 갈등과 분노이다.

또한 2016년 부산 국제영화제에서 작업하고 있는 영화에 대해 질문을 받았을 때 그는 「이 이야기는 현대사회 젊은이들의 이야기입니다. 그들이 자신의 인생과 그 세계를 생각할 때 그것은 미스터리처럼 느껴지겠지요」¹⁷⁾라고 답하였다. 이러한 답변 역시 그 이면에는 『버닝』의 서사 표상이 젊은 세대로 향하고 있음을 알 수 있다. 그러나 젊은 세대라고 하는 것은 ‘지금’이라는 시간적 메타포를 포함하고 있으며 그러한 메타포는 이창동이라는 ‘나’와 링크된다.

이창동 감독에게 영화는 ‘지금의 나’라고 하는 의식이 강렬하다.

15) 이창동 칸 영화제 귀국 인터뷰 중(매일경제 스타투데이 2018년 5월 31일) :
<http://star.mk.co.kr/new/view.php?mc=ST&year=2018&no=344508>(검색일2018.08.23)

16) 이창동, 5월04일 제71회 칸국제영화제 초청 출국전 기자회견:
<http://tvdaily.asiae.co.kr/read.php3?aid=15269632341354800008>(검색일2018.08.12)

17) 2016년 부산국제영화제:
<https://getnews.jp/archives/1894354/gate>(검색일2018.08.24)

「원작을 영화화 하는 작업은 장점과 압박을 동시에 가지고 있습니다. 마침 제가 『시』 이후에 고민하는 시기가 있었습니다만, 그 때 소설을 통해 지금의 나를 투영하고 영화화하고 싶다고 생각하였습니다. 단 어떤 작품이라도 나의 영화로 만들 때에는 영화에 맞추어서 이야기를 진행합니다.」¹⁸⁾

인용에서처럼 이창동 감독에게 ‘원작을 영화화 하는 작업’은 ‘지금의 나를 투영’하는 것이며, 여기에서 주목할 것은 ‘지금’이다. 즉 『버닝』의 단순화한 서사구도와 젊은이들의 삶이라고 하는 키워드를 이해하기 위해서는 ‘지금’이라고 하는 콘텍스트에 주목할 필요가 있다.

종수가 밥을 먹으면서 청년 실업에 관한 뉴스를 보고 있는 장면이 있다. 문재인 대통령은 취임이후 일관되게 청년의 고용창출을 가장 주요한 과제로 보고 적극적인 대책을 강구해나가고 있지만, 그 성과는 여전히 미비한 수준이다.¹⁹⁾ 젊은이들의 대부분은 대통령 선거에서 ‘문재인’을 지지하였다. 그러나 그들의 열망은 정치적인 측면에서의 성과만큼 청년층 취업 개선 등의 경제적 측면에서의 성과로는 이어지지 못하고 있다. 이러한 아이러니 속에서 하소연조차 어디로 하면 좋을지 알 수 없는 젊은이들의 갈 곳 없는 분노가 이창동 감독이 숨겨놓은 『버닝』의 서사적 메타포이다.

결론적으로 ‘지금’ 그리고 ‘이창동’ 이라고 하는 콘텍스트와 영화라고 하는 매체가 표현하는 서사적 특성을 고려한다면 『버닝』은 도회의 유복한 남성과 지방출신의 가난한 남성이 한 명의 여성을 둘러싸고 싸우는 심리드라마를 통해 열등감과 열악한 환경 속에서 살아가고 있는 현재 젊은이들의 좌절과 분노를 표현한 것이다. ‘종수가 ‘해미’의 방안에서 글을 쓰기 위해 앉았을 때 따듯한 햇볕을 느끼고 그것을 따라가지만 햇볕은 창밖으로 보이는 남산타워에 비친 반사광에 지나지 않는다. 이 장면이 바로 그러한 영화화 작업의 프로세스를 상징하고 있다. 그렇다고 한다면 이야기내용과 이야기하기의 독특한 이중 구조로 이루어진 하루키의 텍스트 구축 프로세스와 같은 연장선상에서 『버닝』은 해석 가능하다. 그러므로 『버닝』에서 젊은이들의 좌절과 분노, 그들의 삶이

18) 2018년 4월 24일 제작보고회 서울 강남구 CGV압구정:

<http://www.yonhapnews.co.kr/bulletin/2018/04/24/0200000000AKR20180424095000005.H>
TML(검색 일2018.08.11)

19) ‘취업자 증가 확대됐지만...실업자 수 19년 만에 최고치’, 이투데이, 2018년-10-12일자:

<http://www.etoday.co.kr/news/section/newsview.php?idxno=1672849>(검색일2018.10.12)

라고 하는 이야기가 가능한 것은 『헛간을 태우다』에서 ‘나’의 이야기하기로 전개되는 이야기내용을 카메라의 시선으로 가져오게 되면서 ‘중수’와 ‘벤’, 그리고 ‘해미’를 관객들과 공유할 수 있도록 <변용>하였기 때문이다.

3.2. 변용과 차용

『헛간을 태우다』와 비교하여 『버닝』은 ‘차이’를 기준으로 <차용>과 <변용>, <창작>의 요소를 적절히 혼재시키고 있다. 이것을 간단히 정리하면 아래와 같다.

- <차용> : 굴껍질 까기 판토마임, 아프리카 여행, 방화를 하는 주기(2개월), 동시존재의 언급, ‘그녀’ 또는 ‘해미’의 실종
- <변용> : 「헛간」이 「비닐하우스」로
- <창작> : ‘중수’의 아버지에 관한 유소년기의 기억 / ‘중수’가 ‘벤’을 죽이고 그 흔적을 불태우는 것

이창동 감독의 『헛간을 태우다』에 대한 해석은 ‘벤’과 ‘해미’의 중층적 서사를 표상하고 있지만, 결국 이야기의 중심은 ‘나=중수’의 아이덴티티이며 그에 관한 서사이다. 이러한 점을 전제로 『버닝』의 영화적 표상을 『헛간을 태우다』로부터 비교적 관점에서 접근하였을 때 <차용>과 <변용>, <창작>의 부분은 다음과 같이 해석할 수 있다. 결론을 먼저 이야기하면 <차용>으로부터는 ‘해미’는 살해가 아닌 자살의 가능성을 내포한다. 그리고 <변용>으로부터는 ‘벤’의 방화벽은 태워지는 대상이 헛간이 아닌 비닐하우스이기 때문에 가진 자들의 일반적 유희에 머무른다. 마지막으로 『버닝』의 결말인 ‘중수’가 ‘벤’을 죽이고 그 흔적을 불태우는 <창작> 부분은 비일상 즉 ‘중수’의 환상일 가능성을 높여준다. 그렇다고 한다면 『헛간을 태우다』와 다른 결말을 준비한 듯 보이는 『버닝』의 결말은 『헛간을 태우다』의 마지막 부분인 ‘나’의 일상과 비일상의 혼재를 표현한 이야기하기와 같은 맥락에서 이해할 수 있다. 또한 동일한 이야기 구조로부터의 확장으로서 해석가능하다.

먼저 ‘차용’된 부분을 보고자 한다. 『버닝』에서의 차용은 대부분 ‘해미’에 관한 부분이다. 그 중 가장 큰 임팩트는 ‘해미’의 실종이다. 실종이라고 하는 서사적인 팩트는 『헛간을 태우다』에서 그대로 가져오고 있다. 하지만, 『헛

간을 태우다』에서는 ‘그녀=해미’가 살해된 것인지 실종인지에 대해서는 명확히 드러내지 않는다. 다만 ‘나’의 의심만이 있을 뿐이다. 하지만 『버닝』에서는 살해된 것이 아닐 수도 있다는 것을 더욱더 부각시키고 있다. 이러한 차이는 어디에서 비롯된 것일까? 그것은 『헛간을 태우다』에서는 ‘그녀’가 주체적으로 이야기하기에 등장하고 있지 않기 때문이다. ‘나’의 이야기하기의 관심이 ‘그녀’가 아니라는 것은 앞에서도 언급하였다. 반면, 『버닝』에서는 ‘해미’에게 주체성을 부여하였다. ‘그레이트 헝거춤’을 두 번 피로하는 것, 그리고 ‘해미’의 정리된 방과 “아무도 모르게 사라져버리고 싶다”라거나 “종수로부터 들은 폭언(‘창녀나 옷을 그렇게 벗는 거야’)에 대해 명백히 불쾌감을 표출하고 있는 ‘해미’의 모습이 그것이다. 이렇게 ‘해미’에게 주체성을 부여함으로써 ‘해미’가 살해당한 것이 아니라 자살 또는 스스로 몸을 감추었다는 해석이 가능하다. 덧붙여 ‘해미’가 하는 거짓말의 진실 여부와 주변 사람들이 이야기하는 ‘해미’가 가진 빛의 여부 등이 그러한 해석과 함께 시너지를 발휘하는 측면도 있다.

‘해미’는 ‘종수’에게 굴껍질을 벗기고 먹는 판토마임을 보여주면서 ‘굴이 있다고 생각하는 것이 아니라, 없다고 하는 것을 잊어버리면 된다’라고 말한다. 『헛간을 태우다』의 ‘나’의 이야기하기에서 보면 이 대사는 그저 ‘나’가 보는 ‘그녀’의 이상한 사고체계를 알려주는 것일 뿐이지만 주체성이 부여된 ‘해미’의 대사가 되면 ‘종수’ 또는 세상을 향한 그녀의 생각이 된다. 즉 ‘종수’의 희망 없는 눈을 보고 있으면 희망이 있다고 생각하는 것은 어렵지만, 희망이 없다고 하는 것을 잊어버리는 방법이 있는 것이다.

결국 이창동 감독의 『헛간을 태우다』에 대한 해석은 ‘나=종수’의 아이덴티티에 대한 문제이며, 그것에 관한 서사이다. 때문에 대사와 상황을 <차용>하였지만 그것을 이야기하는 주체에게 서사를 부여함으로써 영화적 이야기를 완성하고 있다. 이것이 ‘그녀는 살해되었다’라고 하는 카논적 해석으로부터 비롯된 비난으로서 가토 노리히로가 지적한 ‘잘못된 읽기’이라고 한다면 ‘차용’을 통해 주체를 바꾸는, 즉 ‘해미’의 이야기하기로 바꾸는 것을 통해 그것을 부정할 수 있다. 때문에 그녀는 살해가 아닌 자살의 가능성을 내포한다.

두 번째로 <변용>된 부분에 대해 살펴보고자 한다. 『헛간을 태우다』에서는 비닐하우스와 헛간을 분명히 구분하고 있다. 다음 인용은 『헛간을 태우다』에서 헛간에 대해 이야기하는 ‘그’와 ‘나’의 부분이다.

①타인의 헛간에 무단으로 불을 붙이는 셈입니다. 물론 불이 크게 번지지 않을 것 같은 것을 선택합니다. 왜냐하면 나는 화재를 일으키려는 것이 아니라 헛간을 태우고 싶기 때문입니다. 20)

②마치 원래 처음부터 그런 물건은 존재하지 않았다는 것처럼. 누구도 슬퍼하지 않습니다. 단지 사라지는 것입니다. 21)

③그때부터 나는 16개의 헛간의 상태를 하나씩 하나씩 정중하게 체크하였습니다. 먼저 인가에 너무 가깝거나 비닐하우스 근처에 있는 헛간은 제외하였다. 22)

①은 ‘그’가 헛간을 태우는 목적과 그 목적에 맞는 헛간을 선택하는 이유를 이야기하고 있다. ②는 태워 없어지는 헛간에 대한 자신만의 메타포, 즉 의미를 부여하고 있다. ③은 이러한 ‘그’의 헛간을 태우는 방화벽과 의미, 그 과정을 들은 후 그것을 바탕으로 ‘나’가 집 주변에 있는 ‘그’가 태우려고 하는 헛간을 추론하는 것이다. ‘나’는 ‘그’의 말을 바탕으로 확실히 비닐하우스를 제외하고 있다.

‘그’가 헛간을 태우는 분명한 이유는 그것만이 타버리고 ‘처음부터 그런 물건은 존재하지 않았다’는 것으로 보이게 의도하는 것이기 때문에 ‘인가에 너무 가깝거나 비닐하우스 근처에 있는’ 것은 제외된다. 그러나 『버닝』에서 ‘밴’은 비닐하우스를 태운다고 분명히 말하고 있다. 이에 대해 이창동 감독은 그 이유를 다음과 같이 이야기한다.

“한국에서는 헛간이 아니라 비닐하우스를 어디에서나 볼 수 있으니 자연스럽게 비닐하우스를 생각하게 됐다. 투명하면서도 지저분한 비닐 이미지. 그 비

20)村上春樹(1987)『蜚・納屋を焼く・その他の短編』新潮社、p.69.

「他人の納屋に無断で火をつけるわけです。もちろん大きな火事にならないようなものを選びます。だって僕は火事をおこしたいわけじゃなくて、納屋を焼きたいだけですからね。」 필자에 의한 번역임.

21)村上春樹(1987)『蜚・納屋を焼く・その他の短編』新潮社、p.71.

「まるでそもそもの最初からそんなもの存在しなかったみたいだね。誰も悲しみません。ただ一消えちゃうんです。」 필자에 의한 번역임.

22)村上春樹(1987)『蜚・納屋を焼く・その他の短編』新潮社、p.75.

「それから僕は十六の納屋の状態のひとつひとつを丁寧にチェックした。まず人家に近すぎたり、ビニールハウスのわきにあたりする納屋は除外した。」 필자에 의한 번역임.

닐 너머 아무 것도 없는 텅 빈 곳을 들여다본다는 것. 거기에 우리 영화만의 비밀이 숨어있을 것 같았다”²³⁾

『헛간을 태우다』에서는 ‘불이 크게 번지지 않을 것 같은’ 헛간을 찾아서 불을 지르는 방화범의 주도면밀함이 드러나는 반면, 『버닝』은 태우는 대상 그 자체가 의미를 가지는 것이다. 즉 『헛간을 태우다』에서 드러나는 완전범죄적인 살인의 분위기가 아니라 단지 태운다는 것의 의미가 강조되고 있는 것이 『버닝』이다. 때문에 『버닝』에서 「헛간을 태우다」는 「비닐 하우스를 태우다」로 바뀌었고, 그것은 ‘밴’의 서사와 맞물려 「유희로서 여성의 마음을 불태우고 냉정히 돌아서 버리는 것」으로 해석할 수 있다. 때문에 ‘해미’는 ‘밴’에게 사랑의 대상으로서 버림받은 것이지 살해당한 것은 아니라고 생각할 수 있다.

이상 <차용>과 <변용>의 부분들을 살펴보았다. 영화적으로 표상된 것은 <차용>과 <변용>이지만 이야기내용으로 본다면 <창작>에 가깝다는 것을 알 수 있다. 그리고 그러한 <창작>은 이창동 감독이 『버닝』을 어떻게 해석하고 있는가 하는 것으로부터 나온다. 그렇기 때문에 영화적 표상으로서 <창작>된 부분 역시 『버닝』으로부터 해석할 수 있다고 생각한다.

먼저 ‘중수’의 아버지에 관한 유소년기의 기억은 『헛간을 태우다』의 결말인 ‘중수’가 ‘밴’을 살해하고 자신의 옷을 모두 벗고 사체와 함께 불태우는 장면을 위한 복선으로서 필요한 것이다. 분노조절 장애가 있는 ‘중수’ 아버지는 군청 공무원을 폭행해 재판을 받고 있으며, 어머니는 ‘중수’가 어릴 때 집을 나갔다. ‘중수’는 아버지처럼 분노에 휩싸여 다른 것을 고려하지 못한다. 그렇기 때문에 ‘해미’가 살해되었다고 생각한 순간 질투라고 하는 감정이 쌓인 것을 폭발시키고 ‘밴’을 살해한다. ‘중수’는 분노한 젊은이의 표상이다. 그렇다고 한다면 ‘중수’가 ‘밴’을 죽이는 현실이라고 하는 결말은 젊은이들에게 분노 표출을 강요하고 있는 셈이 된다. 하지만, 영화적 서사를 통해 차곡차곡 쌓아온 ‘중수’와 ‘해미’, 그리고 ‘밴’의 서사는 이러한 파격적인 결말을 그대로 수용하기 어렵게 만들고 있다.

『헛간을 태우다』에서 표상된 이야기내용과 이야기하기의 이중 구조적 측

23) 이창동, 5월16일 제71회 칸국제영화제 라운드 인터뷰:

<http://movie.interpark.com/Community/Movie/Paper/PaperView.asp?No=94333&Flag=MN>(검색일 2018.09.21)

면, 즉 일상과 비일상의 공간이 혼재된 마지막 부분의 이야기하기를 중심축으로 『버닝』의 결말을 재해석하면, 『버닝』에서 ‘중수’가 비닐하우스를 찾고 ‘벤’을 의심하는 것은 ‘중수’의 일상이 아니라는 것을 알 수 있다. 그러나 ‘나’는 매일 조깅을 하면서 헛간을 살펴보는 일상을 보내고 있다. 그리고 크리스마스 선물을 사고 돌아오는 길에 ‘그’를 만난다. 일상 속에서 마주치는 ‘그’이다. 그렇기 때문에 ‘중수’가 ‘벤’을 쫓는 그 순간부터 영화적 서사는 비일상 속에 놓이게 되는 것이다. 즉 그 이후에 이어지는 이야기내용은 ‘중수’의 환상이며, ‘중수’만의 이야기하기이다.

텍스트는 소설에서 영화로 옮겨가며 표상하는 방법을 다양하게 시도하였다. <창작>이 아닌 <변용>이라는 측면에서 접근하면 마지막 장면에서 ‘중수’가 ‘벤’을 죽이고 그 흔적을 불태우는 것은 비일상 즉 중수의 환상일 가능성이 높다고 할 수 있다. 그렇기 때문에 ‘벤’을 죽이고 그 흔적을 불태우는 것은 『헛간을 태우다』에서의 ‘나’의 일상과 비일상의 혼재를 표현한 이야기하기와 같은 맥락에서 이해할 수 있으며, <창작>이라고 하기 보다는 구조의 <변용>으로 보는 것이 더 타당하다.

4. 나가기

하루키의 텍스트는 시대를 반영하고 있다. 그것이 현재에도 이어지고 있다고 한다면 거기에는 몇 가지 이견이 있을 수 있으나, 그러한 성향이 그의 이야기하기에 여전히 이어지고 있다는 것은 부인하기 힘들다. 또한 하루키가 1980년대 일본문학의 현주소라는 것에는 이견이 없다. 하지만 1990년대 역시 하루키가 일본문학을 대표하였는가라고 한다면 그 역시 의문이 있는 것 또한 사실이다. 『노르웨이의 숲』이라는 텍스트가 물질적 가치를 나타낸다면 하루키의 문학적 성취는 1980년대에 머무른다. 개인적인 서사가 거대 서사로 이어지지 못하는 한계성이 분명히 하루키의 작품에는 존재한다. 그리고 그것의 표상으로서 노벨문학상 만년 후보군에 속해있는 이유이기도 하다.

작가 또는 작품이 클래식으로서 개인적인 담론을 넘어 거대 서사를 아우르기 위해서는 세대 간의 동일한 메시지와 해석의 차이를 끊임없이 던져주어야

한다. 그러한 시대적 보편성을 가지지 못한 하루키의 평면성은 1990년대 한국 사회에서 일어난 ‘하루키 붐’이 2000년대에도 계속 이어지지 못하고 있는 이유이다. 이런 점에서 『버닝』은 그에 대한 다른 해석의 가능성을 열어주었다고 할 수 있지 않을까?

『버닝』은 원작인 『헛간을 태우다』에서 ‘나’가 전개하는 이야기를 3인칭으로 바꾼 것, 그리고 ‘나’의 이야기하기를 ‘중수’와 ‘벤’, ‘해미’의 다층적 서사로 바꾼 것을 통해 2018년 현재의 격차사회를 표상하는 메타포적인 서사구조를 구축하였다. 다시 말하면 『헛간을 태우다』에서 표상하고 있는 ‘그녀’를 매개체로 한 ‘나’와 ‘그’의 대립구조를 ‘해미’를 사이에 둔 세 남녀의 연애편계로 1차적 변용을 하였고 거기에 더해 ‘흙수저’와 ‘금수저’라고 하는 격차사회의 현실을 2차적으로 반영하여 표상하고 있다. 이것은 ‘나’의 아이덴티티 상실이라는 개인적 서사가 영화라고 하는 관객과 소통된 서사 구조를 통해 거대 서사로 전환 될 수 있다는 것을 보여준 것이다. 그렇다고 한다면 하루키의 텍스트는 한 시대의 표상에 머무르는 것이 아니라 시대를 공유할 수 있는 가능성이 있다고 할 수 있을 것이다. 즉 특정한 시대의 전유물 보다는 시대적 변용이 가능한 보편적 특수성이라고 하는 측면에서 하루키의 텍스트는 다시 평가될 수 있는 가능성이 열려있다.

【참고문헌】

- 宇佐美毅(2016) 「巻き込まれる男たち—村上春樹作品における〈成長すること〉の意味」 『村上春樹と二十一世紀』おうふ、p.283.
- 加藤典洋(2004) 『テキストから遠く離れて』講談社、pp.1-328.
- 酒井英行(2001) 『村上春樹—分身との戯れ』翰林書房、pp.1-245.
- 多田道太郎(1998) 『変身放火論』講談社、pp.1-288.
- 田中実(1990) 「消えていく〈現実〉」 『国文学論考』都留文科大学国語国文学会、p.20.
- 中山徹(2015) 「リアリズム小説の条件 : 『村上春樹とポストモダン・ジャパン』の余白に (特集 三浦玲一)」 『言語社会』 (9)、Gensha、pp.180-196.
- 平野芳信(1996) 「構造と語り—村上春樹『納屋を焼く』をめぐる試論—」 『日本文芸の系譜』笠間書院、p.56.
- 村上林造(2006) 「村上春樹『納屋を焼く』を読む」 『あしかび』70号、pp.28-41.
- 村上春樹(1990) 「自作を語る 短編小説への試み」 『村上春樹全作品1979-1989③』講談社、p.321.
- (1987) 『蜚・納屋を焼く・その他の短編』新潮社、pp.51-83.
- (1989) 「村上春樹—僕が翻訳をはじめた場所」 『翻訳の世界』1989年3月号、日本翻訳家養成センター、pp.22-29.

이창동, 칸 영화제 귀국 인터뷰, 매일경제 스타투데이, 2018-05-31 :

<http://star.mk.co.kr/new/view.php?mc=ST&year=2018&no=344508>(검색일2018.08.23)

이창동, 5월04일 제71회 칸국제영화제 초청 출국전 기자회견:

<http://tvdaily.asiae.co.kr/read.php3?aid=15269632341354800008>(검색일2018.08.12)

15) 이창동, 2016년 부산국제영화제:

<https://getnews.jp/archives/1894354/gate>(검색일2018.08.24)

16) 이창동, 2018년 4월 24일 제작보고회 서울 강남구 CGV압구정:

<http://www.yonhapnews.co.kr/bulletin/2018/04/24/0200000000AKR20180424095000005.HTML>(검색일
2018.08.11)

이창동, 5월16일 제71회 칸국제영화제 라운드 인터뷰:

<http://movie.interpark.com/Community/Movie/Paper/PaperView.asp?No=94333&Flag=MN>(검색일
2018.09.21)

이투데이, 2018년-10-12일자:<http://www.etoday.co.kr/news/section/newsview.php?idxno=1672849>(검색
일2018.10.12)

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.

논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.

게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 『納屋を焼く』と『バーニング』の文化テクス的な変容と拡張
 —「WHAT」から「WHY」への転換を中心に—

趙軒求

本稿では『納屋を焼く』における二重的叙事の特質を分析して、これを基に『バーニング』が表象している叙事構造を比較した。また『納屋を焼く』と比較して『バーニング』で表象された叙事構造の変容と借用が持つ「差異」を軸にして村上春樹のテキストにおける映画の表象の限界と時代を越える普遍性が物語言説としてどのように拡張されていけるのかに対する可能性を検討した。

『バーニング』は『納屋を焼く』で表象している物語内容、つまり「彼女」を媒介体にした「私」と「彼」の二項対立構造を「ヘミ」を中心とする「ジョンズ」と「ベン」という、三人の男女の恋愛関係として1次的に変容させ、極端に広がっている格差社会である今の現実を2次的に反映させて表象している。これは『納屋を焼く』で表象された「私」のアイデンティティ喪失という個人的ディスコースが映画という開かれた叙事構造を通じて時代的ディスコースに転換されることができるということを見せたのだ。そうであるというならば特定の時代の専有物よりは時代的な変容、すなわちコンテキストとして機能できる普遍的特殊性という側面で村上春樹のテキストは再評価されることができる。

 “Burn burnin” cultural text-like changes and the expansion of “Burning”
 —From ‘WHAT’ focusing on conversion to ‘WHY’—

Cho, Hun-Goo

This research is an analysis of the characteristics of the double narrative of the novel “Barn Burning” and based on this analysis, I compared the narrative structures represented in the movie “Burning.” In the movie, “Burning”, first, the relationship between “me” and “her” mediating between her and me, which is represented in the original work, was transformed into a love relationship between two men and women based on “HaeMi”, Second, it reflected the reality of the gap in society called “soil water” and “gold water spoon.” This demonstrates that the personal discourse of the self-loss in the novel can be converted to a periodical discourse through an open narrative structure, which was expressed in the movie. If so, the novels of Haruki can be re-evaluated in terms of universal specialty that can be altered in any era rather than being the exclusive property of a specific era.

시마자키 도손(島崎藤村)의 「식당(食堂)」론

- 노년의 수용 -

천 선 미*

(e-mail : sm23316@naver.com)

< 목 차 >

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 들어가기 | 3.2. 수용의 계기 - 신시치의 독립 |
| 2. 「폭풍우(嵐)」의 이중성 | 4. 새로운 노년의 세계 |
| 3. 노년의 수용 - 「식당(食堂)」 | 5. 나가기 |
| 3.1. 자각의 분기점 - 고다케상점 | |

키워드 : 老年拒否(Denial of old age), 子の成長(Growth of a child), 子との分離(Separation from a child), 老年受容(Acceptance of old age), 新しい老年世界(A new world of old age)

1. 들어가기

사회학자 노지마 마사야(野島正也)는 “문학 작품의 독특한 관점과 표현이 ‘늙음’에 관한 신선한 관점을 제시한다, (중략) 작가를 통해 나타난 문학이 사회나 인생에 새로운 의미부여를 행한다.”고 했듯이 특히 일본에서 늙음에 대한 표현과 인식은 지금까지 시기별로 발표된 문학 작품에 의해 대중적으로 폄하되거나 추켜세워지곤 하였다.¹⁾ 이에 따라 서양의 신문물을 중심으로 새로운 일본을 건설하던 메이지(明治) 시대(1868-1911)는 문학에서도 ‘늙음’이란 용어는 배제되었다. 이후 다이쇼(大正)시대(1912-1926)에 접어들면서 늙음은 전근대적 용어로 취급되고 대신 새롭게 ‘노년’이란 용어를 사용하게 되었으며, 1930년 전후인 쇼와(昭和)시대부터는 ‘노인 문학’이란 개념으로 발전하기 시작하였

* 중원대학교, 조교수, 일본근대문학

1) 野島正也(2016) 「文学・文芸は『古い』をどのように捉えたか-老年社会学視点から-」 『日本言語文化』 (37), 일본언어문화학회, pp.5-12.

다.²⁾

시마자키 도손(島崎藤村)도 이 시기를 걸어간 작가였다. 따라서 메이지 청년 도손에게 ‘늙음’이란 개념은 거의 찾아볼 수 없으며, 프랑스체류(1913-16)이후인 중년의 시기부터 비로소 ‘노년’에 대한 언급이 보이기 시작한다. 한편 기타가와 다다히코(北川忠彦)는 “도손이 노년에 대한 인식을 깊게 한 동기를 동료였던 사메지마 신(鮫島晋)³⁾의 죽음과 관련”이 있다고 하였는데,⁴⁾ 이런 이유인지 처음으로 언급된 ‘늙음’은 추한 것이며 ‘죽음’으로 이어지는 부정적인 것으로 묘사하였다.⁵⁾ 하지만 때로는 “노년은 내가 도달하고 싶은 이상경(理想境)이다.”(全集9卷, 「老年」(1922), p.84)고 하며 긍정적으로 바라보기도 하였다. 그런데 이렇게 언급했던 ‘노년’은 실로 이론에 불가한 것이었다. 즉, 실제 ‘늙음’을 자각한 것이 아닌 다가올 노년에 대한 두려움과 기대 그리고 당시 문학에서 표현된 대중적인 이미지에 따라 부정적이거나 혹은 이상적으로 표현했을 뿐인 것이다.

따라서 본고는 도손의 실제 노년기라 할 수 있는 50대 중반이후를 중심으로 진정한 노년의 수용을 보이고 있는 작품을 추적하고자 한다. 아울러 ‘노년의 수용’이 이후 작품과 삶에 어떤 영향을 미치고 있는지도 살피고자 한다.

2. 「폭풍우(嵐)」의 이중성

도손이 늙음과 죽음에 대한 현실적인 언급을 시작한 것은 50대 중반이후 즉, 1920년대 후반에 들어서면서부터다. 작품으로는 「폭풍우(嵐)」(1926)가 주로 언급되어 왔다. 마사무네 하쿠초(正宗白鳥)는 「폭풍우」가 발표되자마자 “노경의 인생기록”⁶⁾라 하였으며 야마무로 시즈카(山室 静)는 “노년기 최초의 매력적인 달성”⁷⁾이라고 극찬했다. 그런데 나카야마 히로아키(中山弘明)는 “<늙

2) 大友英一外2人(1989) 「昭和文学に描かれた「老い」」 『国文学解釋と鑑賞』, 至文堂, pp.6-21.

3) 고모로의숙의 교사시절 알게 된 동료교사로 「가난한 이학사(貧しい理學士)」(1920)에 등장하는 사이토선생(齋藤先生)이다.

4) 北川忠彦(1983) 「『嵐』の位置」 『日本文学研究資料叢書島崎藤村Ⅱ』, 有精堂, pp.236-237.

5) 「세 명의 방문자(三人の訪問者)」(1919)에서 ‘겨울, 가난, 노년’이 각각 의인화되어 자신을 방문하는 내용이다. 겨울보다 추한 것이 가난이었지만 가난보다 혹독한 것이 바로 늙음(「老」)이라고 하고 있다.

6) 正宗白鳥(1926.10) 「文芸時評」 『中央公論』(『藤村全集』(別卷上)(1971), 筑摩書房, p.280.

7) 山室静(1966), 「伸び支度・嵐」 『解釋と鑑賞』, p.9.

음>이야말로 재생을 약속하는 도입된 구도..... (중략) 나의 어두운 생명이 자식의 미래를 향해 열렸을 때 비로소 방법으로서의 늙음도 완결된다.”고 하며 ‘늙음’의 방법이 오히려 자신의 재생을 위한 역설적 구도임을 말하였다.⁸⁾ 다카하시 마사코(高橋昌子)또한 “(노년에 대한) 현실직시가 가져다주는 nihil리즘을 극복하기 위해 (중략) 희망은 몽상에 의해서만 생긴다는 냉정한 현실을 알면서도 희망을 노래해야하는 쓸쓸한 향일성이라고 해야 하지 않을까?”라고 하며 노년을 적극적으로 극복하려는 자세는 긍정적이긴 하나 ‘노년 도피’라는 이율배반적인 상황임을 지적하고 있다.⁹⁾ 이처럼 「폭풍우」는 분명 실질적인 노년이 보이지만 그 스스로는 아직 수용하지 않았음을 알 수 있다. 그렇다면 「폭풍우」에서 노년을 거부한 연유는 무엇이였을까?

무엇이 썩어 문드러졌는가 하고 약간 기분이 나빠 2층 방에서 마루 판자를 벗겨 보니 죽은 쥐가 2마리나 그곳에서 나왔는데 그 한 마리는 작은 동물 해골이라도 보듯이 희게 바래 있던 것을 생각해 냈다. 나는 두려워졌다.¹⁰⁾ 무엇인가 이렇게 자신에 관한 일을 형태로 나타내어 일부러 보여 주는 듯한 것이.....(중략) 머리는 완전히 희어지고 오래 앉아 있어서 발등에 생긴 못은 콩처럼 딱딱하고 허리는 썩어 버린 듯이 무거웠다. (중략) 나이 든 사람들의 세계라는 것을 들여다본 듯이 생각한 일을 기억하고 있는데 바로 지금의 내가 그와 같은 자세로.

何が腐り爛れたかと薄味.くなくて二階の部屋から床板を引きへがして見ると、鼠の死骸が二つまでそこから出て、その一つは小さな動物の骸骨でも見るやうに白く曝れてみたことを思ひ出した。私は恐ろしくなつた。何か斯う自分のことを形にあらはして見せつけるやうなものが.....(中略)…髪はめつきり白くなり、坐り胼胝は豆のやうに堅く、腰は腐つてしまひさうに重かつた。(中略)…年取つた人達の世界というものを覗いて見たやうに思つたことを覚えてゐるが、ちやうど今の私がそれと同じ姿勢。(『藤村全集』(10)「嵐」, pp.26-27)

머리는 희어지고 허리는 무겁다. 또한 이전 나이든 사람들의 행동이라 생각했던 것을 그대로 답습하는 나를 발견하는 등 자신의 노쇠함을 직접적으로 말하고 있다. 드디어 자신에게도 노년이 찾아왔음을 알게 된 것이다. 그런데 노년을 ‘두려움’으로

8) 中山弘明(1990) 「『嵐』の機能一方法としての〈老い〉」 『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊』(16), 早稲田大学大学院文学研究所, p.29.

9) 高橋昌子(1994) 『島崎藤村 遠いまなざし』, 和泉書院, pp.201-202.

10) 원문에는 없지만 인용문을 통해 본고가 해명하고자 하는 부분을 강조하기 위해 의도적으로 밑줄 처리함.

표현하고 있다. 하지만 이 두려움은 이전 언급한 아직 닥쳐오지 않은 늙음에 관한 이론과 상상에 따른 초라함과 절망감과는 전혀 다른 의미임에 주목해야 한다.

“아이들이라도 자라면……” 오랫동안 기다렸던 그날이 드디어 나한테 찾아오는 듯했다. 그러나 그날이 올 무렵에는 나는 이제 움직일 수 없는 사람이 되어 버리는 것이 아닐까 생각할 정도로, 그렇게 오랫동안 계속 앉아 있던 자신을 아이들 옆에서 발견했다.

『子供でも大きくなつたら。』長いこと待ちに待つたその日が、漸く私のところへやつて来るやうになるら。しかしその日が来る頃には、私はもう動けないやうな人になつてしまふかと思ふほど、そんなに長く座り続けた自分を子供等の側に見出した。(『藤村全集』(10)「嵐」, p.24)

「폭풍우」는 아이들의 성장과 나의 노쇠라는 생명력과 관련된 문제를 중심축으로 다루고 있는 작품¹¹⁾이라고 했듯이 이 부분은 노년에 대한 ‘두려움’의 의미가 가장 집약된 곳이다. 즉, 닥쳐온 노년과 죽음이 두려운 것이 아니라 자신의 늙음으로 인해 한창 보살핌이 필요한 아이들에 대한 책무를 다하지 못할 수도 있다는 것에 대한 두려움인 것이다.

그러나 다카하시 마사코가 “자기의 예고를 버리고 ‘자신을 타자로 이화’시키는 길을 발견했다.”¹²⁾고 했듯이 아버지는 이 두려움을 아이들과 동화되어 ‘희망’과 ‘성장’ 그리고 ‘재생’이란 자기최면을 걸음으로써 극복하려 하고 있다. 그리고 이 최면이 ‘노년에 대한 강한부정’으로 침착되면서 작품은 새로운 국면으로 접어들고 있다.

언제나 자신의 손바닥을 보고 있으면 자신의 얼굴을 보든 듯한 마음이 드는 것이 내 버릇이었다. (중략) 나는 다시 한 번 자신의 손을 뒤집어서 거울이라도 보듯이 찬찬히 보았다. “내 손은 아직 붉어”라고 혼자서 생각을 고쳤다.

いつでも自分の掌を見てゐる自分の顔を見るやうなのするのが私の癖だ。(中略)私はもう一度、『自分の掌はまだ紅い』と獨り思ひ直した。(『藤村全集』(10)「嵐」 pp.26-27)

11) 임태균(2007) 「도손 단편소설에 나타난 ‘노년’의 양상」 『일본문화학보』(34), 한국일본문화학회, p.529.

12) 앞의 논문, 高橋昌子(1994), pp.201-202.

이후부터 늙음과 죽음 그리고 두려움 등의 표현은 결코 등장하지 않는다. 작품의 후반부로 갈수록 이에 대한 아버지의 의지는 점점 강해져 마지막까지 생장과 희망으로 가득 차 있다. 이토오 가즈오(伊東一夫)가 “자식세대로의 새로운 전환이지만 아버지 또한 재생하며 ‘우리들의 길’을 보여주려는 작품의도”¹³⁾라고 한 것처럼 본 작품은 현실을 거부하면서까지 자식들에게 긍정적 삶과 희망을 보여주고자 한 부모로서의 책임이 충만했던 당시 도손의 모습이 엿보이며 이를 통해 작품의 주제의식도 충분히 가늠할 수 있다. 신체적으로 노년이 찾아왔음을 인지했지만 내면으로부터 강하게 거부하였던 이유는 오로지 ‘폭풍같은 현실로부터 아이들을 지켜주기 위한’(全集10卷「嵐」p.31) 부모로서의 책임의식. 즉, 현실의 나를 버리고 아이들과 함께 가야한다는 타자화된 내면의식에서 비롯된 것이었음을 알 수 있을 것이다.

이처럼 「폭풍우」는 현실적인 늙음과 내면에서의 거부 즉, 노년에 관한 ‘이중성’을 보이고 있다.

3. 노년의 수용 - 「식당(食堂)」

3.1. 자각의 분기점 - 고다케상점

「식당(食堂)」(1926)은 「폭풍우」보다 몇 개월 후에 발표한 작품이다. 이 작품은 관동대지진 이후 1년이 흐른 시점이며 지진으로 도쿄에서 우라와(浦和)로 피신해 있던 어머니(오미와)가 도쿄에 새롭게 식당을 차린 아들(신시치)의 소식을 받고 잠시 상경한 때를 그리고 있다. 주지하듯이 관동대지진(1923.9.)을 계기로 일본사회는 내외적으로 급격하게 변화를 겪기 시작하였다. 「식당」또한 지진 전후의 상황은 대척점에 있는 듯하며 변화된 상황을 여러 상징을 통해 풀어놓고 있다. 그 중에서도 대대로의 가업인 고다케상점의 폐업과 새로운 식당 개업은 작품에서 가장 두드러진 변화이다.

(신시치는) 이번 지진은 무엇이나 뒤엎어 버린 것 같아요. -옛부터 있던 상점의 뼈대까지도- 오랜 전통까지도 위는 아래가 되고 아랫것은 위가 되고 이

13) 伊東一夫(1982) 『島崎藤村事典』, 明治書院, p.217.

제, 이제까지와 같은 상점 따위를 꿈꿀 때가 아닙니다.” “위에 것이 아래가 되고 아랫것이 위로 되다니 웬지 네가 하는 말이 두렵구나.”라고 오미와는 말했다. “아니요, 그런 때가 왔습니다.”라고 신시치는 말에 힘을 주고……

『今度の震災は何もかもひつくり返してしまったやうなものです。一昔からある店の屋台骨でも一奮い暖簾でも。上のものは下になりし、下のものは上になるし—もう今迄のやうな店なぞを夢に見てゐるやうな時ぢありません。』 『上のものが下になつて、下のものが上になるなんて、何だかお前さんの言ふことは恐ろしい。』とお三輪は言つて見た。『いえ、さういう時が來てゐるですよ。』と新七は言葉に力を入れて、……(『藤村全集』(10)「食堂」 pp.283-284)

신시치(新七)가 처음부터 식당을 하려 했던 것은 아니다. 대지진 무렵 오미와(お三輪)는 외아들 신시치를 앞세워 대대로 이어져 온 가업인 고다케상점을 맡기고 새 주인이 될 준비를 마친 상황이었다. 상점 또한 선조 때부터 이어져 온 거래처들로 그럭저럭 되고 있는 상황이었다. 그러나 지진 이후 신시치는 고다케상점을 포기하고 새롭게 식당을 차렸다. 모든 것이 폐허가 되고 사회분위기도 사뭇 변화된 상황에서 큰 결심을 하고 식당을 통해 집안을 다시금 일으키려 한다. 그러나 오미와는 선조대대로의 상점을 이대로 포기할 수 없다. 신시치 또한 그런 어머니의 마음을 누구보다 잘 알고 있지만 이미 변해버린 세상에 살아남기 위해서는 이전 것은 모조리 포기해야 하는 상황임을 강하게 말하고 있다. 결국 오미와는 강한 의지를 보이는 아들을 위해 그 뜻을 따르기로 한다. 그런데 주목할 것은 오미와가 고다케상점을 포기한 시점부터 갑자기 그녀에 대한 묘사는 극으로 치닫고 있다는 점이다. 즉, 오미와는 마치 죽음을 얼마 앞둔 초라한 늙은 노인으로 비취지기 시작하고 스스로도 자신을 끝없는 나락으로 추락시키고 있다.

그러자 오미와가 우라와에서 마음에 그리고 온 듯이 차분한 마음으로 돌아갈 곳은 그 근처에서 쉽사리 발견할 수 없었다. (중략) 무심코 오미와는 오래 익숙한 도쿄를 그런 곳에서 발견한 마음이 들어서 비에 씻기고 바람에 바란 듯한 그 격자문에 기대어서 바라보았다. “아, 이것은 염라대왕이야.”(중략) 염라대왕을 모신 당 앞에서 오미와는 그 누런 잎이 떨어져 흩어지는 것을 보며 여기저기 걸으면서 혼자서 말 못할 쓸쓸함을 참아냈다.

その時になつて見ると、お三輪が浦和から胸に描いて來たように、落ちついた心持に歸れるやうな場所は、ちよつとそこいらに見當らなかつた。(중략)思わずお三輪は奮い馴染の東京をそんなところに見つける氣がして、雨にもまれ風にさらされたやうなその格子戸に取りすがつて眺めた。『あ、これはお閻魔さまだ。』(중략)閻魔堂の前から、お三輪はその黄色い葉の落ち散つたところをあちこちと歩いて見て、獨りで物言はぬさびしさを耐へた。(『藤村全集』(10)「食堂」, pp.284-285)

아들의 확고한 의지를 들은 후 어쩔 수 없이 그녀도 상점을 포기해야하는 상황을 받아들이지만 심란하여 바로 도쿄의 숙소로 돌아갈 마음이 서지 않아 근처를 헤매기 시작한다. 옛 화려했던 도회에 남은 향기라도 맡으려 돌아다녀 봤지만 지진으로 모든 것이 이전과 달라져버린 상황이 믿겨지지 않는다. 평생 살았던 도쿄지만 오늘따라 낯 설다. 그런데 무심코 익숙한 느낌이 드는 도쿄를 발견한 것 같아 들어간 곳은 다름 아닌 죽은 이를 관할하는 염라대왕을 모신 사당이였다. 마음이 편한 느낌이 든 곳이 바로 죽어야만 가는 저승이었던 것이다. 이후 오미와는 자신은 늙었으며 죽음이 얼마 남지 않은 노년임을 겸허히 받아들인다.

다음날 아침이 되면 두 번 다시 고다케상점은 볼 날이 오지 않을 것 같은 그 무어라 말할 수 없는 오미와의 쓸쓸함이 뜻밖의 마음으로 변해 갔다.(중략) 그녀도 나이를 먹은 때문인 듯 이상하게도 다른 사람의 마음을 읽었다. 그것은 단지 방문이 아니라 이 세상과의 작별이라는 기분이 들었다. 오미와는 놀랍기도 하고 슬프기도 했다. 지금은 그녀 스스로 그와 마찬가지로 슬며시 친한 사람들에게 작별을 고하고 가려고 했기 때문이다. 내일이 있다면-다시 도쿄를 보러 올 날이 있다면- 그런 생각이 강하게 그녀 가슴에 오갔다.

翌朝になると、二度と小竹の店をみる日は來ないかのやうな、その譬へやうもないお三輪のさびしさが、思ひがけない心持に變つて行つた。(中略)彼女も都市をとつて見て、不思議と他人の心を讀んだ。あれはたゞの訪問でもなくて、この世の暇乞ひであつたのだと気がついた。お三輪は驚きもし、悲しみもした。彼女自身が今は同じやうに、それとなく親しい人達への別れを告げて行かうとしてゐたからである。明日もあらば—また東京を見に來る日もあらば—そんな考へが激しく彼女の胸の中を往來するやうになつた。(『藤村全集』(10)「食堂」, p.286)

「식당」은 처음부터 오미와를 60살을 넘긴 은거노인으로 등장시키고 있지만 적어도 고다케상점을 포기하기 전까지는 이전 가업의 주인으로서 또한 집안의 기둥으로서 당당히 존재하고 있었다. 그러나 이후 그녀 스스로도 자신을 늙음과 죽음을 기다리는 초라한 노인으로서밖에 여기지 않는다는 것을 알 수 있다. 다음날 아침 정해진 일정대로 도쿄를 떠나 우라와로 돌아갈 차비를 하면서 만져진 자신의 머리를 “은거노인답게 머리를 잘라버려서 받은 사내로 돌아온 듯 했다.”(『藤村全集』(10)「食堂」, p.288)고 하며 이제는 늙어버려 자신의 정체성조차 잃어버린 듯이 말하고 있다. 그런데 이러한 상황은 비단 오미와만이 느낀 것은 아니었다. 다음은 「식당」의 결말 부분이다.

식당 사람들에게 작별을 고하고 가는 오미와를 따라서 오리키도 함께 걸어갔다. (중략) “여러 가지 신세졌네. 오게 된다면 또 올게. 오리키, 기다려주게나.” 그 말을 듣자 오리키는 힘이 넘치는 얼굴을 내리깔고 눈가가 붉어질 정도로 울었다.

『廣瀬さんのもよろしく。金さんにもよろしく。』と別れを告げて行くお三輪の後を追つて、お力は一緒に歩いて來た。(中略) 『いろゝお世話さま。來られるやうふあつたら、また來ますよ。お力、待つてゐてお呉れよ。』それを聞くと、お力は精氣の溢れた顔を伏て、眼のふちが紅くなるほど泣いた。(『藤村全集』(10)「食堂」, p.289)

오리키(お力)는 고다케상점 때부터 자신을 따르던 종업원으로서 오미와를 오랫동안 주인어른으로 모셔왔다. 지금은 동업자이자 새로운 주인이라 할 수 있는 식당의 신시치를 보필하고 있지만 주변인들 중 오미와의 노쇠해짐을 누구보다 먼저 알아차린 그녀이다. 떠나는 아침 오미와의 머리를 만져준 이도 오리키였다. 오랜만에 도쿄로 나온 오미와를 옆에서 살뜰히 보필하면서 오리키는 주인다운 당당함을 잃어버리고 힘없고 노쇠해 버린 그녀를 너무나 안타까워하고 있다. 더하여 이런 오미와의 상태로는 어쩌면 오늘이 여주인을 보는 마지막 일 수도 있다는 생각에 늘 긍정적이고 힘이 넘치던 오리키지만 감출 수 없을 정도로 눈물이 나는 것이다. 이러한 결말의 의도를 완전히 간파할 수는 없지만 적어도 오미와 자신을 비롯하여 모든 주변인들이 그녀가 감출 수 없는 ‘노인’이라는 것을 인정하고 있다는 것은 알 수 있다.

이처럼 ‘고다케상점’의 폐점은 이후 오미와가 자신의 늙음을 자각하고 노년을 인정하는 시기를 상징하는 일종의 분기점 역할을 하고 있다.

3.2. 수용의 계기 - 신시치의 독립

「식당」의 주인공은 분명 어머니(오미와)이지만 내용 면에서 아들 신시치가 주도적으로 이끌어가고 있다는 점이 흥미롭다. 이전 집안의 기둥이었고 단단했던 어머니는 처음부터 은거노인으로 등장하고 있으며 아들이 하려는 일을 단지 지켜 볼 뿐으로 작품상 그녀의 입지는 아주 미약하게 그려지고 있다.

“그러니까 저는 이제까지의 고다케같은 안만들 작정이에요. 사람만 분명하면 어떤 사람과도 손을 잡고 옷자락을 걸어붙이고 할 작정입니다. 이제는 이제까지와 같은 도쿄사람으로는 안된다고 생각하고 있습니다.”

『ですから、私はこれまでの小竹ではないつもりですよ。人物さへ確かなら、どんな人とも手を組んで、尻端折りでやるつもりです。私はもう今までのやうな東京の人では駄目だと思つて來ました。』(『藤村全集』(10)「食堂」, p.283-284)

신시치는 지진으로 인해 모든 것이 폐허가 된 상황을 직시하고 기울어진 집안을 일으켜야 한다는 소명감이 있다. 이전 고다케상점에 일하던 사람들은 대지진을 겪으면서 다 떠나버리고 연락조차 없다. 이러한 냉정한 현실 앞에 신시치는 살아남기 위해 뒤편 새롭게 변해야 한다고 생각한다. 따라서 이전 샌님같이 약해빠졌던 자신을 새롭게 무장하고 강한 정신력으로 다시 태어나고자 한다. 어머니가 바라보는 신시치 또한 지진 이전과 달리 강인하고 믿음직스런 아들의 모습이다. 이전 집안의 영화는 물론 모든 것이 불타 없어졌지만 그 상황 속에서도 도쿄에 새롭게 식당을 차리고 재기하려는 훌륭한 자식이다. 비록 가업을 이어주진 않았지만 오미와는 아들 신시치의 새로운 선택과 출발을 믿으려 한다. 이제 집안의 중심은 어머니도 할머니도 아닌 신시치란 사실을 누구보다 잘 알고 있는 것이다.

“그러면 너는 이제 미련이 없니? 그 고다케의 오래된 상점의 포럼에” 그렇게 물어보고 싶은 생각만을 가지고 오미와는 일부러 우라와에서 나온 듯한 모습이였다. 오미와는 눈에 가득 눈물을 머금은 채 바빠 보이는 신시치 곁을

떠나서 혼자서 공원 연꽃 연못 쪽으로 걸어갔다.

『そんなら、お前さんはもう未練はないのかい—あの小竹の古い店の暖簾に。』それを聞いて見たいばかりにお三輪はわざゝ浦和から出て来たやうなものであつた。お三輪は眼に一ばい涙をためながら、いそがしさうな新七の側を離れて、独りで公園の蓮池の方へ歩いて行つた。(『藤村全集』(10)「食堂」, p.284)

하지만 오미와는 마지막까지 집안 대대로의 가업에 미련이 남는다. 어렵더라도 신시치가 고다케상점에 남아 이전의 영화를 되돌렸으면 하는 바람도 있다. 따라서 도쿄로 오기 전부터 마음속으로 이전 가업에 관해 아들에게 몇 번이나 외치고 싶었지만 이미 결심이 굳어버린 신시치 앞에서 아무 말도 하지 못한 채 물러나 쓸쓸히 흐느끼고 있다. 이후 어머니는 끝까지 아무런 주장도 펼치지 못하고 도쿄를 떠나 우라와로 돌아가는 것으로 작품은 마무리 되고 있다. 결국 성장한 아들의 선택에 대해 더 이상의 간섭은 소용이 없다는 것을 자각하게 된 것이다.

하지만 신시치에게 있어 고다케상점은 결코 배타적 공간이 아니다. 상점은 자신이 식당을 차리고 새롭게 출발하기 전까지 마음의 터전이었고 준비 기간이었다. 뿐만 아니라 이전까지 상점의 새로운 주인이 되기 위해 어머니로부터 장사의 노하우나 상점운영에 대한 전반적인 것을 배워왔던 그였다. 즉, ‘신시치의 식당’은 어느 덧 성장한 자식이 부모의 곁에서 떠나는 ‘독립 공간’이라고 할 수 있다.

이처럼 「식당」은 애초부터 신시치같은 자아가 강하고 독립한 장성한 자식을 등장시킴으로써 프랑스체류 이후 처음으로 부모와 자식이 분리되는 상황을 보이는 작품이다.¹⁴⁾ 앞서 「폭풍우」에서 아버지가 현실적으로 찾아온 늙음을 강하게 거부한 이유는 결코 자신의 안위가 아닌 보살핌이 절대적으로 필요한 어린 자식에 대한 책임감 때문이었음을 살펴보았다. 즉, 부모는 늙었지만 늙어서는 안 되는 아이러니컬한 상황이었다. 그러나 「식당」의 자식은 이미 장성

14) 도손은 1916년 프랑스에서 귀국하자마자 이전 자신의 과오로 흩어져있던 어린 자식들을 모으고 가족을 재구성했다. 1917년 「어린이에게(幼きものに)」를 시작으로 이후 1920년대 작품들은 책임 있는 부모로써 강한 가족의 결속력과 양육의식을 보이고 있는 것이 대부분으로 이 시기 도손의 의식을 엿볼 수 있다. 천선미(2018) 「『어린이에게(幼きものに)』론-충실한 부모로써의 출발-」 『일어일문학연구』(106), 한국일어일문학회, pp.149-166.

하여 독립한 상태이며 또한 누구의 도움 없이도 확고한 의지로 자신의 삶을 새롭게 개척해나가고자 하는 강한 정신력의 소유자이다. 요컨대 자식은 더 이상 부모의 보살핌이 필요 없으므로 「식당」의 부모는 「폭풍우」처럼 자기최면을 걸면서까지 찾아온 노년을 거부할 이유가 없어진 것이다. 그러므로 자식의 독립을 겉혀히 받아들인 이후 어머니는 자신의 늙음과 초라함 그리고 죽음의 심정까지도 감추지 않고 있는 그대로 표현하고 있는 연유를 충분히 이해할 수 있을 것이다.

이처럼 「식당」의 어머니는 장성한 자식의 독립을 계기로 내면으로부터도 자신의 노년을 인정하고 이것을 겉혀히 받아들였음을 알 수 있다. 이것은 실제 도손의 당시 삶의 투영으로도 볼 수 있다.¹⁵⁾ 요컨대 도손이 자신의 노년을 완전히 수용한 시기는 자식이 성장하여 부모의 슬하를 떠나는 독립의 시기인 것이다.

4. 새로운 노년의 세계

「식당」에서 보인 ‘노년의 수용’은 이듬해 「분배(分配)」(1927)에서 더욱 확실하게 드러나고 있다.

결핍하면 우리 집에서는 둘째도 나가고 막내딸도 나가고 할멈까지도 외출해서 오래 살아 익숙해진 집이 마치 텅빈 듯한 일도 있었다. 그럴 때면 나는 누가 있는지 없는지 알 수 없을 정도로 잠잠하게 지냈다. 내 앞에는 아직 얼마 들여다보지 못한 노년의 세계가 기다리고 있었다. 나는 여기까지 데리고 온 네 자식들을 위해 무엇인가 각자 도움이 될 날이 오리라고 생각하고 긴 여행 도중의 길가에 생각지 않은 수입을 살짝 남겨놓고 가려고 했다.

どうかすると私の家では、次郎も留守、末子も留守、婆やまでも留守で、住み慣れた屋根の下はまるでからつぼのやうになることもある。さういふ時にかぎつて、わたしはみるかゝるなにか分からないほどひっそりと暮らした。私の前にはまだいくらも覗いて見ない老年の世界が

15) 「식당」을 쓸 무렵은 도손 개인의 상황과 일치한다고 볼 수 있다. 즉, 은거노인인 어머니는 곧 아버지인 자신의 투영이다. 당시 아이들은 거의 장성하여 독립하거나 자립을 앞두고 있는 상태였으며 자신도 이 시기에 노년에 대한 심경을 자주 토로하고 있었다.

待つてみた。私はこゝまで連れて來た四人の子供等のため、何かそれゝ役に立つ日も來たようと考へて、長い旅の途中の道ばたに、思ひがけない収入をそつと残して置いて行かうとした。(『藤村全集』(10)「分配」, p.325)

엔뎀으로 인한 뜻밖의 인세 수입을 자식에게 나눠주고자 하는 이 작품은 곳곳에 장성한 자식들에 대한 언급을 하고 있다. 이미 큰 아들은 귀촌하였고 나머지 두 아들도 독립을 앞두고 있다. 영원히 아이일 것 같은 막내딸도 장성하여 외출이 잦다. 이러한 상황은 이미 익숙하며 담담히 받아들였다는 것을 알 수 있다. 이전 「식당」에서 자식의 독립을 안타까워하고 힘들게 봐 준 것과 다른 분위기이다. 더 나아가 아버지는 자식의 삶과는 별도로 ‘자신의 노년의 세계’가 있음을 긍정적으로 말하고 있다. “아직 얼마 들여다보지 못한 노년의 세계”라는 의미는 이미 노년을 수용했고 나름 설계한 세계에 막 발을 디딘 과정으로 해석할 수 있다. 즉, 「분배」는 「식당」 이후 이미 ‘노년의 세계’에 들어와 있는 아버지가 갑자기 생긴 수입을 각자의 인생을 걸어갈 자식들에게 긴 여행에 필요한 얼마간의 여비를 주기 위해 잠깐 ‘그들의 세계’에 들리는 상황인 것이다.

이처럼 「식당」 이후 도손은 노년을 수용하고 이후의 삶을 새로운 가치관을 가지고 당당히 걸어가고 있음을 알 수 있다. 실제의 행보도 자식 중심이 아닌 개인적인 삶에 충실한 모습을 보이고 있다. 이듬해(1928) 시즈코(静子)와 재혼하면서 새로운 삶의 출발을 시작하였고, 몇 년 후 19년간 자식들과 함께 살던 이이쿠라(飯倉)의 집을 떠나 몇 개월 간 외유를 하기도 하였다.¹⁶⁾ 야마시로 시즈카(山室 静)가 “「폭풍우」 이후에는 이듬해에 걸쳐 「식당」 「분배」 두 작품을 썼을 뿐으로 「동트기 전(夜明け前)」, 「동방의 문(東方の門)」의 대작에 전력을 기울이고 있다……”¹⁷⁾고 했듯이 작품에도 자식과 부모의 관계가 더 이상 보이지 않는다. 이전까지 자식과의 내부적 삶에 집중되었던 문학적 에너지가 밖으로 분출되기 시작하면서 이후 광범위한 시야를 보이고 있는 대작들을 선보일 수 있었던 것은 아닐까 한다. 뿐만 아니라 이후의 동화집 『지카라모치(力餅)』(1940)의 경우는 도손이 처음으로 자신과 자식의 안위를 벗어나 당시

16) 도손은 1936년 제14회 국제펜클럽대회 참가를 위해 7월 부인을 동반하고 약 6개월에 걸친 제2의 외유를 떠났다. 주최도시인 남미의 부에노스 아이레스를 거쳐 미국과 프랑스 등 유럽을 순회하고 이듬해 1월 귀국하였다.

17) 山室 静(1966)「伸び仕度・嵐--作品論・小説」『国文学解釈と鑑賞』, 至文堂, p.76.

힘든 시기를 살아가던 국민들에게 자신이 걸어왔던 삶의 지혜를 알려주고자 한 작품이었다.¹⁸⁾

이처럼 자식과 분리되면서 시작된 도손의 노년기는 이전보다 확대된 시야와 문학가로써 성숙한 모습을 보이고 있음을 알 수 있다.

6. 나가기

본고는 도손이 노년을 수용하고 있는 작품을 추적하고 이후의 삶과 작품세계도 살펴보았다.

이전까지 도손의 노년을 알리는 작품은 「폭풍우」로 대변되었으나 한창 보살핌이 필요한 어린 자식을 위해 노년을 강하게 거부하고 재생하려하는 모습에서 완전한 수용 단계는 아니었음을 알 수 있었다. 반면 몇 개월 후 발표한 「식당」은 애초 장성하여 독립한 자식을 등장시켜 부모의 품을 떠나는 과정을 그리고 있었다. 그리고 자식의 성장과 독립을 인정한 이후 부모는 비로소 자신의 늙음과 죽음에 대해 있는 그대로 받아들이고 있었다. 결국 도손에게 있어 노년 수용의 시기는 늙음 즉, 현실적이고 외적인 모습이 아니라 자식이 성장하여 독립하는 시기였던 것이다. 따라서 「식당」 이후 도손은 비로소 노년의 세계에 발을 디디고 자식과는 별개로 개인의 충실한 삶을 살기 시작하였음을 알 수 있었다.

청년과 중년기 작품에서 ‘노년’은 늙음에 대한 초라함과 죽음으로 이어지는 두려움으로 표현하는 등 부정적인 것이었다. 그러나 본고를 통하여 실제 도손의 노년은 이전까지 자식과 자신의 내부에 집중되었던 에너지를 밖으로 끄집어내면서 또 다른 자신을 발견하고 「동트기 전(夜明け前)」(1929-35)등의 이전보다 폭넓은 시야를 보이는 대작들을 선보였으며 또한 사회적 지도자로서 대외적인 삶을 살아갔던 긍정적인 것이었음을 알 수 있었다.

18) 천선미(2012) 「『지카라모치(力餅)』 연구」 『일어일문학연구』 (83), 한국일어일문학회, pp.463-464.

【참고문헌】

Text 島崎藤村(1971) 『藤村全集』(10), 筑摩書房.

시마자키 도손·노영희 역(1996) 『폭풍우 외 7편』, 소화출판. pp.92-194.

임태균(2007) 「도손 단편소설에 나타난 ‘노년’의 양상」 『일본문화학보』(34), 한국일본문화학회, p.529.

천선미(2012) 「『지카라모치(力餅)』 연구」 『일어일문학연구』(83), 한국일어일문학회, pp.463-464.

——(2018) 「『어린이에게(幼きものに)』 론-충실한 부모로써의 출발-」 『일어일문학연구』(106), 한국일어일문학회, pp.149-166.

伊東一夫(1982) 『島崎藤村事典』, 明治書院, p.217.

大友英一外 2人(1989) 「昭和文学に描かれた「老い」」 『国文学解釈と鑑賞』, 至文堂, pp.6-21.

川忠彦(1983) 「『嵐』의 位置」 『日本文学研究資料叢書島崎藤村Ⅱ』, 有精堂, pp.236-237.

高橋昌子(1994) 『島崎藤村 遠いまなざし』, 和泉書院, pp.201-202.

中山弘明 1990 「『嵐』의 機能—方法としての〈老い〉」 『早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊』(16), 早稲田大学大学院文学研究所, p.29.

野島正也(2016) 「文学·文芸は『老い』をどのように捉えたか-老年社会学視点から-」 『日本言語正宗白鳥(1926.10)「文芸時評」『中央公論』(『藤村全集』(別卷上)(1971), 筑摩書房, p.280.北文化』(37), 일본언어문화학회, pp.5-12.

山室 静(1966) 「伸び仕度·嵐」 『国文学解釈と鑑賞』, 至文堂, p.9. p.76.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 10.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

島崎藤村の「食堂」論
-老年の收容-

千善美

藤村の老年を知らせる作品は“嵐”(1926)だと言われているが、幼い子供の育児のために老年を強く拒否する姿から完全な受容段階ではなかったことが分かった。一方、数ヶ月後、発表した“食堂”(1926)は始めから成長して独立した子を登場させて親と分離されており、これを通して親は初めて自分の老年を自覚し始めたことが分かった。結局、藤村の老年の受け入れの時期は‘古い’つまり、現実的で外的な姿ではなく、子供が成長して独立する時期だった。

“食堂”の作品以降、藤村は初めて老年の世界に足を踏み入れ、子どもとは別に個人に忠実な生活を暮らし始めた。青年と中年期の作品から‘老年’は、老いることに対する見窄らしきと死につながる恐れで、表現するなど否定的なことだった。しかし、本稿を通じて、実際の藤村の老年は、以前まで子供との内部的生活に集中していたエネルギーを外に引き出しながら、また他の自分を発見して社会的指導者として対外的な人生を生きて行った肯定的なものであったことを知ることができた。

A Study on the “Restaurant” by Shimazaki Tōson
-Acceptance of Old Age-

Chun, Sun-Mi

Although the representative work that informed Tōson’s late years was “Storm”(1926), this work did not show a complete acceptance of old age. Rather, it showed a strong rejection of old age for the sake of young children. On the other hand, “Restaurant”(1926), which was released a few months later, introduced an independent, grown-up child separated from its parents from the beginning. This enabled the parents could begin to realize their old age. In the end, Tōson’s acceptance of old age was not portrayed through a realistic, outward appearance, but rather metaphorically, when his children grew and became independent. After “Restaurant”, Tōson finally began to live a faithful, independent life separated from his children. In his youthful and middle-aged works, ‘old age’ was negative, being described as shabbiness and fear of death. However, through this study, it can be seen that the actual old age of Tōson was a positive one in which he found another self and led his life as a social leader by bringing out the energy concentrated on his internal life with his children.

마쓰모토 세이초[松本清張]연구*

－ 한국관련 작품을 중심으로－

한 기 련**

(e-mail : hanaro@gwnu.ac.kr)

<目次>

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1. 서론 | 2-3 세이초가 본 이토히로부미와 일본의 한국침략 |
| 2. 본론 | 2-4 세이초가 본 고종황제 |
| 2-1 작품속의 실재와 허구 | 2-5 세이초가 본 일본의 식민지 지배 |
| 2-2 세이초의 조선체험 | |
| | 3. 결론 |

キーワード:高宗皇帝(Emperor Kojong), 初代統監の伊藤博文(Hirobumi Ito, the first Japanese resident general in Korea), 日本帝國主義(Japanese Imperialism), 朝鮮侵略(Japanese invasion on Chosun Dynasty), 日本の植民地支配(Japanese Colonial Rule)

1. 서론

마쓰모토 세이초[松本清張: 이하 세이초, 1909. 12. 21 - 1992 .8 .4]는, 한국에서 주로 사회파 추리소설 작가로만 널리 알려져, 세이초의 작가로서의 진면목을 알고 있는 한국인은 많지 않으리라고 생각된다.

세이초는 『일본의 검은 안개 - 모략 조선전쟁 -(日本の黒い霧-謀略朝鮮戦争-)』 (아사히저널[朝日ジャーナル], 1960. 2. 4.), 『반생의 기록(半生の記)』, (문예[文芸], 1963. 8 - 1965. 1), 『북의 시인[北の詩人]』 [별책문예춘추(別冊文芸春秋), 1965. 3], 『통감(統監)』 (별책문예춘추(別冊文芸春秋) 95호, 1966. 3)의 네 작품에서 한국과 관련된 사항을 다루고 있다.

* 이 논문은 2017년도 강릉원주대학교 학술연구조성비 지원에 의하여 수행되었음.

** 강릉원주대학교 일본학과 교수 근대문학

『일본의 검은 안개 - 모략 조선전쟁-』은, 세이초가 관련 신문자료 등의 분석을 통해서 한국전쟁은 미국의 불순한 의도에 의해 일어났다고 하는 세이초 나름의 부정적인 시각에서 정리한 것이다.

한국전쟁을 다룬, 『일본의 검은 안개 - 모략 조선전쟁-』을 제외한 세 작품을 읽어보면, 1905년 을사보호조약의 수개월 전부터 1945년 8월 우리나라가 광복을 맞이하기까지 일본의 한국¹⁾침략과 미군의 점령 하에 있었던 당시 우리나라의 상황에 대한 세이초의 생각을 엿볼 수 있다.

따라서, 이번 논문에서는, 『통감(統監)』과 『북의 시인[北の詩人]』을 중심으로, 작품 속에 그려진 일본의 한국침략과 관련된 역사적 사건과 인물들에 대해 정리해 본다. 이와 함께 역사적 사건과 관련된 인물들에 대한 세이초의 생각과 평가도 함께 다루기로 한다.

2. 본론

2-1 작품 속의 실제와 허구

『통감(統監)』은, 1905년 11월 을사늑약을 전후한 일본의 한국침략 과정을 게이샤인 ‘나’ 곧 ‘코카[光香]’의 눈을 통해 묘사한 세이초의 단편소설이다.

주인공 임화를 화자로 하는 3인칭 시점의 『북의 시인[北の詩人]』과는 달리 『통감(統監)』은 1인칭 관찰자 시점이다. 『북의 시인[北の詩人]』과 마찬가지로 비교적 정확한 역사적 사건과 실존인물을 토대로 하고 있으며, 작품 속에서는 역사적 사건과 허구를 적절히 배합하여 스토리를 전개했다.

이토 히로부미[伊藤博文, 1841.10.14.-1909.10.26., 이하; 이토]는, 1906년 6월 22일 동경에서 출발, 23일 저녁 시모노세키[下関]에서 군함 와이즈미[和泉]에 승선했다. 24일 오전, 부산에 도착하자마자 다시 기차를 타고, 오후 늦게 서울에 도착했다. 다음날인 25일 오후에 고종황제를 알현한 것으로 되어있다.

통감부 문서에 따르면, 한국시정개선에 관한 협의회 제6차 회의는, 6월 25일 오전 10시 20분부터 남산의 통감관사에서 열렸다. 22일에 도쿄를 출발한

1), 세이초는 작품 속에서 조선이라는 용어를 사용하고 있지만, 본고에서는 인용문과 인용문과 관련된 표현을 제외하고 모두 한국어로 용어를 통일했다.

이토가, 24일 오후 늦게 서울에 도착하여, 다음 날 오전에 협의회에 참석하고, 다시 오후에 고종황제(1852 - 1901.1.21: 이하 고종)를 알현하는 것은 당시 66세인 이토가 소화하기에는 힘든 스케줄이었다고 생각된다.

22일에 동경을 출발, 3일 만에 서울에 도착하는 것은 당시의 교통 환경으로 보더라도 불가능했을 것으로 생각된다. 이 소설의 뒷부분에서 내가 동경으로 돌아갈 때에는, 1906년 11월 21일 서울에서 출발하여 8일 뒤인 29일에 동경에 도착했다고 하는 부분으로부터도 미루어 짐작할 수 있을 것이다.

그리고 『통감(統監)』에서는 이토가 1906년 2월부터 4개월 동안 동경에 머무른 것으로 묘사되었지만, 실제로는 1906년 4월부터 2개월간 동경에 체류했다. 이러한 사실은 통감부문서인 ‘한국의 시정개선을 위한 협의회 제6회 회의록’을 보면 알 수 있다²⁾.

『통감(統監)』에서는, 일본군인과 경찰로 왕궁을 포위하여 강제한 을사보호조약에, 극렬하게 반대하던 한규설(韓圭晄)이 회담 중에 갑자기 일어나 황급한 걸음걸이로 회의실을 나가서, 병을 핑계로 회의에 불참한 고종을 알현하려다가 명성황후의 처소로 들어간 것으로 묘사되었다.

하지만, 우리나라에서는 ‘한규설은 고종의 명령이라도 따를 수 없으며 목숨을 걸고서라도 찬성할 수 없다고 끝까지 반대하다가, 이토의 협박과 일본군인과 경찰에 의해 억류되었다³⁾’는 것이 정설이다.

한편, 소설 『통감(統監)』은 1906년 6월 14일, 하루도 여자 없이는 지낼 수 없을 정도로 여성편력이 심하였던 이토가, 게이샤인 나[私]를 서울에 데려가려고 오오이소[大磯]의 집으로 부르면서 시작된다.

이 소설의 등장인물은 나와 나의 주변인물인 양어머니를 제외하고는 모두 실존인물이다. 『통감(統監)』속에서, 역사적 등장인물들과 일부 내용들이 날짜와 시간이 일치하지 않는 등 실제와 다른 부분이 있으며, 화자가 가공의

2) 출처:국사편찬위원회한국사데이터베이스 주한일본공사관&통감부문서 (6)韓国ノ施政改善ニ関スル協議會第六回會議録

http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=jh&types=r&synonym=off&chineseChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=jh_091r_0060_0060&position=-1

3) 출처:국사편찬위원회한국사데이터베이스 근대사연표

http://db.history.go.kr/item/level.do?sort=levelId&dir=ASC&start=1&limit=20&page=1&pre_page=1&setId=-1&prevPage=0&prevLimit=&itemId=tcmd&types=&synonym=off&chineseChar=on&brokerPagingInfo=&levelId=tcmd_1905_11_17_0020&position=-1

인물이라 할지라도, 『통감(統監)』에 묘사된 역사적 사건은 사실에 입각하여 쓰였다고 보아도 좋을 것이다. 그 이유는 아래와 같다.

1905년 11월 17일, 일본의 강압 하에 어전회의가 열려 을사늑약(제2차 한일협약)이 체결된 것은 사실이다. 일부 개인의 행적에 관한 묘사가 다르지만, 역사적 사건은 역사적 기록과 소설의 내용이 일치하기 때문이다.

그리고 독자들의 이해를 돕기 위해, 세이초는 『통감(統監)』 속에서, 주를 사용하여 역사적 사건에 대해 보충 설명했다. 이는 그가 이 소설을 쓰기 위해 역사적 사건과 관련된 자료를 수집했다는 사실을 방증하는 것이다.

한편, 작가와 1인칭 화자와의 관계를 고려할 때, 작품속의 화자가 여자일지라도 화자 ‘나’를 세이초라고 보아도 별다른 문제가 없을 것으로 판단된다. 따라서 작품 속에서 ‘나’의 이야기는 세이초의 생각을 대변한 것으로 볼 수 있다.

이와 같은 이유에서, 『통감(統監)』과 『북의 시인[北の詩人]』 속에 묘사된 ‘일본의 한국침략과 일제강점기에 대한 화자의 표현과 생각을 정리함으로써, 일본의 한국침략에 대한 세이초의 생각을 엿볼 수 있을 것이다.

2-2세이초의 조선체험

『반생의 기록(半生の記)』에 의하면, 1934년 6월 34살의 세이초는 후쿠오카의 연대에 재소집된 지 얼마 지나지 않아 서울의 용산으로 건너와 만 2년 동안 군복무를 하게 된다. 용산에 근무할 당시에는 약품 구입을 명목으로 수시로 외출했으며, 1944년에는 전라북도 정읍 소재 사단의 의무병으로 복무했다.

아래의 인용문은 『반생의 기록(半生の記)』에 나오는 문장으로, 같이 소집된 동료와 세이초와의 대화이다. 두 사람의 대화를 통해 재소집되기 전의 일본에서의 세이초의 사회적 위치와 그가 재 소집된 이유를 엿볼 수 있다.

“자네, 교련에는 자주 나갔는가?”라고 물었다. “열심히 나가지 않았다”고 대답하자, “아아, 그래서 끌려 왔구나!”라고 고개를 끄덕이면서 말했다. 이 한마디는 지금도 귓속에 선명하게 남아있다. 교련에 열심히 참석하지 않은 사람을 본보기로 전쟁터로 보낼 수 있을 정도의 일이, 시청의 병사계에게는 가능했던 듯하다.

<松本清張(1974)、『半生の記』、松本清張全集34 文芸春秋、p45>

시청의 일개 직원의 사사로운 결정으로 인해 전쟁터로 끌려갈 정도로, 당시 일본에서 세이초가 차지했던 사회적·경제적 위치는 보잘 것 없었으며 하찮았다. 재소집된 세이초가 배속된 부대는 패전을 거듭하던 뉴기니아의 전쟁터로 끌려갈 예정이었다. 일본해군의 패전으로 인해 뉴기니아로 갈 군함이 없어서, 세이초의 부대는 다행스럽게도 서울에 남게 되었다고 한다.

한국에 주둔할 당시의 생활과 심경을 비교적 상세하게 남겨 놓았는데 아래의 인용문을 보면, 그가 한국과 한국에서의 군생활에 대해, 어떤 생각을 가지고 있었는지 쉽게 알 수 있을 것으로 생각된다.

공용완장을 차고 있었기에, 나는 시내의 어디든 자유롭게 걸을 수 있었다. 일본인 거리보다도 조선인 거주 지역을 배회했다. 종로근처의 뒷골목은 이국적인 기분을 맛보게 해주었다. 다만 그런 거리를 혼자서 배회하고 있으면 헌병들의 검문을 받을 염려는 있었다.

<松本清張(1974)、『半生の記』、松本清張全集34 文芸春秋、p49>

의무병이었던 세이초는 의약품 구입을 명분으로 서울 시내를 이곳저곳 거닐 수 있었다. 그는 일본헌병들의 검문을 받을 우려가 있었음에도 불구하고, 일본인 거리보다도 조선인 거리와 종로 뒷골목을 즐겨 찾았다. 그는 헌책방에서 소설 같은 것을 사올 수도 있었지만 사회가 그리워 군 생활을 견디지 못할 것 같아 사지 않았다고 한다. 아래의 인용문을 보면, 세이초가 어떠한 생각을 가지고 군 생활에 임했는지 짐작할 수 있다.

나는 막사 주위를 태연하게 걸어 보았다. 목책은 낮았다. 바로 앞에는 하얀 옷을 입은 조선인이 걷고 있는 도로가 있었다. 목책과 도로의 사이에는 1미터 50정도의 도랑이 있었다. 그 도랑은 그다지 깊지 않았다. 나도 그 정도는 뛰어 넘을 수 있을 것 같았다. 나는 며칠 동안이나 눈짐작으로 재어 보았다. (중략)

나는 확실한 의도를 가지고 그 장소를 조사하며 돌아본 것은 아니었다. 그러나 그 가능성을 확인한 것만으로도, 어느 정도 위안이 되었다. 만약에, 어떤 조건이 더해졌다면, 나는 탈영병이 되었을지도 몰랐다.

<松本清張(1974)、『半生の記』、松本清張全集34 文芸春秋、p48>

세이초가 근무하고 있던 용산 소재 일본군기지의 담은 높이가 낮았다. 이 담과 조선인들이 확보하던 영외의 도로는 불과 1미터 50센티 정도의 도랑만이 있을 뿐이었다. 당시 세이초는 일본에 있는 가족을 생각하여 탈영을 자제하고 있었다. 하지만, 지금의 생활에 어떤 조건이 추가되었다면 탈영을 감행했을지도 모른다는 표현에서, 비교적 외출이 자유로웠던 세이초이었지만, 군 생활에 근본적으로 적응하지 못했던 사실을 알 수 있다.

세이초는 일본인이면서도, 군대생활은 물론이고 당시 일본의 사회적 분위기에 도 제대로 동화되어 적응하지 못하고 있었다. 오히려 일본사회보다는 피지배 민족인 조선사회에 동질감을 느끼고 있었다. 그 이유는, 세이초가 일본사회에서나 군대에서 비주류에 속하고 있었기 때문이라고 말할 수 있을 것이다.

오늘날 일본에서는, 그가 일본인이기는 하지만, 의무병으로, 군대에서 높은 계급에서 당시의 한국인들을 지배하고 있던 것도 아니며, 눈높이도 비교적 낮았기 때문이라고 설명하기도 한다.⁴⁾

2-3세이초가 본 이토히로부미[伊藤博文]와 일본의 한국침략

이토에 대한 한일양국의 평가는 매우 극단적이다. 이시카와 타쿠보쿠는 일본의 한국침략을 부정적인 시각에서 바라보았다. 그는 이토를 처단한 안중근의사의 심정을 헤아리는 듯한 단가를 남긴 것으로 유명하다.

이러한 타쿠보쿠조차도 이토를 일본의 위대한 정치가로 높이 평가하면서, 그의 죽음을 애도하는 단가를 남긴 사실과, 이토의 초상화가 일본에서 천엔권에 실렸었다는 사실만을 보더라도, 이토의 평가와 관련된 한일양국의 입장 차이에 대해, 더 이상의 설명은 필요로 하지 않을 것이다.

통감인 이토님이나, 야마가타[山県]님이나 자신들이 메이지유신의 지사라는 것에 상당한 자부심을 가지고 계십니다. 나라의 위기에 목숨을 걸고 일해 왔다고, 입버릇처럼 말씀하시고 계십니다.

이런 것에 비추어보면, 조선의 방방곡곡에서 일본에 대항하고 있는 폭도도 지사(志士)가 되며, 하물며 조약에 반대하여 약을 먹은 관리들을 임금님께서

4) 島田雅彦·川村湊·宮田稔榮(2011) 「座談会東アジアに向けた清張のまなざし」 『松本清張研究』 [第12号]、北九州市立松本清張記念館、p 11.

후하게 장례를 치러주고, 높은 관직을 내린 것은 당연한 일이라는 생각이 듭니다. 그것은 일본을 위해서는 좋지 않을지도 모르지만, 어떤 나라의 국민도 자신의 나라를 소중히 하지 않는 사람은 없습니다. 특히 보호조약이 조선의 외교권을 전부 일본에게 양도한다는 것이기에, 그렇게 되면 독립국이 아니게 됩니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p290~291>

위의 인용문은 일본의 조선침략에 대한 ‘나’의 생각을 밝힌 것이다. 내용을 간략하게 정리하면, 일본이 조선의 외교권 침탈에 대해 조선의 관리와 백성들이 항거하는 것은 당연하며, 이들의 행동을 높이 사는 임금님의 태도 또한 조선의 입장에서는 당연한 일이다. 결국 외국의 침략으로부터 일본을 지켜 온 메이지유신의 지사들이 다른 나라를 침략한다는 모순된 행동 또한 지적하고 있다고 생각된다.

그리고 세이초는 을사늑약으로 인해, 조선이 외교권을 빼앗김으로써 독립국의 지위를 잃게 된다는 사실을 정확하게 이해하고 있었다는 사실도 알 수 있다.

내가 통감과 단들이 되었을 때 이렇게 말씀드리자, 통감은 쓴웃음을 지으며, 네가 말하는 그대로이다. 하지만, 그런 것들을 허용하게 되면 일본이 언제까지나 조선을 뺏을 수가 없게 된다. 우리들은 일본인이기에 다른 나라에게 약간의 무리한 요구를 하지 않으면 안된다고, 말씀하셨습니다.

통감이 얼떨결에 일본이 조선을 뺏는다고 말씀하셨기에, 나는 아! 역시 그렇구나하고 생각했습니다. 그리고 일본이 조선을 뺏게 된다면, 이제 안심해도 되겠네요. 임금님도 필요 없게 되고, 지금처럼 소동도 일어나지 않겠지요. 라고 말했습니다. 그러자 통감은 당황하여, 아니 뺏는다고까지는 말할 수 없지. 조선은 일본이 뒤를 돌보아 주지 않으면 안된다는 것이다. 마치 어린 게이샤의 뒤를 돌보아 주는 것처럼 이라고 말하고는 웃으시며, 이런 이야기는 다른 사람에게는 하면 안되는 것이라고 주의를 주셨습니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p291>

위의 문장을 통해, 세이초는 이토가 일본의 이익을 위해, 항일운동을 억누르며 조선을 빼앗으려 하는 일본을 비판했다는 것을 알 수 있다. 그리고

일본의 이익을 위해 조선을 침략하면서도 대외적으로는 일본이 조선의 뒤를 돌보아 주기 위한 것이라고, 거짓말을 하는 이토와 일본의 이중성에 대해서도 비판적인 시각을 지니고 있었다는 사실도 알 수 있다.

임금님에게 달려가, 황태자는 미국에서도 일본에서도 돈을 물 쓰듯이 하며 방탕한 생활에 빠져 계시니, 빠른 시일 내에 한국으로 불러들여, 확실하게 감독하지 않으면 안된다고 억지를 부렸다고 합니다. 이것도 통감의 행실을 알고 있는 저 같은 사람이 보면 이상한 이야기입니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p292>

이토가 하루도 여자 없이는 잘 수가 없을 정도로 호색한이었으며, 이러한 사실을 메이지천황도 알고 있었을 정도라고 한다. 작품 속에서, 화자인 ‘나’ 또한 이토가 통감으로 부임하면서 게이샤였던 나를 서울까지 동행한 것으로 설정되었다. 이토의 부인 우메코[梅子]조차도 이토의 호색을 어쩔 수 없이 인정하고 받아들이고 있는 것으로 묘사되어 있다. 그 만큼 그가 여자를 좋아했다는 사실은, 당시는 물론이고 오늘날 일본에서도 널리 알려져 있는 사실이다.

이러한 이토가 고종에게 조선 황태자가 돈을 물 쓰듯이 하면서 방탕한 생활에 빠졌다고 비난하는 그의 이중성을, 세이초는 비판하고 있는 것이다.

오동나무 상자에는 인삼이 들어 있었습니다. 사모님의 손에 들려 있는 하얗게 말라비틀어진 사람 모양의 인삼이, 마치 깡마른 조선국민처럼 보였습니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p313>

작품 속에서 코카는 일본으로 귀국하면서, 이토의 부인 우메코[梅子]에게 인삼을 귀국 선물로 가져왔다. 우메코의 손에 들려있는 하얗게 말라비틀어진 인삼이, 코카의 눈에는 당시의 깡마른 조선국민처럼 보였다는 표현을 통해, 세이초가 일본의 조선침략이 조선인들에게 매우 혹독했었다고 인식하고 있었음을 짐작할 수 있다. 세이초는 일본의 한국침략과정과 식민지 지배와 관련된 역사적 사실을 매우 상세하게 알고 있었으며, 이러한 사실들을

객관적으로 받아들이고 있었다는 것을 알 수 있다.

2-4 세이초가 본 고종

최근에 고종에 대한 평가가 조금씩 바뀌기 시작했지만, 얼마 전까지 일본의 한국침략과정에 적절하게 대응하지 못하여 무능했다는 평가를 받았다. 하지만 『통감』을 보면 세이초의 고종에 대한 평가는 상당히 긍정적이라 할 수 있다. 작품 속에 그려진 고종의 모습과 그에 대한 ‘나[私]’의 생각을 통해, 세이초의 고종에 대한 평가와 그 이유에 대해 알아본다.

임금님은 40여년이라는 긴 세월 동안 복잡한 한국정치의 가운데 있으며 대원군과 명성황후 일족과의 사이에서 벌어지는 술책의 소용돌이 가운데서 부침해왔기 때문에 양심은 피폐되고, 분별력은 약해졌으며, 단지 지독한 독선에 빠져있다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p287>

위의 인용문은, 『통감』 속에서 이토가 나에게 하는 이야기이다. 이토는, 임금님은 오랫동안 과별정치에 시달려 지금은 제대로 된 판단을 하지 못할 정도로 사리 분별력이 없으며 지독한 독선에 빠졌다고, 고종을 폄훼하고 있다.

아래의 첫 번째 인용문은, 하야시[林]공사가, 고종에 대해 이토에게 보고하는 내용이다. 두 번째는 아카이시 헌병사령관과 마루야가, “지금 조선에서 일어나고 있는 항일운동은, 명성황후에게 조종당하는 고종이 뒤에서 부추기고 있으며, 조선인들에게 본보기를 보이기 위해서 철저하게 응징해야 한다”고, 이토에게 보고하는 내용이다.

아무래도 임금님은 일본이 강요한 한국보호조약 때문에 상당히 곤란해 하고 있으며, 어떻게든 조약에서 벗어나려고 안절부절 하고 있다. 그렇지만 실제로는 그 뒤에 왕비가 있어 고종을 조종하고 있다는 것이었습니다. 그리고 임금님은 음모를 잘 꾸미는 사람이기에, 주의해서 임금을 잘 감시하지 않으면 안된다고 말했습니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p286>

그래서 무관심한 듯이 이야기를 듣자니 각지의 폭도는 철저히 토벌하지 않으면 안된다. 지금 일본의 힘을 확실하게 보여 놓지 않으면 조선인은 질리지 않을 것이라고 했습니다. 이어서 수상한 것은 임금님으로, 이번의 폭동도 임금님이 뒤에서 그 사람들을 부추기고 있기 때문이라고 아카이시[明石]헌병사령관과 마루야마[丸山]가 말했습니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p285>

위의 인용문을 읽어보면, 하야시 공사와 아카이시 헌병사령관의 보고는 서로 모순되고 있다는 것을 알 수 있다. 하야시공사의 보고대로 고종이 사리분별력이 없으며 지독한 독선에 빠져 있었다면, 일본에게 외교권을 빼앗긴 일로 곤란해 하지도 않았을 것이며, 아카이시가 보고한 것처럼, 사람들을 부추겨 일본에게 저항하도록 유도하지도 않았을 것이다.

인용문에 따르면, 이토를 비롯하여, 하야시공사, 아카이시 헌병사령관 그리고 마루야마까지 한결같이 고종을 비난하며, 폄훼하고 있다. 하지만 ‘나’는 고종에 대해 이들과 다른 생각을 가지고 있다는 것을, 아래의 인용문을 보면 명백하게 알 수 있다.

그렇지만 통감과 일본의 관헌들은 임금님을 험담하지만, 임금님은 일본의 힘으로부터 어떻게든 벗어나보려고 열심히 노력하는 용기 있는 사람이라고 나는 생각합니다. 통감의 요구를 빈둥빈둥 피하려고 하고 있다지만 그것도 하나의 방편이라고 생각합니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p291>

일본이 하루가 다르게 한국을 압박하여, 결국에는 외교권마저 빼앗아 독립국가로서의 지위를 잃어버렸다. 짐과 신민들은 하늘을 보고 통곡하고 있다. 우리나라에 우호적인 국가들은 한국의 독립을 도와주기 바란다. 그렇게 된다면, 나와 모든 백성들은 만세까지 그 공덕을 기릴 것이다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p301>

고종은 어떻게든 일본의 침략으로부터 벗어나려고 애썼다. 하지만 헤이그 밀사사건 등, 고종의 부단한 노력에도 불구하고, 그의 다양한 시도는 효과를 보지 못했다. 이 작품이 쓰인 당시의 고종에 대한 세간의 평가와는 달리,

고종을 용기 있는 사람으로 세이초는 평가하고 있었다는 것도 알 수 있다.

고종의 모든 노력이 무위로 돌아가고, 결국 강제로 퇴위를 당하게 된 이러한 고종에게 연민의 정을 느끼고, 안타까워하는 ‘나’의 모습을, 아래의 인용문을 통해 엿볼 수 있다.

나는 통감의 그러한 노고보다도 임금님이 가여우셔서, 다른 방에 돌아오자, 나도 모르게 눈물이 흘렀습니다.

<松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p309>

‘나’를 통해, 이토에 의해 강제로 퇴위당한 고종을 안타까워하는 세이초의 심정을 묘사한 것이다. 위의 문장을 통해서도, 일본의 한국침략에 대해, 세이초는, 부정적인 생각과 비판적인 태도를 가지고 있었다는 것을 알 수 있다.

당시 이완용과 송병준은 앞장서서 고종의 퇴위를 주장했다. 송병준은 고종이 헤이그 밀사사건을 비롯하여, 모두 15회에 걸쳐 일본을 배신한 증거를 가지고 있다고 말하며, 고종에게 “일본으로 건너가 메이지천황에게 사죄를 하거나, 일본군 하세가와[長谷川] 대장의 군문에 나아가 사죄하라고까지 고종을 압박했다5)”고 한다.

이토가 조선을 빼앗으려고(統監が思わず口をすべらして朝鮮を取るといわれたので)6) 힘쓰는 모습보다도, 일본의 침략으로부터 한국을 지키기 위해 애쓰는 고종에게 연민의 정을 느끼고 있는 ‘나’의 모습을 통해, 고종에 대한 세이초의 평가와 생각을 엿볼 수 있다.

이러한 세이초에 대해, “세이초의 이웃나라에 대한 스탠스, 바라보는 시각은 일본문학사 중에서 상당히 특이한 것이 아닌가 하는 생각에서, 재평가해야 할 것으로 생각한다”는 의견도 나오고 있다.7)

2-5 세이초가 본 일본의 식민지 지배

5) 尹炳奭(1984.1) 『대한제국의 종말』 한국사 19, 국사편찬위원회, p153.

6) 松本清張(1974)、『統監』、松本清張全集38文芸春秋、p291

7) 島田雅彦·川村湊·宮田稔榮(2011) 「座談会東アジアに向けた清張のまなざし」 『松本清張研究』 [第12号]、北九州市立松本清張記念館、p9.

『북의 시인[北の詩人]』은 1962년 1월부터 다음해 3월까지 일본의 「중앙공론(中央公論)」에 연재되었다. 세이초는 광복 직후인 1945년 10월부터 1953년 8월 임화(林和: 본명 林仁植)의 죽음까지 정확한 자료에 근거해서 이 소설을 썼다고 한다.

『북의 시인』 속에 나타난 일제의 식민 통치와 관련된 아래의 인용문을 보면, 세이초가 일제의 한국 식민지배에 대해 어떻게 인식하고 이를 받아 들였나⁸⁾를 쉽게 알 수 있을 것이다.

유치장 앞을, 간수에게 양어깨를 부축 받으며 지나가는 너털너털해진 사람을 보자, 임화는 얼굴을 가리고 싶어졌다. 하룻밤동안, 고통에 찬 신음 소리가 귀를 떠나지 않았다. 조용해진 다음 간수의 발소리가 다가오고, 한참 뒤에 의사가 달려간다. 드디어 유치인의 눈을 피해 시체가 실려 나간다. 유치인은 그리는 동안에 임시로 산책을 위해 옥상으로 끌려 나간다. 처음에는, 옥상에서 신선한 공기를 마시게 해주는 이유를 임화는 알지 못했다. 생각지도 못한 배려라고 생각하고 있었던 것이다.

<松本清張(1973)、『北の詩人』、松本清張全集17 文芸春秋、p51>

위의 인용문은, 『북의 시인』 속에서 임화가 유치장에서 경험한 것을 회상하는 형식으로 일제 강점기 하에서의 유치장의 상황을 표현한 부분이다. 당시 유치장에서는 무자비한 고문이 행해졌으며, 고문으로 인해 사망한 사람들이 종종 있었다는 사실을 작품 속의 임화를 통해 세이초는 이야기하고 있다. 유치인들의 눈을 피해 시체를 운반하는 방법까지도 구체적으로 묘사하고 있는 것을 보면, 이러한 유치장의 실상을 세이초가 정확하고 상세하게 파악하고 있었으며, 이를 객관적 사실로 받아들였다는 것을 알 수 있다⁹⁾.

일본제국주의가 거침없이 세계전쟁을 일으킨 것이다. 우선 1931년에 만주침략을 개시하여, 중국에 대해 한층 대규모의 약탈전쟁을 일으켜, 모든 종류의 진보적인 운동과 진보적 문학에 대한 보다 가혹한 압박에 착수했다. 실로 이때부터 조선민족의 희생을 토대로 침략전쟁을 성취하고자 하는

8) 세이초가 본 일본의 식민지 지배에 대해서는, 한기련(2012) 『북의 시인』 연구(일본언어문화 제22집, 일본언어문화학회, pp673-691)에서 비교적 자세하게 다루었기에 본고에서는 간략하게 정리했다.

9) 한기련(2012) 『북의 시인』 연구, 일본언어문화 제22집, 일본언어문화학회, pp687-688

일본제국주의의 야망은 노골적으로 조선반도에서 실행되었고, 민족 생활은 지금까지 경험하지 못한 어려움 속으로 빠져 들었던 것이다.

<松本清張(1973)、『北の詩人』、松本清張全集17 文芸春秋、p23>

위의 문장을 통해, 세이초는 일제가 일으킨 모든 전쟁이 침략전쟁이자 약탈을 위한 전쟁이었으며, 그 전쟁은 당시 우리 민족의 희생을 토대로 이루어졌으며 그로 인해 우리 민족은 지금까지 경험한 적이 없는 고통과 어려움을 겪었다고 말하며 이를 받아들이고 있다.

해방되었을 때, 조선인민이 얼마나 기뻐했었는가? 노예의 생활, 불길한 악몽, 암흑의 조선, 그 모든 것이 한꺼번에 사라진 것입니다. 자신의 손으로 자신의 운명을 개척할 수 있는 가능성이 있는 생활이 주어진 것입니다. 굴욕적으로 깃뻐힌 조선은 꿈처럼 사라졌습니다. 우리들은 잃어버린 모국어를 자유롭게 사용할 수 있게 되었습니다. 빼앗긴 성을 자신의 손에 되찾았습니다. 조선의 문화를 파괴한 일제의 지배자들을 쫓아낼 수 있었습니다. 친일파 암살명부가 만들어지기도 한 것은 그 때문입니다. 이 열광적인 기쁨은, 마침내 조선이 독립되었기 때문입니다.

<松本清張(1973)、『北の詩人』、松本清張全集17 文芸春秋、p17>

일제는 강점기간 동안 우리나라에서 우리말을 금지하고, 성을 금지하는 등 고유문화를 파괴하는 지배정책을 취했다. 식민 지배를 받는 동안 조선은 암흑이었으며, 조선백성은 노예와 같은 생활을 강요당했다. 위의 인용문으로부터 세이초는 이 모든 내용을 그대로 역사적 사실로 인정하고 받아들이고 있었다는 것을 알 수 있다.

세이초는, 일제강점기에 대해 일본인으로서의 보기 드물게 피해자의 입장에서 역사적 사실을 토대로 객관적인 평가를 하고 있다. 세이초는 일제강점기동안 일제의 식민지 정책의 내용과 그 변화과정은 물론 그 목적 나아가 구체적인 탄압방법까지도 비교적 소상하게 파악하고 있었다.

3. 결론

지금까지 살펴 본 내용을 아래와 같이 정리할 수 있다.

첫째로, 일제의 한국침략과정과 일제강점기를 바라보는 세이초의 평가는 객관적인 입장을 취하고 있다고 할 수 있을 것이다.

둘째로, 『통감』과 『북의 시인』 속에 그려진 대부분의 사건과 그와 관련된 인물은, 역사적 사실과 그 사건과 관련된 인물과 일치한다. 따라서 『통감』과 『북의 시인』은 실존인물과 역사적 사실을 바탕으로 쓰였다는 것을 알 수 있다.

하지만 『통감』속에서 참정대신 한규설 등과 관련된 중요한 일부 내용들이 역사적 사실과 다르게 묘사되어 있는 부분도 있었다.

셋째로, 세이초는 이토를 중심으로 한 통감부, 이완용과 송병준을 비롯한 한국의 을사오적들의 역할과 그 과정에서 일어난 사건 사고들에 대해 매우 상세하게 알고 있었다.

고종을 무능한 국왕으로 치부하고 있었던 일제와는 달리, “임금님은 일본의 힘을 어떻게든 벗어나보려고 열심히 노력하고 있는 용기 있는 분이라고 나는 생각했습니다.[王様は日本の力を何とか撥ね返そうと一生懸命になっている勇氣のある方だと私は思いました。]”라는 『통감』속에서의 표현으로부터, 세이초는 고종을 상당히 긍정적으로 높게 평가하고 있음을 알 수 있다.

하지만 명성황후를 민비로 부르는 등, 일제가 우리나라를 폄훼하기 위하여 만든 용어를 그대로 사용하고 있는데, 한·일 양국간에 문화적 교류가 거의 이루어지지 않았던 1965년에 소설이 쓰인 사실을 감안하면 세이초가 어떤 의도를 가지고 사용한 것은 아니라고 보아도 좋을 듯하다.

넷째로, 방대한 자료를 수집한 뒤에 창작에 들어가는 세이초의 창작태도가, 한국과 관련된 작품들을 통해서도 확인할 수 있었다. 역사적인 사실에 허구를 가미함으로써, 작품의 극적효과를 높이고 있다고 생각된다.

마지막으로 명성황후 시해사건과 1905년의 을사늑약, 그리고 고종의 퇴위에 이르기까지 모두 이토의 주도하에 일제의 강압에 의해 이루어졌다는 인식을 세이초는 가지고 있었다. 그리고 일제강점기 동안에 이루어진 정책들이 당시의 한국인들에게는 지나치게 가혹한 것들이었으며, 독립 운동가들을 말로 형언할

수 없을 정도의 고문을 가하는 등, 매우 혹독하게 탄압했다는 사실을 작품 속에서 구체적으로 묘사하고 있는 것을 보아, 그는 이러한 것들을 모두 사실로 인식하고 있었다는 것을 알 수 있었다.

세이초가 고통 받는 당시의 한국인들에게 연민의 정을 가지고 있었던 사실을 알 수 있다. 사후에 규슈 고쿠라[小倉]에 세이초기념관이 설립되는 등의 사실로부터, 그가 작가로서도 독자들로부터 사랑을 받고 있을 뿐만 아니라 매우 높은 평가를 받고 있다고 말할 수 있을 것이다.

【참고문헌】

- 마쓰모토 세이초 지음 김병걸 옮김(1987) 『북의 시인 임화』 미래사, pp1-332
한기린(2012) 『북의 시인』 연구, 일본언어문화 제22집, 일본언어문화학회, pp687-688
尹炳奭(1984.1) 『대한제국의 종말』 한국사 19, 국사편찬위원회, p153.
국사편찬위원회 한국사 데이터베이스
주한일본공사관&통감부문서 (6)韓国ノ施政改善ニ関スル協議會第六回會議録
근대사연표
- 松本清張(1973) 『北の詩人』松本清張17 文芸春秋, pp6-190
_____ (1974) 『日本の黒い霧』松本清張30 文芸春秋, pp3-482
_____ (1974) 『半生の記』松本清張38 文芸春秋, pp5-85
_____ (1974) 『統監』松本清張38 文芸春秋, pp277-313
島田雅彦·川村湊·宮田毬榮(2011) 「座談会東アジアに向けた清張のまなざし」 『松本清張研究』
[第12号]、北九州市立松本清張記念館、p9.
現代朝鮮研究会編(1954) 『暴かれた陰謀』駿台社, pp1-148

논문 투고 일자 : 2018. 09. 30.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

松本清張研究
一 韓国と関連のある作品を中心に一

韓基連

本稿は、韓国と関連のある松本清張の作品のかか『日本の黒い霧 - 謀略朝鮮戦争-』をのぞいた作品を中心に、作品の中に描かれた日本の朝鮮侵略と関わった歴史的な事件について考察した研究である。また歴史的な事件と関連した人物たちに対する作家の考えと評価にも触れた。

『統監』と『北の詩人』は、実存人物と歴史的な事実をもとに書かれたことがわかった。また、日本帝国主義者たちの朝鮮侵略過程と植民地時代を見る清張の評価は、客観的な立場をとっていると言えよう。当時の日本帝国主義者たちは高宗皇帝を無能な国王に仕立てていたが、高宗皇帝をかなり肯定的に高く評価している。それから、龐大な資料を集めてから、創作にかかる清張の創作態度が、韓国と関聯のあるこれらの作品を通して確認できたといえよう。

終りに、日本の植民地時代にとられたほとんどの政策が、当時の韓国人たちには苛酷すぎたものであって、酷毒に弾圧したと作品の中で具体的に描写している。が、清張はこれらのことを、すべて事実として受け入れていたことがわかった。

A study on Matumoto-Seicho
-Focusing on his Korean related works-

Han, Ki-Ryoun

This thesis deals with the historical events related to the Japanese invasion of the Chosun Dynasty, which are discussed in Matsumoto-Seicho's four writings dealing with Korea, except 「The Dark mist of Japan - Intrigue of the Chosun War」. This thesis also deals with Seicho's opinions and evaluations of the historical figures related to the events.

In 「Residents - General」 and 「The poet of the North」, most of the events and the characters correspond to actual historical realities.. Unlike the Japanese Government, which regarded Emperor Kojong as an incompetent ruler, Seicho evaluated Emperor Kojong positively, as seen from the historical facts and logic in the stories. . His writings on Korea reveal that Seicho worked diligently to research data before writing a story .

Finally, Seicho explicitly described in his writings that the policies implemented during the Japanese colonial period were unfair and harsh toward Korean people. Furthermore, he concluded that Japan had tortured Korean independence activists cruelly. Considering this, he recognized Japan's oppressive acts as facts.

전흔세대(焼け跡世代) 소년의 전쟁

—오에 겐자부로(大江健三郎)의 『사육(飼育)』을 중심으로—

홍진희*

(e-mail : jhh@kgu.ac.kr)

<目次>

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 들어가며
:전흔세대의 전쟁과 『사육』 | 4. 흑인 병사와의 인간적 유대, 그리고 결별 |
| 2. 포획된 ‘짐승(獸)’으로서의 흑인 병사 | 5. 나가며
:산간마을을 뒤덮는 전쟁의 악취 |
| 3. ‘가축(家畜)’으로 사육되는 흑인 병사 | |

Key Words : 大江健三郎(Kenzaburo Oe)、飼育(Shiiku)、焼け跡世代(Burn-mark generations)、戦争(war)、黒人兵(Black soldier)、獸(beast)

1. 들어가며: 전흔세대의 전쟁과 『사육』

오에 겐자부로(1935-)의 『사육』은 『문학계(文学界)』 1958년 1월호에 발표된 작품으로, 그 해 상반기 아쿠타가와상(芥川賞)을 수상하였다. 오에는 바로 전 해인 1957년에 『사자의 오만(死者の奢り)』으로 아쿠타가와상 후보에 올라 이미 문단의 주목을 받았지만, 명실상부하게 『사육』으로 인해 당시 최연소 수상자로서, 문단의 총아로서 이름을 알리게 된다.

특히 『사육』은 작품의 ‘풍요로운 이미지(豊饒なイメージ)’와 ‘뛰어난 문체(みごとな文体)’를 높이 평가한 에토 준(江藤淳)의 호평으로 유명하다.¹⁾ 소네 히로요시(曾根博義) 역시 은유와 직유로 표현되는 ‘감각적, 생명적 이미지’를 언급하였고,²⁾ 고타마 이츠로(小浜逸郎)는 오에의 사회적·정치적 발언과 행동을 유치한 양심주의로

* 경기대학교 글로벌어문학부 일어일문전공 부교수, 일본근현대문학 전공

1) 江藤淳(1959) 「解説」 『死者の奢り・飼育』、新潮社、p.268

2) 曾根博義(1997) 「『死者の奢り』—「僕」のナラティブ」 『国文学 解釈と教材の研究』(43卷3号)学灯社、pp.27-28

평하하면서도 『사육』이 가지는 신화적 구조를 극찬했다.³⁾ 이 밖에도 국내연구로는, 산간마을의 자연과 아이들을 통해 나타나는 ‘정념(情念)’에 대해 분석한 신지숙과⁴⁾ 산간 마을·읍내·지하창고 등 각각의 공간이 등장인물들에게 끼치는 영향력에 대해 논한 조현구의 논문⁵⁾ 등이 있다.

앞서 언급하였듯이 일본에서의 『사육』 평가는 대체적으로 이미지·문체·비유·신화적 구조 등을 중심으로 이루어져 왔지만, 이러한 기존의 선행연구에 이의(異意)를 제기하는 연구자들의 논문이 있어 흥미를 불러일으킨다. 예를 들면, 무라카미 가즈나오(村上克尚)의 「언어를 잃은 동물(言葉を奪われた動物)」⁶⁾과 다카하시 유키(高橋由貴)의 「화장되는 『서기』의 죽음(火葬される『書記』の死)」⁷⁾이 그에 해당한다. 먼저 무라카미는 『사육』을 ‘동물소설(動物小説)’⁸⁾로 지칭한 후, 이 작품에 대해 정론(定論)으로 평가되어 온 견해, 즉 에토 준의 인간중심적 근대주의사상과 미시마 유키오(三島由紀夫)의 미학적 견해에 의해 흑인이라는 다른 인종과 동물이 인간보다 열등한, 희생되어 마땅한 존재로 평가되어 온 것에 반론을 시사했다. 또한 다카하시의 경우는, 신화적 구조에 중심이 놓여 있던 선행연구에 이의를 제기하고 외진 시골마을 어린이에게까지 전달된 전쟁의 흉수를 기타 등장인물들—주로 읍내의 서기(書記)와 친구인 언청이(兎口)—과 비교해가며 분석하였다.

필자는 무라카미와 다카하시의 견해에 공감하는데, 이러한 공감의 배경에는 에토 준을 위시한 당대 유명 비평가들에 의해 『사육』의 평가가 정론화 되다시피 한 점, 그리고 그러한 평가에는 구성과 문체, 비유 등의 형식적인 부분이

3) 고타마는 『사육』에 대해 다음과 같이 언급하였다. ‘오에의 사회적·정치적 발언과 행동은 역사인식이 결여된 유치한 양심주의 이상의 그 어떤 것도 아니지만, 적어도 이 작품의 문학으로서의 가치만은 아무리 강조해도 부족함이 없을 것이라 생각한다’(小浜逸郎(2000) 「名作と人生 神話の復活; 『飼育』—大江健三郎、『健康保険』(54卷10号)、健康保険組合連合会、p.16)

4) 신지숙(2009) 「오에 겐자부로의 『사육』론—에니즘의 수사법—」 『일본언어문화』(14집) 한국일본언어문화학회, pp.363-384

5) 조현구(2007) 「『飼育』での閉鎖と解放の転倒」 『일본언어문화』(10집), 한국일본언어문화학회, pp.339-359

6) 村上克尚(2009) 「言葉を奪われた動物—大江健三郎『飼育』をめぐる江藤・三島の批評の問題点」 『日本文学』(59卷6号)、日本文学協会、pp.34-43

7) 高橋由貴(2010) 「火葬される『書記』の死—大江健三郎『飼育』における戦争」 『国文学解釈と鑑賞』(75卷9号)、至文堂、pp.131-138

8) 오에가 그의 초기소설에서 인간과 사물, 그리고 감정을 동물로 비유한 것은 하나의 큰 특징이다. 작품 속 동물 비유에 대해 오에는, 이러한 표현이 프랑스 작가이자 저널리스트인 피에르 가스카르(Pierre Gascar; 1916-1997)로부터의 영향이었다고 언급한 바 있다. (大江健三郎(2013) 『大江健三郎 作家自身を語る』、新潮社、p.50)

주로 거론되며 전혼세대⁹⁾의 전쟁 체험과 전후 인식은 간과되었다는 점 때문이다.¹⁰⁾ 실제로 『사육』이 대표적인 ‘전쟁소설’¹¹⁾로 불리면서도 작품에 나타난 전쟁의 의미에 대해 고찰한 논문은 많지 않은데, 이러한 배경에는 전쟁의 주체였던 성인 남성 이외의 사람들—즉 어린이, 여성, 혹은 피폭자, 피식민지인—에 의해 언급된 전쟁은 주변적(周邊的)인 것으로 평가되어왔기 때문이라고 생각된다.

오에의 전작인 『사자의 오만』에는 주인공인 대학생 나(僕)와 수조 속의 사자(死者)가 나누는 상상속의 대화가 다음과 같이 서술되어 있다.

자네는 전쟁 때, 아직 아이였지?

계속 성장하고 있었죠. 오랜 전쟁 동안, 이라고 나는 생각했다. 전쟁이 끝나는 것이 불행한 일상의 유일한 희망인 것 같은 시기에 성장했다. 그리고 그 희망의 징후가 범람하는 속에서 질식해, 나는 죽을 것 같았다. 전쟁이 끝나고 그 시체가 어른들의 위(胃)와 같은 마음속에서 소화되고, 소화불능의 고형물과 점액이 배설되었지만, 나는 그 작업에 참가하지 않았다. 그리고 우리들에게는 매우 애매하게 희망이 사라져버리고 만 것이었다. (『사자의 오만·사육』, p.25)¹²⁾

동경대학 재학시절 발표한 『기묘한 아르바이트(奇妙な仕事)』(1957)와 『사자의 오만』 등에는 대학생이 된 전혼세대 청년의 전후사회 인식과 타자 이해가 그 중심을 이루고 있는데, 청년의 마음 저변에는 어른처럼 소화하거나 배설해 내지 못한 전쟁의 기억이 잠재하고 있음을 추측할 수 있다. 이러한 기억은

9) ‘전혼세대(焼け跡世代)’는 제2차 세계대전 중에 유년기를 보낸 세대로, 일반적으로 1935년에서 1939년 사이에 태어나 전쟁 당시 ‘국민학교(国民学校)’—현재의 소학교—에서 공교육을 받았던 세대를 일컫는 표현이다. 전쟁 중의 군국주의교육과 전후민주주의 교육을 모두 경험하였으며, 노사카 아키유키(野坂昭如; 1930-2015)의 ‘전혼파(焼跡派)’ 발언에서 비롯되었다. (<https://ja.wikipedia.org> ‘焼け跡世代’, 「焼け跡世代2人に聞く 野坂昭如さん・五木寛之さん; 「自分」問い、ひた走る」読売新聞 2000年11月29日字)

10) 이 부분에 대해서는 나카무라 야스유키(中村康行) 역시 지적하고 있는데, 문단 데뷔 당시 오에의 지지자였던 히라노 겐(平野謙)과 에토 준이 오에의 ‘전후민주주의의 사상에 바탕을 둔 전쟁비판’이나 ‘관념’을 배제하고 작품에 드러난 주인공의 ‘서정(抒情)’에만 주목했다는 부분이 이에 해당한다. 그러나 나카무라의 경우 ‘전후민주주의’라는 사상적 프리즘으로만 오에의 문학세계를 분석·평가하였다는 점에서 한계가 있다. (中村康行(1995) 『大江健三郎—文学の軌跡』、新日本出版社、pp.44-45)

11) 고타마 이츠로는 『사육』이 전쟁소설 베스트3에 속할 만큼 뛰어난 작품이라고 언급하였다.(각주3과 동일, p.16) 또한 『사육』은 “THE CATCH and Other War Stories”(講談社、1981)로 영문 번역되어 일본의 대표적인 전쟁소설로 외국에 소개된 바 있다.

12) 『사자의 오만』 및 『사육』의 모든 인용문은 텍스트인 ‘大江健三郎『死者の奢り・飼育』(新潮社、1959)에서 발췌하였다.

작자인 오에로 하여금 어린 시절 자신이 전쟁을 경험했던 고향인 산간마을로 회귀하게 만들었고, 그 결과물로 『사육』은 탄생하게 되었다고 볼 수 있다. 본 연구에서는 ‘포획물처럼 끌려 온 커다란 흑인을 설명할 단어를 찾을 수 없었던(獲物のように連れてこられた大きい黒人を説明する言葉を見つけることができない)’ 주인공 소년의 적군 병사에 대한 인식과 그 변화 과정을 중심으로, 전후세대의 전쟁 인식에 대해 논하고자 한다.

2. 포획된 ‘짐승(獸)’으로서의 흑인 병사

『사육』은 제2차 세계대전 말—1945년 여름으로 짐작되는—을 배경으로, 전투기의 불시착으로 인해 마을사람들에게 포로로 잡혀 온 흑인 병사와 산간마을 소년과의 짧은 동거를 소재로 한 작품이다. 주인공이자 화자인 소년은 대략 초등학교—당시의 ‘국민학교(国民学校)’—고학년으로, 작자인 오에의 자전적 체험이 바탕 되었다면 대략 만10세의 초등학교 5학년 정도로 짐작된다. 소년은 마을아이들과의 놀이를 즐기고, 때로는 친구 언청이와 불필요한 힘겨루기를 하며, 읍내 여자아이에게는 이성적 관심을 받고 싶어 하는 사춘기 소년의 전형적인 모습을 보여준다.

마을 청년들의 부재와 간간히 배달되는 전사통지서 외에 전쟁과는 무관한 것처럼 보이던 산간마을에, 적군의 비행기가 추락하면서 마을은 새로운 국면을 맞이하게 된다. 마을의 남자 어른들은 추락한 비행기의 적군을 생포하기 위해 산을 수색하게 되고, 수색 끝에 한 명의 흑인 병사가 잡혀 온다.

나는 아이들과 무리를 지어 그것을 맞이하기 위해 달리기 시작했고, 어른들에게 둘러싸인 검고 큰 남자를 보았다. 충격과 같은 공포가 나를 흥분하게 만들었다. 어른들은 겨울철 멧돼지 사냥 때와 같이 무겁게 입술을 단단히 다물고는 《포획물》을 둘러싼 채, 마치 슬픈 듯 등을 구부리며 걸어오는 것이었다. 그리고 《포획물》은, 회갈색의 실크로 된 비행복을 입고 잘 닦여진 검은 가죽의 비행용 구두를 신은 대신, 풀색의 상의와 바지를 입고 발에는 무거워 보이는 어울리지 않는 구두를 신고 있었다. 그리고 검게 빛나는 큰 얼굴로 저녁노을이 남은 하늘을 올려다보며, 절뚝거리며 다리를 끌면서 내려온다. 《포획물》의 양쪽 발목에는 멧돼지 털의 쇠사슬이 채워져 있고 그것이 요란스런

소리를 냈다. 《포획물》을 둘러싼 어른들의 행렬을 따라, 우리 아이들도 똑같이 입을 다문 채 무리를 지어 걸어갔다. (p.91)

소년은 어머니의 부재로 인해 아버지와 남동생과만 살고 있었는데, 포수인 아버지는 짐승을 사냥해 그 가죽을 읍내에 팔아 생계를 유지하였다. 그리고 아버지를 비롯한 마을 어른들이 겨울철에 멧돼지 사냥을 한다는 사실에 익숙했던 소년은, 밭에 멧돼지 덫을 한 채 끌려 온 흑인 병사를 일종의 ‘포획물(獲物)’과 같은 존재로 인식한다. 한편 흑인 병사를 자신들의 거처인 창고—과거 양잠 장소로 사용되었던—의 지하(地下倉)에 감금하게 되자, 소년은 아버지에게 그의 신병 처리에 대해 묻는다.

“어떻게 할 거예요, 저 녀석?” 나는 큰 맘 먹고 물었다.

“읍내의 뜻을 알 때까지 기를 거야”

“기른다고요?” 놀라서 나는 말했다. “동물처럼요?”

“저 녀석은 짐승과 다를 바 없어” 라고 무겁게 아버지는 말했다. “온몸에서 소 냄새가 난다니까” (p.95)

소년은 적군인 흑인 병사를 ‘기른다(飼う)’는 아버지의 말에 놀라 ‘동물(動物)’처럼 기르는 것이냐고 되묻는다. 그의 물음에 아버지는 흑인 병사를 ‘짐승(獸)’이라고 지칭하며 그에게서 소 냄새가 난다고 답한다. 여기에서 두 사람이 각각 언급한 ‘동물과 짐승’의 사전적 정의를 살펴보면 다음과 같다.

〈표1〉 동물과 짐승의 정의¹³⁾

명칭	정의
동물 (動物)	① 생물계를 크게 둘로 구분할 경우, 식물에 반대되는 하나의 군(群). ② 인간 이외의 동물. 주로 짐승 종류를 말함.
짐승 (獸)	【けだもの】 또는 【けもの】. ‘털이 있는 것(毛の物)’이라는 뜻 ① 온 몸이 털로 덮인, 네 발로 걷는 포유동물. 특히, 야생 동물. 짐승. ② 인간다운 심성이 없는 사람을 경멸하여 일컫는 말. 비인간. ‘저 녀석은 인간의 털을 쓴 -이다’

흑인 병사를 기르겠다는 아버지의 말에 소년은 막연하게나마 사람이 아닌 존재를 가리키는 ‘동물’을 언급했지만, 아버지는 의도적으로 ‘짐승’이라는 표현

13) 松村明編(2006) 『大辞林』(第3版)、三省堂

을 사용함으로써 단순한 동물과 구분 짓고 있다. 즉 〈표-1〉의 정의에서 볼 수 있듯 야생동물로서의 짐승(獸)이 가지는 야수성, 즉 인간다운 심성이 없음을 강조하고 경멸하고 있는 것이다.

외부 세계인 읍내와 연결된 유일한 통로였던 다리가 홍수로 인해 붕괴됨으로써 외부인은 마을에 진입할 수 없는 상태가 되었다. 그러나 비행기 추락이라는 설정에 의해 흑인 병사는 상공으로부터 낙하산을 통해 지상에 내려오고, 산에서 포로로 잡힌다. 그리고 ‘산에서 잡혀 멧돼지 덩에 채워진 흑인 병사’의 모습은 아버지의 발언과 함께 야수성을 가진 한 마리 짐승으로 소년에게 각인된다.

흑인병사를 짐승이라고 지칭하는 아버지의 발언에 처음에는 당황하던 소년도, 이내 아버지의 말을 수용하고 인간이 아닌 짐승으로서 흑인 병사를 바라보기 시작한다. 이러한 배경에는 소년에 대한 아버지의 영향력을 간과할 수 없는데, 어머니가 없는 소년에게 있어 유일한 보호자인 아버지는 말수가 적고 무뚝뚝하지만 두 아들을 위해 손수 식사를 준비하고 포수로서의 자신의 일을 묵묵히 해내가는 가장의 모습을 보여준다. 그리고 소년은 그러한 아버지를 신뢰하며 자랑스러워하는데, 그에게 있어 아버지는 세상을 바라보는 창(窓)의 역할을 한다고 볼 수 있다. 더욱이 어머니의 부재와 그로 인해 마을 어른들과의 교류가 소원한 상황이었기에—마을내의 사정에 밝은 친구 언청이와의 대조적인 모습을 통해서도 볼 수 있듯—아버지의 가치관은 소년에게 더욱 큰 영향을 주었음을 추측할 수 있다. 물론 아버지가 흑인 병사를 도축할 수 있는 짐승으로 여겼던 것에 반해 소년은 소유, 혹은 교감의 대상으로 받아들였다는 점에서 그 차이가 발생하는데 이 부분에 대해서는 다음 장에서 구체적으로 언급하고자 한다.

3. ‘가축(家畜)’으로 사육되는 흑인 병사

흑인 병사가 포로로 잡히기 전, 소년들은 마을 상공 위를 날아가는 적군 비행기를 발견하게 된다. 집으로 돌아온 후에도 비행기에 관심을 쏟는 동생과 달리, 소년은 친구인 언청이가 놓쳐 버린 새끼 들개(山犬の仔)에 대한 생각으로 마음이 가득하다.

우리들은 언청이와 헤어져, 해가 저무는 저녁 공기 가운데 커다란 짐승과 같이 웅크리고 있는 창고로 뛰어 돌아왔다. 아버지는 어두운 봉당에서 우리들의 식사 준비를 하고 있었다.

“비행기를 봤어요” 라고 동생이 아버지의 등을 향해 외쳤다. “커다란 적군 비행기”

아버지가 신음하는 듯한 소리를 내며 돌아보려하지 않았다. 나는 청소를 위해 아버지의 무거운 엽총을 봉당 나무 벽의 총걸이로부터 꺼내, 동생과 어깨를 부딪쳐가며 어두운 계단을 올라갔다.

“그 개, 아까웠지” 라고 나는 말했다.

“비행기도” 라고 동생이 말했다. (p.84)

소년은 자신과 함께 ‘들개 사냥(山犬狩)’을 가기로 약속했으나 이를 어기고 혼자 새끼 들개를 사냥해 온 언청이 때문에 마음이 상해 있었다. 그리고 언청이가 악전고투 끝에 데려온 들개를 눈앞에서 놓쳐 버리게 되자 아쉬움을 드러내는데, 인용문의 대사에는 이러한 소년의 감정이 관찰된다. 이후 새끼 들개를 향한 이러한 아쉬움과 갈망은, 포획물로 잡혀 온 흑인 병사에게로 자연스럽게 옮겨가게 됨을 알 수 있다. 소년은 자신들이 거주하는 창고 지하에 흑인 병사를 감금하게 된다는 사실을 알게 된 후, 웬지 모를 기대와 흥분에 휩싸이게 된다.

우리들은 《포획물》과 같은 집에 산다, 는 것이 되는 것이다. 다락방에서 귀를 기울인다 해도 지하실의 절규가 결코 들릴 턱이 없겠지만, 흑인 병사가 감금된 지하 창고 위의 침대에 앉아 있을 수 있다는 것은 호사스럽고 모험적인, 우리들에게 있어서 전혀 믿기지 않을 정도의 사실이었다. (중략) 그리고 우리들은 아버지가 무거운 엽총과 피곤함을 떠받든 채 돌아올 것을 기다리면서, 자신들에게 찾아온 생각지도 못한 굉장한 행운에 서로 마주보며 미소 짓는 것이었다. (p.94)

소년은 흑인 병사를 기른다는 아버지의 발언에 처음에는 당혹감을 나타내지만, 이내 ‘별거벗은 상태로 외치고 싶은’ 기쁨에 도취된다. 이는 인용문에 나타난 것처럼, 적군 병사와 동일한 공간에 머물게 된다는 엄청난 모험에 대한 흥분과 기대감에서 비롯되었음을 알 수 있다. 더욱이 소년은 다음날 아버지에게,

흑인 병사를 ‘앞으로도 계속 마을에서 기를 수 없는 것이냐’고 묻는데, 이러한 소년의 태도는 무료한 산간마을의 삶과 전쟁 말기의 침울한 분위기에서 새로운 변화를 고대하는 마을 아이들의 기대감과 유사해 보이지만, 한편으로는 일종의 관계 및 소유에 대한 갈망과 무관하지 않다.

소년의 아버지는 포수라는 직업의 특성상 자주 집을 비웠고, 가사 및 동생을 돌보는 것은 온전히 장남인 그의 몫이었다. 작품에서 소년은 족제비 가죽을 팔러 읍내로 나가는 아버지의 조수 노릇을 하거나, 전투기 굉음과 흑인 병사의 존재로 인해 공포를 느끼는 동생을 다독이고, 또 식사준비를 도맡아 하는 등 다양한 역할을 하고 있다. 전체적인 상황을 볼 때, 10세 남짓한 그가 어머니의 부재와 굶주림¹⁴⁾ 등으로 인해 정서적·신체적 결핍을 겪고 있었음을 유추할 수 있으며, 이러한 결핍은 관계와 소유에 대한 갈망으로 표출되었으리라 짐작된다.

소년의 가족이 거주하는 창고 지하에 흑인 병사가 감금된 후, 소년은 그에게 직접 식사를 가져다주고 그의 배설물을 퇴비장으로 운반하는 역할을 맡게 되면서 말 그대로 흑인 병사를 ‘사육’하게 되고,¹⁵⁾ 그에 대한 특별한 감정을 키워 나가게 된다.

소년은 어른들이 지하 창고를 나가고 난 뒤, 바닥에 쓰러지듯 누워있는 흑인 병사를 발견하고는 그가 어른들에게 폭력을 당했다고 오해하며 분노한다. 그의 눈에 비친 흑인 병사는 ‘마치 두들겨 맞아 때려 눕혀진 가축(打ちのめされ、叩きふせられた家畜)’처럼 보인 것이다. 이렇듯 흑인 병사를 관찰하고 적지 않은 시간을 그와 보내는 사이, 소년의 눈에 그는 ‘유순하고 온순하며 상냥한 동물(柔順でおとなしく、優しい動物)’ 혹은 ‘검고 둔한 짐승(黒い鈍重な獣)’으로 비춰지고, 어느새 온순한 ‘가축(家畜)’과 같은 존재로 인식된다. 여기에서 가축의 사전적 정의를 살펴보면 다음과 같다.

14) 작품에서는 쌀과 보리 같은 식량이 모두 떨어져 아버지가 이웃에게 식량을 빌려 식사 준비를 하는 등, 소년들이 굶주림에 시달리는 장면이 여러 차례 등장한다.

15) 다카하시의 소년이 흑인 병사에게 음식물을 배달하고 배설물을 치우는 행위를, 『기묘한 아르바이트』나 『사자의 오만』에서와 같은 아르바이트 행위의 일환으로 해석하였다. (高橋由貴(2010) 각주7과 동일, pp.132-133)

〈표2〉 ‘가축’의 정의

정의	출처
인간이 생활에 도움을 받기 위해 사육하는 동물. 소·말·닭·양·돼지·개 등.	松村明編(2006) 『大辞林』(第3版)、三省堂
인간에 의해 길들여진 조류 이외의 동물로 고기, 알, 젓, 털, 가죽, 피부 등을 얻기 위한 것과, 노동력을 위해 기르는 동물. 반려동물(애완동물이라고도 함)을 포함하는 경우도 있다.	野口忠編(2010) 『栄養生化学辞典』、朝倉書店
가축이란 인간의 생활에 도움을 주기 위해, 야생동물로부터 유전적으로 개량한 동물이다.(중략) 가축은 이용 목적에 의해 농작용 동물(農用動物 farm animal), 애완동물(愛玩動物 pet animal), 실험용 동물(実験動物 laboratory animal)로 크게 구분할 수 있으나, 협의의 가축으로는 농작용 동물만을 가리키는 경우도 있다.	加藤周一編(1998) 『世界大百科事典』(第2版)、平凡社

이상의 정의들을 종합해보면 ‘가축’이란 인간의 편의를 위해 사육하여 길들인 야생의 동물에서 비롯되었음을 알 수 있다. 작품 속 소년의 경우는 흑인 병사를 처음에는 동물 혹은 짐승과 같은 존재로 수용하다가, 사육이라는 행위와 더불어 차츰 그를 일종의 반려동물—혹은 애완동물—인 가축과 같은 대상으로 인식하고 있음을 알 수 있다. 물론 앞서 언급한 ‘상냥한 동물’이나 ‘온순한 가축’과 같은 표현은 흑인 병사에게 인간 이하의 이미지를 구축시키는 역할을 하고 있으며, 이러한 이미지의 구축은 무라카미를 포함한 선행연구자들이 지적한 바와 같이 탈식민주의(post colonialism)의 비평 대상이 되고 있음을 간과해서는 안 될 것이다.¹⁶⁾

하지만 이러한 인식과 더불어 작품에서 주목하고 싶은 부분은, 소년이 서기(書記)—읍내 사람들 중 유일하게 친밀감을 가지고 교류하던 어른—의 멸시에도 불구하고 흑인 병사에 대한 정보를 얻기 위해 어른들 사이를 비집고 들어가 읍내로부터의 전언을 엿듣는 장면이다. 소년은 이러한 과정에서 ‘자신의 긍지나 자존심에 연연해서는 안 될 때가 있다(自分の誇りや自尊心にかまっていられない時というものがある)’고 생각하며 서기로부터 상처받은 자신의 감정을 제어하는 모습을 보인다. 이처럼 소년에게 있어 흑인 병사는 일반적인 가축의 개념을 뛰

16) 村上克尚(2009) 각주6)과 동일, p.35

어 넘어, 자존심에 상처를 입으면서까지 지켜내야 할 특별한 대상으로 인식되고 있음을 알 수 있다. 그리고 이와 같은 두 사람의 관계는 소통과 감정의 공유를 통해 ‘인간적인 유대(人間的なきずな)’로 발전해 간다.

4. 흑인 병사와의 인간적 유대, 그리고 결별

멧돼지 덫 때문에 생긴 염증으로 고생하는 흑인 병사를 위해 소년과 친구 언청이는 그의 덫을 풀어주게 된다. 그리고 그 과정에서 망가진 멧돼지 덫과 서기의 의족을 흑인 병사가 수리해주면서 그와 소년들은 더욱 친밀한 관계를 맺게 된다. 특히 소년은 자신들과 소통하려고 하는 흑인 병사의 몸짓, 자신들을 향한 그의 눈빛을 바라보며 특별한 감정을 느끼게 되고, 특히 그의 웃는 모습을 보며 인간적인 유대를 경험하게 된다. 급기야 소년들은 멧돼지 덫에서 해방된 그를 지하 창고에서 데리고 나와 지상인 광장(広場)으로 올라오게 되는데, 흑인 병사는 의족을 고쳐준 대가로 서기로부터 담배를 받아 피우고, 그에 대한 답례로 자신이 가지고 있던 파이프를 서기에게 선물한다. 의족 수리 후, 흑인 병사와 서기가 상호간에 담배와 파이프를 교환하는 모습은 성인 남성 사이에서 흔히 볼 수 있는 소소한 교류를 보여주는 장면으로 이해할 수 있겠다.

소년은 흑인 병사와의 교감을 통해 그가 ‘사냥개나 아이들, 나무와 같이 마을 생활의 한 부분이 되어가고 있음(獵犬や子供たちや樹々と同じように、村の生活の一つの成分になろうとしていた)’을 감지한다. 그리고 이러한 흑인 병사의 존재는 마을의 구성원을 넘어 가족의 일원으로 자리 잡게 된다.

흑인 병사는 입술을 둥글게 만 채 새와 같은 소리를 내며, 아버지의 두꺼운 손가락에 의해 건조되기 쉽게 지방이 훑어지며 생기는 가족의 주름들을 보고 있었다. 그리고 나무로 된 벽에 달려진 가족이 손톱처럼 딱딱하게 건조되어, 그곳을 핏빛의 얼룩이 지도상의 철도처럼 달리고 있는 것을 보고 흑인 병사가 감탄할 때, 나와 동생은 아버지의 《기술》을 얼마나 자랑스럽게 여겼던지. 아버지마저 가족에 물을 뿌리는 작업 도중에 흑인 병사에게 호의적인 눈길을 보내기도 했다. 그리고 그때, 아버지의 족제비 처리 기술을 중심으로 나와 동생과 흑인 병사와 아버지는 하나의 가족과 같이 맺어졌다. (pp.122-123, 밑줄 필자)

짐승이라 여겼던 흑인 병사가 몸짓으로 소통을 하고, 웃고, 자신의 감정을 표출해가는 과정을 보며 소년은 그와 인간적인 유대 관계를 맺고 있음에 기쁨을 느낀다. 흑인 병사는 소년에게 있어 점차 친구이자 가족으로 인식되어 갔던 것이다.

그러나 읍내로 흑인 병사를 호송하라는 전언이 마을에 전달된 후, 신변의 위험을 느낀 흑인 병사는 소년을 인질로 삼아 지하 창고로 끌고 가고 그들의 유대관계는 막을 내리게 된다. 흑인 병사는 극도로 흥분하여 지하 창고의 입구를 자신이 수리한 멧돼지 텃으로 단단히 봉쇄하는데, 이러한 모습은 소년에게 있어 그가 마을 어른들에게 끌려 왔을 때의 처음 모습, 즉 ‘이해를 거부하는 검은 야수(理解を拒む黒い野獣)’ 또는 ‘민첩한 짐승(敏捷な獣)’으로 인식된다. 물론 흑인 병사는 눈빛을 통해 소년에 대한 미안함을 표현하나, 인질의 입장에 놓여진 소년은 배신감과 굴욕감에 그를 외면하게 된다.

흑인 병사가 비행기 추락 이후 마을 사람들에게 포로로 잡혀와 죽음을 맞이할 때까지의 이동 장소, 그리고 그에 대한 소년의 인식 변화를 정리하면 다음과 같다.

〈표3〉 흑인 병사의 장소 이동과 소년의 시선 변화

흑인병사의 장소 이동	마을 상공 ⇒ 산 ⇒ 지하 창고 ⇒ 마을 광장 & 집 안(창고) ⇒ 지하 창고
흑인 병사에 대한 소년의 시선 변화	포획물 ⇒ 동물 ⇒ 짐승 ⇒ 가축 ⇒ 인간(친구 혹은 가족) ⇒ 짐승 ⇒ 적

결과적으로 흑인 병사는 소년의 아버지가 가지고 있던 도끼에 의해 두개골이 쪼개지면서 무참히 살해당하고, 흑인의 두개골 위에 놓여있던 소년의 왼팔 역시 도끼에 잘려나가면서 소년은 평생 잊지 못할 전쟁의 상흔을 가지게 된다.

나는 공복에 시달리고 있었지만 산양 젖이 담긴 물병을 든 아버지의 손이 내 입술에 닿자 구역질이 내 몸을 뒤흔들었고, 나는 큰 신음소리를 내며 입을 다물었기에 산양 젖은 목과 가슴에 흘러내렸다. 아버지를 포함한 모든 어른들에 대해 나는 참을 수 없었던 것이다. 으르렁거리며 도끼를 휘둘러 나를 공격한 어른들, 그것은 기괴하고 나의 이해를 거부하며, 구토를 자극한다. 나는 아

버지가 방을 나갈 때까지 계속 신음소리를 냈다. (p.135)

인용문에서의 구역질이나 구토(嘔氣)란 상대에 대한 거부의 표현으로, 이는 아버지를 포함한 마을 어른들, 더불어 읍내에서 유일하게 소통하던 서기에게까지 전달된다. 그리고 흑인 병사의 상실과 어른들에 대한 분노로 인해 소년은 아버지의 손길조차 거부하게 된다.

인용문에 등장하는 아버지의 도구인 도끼(鉞)는 엽총(獵銃), 멧돼지 덫(猪罟)과 함께 살생(殺生)을 상징하는 것으로, 그 중에서도 아버지가 나와 흑인 병사에게 휘두른 ‘도끼(鉞)’는 일반적으로 볼 수 있는 ‘손도끼(斧)’가 아닌 동물을 해부하는 용도로 사용되는 작두의 형태와 흡사한 것임을 유추할 수 있다.¹⁷⁾ 에토 준은 아버지가 휘두른 도끼가 ‘작자의 유아성(infantilism)으로부터의 결별 의지를 나타내는 상징’¹⁸⁾이라고 해석했지만, 인용문에서 볼 수 있듯이 아버지의 도끼는 나에게 이해 불가능한 기괴한 무기에 불과했다. 결국 소년이 의지하고 존경했던 아버지는 도끼라는 도구를 통해 적군 병사를 짐승처럼 도축하게 되고, 이는 소년에게 있어 아버지에 대한 신뢰와 긍지 역시 단절시키고 있음을 알 수 있다. 흑인 병사를 짐승이라 지칭하며 차별했던 아버지를 비롯한 마을 어른들은 스스로가 짐승으로 돌변하여 적군인 흑인을 살해하게 되고, 소년의 눈에 그들은 ‘괴물(怪物)’처럼 변해간다.¹⁹⁾

작품에서 친구인 언칭이는 ‘검둥이(黒んぼ)’는 결코 적군이 될 수 없다고 단언하며 그를 대등한 인간으로 대우하지 않았으며, 아버지는 거리낌 없이 적군

17) ‘鉞(なた)’의 정의를 살펴보면, ‘임업이나 수렵 등의 산림에서 일하는 사람들의 용도에 적합한 날붙이 종류이다. 나뭇가지 베기, 나무 깎기, 잡초 베기, 잡초 제거, 동물 해체(動物解体) 등의 목적으로 사용된다’는 내용을 통해 알 수 있듯이, 포수인 아버지에 의해 동물을 해부하는 용도로 쓰였음을 유추할 수 있다.(<https://ja.wikipedia.org> ‘鉞’)

18) ‘말하자면 이 작품에서 “전쟁”과 주인공의 내적인 성장이 푸가로 연주되며, 그것이 아버지의 도끼에 의한 번뜩임으로 합치했다고 말할 수 있을 것이다. 윤리적으로 말하자면, 흑인 병사를 도살하고 “나”의 손가락을 부순 도끼는 작자의 유아 행위(infantilism)로부터의 결별 의지를 상징하고 있는 것이다.’(江藤淳(1959) 「解説」 『死者の奢り・飼育』、新潮社、p.269)

19) 마을 어른들에 의해 흑인 병사가 살해되는 장면은 실제 전쟁 중에 벌어진 사건들을 소재로 하고 있음을 알 수 있다. 요시다 유타카는 제2차 세계대전 당시 일본의 포로정책에 대한 비인도성에 대해 다음과 같이 언급하였다. ‘포로수용소에서의 미군 포로에 대한 학대는 심각한 문제였고, 일본 본토에 대한 미국의 공습이 시작되자 격추당해 낙하산으로 착륙한 미군을 민간인이 살육하는 사건이 다발적으로 발생했다’(吉田裕(2007) 『アジア・太平洋戦争』、岩波書店、p.175)

인 흑인 병사를 짐승으로 지칭하고 그를 사육한다는 표현을 사용하였다. 이들의 발언을 통해 도회지와 차단된 산간마을에까지 침투한 ‘프로파간다(propaganda)’, 즉 태평양전쟁 이후 적군인 미군과 영국군을 ‘귀축미영(鬼畜米英)’이라 칭하던 군국주의적 가치관과 흑인에 대한 인종차별이 반영되어 있음을 알 수 있다. 결과적으로 흑인 병사와의 동거를 통해 그와 인간적 교감을 나누게 되었던 소년은, 적군 호송이라는 현(県)의 명령 앞에 흑인 병사는 물론 아버지를 비롯한 모든 어른들과의 유대 관계를 상실하게 된다.

5. 나가며: 산간마을을 뒤덮는 전쟁의 악취

『사육』은 다음과 같은 문장으로 시작된다.

나와 동생은 계곡 아래 가설 화장터, 무성한 관목을 쳐낸 후 얇게 흙을 파냈을 뿐인 나무의 진과 재 냄새가 나는 부드러운 표면을 나무토막으로 휘젓고 있었다. (중략) 우리들은 《채집》을 포기하고, 무성한 여름 풀숲 깊은 곳으로 나무토막을 내던지고는 어깨동무를 하고 마을 셋길을 올라갔다. 우리들은 화장터로 시체의 뺏조각, 가슴에 장식할 기장(記章)으로 사용할 수 있는 좋은 모양의 뼈를 구하러 왔던 것이었지만, 마을 아이들이 이미 그것을 다 채집해갔기 때문에 우리들은 아무것도 손에 넣을 수 없었다. 나는 초등학교 한 패 중 누군가를 때려눕히고 그것을 빼앗지 않으면 안 될 것이다. (p.80)

연일 계속된 장마—‘집요하게 오랜 기간 비가 내려 홍수를 일상적인 것으로 만든 장마(執拗に長い間降)つづけ洪水を日常的にした梅雨’—로 인해 읍내와 연결된 다리가 끊겨, 마을에서는 가설 화장터를 만들어 사자(死者)를 화장하게 된다. 적군의 공습으로 직접적인 피해를 입는 도시와 달리 소년이 거주하는 산간마을은 평온한 일상을 보내는 것처럼 보였지만, 전쟁 말기의 마을에서도 질병이나 기아와 같은 다양한 형태로 사람들이 목숨을 잃어 갔음을 추측할 수 있다.²⁰⁾ 인용문에는 이러한 인간의 죽음 앞에 무방비로 노출되고 있는 소년의

20) 태평양전쟁에 의해 일본 역시 극심한 식량부족을 겪게 되면서 특히 결핵에 의한 사망률이 높아졌는데, 1930년대 후반 한 해 14만 명이었던 결핵 사망자는 1943년에는 17만 명에 이르게 된다.(이안부루마 저, 최은봉 역(2014) 『근대일본』, 을유문화사, p.142)

모습이 묘사되고 있는데, 그는 불현듯 이틀 전 목격했던 여성의 시신을 떠올리고는 도망치듯 화장터를 벗어나려 한다. 그러나 공포심에 휩싸여 ‘사자의 악취(死者の臭い)’로부터 도망쳤던 소년은, 흑인 병사와의 만남과 그의 죽음을 통해 자신이 결국 전쟁의 악취로부터 벗어날 수 없게 됨을 예감하여 작품은 막을 내린다.

나는 두려웠다. 동생의 가느다란 팔을 꼭 붙잡고 나는 발걸음을 서둘렀다. 장수풍뎡이의 일종이 우리들의 딱딱해진 손가락에 들러붙어 흘러대는 끈적거리는 분비액처럼, 사자(死者)들의 악취가 콧구멍으로 회복되어 오는 것 같았다. (p.80)

골짜기 아래로부터 망치 소리가 계속해서 울려 퍼지고 있었다. 골짜기의 울창함에 들쭉되어 가려진 눈에는 보이지 않는 수목의 거대한 밑가지처럼, 죽은 외국 병사의 악취는 그대로 고착하려 하고 있었다. (p.141)

일반적으로 인간의 감각은 시상(視床)이라는 중간 과정을 거쳐 대뇌의 전문 영역으로 전달된 후 인지되는데, 후각만은 그러한 중간과정 없이 직접 감정과 기억을 담당하는 뇌로 전달된다고 한다. 즉 이러한 사실은, 특정 냄새가 의식적인 사고 없이 빠르고 확실하게 기억을 재생시킴을 의미한다.²¹⁾ 가설 화장터로부터 사자의 악취를 피해 도망쳐 나온 소년은, 결국 읍내의 명령으로 인해 화장조차 할 수 없게 된 흑인 병사의 시신이 썩는 악취로 인해 잊을 수 없는 전쟁의 기억을 간직하게 된다.

『사육』은 제2차 세계대전 말을 시간적 배경으로, 산간마을을 공간적 배경으로 묘사한 오에의 첫 번째 소설이다. 앞서 언급하였듯이 이 작품은 신화적 구조와 함께 상징·비유·문체를 중심으로 오랫동안 평가되어왔으나, 이러한 구조와 다양한 수사표현은 전후세대의 전쟁인식을 상징적으로 표현하기 위한 하나의 장치라고 볼 수 있다. 더불어 『사육』을 단순히 서정성 있는 목가적 이야기로 보기는 어려우며, 적군인 흑인 병사를 바라보는 소년의 인식 변화—즉, ‘포획물 ⇒ 짐승 ⇒ 가축 ⇒ 친구 혹은 가족 ⇒ 짐승 ⇒ 적’—와 팔이 잘려나가는 체험을 통해, 전후세대가 경험했을 정신적 혼란과 전쟁의 참혹함을 그려낸 작

21) 최현석(2009) 「후각과 기억」 『인간의 모든 감각』, 서해문집, pp.249-250

품이라 평할 수 있겠다.

오에의 초기작품 중 일명 ‘동물소설’은, 주로 작은 동물(小動物)에 의한 다양한 비유를 통해 특정 인물이나 상황에 대한 시각적 이미지를 강화하는 경향이 있었다. 그리고 이는 생동감 있는 묘사와 더불어 주로 인간을 희화화(戲画化)하는 방법으로 사용되었다.²²⁾ 그러나 본 연구에서 언급한 『사육』의 경우는 그의 여느 동물소설과는 달리 등장인물들—흑인 병사 및 마을 어른들—의 모습을 야수성을 가진 짐승으로 묘사함으로써, 전쟁 중의 프로파간다와 폭력으로 인해 변질되어 가는 인간의 모습과 전쟁에 대한 비판의식을 그려내고 있다. 더불어 흑인 병사의 체취 및 죽음의 악취라는 후각적 요소를 통해 전혼세대에게 각인된 전쟁의 기억이 얼마나 강렬한 것인가를 보여주고 있다.

【참고문헌】

- 나병철(2006) 「전쟁체험과 성장소설」 『청람어문교육』 (33집), 청람어문교육학회, pp.165-199.
- 신지숙(2009) 「오에 겐자부로의 『사육』 문—에니미즘의 수사법—」 『일본언어문화』 (14집), 한국일본언어문화학회, pp.363-384.
- 이안부루마 저, 최은봉 역(2014) 「서양과의 전쟁」 『근대일본』, 을유문화사, pp.129-152.
- 이재성·박승애(2012) 「오에 겐자부로의 『사육』 일고찰」 『일본문화연구』 (43집), 동아시아일본학회, pp.473-491.
- 조현구(2007) 「『飼育』での閉鎖と解放の転倒」 『일본언어문화』 (10집), 한국일본언어문화학회, pp.339-359.
- 주지영(2013) 「전후의 공간표상을 통한 세대별 의식 탐구」 『한국문예창작』 (제12권 제3호), pp.167-192.
- 최현석(2009) 『인간의 모든 감각』, 서해문집, pp.243-254.
- 홍진희(2007) 「오에 겐자부로 소설에서의 동물 비유—『개인적인 체험』을 중심으로」 『일본학연구』 (22집), 단국대학교 일본연구소, pp.359-378.
- _____ (2014) 「오에 겐자부로의 『사육』 과 야마다 에이미의 『베드타임 아이즈』 비교—흑인 남성에 대한 묘사를 중심으로」 『일어일문학연구』 (90권 2호), 한국일어일문학회, pp.227-242.
- 江藤淳(1959) 「解説」 『死者の奢り・飼育』、新潮社、pp.266-270.
- 大江健三郎(1959) 「飼育」 『死者の奢り・飼育』、新潮社、pp.80-141.
- _____ (2013) 『大江健三郎 作家自身を語る』、新潮社、pp.48-74.

22) 홍진희(2007) 「오에 겐자부로 소설에서의 동물 비유—『개인적인 체험』을 중심으로」 『일본학연구』 (22집), 단국대학교 일본연구소, p.375

- 紅野敏朗(1971)「飼育」(70年代の政治と性・大江健三郎 特集)『国文学 解釈と鑑賞』至文堂、pp.81-85.
- 小浜逸郎(2000)「名作と人生 神話の復活 ; 『飼育』—大江健三郎」『健康保険』(54巻10号)、健康保険組合連合会、pp.14-17.
- 曾根博義(1997)「『死者の奢り』—「僕」のナラティブ」『国文学 解釈と教材の研究』(43巻3号)学灯社、pp.24-30.
- 高橋由貴(2010)「火葬される『書記』の死—大江健三郎『飼育』における戦争」『国文学 解釈と鑑賞』(75巻9号)、至文堂、2010.9、pp.131-138.
- 中村康行(1995)「〈2〉短編集『死者の奢り』」『大江健三郎—文学の軌跡』、新日本出版社、pp.20-52.
- 村上克尚(2009)「言葉を奪われた動物—大江健三郎「飼育」をめぐる江藤・三島の批評の問題点」『日本文学』(59巻6号)、日本文学協会、pp.34-43.
- 吉田裕(2007)「総力戦の遂行と日本社会」『アジア・太平洋戦争』岩波書店、pp.133-177.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
계재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

焼け跡世代の少年における戦争
—大江健三郎の『飼育』を中心に—

洪珍熙

大江健三郎(1935~)の『飼育』(1958)は芥川文学賞の受賞作で、第二次世界大戦が終わる頃の、谷間の村を背景としている。主人公であると同時に語り手である少年は、戦争の直接的な影響は受けず、退屈な日々を送っていた。そんな中、ある日、敵軍の戦闘機が山に不時着し、一人の黒人兵が村の大人たちによって捕虜として捕まえられる。ス

少年は最初、黒人兵を獣のように扱う自分の父親の態度に当惑を感じるが、黒人兵との同居を通して、少しずつ彼と人間的な関係を持ち始める。しかし、黒人兵を町まで護送するという伝言によって、彼との関係は破局を迎え、父親の鉋によって黒人兵は虐殺される。

『飼育』は神話的な構造をはじめ、象徴・比喩・文体などを中心に評価されてきた。その反面、焼け跡世代—戦中、幼少期を過ごした人々—の戦争認識は見過ごされた傾向がある。だが、作品には、黒人兵を眺める少年の視線の変化—獣⇒家畜⇒友人⇒家族⇒獣⇒敵軍—と、火葬されずに腐敗する黒人兵の死体からの臭いを通して、焼け跡世代の精神的な混乱と明確な戦争の記憶が示されていることが分かる。

The War in the eyes of a boy of the Burn-mark generation
—Focusing on “*Shiiku*” by Kenzaburo Oe—

Hong, Jin-Hee

“*Shiiku*”(1958) by Kenzaburo Oe(1935~) won the Akutagawa Prize, a major literary award. The story has a valley village in the background and a setting at around the end of World War II. The main character and narrator is a boy, who was not directly influenced by the war and spent his days being bored. However, one day, an enemy fighter made a forced landing on the mountain, and its black soldier was caught as a prisoner by the adults in the village.

The boy initially felt embarrassed about the attitude of his father toward the black soldier, who considered him a beast, but he gradually began to have a human relationship with him through living together. However, when escorting the black soldier to town, the relationship with him broke, and the boy’s father slaughtered black soldier with a hatchet.

“*Shiiku*” has been recognized as having a mythical structure that is symbolics, figurative, and stylistic. However, the perceptions of the Burn-mark generations who was raised during the war have been overlooked, despite it being a War Novel. Nevertheless the change in the boy’s perspective on the black soldier, i.e., “beast ⇒ livestock ⇒ friend ⇒ family ⇒ beast ⇒ enemy”, and the smell of a corpse shows the Burn-mark generation’s confusions and intense memories of the war.

類義語 「いそがしい、せわしい、あわただしい」 の意味・用法*

金英児**

(e-mail : larecancile@hanmail.net)

<目次>

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1. はじめに | 4.1 (暇・時間的)余裕がない状態 |
| 2. 研究対象と研究方法 | 4.2 せかせかして落ち着かない状態 |
| 3. 「いそがしい、せわしい、あわただしい」の概観 | 5. 「いそがしい」・「せわしい」・「あわただしい」
の相違点 |
| 3.1 小辞書の記述 | 5.1 事柄の本質と現象 |
| 3.2 「急ぐ」・「急ぐ」・「慌てる」の特徴 | 5.2 個別的な動作と対人的・対社会的動作の概念 |
| 4. 「いそがしい」・「せわしい」・「あわただしい」
の共通点 | 5.3 主体性と客体性 |
| | 5.4 焦点の差異 |
| | 6.まとめ |

キーワード：類義語(Synonym)、属性形容詞(Attribute adjective)、いそがしい(Isogashii)、せわしい(Sewashii)、あわただしい(Awatadashii)

1. はじめに

形容詞は韓国人日本語学習者が初級レベルから学び、日本語能力試験の文字・語彙、文法、類義語の交替などの多様な分野によく出題され、日本語コミュニケーション能力を向上させる重要な語彙である。しかし、韓国人日本語学習者が形容詞を学ぶ上で、形容詞の多義性と類義性により意味・文法が多様性に富んでおり、さらに語彙数においては韓国語の形容詞の方が日本語より発達していることから¹⁾、作文、翻訳等での形容詞の

* 이 논문은 2018년도 원광대학교 학술연구조성비에 의해 연구되었음

** 圓光大学 師範大学 日語教育学科, 助教授, 日本語学

1) 고 (2008) p.95

使い分けが困難であると言える。従来の韓国での日本語の形容詞研究は統辞的な立場からの研究、形容詞の下位分類、語彙論的な立場からの韓日両国語の形容詞の意味対応、および語構成に関する研究で、その対象においても感情形容詞が主となっている²⁾。近年、形容詞の研究は深化し、感覚形容詞についての研究も多く行われている。しかし、属性形容詞の研究は構文上、韓国語との関係が密接にある³⁾と言われているにもかかわらず、属性形容詞の全体的な体系と代表的な形容詞についての言及はあるものの、個別的な形容詞の意味・用法や類義語の分析は今のところ見られない。そこで、日本語教育的な立場から従来の形容詞の研究についての先行研究の研究対象における多様性、ならびに研究方法的な面からの変化という、この二つの点が大きな課題となってくるのである。

したがって、本稿では、属性形容詞を研究対象にし、類義関係を持つ形容詞を分析することによって、代表的な形容詞⁴⁾以外の属性形容詞の意味・用法を理解して使い分けることができ、従来の形容詞の研究の対象を広げることが目的である。また今までの形容詞に関する研究方法は日本語の形容詞を韓国語の対訳のシソーラスに対応させ、語彙量を計量し、その特徴を述べるのが一般的であったが、属性形容詞のうち、類義関係を持つ

2) 金 (2017) p. 350

3) 高 (2012) 「文の中で、人、事物、事柄などの属性を主に表現し、感情形容詞や感覚形容詞のように人称の制限や目的語を必要としない特徴があるため、両国語で構文上具体的、抽象的な事物、事柄の属性を表現する用法に多く共通している。」 (p.130)

4) 高(2004)では、属性形容詞が容詞の中で数が多く、範囲が広いため、①人に関する主体の属性、②量・時・空間性(速度、距離)、③物形・形状性、④色・明暗に分類・限定し、形容詞の構文的特徴と意味・用法を考察したが、抽出した対象語彙の代表的なものをあげている。(p.193)

属性의 종류	日本語	韓国語
사람의 모습 성품	美しい、かわいい、優しい、忙しい、おとなしい、かしこい、かいがいしい、たのもしい…	아름답다, 예쁘다, 곧다, 씩씩하다, 부지런하다, 친절하다, 바쁘다, 겸손하다, 너그럽다, 동똥하다…
量 時間性 空間性	多い、少ない、とぼしい、速い、早い、遅い、のろい、速い、近い、若い、幼い、新しい、古い、深い、浅い、狭い、広い、長い、短い、大きい、小さい、重い、軽い…	많다, 적다, 드물다, 흔하다, 풍부하다, 무집하다, 가득하다, 부족하다, 빠르다, 늦다, 이르다, 급하다, 멀다, 가깝다, 짧다, 어리다, 새롭다, 낡다, 깊다, 얕다, 좁다, 넓다, 길다, 짧다, 작다, 크다, 무겁다, 가볍다…
物形 形状性	丸い、鋭い、かたい、汚い、清い、柔らかい、もろい、荒細い、平たい、厚い、太い、鈍い…	둥글다, 뾰족하다, 날카롭다, 곧다, 바르다, 나란하다, 딱딱하다, 더럽다, 깨끗하다, 애끈하다, 굵다, 가늘다, 두껍다…
色 明暗	赤い、青い、白い、黒い、明るい、暗い、薄暗い…	빨강다, 파랗다, 푸르다, 까맣다, 노랑다, 암다, 희다, 희뿌옇다, 연하다, 옅다, 진하다, 질다, 밝다, 어둡다…

形容詞の意味・用法の共通点と相違点を事例に基づいて考察する。それによって、形容詞の持つ個々の基本的な意味機能や用法を意味論的な面から明らかにしたい。

2. 研究対象と研究方法

日本語の属性形容詞のうち、人に関する主体の属性を表し、初級レベルから学習する「いそがしい」と類義関係を持つ「せわしい・あわただしい」を対象とする。辞書的な意味と先行研究を整理し、それに従って具体的な例を挙げながら、意味が近接する類義語の属性形容詞における共通点と相違点を比較・考察する。用例は「朝日新聞」の「聞蔵」、「読売新聞」の「ヨミダシ」、毎日新聞(1990年1月1日～2015年1月1日検索)、現代小説(青空文庫、ならびにその他の151作品)から抽出する。

3. 「いそがしい」・「せわしい」・「あわただしい」の概観

3.1 小辞書の記述

各語について、現代語を対象としたいくつかの辞書を参照する。

『岩波国語辞典』

◆いそがしい：①急いでしなくてはならない事に追われている。することが多くて休む暇がない。

多忙だ。②落ち着きがなく、めまぐるしい・せわしく立ち働いたちだ。

▷「急ぐ」から出た語 (p.55)

◆せわしい：①せかせかする気持だ。いそがしい。(p.661)

◆あわただしい：あわてて落ち着かない様子だ。せわしい、急ぎの事、重大な事があって、人の動きが目まぐるしい。(p.37)

『明鏡国語辞典』

◆いそがしい：①用事が多くて他のことにかまっていられない。多忙だ。②落ち着きがなく

せかせかと動き回るさま。せわしい。せわしない。■「急ぐ」の同語源

(p.96)

◆せわしい：用事が多くて休む暇がないさま。いそがしい。②あわただしくて落ち着きがないさま。

(p.909)

◆あわただしい：①時間的追われて、せわしないさま。ゆとりがなく落ち着きがない。

②状況が不安定で、めまぐるしい動きをみせるさま。(p.66)

『日本国語大辞典』

◆いそがしい：①早く為なければならない用事に追われるさまである。また、用事が多く重なったり暇がない。多忙である。

②せかされるような感じで、落ち着きがない心持ちである。落ち着いてはいられない気持である。気がせく、あわただしい。せわしい。(p.1003)

◆せわしい：①速度や調子などが早く、次から次へと間断なく続いている。ゆったりして
いない。せわしない。

②しなければならないことなどが多く重なったりして暇がない。いそがしい。多忙だ。せわしない。(p.9)

◆あわただしい：①物事を急いでしようとして慌てるさまである。心がせわしく落ち着かない。

(p.695)

辞書的な説明においては、「いそがしい・せわしい・あわただしい」は用事が多く、暇がなく追われているような状態を表す点とあわてて落ち着きがない様を表す点で共通である。この三語を類語として、ほとんどの国語辞典で、「いそがしい」の言い換え語として、「せわしい」が挙げられており、「せわしい」の説明に「いそがしい」が、「あわただしい」の説明に「いそがしい」と「せわしい」が挙げられており、この三語の意味的近似が窺われる。

3.2 「急ぐ」・「急ぐ」・「慌てる」の特徴

「いそがしい・せわしい・あわただしい」は、「急ぐ」、「急ぐ」・「慌てる」という動詞から形容詞化したものである。本節では、動詞の意味、特徴を先行研究と辞書などの説明からまとめてみる。

内藤(2006)では、「あわてる」の使い方と指導法を考察するため、「あわてる」と「いそぐ」の意味特徴を比較し考察した。「いそぐ」と「あわてる」の語意を『似た言葉使い分け辞典』(1991)、『基礎日本語1』(1977)、『日本語学習使い分け辞典』(1994)、『広辞苑』(1982)、『日本国語大辞典』(2002)から調べて次のようにまとめた⁵⁾。

5)内藤(2006) p.153 再引用

- * 「いそぐ」①ある事柄を早く実現しようと心で準備し、当然、動作、行為のピッチがあげる。ゆとりを切り捨て、手短にする。「あわてる」「あせる」は無意識的だが、「急ぐ」は意識的。
- * 「あわてる」①心で感じることを表すことば。自発的現象で意識的にあわてることはない。思わぬ状況にうろたえ、すべきことは一応わかっているが、冷静さを欠けた状態。マイナス評価の語。

「せく」について『類義語活用辞典』（1989）、『類語例解辞典—使い方の分かる—』（2003）、『日本語新辞典』（2005）などから調べて次のようにまとめられる。

- * 「せく」：主観的で事柄がなかなか実現しないことに対して心があせることを表し、「気/心」が直接主語となる無意志的な自然発生的状況。マイナス評価の語

「せく」は『日本国語大辞典』（2001）の「いそぐ」の語誌によると、「「いそぐ」と「せく」は、何事かを早くしたいと思う気持を持つことにおいて共通するが、「いそぐ」はそれが具体的な行為に現れる意志的な行為であるのに対して、「せく」はその気持を持つこと自体をさす。」説明しており、『類義語使い分け辞典—日本語類似表現のニュアンスの違いを例証—』（1998）では、「「急ぐ・慌てる」が何かを早く処理したいという点に意味の中心があるのに対して、「せく・焦る」は物事がうまく行かないという点に意味の中心がある。マイナス評価の語」と説明している(p. 80)。

以上の辞書の説明を大きく三点にまとめられる。

- 第一、三つの語とも何かを早く処理したい気持ちは共通である。
- 第二、「いそぐ」が人（主体）の意志的な動作・行為に用いられるのに対し、「あわてる」と「せく」は無意識的である。
- 第三、「あわてる」と「せく」はマイナス評価の言葉である。

「いそがしい・せわしい・あわただしい」は、動詞から形容詞化したものであるため、動詞からその特性を浮彫りにしやすい。

4. 「いそがしい」・「せわしい」・「あわただしい」の共通点

4.1 (暇・時間的)余裕がない状態

「いそがしい」、「せわしい」、「あわただしい」は、暇・時間的余裕がない状態を表す。

- (1) 学校生活、塾や自宅での勉強にかなりの時間をとられ、睡眠時間が必ずしも十分でないなど、ゆとりのない忙しい生活を送っている。(毎日1996.06.19.)
- (2) (2014衆院選) 師走選挙、大阪は苦手? 投票率、全国より低い傾向 【大阪】(前略) こうした傾向について、品田教授は「無党派層が多い都市部の大阪は、仕事に追われ、年末は忙しい人が多い。投票に行かない人が増え、陣営も選挙運動に動員しにくくなる。逆に北陸は農作業が少ない時期で、選挙にかかわりやすいのではないか」と分析している。(朝日2014.11.26)
- (3) (在宅介護の記事) 滞在時間は15分程度。「時間に追われて少しせわしい」というヘルパーの鈴木八重子さん。(朝日2012.04.01.)
- (4) “せわしい”余暇 「趣味の時間がない」が46% (見出し)
東京、名古屋などの主婦約八百人に東芝が尋ねたアンケート調査だと、生活の中で「余裕がない」と感じる時間は、「趣味の時間」が四六%でトップ。次いで「くつろぎの時間」(三〇%)、「レジャーに出かける時間」(二六%)で、余暇については“せわしい”思いをしているようだ。(読売 1987.12.23)
- (5) 寝たきり老人の介護が集中的に要求される一番忙しい時に、時間帯を定めて、ホームヘルパーを実験的に派遣してきた…目覚め後の排せつの始末や着替え、食事、また眠りにつく前の身の始末や清拭(体をふくこと)など老人の介護を、出勤前や帰宅直後であわただしい家族に代わってホームヘルパーがしようというもの。(毎日1996.04.08.)
- (6) 暇そうに見えて実は割とあわただしい大学生。講義、ゼミ、サークル、部活、アルバイトなどで奔走する毎日だ。(毎日2013.11.08.)

(1) では「勉強」に時間を取られてゆとりのない生活、(2) では仕事に追われて時間がなく暇がない状態を表し、(3) では、「出勤前と帰宅直後」という用事が多く時間がない時、(4) 「余暇」について、(5) では、在宅介護のために行って、15分くらいで世話をするには時間的余裕がないことを(6) では、「講義、ゼミ、サークル、部活、アルバイト」などで暇がないことを表している。

4.2 せかせかして落ち着かない状態

「いそがしい」、「せわしい」、「あわただしい」は、せかせかして落ち着かない状態を表す。

- (7) ——旅行を楽しむコツを教えてください。／…それと夫婦で旅行するときに、朝早くにそろって家を出る必要はありません。互いにテンポが違うから、出発前に「何やってんだ」とけんかになる。忙しい思いをして早く出ても、中途半端にせわしいだけの一日になる。
(毎日2009.04.10.)
- (8) はじめに局側から、昨年の年間視聴率三冠王を獲得した件などの報告があったあと、朝の情報番組「ズームイン！！SUPER」の合評を行った。委員からは「朝の忙しい時間に事件、スポーツ、芸能と盛りだくさんで、せわしい感じがする」「全国各地からの発信がもっと多い方がいい」「見ごたえのある企画がある」「朝　　は一日の始まりなのでさわやかな話題を取り上げてほしい」などの意見が出された。
(読売2002.02.13.)
- (9) 「サミット後が8割、5月の連休後が2割だと思っていたんだけど」。比例代表・東海ブロックの近藤昭一議員（民主）は想定外の選挙に慌ただしい。首相指名後、すぐ新幹線に飛び乗り、名古屋に。
(毎日2000.04.06.)

「いそがしい」「せわしい」が(7)では、朝早くそろって旅行に出るため、これもあれもしなければならぬことや、出発前にけんかになってしまったこと、(8)では、朝の余裕がない時間にたくさんテーマでゆとりないこと、(9)では、「あわただしい」が選挙体制を緩めたが、想定外の選挙に対して事務所開きを急ぐというせかせかして落ち着かない状態を表している。

5. 「いそがしい」・「せわしい」・「あわただしい」の相違点

では、「いそがしい」、「せわしい」、「あわただしい」の差異はどう捉えるだろうか。まず、「いそがしい」と「せわしい」を対象し、事柄の本質と事柄の現象に関わる用法を比較してみる。

5.1 事柄の本質と現象

- (10) 卒論の最後の追い込みで忙しいさなか、病院まで車で迎えにきてくれた大学4年生の息子。

(毎日2008.02.20.)

- (11) 調布市の深大寺は、名物「深大寺そば」でも知られる。毎年正月、五、六万人と言われる初詣客が立ち寄る門前などの二十六軒のそば店では、年越しや初春そばの準備に忙しい。
(読売1996.12.24)

「いそがしい」は何かその人に対して外から迫ってくる、迫ってくる期間（時間）に対して、(10)のように「卒論の最終段階で必要なことをしなければならない」、あるいは(11)のように次々に迫ってくる物事に対して、それを解決していかなければならないことを表し、処理したり消化しなければならない事柄に関わる。

- (12) 「番組の途中ですが、ニュースをお伝えします」。せわしい様子でアナウンサーが画面に現れると、見ているこちらの脈拍も早まる。予定していた番組編成を急きょ変更して始まる緊急ニュースは、ライブで進行するテレビの真骨頂だ。朝日2015.03.30)
- (13) 夜はBさんが六時までに保育園の迎えにいき、六時十五分に台所に立ち、七時には夕食にする。そんなせわしい時にも、娘は、／「ママのだっこでビデオ見る」／一人でなさいと言うと、娘は泣き出して余計に時間がかかりそうなので、／「ハイ、ハイ、ハイ」／と応じてしまう。
(朝日1997.04.21.週刊アエラ)

「せわしい」は、迫ってくるもの、追ってきたときの動作に関して、たとえば(12)のように予定していない緊急ニュースをライブで進行する動作のコマゴマとしたあり方を表し、(13)のようにしなければならぬことが多く、「いそがしい仕事をする様子」という事柄の現象により生じる場所の心理的不安に関わり、落ち着きがないことを表す。

5.2 個人的な動作と対人的・対社会的動作の概念

- (14) 吉川先生は普段、午後6時に職員室を後にする。スーパーで夕食の材料を買い、家に着くと夕食の準備に取り掛かる。公務員の夫が帰宅するのは大抵8時近く。ふろの準備、食事の後片付けなど、学校から戻っても母親としての慌ただしい生活に追われた。…小学校の教師だった僕の母親も帰宅はいつも午後7時近く。帰宅するとすぐ、僕と弟のために急いで夕食を準備した。高校教師の父親の帰りも遅かった。母親の学校が忙しい時は僕が夕食の準備をすることも多かった。
(毎日1997.12.12.)
- (15) 世界最大の市民ビデオ映像の祭典「第26回東京ビデオフェスティバル」(日本ビクター主催)で、長女美羽ちゃん(4)との出勤前のあわただしいやりとりを撮

影したビデオ作品「ねえ、ママ聴いてるの？」が優秀作品賞に選ばれた。（中略）作品は忙しい朝食時間を撮影した9分47秒のドキュメント。せわしげに立ち働く滝沢さんと、それを眺めながら朝食を取る美羽ちゃんの会話が収められている。

（毎日2004.02.15）

「いそがしい」は、例（10）のような次から次へ仕事があって、それを解消しようとする個別的な動作にも、例（14）の「学校」のように忙しさが属性となっている概念、対人的・対社会的動作の概念に用いられる。そうした概念というのは、「仕事、役職、職業、大学、会社」などがあげられる。「慌ただしい」は、例（14）の「ふろの準備」、「食事の後片付け」、（15）の「出勤前のやりとり」など個別的な動作に用いられ、忙しさが属性となっている概念を表す「いそがしい」より「母としての生活」、「出勤前」という漠然とした概念に使える。

（16）間もなく約束のタクシーが来てくれてぼくは4泊5日の旅に立つ。自分自身執筆者の1人でもある『原爆詩一八一人集』の出版記念フォーラムとパーティー、「地球の詩祭・2007」、「日本ペンクラブ創立70周年ペンの日の集い」と相次ぐ催しへの出席を主要な目的としたせわしい小旅行だ。（毎日2007.12.21）

（17）燕は春の季語だが、二度の産卵によって、一番子、二番子を育てるころには夏燕と呼ばれる。子育ての間は、餌を求めてせわしい飛翔を繰り返す。（朝日2013.06.06）

「せわしい」は、例（13）のように一つ一つの個別的なもの（行為・動作）にも用いられるが、例（16）、（17）のようにいくつかの動作を含んだ繰り返しか、継続、また次と次がつながっていく動作のやり方の細々しいやり方を表すため「いそがしい」で表せる対人的・対社会的動作の概念には使えない。つまり、その仕事をする仕方・局面の動作（やり方、動作的）に「せわしい」が用いられている。

5.3 主体性と客体性

（18）甲子園では現役部員約40人に卒業生を加えた約100人で演奏する予定だ。このほか、3月の卒業式での演奏や、4月の定期演奏会があるため、慌ただしい日々を送るが、「応援する全員の気持ちを音に乗せて、選手を後押ししたい」./ 甲子園に向け、チアリーダーも結成された。メンバーは約40人。応援団同様、

有志で構成される。まとめ役を担うのが、女子バスケ部マネジャーの大富萌衣（めい）さん（同）だ。ダンス部のメンバーと振り付けを考えたり、今後の練習スケジュールや練習方法を考えたりと、こちらも忙しい。（毎日2015.02.13）

- (19) 私は、これまで毎日の生活を何も考えないで、ただ同じように繰り返しているだけだった。学校の中で、皆と同じ制服を着て校則を守り、親しい友人やクラスメートに囲まれて、真面目に先生の話の聞き、授業を受ける。家では、刻々と近づきつつある受験のために、必死になり勉強している。それが、私の日常である。しかしある時から、そのように時間に追われ忙しい日々を送っている私が、本当の私自身ではないように思われ、毎日の生活に息苦しさを感じるようになっていった。こうした忙しい日常の中で、私はどのようにして生きていけばよいのだろう、とずっと心の中で考え迷いつづけていたのであった。（中略）もちろん、私自身の日常は以前と同じままで、全く何も変わっていない。相変わらず、受験を間近に控え時間に追われつづける高校生の慌ただしい生活を、毎日送っている。（毎日2001.01.24）

「いそがしい」が (18)では「ダンス部のメンバーと振り付けを考えたり、今後の練習スケジュールや練習方法を考えたり」すること、(19)では学校に行き、校則をまもり、先生の話の聞き、授業を受け、受験のために勉強することのような主体の意志的な動作・行為に重点が置かれているが、「あわただしい」は、(18)では「3月の卒業式での演奏や、4月の定期演奏会」、(19)では「受験」という切迫した原因があり、それによって受動的に慌ててしまうような反応・行為を取らざるを得ないということに重点が置かれる。

- (20) 英国に留学している小淵恵三首相の二女優子さんは4日午前8時16分、パリ発のエールフランス276便で成田空港に到着した。ベージュ色のシャツにジーンズ、スニーカー、黒色のリュックという軽装で、手には携帯電話を握りしめ、「父重篤」の知らせを受けての慌ただしい帰国を感じさせた。（毎日2000.04.04）

(20)の「慌ただしい帰国」は、急に父の重篤の知らせを受け、英国から帰国準備をそこそこにして出かけなければならないような反応・忙しい変化を内包している。主体の意志的な動作・行為ではなく、主体の認識・行為などの対象となる客体性に重点がおかれる。

- (21) a. 忙しい旅行
b. あわただしい旅行

a.の場合は、ゆっくりするのが本来なのに、時間が限定され、これもあれもしなければならぬのに落ち着きのないことを表し、b.の場合は、なにか旅行前にしなければならない用事ができ、旅行の準備もそこそこに、準備が不十分でありながら旅行に出かけざるを得ないような状況を表している。「あわただしい」はいそがしい変化を内包し、準備等が不十分であつてもいそいでそれに取り掛かることを表す。

(22) 官公庁の仕事納めとなった二十八日、県庁ではコンピューターの二〇〇〇年(Y 2 K)問題の模擬訓練や対応に追われ、慌ただしい一日となった。原子力安全対策課はジェー・シー・オー(JCO)東海事業所の臨界事故の処理も重なり、職員からは「仕事納めといわれても、それどころじゃない」との声が漏れた。／模擬訓練は上・下水道システムに問題が生じたとの想定で、県庁六階の災害対策室で行われ、関係部局の担当者や自衛隊、電力会社、JRなどから計約四百人が参加した。/JCO臨界事故の処理に忙しい原子力安全対策課の職員は、「年末年始は県内の原子力施設は止まる。何も無いとは思いが…」と言いながら各事業所との連絡に追われた。(朝日1999.12.29.)

「追われた事態」、「期限」というのが前提となり、早く解決しようとする主体の意志的な行為が「いそがしい」である。そして、「あわただしい」は迫られた事情が原因となり、それによってあわててしまうような反応、つまりはそうした状況から逃れる行為をいそぐことである。

5.4 焦点の差異

最後に「いそがしい」、「あわただしい」、「せわしい」の焦点の差異を考えてみる。次の例は「あわただしい」と「いそがしい」が近いところに用いられた例で「いそがしい」を「あわただしい」に置き換えられない例である。

(23) 守谷町の男性(55)は今月中旬、出勤前のa.慌ただしい時間帯に、男から「紳士録にあなたの名前が掲載されるので、買ってほしい」との電話を受けた。男性は「今、b.忙しいので結構です」と断り、電話を切ったが、数日後には分厚い本1冊と4万円の請求書が送られてきた。(朝日2001.06.28.)

(23)のa.「あわただしい」は出勤前のすることが多く急いでおり落ち着きのない状態を表し

ているのに対して、b.「忙しい」は電話の相手に出勤の準備で用事や時間に追われている状態を客観的に伝えていることを表し、「あわただしい」と置き換えられない。

『日本国語大辞典』（2002、第二版）の「いそがしい」の語誌によると、次のように説明している。

「いそがしい人」は、仕事や遊びの予定がつかまっているなど、その人をとりまく客観的な状況についていうのに対して、「せわしい・せわしない人」は、落ち着きがないなど、その人の性向をいうと考えられる。「いそがしい」も性向をいう場合（「まったくいそがしい男だ」）があり、「せわしい・せわしない」も客観的な状況をいう場合（「年の瀬になり、せわしくせわしない毎日を送る」）があるが、意味の重点は、「いそがしい」は客観的な状況に、「せわしい・せわしない」は性向に傾く。（p. 1003）

また、「基礎日本語辞典」（1994）、『類義語使い分け辞典—日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する—』（1998）では、「あわただしい」と「せわしい」が「マイナス評価を表す語」と指摘している。

(24) と (25) は「いそがしい」と「あわただしい」が近接したところに用いられた例である。

(24) 忙しい年末より夏がおすすめ—油膜落としも簡単（見出し）

40歳を過ぎてからの、1年の早さと言ったら何だろう。気が付けば年の瀬。スーパーには「ほらもう正月だよ」と焦燥感をあおるように、掃除用品が積んである。でも私、東京で主夫生活を始めてから、12月に大掃除はしないことにしている。（中略）で、「忙しい」という理由に戻るのだが、年末は休みに入っても、買い物やら帰省準備やらであわただしい。（毎日2007.12.17.）

(25) 22日は毎年忙しい1日だ。「時代祭」「鞍馬の火祭」と大きな祭りが二つ行われる。午前は「時代祭」の神幸列の出発、正午からは京都御所を出発する時代行列をともに夕刊用にと、あわただしい取材。（毎日1999.10.26）

(24) では、同じく「年末」を修飾しているが、「いそがしい」が見出しに用いられ、年末に追われてくるものに対して余裕がないことを客観的に表し、「あわただしい」は迫ってくる物事をいそいで終えなければならぬという人の動き（行為）を表している。(25)で

は、「いそがしい」が大きな祭りが二つ行われることによる仕事が多忙であることを表し、午前、午後に続いて取材を不十分であっても急いでそれに取り掛かるゆとりなく、落ち着かないことを表している。

よって、「あわただしい」は、ゆとりなく落ち着かないことから「不安感」、「緊迫感」を表す。

(26) 何かとあわただしい4月が始まり、診察室でも「落ち着かない」「イライラする」といった声を聞くことが多くなった気がする。「会社や家でキレやすくなった」という人もいる。みんな「これじゃいけない」と思っているが、なかなか気持ちをしずめることができないのだ。(毎日2012.04.17)

(27) 私は院生なので比較的時間の余裕はありましたが、それでもエントリーシートを書いて、東京へ往復してという日々は大変でした。学部の3年生は授業や試験と重なるのですから、はるかに忙しい。(中略)一方で院生の立場からすると、やや不安も。私の研究室では新年度は後輩が入ってきて、自分の研究も一段階進むという慌ただしい時期。そこで就活に取りかかるのは大変です。(朝日2013.04.27)

(26) では、新年の仕事が始まる4月になり、仕事に追われてあれこれしなければならなく気持ちがせきたられるような不安で落ち着きがないことを表し、(27)で学部の3年生が授業や試験で多忙であることに「いそがしい」で客観的に表しているのに対し、院生の場合、後輩の世話や自分の研究の進歩もしなければならない不十分な状態で就職活動に取り掛かることへの不安な気持ちを表している。

(28) それは、学生時代の臨床実習のときのことだった。小児科、産婦人科、消化器外科などのあわただしい科のあとで行ったせいか、精神科はのんびりした雰囲気を感じられた。手術もないし、夜間の急患も他の科に比べれば多くない。(毎日2006.12.19.)

(29) ほら、何かとあわただしい人のそばにいと、なんだか自分まであわただしくなってしまうことありませんか？その上そんな雰囲気で「落ち着いて！」なんて言われて、かえって緊張度を増したりして。(朝日1998.12.18)

(28) では、手術や夜間の急患が多い場合と(29)では、落ち着きがない人のせい

自分も冷静さを失い急いだりあわてたりすることに対して緊迫感を表している。

次の例は同じ内容に見出しに「せわしい」が、本文に「あわただしい」が用いられた例である。

(30) 2000年問題でせわしい年の瀬 対応追われる官庁・企業／北海道

一九〇〇年代最後の日を迎えた北海道。コンピューター二〇〇〇年問題への備えて、企業や官庁には例年の歳末と異なる慌ただしい空気が漂っている。

(朝日1999.12.31)

「せわしい」は落心せく、そういう状態で気持ちの上で落ち着かないことを見出しで強調しており、「慌ただしい」は、コンピューター二〇〇〇年問題への備え、何が起こるかわからないことの緊迫感・緊張感を表していると言える。

(31) デスクワークと発掘現場の往復でせわしい毎日だ。「先日、やっと一日休めました」。開発に伴う発掘のほか、市主催のイベント準備が続いて九月から約三か月間は休めなかった。好きな釣りにも行けず、気がつけば、もう年の瀬。

(読売1994.12.28.)

(32) 「日本には、江戸時代からすしやそば、天ぷらなどの立ち食い店がありました。これは、忙しい職人なんか**が**ぱつとかき込む、いわゆるファストフードですね。これはいい。でも、最近の立ち食い店はファストフードではなく本格的な食事を出す。なのにしゃべりながらその一時や空間を楽しむわけでもない。どこか、しゃべるのすらもどかしいような感じで。見ていると、何だかせわしいですよ……」 (毎日2014.09.16)

(31) では、仕事に追われてゆとりがなく、休みも取れない毎日を送っている状態に対して、(32) では、立ち食い店で急いで食べて去ることは当然なことであるが、本格的な食事を出す立ち食い店であるのに時間や空間を楽しむでもなくしゃべるのすらしないうたりのないせかせかしている様子に対してマイナスの評価を表している。

「せわしない」は、「せわしい」の強調語であり、「現代形容詞用法辞典」(2004)によると、「行動にたえまがなくて落ち着かない様子を表す。ややマイナスイメージの語」「せわしい」の(2)をさらに強調した語で、緊迫感、焦燥感がより強い表現となっている。」と説明している。次の例は、「せわしい」と「せわしい」の意味についての質問に専門家が答えた新聞の記事である。

(33) (ことば力養成講座) せわしい・せわしない 【大阪】

「せわしい」と「せわしない」は同じ意味ですよね——こんな質問を大阪府守口市の女性(63)からいただいた。/ 辞書で「せわしない」をひくと、「忙しい。落ち着かない。せわしい」とある。確かに、ほぼ同じ意味のようだが、「語尾の『ない』は『甚だしい』の意」という説明もあった。(中略)ところで、文化庁編集の「言葉に関する問答集」によると、「せわしい」は、単に「忙しい」という意味を表すのに対し、「せわしない」だと「第三者から見て忙しい感じが甚だしい」という意味になるという。つまり、「せわしない人」と言えば「少しは落ち着けばいいのに」という非難めいたニュアンスが加わるらしい。言葉が違えば、意味も微妙に異なるようだ。

(社会グループ・西見誠一)

(朝日2007.03.19.)

以上から「せわしない」とは、行動にたえまがなくて落ち着かない様子を表し、そういった程度の程度がもっと強調され、忙しさが甚だしく、落ち着かないため、緊迫感、焦燥感がより強い表現として用いられているといえる。

(34) 「大掃除(そうじ)しなくちゃ、買い物にも行かなくちゃ、ああ、せわしいとお母さん、「なんだか、せわしないね。落ち着きなよ」とお父さん。えっ、「せわしい」のに「せわしない」って、どういうこと? (読売2010.12.24)

(35) 日本人がせわしない自分に気づくのは、外国の街でということも多い。食事にも散歩にも時間をかけている社会にとびこみ、日本人だけが焦る。

(朝日1989.05.16. 天声人語)

(34) の「せわしい」は、お母さんが年末に向かって「大掃除」や「買い物」など用事が多くてゆったりできず落ち着かないことを表し、「せわしない」は、落ち着かずせかせかしているお母さんを見て落ち着けばいいのにというお父さんの非難めいたニュアンスが加わっている。(35) では、日本人自体がせわしないということで、日本人がもう少し時間にゆとりをもつように非難のマイナス評価が加わっている。

6. まとめ

本稿では属性形容詞を研究対象にし、人に関する主体の属性を表す形容詞の中で、代表的な「いそがしい」と類義関係を持つ「せわしい」「あわただしい」を比較し、意味・用法の共通点と相違点を事例に基づいて考察することで、形容詞の持つ個々の基本的な意味機能や用法を意味論的な面から明らかにした。その結果を簡単にまとめると次のようになる。

まず、共通点を見ると、「いそがしい」・「せわしい」・「あわただしい」は、暇・時間的余裕がない状態とせかせかして落ち着かない状態を表す。

続いて、相違点みると、第一に、「いそがしい」は何かその人に外から迫ってくる、もしくは迫ってくる期間（時間）、ないしは物事に対して、それを解決・処理しなければならない事柄の本質に関わるが、「せわしい」は、迫ってくるもの、もしくは追ってきたときの動作に関して、「いそがしい仕事をする様子」という事柄の現象に関わっている。第二に、「いそがしい」は、忙しさが属性となっている対人的・対社会的動作の概念に用いられるが、「せわしい」は、その仕事をする仕方・局面の動作（やり方、動作的）に用いられる。第三に、「いそがしい」は、主体の意志的な動作・行為に重点が置かれているが、「あわただしい」は、主体の認識・行為などの対象となる客体性に重点がおかれる。第四に、「いそがしい」は、用事や時間に迫られている状態を客観的に伝えていることを、「あわただしい」は、ゆとりなく落ち着かないことから「不安感」ないし「緊迫感」を表し、「せわしい」は、ゆとりのないせかせかしている様子に対するマイナス的評価を含蓄するという点に差異がみられる。

今後の課題として日本語の形容詞に対応する韓国語の‘마쁘다, 부산하다, 분주하다’を比較検討し、日韓両国の属性形容詞の意味・用法の特徴をデータベース化する。そして語彙教育の立場から、韓国人日本語学者を対象とする形容詞の類義語教育の現場において、その効果的活用を期したい。

【参考文献】

<韓国語資料>

고은숙(2003)「日韓兩國語의 感情形容詞文의 特徵에 관한 一考察」일본어학연구제8집 pp.1-14.

- _____ (2004) 「일,한양국어 속성형용사의 특징과 의미,용법 고찰」 일어일문학연구 제51집 1권
일본어학·일본어교육학 p.193.
- _____ (2008) 『일본어 형용사의 한국어 대역 시소러스』 제이앤씨 p.95.
- _____ (2012) 『대역 시소러스를 이용한 일본어 형용사의 유의어군 연구』 일본언어문화 21호
일본언어문화학회 p.130.
- 金英児 (2017) 「日韓两国語の聴覚形容詞の研究—類義語における語彙教育の立場から—」 동북아문
화연구, 52집 동북아시아문화학회 p350.

<日本語資料>

◆ 日本語辞典

- 北原保雄(編)(2003) 『明鏡国語辞典』 初版 大修館書店 p.66、 p.96、 p.909.
- 小学館辞典編集部(編)(2003) 『類語例解辞典—使い方の分かる—』 新装版 小学館
- 田忠魁・泉原省二・金相順(編)(1998) 『類義語使い分け辞典—日本語類似表現のニュアンスの違いを例証する—』 研究社 pp.78-81.
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫(編)(2000) 『岩波国語辞典』 第6版 岩波書店 p.37、 p.55、 p.661.
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部(編)(2001) 『日本国語大辞典』 第2版 小学館
p.9、 p.695、 p.1003.
- 飛田良文・浅田秀子(2004) 『現代形容詞用法辞典』 東京堂出版 p. 322.
- 森田良行(1994) 『基礎日本語辞典』 第6版 角川書店 pp.130-132.
- 松井栄一(編)(2005) 『小学館日本語新辞典』 初版 小学館

◆ 論文

- 内藤裕子(2006) 「「あわてる」の使い方と指導法」 関西外国語大学留学生別科日本語教育論集16, p.153.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

＜要旨＞

類義語「いそがしい、せわしい、あわただしい」の意味・用法

金英児

本稿では属性形容詞を研究対象にし、類義関係を持つ形容詞を分析することによって、代表的な形容詞以外の属性形容詞の意味・用法を理解して使い分けることができ、従来の形容詞の研究の対象を広げることができた。また今までの形容詞に関する研究方法は日本語の形容詞を韓国語の対訳のシソーラスに対応させ、語彙量を計量し、その特徴を述べるのが一般的であったが、属性形容詞のうち、類義関係を持つ形容詞の意味・用法の共通点と相違点を実例に基づいて考察した。それによって、形容詞の持つ個々の基本的な意味機能や用法を意味論的な面から明らかにした。

The meaning and usage of synonymous "Isogashii, Sewashii, Awatadashii"

Kim, Young-Ah

In this paper, we study attribute adjectives and analyze adjectives with synonymous relationships to understand and use meanings and usage of attribute adjectives other than representative adjectives, so that we can select the subject of conventional adjective research. For the purpose of spreading and to study past adjectives, it was common to compare Japanese adjectives with the thesaurus of Korean translation, weigh the vocabulary quantities and describe their characteristics, but attributes. In the adjective, we examined common points and differences of meaning and usage of synonymous adjectives based on actual examples. By doing so, we have clarified semantic aspects of individual basic semantic functions and usage of adjectives.

韓国における大学生の日本語学習動機づけの検討

－日本語関連専攻者と非専攻者の比較－

金元正*

(e-mail : kim_wonjung@yahoo.co.jp)

〈目次〉

- | | |
|---------------|---------|
| 1. はじめに | 4. 調査結果 |
| 2. 先行研究及び研究課題 | 5. おわりに |
| 3. 調査の概要 | |

キーワード：日本語学習動機づけ (Motivation of learning Japanese)、日本語学習者 (Japanese learners)、日本語専攻者 (Japanese Majors)、日本語非専攻者 (Non-Japanese Majors)、韓国人大学生 (Korean University student)

1. 廉はじめに

廉

廉2011年3月11日の東日本大震災以降、日本に留学する韓国人や韓国における日本語学習者（以下、韓国人学習者）及び日本語関連専攻者（以下、専攻者）は急減している。日本の法務省によると、日本への韓国・朝鮮の留学生総数は2010年から2017年にかけて約4割減少している。また、国際交流基金の『海外の日本語

* 九州大学大学院地球社会統合科学府 博士後期課程 日本語教育

教育の現状 廉『日本語教育機関調査結果』によると、海外の韓国人日本語学習者数は1990年、1993年、1998年、2003年、2006年、2009年には世界第1位であったが、2012年から減少し始め、2015年にはその数が4割以上激減し第3位となっている。さらに、韓国の教育統計サービスによる韓国の大学の日本語・日本文学系専攻への志願者数は、2011年と比べると、2017年には、一般大学¹⁾、専門大学²⁾、大学院修士課程でそれぞれ約5割、博士課程では6割に激減している。

廉そして、2009年12月、韓国における教育部は「2009年改訂教育課程³⁾」を発表し、「中等教育課程の改定の第二外国語」は選択科目の一つに改定された。2007年改定の教育課程まででは中等教育課程の第二外国語が必修科目として決まっていたが、2009年改定の教育課程では、7つの外国語から成る第二外国語は「生活・教養」科目の中で選択されるものとなった。そのため、齊藤（2016）は、学習の負担が大きい第二外国語を選択する学習者が大きく減少することになり、高校における日本語学習者も大幅に減少したと述べている。

1) 韓国の一般大学とは、4年制の正規大学を指す。

2) 専門大学とは、中堅職業人を養成するために専門的な理論や技術を教授・研究する高等教育機関であり、1979年から初級大学・失業高等専門学校・専門学校を一元化したもので、修業年限は2～3年である。

3) 2009年12月23日、「2009年改訂教育課程」（教育科学技術部 告示 第2009-41号）が発表された。「中等教育課程の編制」では、「基礎」（国語、数学、英語）、「探求」（社会（歴史、道徳）、科学）、「体育・芸術」（体育、芸術（音楽、美術））、「生活・教養」（技術・家庭、第二外国語、漢文、教養）の4つの領域として編制され、各科目の基本単位数は5単位で、各科目別1単位の範囲内で増減運営が可能で、可能な限り1学期に履修することになった。総計116単位のうち「生活・教養」（必修履修16単位）の中で第二外国語としては、「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語Ⅰ・Ⅱ」、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」、「中国語Ⅰ・Ⅱ」、「日本語Ⅰ・Ⅱ」、「ロシア語Ⅰ・Ⅱ」、「アラビア語Ⅰ・Ⅱ」の中から選択履修する。

「ncic 国家教育課程情報センター」 <http://ncic.go.kr/mobile.dwn.ogf.inventoryList.do#>（検索日 2018.09.15）

廉このように、近年韓国人学習者や専攻者などが激減しているという観点から、本稿では、韓国の大学における日本語学習者を対象として、近年の日本語学習動機づけを検討し、さらに専攻者と非専攻者の比較を行う。

2. 廉先行研究及び研究課題

動機づけは、言語を学ぼうとする意欲のことであり、第二言語の学習が成功するか否かに影響を及ぼす個人差 (individual differences) の1つとなる。第二言語の動機研究は社会心理学的研究に端を発する。Gardner & Lambert (1972) は、第二言語の学習動機は外国や外国人に対する態度 (attitudes)、および学習課題に対する志向 (orientation) によって決まり、その志向には道具的

(instrumental) なものと統合的 (integrative) なものがあるとしている。道具的志向とは、言語学習の目標が実利的価値に結びついており、統合的志向は、目標言語集団の一員になりたいなどの社会文化的な理由に基づく。また、Gardner (1985) の社会教育モデルでは、(目標言語社会への) 統合性と学習環境への態度が動機に影響を与え、統合性、学習環境への態度、および動機の3要素で統合的動機が形成されるとしている。そして、教育心理学の立場からは、学習者はどのようにして動機づけられるかが議論されてきた。代表的な知見として、内発的 (intrinsic) 動機づけと外発的 (extrinsic) 動機づけがある

(Deci, 1975)。内発動機づけは、学習者の内面から出てくる動機によって学習が誘発される状態で、学習者は学習すること自体に満足する。外発的動機づけは、外からの刺激 (賞罰や報酬など) や、自分の価値観によって、学習が誘発される

(近藤・小森(編) (2012) 『研究社日本語教育事典』 pp. 89-90)。

動機づけに関する研究では、Gardner&Lambert (1959)、中川・神谷・李 (2006)、石塚 (2007)、田中 (2012)、斉藤 (2016) が挙げられる。まず、Gardner&Lambert (1959) では、「統合的志向」を持っている学習者が「道具的志向」を持っている学習者よりも言語習得するにあたってより成功的であることと、言語を学ぶ態度にも好意的であり言語習得のためにより強い動機づけを持っていると述べている。石塚 (2007) では、日本語学習開始時の動機では「自発的動機」が多く、学習経過において、報酬の獲得や就職という現実的な要素に変化する学生が多かった。斉藤 (2016) では、日本語学習者の日本語学習動機は「他の外国語より面白そうだ」が最も高く、続いて「日本・日本人・日本文化に興味」、「日本の漫画・アニメに興味」が高かった。また、田中(2012) では、日本人との「交流志向」が最も強く日本語学習を動機づけている。中川・神谷・李 (2006) では、日本語学習の目的について、専攻者と非専攻者の両群とも「日本研究や日本への関心」が最も高かった。

このように、先行研究では日本語学習について「統合的動機づけ」が高いという結果が多かったが、本稿では韓国人学習者の数が減少していることから、近年の韓国人学習者の日本語学習動機づけを検討していく。廉

以上のことを踏まえ、本稿の課題として以下の2点を設定する。

第一、近年、韓国の大学における日本語学習者は、日本語学習についてどのような動機づけを持っているのか。

第二、日本語学習動機づけと関連して、日本語学習者は日本語学習の開始・継続についてどのような理由を持ち、将来どのように活かしたいのか。

3. 廉調査の概要

調査は、2017年11月中旬～2018年3月下旬にかけて、韓国のソウル大学（ソウル市）、ソウル神学大学（富川市）、又松大学と忠南大学（大田市）、釜慶大学（釜山市）の5校において、日本語学習者361名を対象として質問紙調査⁴⁾を行った。その後、記入漏れ6名を除く355名の結果を基に分析を行った。内訳については、専攻別では専攻者176名、非専攻者179名であり、性別では男性162名、女性193名で、年齢は20代である。質問紙の質問項目は、田中（2012）、大江（2012）、纓坂・内藤・泉・奥山（2008）、郭・大北（2001）などから「統合的動機づけ」と「道具的動機づけ」に関する項目と金（2016）の対象者のインタビューで出現が多かったことを参考にして35項目を作成した。また、本調査に先立ち韓国の大学における日本語学習者50名を対象として行った予備調査での自由記述から得た内容も参考にした。「日本語学習開始の理由」、「日本語学習を継続している理由」、「日本語を学習して将来にどのように活かしたいか」については、自由記述（複数回答可）で回答を得た。

質問項目においては「1=全然そう思わない、2=そう思わない、3=どちらともいえない、4=そう思う、5=とてもそう思う」から回答を選んでもらい、そこから得たものについて因子分析⁵⁾（主因子法、プロマックス法）を行った。この際、因

4) 質問紙調査は、ソウル大学では、教師がまず授業で調査について説明し、回答はメールで回収した。その他の大学では、教師が授業時間に質問紙を配布し、その場で回収した。

5) 因子分析とは、複数の変数間の関係から変数の共通性や独立性を推定する統計手法であり、観測された複数のデータの背後に共通要因が潜在しているとするのである。プロマックス法とは、先にバリマックス回転を行ってある程度の単純構造を得た後で、因子負荷をべき乗するなどして単純構造をより強調した因子パターンを作ってターゲット行列（目標行列）に指定し、その目標に近づくよう斜交回転を行わせる手法であり、最近では多くの統計家が斜交回転を推奨している（石川・前田・山崎（編）（2010）『言語研究のための統計入門』p. 229）。

子負荷量⁶⁾が0.4以下の項目は除外することにした。その後、専攻者と非専攻者の比較のために、それぞれ因子別と項目別に t 検定⁷⁾を行った。さらに、「日本語学習の開始・継続の理由、日本語を学習して将来どのように活かしたいか」については自由記述から得たそれぞれ内容をEXCELで整理しカテゴリー化して、専攻者と非専攻者の比較を行った。廉

4. 廉調査結果

4.1 廉日本語学習動機づけ

上述した t 検定の結果を以下の表1、表2、表3に示す。

まず、表1に示しているように、日本語学習動機づけについて因子分析を行った結果、6因子が抽出された。

第1因子は「語学学習のためである」（因子負荷量：.941）、「日本語の実力向上が嬉しい」（.888）、「日本語の学習が楽しい」（.717）、「自分の視野を広げるために良い」（.717）などの項目から、語学学習に焦点を当てていることに注目し「語学学習志向」と命名した。第2因子は「日本の文学に興味がある」（.780）、「日本の新聞や雑誌を読みたい」（.657）、「日本の文化・歴史に興味がある」（.636）などの項目であり、日本の文学や文化に興味を持っていることがうかがわれるため、「日本文学・文化志向」、第3因子は「より良い職場に

6) 因子負荷量とは、共通因子が観測変数に与える影響の「重み」、すなわち「因子にかかる負荷の量」である（石川・前田・山崎（編）（2010）『言語研究のための統計入門』p.221）。

7) t 検定とは、対象（サンプル）から得られた平均値をもう1つの対象の平均値と1対1で比較する方法である（米川・山崎（2010）『SPSS 統計解析マニュアル』p.20）。

就職したい」 (.957)、「就職・昇進に有利だから学習したい」 (.858) などであり就職に焦点を当てていることで「就職志向」、第4因子は「専攻である」 (.880)、「卒業のための必修科目である」 (.705)、「大学に入学するため、必要であった」 (.681) などの項目なので日本語学習を内発的ではなく何か道具的に動機づけていることから「道具的志向」と命名した。第5因子は「日本に留学したい(短期・交換留学など)」 (.653)、「将来日本に住みたい(就職、日本人との結婚など)」 (.593) などの項目であるため日本に生活したいという「日本への憧れ」、第6因子は「放射能に関係なく、日本語学習が好き」 (.876)、「日韓関係に関係なく、日本語学習が好き」 (.753)、「地震に関係なく、日本語学習が好き」 (.521) という項目から自然災害や日韓関係にも関係なく日本語学習が好きということがうかがわれるため「日本語学習志向」と命名した。

〈表1〉 廉日本語学習動機づけの因子分析の結果廉

質問項目	1 因子	2 因子	3 因子	4 因子	5 因子	6 因子
	語学学習志向	日本文学・文化志向	就職志向	道具的志向	日本への憧れ	日本語学習志向
13. 語学学習のためである	.941	.044	.104	-.005	-.111	-.164
14. 日本語の実力向上が嬉しい	.888	-.034	.042	.005	.089	-.054
16. 日本語の学習が楽しい	.717	.058	-.027	.024	-.051	.126
11. 自分の視野を広げるために良い	.717	.136	.132	-.062	-.019	-.124
23. 日本人と交流をしたい(友達作りなど)	.641	-.095	-.136	.002	.252	.042
29. 日本に旅行したい	.635	-.104	-.065	-.188	.302	-.082
18. 日本語授業の時間が楽しい	.606	.067	-.061	.100	-.187	.203
24. 日本をより理解したい	.598	.119	-.097	-.009	.167	.047
15. 友達と日本語で話すのが楽しい	.581	.028	-.115	.107	.196	.076
12. 日本語が好きだから	.566	.029	-.027	-.038	.104	.178

17. 韓国語と似ているため、学習しやすい	.534	-.047	.176	-.010	-.203	-.064
28. 日本の食べ物が好き	.491	-.028	.024	-.066	.012	.032
19. 日本人先生との授業が楽しい	.458	-.029	-.048	.081	-.069	.186
32. 日本の文学に興味がある	.018	.780	-.083	-.056	.151	-.047
33. 日本の新聞や雑誌を読みたい	-.080	.657	.028	.010	.258	.047
31. 日本の文化・歴史に興味がある	.208	.636	-.069	.042	-.073	-.066
30. 韓国語と日本語の相違点を知りたい	.363	.497	.082	-.062	-.202	.014
8. より良い職場に就職したい	-.015	-.045	.957	-.075	.103	.016
7. 就職・昇進に有利だから学習したい	-.083	.050	.858	-.042	.001	.066
10. 試験でより良い点数をもらいたい	.463	-.157	.470	.134	.024	-.042
3. 専攻であるから	.051	-.055	-.159	.880	.116	-.094
6. 卒業のための必修科目である	.015	-.015	.112	.705	.000	-.073
4. 大学に入学するため、必要であった	-.152	.063	-.018	.681	-.108	.068
5. 資格習得のためである	.044	.044	.360	.402	.000	.009
34. 日本に留学したい（短期・交換留学など）	.216	.078	.005	-.006	.653	-.071
35. 将来日本に住みたい（就職、日本人との結婚など）	-.029	.093	.000	-.010	.593	.029
9. 日本語が使える職場で働きたい	-.063	.078	.309	.087	.581	.108
21. 放射能に関係なく、日本語学習が好き	.075	.018	.054	-.099	.040	.876
22. 韓日関係（政治・歴史など）に関係なく、日本語学習が好き	.096	-.010	.034	.005	-.009	.753
20. 地震に関係なく、日本語学習が好き	.489	-.047	-.040	.025	.016	.521
寄与率 ⁸⁾ (%)	34.38	10.03	3.90	3.23	2.59	2.26
累計寄与率 (%)	34.38	44.41	48.31	51.54	54.13	56.39

因子抽出法：主因子法

回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

8) 寄与率とは、全測定変数の散らばりに関してそれぞれの因子が説明している量である（寺島・廣瀬(2015)『SPSSによるデータ分析』p.252）。

表2及び表3は、日本語学習動機づけについて専攻者と非専攻者を比較するためにt検定を行った結果である。因子別では第4因子の「道具的志向」(t=13.582, df=353, p<.001)と第5因子の「日本への憧れ」(t=3.737, df=353, p<.001)について、専攻者の方が非専攻者より有意差が非常に高かった。項目別の結果では特に「道具的志向」の中の項目である「専攻であるから」(t=20.924, df=353, p<.001)、「卒業のための必修科目である」(t=11.115, df=353, p<.001)、「大学に入学するため、必要であった」(t=7.138, df=328, p<.001)、「資格習得のためである」(t=3.738, df=350, p<.001)について、専攻者が非専攻者より有意差が非常に高かった。他に、「日本語の実力向上が嬉しい」(t=2.744, df=339, p<.01)、「友達と日本語で話すのが楽しい」(t=3.120, df=344, p<.01)、「日本の文化・歴史に興味がある」(t=2.700, df=343, p<.01)などについても専攻者が非専攻者より有意に高かった。

以上の結果から、専攻者の日本語学習に対する動機づけは、内発的である「統合的動機づけ」より、目的達成のための「道具的動機づけ」が高く、また非専攻者よりもその差が大きいことが明らかになった。

〈表2〉日本語学習動機づけの t 検定の結果 (因子別)

	専攻者 N=176		非専攻者 N=179		t 値
	M ⁹⁾	SD ¹⁰⁾	M	SD	
第4因子 道具的志向	13.17	3.730	7.97	3.487	13.582***
第5因子 日本への憧れ	4.05	.880	3.85	.890	3.737***

*p<.05 廉**p<.01 廉***p<.001

9) 「M」は「平均」を示す。

10) 「SD」は「標準偏差」を示す。

〈表3〉日本語学習動機づけの t 検定の結果（項目別）

	専攻者 N=176		非専攻者 N=179		t 値
	M	SD	M	SD	
日本語の実力向上が嬉しい	4.40	.702	4.17	.871	2.744**
友達と日本語で話すのが楽しい	4.09	.958	3.74	1.137	3.120**
日本の文化・歴史に興味がある	3.78	.992	3.46	1.196	2.700**
日本の新聞や雑誌を読みたい	3.43	1.169	3.14	1.280	2.201*
試験でより良い点数をもらいたい	3.93	1.106	3.54	1.246	3.074**
専攻であるから	3.98	1.058	1.70	.994	20.924***
大学に入学するため、必要であった	2.50	1.251	1.65	.961	7.138***
資格習得のためである	3.15	1.310	2.60	1.459	3.738***
卒業のための必修科目である	3.55	1.347	2.02	1.243	11.115***
日本語が使える職場で働きたい	3.96	1.033	3.34	1.236	5.174***
日本に留学したい（短期・交換留学など）	4.20	.946	3.85	1.144	3.192**

* $p < .05$ 廉 ** $p < .01$ 廉 *** $p < .001$

廉

4.2 廉日本語学習開始・継続の理由、将来どのように活かしたいか

韓国人学習者の日本語学習動機づけと関連して、「日本語学習開始の理由」、「日本語学習を継続している理由」、「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」の3項目について専攻者と非学習者の比較を行った。回答は自由記述を得てカテゴリー化したため、両群のカテゴリー数や内容はそれぞれ異なっている。その結果を、図1、図2、図3それぞれの項目ごとに示す。

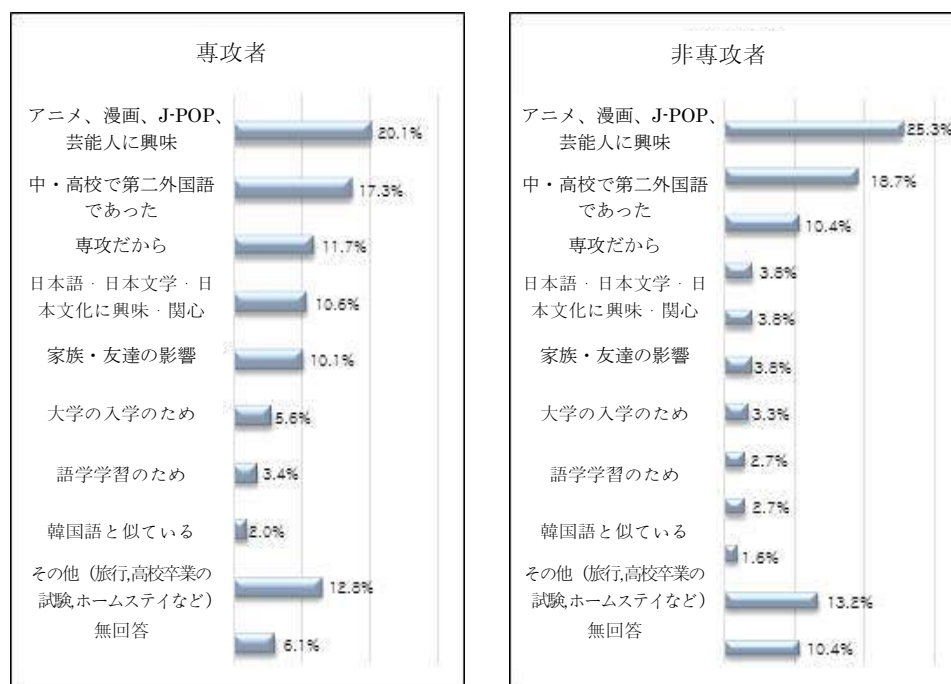


図1 専攻日本語学習開始の理由

図1における「日本語学習開始の理由」について、専攻者の回答数（複数回答可）は計179、非専攻者は計182であった。両群とも最も多かったのは「アニメ、漫画、J-POP、芸能人に興味」であり、回答数はそれぞれ専攻者36答（20.1%）、非専攻者46答（25.3%）であった。次に、「中・高校で第二外国語であった」について専攻者は31答（17.3%）、非専攻者は34答（18.7%）であった。続いて、専攻者の場合は「専攻だから」（21答、11.7%）、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」（19答、10.6%）、「家族・友達の影響」（18答、10.1%）、「大学の入学のため」（10答、5.6%）などであり、「その他」（23答、12.8%）では「旅行」「高校卒業の試験」「趣味」「先生の影響」「日本のメディアの影響」などがあつた。非専攻者の場合は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関

心」(19答、10.4%)、「就職に有利」「単位習得(必修科目)」「親・友達の影響」がそれぞれ(7答、3.8%)、「英語が嫌いだから」(6答、3.3%)などであり、その他(24答、13.2%)では「資格習得」「日本料理を専攻したい」「好きなゲーム」「英語以外の他外国語が学びたかった」などがあつた。

以上の結果から、専攻者には内発的動機づけだけではなく、「専攻だから」、「大学の入学のため」という道具的動機づけが見られた。一方、非専攻者の場合は専攻者には見られなかつた「就職に有利」という動機づけが見られ、日本語学習の目的を最初から「就職」に焦点を当てているのが見られる。

図2は、現在「日本語学習を継続している理由」についての結果である。専攻者と非専攻者の回答数(複数回答可)はそれぞれ計188であり、両群の回答内容は異なつていた。まず、専攻者の場合は「専攻である」(61答、32.4%)、非専攻者は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」(47答、25.0%)が最も高かつた。続いて、専攻者は「日本語学習が楽しい」(21答、11.2%)、「就職のため」(20答、10.6%)、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」(14答、7.4%)、「語学学習」(9答、4.8%)などであり、その他(25答、13.3%)では「交換留学」「日本人との交流」「自己満足」「日本についてもっと知りたい」などがあつた。また、非専攻者の場合は「就職のため」(20答、10.6%)、「資格の習得」(15答、8.0%)、単位取得(13答、6.9%)、「日本語の実力向上」(10答、5.3%)、「日本旅行、趣味」(9答、4.8%)などであり、その他(18答、9.6%)では「試験のため」「卒業のため」「日本に住みたい」などがあつた。

以上の結果から、専攻者の場合には日本語学習開始の理由とは異なり、「専攻である」が最も多い理由となつた。また、開始の理由には見られなかつた「就職のため」、「進学・進路」の項目が見られた。非専攻者は学習開始の理由と同様

に、「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」という「統合的」動機づけが最も多く、「就職のため」、「資格の習得」、「単位習得」については、学習開始の理由より学習継続の理由となっていることが分かった。

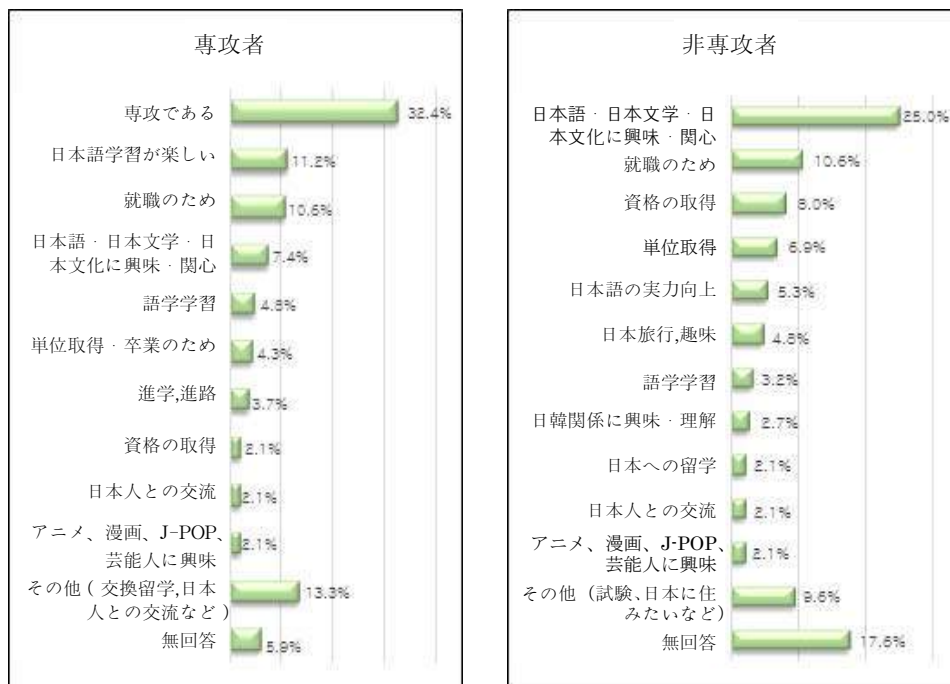


図2 専攻・非専攻による日本語学習を継続している理由

次に、「日本語を学習して将来どのように活かしたいか」についての結果を図3に示す。

図3における「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」について、専攻者の回答数（複数回答可）は計199、非専攻者の回答数は計205である。両群とも最も多かったのは「就職のため」であり、専攻者は119答（59.8%）、非専攻者は100答（48.8%）であった。続いて、専攻者は「進学（大学院など）」（15答、7.

5%)、「趣味(旅行、読書)」(13答、6.5%)、「日本人との交流」(12答、6.0%)などであり、その他(16答、8.0%)には「日韓関係の改善のため働きたい」「日韓関係に関して正しく理解したい」「資格習得」「ただの言語学習」などがあった。非専攻者の場合は「就職のため」に続いて「趣味(旅行)」(28答、13.7%)、「日本人との交流」(13答、6.3%)、「日本に住みたい」(5答、2.4%)などであり、その他(15答、7.3%)では「対人関係のため」「視野を広げるため」「語学学習」「活用価値はない」などがあった。

以上の結果から、専攻者と非専攻者の両群とも「就職のため」という回答が5割前後と非常に高かった。続いて、専攻者の回答では「進学」が高かったことに比べ、非専攻者は「趣味(旅行)」として活かしたいという回答が高く、専攻者とは異なる結果であった。専攻者の場合は、日本語を専攻として「就職」と「進学」に繋げようとしていることが見られるが、非専攻者の場合は、教養科目として受講していることから、日本語学習を就職や趣味(旅行)などに役に立つということで、日本語学習の将来の目的が専攻者とは少しは異なることが示唆される。

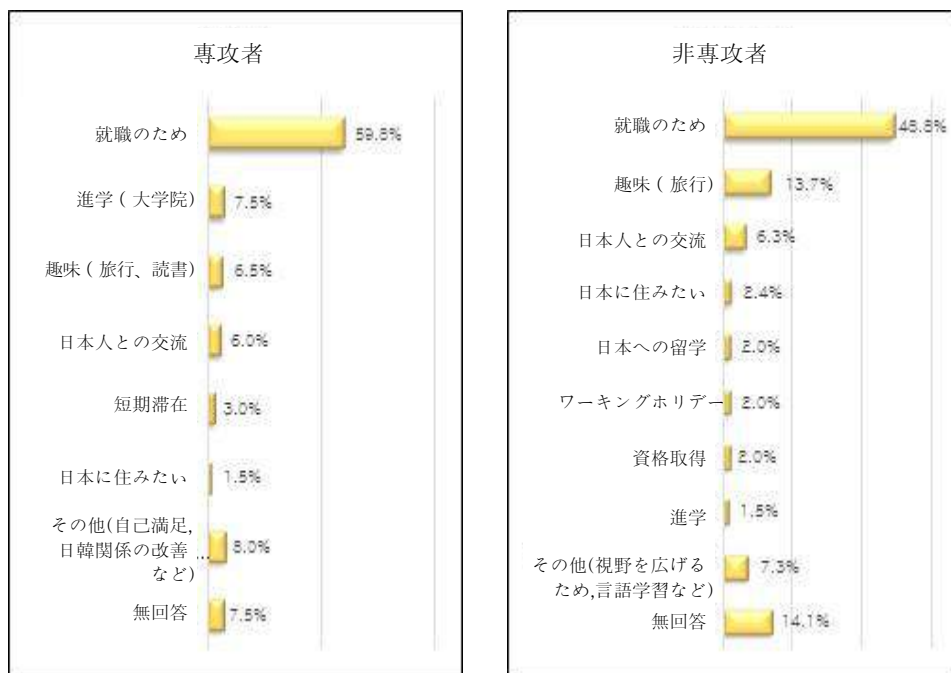


図3 韓国語を学習して将来にどう活かしたいか

5. 廉おわりに

5.1 廉日本語学習動機づけ

本稿では、韓国の大学における日本語学習者を対象として、近年の日本語学習動機づけを検討し、専攻者と非専攻者の比較を行った。

日本語学習動機づけについて、因子分析の結果では「語学学習志向」「日本文学・文化志向」「就職志向」「道具的志向」「日本への憧れ」「日本語学習志向」という6因子が抽出された。また、専攻者と非専攻者を t 検定で比較した結果、「道具的志向」と「日本への憧れ」について専攻者の方が非専攻者より有意差が

非常に高かった。特に、「専攻であるから」「大学に入学するため、必要であった」「卒業のための必修科目である」という回答が多く、日本語学習を内発的ではなく道具的に動機づけていることが見られた。これは、日本への興味・関心があるため日本語を専攻したいということではなく、「大学修学能力試験¹¹⁾の成績に合わせて大学に入学して専攻するようになった」という道具的な目的として日本語学習を始めたことが示唆される。

しかしながら、専攻者の場合、日本語学習開始の時には内発ではなかったとしても、日本語関連学科に入学したからには日本語が自分の専攻であるため、将来「日本語が使える職場で働きたい」、「日系・日本の企業に就職したい」などの「専攻を活かしたい」という考えから、「就職」に非常に関連づけていることが考えられる。また、非専攻者の場合も、現在「就職難」である韓国社会の特徴から、日本語学習開始の時点から「就職に有利」という日本語学習の目的が見られたことから、日本語を教養科目として学習して「自分の専攻に合わせて日本に就職希望」しているという現状も考えられる。

5.2 廉日本語学習開始・継続の理由、将来どのように活かしたいか

まず、日本語学習動機づけと関連し「日本語学習開始の理由」については、専攻者と非専攻者の両群とも「アニメ・漫画、J-POP、芸能人に興味」の回答が最も多く、続いて多かったのは「中・高校で第二外国語であった」であった。しかし、「専攻だから」と「大学の入学のため」は専攻者にのみ見られた理由であった。これは、「日本・日本人・日本語学習が好きだから」という「統合的動機づけ」ではなく、「大学修学能力試験」の点数に合わせて日本語関連学科に入学し

11) 「大学修学能力試験」とは、1994年度から韓国の大学入学の評価に導入された試験であり、この用語は「大学で修学できる能力を評価する試験」を意味する。

専攻することになったという目的達成のための「道具的動機づけ」であることが示唆される。

次に、「日本語学習を継続している理由」については、専攻者と非専攻者の間には大きな違いが見られた。専攻者の場合は「専攻であるから」という「道具的動機づけ」、非専攻者は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」という「統合的動機づけ」が最も高かった。これは、専攻者の場合はすでに大学に入って日本語を専攻しているため、日本語が「専攻であるから」大学卒業まで続けようとするのが示唆される。一方、非専攻者の場合は日本・日本語への興味・関心を持って日本語学習を継続している「統合的」な特徴が見られたのは、大学で教養科目での外国語授業であるため、日本の国や人、言語などを知ることを楽しんでいるものと考えられる。また、「就職のため」について両群とも回答数が多かったのは、専攻者の場合は自分の専攻分野を将来に活かしたいという気持ちが多く、非専攻者は自分の専攻以外に外国語を習得し就職する際にアピールができる点から「就職に有利」と考えていることも示唆される。

最後に、「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」については、専攻者（約6割）と非専攻者（約5割）の両群とも「就職のため」という回答が圧倒的に多かった。これは、「就職難」である韓国社会の状況を強く反映したものと考えられる。特に、専攻者はもちろん非専攻者も「日本への就職」という志望が多く見られる。

以上のことから、日本語学習動機づけについて、韓国の大学における日本語教師は「統合的動機づけ」はもちろん、特に現在韓国社会の特徴である「就職の問題」に関連付け、「道具的動機づけ」に焦点を当てれば、韓国人学習者の日本語学習の動機づけがより高まり、韓国人学習者や専攻者の数を増やす方略になると考える。

今後の課題としては、韓国人学習者や専攻者の増減に関連して、日本語関連分野の専攻者だけでなく、非専攻者の日本語学習動機づけについても、より詳細な調査研究を進める必要がある。

【参考文献】

- 石塚健 (2007) 「韓国人大学生の日本語学習動機と自律性－学年別の動機づけと自己決定の段階性を中心に－」 『日語日文学』 第36輯, pp.141-157
- 纒坂英子・内藤伊都子・泉千春・奥山洋子 (2008) 「韓国の日本語教育状況の変化と大学生の日本語学習－日本語学習動機と日本・日本人イメージの検討－」 『日本学報』 75輯, pp.299-309
- 纒坂英子・奥山洋子 (2003) 「韓国人大学生の対日観と日本語学習動機形成要因の検討」 『日本学報』 54, pp.187-198
- 大江恵子 (2012) 「韓国人日本語学習者の対日イメージ」 『東京女子大学言語文化研究』 20, pp.16-29
- 片田康明 (2016) 「日本語を学ぶ動機と日本に対する意識について－留学生へのアンケート調査結果から－」 『外国語教育：理論と実践』 42, pp.67-99
- 金元正 (2016) 「日本の韓国人留学生受入れ促進戦略への提言－対日イメージと韓国の大学をめぐる現状に焦点を当てて－」 九州大学大学院, 修士論文
- 郭俊海・大北葉子 (2001) 「シンガポール華人大学生の日本語学習の動機づけについて」 『日本語教育』 110号, pp.130-139, 日本語教育学会
- 近藤安月子・小森和子 (編) (2012) 『研究社日本語教育事典』 研究社出版
- 斉藤朋美 (2004) 「韓国の大学生の日本、日本人、日本語に対する意識とイメージ形成に影響を与える要因について」 『日本語文学』 21韓国日本語文学会 pp.35-56
- 斉藤朋美 (2016) 「日本語学習者と中国語学習者の学習動機とイメージ研究－韓国の大学生を対象としたアンケート調査の結果からみえるもの－」 『日本語教育研究』 第37輯, pp.81-100
- 田中洋子 (2012) 「韓国人大学生の日本語学習動機づけに関する研究」 韓国外国語大学校大学院, 博士学位論文
- 寺島拓幸・広瀬毅士 (2015) 『SPSSによるデータ分析』 東京図書
- 中川かず子・神谷順子・李俊鎬 (2006) 「韓国における日本語学習者の日本と日本文化に対する意識 (1)－大学の日本語専攻・非専攻生に対する調査から」 『北海学園大学人文論

集』第35, pp.41-69

- 縫部義憲・狩野不二夫・伊藤克浩 (1995) 「大学生の日本語学習動機に関する国際調査－ニュージーランドの場合－」 『日本語教育』86号, pp.162-172 日本語教育学会
- 石川慎一郎・前田 忠彦・山崎誠 (編) (2010) 『言語研究のための統計入門』くろしお出版
- 米川和雄・山崎貞政 (2010) 『SPSS統計解析マニュアル』北大路書房
- Gardener, R.C. & W.E. Lambert (1959) Motivational variables in second language Acquisition, *Canadian Journal of Psychology*, 13, pp.266-72
- 교육부 국외 한국인 유학생 정보공개 (教育部 「国外韓国人留学生情報公開」)
- <http://www.moe.go.kr/boardCnts/list.do?boardID=350&m=040103&s=moe> (検索日2018.09.13)
- 교육통계서비스 (教育統計サービス)
- <http://kess.kedi.re.kr/index> (検索日2018.09.13)
- 法務省 「在留外国人統計 (旧登録外国人統計) 統計表」
- http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html(検索日2018.09.13)
- 日本語教育振興協会 「日本語教育機関の概況」
- <http://www.nisshinkyoo.org/article/overview.html> (検索日2018.09.13)
- 国際交流基金 「海外の日本語教育の現状2015年度日本語教育機関調査より」
- <https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html> (検索日 2018.09.13)

논문 투고 일자 : 2018. 09. 21.

논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.

게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 韓国における大学生の日本語学習動機づけの検討
 —日本語関連専攻者と非専攻者の比較—

金元正

本稿は韓国の大学における日本語学習者を対象として、近年の日本語学習の動機づけを検討し、さらに日本語関連専攻者と非専攻者の比較を行った。日本語学習の動機づけについての因子分析の結果では、「語学学習志向」「日本文学・文化志向」「就職志向」「道具的志向」「日本への憧れ」「日本語学習志向」の6因子が抽出された。専攻者と非専攻者のt検定の結果では、「道具的志向」と「日本への憧れ」について、専攻者が非専攻者より有意に高かった。特に「道具的志向」の項目である「専攻であるから」「大学に入学するため、必要であった」「資格習得のためである」「卒業のための必修科目である」などについては専攻者の方が非常に高かった。また、「日本語学習開始の理由」については、専攻者と非専攻者の両群とも「アニメ・漫画、J-POP、芸能人に興味」が最も高かった。「日本語学習を継続している理由」については、専攻者は「専攻である」、非専攻者は「日本語・日本文学・日本文化に興味・関心」が最も高かった。「日本語を学習して将来にどう活かしたいか」については、両群とも「就職のため」が最も高かった。

 The Motivation of Korean University Students to Learn Japanese
 — A Comparison of Japanese Majors and Non-Performing Majors —

Kim, Won-Jung

This study focuses on Japanese language learners at Korean universities. We considered their motivation for studying the Japanese language in recent years and compared the results to those of studies on non-Japanese majors. The results of a factor analysis on the motivation for studying the Japanese language showed that six factors were at play: language learning, Japanese literature and culture, job seeking, instrumental oriented motivation, hope for Japan, and learning the Japanese language. According to the results of the T-test conducted among major and non-major students, those who were influenced by “instrumental oriented motivation” and “hope for Japan” were significantly more than those who were influenced by non-majorities. In response to the question, “What motivated you to learn Japanese?” both groups mostly said, “Animation, comic strip, J-pop, interest in celebrities.” In response to the question, “Why do you continue to learn Japanese?” Japanese majors mostly said, “Because this is my major” while non-Japanese majors mostly answered, “Interest in the Japanese language, culture, and literature.” In response to the question, “How will you use the Japanese language in the future?” both groups mostly said, “To find jobs.”

한일 의뢰행동의 의뢰 스트라테지의 대조분석

-대학생의 담화완성테스트 자료 분석을 통해서-

김 종 완*

(e-mail : tegamikure@hanmail.net)

< 목 차 >

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 연구목적 | 4. 분석결과 |
| 2. 조사방법 | 4.1. 주의환기부와 보조수반부의 사용실태 |
| 3. 분석자료 및 분석방법 | 4.2. 의뢰부의 의뢰스트라테지의 사용실태 |
| | 4.3. 주요행위부의 시점에 의한 분류 |
| | 5. 결론 및今后的 과제 |

키워드 : 依頼(request), 對照研究(Contrastive Study), 談話完成テスト(Discourse Completion Test), ストラテジー(strategy), 異文化間語用論(cross-cultural pragmatics)

1. 연구목적

이문화화용론(cross-cultural pragmatics)은 서로 다른 문화적 배경을 가지는 언어사용자에 의해서 이루어지는 언어행위(linguistic action)에 관한 연구이다. 문화의 차이가 언어커뮤니케이션에 어떻게 영향을 미치는지를 화용론의 구조를 이용해서 연구하는 분야라고 할 수 있다. 이문화화용론의 목적은 한마디로 이야기하면, 어떤 특정 언어문화에 있어서의 언어의 기능이나 구조와 사회문화적 문맥과의 체계적 관계를 밝히는 것이라고 할 수 있다.

이문화화용론의 연구방법은 복수언어의 대조연구이다. 대화참여자가 자신의 문화적 배경을 반영시키면서 어떻게 언어행위를 하는 지를 밝히기 위해서 연

* 전주대학교, 일본언어문화학과, 시간강사, 사회언어학, 담화분석

구자는 복수의 서로 다른 문화나 언어를 비교하는 것이다. 대상으로 하는 화용론적 특징은, 직접성과 간접성의 정도, 발화내효력이나 폴라이토네스를 전달하는 스트라테지와 언어형식의 범위 및 그들의 문맥적인 분포, 상황인식 방법, 발화행위에 주어지는 문맥변수의 영향등 광범위하다.

이 연구들에 의해서 언어를 초월하여 공통된. 보편적인 특징과 함께 화용론적, 담화적 기능의 선택과 실현에 관한 문화간, 언어간의 상이점을 알게 되었다.

대표적인 연구로는 1980년대 중반에 실시된 「이문화간 발화행위 실현 프로젝트」(The Cross-Cultural Speech Act Realization Project:CCSARP)가 있다. 이 연구는 다음과 같은 3가지 목표를 가지고 여러 국가의 연구자들의 협력을 얻어서 실시되었다.

- (1) 동일한 사회제약 아래에서의 서로 다른 언어사이의 발화행위의 실현패턴에 관한 유사점과 상이점을 밝힌다(이문화간변이)
- (2) 특정 언어 공동체내의 발화행위의 실현 패턴에 대한 사회적 변수의 영향을 밝힌다.(사회화용론적 변이)
- (3) 동일한 사회적 제약 아래서의 대상언어의 모어화자와 비모어화자의 발화행위의 실현 패턴에 관한 유사점과 상이점에 관한 연구(중간언어변이)

이 CCSARP의 연구에 영향을 받아서 한국과 일본에서도 주로 의뢰, 사죄, 감사, 권유, 거절과 같은 언어행위에 관한 대조연구와 접촉장면에서 각 언어의 학습자들의 발화행위의 특징(중간언어)들에 관한 연구가 활발하게 이루어지고 있다.

의뢰행동에 나타나는 의뢰표현에 관해서는 오기노 외(荻野他1990), 나카미즈(エレン・ナカミズ1992), 가시와자키(柏崎秀子1993), 오고시(生越1995), 하마다(浜田1995), 가와무라(河村光雅1999), 유혜정(柳慧政2005), 세키구치(關口2007), 아크도안·오하마(アクトーアン・ブナル・大浜るい子2008) 등, 일본어 모어화자와 한국어 모어화자 및 한국인 일본어 학습자, 중국인 일본어 학습자 등과의 비교를 통해서 의뢰행동에 사용되는 의뢰표현의 사용실태를 의뢰자와 피의뢰자의 사회적 속성(나이, 권력관계, 의뢰내용의 부담도, 지역)에 따라서 분석하고 있다.

또한, 구마이(熊井1992), 구마가이(熊谷1995), 나카미치·쓰치이(中道・土井1995), 엄정미(嚴廷美1999), 유혜정(柳慧政2007), 이토(伊藤2003), 이자키(猪崎保子2000a, 2000b), 가시와자키(柏崎秀子), 강석우(姜錫祐2007), 쓰치다(槌田和美2003) 등은 일본어와 한국어, 중국어에 나타나는 의뢰행동의 언어 스트라테지의 특

정을 대인배려적 언어 스트라테지를 브라운과 레빈슨(Brown & Levinson, 1987)의 폴라이토네스 이론에 근거하여 적극적 체면유지 전략과 소극적 체면 유지 전략 가운데서 어느 쪽을 더 선호하는지를 중심으로 분석하였다.

하지만, 한국과 일본에서 이루어진 한국어와 일본어의 의뢰행동에 관한 대조 연구들은 그 분석기준이 다른 언어들의(특히, 영어권의 분석기준)과는 동떨어진 문제점을 가지고 있다. CCSARP의 분류기준을 사용해서 영어 및 유럽 언어들의 의뢰표현 및 의뢰스트라테지의 연구결과들과 비교연구가 가능할 것이다.

본고에서는 한일 대학생의 의뢰행동에 관한 담화완성테스트 분석자료를 CCSARP의 분석방법을 사용하여 한국어와 일본어의 의뢰행동에 사용되는 의뢰표현과 의뢰스트라테지의 특징을 밝히려 한다.

2. 조사개요

본고의 연구목적은 달성하기 위해서, 한일 대학생을 대상으로 담화완성테스트를 실시하였다.¹⁾ 본고에서는 언어 외적요소의 차이(연령, 사회적 지위, 의뢰 내용의 부담도)에 의한 의뢰행동의 특징을 분석하기보다는, 동일한 언어상황에서 나타나는 모어화자의 의뢰행동의 실태를 분석하여, 한국어와 일본어 의뢰행동에 사용되는 의뢰표현과 의뢰스트라테지의 언어적 특징을 규명하려고 한다.

조사에 사용한 의뢰상황은 미국 대학탐방 프로그램에 참가하기 위해서 지도교수(3~40대의 여성)의 연구실을 방문해서 동의서와 추천서를 부탁하는 상황이다. 구체적인 의뢰상황은 아래와 같다.

<언어행동의 상황설정>

- ① 학생의 상황: 학생은 A항공사가 실시하는 미국 대학 탐방 프로그램에 참가하려고 한다.

1) 담화완성테스트(Discourse Completion Test)를 이용한 연구 방법은 특정 화행이 이루어지는 상황에서 사회적인 변인을 연구자가 임의로 조정할 수 있고, 연구자가 얻고자 하는 화행 자료들을 비교적 짧은 시간동안 다량 확보할 수 있는 장점이 있다. 반면, 실제 사용하는 구어와는 다른 자료를 수집하게 될 수도 있다는 점과 전체 발화를 파악할 수 없다는 한계점을 가지는 것도 사실이다. 본고에서는 한일 의뢰스트라테지의 스트레오 타입을 파악한다는 연구 목적을 달성하기 위해서 담화완성테스트 연구방법을 이용하였다. 본고의 연구결과를 기반으로 금후 인터뷰 조사를 통한 실제 대화자료를 분석하기로 한다.

- ② 필요한 서류: 프로그램에 참가하는데 필요한 서류는 신청서(학생이 작성), 지도교수의 동의서(지도교수가 보증인이 됨), 동의서에는 지도교수의 개인정보(연령, 수입, 주거 등)를 기입하는 항목이 있고, 보증인이 되는 것을 승낙한다는 서명이 필요하다. 이 두 가지 서류는 반드시 제출해야만 한다. 이 외에 지도교수의 추천서가 있으면 심사에 반영된다는 규정이 있다.
- ③ 지도교수와의 관계: 지도교수는 30~40대의 선생님이로 몇 번 이야기를 나누어 적어 있다.²⁾

위와 같은 의뢰장면을 설정하여 의뢰행동의 스트레오타입을 밝히기 위한 담화 완성테스트 항목은 다음과 같다.

질문) 이 때 귀하가 교수님께 실제로 부탁을 드린다면 어떻게 말씀을 드리겠습니까? 구체적으로 기입해 주십시오.

교수님: 오늘 오기로 했었지? 그런데 무슨 일이지?

귀 하: _____

구체적인 조사시기, 조사지역, 조사대상자수는 <표1>과 같다.

<표1> 조사시기와 조사대상자

국가	조사시기	조사지역 및 조사대학	조사대상자/ 분석대상자
한국	2009년 5월~6월	서울 / 중앙대학교	416명/ 354명
일본	2009년 7월,12월 2010년 4월	도쿄/明海大學, 實踐女子大, 清泉女子大, 首都大學東京, 東京大學, 橫濱國立大學, 早稻田大學	414명/ 352명

3. 분석자료 및 분석방법

CCSARP의 분석모델에 의하면, 의뢰행위의 발화는 (A) 주의환기부(alerter), (B) 보조수반부(supportive move), (C) 주요행위부(head act)라는 서로 다른 기능을 하는 3부분으로 구성된다.³⁾

2) 롤플레이팅 조사는 2008년도에 선정된 한국학술진흥재단의 기초연구과제 지원사업인 ‘한중일 3국의 이문화커뮤니케이션에 관한 보편성과 특수성 연구’의 연구 자료를 이용하였다. 필자는 이 연구 프로젝트의 연구원으로 참가하여 조사를 실시하였다.

(A) 주의환기부(alerter)

이름, 호칭부르기 등에 의해서 상대의 주의를 환기하는 부분

(B) 보조수반부(supportive move)

사정의 확인, 이유의 제시, 중요성 강조 등 상대를 재촉해서 의뢰의 내용을 실현하기 위해서 주요행위부(head act)의 전후에 추가하는 부분. 의뢰의 효력(FTA)을 경감하거나 강화하는 역할을 한다.⁴⁾

(C) 주요행위부(head act)

실제로 의뢰표현을 사용해서 의뢰행동을 하는 부분

그리고 주요행위부(head act)는 사용되는 언어표현의 형식의 직접성의 강약에 따라서 9개의 세부적인 의뢰 스트라테지로 분류한다.

<표2> Blum-kulka, House & Kaspre의 요청화행의 주전략⁵⁾

의뢰표현의 분류	예 문
(1) 서법에 의한 도출 (Mood Derivable)	“동의서 작성도 해 주시고요.” “同意書を書いてください
(2) 명백한 수행문의 사용 (Explicit Performative)	부탁을 드리려고 왔습니다 お願いします
(3) 약화된 수행문의 사용 (Hedged Performative)	써 주시기를 부탁드립니다 署名のほうをいただけたらなと思ひまして
(4) 의미의 도출 (Location Derivable)	교수님 동의서가 필요합니다 同意書を提出しなければなりません
(5) 소망의 표시 (Want statements)	부탁을 드리고 싶어서요 ちょっと頂きたいのですが
(6) 제안성 어구의 사용 (Suggestory Formulae)	도움을 청해도 괜찮겠습니까? おねがいしてもよろしいですか。
(7) 예비적 조건 언급 (Preparatory)	추천서 좀 써 주실 수 있으시겠습니까? その推薦状を書いていただけますでしょうか
(8) 강한 암시 (Strong Hint)	동의서와 추천서를 쫓끔... 今回伺ったんですけれども...
(9) 약한 암시 (Mild Hint)	본고의 분석자료에는 나타나지 않음

3) 清水崇文(2009)에서 인용 및 정리

4) 의뢰의 효력(FTA)을 경감하거나 강화하는 역할을 하는 보조수반부는 주요행위부의 전후에 사용되기도 하지만, 실제로는 주요행위부 안에서도 사용되어 의뢰의 효력을 경감하거나 강화할 수도 있다. 본고에서는 주요행위부 안에서 사용되는 언어표현들도 보조수반부로 취급한다. 주요행위부 안에 사용되는 보조수반부를 내적 보조수반부, 주요행위부 전후에 사용되는 보조수반부를 외적 보조수반부로 분류한다.

5) 최수진(2008)을 참조

또한, 주요행위부(head act)는 동작주를 누구로 하는가라는 시점을 기준으로 해서 (1) 화자 지향, (2) 청자지향, (3) 포괄, (4) 비인칭으로 분류할 수 있다.

CCSARP에서는 의뢰행동에 사용되는 언어표현을 그 기능에 따라서 분류하여 그 사용실태의 분석을 통해서 언어의 기능이나 구조와 사회문화적 문맥과의 체계적 관계를 밝혀왔다. 이러한 CCSARP의 분석모델을 사용하여 본고의 분석자료에 나타난 담화자료를 분석해 보면 다음과 같이 분류할 수 있다.

분석예1)

お忙しいところ、すみません。實はAA 航空會社のプログラムでアメリカの
(보조수반부-사죄)

大學を訪問するというものがありまして、(중략)

あつてがましいのはわかっておりますが、もし、よろしかったら、
(보조수반부-상황인식) (보조수반부-의사존중)

先生の推薦狀もいただきたいのですが…
(주요행위부)

본고에서는 CCSARP의 분석모델을 사용하여 지금까지 한일 의뢰표현의 대조연구에서는 다루지 못했던 서양 언어들과 동일한 분석기준을 사용해서 한국어와 일본어의 의뢰표현과 의뢰스트라테지의 사용 실태를 살펴보고 한다. 본고의 연구 목적을 달성하기 위해서 4장에서는 다음과 같은 내용을 분석한다.

- (1) 주의환기부, 보조수반부의 사용실태
- (2) 주요행위부의 9가지의 의뢰스트라테지의 사용실태
- (3) 주요행위부의 시점에 의한 사용실태

4. 분석결과

본고의 분석자료를 CCSARP의 기준에 따라서 분류하면 다음과 같은 결과가 나타났다.

4.1. 주의환기부와 보조수반부의 사용실태

본고의 분석자료에 나타난 주의환기부와 보조수반부의 사용실태는 아래의 표와 같다.

<표3> 주위환기부와 보조수반부의 사용실태

	주의환기부			보조수반부									합계
				내적			외적						
	인사	호칭	합계	의사존중	상황인식	사죄	중요성강조	보상	확인	감사	피해행동	대안제시	
한국어	76 (45.2)	92 (52.8)	168 (100)	41 (17.5)	60 (25.5)	15 (6.4)	48 (20.5)	9 (3.8)	8 (3.4)	19 (8.1)	30 (12.8)	4 (1.7)	234 (100)
일본어	4 (100)	0 (0.0)	4 (100)	39 (15.5)	50 (19.9)	48 (19.1)	42 (16.7)	21 (8.4)	29 (11.6)	0 (0.0)	19 (7.6)	3 (1.2)	251 (100)

<표3>을 살펴보면, 우선 한국어 분석자료에서는 <주의환기부>인 「인사」와 「호칭」의 사용이 두드러지게 나타나고 있는데 비해서 일본어 분석자료에서는 거의 나타나고 있지 않는 것이 특징적이다. 「인사」와 「호칭」은 분석자료의 담화를 처음 시작하는 부분으로 지도교수에게 동의서와 추천서를 의뢰해야 한다는 주어진 상황의 부담도를 조금이라고 줄여서 의뢰자가 목표로 하는 의뢰행동을 성공시키기 위한 발화라고 할 수 있다. 이때, 한국어에서는 「인사」를 함으로써 지도교수의 주의를 환기시키고, “교수님”이라는 「호칭」을 사용함으로써, 지도교수와 본인과의 심적인 거리를 줄이려고 하는 것이라고 할 수 있다.

이에 비해 일본어 분석자료에서는 담화의 시작을 한국어와는 달리 「사죄」로 시작하는 경우가 많았다. 즉, 담화완성테스트의 분석자료에서는 일본어의 경우 <주의환기부>가 거의 나타나고 있지 않다고 할 수 있다.

김중완(2018)에서는 실제 톨플레잉 인터뷰 조사의 담화자료를 분석하였는데, 지도교수의 연구실에 입실하면서, ‘しつれいします’와 ‘こんにちは’라는 <주의환기부>를 사용하고 있다. 그에 비해 본고의 분석자료인 담화완성테스트에서는 <주의환기부>를 사용하지 않는 경향을 나타내서 조사 방법에 따라서 사용실태가 다르게 나타나고 있다고 할 수 있다. 그에 비해 한국어 분석자료는 그러한 조사 방법의 차이에도 불구하고 「인사」와 「호칭」 발화가 이루어지고 있어, 이 두 개의 발화가 한국어와 일본어에서 서로 다른 역할을 하고 있는 것을 알 수 있다.

<주요행위부> 전후와 <주요행위부> 안에서 사용되는 <보조수반부>의 사용실태를 살펴보면, <주요행위부>의 의뢰표현 안에서 사용되는 내적 보조수반부는 한국어와 일본어 모두 큰 차이를 보이지 않고 유사한 형태를 띠고 있음

을 알 수 있다. 그에 비해 주요행위부의 전후에 사용되어서 의뢰 효과의 강화나 경감하는 역할을 하는 외적 보조수반부의 사용실태는 한국어와 일본어에서 차이가 나타나고 있다.

그 사용실태는 한국어에서는 「중요성 강조」 > 「피해행동」 > 「감사」 > 「사죄」 > 「보상」의 순이고, 일본어에서는 「사죄」 > 「중요성 강조」 > 「확인」 > 「보상」 > 「피해행동」의 순으로 나타났다.

보조수반부의 사용실태에서 두드러지는 것은 일본어 분석자료에서는 「사죄」, 「확인」, 「보상」의 사용이었고, 한국어 분석자료에서는 「감사」, 「피해행동」의 사용이었다. 일본어 분석자료에서는 사회적 지위가 높은 사람에게 의뢰를 할 때 발생하는 FTA를 경감시키고 해소하기 위해서 발화의 첫 부분에서 「사죄」를 하고, 한국어 분석자료에서는 「감사」 표현을 사용하거나 「피해행동」을 하지 않겠다는 보증을 그 효과를 달성하려고 한다.

분석예2)

お忙しいところすみません。實は、アメリカの大學を訪問できるプログラムが
(보조수반부-사죄)

ありまして、その申し込みに指導教授の同意書が必要なんです。そこで、教授に同意書の作成をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか？

(주요행위부)

(보조수반부-확인)

분석예3)

안녕하세요. ○○학과 ○○학번 ○○○입니다. 시간 내주셔서 감사합니다.

(주의환기부-인사)

(보조수반부-감사)

제가 이러이러한 프로그램을 참여하려 하고 이러이러한 이유로 꼭 하고 싶은데 교수님의 동의서가 있다면 될 확률이 커집니다.

(보조수반부- 중요성 강조)

부담되실 줄 알지만 해주신다면 정말 감사하겠습니다.

(보조수반부-상황인식) (주요행위부+보조수반부-감사)

특히 분석예3)을 보면 알 수 있듯이 한국어 분석자료에서는 <주요행위부>에 사용하는 의뢰발화에 “동의서를 작성해 주시면 감사하겠습니다”와 같이 감사를 나타내는 언어표현을 추가하는 경향이 나타났다.

자신의 행동에 대한 「사죄」로 FTA를 줄이려고 하는 일본어와 지도교수의 행동(의뢰의 수락)에 대해서 미리 「감사」 표현을 사용함으로써 FTA를 줄이려고 하는 스트라테지의 차이를 확인할 수 있다.

4.2. 의뢰 스트라테지의 사용실태

한국어 분석자료와 일본어 분석자료의 <주요행위부>에 사용된 의뢰표현을 CCASRP의 의뢰 스트라테지 분류기준에 따라 나누면 아래와 같다.

<표4> 분석자료의 의뢰스트라테지의 사용실태

의뢰 스트라테지의 분류	사용수	
	한국어	일본어
(1) 서법에 의한 도출(Mood Derivable)	4(1.2%)	1(0.3%)
(2) 명백한 수행문의 사용(Explicit Performative)	41(12.0%)	19(5.3%)
(3) 약화된 수행문의 사용(Hedged Performative)	127(37.1%)	46(12.9%)
(4) 의미의 도출(Location Derivable)	84(24.6%)	51(14.3%)
(5) 소망의 표시(Want statements)	16(4.7%)	83(23.2%)
(6) 제안성 어구의 사용(Suggestory Formulae)	18(5.3%)	21(5.9%)
(7) 예비적 조건 언급(Preparatory)	41(12.0%)	121(33.9%)
(8) 강한 암시(Strong Hint)	11(3.2%)	15(4.2%)
(9) 약한 암시(Mild Hint)	0(0.0%)	0(0.0%)
합계	342(100%)	357(100%)

<표4>를 살펴보면, 한국어 모어화자는 「약화된 수행문의 사용」 > 「의미의 도출」 > 「예비적 조건언급」, 「명백한 수행문의 사용」의 순서로 의뢰표현을 사용하고 있다. 일본어 모어화자는 「예비적 조건 언급」 > 「소망의 표시」 > 「의미의 도출」 > 「약화된 수행문의 사용」 순으로 사용빈도가 높게 나타나고 있다. 즉, 지도교수에게 동의서와 추천서를 부탁하는 동일한 상황에서 사용하는 의뢰표현의 사용실태가 한국어와 일본어에서 서로 다르게 나타나는 것을 알 수 있다.

<표4>는 (1)이 가장 직접적인 의뢰표현이고 (9)로 갈수록 간접도가 높아지는 특징을 가지고 있다. 그에 따르면 일본어 분석자료의 의뢰 스트라테지에 비

해서 한국어 분석자료의 의뢰 스트라테지가 더 직접적이고 명백한 수행문을 사용하고 있는 것을 알 수 있다. 또한 가장 선호하는 의뢰 스트라테지는 한국어 분석자료에서는 「약화된 수행문의 사용」이고 일본어 분석자료에서는 「예비적 조건 언급」이라는 것을 알 수 있다. 즉, 동일한 사회적 상황(지도교수와 학생의 의뢰상황) 아래서 사용되는 의뢰 스트라테지의 실태는 한국어와 일본어 언어사회에서 서로 다르게 나타나고 있다고 할 수 있다.

4.2.1. 한국어의 의뢰스트라테지의 사용실태

본고의 한국어 분석자료에 나타나는 의뢰스트라테지의 사용 빈도는 「약화된 수행문의 사용」 > 「의미의 도출」 > 「예비적 조건언급」, 「명백한 수행문의 사용」의 순이었다.

「약화된 수행문의 사용」은 수행동사에 울타리치기 표현(Hedge)을 추가해서 의뢰행동이 가지는 FTA를 경감시키려고 하는 의뢰 스트라테지이다. 한국어 분석자료에서는 주로 ‘동의서를 써 주시면 감사하겠습니다’, ‘동의서를 써 주셨으면 합니다’, ‘부탁드리려고 합니다’와 같은 의뢰표현이 사용되었다. 즉, ‘동의서를 써 주십시오’, ‘부탁드립니다’와 같은 직접적이고 명시적인 의뢰표현(‘명백한 수행문의 사용’)에 ‘~으면 합니다’, ‘~려고 합니다’와 같은 울타리치기 표현(Hedge)을 추가하는 것이다.

분석예4)

제가 A항공사에서 실시하는 미국대학 탐방프로그램에 지원하려고 하는데 여기에 교수님의 동의서가 필요합니다.

괜찮으시다면 동의서 작성을 해 주시면 감사하겠습니다

(보조수반부-의사준중) (주요행위부+보조수반부-감사)

그러한 울타리치기 표현 가운데, 한국어 분석자료에서는 ‘~주시면 감사하겠습니다’와 같이 지도교수의 행동에 감사를 나타내는 표현이 자주 사용되었다. 지도교수의 행동에 직접적이고 명시적으로 “감사합니다”라는 표현을 사용해서 고마움을 나타내는 표현이다. 이와 같이 한국어 분석자료에서는 의뢰 전 후(보조수반부)나 의뢰표현에 지도교수의 행동(의뢰의 수락)에 대해서 감사를 표현함으로써 의뢰목적의 달성하려고 하는 스트라테지를 자주 사용하고 있는 것을

알 수 있다. 일본어 분석자료에서는 이와 같이 직접적으로 ‘うれしいです、ありがたいです’라는 울타리치기 표현이 사용되는 경우는 거의 없었다. 반면, ‘作成していただけませんか’와 같이 수수표현을 사용함으로써 지도교수의 행동에 대해서 감사함을 간접적으로 나타내고 있다.

「명백한 수행문의 사용」은 ‘부탁드립니다’가 주로 사용되었는데, 크게 ‘부탁드립니다’와 ‘부탁드리러 왔습니다’의 의뢰표현이 사용되고 있다. 이와 같이 직접적으로 수행문을 사용하는 의뢰스트라테지의 사용빈도가 높은 것이 한국어 분석자료에 나타나는 의뢰 스트라테지의 특징이라고 할 수 있다. 하지만, 이러한 「명백한 수행문의 사용」은 청자(지도교수)에게 부담이 되는 체면손상행위(FTA)이기 때문에 주로 그러한 위험성을 줄이기 위해서 「중요성 강조」나 「피해행동삼가」의 보조수반부가 같이 나타나는 경우가 많았다.

분석예5)

다름이 아니고, 제가 미국 탐방 프로그램에 대한 정보를 찾아보다 꼭 지원하고 싶은 프로그램을 찾았는데 ~ 한 점에서 특히 도움이 됩니다. (중략)

(보조수반부- 중요성 강조)

곤란하실까 몇 번이나 망설였지만 지원조차 해보지 않는 것이 후회로 남을까봐 이렇게 찾아왔습니다.

(보조수반부-중요성 강조)

교수님께 피해나 문제가 될 행동은 절대 하지 않을 것입니다. 부탁드립니다

(보조수반부-피해행동삼가)

(주요행위부)

‘예비적 조건 언급’은 분석예6)처럼 “~ 써 (작성해) 주실 수 있으세요?”와 “부탁드려도 될까요?” 와 같이 지도교수의 능력과 의향을 묻는 표현과 허가를 구하는 표현이 주로 나타났다.

분석예6)

안녕하세요, 교수님. 오늘 약속을 한 1학년 ○○○입니다. 지금 시간 괜찮으
(주의환기부-인사, 호칭)

시면 부탁드립니다 있는데요. 제가 이번 미국탐방프로그램에 참가하려 하는데 교수님 동의서가 필요합니다. 실례되지 않는다면 좀 써주실 수 있으세요?

(보조수반부-상황인식) (주요행위부)

일본어 분석자료에서는 가장 사용빈도가 높은 의뢰 스트라테지인데, 한국어에서는 사회적 지위가 높은 지도교수의 능력과 의향을 묻는 체면손상행위(FTA)의 경향이 나타나는 표현이기 때문인지 그 사용빈도가 일본어 분석자료에 비해서는 적게 나타나고 있다. 또한, 일본어 분석자료에 나타나는 ‘예비적 조건 언급’은 주로 ‘作成していただけますか’와 같이 수수표현을 사용함으로써, 지도교수의 능력을 묻는 체면손상행위(FTA)를 회피하고 있는 것과는 달리 한국어 의뢰발화에서는 그러한 회피 장치가 사용되고 있지 않다.

4.2.2. 일본어의 의뢰스트라테지의 사용실태

일본어 모어화자의 의뢰표현은 「예비적 조건 언급」 > 「소망의 표시」 > 「의미의 도출」 > 「약화된 수행문의 사용」의 순으로 나타났다. 한국어 분석자료와 비교해서 「예비적 조건 언급」과 「소망의 표시」의 사용을 선호하는 것이 특징적이다. 한국어 분석자료의 경우에는 「예비적 조건 언급」의 의뢰 스트라테지는 지도교수의 능력이나 의향을 묻는 표현이 주로 사용되었다. 사회적으로 지위가 높은 사람의 능력이나 의향을 직접적으로 묻는 표현은 체면손상행위(FTA)의 경향이 강하게 드러나는 의뢰 스트라테지라고 할 수 있다. 그러한 이유로 한국어 분석자료에서는 「예비적 조건 언급」의 사용이 적게 나타나고 있다고 할 수 있다.

그에 비해서, 일본어 분석자료에 나타나는 「예비적 조건 언급」은 한국어 분석자료와는 다른 특징을 나타내고 있다.

분석예7)

プログラムに参加したいのですが、教授の同意書が必要です。

迷惑となる行動はとりませんので、同意書を作成していただけませんでしょうか。

(보조수반부-피해행동참가) (주요행위부)

한국어 분석자료에 나타난 「예비적 조건 언급」의 “동의서를 써 주실 수 있으세요?”를 일본어로 번역하면, “同意書を作成していただけますか”라고 할 수 있겠지만, 이렇게 청자(지도교수)의 능력을 묻는 표현은 일본어 분석자료에서는 나타나지 않았다. 일본어 분석자료에 나타난 「예비적 조건 언급」의 의뢰 표현은 크게 수수표현(授受表現)인 ‘作成していただけますか’와 ‘お願いできま

すか'가 나타났다. 즉, 수수표현을 사용함으로써, 동의서를 작성하는 행위의 주체는 지도교수이지만(同意書を作成する), 그러한 상황을 표현하는 발화의 주어를 의뢰자로 함으로써, 사회적 지위가 높은 사람에게 동의서를 요구하는 의뢰행위가 가지는 체면손상행위(FTA)를 회피하려고 하고 있는 것을 알 수 있다.

또한 수수표현을 사용하는 「예비적 조건 언급」의 의뢰 스트라테지는 '作成していただけますか'와 같이 부정의문형이 긍정의문형 '作成していただけますか'보다 자주 사용되고 있다. 이러한 의뢰표현에서의 부정형의 사용은 상대에 대한 배려와 정중도가 높아지는 것으로 지도교수와 학생이라는 사회적 지위 차이에 의해서 나타나는 의뢰 스트라테지라고 여겨진다.

이러한 수수표현을 사용하는 의뢰 스트라테지는 「소망의 표시」에도 자주 나타나고 있다. 「소망의 표시」 의뢰 스트라테지는 한국어 분석자료에서는 사용빈도가 상당히 낮는데 비해서 일본어 분석자료에서는 그 사용빈도가 높게 나타나고 있다.

분석예8)

はい、私は以前からアメリカの大學を訪問したいと考えておまして、訪問できるプログラムがあると知ってぜひ参加したいので、先生に同意書を書いていただきたいのですが、お願いできませんか。

분석예9)

はい、アメリカの大學を訪問できるプログラムに参加するための同意書を書いていただきたくて來ました。

분석예10)

~プログラムに参加しようと思っているのですが、先生の御署名等が必要なので、よろしければ記入していただきたいのですが、

「소망의 표시」 의뢰 스트라테지에 사용되는 의뢰표현으로는 '～ていただきたい'가 주로 사용되고 있는데, 이 「소망의 표시」에서는 분석예8)~분석예10) 처럼 'きました'나 'おねがいでできますか'와 같이 의뢰표현의 뒤에 추가적인 표현들이 첨가되는 경향을 보였다. 또한, 발화를 “よろしければ記入していただきたいのですが,”처럼 뒤의 발화를 생략함으로써 자신의 감정을 단정적으로 나타

내는 것을 회피하고 있다. 이것은 한국어 분석자료에 나타나는 ‘동의서를 써 주셨으면 합니다’와 같이 희망표현을 단정적으로 이야기하는 것과는 차이가 나는 것으로 자신의 희망하는 감정을 직접적으로 표현하는 것을 회피하려고 하는 의뢰 스트라테지라고 여겨진다.

4.3. 주요 행위부의 시점에 의한 분류

CCSARP에서는 주요 행위부(head act)인 의뢰표현에 사용되는 수행동사의 수행주체를 누구로 해서 이야기하는 지에 따라서 (1)화자 지향(의뢰자), (2) 청자지향(지도교수), (3) 포괄, (4)비인칭으로 분류하였다. 본고의 분석자료에서는 이 가운데 (3)포괄은 나타나지 않았다.

본고의 분석자료에 나타난 시점에 의한 주요 행위부(의뢰표현)의 사용실태를 살펴보면 아래의 표와 같다.

<표5> 의뢰표현의 시점에 따른 분류

	한국어			일본어		
	화자지향 (의뢰자)	청자지향 (지도교수)	비인칭	화자지향 (의뢰자)	청자지향 (지도교수)	비인칭
1	0(0.0%)	4(1.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.3%)	0(0.0%)
2	33(9.6%)	7(2.0%)	1(0.0%)	18(5.0%)	1(0.3%)	0(0.0%)
3	86(25.1%)	37(10.8%)	3(0.9%)	38(10.6%)	7(2.0%)	1(0.3%)
4	43(12.6%)	6(1.8%)	37(10.8%)	19(5.3%)	5(1.4%)	27(7.6%)
5	8(2.3%)	8(2.3%)	0(0.0%)	49(13.7%)	34(9.5%)	0(0.0%)
6	8(2.3%)	9(2.6%)	0(0.0%)	17(4.8%)	3(0.8%)	1(0.3%)
7	2(0.6%)	38(11.1%)	1(0.3%)	56(15.7%)	64(17.9%)	0(0.0%)
8	4(1.2%)	2(0.6%)	5(1.5%)	6(1.7%)	0(0.0%)	8(2.2%)
	184(53.8%)	111(32.5%)	47(13.7%)	203(56.9%)	115(32.2%)	37(10.4%)

<표5>를 살펴보면 한국어 분석자료와 일본어 분석자료 모두 화자지향의 의뢰표현의 사용빈도가 가장 높고 청자지향, 비인칭의 순으로 나타나고 있다. 이것은 CCSARP의 조사를 기반으로 한 Blum-Kulka(1989)의 유럽 언어(영어, 독일어, 프랑스어, 스페인어, 호주영어, 아르헨티나 스페인어, 헤브라이어)에 나타나는 의뢰스트라테지의 조사결과와는 상반된 결과를 보이는 것이다.⁶⁾

6) 清水崇文(2009)에서 재인용 및 정리

Blum-Kulka(1989)에 의하면 유럽언어에서는 “Could you clean up the kitchen, please?”와 같은 청자지향의 의뢰표현의 사용빈도가 높게 나타나고 있다. 특히 아르헨티나 스페인어의 경우 「청자지향」이 97.4%나 되는 것과는 다른 결과를 보이고 있다. 이것은 영어 및 유럽 언어에서는 의뢰행위를 청자(의뢰를 받아 주는 사람)의 행위라고 여기는 데 비해서 한국어와 일본어는 의뢰행동을 화자(의뢰자)의 행위로서 파악하려고 하는 경향이라고 할 수 있다.

하지만, 화자지향의 성향이 강한 한국어와 일본어의 의뢰 스트라테지도 구체적인 언어표현을 중심으로 살펴보면 차이를 보인다. 가장 특징적인 모습들을 보이는 것은 「예비적 조건 언급」의 의뢰스트라테지라고 할 수 있다.

한국어 분석자료에 나타나는 「예비적 조건 언급」을 살펴보면 다음과 같이 주로 “작성해 주실 수 있으시나요?”, “써 주실 수 있을까요?” “가능하신가요”와 같이 청자지향의 의뢰표현을 사용하고 있는 것을 알 수 있다.

분석예11)

교수님, 안녕하세요. 저는 XX과 △△△입니다. 바쁘세요? 다름이 아니라, 부탁드려야 할 일이 있어서요. 제가 미국 대학 탐방 프로그램에 지원하게 되는 데, 교수님의 추천서가 필요합니다. 작성해주실 수 있으시나요?

그에 비해 일본어 분석자료에 나타나는 「예비적 조건 언급」을 살펴보면 주로 “どうかお願いできませんでしょうか。”, “同意書にサインをいただけませんか。”, “よろしければ、この同意書を書いていただけませんか。”와 같은 의뢰표현이 사용되었다. 이 가운데, お願いできませんかと サインをいただけませんか는 화자지향의 의뢰표현이다. 그리고 나머지 “書いていただけませんか。”의 표현은 청자지향의 의뢰표현이다. 하지만, 이 청자지향의 의뢰표현은 한국어 분석자료의 「예비적 조건 언급」에 청자지향의 의뢰표현과는 다른 점이 있다.

분석예12)

アメリカの大學を訪問したいと考えていて、それには指導教授の同意書が必要となってしまうんですが、書いていただけますか。

분석예12)처럼 청자지향의 의뢰표현을 사용하지만, 일본어의 경우 수수표현인 ‘～いただけますか’라는 표현을 사용해서 마치 화자지향의 의뢰표현인 것처럼

표현을 하고 있다. 일본어 수수표현이 가지고 있는 청자의 행동에 대한 고마움, 은혜(恩惠)를 나타내는 특징을 적극 이용한 관용적인 의뢰표현이라고 생각된다.

5. 결론 및 금후의 과제

본고에서는 학생이 지도교수에게 추천서를 의뢰하는 동일한 상황에서의 한국어와 일본어의 의뢰 스트라테지를 담화완성테스트(DCT)의 조사자료를 Blum-Kulka 등이 주도한 「이문화간 발화행위 실현 프로젝트」 (The Cross-Cultural Speech Act Realization Project:CCSARP)의 분석방법을 사용하여 분석하였다.

그 결과, 의뢰행위가 가지는 체면손상행위(FTA)의 경감을 위해서 한국어는 의뢰표현의 전후에 감사 표현을 사용하고 있고, 일본어는 사죄표현을 사용하는 경향이 나타나고 있음을 알 수 있었다. 또한, 의뢰행위의 주행위부에 나타나는 의뢰 스트라테지의 특징은 한국어 분석자료에서는 ‘약화된 수행문의 사용’과 ‘명백한 수행문의 사용’, ‘약화된 수행문의 사용’, ‘의미의 도출’이 자주 나타나고, 일본어 분석자료에서는 ‘예비적 조건 언급’, ‘소망의 표시’, ‘의미의 도출’이 자주 나타나서, 동일한 언어 상황아래에서 사용하는 의뢰 스트라테지가 서로 다르게 나타나고 있는 것을 알 수 있었다.

마지막으로, 의뢰행위를 의뢰자와 피의뢰자의 누구에게 초점을 맞춘 행위라고 생각하는 지를 알아 보기 위해서, 시점에 따라서 분류를 해 보았다. 그 결과, 영어 및 유럽 언어들과는 달리 화자 지향의 경향이 강하게 나타나고 있는 것을 알 수 있었다.

이와 같이 한국과 일본의 대학생을 대상으로 한 담화완성테스트의 담화자료를 분석해서 CCSARP의 분석방법에 따라서 한국어와 일본어의 의뢰표현 및 의뢰 스트라테지를 분석해 본 결과 그 유사점과 상이점을 알 수 있었다.

금후의 과제로서는 이러한 언어문화적인 특징을 가지는 한국어와 일본어의 의뢰스트라테지가 이문화간 커뮤니케이션 환경인 접촉장면에서는 어떠한 모습으로 나타나는 지를 인터뷰 조사를 통해 얻어진 담화자료를 분석하여 살펴보고 싶다.

【참고문헌】

- 김중완(2013) 「한중일 의뢰행동의 스트라테지의 대조연구- 설문지 조사의 '정보제공'의 실태 분석을 통해서 -」 『日本文化研究』 第48輯, 동아시아일본학회
- _____ (2018) 「한중일 의뢰행동에 나타나는 상호행위 양상 연구 - 대화개시부의 분석을 중심으로-」 『日本研究』 48集, 中央大學校日本研究所, pp.71-88.
- 최수진(2008) 「한국어와 중국어의 요청화행 대조 분석 연구」 『한국어문학회학술포럼』 Vol.10, pp.160-186.
- アクターアンパナル・大浜るい子(2008) 「日本人學生とトルコ學生の依頼行動の分析-相手配慮の視点から-」 『世界の日本語教育18』, 國際交流基金日本語センタ, pp.57-72.
- 池田裕・三好里英・淺井尚子・章奕(2000) 「中國人日本語學習者の言語行動-日本語と中國語における依頼-」 『多摩留學生センター教育研究論集』 2
- 岡本眞一郎(1985) 「要求の言語表現の検討」 『愛知學院大學文學部紀要』 14, pp.29-42.
- (1988) 「依頼表現の使い分けの規定因」 『愛知學院大學文學部紀要』 18, pp.7-14.
- 沖裕子(2010) 「日本語依頼談話の結節法」 『日本語學研究』 第28輯, 韓國日本語學會, pp.119-136.
- 嚴廷美(1999) 「日本語と韓國語の依頼の構造とストラテジー—moveの観点から—」 『言語情報科學研究』 第4号, 東京大學言語情報科學研究會, pp.47-68.
- 姜錫祐(2007) 「韓國人と日本人のコミュニケーション行動に關する比較對照研究-依頼行動における依頼主の意識に注目して-」 『日本語學研究』 19, 韓國日本語學會, pp.13-28.
- 熊井造子(1992) 「外國人の待遇行動の分析(1)-依頼行動を中心にして-」 『靜岡大學教養部研究報告 人文・社會科學編』 第28卷第1号, 靜岡大學教養部, pp.271-314.
- 熊谷智子(1995) 「依頼の仕方-國研岡崎調査のデータから」 『日本語學』 Vol.14, 10月号, 明治書院, pp.22-32.
- 笹川洋子 (1999) 「アジア社會における依頼のポライトネス (for you or for me)について-日本語・韓國語・中國語・タイ語・インドネシア語の比較-」 『親和國文』 Vol. 34, 神戸親和女子大學, pp.154-181.
- 謝恩(2001) 「談話レベルから見た「依頼發話」の切り出し方-日本人大學生同士と中國人大學生同士の依頼談話から-」, 『日本語教育年報』 5, pp.77-101.
- 清水崇文(2009) 『中間言語語用論』 スリーエーネットワーク
- 柳慧政(2004) 「依頼談話の日韓比較研究-依頼のための情報提供の現れ方を中心に-」 『日本學報』 第58輯, 韓國日本語學會, pp.163-174.
- _____ (2005) 「韓國語と日本語の依頼表現の對照研究-依頼表現の使い分けを中心に-」 『日語日文學研究』 53輯, 韓國日語日文學會

논문 투고 일자 : 2018. 10. 13.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 日本語と韓国語の依頼行動の依頼ストラテジーの対照分析
 —大學生の談話完成テストの分析を中心に—

金鍾完

本稿は韓国と日本の大學生を対象に指導教官に推薦状を依頼する際に使う依頼表現と依頼ストラテジーを異文化語用論の観点から考察したものである。分析には1980年代に行われた「異文化間發話行爲表現プロジェクト」(The Cross-Culutral Speech Act Realization Project:CCSARP)を基に行われた。

その結果、韓国語と日本語の依頼ストラテジーは異なっていることがわかった。韓国語は、注意喚起部として“先生”、“こんにちは”のような呼び掛けや挨拶表現をよく使っていることがわかった。このような發話を通じて、指導教官との親密感を高めようとしている。FTAを軽減する表現として使われる補助手番部の使用は、韓国語は感謝などの表現をよく使っているのに對して、日本語は謝罪などの表現をよく使っていることがわかった。依頼表現を韓国語をより直接的な依頼表現をよく使い、日本語は間接的な慣用表現をよく使っていることがわかった。依頼ストラテジーを視点によって分析した結果、韓国語と日本語は、英語とヨーロッパ諸語とは異なり、話者志向の依頼表現をよく使っていることがわかった。

 Comparative Analysis of Requested Stroke Requests for Japanese and
 Korean Requests
 – Analysis of Discourse Completion Tests of University Students

Kim, Jong-Wan

In this paper, we have considered the expressions of request and request for recommendation letters to university instructors in Korea and Japan from the viewpoint of intercultural linguistics. The analysis was conducted in the 1980s The Cross-Culutral Speech Act Realization Project "(CCSARP).

As a result, it was found that the Korean and Japanese dependency strategies differed from each other, and that Korean language was used frequently as a call - to - call department, such as "teacher" and " The use of ancillary parts used as expressions to reduce the FTA is a good example of how Korean expresses good expressions of appreciation On the other hand, I found that Japanese is using a lot of expressions such as apologies, etc. I use Japanese expressions more often than Japanese, and Japanese often use indirect idiomatic expressions I understood.

일본현대시를 통한 비유표현 수업방안

남 이 숙*

(e-mail : ysnam@kunsan.ac.kr)

< 목 차 >

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 들어가며 | 2.2 은유의 개념과 시 속에서의 의미 작용 |
| 2. 본론 | 2.3 일본현대시를 통한 직유와 은유 수업전략 |
| 2.1 직유의 개념과 시 속에서의 의미 작용 | 3. 나오며 |

キーワード：日本現代詩(Modern Japanese poetry), 直喩(simile), 隱喩(Metaphors), 授業(Lesson), 詩作(Poetry Writing)

1. 들어가며

필자는 최근 몇 년간 일본현대시 수업을 담당하고 있다. 일본시를 교재로 수업할 경우 보통 본문을 독해하고 감상을 논하고 끝내는 경우가 많았다. 그런데 최근 수강생에게서 <현대시는 난해해서 피하려 했는데 들을 과목이 없어서 선택하게 되었다>라는 이야기를 들었다. 이 이야기를 듣고 난해함을 해소하기 위해서 어떤 수업을 해야 할까 고민에 빠졌다. 학생들이 시 수업을 어렵게 받아들이는 이유는 무엇일까. 아마도 비유와 상징을 많이 사용하는 시세계가 애매하고 다의적이기 때문일 것이다.

그렇다면 지금까지와 다른 방법으로 수업에 접근해야 한다. 시도 미술이나 음악과 같은 예술작품이다. 예술작품을 감상할 때 표현기법은 매우 중요하다. 시 역시 표현기법에 관해 주목하게 하면 차원이 다른 감상이 이루어지지 않을까. 시인이 자신의 생각을 독자에게 효과적으로 전달하기 위해 가장 공을 들이는 부분은 표현기법에 있을 것이다. 그렇다면 시인들이 선호하는 표현기법은

* 군산대학교, 교수, 일본문학

무엇일까. 필자의 생각으로는 비유법을 들 수 있을 것 같았다. 비유표현에는 직유 은유 제유 환유 등 여러 가지를 들 수 있는데 그 중에서도 직유와 은유가 가장 많이 사용된다고 생각된다.

따라서 본고에서는 먼저 일상어 속에서의 직유와 은유의 개념을 살펴보고 이러한 표현들이 시 작품 속에서는 어떻게 사용되고 있는지 알아보려고 한다.

나아가 직유와 은유표현을 풍부하게 사용하고 있는 일본현대시를 선정하여 언어교육의 측면에서 비유표현이 어떤 역할을 하는지, 학생들에게 비유를 효과적으로 전달하는 방법은 무엇인지, 구체적인 수업전략에 관해서도 고찰하고자 한다.

2. 본론

2.1. 직유의 개념과 시 속에서의 의미 작용

세계는 20세기 후반 컴퓨터와 인터넷으로 촉발된 3차 산업혁명인 지식 정보 혁명에 이어 모든 것이 인터넷으로 연결되고 인간과 사물의 데이터가 수집·축적·활용되는 새로운 4차 산업혁명의 시대에 이르렀다. 이러한 시대에 지식의 습득은 꼭 필요한가. 그렇지 않다고 말하는 사람이 많지만, 결코 그렇지 않다고 생각한다. 지속가능한 발전과 더 나은 세상을 만들기 위해서는 지식의 활용이 과거보다 훨씬 더 중요하다. 대학에서 행해지는 수업 또한 지식을 활용하여 보다 나은 사고력과 창의력을 갖게 해야 하는데, ‘비유표현’ 역시 이에 부합하는 주제라고 생각된다. 배상문씨가 언급하듯이 ‘잘 만들어진 비유를 들을 때, 갑자기 하나의 세계가 육박해 들어오고, 새로운 감각의 문이 벌컥 열리는 듯한 경험¹⁾을 할 수 있기 때문이다. 이상과 같은 관점에서 ‘비유’란 시를 이해하는 가장 중요한 핵심개념이라 할 수 있고, 이를 잘 이해하도록 설명하고 핵심질문을 하는 것은 수업의 가장 중요한 포인트가 될 수 있다고 생각된다.

그렇다면 비유란 개념은 어떻게 정의할 수 있을까.

동양에서 비유에 해당하는 용어는 처음에는 비(譬), 비(比)라는 말을 써왔다. 서양에서 비유를 의미하는 트롭(trope)은 그 어원에 전환(turn)이라는 뜻이 있

1) 배상문(2014), 『비유의 발견』, 북포스, p.7

다. 『웹스터사전』(Webster's Third New International Dictionary, 1966)에는 “어떤 관념에 생명을 부여하거나 강조하기 위하여 그 말에 속하는 원래의 의미와는 다른 의미로 쓰는 말이나 표현의 용법”이라고 정의하고 있다. 2)

먼저 알기 쉬운 비유에 관하여 생각해 보자. 일본어 표현을 겹해서 가르쳐 줘야 하는 수업이므로 예를 일본어로 들어 보자.

일본어에서는 ‘母は鬼のようだ・あたかも〇〇のごとく・まるで天使みたいだ’라든가의 표현과 같은 것을 예로 들 수 있다. 한국어로도 <물이 얼음장 같다>라든가 <저 아이는 인형처럼 귀엽다>와 같은 표현을 직유로 떠올릴 수 있을 것이다. 일상에서 많이 쓰이는 <마치~과 같다> <흡사~인 양> <~처럼>과 같은 설명이 붙는 표현으로 흔히 접할 수 있는 표현이다.

그런데 이처럼 유사한 것을 빌려다 표현하는 이유는 무엇 때문일까. ‘네 엄마는 어떤 사람이야?’ 라는 질문을 받았을 때 무섭기는 한데 그 느낌을 뭐라 언어로 표현하기 어렵다고 느낄 때가 있다. 그럴 때 누군가를 구체적으로 이해시키기 위해 ‘엄마는 도깨비 같다(母は鬼のようだ)’라고 할 수 있다. 자신의 사고나 감정을 쉽게 전달하기 위해 무엇인가 비근한 예를 찾아 표현해서 전달하고자 하는 욕구를 가지게 되는 것이다. 비유란 이처럼 새로운 발견이다. 하지만 위에서 언급한 직유는 이미 속담이나 일상어 속에 많이 쓰이고 있어 특별한 재능을 지니지 않은 사람들도 별다른 노력 없이 사용하고 있다. 그렇기 때문에 소홀히 취급하기 쉬운데, 반드시 그런 것만은 아니다. 조선일보의 다음 문장을 살펴보자.

트럼프와 함께 일하는 건 벼랑 끝을 영원히 걷는 것과 마찬가지다. 3)

이러한 표현들은 장식이 아니라 인간의 사고와 추론을 이끌어낸다. <트럼프와 일하는 건 늘상 위험이 따른다>는 표현과는 다르다. 듣는 사람들은 기사의 이해를 돕기 위해 <벼랑 끝을 영원히 걷는 것>이 어떠한 일인지 상상력을 동원하고 연상의 범위를 확장시킬 것이다.

문학작품의 경우, 더욱 참신한 것들이 많아 창의성을 향상시키거나 연상 작용을 풍부히 하기에 도움이 된다. 다음의 三好達治 「土」를 감상해 보자.

2) 문덕수(1996), 『시론』, 시문학사, p.153 재인용

3) http://news.chosun.com/site/data/html_dir/2018/09/06/2018090600251.html?utm_source=naver&utm_medium=original&utm_campaign=news (검색일: 2018.09.06.)

蟻が/ 蝶の羽をひいて行く/ ああ/ ヨットのやうだ。

(詩集『三好達治詩集』1951年刊)

개미가 나비의 날개를 끌고 가는 모습을 요트의 모습에 비유해 새로운 시각을 촉발하고 있다. 얼마나 기발한 발상인가. 자신보다 커다란 나비 날개를 운반하는 개미의 모습에서 선명하게 드러난 시인의 느낌이 오롯이 전달되고 있다. 이질적인 두 사물의 유사성을 새로운 시각으로 관찰하여 비유시를 탄생시키고 있다.

직유는 우리의 이상화의 시 <빼앗긴 들에도 봄은 오는가>를 통해서도 볼 수 있다. 이 시는 국토를 빼앗긴 암담한 현실에서 느끼는 비애와 울분이 화사한 봄 들판의 정경과 대비되면서 시인의 독백형식의 강렬한 어조를 통해 진솔하게 드러난다.

지금은 남의 땅 빼앗긴 들에도 봄은 오는가?

나는 온몸에 햇살을 받고
푸른 하늘 푸른 들이 맞붙은 곳으로
가르마 같은 논길을 따라 꿈속을 가듯 걸어만 간다.

…중략…

바람은 내 귀에 속삭이며
한 자욱도 썼지 마라, 옷자락을 흔들고.
종다리는 울타리 너머 아씨같이 구름 뒤에서 반갑다 웃네.

고맙게 잘 자란 보리밭아,
간밤 자정이 넘어 내리던 고운 비로
너는 삼단 같은 머리털을 감았구나, 내 머리조차 가뻐하다.

…중략…

내 손에 호미를 쥐어 다오.
살진 젓가슴과 같은 부드러운 이 흙을
밭목이 시도록 밟아도 보고, 좋은 땀조차 흘리고 싶다.

…후략…

(『韓國의 名詩』 종로서적 1984년)

지면의 제한이 있어 전체 내용이 훼손되지 않은 한도 내에서 직유와 관련된 부분만 인용해 보았다. 그 중 직유를 사용한 부분만을 발췌하면 다음과 같다.

가르마 같은 논길을 따라
종다리는 울타리 너머 아가씨같이 구름 뒤에서 반갑다 웃네
(보리밭) 너는 삼단 같은 머리털을 감았구나
살찐 젓가슴과 같은 부드러운 이 흙을

이 시에서 쓰인 가르마와 논길, 아가씨와 종다리, 보리밭과 삼단 같은 머리털, 살찐 젓가슴과 흙은 서로 다르면서도 닮은 요소를 결합시켜 표현되고 있다. 이러한 것들의 결합을 통해 이 시에 나타난 우리 국토와 자연은 실제보다 훨씬 아름답고 사랑스럽고 화사한 것으로 탄생하게 된다. 시인의 의도적인 비유를 사용한 시어구사(詩語驅使)로 비록 나라는 빼앗겨 얼어붙어 있을망정 우리에게 민족혼을 불러일으키는 봄의 풍경은 빼앗길 수 없다는 사실이 더욱 부각되고 있다.

다음은 세련된 시어와 확실한 운율로 온화한 정감을 느끼게 하는 영국을 대표하는 크리스티나 로세티⁴⁾ 시이다. 시인이 15, 16세 무렵 읊은 시로 제목은 ‘생일’이다.⁵⁾

わたしのころは、みずみずしい若枝(わかえ)に
巢(ね)ごもって歌(うた)う小鳥(こどり)のよう。
わたしのころは、枝(えだ)も撓(たわ)まんばかりに
よき果(み)をつけたりんごの木(き)のよう。
わたしのころは、冬至(とうじ)のころの海風(うみなぎ)に
水(みづ)あそびする虹色(にじいろ)の貝(かい)のよう。
わたしのころは、それら(それら)にもましてうれしいの。
なぜ(なぜ)って、人恋(ひとこい)うことを知りそめたのですもの。

わたしのためにしつらえてほしいの、絹(きぬ)と羽毛(うぶげ)とでできた雛壇(ひなだん)を。

4) Christina Georgina Rossetti, 1830년12월5일 - 1894년12월29일 런던 출생. 《왕자의 순력(巡歷) Prince's Progress》(1866)과 때묻지 않은 순결한어린이의 마음을 노래한 동요시집 《창가(唱歌) Sing-Song》(1872) 《신작 시집 New Poems》(1896) 등 발표

5) https://torunotabi.at.webry.info/200609/article_9.html 2018. 9.16, 齋藤正二 일본어 번역을 참조

そこに飾りたててほしいの、鳩の模様を、ざくろの模様を。

蛇の目ちらしの孔雀の模様を。

そこに細工をちりばめてほしいの、金銀のぶどうのかたちを。

葉をあしらった銀の百合のすがたを。

2연의 마지막 두 행에서 볼 수 있듯이 여인의 생명은 사랑하는 것을 포용하고 보호하는 행위를 통해서 비로소 나날이 새로워진다. 나아가 그 진실에 눈을 떴을 때의 감동은 강렬하다. 1연은 사랑의 감정에 사로잡힌 자신을 내 마음은 싱싱한 어린 가지에 깃들여 노래하는 새 같고 내 마음은 가지가 휘어질 정도로 좋은 열매를 맺은 사과나무 같고 내 마음은 동지 무렵 잔잔한 바다에서 물놀이하는 무지개 색 조개와 같다고 직유 표현을 통해 기쁨과 희열에 가득 찬 느낌을 부드럽우면서도 온화하게 전달하고 있다.

직유가 아니면 이처럼 생생한 전달이 가능할까. 절대로 불가능하다고 생각한다. ‘많은 사람들이 직유에 관하여 은유보다 가치가 낮다’⁶⁾고 단정 짓는데 결코 그렇지 않다. 상식적으로 결코 유사성이 없는 것에서 닮은 점을 찾아내 이처럼 연결 지어 표현하는 것은 새로운 것을 발견해내는 창의력과 밀접한 관계가 있기 때문이다. 시인이 발견해내는 직유란 이처럼 상식적으로 전혀 유사성이 없는 것의 유사성을 창조해내는 표현이다. 요컨대 직유에 의해 유사성을 성립하게 하는 것이다. 이러한 노력이 시에서 참신한 표현이 되고 경우에 따라서는 새로운 사고방식을 제시해주기 때문에 창의력이 절실히 요구되는 현대사회에서 필요한 표현기법이라고 할 수 있다.

2.2. 은유의 개념과 시 속에서의 의미 작용

직유와 달리 은유란 <그는 늑대다> <당신은 나의 태양> <백악관은 미친 동네>⁷⁾와 같은 표현이다. <그는 늑대다>의 경우를 예로 들어 보자. <그는 늑대다>의 경우 듣는 사람은 그 표현에서 위화감을 느끼게 된다. 은유란 일단 상대방을 당혹하게 해서 다른 추론이나 사고를 하게 하는 기법이다. 다음 단계

6) <http://balloon-rhetoric.atwebpages.com/example/simile.html> (검색일: 2018.9.8.)

7) 주4)의 신문기사에서 인용.

에서 그는 동물이 아니라 인간인데 라는 생각을 하다가 그것이 비유임을 깨닫고 늑대와 같은 그 인물의 어떤 속성에 관해 생각하게 되고 다시 그가 어떤 면에서 늑대와 공통점이 있는지 곰곰 생각하는 과정을 거치게 한다. 그렇게 단정함으로써 양자의 관계를 암시적으로 상상하게 되는 것이다.

이렇게 보면 은유는 낱말의 속성이 아니라 개념의 속성이다. 은유는 단지 예술적 혹은 미적 목적만이 아니라 어떤 개념을 잘 이해하기 위해 일상생활에서도 많이 쓰이고 있다. 은유의 이러한 측면은 1980년 레이코프와 존슨의 초기연구인 『삶으로서의 은유』에 의해 알려졌는데 그들의 착상은 ‘은유에 대한 인지언어학적인 견해’로 학계에 알려져 있다.⁸⁾ 이렇게 보면 일상적으로 하는 표현으로는 하기 힘든 어떤 사항을 깊은 인상을 주기 위해 또는 쉽게 의사소통하기 위해 사용하는 표현이라고 할 수 있을 것이다. 그런 면에서 본다면 <침묵은 금이다> <인생은 드라마다> <빛 좋은 개살구>처럼 주변에서 흔히 들을 수 있는 표현도 은유를 이용한 것이라 할 수 있다. 단 이런 표현의 경우, 내용은 잘 전달되지만 너무나 익숙해서 감동적이라거나 참신하다고 생각하지는 않을 것이다.

하지만 문학에서의 은유는 이처럼 간단하지는 않다. 鮎川信夫씨는 시의 은유에 대하여 ‘은유는 시에서 중요한 표현이며 말을 깨어나게 하는 독특한 방법이다(隱喩は、詩にとって大切な表現であって、言葉を目覚めさせる独特の方法である)’라고 하며 평범한 관용적 세계의 표현을 파괴하는 것이라고 언급하고 있다.⁹⁾ 은유는 언어의 습관화된 일상성을 깨고, 새로운 감각, 새로운 차원의 세계를 열어준다는 것이다.

시 속에서 은유를 잘 사용하는 좋은 예는 칠레의 작가 안토니오 스타르메타가 쓴 『파블로 네루다와 우편배달부』에 잘 나타나 있다.¹⁰⁾ 이야기는 틀에 박힌 삶을 사는 주인공 마리오가 문학상을 받은 민중시인 파블로네루다에게 편지를 전달해주는 우편배달부가 되면서 시작된다. 마리오의 존재를 알게 되면서 그의 시집을 사 읽게 되고, 편지를 배달해 주며 시를 배우는 과정에서 시인의 핵심사상인 은유에 대한 이해를 넓혀 간다. 그러는 와중에 마리오의 베아트리카란 여인을 사랑하게 된다. 연애사건 발단 이전에는 ‘비가 온다’를

8) Zoltan Kovecses저 이정화·우수정·손수진·이진희역(2003), 『은유』 한국문화사, p10

9) 鮎川信夫(1965), 「比喩論二題」 『鮎川信夫詩論集』, 思潮社, p.183

10) 안토니오 스타르메타 글 · 권미선 옮김, 『파블로 네루다와 우편배달부』, 사람과 책, pp.9-196

‘하늘이 운다’라는 정도로 간단한 은유 표현밖에 하지 못했던 그가 연인 베아트리체를 사랑하면서 네루다 시인과 더욱 가까운 사이가 되어 그녀의 미소를 나비의 날갯짓으로 장미로 또 은빛 파도로 표현할 수 있게 된다. 그러면서 은유는 베아트리체의 마음을 사로잡을 도구이자 사랑을 효과적으로 전달할 수 있는 매개물이 된다. 일상적인 표현밖에 할 수 없었던 마리오에게 은유는 세계를 참신하게 나타낼 수 있는 훌륭한 표현기법이 되고 이를 통해 마리오는 연인의 마음을 사로잡게 되는 것이다.

그 뿐만이 아니다. 은유는 표현기법만이 아니라 세상을 다르게 보는 인식의 틀을 제공한다. 마리오네 네루다가 처음에 섬의 아름다움에 관해 물었을 때 연인의 이름밖에 대답하지 못했다. 그러나 은유를 알고 나서는 나무를 스치는 바람 소리, 파도가 해안가에 부딪히는 소리, 아버지의 어망 등을 거론한다. 연인을 둘러싸고 있는 섬의 아름다움을 발견한 것이다.

은유를 통해 새로운 세상을 바라보면서 사회에 관한 인식도 달라진다. 아무 생각 없이 주어진 삶을 살아왔던 그가 은유를 깨닫게 되면서 자신의 삶을 반성하고 사회를 바라보는 안목을 갖게 된 것이다.

이 작품 속에서의 은유표현은 자신이 가지고 있는 감정과 생각을 효과적으로 전달하게 해 주고, 자신을 둘러싼 인간과 자연, 나아가 사회에 관한 새로운 인식을 가능하게 하는 역할을 하고 있다.

시인 장석주는 『은유의 힘』에서 시가 생성되는 비밀의 핵심을 은유라고 보고 ‘시는 말의 불모이고 시의 말들은 필경 은유의 불모다. 은유는 시의 숨결이고 심장박동, 시의 알파이고 오메가다’¹¹⁾라고 단정적으로 언급하고 있다.

그렇다면 시에서 은유란 어떻게 쓰이고 있을까. 시인은 낯선 표현을 사용하여 일상어와는 다른 어법으로 노래한다. 김동명의 <내 마음은>이란 시를 예로 보자.

내 마음은 호수(湖水)요,
 그대 노 저어 오오.
 나는 그대의 흰 그림자를 안고, 옥 같이
 그대의 뱃전에 부서지리라.

11) 장석주(2017), 『은유의 힘』, 다산책방, p.8

내 마음은 촛불이요,
그대 저 문을 닫아 주오.
나는 그대의 비단 옷자락에 떨어져, 고요히
최후의 한 방울도 남김없이 타오리다.

...중략...

내 마음은 낙엽이요,
잠깐 그대의 뜰에 머무르게 하오.
이제 바람이 일면 나는 또 나그네같이, 외로이
그대를 떠나오리다.

(『韓國의 名詩』 종로서적 1984년)

다양한 비유와 적절한 어조를 활용하여 사랑을 감미롭게 노래한 서정시다. 시인은 자신의 마음을 은유를 활용하여 네 가지로 형상화하였다.¹²⁾

1연에서 화자의 마음은 ‘호수’로 표현된다. ‘내 마음’이 ‘호수’로 형상화되자 “그대 저어 오오”라는 표현이 가능해진다. 내가 당신을 간절히 기다린다는 마음을 직접적으로 서술하지 않아도 되는 것이다. 이어서 그대가 오면 나는 “옥같이/그대의 뱃전에 부서지리라”고 표현하여 사랑의 격정적인 기쁨을 그리고 있다.

2연에서 화자의 마음은 ‘촛불’로 표현된다. 이제 시적 공간은 자연스럽게 촛불이 타고 있는 공간으로 전환된다. 이 전환은 “그대 저 문을 닫아 주오”라는 표현을 자연스럽게 하고 당신의 관심과 사랑을 원한다는 화자의 마음을 전달하는 효과를 지닌다. 이어 나는 “최후의 한 방울도 남김없이 타오리라”라고 표현하여 사랑의 희생적인 정열을 그려내고 있다.

4연에서 화자의 마음은 ‘낙엽’이 된다. 이제 시적 공간은 낙엽이 떨어지는 트락이다. 그리고 “잠깐 그대의 뜰에 머무”를 수 있기를 바라게 된다. 그러나 낙엽의 운명은 오래 머물 수 없는 것이다. 그래서 “바람이 불면 나는 또 나그네같이, 외로이/그대를 떠나겠다”는 서술로 이어진다. 곧 이별하는 아픔을 그리고 있는 것이다.

12) <https://terms.naver.com/entry.nhn?docId=1821888&cid=46645&categoryId=46645> (검색일:2018. 09. 15.)
시해석 참조

만약 시인이 은유를 사용하지 않았다면 어떤 시가 탄생했을까. 이와 같이 격조 있으면서도 아름답고 감미로운 서정시가 탄생할 수 있었을까. 아니라고 생각한다. 은유는 이처럼 말하는 대상을 다른 대상으로 바꾸어 표현하는 비유법이다. 만약 여기서 직유인 ‘내 마음은 호수와 같다’는 명시적 표현을 쓰면 어떻게 될까. 산문적인 어조가 되어 아마도 다음 행에 이어지는 청유형이나 의지적 어조와도 어우러지지 않아 엉거주춤한 상태의 시가 되었을 것이다. 은유는 이처럼 짧은 말 속에 묵직한 의미를 담을 수 있고, 생각과 감정을 확장할 수 있는 여지를 만들기도 있다.

그렇다면 일본인이 아닌 우리학생들을 대상으로 하는 수업에 은유는 어떻게 도입해야 할까. 우선은 쉬운 시부터 도입하여 단계적으로 난이도가 높은 시를 대상으로 살펴보는 것이 좋을 것이다.

다음은 교과서에 실려 있는 黒田三郎의 「紙風船」이란 시이다.

落ちてきたら/今度は/もっと高く/もっと高く/何度でも/打ち上げよう/美しい願いごとのように
(詩集『もっと高く』1964年刊)

시를 두세 번 반복해서 읊고 난 후에는 먼저 질문을 던지는 쪽이 수강자의 사고력을 확장시키는데 좋을 것이다. 쉬운 시이므로 이 시를 두세 번 가량 읽게 하고 종이풍선이 상징하는 것이 무엇인지 말하게 해 보자. 의외로 학생들은 거의 대답을 찾아내지 못하는 경우가 많다. 종이풍선은 입으로 공기를 불어 넣어 부풀리게 되어 있다. 손으로 튕겨 올릴 때마다 동그란 형태가 점점 줄어들어 결국에 튕길 수 없는 상태가 된다. 그렇게 되면 다시 한 번 후하고 입으로 공기를 불어 넣어 다시 시작한다.

이 시는 제목으로 되어 있는 ‘종이풍선’, 실제의 종이풍선만을 상징하는 것일까. 꼭 그렇지는 않다. ‘소망’일 수도 있다. 처음에는 기세 좋게 튕겨오르는 종이풍선처럼 우리들의 소망도 계속 부풀어 오를 수 있기 때문이다. 그런 것들이 점점 마음대로 되지 않는 현실에 부딪쳐 형태가 이지러지고 보잘 것 없이 구겨져 버리는 소망…。 그렇지만 어떤 현실도 누군가의 간절한 소망을 빼앗을 수는 없다. 다시 초심으로 돌아가 칠전팔기 몇 번이고 도전해 보는 정신을 가져 보자는 의미로 읽을 수도 있지 않은가.

다음의 다카미 준(高見 順)의 시를 보자.

手ぬぐいは/乾くそばから/濡らされる/手ぬぐいは/濡れるそばから/乾かんとする
(詩集 『もっと高く』 1964年刊)

이 시는 행간 그대로의 의미를 보면 수건의 본질인, 젖었다가 마르고 말랐다가 젖게 되는 단순한 반복을 읊고 있는 것처럼 볼 수 있다. 과연 이렇게만 감상해야 할까. 일상어는 시를 이루는 자양분이 되지만 시인의 표현은 일상어 수준에서 해석하는 것을 거부한다. 이 시의 경우도 마찬가지이다. 왜냐 하면 시는 일상적으로 쓰는 언어나 어법 속에 또 다른 도약과 비밀의 세계를 품고 있기 때문이다. 시의 제목 또한 「生」으로 되어 있다. <수건>을 소재로 수건에 관해 언급하고 있지만 인생에 관한 내용으로 해석해야 한다.

그렇다면 시를 어떻게 해석해야 할까. 수건이라는 물건의 사명이 젖었다가 마르고 말랐다가 젖는 일을 반복하는 것처럼 인간의 경우 한 가지 난관을 극복하고 나면 또 다른 난관이 앞을 막아선다. 이처럼 회로에락이 늘 반복되는 인생을 수건에 빗대어 표현하고 있다.

시마오카 신(嶋岡辰)의 <虻>란 시의 은유표현도 살펴보자. 지면의 제한으로 1, 2연만 소개한다. (하선은 필자)

落石におびえつつハーケンを打ち
雷鳴におののく手でザイルをたぐり
あせにまみれてよじ登った山

いつもはおとなしいが
暴れたしたら手のつけられない
大きな牛
ぼくらはそのかたにとまった
虻みたいなものだ

(詩集 『嶋岡辰詩集』 1986年刊)

1,2연은 조심스럽게 큰 산을 오르는 인간의 모습을 소의 어깨 위에 앉은 등애에 비유해 묘사하고 있다. 이어지는 3,4연 본문은 생략했지만, 큰 역경을 극복하기 위해 도전할 때 등애(인간의 비유)는 시원한 바람을 느끼고 마음은 커

지므로 이처럼 전력을 기울이는 자신을 때때로 역경에 처하도록 하고 싶다는 마음을 노래하고 있다.

이 시를 독해할 때도 먼저 <은유표현을 사용한 곳은 어디이며 그것은 무엇을 의미하는가>를 물어야 할 것이다. 밑줄 친 大きな牛이며 큰 산을 비유한 것이라고 대답할 것이다. 하지만 은유표현에 관해 설명하기 위해서는 이 정도 질문으로 멈춰서는 안 된다. 작자가 왜 산을 큰 소에 비유했는지 물어야 한다. 작자의 경우, 詩想이 애매해질까 봐 친절하게 <늘 점잖하지만 날뛰기 시작하면 손을 댈 수 없는 큰 소>로 수식하며 은유표현을 사용하고 있다. 이러한 점들을 거론하며 어떤 이미지를 떠오르게 하는지 어떤 사실을 연상시키는지 물어야 할 것이다. 그렇게 하면 학생들은 험한 산을 오를 때 일어날 수 있는 여러 가지 위험을 거론할 것이다. 나아가 작품의 주제와 관련지어 세심한 주의를 기울여 등정에 성공하면 정상에서 맛볼 수 있는 기쁨이나 성취감은 특별하다는 점에 관해서도 토론하게 될 것이다. 또한, 이와 연관 지어 어려운 시합이나 난관 등을 앞둔 사람들의 마음가짐에 대해 생각해보게 하는 것도 좋을 것이다. 자신의 투지와 인내심으로 세심함과 부단한 노력을 기울여 극복했을 때 맛보는 기쁨 또한 이와 다르지 않다고 생각할 것이다.

시적언어로 쓰이는 비유는 이와 같이 사실을 넘어서서 상상력과 사유의 공간을 확장시켜 주는 역할을 한다. 옥타비오 파스에 의하면 시인은 일상적인 일들, 그리고 그것들과 맺고 있는 연관관계에서 말들을 뿌리째 뽑아내어 일상적 언어의 획일적인 세계와 결별시킨다고 한다.¹³⁾ 이때 비로소 단어들은 이제 막 태어난 것처럼 생생한 것이 된다고 한다. 시어가 일상어 내지는 일상어의 비유와 다른 점은 이와 같이 시적은유를 통해 상상력의 내적 지평을 확장시켜주기 때문이라고 할 수 있겠다.

2.3. 비유표현이 풍부한 일본현대시를 통한 직유와 은유 수업방안

그렇다면 실제 수업에서 어떤 시를 이용해서 비유법을 이해시켜야 할까.

필자가 담당한 수업은 대학 3학년 과정의 수업으로 한 학기 15주, 1주에 3시간 단위로 진행된다. 이 중에 비유법이란 주제로 하는 수업은 수강학생의 레벨

13) 옥타비오 파스 지음 · 김홍근 김은중 옮김(1998), 『활과 리라』, 솔, p.47

에 따라 약 5시간정도를 할애해 진행해 볼 생각이다.

이미 비유법에 관하여 앞에서 한국시 내지는 난이도가 높지 않은 시를 예로 들어 언급했다. 처음 약 2~3시간을 할애하여 이러한 시를 예로 들어 직유와 은유가 어떻게 다른지, 시에서 직유와 은유를 사용하면 어떤 효과가 있는지 그 의미작용에 관해서 충분히 이해시킬 필요가 있다.

다음 단계에서 교수자는 이번 주제가 비유표현인 만큼 직유와 은유를 많이 사용한 시를 소개할 수 있어야 한다. 일어일문학과 3학년이면 일본어 능력시험 2급에 합격한 학생들이 상당수 있으므로 시에 사용되고 있는 어휘 레벨도 고려하여 비교적 난이도가 있는 시를 골라야 할 것이다. 뿐만 아니라 주제 면에서 시의적절하고 시어가 아름답고 리듬감이 있으면 금상첨화라고 할 수 있을 것이다.

이렇게 심사숙고해 선정한 시가 新川和江의 「わたしを束ねないで」라는 시이다. 新川和江 시인은 시풍이 화려하며 ‘比喩の詩人’이라고 평가받을 정도로 시 속에 다채로운 비유를 사용하고 있다. 다음의 시 「比喩でなく」에는 그녀의 시의 특징이 잘 드러나 있다.

水蜜桃が熟して落ちる 愛のように
 河岸の倉庫の火事が消える 愛のように
 七月の朝が萎える 愛のように
 貧しい小作人の家の豚が痩せる 愛のように

おお
 比喩でなく
 わたしは 愛を
 愛そのものを探していたのだが

愛のような
 ものにはいくつか出会ったが
 わたしには拙めなかった
 海に漂う藁しべほどにも このてのひらに
 わたしはこう 言いかえてみた
 けれどもやはり ここでも愛は比喩であった

愛は 水蜜桃からしたたり落ちる甘い雫
 愛は 河岸の倉庫の火事 爆発する火薬 直立する炎
 愛は かがやく七月の朝
 愛は まるまる肥える豚……
 わたしの口を唇でふさぎ
 あのひとはわたしを抱いた
 公園の闇 匂う木の葉 迸る噴水
 なにもかも愛のようだった なにもかも
 その上を時間が流れた 時間だけが
 たしかな鋭い刃を持っていて わたしの頬に血を流させた
 (詩集『新川和江詩集』1975年刊)

이 시에는 각 연마다 다채롭고 신선하며 고도로 세련된 비유법이 등장하고 있다. 1연은 직유로 자신의 사랑을 묘사하고, 2연에서는 직설적으로 사랑을 표현하는 방법을 찾고 있었지만 힘들었다고 호소하고 있다. 3연에서는 사랑과 같은 것은 몇 번인가 마주했지만 그걸 표현하려고 하니 역시 비유에 의존할 수밖에 없었다고 호소한다. 4연에서는 사랑의 느낌을 다시 은유로 바꾸어 표현한다. 5연에서는 그러나 어느 날인가 그는 내 입술을 덮고 나를 안았다. 이렇게 사랑의 행위 그 자체를 비유 없이 직설적으로 노래하면서도 결국 ‘공원의 어둠, 향기를 발하는 나뭇잎, 솟아오르는 분수 모든 것이 사랑 같았다’라는 표현을 하고 있다. 그러면서 사랑과 같은 것은 과거 시간의 기억에만 새겨져 내 뺨에 피를 흐르게 했다고 추억해내고 있다.

결국 이 시인은 시로 쓰고자 하면 비유로밖에 묘사할 수 없었음을 일부러 ‘비유가 아니면(比喩でなく)’이란 제목의 시를 통해 보여주고 있다. 이 시에서처럼 ‘사랑은 행위를 통해서는 입술을 덮고 나를 안았다’는 정도로 묘사되고 있다. 과연, 이러한 행위만의 묘사로 시가 완성이 될까. 아마도 인간의 몸에 비유한다면 뼈다귀만 보는 형상일 것이다. 풍경으로 치면 삭막하고 황량하다고 할 수밖에 없다. 비유법을 사용하지 않으면 자신의 사랑의 느낌이나 감정 역시 제대로 전달할 수가 없다는 것이 시인이 전하는 메시지일 것이다.

新川시인의 시는 이처럼 비유표현을 많이 사용하기 때문에, 직유와 은유의 표현기법을 수업의 주제로 삼을 경우 텍스트로 하기에 적합하다. 그 중에서 시의 적절하고 비유를 많이 사용한 작품을 들라면, 필자는 망설이지 않고 ‘나를

뭉치 마세요(わたしを束ねないで)'를 추천하고 싶다. 작품 속에 들어 있는 시어 수준도 일어일문학과 3학년 레벨에 적당하기 때문에 비유법 이해의 대상으로 다루는 것은 매우 바람직하다고 느껴진다. 시의 전문은 다음과 같다.

わたしを束ねないで
あらいとうの花のように
白い葱のように
束ねないでください わたしは稲穂
秋 大地が胸を焦がす
見渡すかぎりの金色の稲穂

わたしを止めないで
標本箱の昆虫のように
高原からきた絵葉書のように
止めないでください わたしは羽ばたき
こやみなく空のひろさをかいさぐっている
目には見えないつばさの音

... 3연 中略...

わたしを名付けしないで
娘という名 妻という名
重々しい母という名でしづらえた座に
坐りきりにさせないでください わたしは風
りんごの木と
泉のありかを知っている風

わたしを区切らないで
， や . いくつかの段落
そしておしまい 「さようなら」があったりする手紙のようには
こまめにけりをつけないでください わたしは終りのない文章
川と同じに
はてしなく流れていく拡がっていく一行の詩
(詩集『新川和江詩集』1975年刊)

이 시는 전체가 5연으로 되어 있으며 각 연은 6행으로 구성되어 있는 내재율을

가진 구어자유시이다. 수업의 시작은 일본어로 된 시이기 때문에 어려운 단어를 먼저 알게 하는 것이 중요하지만, 본 수업의 목적이 서론에서 이야기한 바와 같이 시인의 표현기법에 주목시키기 위한 것이므로 이에 관한 언급은 피하고자 한다.

- 먼저 일단 수업이 시작되면 몇 번이고 음독하게 하여 시의 특징을 파악하게 지시한다. 그렇게 되면 학생들은 여러 가지 사실을 발견하게 될 것이다. 가능하면 일본어로 발견한 사실을 이야기하게 한다.

- 同じ言葉が繰り返されている。

わたしを○○ないで

○○のように

○○のように

○○ないでください わたしは○○

- いくつかのまとまりがある。 1연 束ねないで/2연 止めないで/3연 注がないで/4연 名付けないで/5연 区切らないで

- 稲穂とか昆虫とか、日常生活に近い言葉が使われている。

- 「ように」의 표현 자주 사용. 「わたしは○○」 부분은 명사로 끝남

- 「わたしは○○」의 후반부는 앞부분의 내용과 대조적임

1연 束ねないで 稲穂 (見渡す限り)

2연 止めないで 羽撃き・つばさの音 (空の広さ)

3연 注がないで 海・ふちのない水

4연 名付けないで 風

5연 区切らないで 終りのない文章・はてしなく流れていく詩

- 이 시에 쓰인 비유법 중 직유와 은유표현에 관해 질문한다.

- 시 속의 직유표현을 찾아보자.

あらせいとうの花のように/白い葱のように/標本箱の昆虫のように/ぬるい酒のように 등

- 직유표현이 가져다주는 효과에 대해 질문한다.

이러한 표현이 생략되고 ‘1연 束ねないで/2연 止めないで/3연 注がないで ~’의 표현만으로 시가 완성되었다면 어떤 느낌이 들까?

詩人の主張や伝えようとするメッセージがはるかに弱くなって訴える力がない詩になる可能性が高い

- 시 속의 은유표현을 찾아보자.

각 연의 4행 わたしは○○로 표현이 통일되어 있는 부분

1연 わたしは 稲穂/ 2연 わたしは 羽撃き・つばさの音/3연 わたしは 海・ふちの
 ない水/ 4연 わたしは 風/ 5연 わたしは 終りのない文章・はてしなく流れていく詩
 · 시인은 ‘わたしは稲穂’의 표현에서와 같이 자신을 들판의 벼이삭과 등가
 로 묘사하게 되었을까.

多義的解釋が可能であることをコメントする。稲は実をいっぱいつけるように実力をつける、その一本一本がキラキラ輝いているように一人の人間として個性を発揮することができる¹⁴⁾

- 위의 은유에서 사용된 관계식을 메모하고, わたしは○○에 등장하는 ○○의 이미지에 관하여 살펴보자. 가능하다면, 일본어로 이야기해 보게 한다.
- 稲穂のイメージ ; 充実した輝く生命力をもった豊かで力強いイメージ
- 羽ばたき・つばさの音のイメージ; 力強く自由に動き, 新しいことを求め続けるもの
- 海・苦い湖・ふちのない水のイメージ; 無限, 未知, 拡がり, 自由自在
- 風 ; 自由自在, 障害物なし
- 娘・妻・母という名; その名前にしばれた生き方を強要されたくない
 名付けることは一つの役割に縛り付けること
- 終わりのない文章 ; 果てしなく 続く

여기에서 사용하는 은유들이 얼마나 다양하고 자신에게 어떤 상상의 나래를 펼치게 해주는지, 은유가 우리의 사고와 감각을 어떻게 확장시켜주는지에 관해서 생각해 보게 하면 좋을 것이다. 나아가, 현대사회에서의 여성의 인권이나 사회적 정치적 지위, 성별에 따른 기회균등의 문제에 관해서도 토론하게 하면 여성을 둘러싼 사회문제에 관해서도 새로운 인식을 갖게 될 것이다.

시의 구조를 잘 살펴보면 각 연의 전반부와 후반부의 내용이 대조적이다. 1연을 예를 들어 살펴보자. 아래, 전반부는 나를 묶지 말아달라고 애원한다.

わたしを束ねないで
 あらせいとうの花のように
 白い葱のように
 束ねないでください
 후반부는 이와는 대조적이다.

14) 川島和子(1990), 「わたしを束ねないで」 甲斐睦朗(編), 『語句に着目した読み方指導10』, 明治図書, pp. 75-89

わたしは稲穂
 秋 大地が胸を焦がす
 見渡すかぎりの金色の稲穂

결국 시인이 사용한 화려하면서도 현란한 직유와 비유는 무엇을 말하기 위해서 동원되고 있는가? 은유를 사용하여 나는 묶이지 않는 채로 눈에 펼쳐져 있는 벼이삭이고 싶다고 주장한다. 가을에 벼이삭이 황금빛으로 온 대지를 물들이는 것처럼 자신도 밝은 존재로 반짝이고 싶다고 호소한다. 자신이 전하고자 하는 메시지를 전하기 위해 비유표현을 끊임없이 사용하고 있음을 다시 한번 환기시키면 좋을 것이다.

이때 교수자는 시의 언어를 경험하는 일이 창의적 사고와 깊이 관련되어 있음을 인식하고 있어야 한다. 문학작품을 통해 경험하는 언어는 상상력이 구축한 세계에서 그 상상력의 구조를 해석하고 상상의 세계에 뛰어들어야 이해가 가능하기 때문이다.¹⁵⁾ 학생들을 상상으로 만들어진 비유의 세계에 효과적으로 접근시키기 위해서는 교사 자신이 고정적인 사고의 틀을 벗어난 창의적인 사고를 할 수 있어야 한다. 시를 읽는다는 것은 이처럼 창의적 언어를 풀어내는 고차원적인 능력을 기르는 일과도 밀접하게 관련되어 있다.

- 이 시는 5연으로 끝나고 있지만, 우리의 사설시조처럼 시 쓰기가 얼마든지 이어질 것 같은 느낌을 주고 있다. 이 형식에 맞추어서 시를 계속 써 간다면 어떤 표현이 가능할까? 만약 학생들이 이러한 요구에 어떻게 응해야 할지 모른다면 첫 행을 제시해 주는 것도 좋은 방법일 것이다. ¹⁶⁾

わたしをつながないで
 飼い犬のように
 わたしをつながないで
 わたしは わし
 周りの山野を自由に飛び回る鳥

15) 이주섭외 7인 공저(2014), 『국어과 창의성 신장 방안』, 박이정, p.16 참조

16) https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1061197925?__ysp=44KP44Gf44GX44KS44Gk44Gq44GM44Gq44GE44Gn6aO844GE54qs44Gu44KI44GG44Gr (검색일: 2018.09.29.)

わたしを閉じこめないで

ペットのように

かごの中の鳥のように

わたしをとじこめないで わたしは星

どこまでも続く無限の空

학생들이 아이디어가 막혀 문장을 이어가지 못하며 다음과 같은 제목을 제시해 문장을 이어가게 하면 직유 내지는 은유에 관하여 제대로 숙지하게 되고 글쓰기에 대한 자신감도 갖게 될 것이다.

わたしを見せ物にしないで

わたしをはめないで

わたしを描かないで

이상, 시 속에서 비유를 사용하는 일이 왜 중요한지, 다른 사람의 마음을 사로잡을 수 있는지를 알아보았다. 이런 식으로 표현기법에 관해 관심을 갖게 하면 시인이 추구하는 이미지를 보다 확실히 맛보게 될 것이다. 또한 이런 식의 비유를 자신의 글쓰기에 적용시켜 보면 비유표현으로 창의적인 언어생활이 가능하다는 자신감을 갖게 될 것이라고 믿는다.

4. 나오며

이상과 같이, 일본현대시에 나타난 비유표현을 중심으로 그 수업방안에 주목하여 보았다. 그 결과를 정리하면 다음과 같다.

첫째, 직유는 명시적·설명적이며 은유는 암시적이라는 차이는 있으나 유사성이 없는 것의 유사성을 발견하여 창조된다는 점에서 유사한 표현기법이다.

둘째, 시에 나타난 직유와 은유는 속담이나 일상적인 삶속에서 사용되는 비유와 달리 독창적이며 풍부한 이미지와 상상의 세계를 맛보게 해준다.

셋째, 시 속의 직유와 은유 표현은 시인이 전달하고자 하는 메시지나 주제를 효과적으로 전달하는 역할을 하고 있어 주제파악이나 감상에 도움이 된다.

넷째, 시인이 사용하는 은유는 애매함 때문에 난해하게 생각되지만, 그로 인

해 사유를 무한확장하고 창의적 언어생활을 가능하게 해주는 점도 있다.

이와 같은 직유와 은유표현의 특징을 잘 이해하고 이러한 글쓰기를 실생활에 도입한다면, 『파블로네루다와 우편배달부』의 주인공 마리오처럼 참신한 시를 써서 연인의 마음을 사로잡을 수도 있고, 세상을 색다르게 보는 관점을 갖게 될 수도 있고, 자연과 사회를 바라보는 새로운 안목도 갖게 될 수 있을 것이라고 생각한다. 따라서 비유표현은 시교육에서 반드시 중요하게 다룰 필요가 있다고 생각된다.

【참고문헌】

- 문덕수(1996), 『시론』, 시문학사, p.153.
 배상문(2014), 『비유의 발견』, 북포스, p.7
 이주섭외 7인 공저(2014), 『국어과 창의성 신장 방안』, 박이정, p.16.
 장석주(2017), 『은유의 힘』, 다산책방, p.8.
 鮎川信夫(1965), 「比喩論二題」 『鮎川信夫詩論集』, 思潮社, p.183.
 川島和子(1990), 「わたしを束ねないで」 甲斐睦朗(編) 『語句に着目した読み方指導10』, 明治図書, pp.75-89
 안토니오 스타르메타 글 · 권미선 옮김(1996), 『파블로 네루다와 우편배달부』, 사람과 책, pp.10-196.
 옥타비오 파스 글 · 김홍근 김은중 옮김(1998), 『활과 리라』, 숲, p.47.
 Zoltan Kovecses저 · 이정화·우수정·손수진·이진희 공역(2003), 『은유』 한국문화사, p.10.
http://news.chosun.com/site/data/html_dir/2018/09/06/2018090600251.html?utm_source=nave&utm_medium=original&utm_campaign=news (검색일: 2018.09.06.)
<http://balloon-rhetoric.atwebpages.com/example/simile.html> (검색일: 2018.09.08.)
https://torunotabi.at.webry.info/200609/article_9.html 2018. 9.16, 齋藤正二 일본어 번역을 참조
<https://terms.naver.com/entry.nhn?docId=1821888&cid=46645&categoryId=46645> (검색일: 2018.09.15.) 시해석 참조
https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1061197925?__ysp=44KP44Gf44GX44KS44Gk44Gq44GM44Gq44GE44Gn6aO844GE54qs44Gu44KI44GG44Gr (검색일: 2018.9.29.)

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.

논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.

게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

日本現代詩による比喩表現の授業方案

南二淑

本稿では、日本現代詩に現れた比喩表現を中心に、その教育方法に注目してみた。その結果をまとめると次のようになる。

第一に、直喩は、明示的・説明的であり、隱喩は暗示的という違いはあるが、その表現方法が類似性のないものの類似性を見つけて創造されるという点で、類似した表現手法である。

第二に、詩に現れた直喩と隱喩は格言や日常的な生活の中で使われる比喩とは異なり、獨創的で豊かなイメージと想像の世界を味わわせてくれる。

第三に、詩の中の直喩と隱喩の表現は、詩人が伝えようとするメッセージやテーマを効果的に伝える役割をしており、テーマの把握や鑑賞に役立つ。

第四に、詩人が使用する隱喩は曖昧さのために難解に思えるが、それによって思考能力を無限に拡大し、創意的な言語生活を可能にさせる点もある。

表現技法に着目して、詩的な比喩表現の特徴をよく理解させ、これを作文や言語生活に導入させることは、もう一つの詩教育の可能性を開く方法であると思われる。

Teaching metaphorical expression through modern Japanese poetry

Nam, Yi-Sug

In this paper, metaphors in Japanese modern poetry were studied. Finding that first, the expressions of similes and metaphors were alike. They were created through discoveries of similar things that are not generally alike, even though both have different features such as elucidation and implication. Second, the similes and metaphors in poetry were original with an enriched imagination which the analogies, used in proverbs and everyday life, cannot provide. Moreover, the expressions of simile and metaphor in the poetry contributed to the effective communication of message and theme. Last, the intricate metaphors tended to cause difficulty in the understanding of poetry because of their ambiguity. However, they also stimulated to the development of an infinite expansion of thinking and creative language.

Teaching poetic analogies by focusing on expression techniques and promoting their application daily using language can open the possibility of education through poetry.

일본어 능력 향상을 위한 학습법에 관한 실천연구

—암기와 새도잉 연습을 대상으로—

박혜성*
최진희**

(e-mail : hspak@hanbat.ac.kr, pumpkin98@hanmail.net)

<목 차>

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1. 머리말 | 4. 결과와 고찰 |
| 2. 선행연구 | 4.1. 일본어 능력 향상 테스트 결과 |
| 3. 조사의 개요 | 4.2. 학습법에 대한 설문조사 결과 |
| 3.1. 조사 대상자 | 5. 맺음말 |
| 3.2. 조사 방법 | |

키워드 : 習得(acquisition), 暗記(memorization), シャドーイング(shadowing), 長期記憶(long-term memory), JFL(Japanese as Foreign Language)

1. 머리말

대학의 일본어 수업에서는 일본어 능력 향상, 일본어 습득을 위해 다양한 지도법을 시도하고 있다. 교수자라면 주로 패턴 연습이나 롤 플레이, 페어 워크, 프로젝트 워크 등을 통해서 학습자가 흥미를 가지고 수업에 참여할 수 있도록 항상 고민하고, 연구하는 데 힘쓰고 있을 것이다. 하지만 학생 스스로가 어떤 동기를 가지고 어떻게 학습하는가도 주목해야 할 부분이라고 생각한다. 일본어 교육 현장에서도 이미 오래전부터 일방적인 교수 및 지도법보다 교수자와 학습자 상호 간의 소통, 학습자중심의 교육이 이루어지고 있고, 학습자의 자율학

* 국립 한밭대학교 인문사회대학 일본어과 교수. 일본문학전공, 제1저자.

** 백석문화대학교 글로벌어학부 조교수, 일본어전공, 조교수, 교신저자.

습에도 주목하기 시작했다. 본 연구에서는 과제 수행의 일환으로서 암기(memorization)와 새도잉(shadowing) 연습을 시행하여 일본어 능력이 어느 정도 향상될 수 있는지를 확인해 보고자 한다. 암기와 새도잉을 교수자의 관점이 아니라 학습자에게 초점을 둔 것으로 지도법이 아니라 일본어 능력 향상을 위한 학습법으로 표현하도록 한다. 과제 수행이기 때문에 강제적인 측면도 있지만 학생에게 확실하게 학습의 동기 부여가 될 것이라고 생각한다.

히로모리(2017)는 제 2언어 습득의 인지 프로세스를 4단계로 정리하고 있다. ①인지(noticing)→②이해(comprehension)→③내재화(intake)→④통합(integration)의 과정이다¹⁾. 또한 이 프로세스를 촉진하기 위한 인풋 활동, 아웃풋 활동의 기회를 충분히 확보하면 보다 효과적으로 제2언어 습득이 가능해진다고 설명한다. 한국 내 대학의 경우 JFL(Japanese as Foreign Language) 학습자로 항상 일본어에 노출되어 있지 않은 환경으로 인해 인풋과 아웃풋 활동이 제한되어 있기 때문에 언어 지식의 자동화 단계인 ‘통합’으로 나아가기 위해 학습자의 연습방법이 더욱 중요한 요소로 작용할 수 있다고 본다.

본 연구에서는 한국인 일본어 학습자가 스스로 이용할 수 있는 연습방법 중에서 암기와 새도잉 연습에 주목하였다. 암기와 새도잉은 궁극적으로는 자율 학습, 자기주도 학습으로 나아갈 수 있고, 제2언어 습득에 있어서 중요한 역할을 할 수 있는 학습법이라고 생각한다.

우선 암기는 보편적이고 많이 이용해 온 방법이다. 암기는 이제까지 언어 학습에 있어서 전반적으로 사용되고 있지만, 당연시 여기는 학습법이기 때문인지 굳이 일본어 교육에서 검증의 대상이 된 적이 없는 것 같다. 하지만 영어, 한국어 교육에서는 연구가 이루어지고 있다.

새도잉 연습은 동시통역 분야의 연습법으로 사용되었으나 영어 교육에서 그 효과가 검증되어 2000년대부터 일본어 교육에서도 도입되었는데 관련 연구 보고도 늘어나고 있는 추세다. 새도잉은 들려오는 음성을 듣고 늦지 않게 바로 따라하는 연습으로 즉시성(即時性)이 중요한 특징이다. 새도잉은 인풋과 아웃

1) ①인지(noticing)는 눈이나 귀로 들어오는 정보(예, 단어, 문법, 음성등)를 단기 기억에 저장하는 단계다. ②이해(comprehension)는 보유한 정보를 의미, 형식, 기능을 바탕으로 심층이나 얕은 레벨로 처리하거나, 의미, 형식, 기능 관련해서 일중을 가설을 세우는 단계다. ③내재화(intake)는 이해한 정보를 자신의 중간언어를 형성하여 이미 가지고 있는 지식과 비교, 검증하는 단계다. ④통합(integration)은 흡수된 정보를 장기기억으로 저장하여 자동화 처리를 하는 단계다.(히로모리,2017:2)

뜻을 동시에 연습할 수 있는 방법이기 때문에 JFL 학습자에게 적합하리라 생각된다. 암기, 새도잉 둘 다 반복적인 연습을 통해 장기기억(long-term memory)을 형성하는데 중요한 역할을 한다고 여겨진다. 장기 기억에 저장되는 것은 연습을 통해서 저장되는데 정보의 저장은 반복적인 암기 연습이 필요하다. 새도잉은 직접적인 암기 연습은 아니지만, 새도잉 연습을 통하여 새로운 정보를 반복하는 과정 중에 장기기억을 형성하는, 다시 말하자면 새도잉도 암기하는 효과가 기대된다.

본 연구에서는 한국 대학의 초급 레벨의 일본어 학습자가 암기와 새도잉 연습을 이용한 경우 일본어 능력 향상이 어느 정도 이루어질 수 있는지 검토하고자 한다. 또한 학습자들이 암기와 새도잉 연습을 경험한 뒤 어떻게 평가하는지에 대해서도 알아보하고자 한다.

2. 선행연구

2.1. 암기에 관한 실천연구

쿡(1994)은 언어 학습자들에게 가장 많이 활용되고 있는 어휘 학습방법으로 암기를 들고 있다. 어휘가 기억될 때까지 계속해서 반복하고 학습하는 것으로 단순하지만 효과적인 방법이다. 이해는 하지 않고 단순 반복하는 학습이라는 부정적인 평가도 있지만 실제로 많이 사용하는 보편적인 방법이라고 한다.

영어 교육에서는 암기에 관한 실천 연구가 보고되어 있다(김경란,2010; 임미진,2011; 신선혜·김태은,2015). 김경란(2010)은 한국의 경우 영어 학습에서 암기의 비중이 상당하고, EFL의 한국인 영어 학습자들은 암기 없이 영어 습득이 불가하다고 주장하였다.

임미진(2011)은 드라마 영상물을 대상으로 암기 활동을 위한 수업 모형을 제시하고 있다. 암기 과정에 대해 암기 전 단계, 암기 중 단계, 암기 후 단계로 나누고 각 단계별 활동을 세분화하여 제시하였다. 암기 전 단계는 친숙활동(장면 친숙활동, 언어 친숙 활동), 암기 중 단계는 음독, 받아쓰기, 대본 암기, 암기 후 단계는 암기한 대본을 응용하는 단계로 암기의 효과를 체험할 수 있는 역할극 활동을 제시하고 있다.

신선혜·김태은(2015)은 암기와 의미망 전략(semantic mapping)²⁾이 초등 영어 학습자의 어휘 습득에 미치는 영향에 대해 보고했다. 의미망 전략이 암기보다 학습자의 단기 어휘 습득에 효과가 있었고, 실험 수업이 끝나고 5주 지연 어휘 검사를 실시한 결과 생산적 기억 유지 측정을 위한 어휘 회상 검사에서도 의미망 집단이 암기 집단보다 실력이 향상되었다고 보고하고 있다.

한국어 교육에서는 류자미·오성록(2016)의 연구가 있다. 류자미·오성록(2016)은 베트남 한국어 학습자를 대상으로 한국어 말하기 능력 향상을 위한 전략으로 암기의 효과에 주목하였다. 짧은 시간 내에 목표 언어를 습득하기 위해서는 ‘통 문장 암기’가 권장할 만한 교수법이라고 입증하였다. 또한 학습자도 통문장 암기가 학습 효과가 있었다고 긍정적으로 평가하고 있다.

선행 연구의 결과에서 알 수 있듯이 암기는 언어 학습에 있어서 효과적인 학습법이라 할 수 있다. 하지만, 일본어 교육에서는 암기에 주목한 연구가 아직 보고된 것이 없고, 어휘와 말하기에 암기를 도입하고 있지만, 문법에 대한 암기 효과의 연구는 드물다. 본 연구에서는 문법에 대한 암기의 효과를 확인하고, 기계적인 암기 반복의 한계성을 보완하기 위해 문맥이 제시되어 있는 하나의 스토리를 전체 암기하는 방식으로 하고자 한다.

2.2. 새도잉 연습에 관한 실천 연구

가도타(2010)는 영어 교육에서 새도잉 연습의 효과로 듣기 능력의 향상, 어휘 청크(a phrase or a set of words) 및 구문의 내재화³⁾, 읽기 능력의 향상을 지적하고 있다. 새도잉 연습이 발화 속도를 향상시키고 음운 루프(음성적 단기 보관고)내에서 내적 리허설(능동적으로 음성정보를 반복하는 것)이 가능해지면 어휘, 구문 등 전체를 통째로 기억하여 자동화하기 쉽다고 설명하고 있다. 즉 반복적으로 새도잉 연습을 하면 발화 능력이 향상되고 저질로 자동화된다는 것이다.

새도잉 연구는 일본어 교육 분야에서도 음성, 문법, 구두운용능력에 이르는

2) 의미망 전략은 주제나 개념 중심으로 관련된 범주의 어휘를 연결하며 수직적 혹은 수평적으로 확장시켜 시각적으로 보여주는 것이다. 의미망 전략은 슈미트(1997)가 제시한 어휘 학습 전략으로 하나의 단어를 중심으로 의미망을 만들 수도 있고, 텍스트 상에서 핵심어를 중심으로 의미망을 그리면서 텍스트의 내용을 구조화시키는 방법도 있다. (신선혜·김태은, 2015:83)

3) 가도타(2010)가 언급한 내재화란 자동화된 운용 레벨에 달한 상태이다. 다시 말해서 문법 지식에서 그치지 않고 구체적으로 구두로 말할 수 있는 단계로 언어 습득의 바람직한 상태라고 할 수 있다.

다양한 면에서 그 효과가 보고되고 있다(사코다·마쓰미,2005; 사코다,2006; 사카이,2006; 장혜정·구라모치,2008; 邱,2011; 최진희,2012; 최진희·조선영,2018).

우선 새도잉과 다른 학습법과의 비교 검증을 한 연구로는 사코다·마쓰미(2005), 사코다(2006)가 있다. 사코다·마쓰미(2005)는 음독과 새도잉을, 사코다(2006)는 필사(書寫)와 새도잉을 비교했다. 이들 연구에서는 다른 연습법보다 새도잉 쪽이 복수의 테스트에서 좋은 점수를 얻고 있어 그 효과가 더 크다고 검증하였다.

음성에 관한 연구로는 사카이(2006), 장혜정·구라모치(2008), 최진희(2012)가 있다. 새도잉 연습이 발음 오용을 감소시키고 발음 지도에 있어서 효과적이라고 평가하고 있다. 특히 최진희(2012)에서는 장음의 오용이 개선되는 효과가 있다고 보고하였다.

문법에서는 큐(2011), 최진희·조선영(2018)이 있다. 큐(2011)는 대만의 일본어 학습자를 대상으로 새도잉 연습을 통해 경어 사용의 정확성이 향상된 것을 확인했지만, 문법의 내재화, 즉 문법이 완전히 정착하지는 않았다고 보고하였다. 최진희·조선영(2018)는 한국 대학의 정규 수업에서 새도잉을 도입하고 있다. 대학의 수업 특성상 새도잉 연습 시간이 부족할 수 밖에 없는 상황에서 새도잉 연습의 연습 시간 부족을 해결하기 위해 내성노트를 도입하고 있으며 새도잉 연습 전후의 테스트에서 일본어 능력 향상을 확인할 수 있었다. 또한 내성 노트의 분석에 따르면 학습자 스스로 새도잉 연습의 효과로 내용의 이해가 충분히 이루어졌다고 평가하였고, 또한 발음 스피드가 개선된 점에 만족하고 있다는 결과가 나왔다.

독해 분야에서는 영어 교육의 가도타외 (2014)의 연구가 있다. 내용 이해도에 있어서 듣기 연습은 사전과 사후에 차이가 없는 반면 새도잉 연습은 사전보다 사후 쪽의 정답률이 높아 유의차가 있었다고 보고하였다. 이런 점으로 보아 새도잉 연습이 내용의 이해를 높이는 효과가 있다고 할 수 있다.

새도잉 연습이 일본어 능력 향상에 유효한 학습법으로 주목받고 있지만, 필자가 조사한 바로는 일본어 교육 분야에서 일본어 강독을 대상으로 한 연구는 아직까지 없는 듯하다.

본 연구에서는 이와 같은 관점에서 간단한 대화문뿐만이 아니라, 상당히 긴 스토리 전체를 새도잉을 하는 경우에도 일본어 능력 향상의 효과가 있는지 검증하고자 한다.

3. 조사의 개요

3.1. 조사 대상자

본 연구의 대상자는 H대학 1학년 초급일본어강독 수강생이다. 초급일본어 강독은 3학점이고 교재는 『수준별 일본어 다독 라이브러리 레벨1의 파트1, 2』⁴⁾를 사용하였다. 레벨1의 경우 초급 전반에 해당하며 어휘 350개, 글자 수는 1화 당 400~1500 정도이다. 초급일본어 강독의 목표는 초급 일본어 문법 사항과 어휘를 학습하여 일본어로 된 스토리를 이해하고 습득하는 것이다.

이번 학기는 A반, B반으로 나누어 수업을 진행하였다. A반, B반의 레벨 평가는 SPOT테스트⁵⁾를 실시하였다. SPOT A.ver은 일본어과에서 수업 개시 전에 전체적으로 실시하였다. SPOT B.ver은 각 반에서 학기 첫 수업시간에 실시하였다. SPOT B.ver도 본래 듣기 테스트이지만, 듣지 않고 괄호 안에 직접 정답을 써 넣는 방식으로 테스트하였다. SPOT A.ver는 다음과 같다.

테이프를^き聞いて () にひらがな^じ1字を書きなさい。

はじめに^{れんしゅう}練習が10あります。テープで^{れんしゅう}「練習」と日本語^{にほんご}で聞いて、まず^{れんしゅう}練習してみてください。

(1)どうぞよろ()く。

(2)ここは静()ですね。

(3)おはよう()ございます。

〈그림1〉 SPOT A.ver의 예

SPOT A.ver의 점수 결과로는 A반(26.2점)과 B반(23.7점)의 평균이 크게 차이가 나지 않았다. 하지만, SPOT B.ver를 지필 테스트로 실시한 결과를 보면 A반(26.2점)과 B반(8.7점)이 상당히 차이가 난다. A반은 일본어 학습 유경험자가 많고, B반은 일본어 학습 경험이 없는 학생이 많은 편이었다. 두 그룹의 레벨 테스트 결과는 다음 표1과 같다.

4) 『수준별 일본어 다독 라이브러리 레벨1 파트1, 2』(2008)시사일본어사. 감수 NPO법인다독연구회.

5) SPOT(Simple Performance Oriented Test)는 고바야시 노리코(小林典子)에 의해 개발된 테스트로 자연 발화 속도로 읽는 문장을 듣고 해당 용지의 괄호 안에 1문자를 적어 넣는 테스트 방식이다. SPOT A.ver은 65점 만점이고 상급 레벨용이고, SPOT B.ver은 60점 만점이고 초중급용으로 볼 수 있다.

〈표1〉 A반·B반의 레벨 테스트의 결과

그룹	SPOTA.ver(65점)	SPOT B.ver(60점)
A반(15명)	평균 26.2점	평균 26.2점
B반(15명)	평균 23.7점	평균 8.7점

A반은 B반보다 초급 레벨의 문법 지식이 있는 것으로 볼 수 있는 결과로 A반이 B반보다 일본어 능력이 상위에 있는 것으로 판단된다.

3.2. 조사 방법

본 연구에서는 교실 외에서 학생이 과제 수행을 위해 사용하는 학습법에 초점을 두고 조사하였다. A반은 수업 후 암기를 통해 일본어를 학습하고 B반은 새도잉 연습을 통해 일본어를 학습하도록 지시하였다. 이하, A반은 암기반, B반은 새도잉반이라 칭한다.

〈표2〉 암기반·새도잉반의 그룹 특징 개요

	암기반	새도잉반
수업내의 활동	교사가 읽어주기 읽고 해석하기 문법 설명	읽고 해석하기 문법 설명 새도잉
과제 수행	암기 (학생의 자율방식)	새도잉
과제 수행 후	암기 여부 확인	새도잉 여부 확인

수업 내에서의 활동을 소개하면 암기반은 수업 중에 교사가 본문을 읽어주고 따라 읽게 하였다. 그 후 학생한테 본문을 해석하게 하여 수업을 진행하였다. 한편 새도잉반은 수업 중에도 새도잉 연습을 하며 읽고 해석하며 수업을 진행하였다. 새도잉 연습 방식을 처음 접하는 것이기 때문에 수업 시간에 충분히 방식을 설명하고 전원이 연습하게 하였다⁶⁾. 새도잉 연습의 순서는 일반적으로 듣기→내용 파악→새도잉 순으로 정리할 수 있다.

과제 수행을 소개하자면 암기반은 학습자 개인의 자유로운 방식으로 해당

6) 새도잉 연습은 내용 파악 전에 교과서를 보면서 하는 싱크로 리딩(synchronized reading)을 하기도 하고, 내용 파악을 한 뒤 교과서를 보지 않고 하는 콘텐츠 새도잉(contents shadowing)을 하기도 했다. 수업 내에서는 전원이 동시에 새도잉 연습을 하였다. 그렇기 때문에 교수자가 학생들에게 새도잉에 대한 피드백은 하지 못했다.

과의 전체 내용을 암기하는 과제를 수행한다. 새도잉반은 새도잉 연습을 최소 3일 10분 이상 연습하며 내성 시트를 작성해야 한다. 그리고 마지막으로 충분히 연습한 뒤 완벽하게 새도잉 연습을 할 수 있다고 판단될 때 각자 새도잉 연습을 녹음하여 LMS의 과제 관리에 업로드 하도록 지시했다.

과제 수행 여부의 확인은 암기반, 새도잉반의 교수자가 다음 주 수업에서 체크하였다. 암기반, 새도잉반 모두 개별적으로 무작위로 확인하는 방식이었다. 암기반은 해당 과제의 일정 부분을 암기를 할 수 있는지 체크했다. 한편 새도잉반은 학생이 제출한 과제 수행 녹음 파일을 체크하여 개별적으로 피드백을 한다. 또한 수업 당일 임의로 대상을 선택하여 자연스럽게 새도잉 할 수 있는지 체크한다. 각 반의 연습 내용, 연습기간 및 테스트 일정은 표3과 같다.

<표3> 암기와 새도잉 연습기간 및 테스트

연습 내용	연습기간	과제수행체크	지연테스트 실시
1차)ハチの話	3월22일~3월28일	3월 29일	4월 4일
2차)ジョンさん日本へ	3월29일~ 4월3일	4월 4일	4월 11일
3차)浦島太郎	4월4일 ~4월10일	4월 11일	4월 18일
4차)寿司	4월25일~5월1일	5월 2일	5월 9일
5차)ジョンさんバスの中で	5월16일~5월22일	5월 23일	5월 30일

과제 수행 여부 체크 후 1주 뒤 암기와 새도잉 연습의 효과가 유지되고 있는지 조사하기 위해 지연 테스트를 실시했다. 5개의 과제 수행 후 각 과제별 어휘 받아쓰기 테스트, 문법 항목에 관한 테스트를 실시하였다. 어휘 받아쓰기와 문법 테스트의 양식을 소개하면 다음과 같다.

I. 다음 단어를 듣고 히라가나와 뜻을 적으시오. 1.() 2.() II. 다음 문장에 들어갈 조사를 적으시오. 1)今、ジョンさんは飛行機 () 中です。 III. 다음 괄호 안에 들어갈 표현을 넣어 문장을 완성하시오. 1)だれ () が言いました。
--

<그림2> 지연테스트의 예

어휘 받아쓰기는 교수자가 읽어주는 단어를 듣고 히라가나로 적고 뜻을 적는 방식이다. 문법 항목 테스트는 학생 스스로 괄호 안에 들어갈 표현을 적어 넣는 방식이다. 또한 일본어 능력 향상 여부를 확인하기 위해 SPOT A.ver와 지필테스트를 실시하였다. 마지막으로 암기와 새도잉 각 학습법에 대한 학생의 의견 및 평가를 듣기 위해 설문 조사를 실시하였다. 설문 조사는 마지막 과제 수행을 체크한 후 2018년 5월 30일에 실시하였다. 설문조사의 항목을 소개하면 다음과 같다.

1. 암기/새도잉의 연습 빈도
2. 암기/새도잉의 1회당 연습시간
3. 암기/새도잉의 힘든 점은 무엇인가?
4. 암기/새도잉으로 도움이 된 부분은 무엇인가?
5. 암기/새도잉에 대한 질문 및 감상

〈그림3〉 암기와 새도잉에 대한 설문항목

4. 결과와 고찰

4.1. 일본어 능력 향상 테스트 결과

본 연구에서는 과제 수행이 중요한 전제가 되기 때문에 과제 수행 여부에 따라 각 과제별 테스트 참가 인원이 달라진다. 각 반에서 교수자가 체크한 과제 수행 확인 결과를 표4에 정리했다.

〈표4〉 암기반·새도잉반의 과제 수행 여부

과제 그룹	1차)ハチの 話	2차)ジョンさ ん日本へ	3차)浦島 太郎	4차)寿司	5차)ジョンさんバ スの中で
암기반	15명	15명	14명	15명	12명
새도잉반	15명	14명	14명	15명	14명

암기와 새도잉 과제를 수행하지 않은 경우에는 대상자에서 제외된 뒤 지연 테스트 결과를 정리하였다. 우선 암기반의 일본어 테스트 결과를 표5에 정리하였다7). 암기반은 평균86.3%의 정답률로 점수가 상당히 높다. 어휘가 87.4%, 문법이 84.5%로 거의 비슷한 수준이었다. 마지막 과제의 테스트 결과가 어휘

94.2%와 문법 95.7%로 5차례 실시한 중 점수가 가장 좋았다. 과제 수행을 거듭할수록 어휘 면에서도 문법 면에서도 일본어 능력이 향상되었음을 알 수 있다.

〈표5〉 암기반의 과제별 일본어 테스트 결과

과제 테스트	1차)ハチ の話 (50점)	2차)ジョンさ ん日本へ (64점)	3차)浦島 太郎(56점)	4차)寿司 (50점)	5차)ジョンさ んバスの中 で(50점)
어휘 139.9점 (87.4%)	28.5점 (95.2%)	33.5점 (83.8%)	26.7점 (89.2%)	22.9점 (76.4%)	28.3점 (94.2%)
문법 93점 (84.5%)	17.8점 (89.1%)	18.9점 (78.9%)	20.6점 (79.3%)	16.6점 (83.2%)	19.1점 (95.7%)
합계 232.9점 (86.3%)	46.4점 (92.8%)	52.5점 (81.9%)	47.4점 (84.6%)	39.5점 (79.1%)	47.4점 (94.8%)

다음으로 새도잉반의 일본어 테스트 결과를 표6에 정리하였다8).

〈표6〉 새도잉반의 과제별 일본어 테스트 결과

과제 테스트	1차)ハチの話 (50점)	2차)ジョンさ ん日本へ(64 점)	3차)浦島 太郎(56점)	4차)寿司 (50점)	5차)ジョンさ んバスの中 で(50 점)
어휘 114.4점 (71.5%)	20.9점 (69.8%)	25.4점 (63.6%)	22.1점 (73.8%)	19.5점 (65%)	26.5점 (88.2%)
문법 63.5점 (57.7%)	12.9점 (64.7%)	12.2점 (51.2%)	14.6점 (56%)	10.3점 (51.4%)	13.5점 (67.7%)
합계 177.9점 (65.9%)	33.8점 (67.7%)	37.7점 (58.9%)	36.7점 (65.6%)	29.8점 (59.6%)	39.5점 (73.1%)

새도잉반은 평균 65.9%의 정답률이였다. 어휘가 71.5%, 문법이 57.7%로 어휘면의 성적이 13.8%높았다. 새도잉반도 5차 과제에서 어휘 88.2%, 문법67.7%로 정답률이 가장 높았다. 새도잉반의 경우도 과제 수행을 거듭할수록 어휘 면

7)암기반의 경우 1차 테스트 대상자는 12명(과제 미수행 2명,결시생1명), 2차는 15명 전원, 3차는13명(과제 미수행자 2명), 4차는 11명(과제 미수행자2명, 결시생2명), 5차는 7명(과제 미수행 4명,결시생 4명)이다.

8)새도잉반의 경우 1차 테스트 대상자는 15명 전원, 2차는 14명(과제 미수행 1명), 3차는 14명(과제 미수행 1명), 4차는 14명(결시생 1명),5차는 13명(과제 미수행 1명, 결시생 1명)이다.

에서도 문법 면에서도 일본어 능력이 향상되었음을 확인할 수 있었다. 특히 어휘 면이 현저하게 향상되었음을 알 수 있다.

두 그룹은 레벨 차이가 크므로 일괄적으로 비교하는 것은 바람직하지 않다. 하지만 정답률의 비교가 아니라 테스트 유형에 따른 결과가 다른 점이 주목할 만하다. 두 반을 비교해 보면 암기반이 새도잉반에 비해 레벨이 높은 그룹이기 때문에 당연히 암기반 쪽이 새도잉반보다 어휘와 문법면에서 모두 평균 정답률이 높다는 결과가 나왔다. 그리고 테스트 유형별 결과에서 차이가 나타난다. 암기반은 어휘와 문법 사이에 정답률이 크게 차이가 나지 않았지만, 새도잉반은 어휘가 문법보다 정답률이 높았다. 암기반보다 레벨이 낮은 새도잉반의 경우 어휘 쪽은 단기간에 연습한 후에도 어느 정도 향상하는 효과가 있지만, 문법의 경우는 습득하는데 있어서 더 많은 연습 시간이 필요하다는 것을 알 수 있다.

또한 일본어 능력 향상을 확인하기 위해 두 반의 SPOT A.ver의 사전 테스트와 사후 테스트의 결과를 표7에 정리하였다.

〈표7〉 SPOT A.ver의 사전·사후 테스트 결과

암기반 ⁹⁾ (14명)		새도잉반(15명)	
사전테스트	사후테스트	사전테스트	사후테스트
26.2점	39.8점	23.7점	25.3점

암기반은 26.2점에서 39.8점으로 일본어 능력이 향상 된 것을 알 수 있다. 하지만, 새도잉반은 23.7점에서 25.3점으로 큰 차이가 없었다. 암기반은 어느 정도 일본어 학습 경험이 있는 학생들로 암기를 통해 일본어 능력이 더욱 향상될 수 있었다. 한편 새도잉반은 일본어 레벨이 제로 초급에 가까운 학생도 포함되어 있어, 단기간에 일본어 능력이 주목할 만큼 향상되지 못한 것으로 예측된다. 암기와 새도잉 연습으로 학습한 문법 사항이 내재화되어 실제로 운용할 수 있는지 확인하기 위해 SPOT B.ver의 문제 중, 강의에서 학습한 항목과 일치하는 문법(10문항)을 선택하여 중간고사와 기말고사에서 테스트했다. 테스트의 내용은 다음과 같다.

9) 암기반의 경우, 사후 테스트에 1명이 결석하여 14명이 참가했다. 사전 테스트는 2018년3월 7일, 중간 테스트는 2018년4월 25일, 사후 테스트는 기말고사 시험일 2018년6월 20일에 실시하였다.

大学の食堂（で） 昼ごはんを食べます。
 小さいカメラ（が） ほしいです。
 東京行きのバスは（ど） れですか。
 この中に何（が） 入ってるんですか。
 あした、いっしょにどこ（か） 行きませんか。
 あしたはどこに（も） 行きたくありません。
 このアパートは静か（で） いいですね。
 私の部屋は広（く） ないんです。
 午後は部屋に（い） ますから、来てください。

〈그림4〉 지필테스트 항목

상기 지필 테스트 결과를 표8에 정리하였다.

〈표8〉 지필 테스트의 결과 추이

	사전테스트	중간테스트	사후테스트
암기반	6.4(64%)	5.5점(55%)	7.2점(72%)
새도잉반	2.1(21%)	4.9점(49%)	5.7점(57%)

암기반은 문법 능력이 크게 향상되지 않은 것으로 보인다. 새도잉반은 문법 점수가 상당히 낮았지만 사후에선 약간 향상되었다. 암기반은 6.4(64%)에서 7.2(72%)로, 새도잉반은 2.1(21%)에서 5.7(57%)로 나타났다. 한편 암기반은 중간 테스트에선 점수가 낮아졌다가 사후에선 다시 올라가는 패턴이었고, 새도잉반은 사전에서 중간, 사후까지 계속 상승하는 패턴이었다.

4.2. 학습법에 대한 설문조사 결과

암기와 새도잉 연습에 대한 학생의 의견, 평가를 알아보기 위해 설문 조사를 했다. 이번 설문 조사에는 30명 중 암기 그룹 9명, 새도잉 그룹 13명, 총 22명만이 참여하였다. 이번 조사는 5단계 리커트 척도법으로 평가하는 방식이다. [매우 그렇다(1) -그렇다(2) -보통이다(3) -그다지 힘들지 않다(4) -전혀 힘들지 않다(5)]로 되어 있다.

연습 빈도를 살펴보면, 암기는 1주일에 2회(5명), 1주일에 3회(1명), 1주일에 4~5회(2명), 1주일에 1회(1명)로 조사되었다. 새도잉 연습은 1주일에 3회(8명), 1주일에 2회(3명), 1주일에 3~5회(1명), 매일(1명)로 조사되었다. 1회당 연습시간을 보면 암기에서는 가능할 때까지 연습한 학생이 있었고, 가장 짧은 경우 20~

25분 정도 연습했다고 한다. 새도잉 연습에서는 1회당 연습시간이 최소 5분에서 최대 30분까지였다. 암기와 새도잉의 연습 빈도와 시간에 대한 조사 결과를 표9에 정리하였다.

〈표9〉 암기·새도잉 연습의 빈도와 1회당 연습시간

암기반1	암기반2	암기반3	암기반4	암기반5	암기반6
주 2회 (1시간)	주 2회 (20~25분)	주 3회 (1시간)	주 1회 (1시간)	주 4회 (30분)	주 2회 (3시간)
암기반7	암기반8	암기반9	새도잉반1	새도잉반2	새도잉반3
주 2회 (30분)	주 2회 (1시간)	주 4-5회 가능할때까 지	주 3회 (20분)	매일 (10~30분)	주 3회 (5~10분)
새도잉반4	새도잉반5	새도잉반6	새도잉반7	새도잉반8	새도잉반9
주 3회 (30분)	주 3회 (15분)	주 2회 (30분)	주 3회 (15분)	주 3-5회 (15~30분)	주 2회 (10분)
새도잉반10	새도잉반11	새도잉반12	새도잉반13		
주 2회 (15분)	주 3회 (5~15분)	주 3회 (30분)	주 3회 (15분)		

다음으로 암기와 새도잉의 힘든 점, 도움이 된 점에 대한 설문 조사 결과를 정리해 보면, 대부분 암기, 새도잉 연습에 대해서 비교적 긍정적으로 평가하고 있었다. 암기할 때 힘든 점에 대한 설문 조사 결과는 표10에 정리하였다.

〈표10〉 암기할 때 힘든 점에 대한 설문 조사 결과

1)억양 발음이 어려워서 암기하기 힘들었다.				
①매우 그렇다 (0)	②그렇다(4)	③보통이다(3)	④그다지 힘들 지 않다(3)	⑤전혀 힘들지 않다(1)
2)모르는 어휘 때문에 암기하기 힘들었다.				
①매우 그렇다 (0)	②그렇다(1)	③보통이다(3)	④그다지 힘들 지 않다(6)	⑤전혀 힘들지 않다(1)
3)모르는 조사, 문법 때문에 암기하기 힘들었다.				
①매우 그렇다 (1)	②그렇다(2)	③보통이다(3)	④그다지 힘들 지 않다(4)	⑤전혀 힘들지 않다(1)
4)암기 연습은 피로웠습니까?				
①매우 그렇다 (0)	②그렇다(3)	③보통이다(5)	④그다지 피롭 지 않다(3)	⑤전혀 피롭지 않다(0)

*()는 인원수

암기에서는 도움이 된 부분도 회화, 듣기, 읽기 모두에서 대부분 [그렇다]는 평가를 하고 있다. 특히 읽기 능력에 대해 효과가 높았다.

〈표11〉 암기 효과에 대한 설문 조사 결과

1) 암기는 회화 능력 향상에 효과가 있었다.				
① 매우 그렇다 (2)	② 그렇다(7)	③ 보통이다(2)	④ 그다지 효과가 없었다(0)	⑤ 전혀 효과가 없었다(0)
2) 암기는 듣기 능력 향상에 효과가 있었다.				
① 매우 그렇다 (1)	② 그렇다(7)	③ 보통이다(3)	④ 그다지 효과가 없었다(0)	⑤ 전혀 효과가 없었다(0)
3) 암기는 읽기 능력 향상에 효과가 있었다.				
① 매우 그렇다 (5)	② 그렇다(6)	③ 보통이다(0)	④ 그다지 효과가 없었다(0)	⑤ 전혀 효과가 없었다(0)

*()는 인원수

다음으로 새도잉 할 때 힘든 점에 대한 설문 조사 결과를 표12에 정리하였다.

〈표12〉 새도잉 할 때 힘든 점에 대한 설문 조사 결과

1) 너무 빨라서 새도잉하기 힘들었다.				
① 매우 그렇다 (0)	② 그렇다(1)	③ 보통이다(4)	④ 그다지 힘들지 않다(11)	⑤ 전혀 힘들지 않다(2)
2) 억양 발음이 어려워서 새도잉하기 힘들었다.				
① 매우 그렇다 (0)	② 그렇다(1)	③ 보통이다(8)	④ 그다지 힘들지 않다(8)	⑤ 전혀 힘들지 않다(1)
3) 모르는 어휘 때문에 새도잉하기 힘들었다.				
① 매우 그렇다 (0)	② 그렇다(3)	③ 보통이다(7)	④ 그다지 힘들지 않다(7)	⑤ 전혀 힘들지 않다(1)
4) 들리지 않아서 새도잉하기 힘들었다.				
① 매우 그렇다 (0)	② 그렇다(2)	③ 보통이다(5)	④ 그다지 힘들지 않다(9)	⑤ 전혀 힘들지 않다(2)
5) 새도잉 연습은 피로웠습니까?				
① 매우 그렇다 (0)	② 그렇다(0)	③ 보통이다(7)	④ 그다지 피로하지 않다(5)	⑤ 전혀 피로하지 않다(6)

*()는 인원수

새도잉 연습에서는 모든 항목에서 속도, 억양·발음, 어휘, 듣기에서는 [보통이다] 또는 [그다지 힘들지 않다]로 평가했다. 새도잉 연습은 힘들지 않다는 평가가 대부분이었다.

도움이 된 부분에 대해서는 회화, 듣기, 읽기에 대해 대부분 [매우 그렇다] [그렇다]로 평가하고 있다. 특히 듣기에 대한 효과에 대한 평가가 가장 높았다. 새도잉 쪽은 연습 방법의 특성상 듣기 능력이 가장 향상되었다고 실감한 것으로 나타났다.

〈표13〉 새도잉 효과에 대한 설문 조사 결과

1)새도잉은 회화 능력 향상에 효과가 있었다.				
①매우 그렇다 (3)	②그렇다(7)	③보통이다(8)	④그다지 효과가 없었다(0)	⑤전혀 효과가 없었다(0)
2)새도잉은 듣기 능력 향상에 효과가 있었다.				
①매우 그렇다 (6)	②그렇다(10)	③보통이다(2)	④그다지 효과가 없었다(0)	⑤전혀 효과가 없었다(0)
3)새도잉은 읽기 능력 향상에 효과가 있었다.				
①매우 그렇다 (3)	②그렇다(10)	③보통이다(4)	④그다지 효과가 없었다(1)	⑤전혀 효과가 없었다(0)

*()는 인원수

암기와 새도잉 연습에 참여한 학생이 도움이 되었다고 기술한 내용을 정리하면 다음의 표14와 같다.

〈표14〉 암기·새도잉 연습이 도움이 된 점에 대한 기술 내용

암기그룹	새도잉그룹
읽는 속도가 빨라짐. 문법에 맞게 자연스럽게 대화가 가능해 짐. 발음 연습에 도움이 됨. 말하기 능력 향상. 히라가나를 읽을 수 있게 됨. 자연스럽게 읽기. 어휘력 향상.	반복적 연습으로 단어학습에 용이함. 억양 연습이 가능함. 자연스럽게 외우게 됨. 암기보다 새도잉으로 연습하는 것이 일본어 능력이 향상됨. 발음 교정. 듣기와 발음. 일본어를 들을 기회가 많아짐. 초급자에게 부담이 없고 일본어 학습에 도움이 됨. 듣기와 말하기에 도움이 됨.

암기에 대한 감상평을 정리하면 [시간이 오래 걸려 힘들었지만 발음, 자연스럽게 읽기, 말하기 등의 실력 향상을 느꼈고 보람이 있었다.] 는 서술이 다수 있었다. 암기는 시간과 노력이 많이 걸리지만 테스트 결과 실력 향상이 확실히 있었고 학생 스스로도 실력 향상을 느끼고 있었다.

새도잉 연습법에 대한 감상평은 [간단하면서 효과적, 암기보다 효과적, 즐겁게 연습할 수 있었다. 앞으로도 일본어 학습을 위해 새도잉 연습을 할 수 있을 것 같다.] 등과 같은 내용이 있었다. 새도잉반은 수업 초기에 암기를 경험한 적이 있어 암기와 새도잉을 비교해서 서술한 내용이 들어 있다. 새도잉반의 경우 일본어 학습 경험이 거의 없는 학생이 대부분이었기 때문인지 암기에 대한

부담감이 컸으리라 예상된다. 하지만 새도잉의 경우 학생에게는 새로운 연습법이었고, 연습 자체가 부담이 적고 즐겁게 할 수 있으며 학생 스스로는 일본어 실력이 향상된다고 느끼고 있었다. 그러나, 실제로 테스트 결과는 주목할 만한 실력 변화가 없었기 때문에 새도잉 연습의 경우 연습 시간을 충분히 더 늘려야만 일본어 능력을 향상시킬 수 있다고 생각된다.

5. 맺음말

본 연구는 일본어 능력 향상을 위한 학습법 중 암기와 새도잉 연습을 도입하여 그 효과를 확인하고 학습법에 대한 설문조사를 실시한 것이다. 일본어 능력 향상을 확인하기 위해 테스트를 실시한 결과, 암기는 일본어 능력 향상이 확인되었으나, 새도잉은 실시 전과 실시 후 사이에 큰 변화가 없었다. 이에 암기가 일본어 학습에 있어서 그 효과가 확실히 나타나는 방법이라는 것을 알 수 있었다.

그리고 설문 조사에서 암기와 새도잉 연습에 대한 학생의 평가는 긍정적이었다. 암기는 실제로 일본어 능력을 향상시키는 효과가 있었고, 학생 스스로도 듣기, 말하기, 읽기 분야에 도움이 되었다고 평가하고 있다. 한편 새도잉 연습은 일본어 능력을 향상시키는 효과 면에서는 주목할 만한 결과가 나오지는 않았지만, 학생 스스로는 새도잉 연습을 즐겁게 할 수 있고 듣기, 말하기, 읽기 분야에 도움이 된다고 평가했다. 새도잉 연습의 경우 이번 조사에서는 유의미한 결과가 도출되지는 않았지만 새도잉의 연습 시간을 충분히 더 늘린다면 일본어 능력을 향상시킬 수 있다는 학습법이 될 것이라고 기대할 수 있다.

본 연구에서는 교수자가 학생에게 학습법을 제시하여 조사를 실시하였으나, 추후에는 같은 레벨의 학생을 대상으로 학생 스스로가 선호하는 학습방법을 선택하게 하여 실시할 경우에 암기와 새도잉의 학습 효과가 어떻게 나타나는지 고찰해 보려고 한다. 그리고 새도잉 연습에 있어서 어느 정도 연습량을 늘려야 일본어 능력 향상이 이루어질 수 있을지 금후의 과제로 삼으려고 한다.

【참고문헌】

- 김경란(2010) 「효과적인 영어 학습의 암기 모델」 단국대학교 교육대학원 석사논문, pp.1-65.
- 류자미·오성록(2006) 「통문장암기와 짝활동을 통한 한국어 말하기 향상 융합전략」 『한국융합논문지』 7(2), 한국융합학회, pp.77-84.
- 신선혜·김태은(2011) 「암기 전략과 의미망 전략이 초등 영어 학습자의 어휘 습득에 미치는 영향」 『외국어 교육연구』 29(2), 한국외대외국어교육연구소, pp.77-105.
- 임미진(2011) 「암기 활동을 위한 수업 모형: 드라마 번 노트스를 중심으로」 『영어영상교육』 vol.12, 영어영상교육학회, pp.177-199.
- 門田修平·玉井健(2004) 『決定版 英語シャドーイング』コスモビア, pp.40-51.
- 門田修平(2010) 「なぜシャドーイングは第二言語習得に効果があるのか」 『シャドーイングを日本語指導へ～理論と実践を学ぶ～』日本語教師のためのシャドーイング・セミナー資料, pp.25-31.
- 門田修平·中野陽子·風井浩志·川崎まり子他(2014) 「英語シャドーイングが英語読解プロセスに与える影響: 近赤外分光法による脳内処理メカニズムの検討」 2014年度日本認知科学学会第31回大会発表要旨, pp.2-11.
- 邱学瑾(2011) 「シャドーイング練習は敬語の口頭運用能力の向上におけるシャドーイングの練習効果について」 『台湾日語教育学報』 17号,台湾日語教育学会, pp.187-213.
- 迫田久美子(2006) 「「わかる」から「できる」への運用力養成のためのシャドーイング研究」 第6回日本語教育国際研究大会予稿集, pp.1-4.
- 迫田久美子·松見法男(2005) 「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究(2)—音読練習との比較調査からわかること」 日本語教育学会秋季大会ポスター発表, pp.241-242.
- 酒井真弓(2006) 「発音指導法としてのシャドーイングの効果に関する一考察」 『日語日文学研究』 61輯, 韓国日語日文学会, pp.159-174.
- 張惠貞·倉持香(2008) 「シャドーイングを取り入れた日本語学習の効果について—韓国の初·中級レベルの大学生を対象として—」 『ForeignLanguagesEducation』 15(3), 韓国外国語教育学会, pp.345-358.
- 崔真姫(2012) 「視聴覚日本語におけるシャドーイング法の実践研究—初級レベルの学習者を対象に—」 『日本文化学報』 55輯 韓国日本文化学会, pp.81-94.
- 崔真姫·趙宣映(2018) 「文法能力の向上のためのシャドーイングの活用」 『日本語教育研究』 43輯 韓国日語教育学会 pp.245-258.
- 広森友人(2017) 『外国語学習のメカニズム:第二言語習得にもとづく理論と実践』 JLEC14, pp.1-4.
- Cook,V.1994. Universal grammar and the learning and teaching of second language. in T.Odlin(Ed.)Perspectives on pedagogical grammar. Cambridge. Cambridge University Presss. pp.25-48

논문 투고 일자 : 2018. 10. 06.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 日本語能力の向上のための学習法に関する実践研究
 - 暗記とシャドーイング練習を対象に -

朴蕙成・崔真姫

日本語能力の向上のためには、教授者の役割だけではなく、学習者がどのような練習法を行うのかも重要であると考えられる。本研究ではそのような考えに基づいて、学生が課題遂行のために行う学習法として暗記方法とシャドーイング練習法に注目し、その効果を明らかにするための調査を行った。また、暗記とシャドーイング練習を経験した学生にそれぞれの学習方法に関して、どのような評価をしているのかを調査した。課題遂行の後、暗記とシャドーイング練習の効果を確認するために行った調査では暗記もシャドーイング練習も、語彙面の向上、文法の習得において日本語能力が向上されたことが明らかになった。暗記の場合、語彙と文法との間に大きな差がなかったが、シャドーイング練習の場合、語彙力のほうが文法能力より向上されていた。また、事前テストと事後テストを比べた結果、暗記においては日本語能力の向上が確認されたが、シャドーイング練習においては日本語能力に有意な変化が見られなかった。一方、暗記とシャドーイング練習に関する学生の評価について調査した結果、両学習法に対して肯定的に考えていることが明らかになった。暗記は実際日本語能力を向上させる方法であり、学生自ら聞く能力、話す能力、読む能力に役立ったと評価している。シャドーイング練習法は短期間の練習で日本語能力を向上させることはできなかったが、学生自ら聞く能力、話す能力、読む能力に役立ったと評価している。今後学習者がシャドーイング練習をつづけていけば、日本語能力を十分に向上させることも期待できる方法であると考えられる。

 Study on learning method for improving Japanese language proficiency
 - Focusing on memorization and shadowing -

Pak, Hye-Song · Choi, Jin-Hui

This study is about learning Japanese language. It includes the effectiveness of memorization and shadowing with the result of survey on learning method. A test for language improvement shows that memorization helps to improve Japanese language proficiency, but shadowing does not affect. It's obvious that memorization is a very effective way to improve Japanese language proficiency. On the other hand, survey respondents positively assess both memorization and shadowing. Memorization shows real improvement of Japanese language proficiency, the language learners who answer the survey also say that it helps speak, read and listen to Japanese. In terms of effectiveness, shadowing does not shows outstanding results for improving Japanese language proficiency. However, the language learners say that shadowing is helpful for learning as it makes them practice the language easily and interestingly. They think shadowing helps speak, read and listen to Japanese. Shadowing does not shows meaningful result now. If it is practiced for plenty of time, however, it also can be a good learning method which helps language learners improve their Japanese language proficiency in the long run. 'How long does shadowing be conducted to improve Japanese language proficiency?' will be my next subject of study.

韓國語와 日本語의 二字 漢字語에 관한 考察*

신 민 철**

(e-mail : mcshin68@hanmail.net)

< 목 차 >

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 머리말 | 3. 二字 漢字語 考察 |
| 2. 漢字語 調査 및 考察經過 | 3.1 共通漢字語 |
| 2.1 漢字語 調査 | 3.2 非共通漢字語 |
| 2.2 漢字語 考察 | 4. 맺음말 |

キーワード : 漢字語(Chinese-derived words), 語種(types of words by their origin), シソーラス(Thesaurus), 國語辭典(Korean-Language & Japanese-Language Dictionary), 基本語彙(Basic Vocabulary), 共通漢字語(Common Chinese-derived words), 非共通漢字語(Non-common Chinese-derived words)

1. 머리말

어휘의 어종(語種)별 구성을 보면 어떤 언어의 어휘가 외래 요소의 영향을 어느 정도 받았는지 알 수 있다¹⁾. 지금까지 조사된 어휘조사나 어휘연구 자료를 통해 한일 양 언어 모두 전체적 경향으로서 고유어보다 한자어의 비율이 높고 그 비중이 크다는 것을 확인할 수 있다²⁾. 이 점에 주목하여 언어체계 전체에 있어서 한일 양 언어의 한자어 비교를 진행해 오고 있다. 조사대상의 선정과 조사과정에서 몇 번의 시행착오를 겪고 최근에 한자어 조사를 완료하고 앞선 논문에서 一字 漢字語에 대한 고찰을 마친 단계이다. 본고는 그 연속선상

* 이 논문은 2018학년도 한남대학교 학술연구비조성 지원에 의하여 연구되었음.

** 한남대학교, 교수, 일본어학

1) 大野晋(1956) pp.34-46 참조.

2) 金光海(1993) pp.109-115, 野村雅昭(2012) p.158 등 참조.

에 있는 연구로서 二字 漢字語를 대상으로 한국어와 일본어의 공통한자어와 비공통한자어³⁾를 조사하고 의미 및 용법 면에서 어떠한 유사점과 상이점이 보이는가를 자세히 고찰하고자 한다.

2. 漢字語 調査 및 考察經過

먼저 지금까지 한일 양 언어의 한자어 조사를 어떻게 진행하여 어떠한 결과를 얻었고 그것을 대상으로 어떠한 고찰을 행해 왔는지에 대해 간단히 정리하도록 하겠다.

2.1 漢字語 調査

언어체계 전체에 있어서의 한자어라고 했을 경우 그 범위를 어디까지 둘 것인가 하는 문제가 대두되게 된다. 상식적으로 생각했을 때 각 언어에서 사용되는 한자어를 모두 망라하는 것은 불가능에 가깝고 가능하다 하더라도 그것에 큰 의미를 부여할 수 있을지는 의문이다. 그러므로 어느 정도 한정을 두어야 하는데, 각각의 언어에서 시소러스(thesaurus)의 기능을 하는 표준적인 국어사전을 대상으로 한자어를 추출하는 것이 현실적인 대안이라고 할 수 있을 것이다.

이러한 전제 하에 신민철(2012)에서는 발간 년도가 별로 떨어져 있지 않고 가급적 최신의 것을 대상으로 하겠다는 생각에서 각각 『옛센스 국어사전(제6판 전면개정판)』(민중서림, 2006)과 『新明解国語辞典(第七版)』(三省堂, 2012)을 대상으로 한자어 조사 기준을 설정하고 한국어는 「가」항, 일본어는 「あ」항까지만 조사하여 비교를 시도하였다. 표제어 수에서 한국어 16만 여, 일본어 7만 7천 5백으로 상당한 차이를 보이고 있고, 한국어 국어사전이 일상어뿐만 아니라 전문어와 복합어까지 폭넓게 수록하고 있다는 편찬 방침의 차이가 있었지만, 조사 기준을 잘 설정하면 조사 과정에서 어느 정도 보완이 가능할 것으로 기대하고 조사를 진행하였다. 그러나 예상과는 달리 한국어 쪽에 전문어뿐만 아니라 ‘가가문전(家家門前), 가가호호(家家戶戶), 가감부득(加減不得), 가감지인

3) 본고가 비교대상으로 삼은 양 언어의 국어사전에서 공통인지 비공통인지를 말하는 것이다.

(可堪之人), 가거지지(可居之地), 가롱성진(假弄成真), 가부득감부득(加不得減不得), 가부취결(可否取結), 가이동가이서(可以東可以西), 가취지례(嫁娶之禮), 가화만사성(家和萬事成)’ 등과 같은 한문 어구(語句)나 문(文)으로 이루어진 한자어가 다수 포함되어 있었다. 이와 같은 불균형 때문에 한자어 비교에 어려움이 있을 것으로 판단되어 신민철(2014)에서는 한국어 국어사전을 『연세한국어사전』(두산동아, 1998)으로 교체하였다. 그 이유는 『연세한국어사전』의 표제어는 다양한 언어자료의 어휘조사를 통해 얻어진 것으로 실제 언어생활을 반영하고 있으며, 사용률도 높아 기본어휘의 성격을 띠는 약 5만 개로 구성되어 있기 때문이다. 이것은 『新明解國語辭典』의 편집 방침과도 어느 정도 통한다는 것을 사전의 첫머리에서 확인할 수 있다. 따라서 본 연구의 한자어 조사 대상 사전으로서 적합하다고 본 것이다. 선행연구에서는 국어사전에 수록된 표제어 중에서 한자어를 추출하는 조사가 이루어졌는데, 어떠한 것을 한자어로 볼 것인가와 품사가 복수인 한자어, 표기가 복수인 한자어, 발음이 복수인 한자어 등에 대해 자세한 기준을 설정하고 있다. 구체적인 기준에 대해서는 선행하는 논문을 참조하기 바란다.

申玟澈(2016)에서 조사한 한자어는 각각 한국어 23,678語, 일본어 31,622語이었다. 그 중 공통한자어는 8,522語, 비공통한자어로는 한국어 15,156語, 일본어 23,100語로 나타났다. 조사 결과에 대하여 그 경향을 분석하였으나 통계수치 및 한자어 공통도에 오류가 발견되어 엑셀의 필터 기능을 이용하여 재조사를 실시하였다. 漢字마다 일일이 필터링을 해야 하기 때문에 시간이 많이 소요되었지만 그 만큼 정확도는 보장할 수 있게 되었다. 재조사 결과 한국어는 23,653語, 일본어는 31,587語, 그 중 공통한자어는 12,450語, 비공통한자어는 한국어 11,203語, 일본어 19,137語가 최종적으로 조사되었다.

2.2 漢字語 考察

먼저 위에서 기술한 바와 같이 신민철(2017)에서는 申玟澈(2016)의 통계수치 및 한자어 공통도 오류를 바로잡기 위한 재조사가 이루어졌고 그 결과 얻어진 한자어를 대상으로 단어 길이별 구성으로 본 전체적인 경향을 고찰하였다. 1字 漢字語로서 자립어인 단어는 그다지 많지 않았다. 비중이 가장 높게 나타난 것은 2字 漢字語였는데, 그 이유는 한국어와 일본어 모두 한자어의 구성이 2字를 기본으로 하고 있기 때문이다. 3字와 4字 漢字語에는 2字 漢字語의 2次 結合에 의한

파생어와 복합어가 다수 포함되어 있었다. 5字, 6字로 글자 수가 늘어날수록 그 비율은 떨어졌으며 일상생활에서 쉽게 접할 수 없는 전문용어가 많이 나타났다.

한편 비공통한자어에 대하여 각각의 언어에 특징적인 한자어를 간단히 살펴본 결과 1字 漢字語, 한자어 부사, 한자성어(漢字成語) 등을 통하여 한국어가 일본어에 비해 한자어의 영향을 더 많이 받았다는 것을 확인할 수 있었다. 한국어의 음절구조의 복잡성과 한문숭배사상이 그 배경에 있다. 또한 한국어에는 일제강점기를 거치며 音讀하는 형태로 우리말에 수용된 한자어가 많은데 광복 이후 꾸준히 이어져온 국어순화운동에도 불구하고 현재까지도 완전히 배제되지 않고 있다. 한자의 음을 매개로 하고 있어 일본어계통의 단어라는 인식이 낮기 때문으로 생각된다. 그 밖의 비공통한자어에는 각 언어의 역사, 정치, 식문화, 전통 예술과 예능, 사회, 종교 등 양국의 문화와 관련이 있는 한자어들이 많다는 것을 확인하였다.

또한 신민철(2018)에서는 一字 漢字語만을 대상으로 양 언어에서 각각 어떠한 특징이 보이는가를 밝히기 위해 자세한 분석을 시도하였다. 그 결과 공통한자어에는 수사, 단위나 구분을 나타내는 말, 접두어나 접미어 등이 많이 들어 있는 것으로 확인되었다. 그 밖의 공통한자어로는 불교, 수학, 생물학 등과 관련한 전문용어, 평가 등급을 나타내는 말, 음양오행과 관련이 있는 말 등이 있었다. 또한 反意語나 關聯語가 서로 대립하는 경우 一字 漢字語의 성립이 용이하다는 것을 확인할 수 있었다.

한편 비공통한자어로서 한국어에만 있는 한자어 중에는 일부 일본어에도 존재하는 한자어가 있기는 하지만 일본어에서는 고유어(和語)가 대응하는 경우가 많다는 것을 확인할 수 있었다. 이는 한국어에서 한자어의 세력에 밀려 고유어가 위축된 결과라고 할 수 있다.

3. 二字 漢字語 考察

먼저 공통한자어와 비공통한자어의 단어 길이에 따른 구성을 보이면 다음 <표1>, <표2>와 같다.

<표1> 공통한자어의 단어 길이별 구성

단어 길이	단어 수(語)	비율(%)
1字	370	2.97
2字	11,489	92.28
3字	510	4.10
4字	76	0.61
5字	3	0.02
6字	2	0.02
합 계	12,450	100

<표2> 비공통한자어의 단어 길이별 구성

단어 길이	한국어		일본어	
	단어 수(語)	비율(%)	단어 수(語)	비율(%)
1字	238	2.12	451	2.36
2字	3,831	34.20	16,732	87.43
3字	6,393	57.07	1,516	7.92
4字	696	6.21	387	2.02
5字	43	0.38	39	0.20
6字	2	0.02	11	0.06
7字	0	0.00	1	0.01
합 계	11,203	100	19,137	100

<표1>을 보면 2字 漢字語가 대부분을 차지한다는 것을 알 수 있다. 이는 한국어와 일본어 모두 현대어에서 자주 사용되는 한자어의 구성이 2字를 기본으로 하고 있다는 것과 관련이 있을 것이다. 이것은 野村(1976)도 지적하는 바이다. 한편, <표2>를 보면 한국어는 3字 漢字語가 가장 높은 비중을 차지하는 반면 일본어는 2字 漢字語가 압도적 우위를 차지한다는 차이가 있다. 일본어의 경우는 공통한자어의 경우와 유사한 경향을 보이고 있음을 알 수 있다. 즉, 2字 漢字語의 비중이 가장 높고 다음은 3字, 1字의 순이며 나머지는 글자 수가 늘어날수록 비중이 줄어든다는 것이다. 한국어의 경우는 다른 부분은 같으나 2字와 3字 構成의 漢字語가 역전되었다는 것이 특징이라 할 수 있다. 이는 한국어의 3字 이상으로 구성된 한자어는 2字 漢字語를 기본 단위로 한 파생어나

복합어인 경우가 많다는 것을 확인할 수 있었다. 이 점을 고려하면 『연세한국어사전』이 『新明解國語辭典(第七版)』보다 파생어와 복합어를 표제어로서 폭넓게 수용하고 있다는 말이 된다.

이 중 2字 漢字語에 대하여 공통한자어와 비공통한자어로 나누어 고찰을 해 보도록 하겠다.

3.1 共通漢字語

본고가 한자어 조사 대상으로 삼은 양 언어의 국어사전에 수록된 한자어 중 공통한자어의 대부분은 2字 漢字語임을 확인할 수 있다. 앞에서도 말했듯이 한국어와 일본어 모두 한자어의 구성이 2字를 기본으로 하고 있기 때문이다. 이들 한자어에는 중국 고전에서 유래한 한자어, 또는 불경에서 유래한 것으로 범어를 음역이나 의역, 조어한 한자어가 들어있다(朴英燮1997). 또한 근대에 일본은 서양의 학문과 문물을 받아들이면서 대량의 한자어를 번역·조어하게 되는데, 이러한 한자어가 우리나라는 물론 중국에까지 들어가 사용되게 되며 공통한자어가 된 경우도 많다.

3.2 非共通漢字語

비공통한자어 중 먼저 한국어에만 있는 한자어를 보기로 한다. 3,831語의 2字 漢字語가 본고가 조사대상으로 삼은 한국어 국어사전에만 표제어로 수록되어 있는데, 다른 사전의 조사를 통해 실제로 일본어에 존재하지 않는 한자어인지를 확인해 보도록 한다⁴⁾.

조사 결과, 3,831語 중 45.4%에 해당하는 1,740語가 일본어에도 존재하는 단어⁵⁾로 확인되었다. 나머지 54.6%의 2,091語는 한국어에만 존재하는 한자어라고 할 수 있는데 그 중에는 ‘歐美, 對美, 美製, 美貨, 反美, 訪美, 北美, 數百, 數十, 數種, 數千, 十餘, 五萬, 二色’과 같은 한자어도 들어있다. ‘歐美, 對美, 美製, 美貨, 反美, 訪美, 北美’ 등은 한국과 일본이 미국이나 아메리카를 가리키는 한자가 서로 다르기 때문에 한국어에만 존재하게 된 것이다. 한편 ‘數百, 數十, 數種, 數千, 十餘, 五萬, 二色’ 등은 일본어에서도 충분히 실현 가능한 한자어이다.

그럼 일본어에도 존재하는 단어와 한국어에만 존재하는 것으로 확인되는 한

4) 야후재팬 「広辞苑無料検索」 사이트(<https://sakura-paris.org/dict/>)에서 『広辞苑』, 『大辞林』, 『日本国語大辞典』에 수록되어 있는지를 조사함.

5) 한자어라고 하지 않은 이유는 일본어에도 존재하는 단어가 한자어가 아닌 경우도 있기 때문이다.

자어로 나누어 어떠한 특징이 보이는가를 자세히 고찰해 보도록 하겠다.

(1) 일본어에도 한자어로 존재하는 것

1,740語 중 1,384語가 일본어에도 한자어로 존재하는 것으로 확인되었다. 그 전체를 제시하는 것은 지면 관계상 어려움이 있으므로 특징적인 것만을 제시하기로 한다.

먼저 1,384語에는 아래에 제시한 바와 같이 일본어에 한자어로 존재하기는 하지만 大型 또는 超大型 사전에서만 확인 가능한 특수한 한자어가 다수 포함되어 있다.

加擔	假髮	家勢	加害	肝癌	干與	感氣	江山	江村	改嫁	倨慢	景致	高手
考試	共匪	空士	共助	公主	過飲	光復	校時	口味	菊花	軍民	軍士	軍樂
宮闕	歸家	歸隊	急派	吉夢	露宿	鹿茸	當籤	大領	大路	德分	德澤	道警
同甲	同生	未伏	麥酒	牧會	問安	門中	民泊	放學	白軍	白飯	補藥	本貫
寺刹	三災	書堂	先烈	先塋	船體	聖經	聖誕	壽衣	巡警	試圖	時調	食單
身世	鱈魚	業體	女僧	力道	靈芝	外家	外叔	琉璃	陸士	衣裳	已往	日語
日帝	子婦	自酌	杖鼓	長技	丈母	丈人	長點	葬地	詛呪	漸漸	正色	精誠
亭子	定處	祭物	躁急	朝食	族譜	腫氣	酒母	中伏	中殿	地官	茶禮	鐵網
鐵帽	初伏	秋夕	醉氣	親兄	七旬	卓子	砲隊	下士	韓族	緘口	海蔘	吸煙
詰難	詰責											

또한 다음 단어들도 한자어로 수록되어 있는 것을 확인하였는데 ‘各各(おのおの), 大幅(おおはば), 毎年(まいとし), 毎月(まいつき), 毛皮(けがわ), 舞姬(まいひめ), 文身(いれずみ), 半年(はんとし), 山寺(やまでら), 山城(やましろ), 喪主(もしゅ), 西山(にし야ま), 西風(にしかぜ), 石橋(いしばし), 石壁(いしかべ), 先手(せんて), 松林(まつばやし), 身分(みぶん), 神主(かぬし), 煙草(たばこ), 外側(そとがわ), 右側(みぎがわ), 遠山(とお야ま), 閏年(うるうどし), 隣村(となりむら), 日暮(ひぐれ), 日傭(ひやとい), 節目(ふしめ), 正宗(まさむね), 早起(はやおき), 潮水(しおみず), 種馬(たねうま), 左側(ひだりがわ), 竹刀(しない), 竹槍(たけやり), 中指(なかゆび), 地主(じぬし), 真心(まごころ), 青色(あおいろ), 七夕(たなばた), 割当(わりあて), 海苔(のり), 革帶(かわおび), 黃菊(きぎく), 荒地(あれち), 灰色(はいいろ), 裸身(はだかみ), 短靴(たんぐつ), 北風(きたかぜ), 喪服(もふく), 月初(つきはじめ), 乳母(うば), 銀色(ぎんいろ), 耳鳴(みみなり), 兩手(りょうて)’와 같이 전체를 訓讀하거나 ‘重箱読み’나 ‘湯桶読み’로 읽는 것이 친숙하다는 것을 알 수 있다. 그 밖에 한국어에서 일본어로 들어간 ‘妓生, 兩班, 諺文, 總角’과 같은 한자어와 이전에 베트남을 지칭하는 말로 쓰였던 ‘越南’이라는 한자어가 일본어

에 존재한다는 것을 확인하였다.

한편 ‘家宅, 各部, 各社, 減價, 減縮, 交代, 金賞, 銅賞, 本書, 本會, 相殺, 賞狀, 數年, 數日, 愛嬌, 愛國, 哀悼, 愛情, 愛着, 愛稱, 愛好, 兩日, 遊說, 柚子, 銀賞, 敵軍, 傳受, 定義, 行列’ 등의 한자어는 일본어에서도 그렇게 접하기 어려운 한자어가 아닌데도 본고가 조사 대상으로 삼은 사전에는 수록되어 있지 않았다. 이와 같이 일본어의 표준적인 국어사전에 일상적인 한자어가 수록되어 있지 않은 것은 문제라고 생각한다.

(2) 일본어에도 존재하지만 한자어가 아닌 것

다음은 일본어에 존재하기는 하나 한자어가 아니고 전체를 訓讀하거나 ‘重箱讀み’나 ‘湯桶讀み’로 읽는 356語를 제시하기로 한다.

假橋	覺書	看做	間紙	紺色	甘酒	居處	据置	建物	建坪	格上	格下	見本
見習	見積	結付	係員	係長	古宮	古屋	古鐵	骨組	空瓶	弓手	近間	今方
金型	其實	其他	其後	裸木	南側	男湯	南向	內譯	老役	但書	端役	當付
唐手	唐衣	當場	唐草	大橋	大口	大入	大型	桃色	獨食	獨子	洞口	冬服
東向	馬場	幕間	賣渡	埋立	賣物	賣上	買食	買入	賣場	買主	賣主	賣出
梅香	綿織	名札	謀事	毛絲	毛織	母親	木草	木枕	苗木	苗床	物主	未拂
民草	蜜蜂	薄色	放飼	方舟	白苔	白樺	壁紙	別棟	步幅	本音	浮氣	不渡
浮彫	父親	北道	北側	北向	分付	拂下	飛上	飛火	氷水	沙鉢	砂場	沙場
砂地	沙地	山羊	山坂	喪輿	喪章	喪中	常夏	色色	色漆	生栗	生絲	生水
生捕	西窓	西向	夕刊	石山	先金	先物	先拂	先山	世習	小島	小路	小賣
小使	所謂	小作	小包	小幅	小型	小形	松栝	送狀	送出	水菊	手當	手配
手相	手續	手順	手錠	手製	手帖	水桶	手下	堅穴	勝戰	勝點	試合	食代
身柄	新型	眼藥	岩山	野山	約物	藥瓶	藥水	藥指	讓受	兩側	言渡	言爭
業所	旅路	女湯	如何	驛前	役割	年上	戀人	戀敵	年前	年下	塩氣	葉書
葉茶	外樣	雨傘	雨衣	右前	雨靴	遠音	油菜	油畫	音差	裏書	二役	移替
引繼	引渡	引上	引受	引揚	引張	引會	人名	殘高	場面	場所	長衣	長長
入口	立席	立石	立場	立替	立會	前場	田主	切上	切下	接木	正札	組曲
底力	積金	積立	赤松	赤字	積出	組版	組合	縱書	左手	左前	左向	鑄物
鳥籠	組立	朝飯	早死	組員	組長	組版	組合	縱書	左手	左前	左向	鑄物
株式	株主	鑄型	中庭	中型	中火	只今	持分	支拂	織物	職場	車路	差押
差入	次次	差出	窓口	川獵	青綠	請負	青石	初入	醜男	追越	祝歌	出口
蟲齒	取扱	取消	取調	取締	取下	齒藥	梔子	親分	枕木	鍼筒	打合	投網
投賣	板木	版木	板子	板材	板紙	貝殼	佩物	貝柱	貝塚	片道	編物	坪數
平田	包袋	抱主	暴酒	品切	皮帶	何等	夏服	荷役	下請	下回	割引	割増
海女	海松	行方	行纏	虛事	懸板	血眼	胡桃	呼名	花代	火繩	貨主	火筒
花環	悔改	橫軸	後拂	黑幕	黑字	假縫	假拂	家出	空日	廣場	廣幅	救主
舊株	基督	氣合	貸切	服喪	敷地	山役	山田	山祭	消印	身元	溫突	溫堦
腰刀	元帳	株價	株券	川邊	湯器	荷物	合席	呼出				

위의 단어들을 보면 한국어가 일본어보다 한자어의 영향을 더 많이 받았다는 것을 알 수 있다. 그 중에는 일제강점기를 거치면서 한자의音を 매개로 일본어가 한국어에서 한자어로 정착한 단어들이 많다는 것을 확인할 수 있다. 이와 같이 한국어는 일본어를 한자어로 쉽게 받아들이는 경향을 보이고 있는데 여러 분야에서 일본과의 교류가 활발해지고 전 세계가 실시간으로 정보를 주고받는 고도정보화 시대인 현재에도 그러한 일본어 단어의 유입은 끊이지 않고 있다.

(3) 한국어에만 존재하는 한자어

위에서 언급한 대로 2,091語의 한자어가 한국어에만 존재하는 것으로 확인되었는데 지면 관계상 특징적인 한자어들만을 살펴보도록 하겠다.

警監	警査	警長	季嫂	姑母	告祀	姑叔	姑從	棍杖	關北	廣魚	校監	教聯
歐美	舊正	區廳	國樂	郡民	郡史	郡廳	宮合	落榜	南道	男妹	南美	南侵
南派	南韓	拉北	來韓	農活	檀紀	丹楓	唐麵	堂山	堂叔	堂姪	對共	對南
對美	對北	大蝦	大蛤	渡美	道袍	洞內	洞里	洞名	洞民	冬柏	童蓼	同壻
洞長	凍太	東軒	洞會	馬牌	網巾	妹夫	妹兄	面內	面長	明紬	武班	文魚
美製	美貨	民魚	膊拱	樺拱	反託	訪美	魴魚	伐草	別監	別堂	北傀	北美
北送	北魚	北侵	北韓	緋緞	沙果	查頓	舍廊	四物	賜藥	史草	四寸	士禍
山蓼	三修	上監	尙宮	上兵	生太	庶孽	歲拜	貫房	蘇塗	孫女	孫婦	水蓼
菽麥	僧舞	媳家	媳宅	媳母	媳父	媳叔	媳兄	牙箏	衙前	藥果	御使	抑佛
殮襲	葉錢	令監	領官	令旗	嶺南	嶺東	禮緞	禮房	甕器	倭警	倭軍	倭亂
倭兵	倭船	倭式	倭食	倭王	倭將	倭敵	倭政	越北	月貫	鑰器	陸本	六旬
六曹	六寸	肉脯	肉膾	飲福	邑內	邑落	邑面	邑民	邑長	義警	吏房	吏曹
姨從	姨姪	人共	日警	日人	日政	日製	壬亂	臨政	入北	姉兄	丈家	長衫
長孫	長魚	在美	戰警	戰笠	全鯁	專貫	錢魚	政丞	弟嫂	弟氏	竈王	宗婦
宗孫	從叔	宗氏	從姪	宗會	主禮	酒幕	中領	紙榜	進甲	眞骨	姪女	贊託
參奉	參判	妻家	妻男	妻弟	妻兄	僉知	廳長	草家	醮禮	寸數	出嫁	打令
打作	脫喪	宕巾	幘畫	八旬	編磬	風磬	風樂	韓菓	韓末	韓美	韓方	韓服
韓食	韓式	韓藥	韓屋	韓牛	韓醫	韓日	韓中	韓紙	海警	鄉歌	香徒	鄉吏
鄉樂	縣監	刑房	兄夫	兄嫂	刑曹	戶曹	紅蓼	紅柿	洪魚	紅蛤	花煎	還甲
黃芪	回甲											

위의 한자어들이 한국어에 특징적이라고 생각되는 것들이다. 몇 가지로 나누어 생각해 보도록 하겠다.

먼저 ‘南美, 歐美, 渡美, 對美, 美製, 美貨, 訪美, 北美, 在美, 韓美’는 앞서 말한 대로 한국에서 미국이나 아메리카를 가리키는 한자가 일본과 다르기 때문에 한국어에 고유할 수밖에 없는 한자어이다. ‘來韓, 韓末, 韓服, 韓式, 韓屋, 韓

日, 韓中, 韓紙’도 같은 맥락에서 이러한 한자어들이 일본의 국어사전에 실릴 적극적인 의미가 있다고는 할 수 없다. 또한 ‘警監, 警査, 警長, 上兵, 領官, 陸本, 義警, 戰警, 中領, 海警’은 군이나 경찰 관련 용어로 계급을 나타내는 말이 많다.

한편, ‘季嫂, 姑母, 姑叔, 姑從, 男妹, 堂叔, 堂姪, 同壻, 妹夫, 妹兄, 查頓, 四寸, 庶孽, 孫女, 孫婦, 媳家, 媳宅, 媳母, 媳父, 媳叔, 媳兄, 六寸, 姨從, 姨姪, 姉兄, 長孫, 弟嫂, 弟氏, 宗婦, 宗孫, 從叔, 宗氏, 從姪, 姪女, 妻家, 妻男, 妻弟, 妻兄, 寸數, 兄夫, 兄嫂’ 등은 친족명칭과 관련이 있는 것들인데 일본어에 비해 한국어에서는 친족명칭을 매우 세분화해서 부르는 것이 특징이라고 할 수 있다.

그리고 ‘舊正, 宮合, 堂山, 伐草, 歲拜, 殮襲, 禮緞, 六旬, 飲福, 丈家, 宗會, 主禮, 紙榜, 進甲, 醮禮, 出嫁, 八旬, 打作, 脫喪, 還甲, 回甲’ 등은 한국의 관혼상제나 세시풍속과 관련이 있는 단어들이고, ‘校監, 敎聯, 農活, 三修’ 등은 학교 및 학교생활과 관련이 있는 말이다. 또한 ‘關北, 南道, 嶺南, 嶺東’은 한국의 지역을 크게 나누는 명칭이며 ‘區廳, 郡民, 郡史, 郡廳, 洞內, 洞里, 洞名, 洞民, 洞長, 洞會, 面內, 面長, 邑內, 邑落, 邑面, 邑民, 邑長, 廳長’은 한국의 행정단위와 관련이 있는 말이다. 그러므로 이러한 한자어는 한국어에만 존재하게 된 것이다.

다음으로 ‘廣魚, 唐麵, 大蝦, 大蛤, 童蔘, 凍太, 文魚, 民魚, 魴魚, 北魚, 沙果, 山蔘, 生太, 水蔘, 菽麥, 藥果, 肉脯, 肉膾, 長魚, 全鰻, 錢魚, 韓菓, 韓方, 韓食, 韓藥, 韓牛, 韓醫, 紅蔘, 紅柿, 洪魚, 紅蛤, 花煎, 黃芪’는 한국의 식문화와 관련이 있으며 ‘丹楓, 冬柏’은 한국의 식물명이다. 그리고 신앙이나 예능과 관련 있는 한자어로는 ‘告祀, 國樂, 檀紀, 四物, 僧舞, 牙箏, 竈王, 打令, 幀畫, 編磬, 風磬, 風樂, 鄉歌, 香徒, 鄉吏, 鄉樂’을 들 수 있다. 또한 ‘道袍, 網巾, 明紬, 搏枱·搏枱, 別堂, 緋緞, 舍廊, 貫房, 甕器, 月貫, 鍬器, 長衫, 戰笠, 專貫, 酒幕, 草家, 宕巾’을 통해서도 한국의 복식 및 건축 문화를 엿볼 수 있다.

한국어에 고유한 한자어에는 ‘南侵, 南派, 南韓, 拉北, 對共, 對南, 對北, 北傀, 北送, 北侵, 北韓, 越北, 人共, 入北, 臨政, 贊託’ 등과 같이 남북 대치 상황 및 근현대사와 관련 있는 것들도 있으며 ‘棍杖, 落榜, 東軒, 馬牌, 武班, 反託, 別監, 賜藥, 史草, 土禍, 上監, 尙宮, 蘇塗, 衙前, 御使, 抑佛, 葉錢, 令監, 令旗, 禮房, 六曹, 吏房, 吏曹, 政丞, 眞骨, 參奉, 參判, 僉知, 縣監, 刑房, 刑曹, 戶曹’ 등과 같이

역사와 관련이 있는 것들도 있다. 또한 ‘倭警, 倭軍, 倭亂, 倭兵, 倭船, 倭式, 倭食, 倭王, 倭將, 倭敵, 倭政, 日警, 日人, 日政, 日製, 壬亂’ 등은 과거부터 현재에 이르기까지 일본과의 관계 속에서 생겨난 한자어들이라고 할 수 있다.

이상과 같이 한국어에 고유한 한자어에는 친족명칭, 관혼상제, 세시풍속, 행정단위, 식문화, 신앙, 예술, 역사, 학교, 경찰, 군대, 식물명 등 문화 전반과 관련이 있음을 확인할 수 있었다.

한편 본고가 조사 대상으로 삼은 사전에서 일본어에만 있는 것으로 확인된 16,732語에 대해서도 똑같은 조사가 이루어져야 하겠지만, 시간 및 지면 관계상 전체에 대한 조사 및 고찰은 다음 논문에서 행하기로 한다. 다만 어떠한 경향이 보이는가를 파악하기 위해 최초 1,000語에 대해서만 다른 한국어 사전에 등재되어 있는지의 여부를 조사해 봄으로써 실제로 한국어에 존재하지 않는 한자어인지를 확인해 보도록 하겠다⁶⁾.

그 결과 1,000語 중 794語가 한국어에도 존재하는 한자어로 확인되었고 다음에 제시하는 206語는 일본어에만 존재하는 것으로 조사되었다.

愛猫	惡所	惡稅	惡態	惡天	壓雪	行火	案外	安氣	庵室	暗証	安直	餡饅
餡蜜	易易	以遠	育休	育毛	胃弱	異存	一案	一一	一応	一眼	一丸	一儀
一議	一芸	一語	一樹	一汁	一存	一打	一台	一難	一年	一倍	一番	一病
一木	一枚	一物	一揖	医長	異朝	一粒	一兩	一類	一禮	一浪	一六	一
個·一箇	一蓋	一階	一塊	一鶴	一畫	一卷	一季	一系	一穴	一犬	一軒	
一戶	一高	一校	一獻	一再	一昨	一札	一山	一算	一盞	一祭	一矢	一失
一首	一週	一緒	一称	一双	一槍	一叢	一著	一丁	一挺	一聽	一徹	一兎
一得	一杯	一敗	一拍	溢美	一匹	一瓢	一票	一婦	一風	一腹	一碧	一法
一報	遺尿	遺灰	異版	遺票	異文	易變	遺例	陰壓	陰金	院家	隱元	院号
印書	院賞	院政	飲泉	院宣	印池	院殿	印伝	印判	音物	雨域	雨下	胡散
迂生	右折	鬱屈	鬱病	饅飩	雨飛	右府	纒綯	運座	雲齋	運上	雲上	運針
雲頂	英學	衛視	榮称	詠進	詠草	映發	英米	映倫	英和	會厭	液溫	易斷
驛弁	疫痢	繪師	會式	壞疽	衛府	會符	繪本	繪馬	衣紋	円価	円貨	演歌
遠眼	遠忌	緣語	演式	演者	緣者	艶笑	炎色	嫣然	婉然	緣台	園地	炎晝
遠投	筵道	緣日	延繞	演能	鉛分	円本	遠由	演練	歐亞	奧羽	歐化	応護
歐州	奧州	王將	応召	横着	押捺	横風	横柄	歐米	往反	臆病	憶病	臆面
和子	恩借											

한자 수사 ‘一’과 단위를 나타내는 말로 이루어진 한자어가 많은 것이 눈에 띈다. 이럴 경우 한국어의 경우는 한자 수사를 쓰지 않고 고유 수사를 쓰는 경

6) 국립국어원 표준국어대사전(<http://stdweb2.korean.go.kr/>) 검색을 통해서 확인함.

우가 많기 때문에 한국어에는 이와 같은 한자어가 존재하지 않는 것이다. 그리고 ‘愛猫, 育毛, 胃弱’은 실제로 한국어에서 쓰이는 한자어이기는 하지만 아직 국어사전에는 등재되어 있지 않은 것 같다. 한편 ‘行火, 餡饅, 餡蜜, 育休, 右折, 饅飩, 馱弁, 絵馬, 円貨, 演歌, 縁台, 縁日, 王将’ 등은 일본 문화와 관련 있는 한자어라고 할 수 있겠다.

4. 맺음말

본고에서는 二字 漢字語에 대하여 한국어와 일본어의 공통한자어와 비공통한자어로 나누어 어떠한 특징이 보이는가를 고찰하였다.

공통한자어에는 중국 고전에서 유래한 한자어, 범어의 음역이나 의역 한자어, 일본에서 조어진 서양의 학문과 문물 관련 한자어 등으로 이루어져 있다는 것을 확인하였다. 한편, 비공통한자어에 대해서는 본고가 조사대상으로 삼은 사전 이외의 다른 사전의 조사를 통해 실제로 비공통한자어인지 여부를 확인해 보았다. 그 결과 한국어에만 있는 것으로 조사된 3,831語 중 45.4%에 해당하는 1,740語가 일본어에도 존재하고, 나머지 54.6%의 2,091語가 한국어에만 존재하는 한자어로 확인되었다.

일본어에도 존재하는 것으로 확인된 1,740語 중에는 大型 또는 超大型 사전에서만 확인 가능한 특수한 한자어가 다수 포함되어 있었고, 전체를 訓讀하거나 ‘重箱読み’나 ‘湯桶読み’로 읽는 단어도 같이 수록되어 있는 경우도 있었다. 또한 일본어에도 존재하는 단어이기는 하지만 한자어가 아닌 경우도 있었는데, 이를 통해 한국어가 일본어보다 한자어의 영향을 더 많이 받았다는 것을 알 수 있다. 그 중에는 일제강점기를 거치면서 한자의音を 매개로 일본어가 한국어에서 한자어로 정착한 단어들이 다수 포함되어 있다는 것을 확인하였다.

다음으로 한국어에만 존재하는 것으로 확인된 2,091語에 대해서 보면, 전체에 대해서 확인할 수는 없지만 일부 특징적인 한자어를 통해서 친족명칭, 관혼상제, 세시풍속, 행정단위, 식문화, 신앙, 예술, 역사, 학교, 경찰, 군대, 식물명 등 문화 전반과 관련이 있음을 확인할 수 있었다. 한편 본고가 조사 대상으로 삼은 사전에서 일본어에만 있는 것으로 확인된 16,732語 중 최초 1,000語에 대하여 다른 한국어 사전에 등재되어 있는지의 여부를 확인할 결과, 794語가 한

국어에도 존재하였고 206語는 일본어에만 존재하는 것으로 확인되었다. 일본어에만 존재하는 ‘行火, 餡饅, 餡蜜, 育休, 右折, 饅飽, 馱弁, 絵馬, 円貨, 演歌, 縁台, 縁日, 王将’ 등은 일본 문화와 관련 있는 한자어라고 할 수 있다.

이와 같이 각각의 언어에 특징적인 한자어를 고찰함으로써 문화도 엿볼 수 있음을 확인하였다. 앞으로 일본어에만 있는 것으로 조사된 한자어 전체 및 二字 이상의 한자어에 대해서도 고찰의 범위를 확대해 나갈 계획이다.

【참고문헌】

<한자어 조사 대상 자료>

『연세한국어사전』(두산동아, 1998)

『新明解國語辭典(第七版)』(三省堂, 2012)

<참고 서적 및 논문>

金光海(1993) 『국어어휘론 개설』 집문당, pp.109-115.

朴英燮(1997) 「國語 漢字語에 대한 小攷」 『國語學』29 국어학회, pp.341-357.

신민철(2012) 「韓國語와 日本語의 漢字語 比較-조사 대상 및 기준 설정을 중심으로-」 『日本語學研究』 第35輯 韓國日本語學會, pp.209-221.

(2014) 「한일 국어사전의 한자어 조사 및 비교 고찰」 『韓日語文論集』 第18輯 韓日日語日文學會, pp.19-32.

_____ (2017) 「韓國語와 日本語의 漢字語 比較研究-調査結果에 대한 考察-」 『日本近代學研究』 第55輯, 韓國日本近代學會, pp.101-116.

_____ (2018) 「韓國語와 日本語의 一字 漢字語에 관한 考察」 『日本近代學研究』 第59輯, 韓國日本近代學會, pp.43-56.

申玟澈(2016) 「韓日 兩國 國語辭典의 漢字語 調査 傾向分析」 『日本文化學報』 第70輯, 韓國日本文化學會, pp.119-135.

大野晋(1956) 「基本語彙に関する二三の研究-日本の古典文学作品に於ける-」 『国語学』24, pp.34-46.

野村雅昭(1976) 「現代漢語の語構成について」 『情報処理』 18-11 日本科学技術情報センター, pp.884-891.

(2012) 「現代日本漢語の性格」 『韓国日本研究団体 第1回 國際學術大会 要旨集』 韓国日本学会, p.158.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

＜要旨＞

韓国語と日本語の二字漢字語に関する考察

申政澈

本稿では、二字漢字語に対して、韓国語と日本語の共通漢字語と非共通漢字語に分け、それぞれどのような特徴が見られるかを考察した。

共通漢字語には、中国の古典から由来した漢字語、梵語の音訳や意識による漢字語、日本において造語された西洋の学問と文物に関する漢字語などから構成されていることを確認した。

一方、非共通漢字語に対しては、本稿が調査対象としている辞書以外の辞書を調査することによって、実際に非共通漢字語であるかを確認してみた。その結果、韓国語にのみ存在する漢字語のうち特徴的なのは、親族名称、冠婚葬祭、歳時風俗、行政単位、食文化、信仰、芸術、歴史、学校、警察、軍隊、植物名など、文化全般と関わりのある漢字語であることを確認した。また、日本語にのみあると確認された漢字語のうち、ごく一部の調査から日本語にのみ存在する漢字語にも日本の文化と関連のある語があることを確認した。従って、各々の言語に特徴的な漢字語を考察することにより、文化も垣間見ることが出来ると言えよう。

Some Considerations on Chinese-derived words composed of two Chinese characters
in Korean and Japanese Languages

Shin, Min-Chul

In this paper, I examine the characteristics of common and non-common Chinese-derived words composed of two Chinese characters in Korean and Japanese languages.

I have confirmed that common Chinese-derived words are related to Chinese Classics, transliteration and liberal translation of Sanskrit, Chinese-derived words coined in Japan (mainly related to Western academic and cultural relics), etc.

Regarding the Korean language, I have observed that Korean Chinese-derived words are concerned with general culture, such as the way of addressing relatives, as well as family ceremonies, customs, administrative units, food, religion, art, history, etc. Similarly, through considerations on very few Japanese Chinese-derived words, I have confirmed that some of these words are also related to Japanese culture. Therefore, it is possible to understand culture by examining the Chinese-derived words unique to each language.

첫대면 대화에서의 침묵극복사례에 관한 연구*

-한국인 상급일본어학습자의 대화운영방법을 중심으로-

이 선 옥**

(e-mail : somildso@naver.com)

< 목 차 >

- | | |
|-----------|-------------------|
| 1. 들어가기 | 4. 결과 및 고찰 |
| 2. 선행연구 | 4.1 명확화요구와 평가표현 |
| 3. 연구방법 | 4.2 확인요구와 의견 덧붙이기 |
| 3.1. 분석자료 | 4.3 정보추가와 재질문 |
| 3.2. 분석방법 | 4.4 자기개시와 정보제공 |
| | 5. 마무리 |

키워드 : 沈黙(silence)、初対面会話(first conversation)、話題(topic)、性差(gender)、
会話運営(conversation management)

1. 들어가기

침묵은 대인 의사소통에서 자주 발생하며 필수적인 부분이다(Myers1995:292). 침묵도 의사소통의 한 가지 방법일 수 있지만 어떤 상황에서의 침묵은 곤혹스러운 것으로 받아들여진다(Myers1995:292). 침묵이 발생했을 때 곤란함을 느낄 수 있는 상황 중 하나는 첫 대면 대화 장면일 것이다. 첫 대면 대화 장면 중에서도 문화가 다른 외국인과의 첫 대면 대화에서 발생하는 침묵에서 학습자는 모어화자와의 대화를 어떻게 운영해 나갈까? 본고는 이와 같은 의문으로 접촉

* “이 연구성과는 2018년도 BK21플러스 고려대학교 중일 언어·문화 교육·연구 사업단의 참여학생으로서 작성한 것임.”

** 고려대학교 대학원 중일어문학과 일본어학·교육전공 박사과정

장면에서의 첫 대면대화에서 발생하는 침묵에서 학습자의 대화 운영방식을 중심으로 분석하고자 한다. 필자가 학습자의 대화 운영방식에 초점을 맞춘 것은 접촉 장면에서의 첫 대면 대화에서 모어화자의 역할도 중요하지만 모어화자가 아닌 상급 일본어 학습자의 대화진행을 통해 학습자 입장에서 도입할 수 있는 대화운영 방식 즉 침묵 후 대화를 이어가는 방법을 찾을 수 있다고 판단했기 때문이다. 본고는 대화 중 침묵현상을 접촉 장면의 첫 대면 대화라는 상황에서는 극복해야 하는 상황으로 간주하여 연구를 진행하고자 한다.

2. 선행연구

침묵의 범위에 관한 연구는 Clark(1996), 堀(2011)등이 있고 침묵의 의미에 관한 연구는 森本(2013)가 있다. Clark(1996:268)는 영어권 화자의 대화를 연구하여 ‘1초의 한계’라는 말을 사용해 침묵의 범위를 설명하였다. ‘1초의 한계’란 영어권에서의 화자는 침묵이 발생하면 1초 이내에 이야기를 계속하거나, 머뭇거리는 표현(言い淀み・フィラー)을 말하거나 하여 이야기를 계속 이어가려는 의지를 보인다는 뜻이다. 堀(2011)는 일본어모어화자 끼리의 대화를 연구하여 침묵의 범위를 2초 이상으로 설정하였다. 대학생 4학년(18명)의 첫 대면 대화를 남성끼리의 조합, 여성끼리의 조합, 남녀조합으로 수집하여 침묵의 범위를 정하기 위해 일반인 5명에게 첫 대면 대화 녹음자료를 들려주고 침묵이라고 여겨지는 곳을 확인받았다. 이 후 침묵을 “발언권을 가진 사람이 없고 소리가 없는 2초 이상의 시간”으로 정의하였다.

침묵의 의미에 관해 연구한 森本(2013)는 대화 중에 발생하는 ‘間’와 ‘침묵’에 대해 설명하였다. ‘間’와 ‘침묵’은 무음구간을 가리키는 공통점이 있지만 ‘間’는 그 길이와 타이밍 등이 ‘매우 좋다’, ‘적절하다’라고 평가할 수 있는 개념이라고 하였고 ‘침묵’은 이러한 평가적 관점은 없지만 대화 속에서 어떤 의미를 가진다고 하였다. 예를 들면 일상대화에서 ‘침묵’이 발생하면 화자가 발언하는데 어떤 문제나 곤란한 점이 생긴 것을 뜻하는지, 단순히 발화와 발화 사이에 무음구간이 생긴 것인지, 대화가 중단된 것인지를 대화참가자들이 침묵이 생긴 시점 등을 이해하여 적절한 방법으로 대처한다고 하였다.

상기 선행연구에서 알 수 있듯이 침묵의 범위는 문화에 따라 조금씩 다르다.

또한 침묵의 의미는 침묵이 생긴 시점과 대화참여자의 입장에 따라서 달라 질 수 있다. 선행연구 중에는 학습자의 입장에서 침묵을 극복의 대상으로 간주하여 대화 운영 과정을 분석한 연구는 찾기 어려웠으며 상기 선행연구와 같이 침묵의 정의와 의미에 관한 연구를 찾을 수 있었다. 본고는 첫 대면 대화 중에서도 국적과 성별이 다른 접촉장면에서의 이성간의 대화라는 특수한 장면에서 행해지는 첫 대면 대화를 대상으로 연구한다. 따라서 본고에서 다루는 침묵의 의미는 첫 대면 대화의 어색함을 가중시키는 것, 곤란함을 주는 것 즉 극복의 대상이라는 입장으로 접근하고자 한다. 이러한 입장으로 기존 연구에서 그다지 다루지 않았던 침묵 후 학습자가 대화를 운영해 가는 방식 즉 침묵 극복사례를 중심으로 분석하고자 한다. 또한 한국인 학습자의 침묵 후 대화운영방식에 성차가 있는지도 살펴본다.

3. 연구방법

3.1. 분석자료

피험자는 일본어 능력이 상급인 한국인 일본어 학습자와 일본어 모어화자로 한국의 수도권에 거주하고 있는 20대 남녀이다. 한국인여성(학습자:KF)과 일본인남성(JM), 한국인남성(학습자:KM)과 일본인여성(JF)의 조합으로 첫 대면 대화(35분)를 녹음하여 녹음 된 자료를 문자화하여 분석에 사용하였다. 한국인 학습자는 ‘일본어전공 통·번역대학원생, 일본대학 졸업자, 일본유학경험이 있는 자’ 등 일본어로 의사소통에 지장이 없는 상급일본어학습자로 한정하여 모집하였다.

한국에 유학 오는 일본인 유학생의 비율이 해마다 증가추세에 있으므로¹⁾ 일본어 학습자는 유학생의 입장에 속하는 일본어 모어화자를 만날 가능성이 높다고 예상하였다. 이에 일본어 모어화자의 경우, 한국으로 유학을 온 ‘교환유학생, 정규대학생, 한국 대학 편입학생, 대학원생’을 주로 모집하였다. 본 연구의 피험자는 모두 20대 라는 같은 연령대에 속하며, 첫 대면 중에서도 접촉 장면의 이성간의 대화라는 특수한 경우에 해당하므로 한국인이 일본인보다 연상이

1)교육부 국제교육협력부의 국내 외국인 유학생 현황 보고 자료에 의하면 한국의 고등교육 기관에 유학중인 일본인 유학생은 2016이후 증가추세에 있다(이선옥2018:144-145).

지만 본 연구에서는 연령보다는 대화운영방식에 초점을 두어 분석을 진행하고자 한다. 자료 수집기간은 2017년 6월 24일부터 8월31일까지며, 본고의 연구대상자는 14명(7페어)이다. 7페어 각 35분간의 대화 총245분이 분석의 대상이다. 대화자료 A, B, C, D는 한국인 여성과 일본인 남성의 조합이고, 대화자료 E, F, G는 한국인 남성과 일본인여성의 조합이다. 피험자 정보는 <표1>과 같다.

<표1> 피험자 정보

대화 자료	화자	성별	국적	연령	직업	대화 자료	화자	성별	국적	연령	직업
A(01)	KF01	女	韓國	26	大学院生	E(05)	JF05	女	日本	25	大学院生
	JM01	男	日本	24	アイドル練習生		KM05	男	韓國	29	大学院生
B(02)	KF02	女	韓國	28	大学生生	F(06)	JF06	女	日本	25	大学生
	JM02	男	日本	24	大学生		KM06	男	韓國	28	大学院生
C(03)	KF03	女	韓國	29	大学院生	G(07)	JF07	女	日本	24	大学生
	JM03	男	日本	21	留学生		KM07	男	韓國	29	大学院生
D(04)	KF04	女	韓國	29	大学生						
	JM04	男	日本	22	留学生						

3.2. 분석방법

본고에서의 침묵의 정의는 堀(2011:107)에 따른다. 堀(2011:107)는 “발언권을 지닌 사람이 없고, 소리가 없는 시간이 2초 이상인 것”을 침묵의 범위로 설정하였다. 본고의 분석대상은 다음의 세 조건을 충족한 경우를 연구대상으로 삼는다.

- 1) 침묵 시간이 2초 이상인 경우
- 2) 침묵 후, 직전의 화제와 경계가 분명하고 새로운 화제가 제시된 경우
- 3) 침묵 후 제시된 화제로 대화의 주고받음(やり取り)이 이어져 화제²⁾가 확정된 경우

녹음한 자료는 曹英南(2013)의 문자화 규칙에 따랐으며 분석의 예시는 다음과 같다. <표2>는 한국인 여성학습자와 일본인 남성의 첫 대면 대화의 일부분이다. 발화번호 54, 56, 69, 70에서 침묵현상이 관찰되지만 본고에서는 발화번호 54, 70과 같이 질문에 대한 응답 또는 호응하기 전 나타난 침묵은(숨을 고르거나 생각할 시간을 갖는 경우가 많으므로) 분석의 대상으로 삼지 않는다.

- 2) 화제란 “내용적 결속성을 가진 것으로 여겨지는 공통개념으로 대화가 진행되며, 응답과 맞장구를 포함한 대화의 주고받음(やり取り)이 많은 대화(최소 2회 이상)”라는 이선옥(2016:57)의 화제 정의에 따른다.

발화번호 56, 69와 같이 앞선 화제와의 경계가 분명하고 침묵시간이 2초 이상인 경우의 학습자의 발화에 주목하여 분석을 진행한다. 발화번호56의 경우 6초간의 침묵이 생기자 한국인 여성(KF03)은 “じゃ、なんか日本に帰られーるのは楽しみにしているんじゃないですか。”라고 귀국에 관한 질문으로 화제를 제시하였다. 이 화제로 대화를 이어가기 위해 한국인 여성(KF03)은 발화번호59와 같이 구체적인 사례를 들며 명확하게 질문을 부연하고 있다(이하 명확화요구로 명명함). 한국인 학습자의 명확화 요구에 일본인 남성(JM03)은 발화번호61과 같이 한국 음식의 매운 맛에 대한 본인의 경험을 말하며 말의 주고받음이 이어진다.

이와 같이 침묵 후 학습자가 침묵을 극복하기 위해 어떻게 화제를 제시하였는지(질문인지 자기개시인지), 어떻게 대화를 운영해 가는지(구체적인 대화 운영방법)에 초점을 맞춰 정성적 분석을 시도한다. 즉 침묵 후 학습자가 제시한 화제로 상대방과 대화의 주고받음(やりとり)이 이어져 화제가 확정된 경우를 침묵현상이 극복된 것으로 판단하며 본고는 모어화자가 아닌 학습자가 침묵 후 대화를 운영해 가는 방법을 분석하고자 한다. 왜냐하면 접촉장면에서는 모어화자가 언어주체(言語ホスト)로서 대화를 운영해 가는 측면이 강할 것으로 예상되지만 상급 일본어학습자의 경우 모어화자만큼 대화를 운영해가는 학습자 나름의 방법을 살펴보는 것도 일본어교육에 시사하는 바가 있을 것으로 생각되기 때문이다.

<표2> 분석의 예시 : 자료C(03)

発話番号	発話者	会話内容	備考	学習者の発話分析
53	KF03	あ、3年生、あ～若いですね。(笑い)		
54	JM03	(沈黙3秒) みんなだいたい最初に会った人たちは／僕のこと見てふけてるってとし[はにてるようにみて／(笑い)		
55	KF03	☆はい ★[えー ☆あ、そうなんですか。		
<u>56</u>	<u>KF03</u>	(沈黙6秒) じゃ、なんか日本に帰られーるのは楽しみにしているんじゃないですか。／###		<u>質問</u>
57	JM03	やー、全然もちょっと韓国にいたい／ぐらい		
58	KF03	☆あ～		
59	KF03	なんか私の友達なんかはけっこう韓国で／ちょっと食べ物にちょっと苦労してる[のをみてたので		<u>明確化要求</u>
60	JM03	☆うんー ★うん～～		
61	JM03	日本はあんまり辛い物を食べないので／苦労することが多いと思いますが僕はお母さんが／辛い物が好きだったので／お母さんが作る料理がいつも辛い料理		

		だったので／それに慣れて／韓国の料理は全部／おいしいです。		
		＜中略＞		
69	KF03	そうですね。(笑い) (沈黙3秒) <u>ここで友達をたくさん作れましたか。</u>		質問
70	JM03	(沈黙3秒) うんー韓国人の友達もできましたけど／外国人の友達も／いっぱいできました。語学堂に外国人がいっぱいいる／いるのでそこで一緒に授業韓国の授業を受けて友達になりました。	5分	
71	KF03	☆はい ☆はい ☆あ～そうですね。 ☆あ		
		＜中略＞		
79	KM03	☆あ～		

4. 결과 및 고찰

첫 대면 대화 중 침묵이 발생하면 새로운 화제가 제시되어도 <표3>과 같이 やりとり가 활발하게 이어지지 못하고 대화가 중단되어 버리는 경우가 다수 관찰된다. 하지만 이와 달리 침묵 후 화제가 확정되고 말의 주고받음(やりとり)이 여러 차례 오고간 대화 장면도 관찰되었다. 이에 본고는 후자에 주목하여 학습자가 대화를 어떻게 운영해 가는지를 중심으로 살펴보았다.

<표3> 침묵 후 화제가 발전하지 못한 대화의 예:자료D(04)

発話番号	発話者	会話内容	備考
36	KF04	(沈黙 3 秒) 今～私は 4 年生(笑い) 日本での大学院の進学、考えてますけど～今年年生?	
37	JM04	今、3 年生です。	
38	KF04	あ、3 年生?	
39	JM04	はい	

학습자의 대화 운영 방식은 첫 대면 대화에서 침묵이 발생했을 때 침묵을 극복하여 대화를 진행시킨 하나의 방안으로 판단되기에 침묵 후 やりとり가 활발하게 진행된 대화의 각 사례를 통해 구체적인 침묵 극복 방법을 확인하였다. 본 절의 서술 방법은 우선 침묵 후 대화에서 처음 확인되는 대화 운영방식을 소제목으로 설정하여 설명한다. 이후, 한번 등장한 대화 운영방식은 소제목에는 명기하지 않고 대화운영순서표를 통해 기술하는 형식으로 설명한다. <표4>는 본 고의 각 대화 자료에서 확인 된 침묵의 횟수와 침묵 시간을 정리한 표이다.

<표4> 침묵횟수와 침묵시간

침묵 시간	자료A	자료B	자료C	자료D	자료E	자료F	자료G
2초	3회	2회	1회	.	1회	.	1회
3초	.	.	3회	2회*	.	.	3회
4초	1회*	2회	1회*	.	1회*	.	1회
5초	.	.	1회	.	.	.	2회*
6초	.	.	2회**	.	1회	.	3회
7초
8초
9초	.	.	1회*	.	.	.	2회
10초
11초	.	.	2회
12초
13초
14초	1회
침묵횟수	4회	4회	11회	2회	3회	0회	13회

* : 본고의 분석 자료로 사용한 やりとり가 활발한 대화자료 중 하나임을 뜻함.

4.1. 명확화요구와 평가표현(明確化要求、評価表現)

대화1은 한국인여성(KF01)과 일본인 남성(JM01)의 대화이다. 발화번호168에서 침묵4초가 발생하였다. 침묵 4초는 본고의 침묵범위에 해당되며 한국인여성(KF01)의 “どうしよう”라는 발화에서 알 수 있듯이 침묵이 생긴 것을 곤란해 하는 발화로 추측되며, 이전 화제와 전혀 새로운 화제가 제시되고 있기 때문에 침묵 후의 발화로 분석의 대상에 해당된다.

발화번호 168에서 한국인 여성(KF01)은 상대방에게 ‘연구참여’에 대한 화제를 질문으로 제시하였다. 하지만 연구참여에 관한 화제로 대화가 그 이상 진전되지 않았기 때문에 발화번호174와 같이 “じゃ、今Aさんは専攻、なん、D大学での専攻は一応”라고 일본인 남성(JM01)의 ‘학부 전공’에 대해 질문으로 화제를 제시하였다. 침묵 후 학습자(KF01)는 질문으로 화제를 제시하였고 질문의 종류 중에서도 말끝을 흐리는 말끝흐림(중도종료형) 질문을 사용하였다.

맞장구(相槌)가 주가 되어 대화를 몇 회 주고받은 후 한국인여성(KF01)은 일본인남성(JM01)의 연령을 언급하며 ‘연령’에 관한 자신의 의견 즉 일본나이로 22세는 젊다는 발화를 다른 발화보다 길게 서술하고 마지막에 “やっぱりAさんは将来、韓国で就職したいんですか”라고 질문으로 일본인남성(JM01)에게 화제를 제시하였다(발화번호179). 일본인남성(JM01)은 “えと、あの(笑い)、(沈黙2秒) 今...”의 발화에서 알 수 있듯이 주저하면서 또는 고민하면서 “なんか練習生を今

ちよつとやっけて…”라고 아이돌 연습생을 하고 있다는 개인정보를 개시하였다. 이 야기를 듣고 있던 한국인여성(KF01)은 “えっ?、本当?、あー”와 같이 맞장구(발화번호182)로 반응하며 “じゃ、何の分野の?”라고 명확화요구를 통해 일본인 남성(JM01)의 발화를 끌어내고 있다(발화번호183).

상기 대화를 통해 맞장구, 명확화요구는 상대방의 발화를 유도하고 말의 주고받음을 활발하게 해주는 방아쇠역할을 하고 있다고 할 수 있다. 한국인여성(KF01)이 사용한 명확화요구란 화자의 입장에서 상대방의 발화를 한번 더 요구하는 행위이기 때문에(村上1997:150) 상대방(청자)의 대화를 지원하는 행위라고 할 수 있다. 화자의 명확화요구를 청자가 조력하는 행위(화자가 요구하는 내용을 말하는 것)에 의해 화제는 확정될 수 있음(박성현2008:162)을 대화1에서 확인 할 수 있다.

명확화요구와 더불어 평가(감정)표현도 말의 주고받음을 활발하게 만드는 중요한 요소임을 발화번호187, 191에서 확인할 수 있다. 한국인여성(KF01)은 발화번호187과 같이 “何で、言ってくれなかったんですか。それ自己紹介に…”라고 자신의 감정을 표현하였고, 발화번호191과 같이 “えー、すごい”라고 평가표현을 사용한 발화를 하였다. 평가(감정)표현이란 대화참가자가 화제내용과 정보에 대해 형용사, 형용동사, 부사, 동사 등을 이용해, 스스로의 의견·감정(선악, 좋고 싫음, 가치, 희노애락)을 나타내는 표현이다(中井2012:133). 평가표현이 청자의 발화를 끌어낸 것처럼 일본인남성(JM01)은 발화번호192와 같이 겸손의 발화를 하였고 “あの留学中に、あの、オーディション受けて、それで (발화번호194)”와 같이 자기개시 하여 말의 주고받음이 그 이후에도 여러차례 이어졌다.

[대화1] 침묵 후의 대화 : 자료번호A(01)

発話番号	発話者	会話内容	備考	学習者の発話分析
165	KF01	でも、今、Aさんはなれてー/るんですね。	A: 男性の名前	
166	JM01	☆もうなれ # # #	###:聞き取り不明を意味する	
167	KF01	はい。		
168	KF01	(沈黙4秒)どうしよう。/ こん、始めてだって、Aさんも? [(笑い)]	15分20秒	質問
169	J M01	☆(笑い) ☆はい ★(笑い)		
170	KF01	私も始めて、私はあの大学院の # # # の仲間っていうか同期の何か誘いで、[じゃ私が # # # しますって言って、		

		そのこの場に出たんですけど、Aさんはどの流れで		
171	J M01	★あー。		
172	J M01	何かそのD大学であの、(沈黙2秒)あの、仲よくなった子が、日本、日本語学科の[子で、その(沈黙2秒)人の知り合いに/が、たん、[何か[# # # と思うんですけど、	D:大学名	
173	KF01	★うんうん。 ☆が、先の? ★ # # # ★あーあーあー。		
174	KF01	じゃ、今Aさんは韓国が、あの専攻、なん、D大学での専攻は[一応		質問
175	J M01	★は、あの、自由専攻[ですか、だったんで、(沈黙2秒)何かいろいろ(沈黙2秒)あまり何か専攻はなくて		
176	KF01	★あーあーあー、あ、あ		
177	KF01	うんうんうん。ありますね。[はい。		相槌
178	JM01	★はい。		
179	KF01	22才?/はあー、若いですね。/いや、これから/何もできます。/どれでも、はい。なんか、この年になると、まあ、26才も[あまりにも若いですけど、感じるのが、でも、一才一才がだいせつ[になるっていう、何か就職とかバイトでもやっぱり若い人が、好まれます。やっぱりそういうけいこう (傾向) [があります。やっぱりAさんは将来、韓国で就職したいんですか。	16分20秒	質問
180	JM01	☆はい。☆えー。☆ (笑いーへへへ)☆いや(笑いながら) ★(笑い) ★若い # # # (笑いながら) ★あー ★はいはい。		
181	JM01	えと、あの(笑い)、(沈黙2秒)/[# # #と今、えっ、な、何か、何ですか、何か練習生を今ちょっとやってて、/韓国で、[それで今来てて/		
182	KF01	☆まだ ★そこまでは? ☆えっ? ★本当? ☆あー。		相槌
183	KF01	じゃ、何の分野の?		明確化要求
184	JM01	えと、歌手の...		
185	KF01	えー? 本当に?		相槌
186	JM01	はい。で、でも、あの...		
187	KF01	何で言ってくれ、言ってくれなかったんですか。[それ自己紹介に...(笑いながら)		評価表現
188	JM01	★(笑い)		
189	KF01	あ、そうですか。		相槌
190	JM01	はい。[で、		
191	KF01	★えー、すごい。		評価表現
192	JM01	でも、あの、そんな大きい会社じゃないですよ。		
193	KF01	いやいやいやいや。		相槌
194	JM01	いや、ぜん...(笑い)、で、あの留学中に、あの、オ、オーディション受けて、[それで、		
		<中略>		
243	JM01	あさってですね。(笑い)		

대화1에서 화자가 질문으로 화제를 제시하고 청자는 자기개시로 그 화제를 이어가고 있음을 확인하였다. 또한 화자는 명확화요구, 맞장구, 평가표현을 사용하여 청자의 발화를 유도하고 있음을 알 수 있었다.

대화2 역시 침묵 후 학습자는 질문과 명확화요구, 평가표현으로 청자의 발화를 유도한 사례이다. 침묵이 발생하자 침묵6초 후 발화를 시작한 것은 한국인 여성 학습자(KF03)였다. 발화번호56과 같이 한국인여성(KF03)은 일본으로 돌아가는 것에 대한 느낌을 일본인 남성(JM03)에게 질문하며 대화를 시도하였다. 한국에 더 있고 싶다는 JM03의 발화에 KF03은 한국음식이 맞지 않아 고생한 친구의 이야기를 꺼내며 한국에 있고 싶다는 JM03의 발화에 대한 설명을 바라는 듯한 발화를 시도하였다(발화번호59). 이후 JM03의 긴 설명이 이어졌고 KF03은 발화번호63과 같이 평가표현을 사용해 상대방의 발화에 대한 반응을 보이며 대화가 이어졌다.

[대화2] 침묵 후의 대화 : 자료C(03)

發話番号	發話者	會話内容	備考	学習者の發話分析
56	KF03	(沈黙6秒) じゃ、なんか日本に帰られ一るのは楽しみにしているんじゃないですか。 / # # #	### :聞き取り不明	質問
57	JM03	や一、全然もうちょっと韓国にいたい / ぐらい		
58	KF03	☆あ～		
59	KF03	なんか私の友達なんかはけっこう韓国で / ちょっと食べ物にちょっと苦労してる[のをみてたので]		明確化要求
60	JM03	☆うんー ★うん～～		
61	JM03	日本はあんまり辛い物を食べないので / 苦労することが多いと思いますけど僕はお母さんが / 辛い物が好きだったので / お母さんが作る料理がいつも辛い料理だったので / それに慣れて / 韓国の料理は全部 / おいしいです。		
62	KF03	☆はい ☆はい ☆あ～ ☆あ～ ☆あ～ ☆はい		
63	KF03	よかったですね。		評価表現
		<中略>		
68	KF03	☆はい		

< 학습자의 침묵 후 대화운영순서 >
 대화1 : 질문 → (맞장구) → **명확화요구** → (맞장구) → **평가표현** ...
 대화2 : 질문 → **명확화요구** → **평가표현**
 *... : ... 이후 대화운영 생략이라는 뜻

4.2. 확인요구와 의견 덧붙이기 (確認要求、意見加え)

대화3은 한국인여성(KF03)이 6초 침묵 후, 일본인남성(JM03)에게 동아리활동에 대한 화제를 질문형식으로 제시하는 장면이다(발화번호230). 한국인여성(KF03)이 일본인남성(JM03)의 발화가 애매하여 동아리 활동으로 유도과 궁도 모두 참여하였는지를 확인하기 위해 “二つ?”(발화번호232)라고 ‘확인요구’하였다. 확인요구(확인체크)란 “화자(与え手)의 발화가 애매한 경우 청자(受け手)는 화자의 정보에 관해 자기 나름의 이해를 하고 나서 그것이 맞는지 어떤지를 확인”하는 것을 말한다(柳田2015:64). 이에 일본인남성(JM03)은 “中学生のときに柔道やって、高校生のときに弓道やりました。”라고 답한 뒤 이야기가 중단되었다.

4초간의 침묵 후, 다시 한국인 여성이 말을 꺼냈다. 한국인여성(KF03)은 발화번호234에서 알 수 있듯이 “やってる人多いですか?”라고 한번 더 질문하고 이 질문으로 끝나는 것이 아니라 “弓道とか難しそうなんですけど”라고 **자신의 의견을 덧붙여**서 다시 궁도에 관한 화제로 대화를 시도하였다.

일본인남성(JM03)의 대답이 이어지고(발화번호235) 한국인여성(KF03)은 “かっこういいですね。(발화번호236)”라고 평가표현을 사용해 자신의 감정을 표현하였다. 또한, 한국인여성(KF03)은 청자의 발화에서 활의 명칭 등을 명확화요구를 통해(발화번호238) 침묵현상을 극복하였다.

[대화3] 침묵후의 대화 : 자료C(03)

発話番号	発話者	会話内容	備考	学習者の発話分析
229	JM03	(沈黙 4 秒)うーん、なんか中国人の友達と喋ったときにも、中国もそういうのがあって、朝から夜遅くまでずっと勉強してるって言っていました。だから中国人の友達もすごく日本がうらやましいって。		
230	KF03	(沈黙 6 秒)なんか学生時代にクラブ活動とかやりましたか?	32分11秒	質問
231	JM03	柔道、柔道。あと弓道。		
232	KF03	二つ?		確認要求
233	JM03	中学生のときに柔道やって、高校生のときに弓道やりました。		
234	KF03	(沈黙 4 秒)やってる人多いですか? 弓道とか難しそうなんですけど。		質問+意見加え
235	JM03	あ、は少ないですけど、やっぱり野球とかサッカーとかバスケットボールが多いですけど、でもなんか、うーん、そういうあんまり簡単にできないスポーツをやってみたかったです。		

236	KF03	かっこいいですね (笑い)。		評価表現
237	JM03	武道が好きだったので、柔道やって、次、弓道やろうと思って。		
238	KF03	矢っていうんですか？/矢がすごく大きいじゃない [ですか？はい。で、あれなんか重かったり。。。]		明確化要求
239	JM03	☆矢、はい。★あ、弓が？		
240	JM03	あれ、あれはでもそんなに重くないです。弓道はしっかりキレイな形で弓を引くと全然しんどくないスポーツで、アーチェリーとかはすごく力が要りますけど、弓道は全然もう、/キレイな体勢でやれば力は要らないです。		
		<中略>	35分で録音中断	

<학습자의 침묵 후 대화운영순서>

대화3 : 질문→확인요구→질문+의견덧붙이기→평가표현→명확화요구

4.3. 정보추가와 재질문(情報の付け加え、再質問)

대화4는 한국인여성(KF04)이 침묵 3초 후, “韓国に来てまあ、大変なこととかあるんですか。まあ、これはやばいなど思ったことあるんですか。”라고 한국에서 겪은 힘든 일이 있었는지에 대해 질문으로 화제를 제시하는 장면이다(발화번호203). 청자인 일본인남성(JM04)은 “교환유학생이라서 고시원에 살고 있다”는 자신의 경험에 대해 길게 이야기하자(발화번호204) 한국인여성(KF04)은 활발하게 맞장구를 쳤다(발화번호205). 이어서 한국인여성(KF04)은 고시원(또는 원룸)의 일본에서의 명칭 및 크기와 비용 등을 ‘명확화요구’ 방식으로 물으며 상대방의 발화를 유도하여 대화를 주고받고 있다(발화번호206).

또한 발화번호209와 같이 화자(KF04)는 ‘敷金’이라는 새로운 정보를 덧붙여 화제를 전개하고 있다(이하, 필자는 ‘정보추가’라 칭함). ‘정보추가’도 화자와 청자가 침묵현상을 극복해 대화의 주고받음이 활발해지는 하나의 요인이라고 할 수 있다. 발화번호211과 같이 한국인여성(KF04)은 “多分大丈夫だと思います。大丈夫。そういう話、私は聞いたことないですけど。”라고 평가표현(감정표현)을 사용해, 보증금을 받지 못할 가능성을 걱정하는 일본인남성(JM04)을 안심시키고 있다. 대화4와 같이 적절한 타이밍에 추가정보를 제공하면 청자의 발화를 유도할 수 있다고 생각된다. 발화번호209에서 한국인여성(KF04)이 “敷金”이라는 정보를 추가로 제공하였기에 이와 관련된 화제로 대화의 (やりとり)가 성립되었다.

[대화4] 침묵 후의 대화 : 자료D(04)

発話番号	発話者	会話内容	備考	学習者の発話分析
202	JM04	☆へえ。あんまりないです/日本料理に辛い物多分ほぼないと思います。		
203	KF04	☆うん。うんー。(沈黙3秒)韓国に来てまあ、大変なことか[あるんですか。まあ、これはやばいと思ったことあるんですか。]	19分26秒	質問
204	JM04	★大変なこと。とくにないんですけど/自分交換留学生でそんな長くないから/家を探すのが###/ワンルームに住めなかった/まあ、前期はコシウォンに、前期コシウォンに住んで/なんか狭くてなんか人と共同生活だし、ワンルームに住みたいと思って短期のやつを韓国人のヒョンと一緒に探したんですけど/なんかあまり短期の###がなくて/今もコシウォンに住んでいます/別の###引越して/より安い###どうせなら節約しようつということ/部屋が狭くて大変です。	###:聞き取り不明	
205	KF04	☆うん。☆うん。☆あ、そうですね。☆うん、☆うん。☆あ。はい。☆うん、あ。☆あ、そうですね。☆あ、そうですね ☆うん。へえ		相槌
206	KF04	なんかD大近くのコシウォンってすごく高い感じなんですけど/まあ、日本のなんか、ワンルームっていいですか。日本の部屋と比べてまあ、安いほうですか。###まあ。それとも/Eから。	D:大学名 E:男性が住んでいる地域名	明確化要求
207	JM04	☆高いです。☆日本、日本実家に[住んでるからワンルームとかわかんないんですけど[ワンルームは同じぐらいだと思います。		
208	KF04	★あ、そうですね。		相槌
209	KF04	あ、あ。うん。そうですね。でも、韓国はその、なんか、しきん?しきんっていうんじゃないですけど/はい。それがめちゃくちゃ高いから/まあ、それ、まあ。戻してくれるんですけど。でも、まあ、それでも高いって感じで。うん。	「しきん」は日本語で敷金を意味する	情報の付け加え
210	JM04	☆しようきんみたいな。☆高いです。心配じゃないですか。なんかもどってくれるかどうか/親がなんか心配してワンルーム###もし不動産がもし倒産したらどうする/みたいな、あんたが払うの、みたいな感じで(笑い)なんか/大丈夫(笑い)		
211	KF04	☆あ~☆あ、☆多分大丈夫だと思います。はい。まあ、そうですね。大丈夫。そういう話、私は聞いたことないですけど。		評価表現
212	JM04	あ、保険とかあったり###。保証金もし。 ＜中略＞		
224	JM04	☆へえ。安い。へえ。すごい(笑い)全然違いますね(笑い)なんか		

대화5 역시 9초간의 침묵 후 학습자가 대화를 운영한 방법을 확인할 수 있다. 한국인여성학습자(KF03)은 대화에서 침묵이 발생하자 침묵9초 후 “じゃ、日本に帰られたら何年生ですか”라고 질문으로 화제를 제시하였다. 일본인남성(JM03)이 질문을 듣지 못해 다른 대답을 하였기 때문에 한국인여성(KF03)은 “ああ、何年生に?”라고 다시 한번 같은 질문을 하여 발화를 유도하였다(발화번호51). 일본인 남성(JM03)의 대답에 KF03은 “3年生、若いですね”라고 자신의 감정을 표현하였다. 학습자의 질문, 재질문, 평가표현이 일본어모어화자에게 대화의 소재를 제공한 듯이 발화번호54와 같이 일본인남성(JM03)은 나이와 외모에 관해 이야기를 꺼내어 대화가 이어졌다.

[대화5] 침묵 후의 대화 : 자료C(03)

発話番号	発話者	会話内容	備考	学習者の発話分析
49	KF03	あ、そうですね。(沈黙9秒) じゃ、日本に帰られたら何年生ですか。	3分10秒	質問
50	JM03	また10月からY大学で勉強します。	Y: 日本の大学名	
51	KF03	ああ、何年生に～		再質問
52	JM03	3年生		
53	KF03	あ、3年生、あ～若いですね。(笑い)		評価表現
54	JM03	(3秒後) みんなだいたい最初に会った人たちは／僕のこと見てふけてるってとし[は]にてるようにみて／(笑い)		
55	KF03	☆はい ★[えー ☆あ、そうなんですか。		
<中略>				

<학습자의 침묵 후 대화운영순서표>

대화4 : 질문→명확화요구→정보추가→평가표현

대화5 : 질문→재질문→평가표현

4.4 자기개시와 정보제공(自己開示、情報提供)

대화6과 대화7은 한국인남성(KM)과 일본인여성(JM)의 대화이다. 대화6에서 한국인남성(KM07)이 5초간의 침묵 후, “ちょうど今頃、なんか北海道とか行ったらいいですね。”라고 자신의 의견을 자기개시하며 화제를 제시하였다(발화번호409). 일본인여성(JF07)이 홋카이도에 간적이 없다고 하자 한국인남성(KM07)은 “僕はもう会社の研修で北海道行って研修受けたことがあって”라고 취직(일)에 관한 화제를 한번 더 자기개시 방법으로 제시하였다(발화번호412). 한국인 남성은 일(취

직)에 관해 자신의 경험을 자기개시함으로써 침묵현상을 극복할 수 있었다.

대화6에서 주목할 만한 점은, 한국인남성(KM07)이 일본인여성(JF07)에게 질문을 하거나 명확화를 요구하거나하여 화제를 전개하는 것이 아니라 한국인남성(KM07)이 자신의 의견, 경험을 말하면 그것에 대해 청자인 일본인여성(JF07)이 질문하여 대화가 진행되고 있다는 점이다. 즉 이 대화에서 한국인 남성의 자기개시만큼이나 중요한 역할을 하고 있는 것은 일본인 여성의 호응 또는 대화를 이어가려는 반응이 필수적이라는 것이다. 두 번째로 주목할 만한 특징은 한국인남성은 일본인여성의 질문에 답할 때, “食品会社だったんですよ”로 끝나는 것이 아니라 “原料が北海道でたくさん取れてて、その原料研修、直接なんかこう作物を自分で取ったり”라고 이전 발화에 덧붙여 **정보를 제공**하고 있다는 점이다(발화번호415). 이와 같은 정보제공은 마치 일본인여성에게 질문할 여지를 주는 것처럼 보인다.

더불어 “楽しかったです。結構体力的につらかったんですけど”와 같이 앞선 대화들에서 확인되었던 평가표현도 사용하여 화제를 전개하였다. 청자가 정보를 요구하지 않았음에도 불구하고 “Kってとこです。(발화번호421)”라고 일본회사의 지역명(K)을 말하거나(스스로 먼저 **정보를 제공**)하는 형태로 화제를 전개시키는 모습도 확인되었다.

[대화6] 침묵후의 대화: 자료G(07)

発話番号	発話者	会話内容	備考	学習者の発話分析
409	<u>KM07</u>	(沈黙5秒)ちよとど今頃、なんか北海道とか行ったらいいですね。	20分25秒	<u>自己開示(意見)</u>
410	JF07	そうなんですよ。[北海道、行ったことないんですよ。]		
411	KM07	★涼しいし		
412	<u>KM07</u>	僕はもう会社の研修で[北海道行って研修受けたことがあって]		<u>自己開示(経験)</u>
413	JF07	★あ～		
414	JF07	研修でですか？		
415	<u>KM07</u>	えっと、食品会社だったんですよ。そう、原料が北海道で[たくさん取れてて、その原料研修、/直接なんかこう作物を自分で/取ったり]		情報の付け加え
416	JF07	★うん～ ☆うん～ ☆なるほど		
417	JF07	えっ、楽しそうですね。		
418	<u>KM07</u>	楽し、[楽しかったです。つらかつ、結構体力的につらかったん[ですけど、]		評価表現

419	JF07	★(笑い) ★あ、本当ですか？		
420	JF07	そうっか、研修…日本の会社		
421	KM07	Kってとこです。	K:地域名	情報提供
422	JF07	K？		
		<中略>		
428	KM08	(沈黙3秒)F、農場だったんですよ。	21分56秒 F:特産品	情報提供
429	JF08	うん~		
430	KM08	そこで、こう、一生見れないほどのFを###		
		<中略>		
460	JF08	枠？枠が[あったんですか？		
461	KM08	★枠ではないんですけど、普通の日本の同期と一緒に採用/されて		情報提供
462	JF08	☆採用されたんですね。へへへ		
463	JF08	で、その仕事内容的[には		
		<中略>		
478	KM07	うん。		

대화7도 한국인남성(KM05)이 침묵 후 화제를 제시할 때 상대방에게 질문의 형태가 아니라 자신의 의견을 말하는 자기개시로 화제를 제시하고 있는 장면이다. 대화중 침묵이 생기자 한국인 남성학습자(KM05)는 발화번호71과 같이 연구참여에 대한 본인의 의견을 말하며 침묵을 깨고 발화하였다. 하지만 발화번호76에서 알 수 있듯이 또 침묵현상이 발생하였다. 이에 한국인 남성(KM05)은 “あ、なんか日本だと大学院、修士課程まで卒業してから病院で医療の仕事してる人が多いんですけど韓国ではほぼ好まれないんです。年、年取ったと思われて”라고 취직에 관해 자신의 의견을 서술하여 화제를 제시하였다. 화제를 전개 할 때도 상대방에게 질문은 하지 않고 “別に、何っていうかあ~学歴はどうでもいいから若者がいいか”라고 자신의 의견을 진술하며 대화를 진행해 갔다(발화번호80). 또한 평가표현(발화번호83)도 사용하여 대화를 진행하고 있음을 확인할 수 있었다.

[대화7] 침묵 후의 대화 : 자료E(05)

発話番号	発話者	会話内容	備考	学習者の発話分析
71	KM05	(沈黙4秒) あ、自分の話ばかりして[すみません。なんか申し訳ないんです。なんかどんなふう^に会話を進めたらいのか全然聞いてなかったんです。		自己開示(意見)
72	JF05	★いえ、大丈夫です。全然大丈夫なんで		

73	JF05	あ ははは(笑い) 自由でいいと思います。		
74	KM05	あ、なんか、30分ぐらいだと／自己評価自PR、まあ会社ではないか。／自己# #ではないんですけど／会社では普通、だったら# # #に自己紹介、自己、志望動機、自己PRから／言ってくださいとか／言われるから。はい、わたくしは何大学から参りました。何々と申します。何々です。よろしくお願ひします。／自己PRかな	### : 聞き取り不明	
76	KM05	<u>(沈黙6秒) あ、なんか日本だと／大学院、修士課程まで卒業してから病院で医療～の仕事してる人が多いんですけど／韓国ではほぼ好まれないんです。／年、年取ったと思われて。</u>	7分	自己開示 (意見)
77	JF05	☆はい ☆は～ ☆へー		
78	JF05	あ、若いほうが／やっぱり就職しやすいですね。		
79	KM05	☆え		
80	KM05	<u>はい、別に、何っていうかあ～学歴はどうでもいいから／若者がいいか。。。_</u>		自己開示 (意見)
81	JF05	☆うんー		
82	JF05	えー、そうなんですね。		
83	KM05	まあ、日本と似ているでしょう～／けど、 <u>若者とっても好きな国ですから。</u>		評価表現
84	JF05	はい、そうです。		
85	JF05	ははは(笑い) そうですね。あと新卒じゃないと／いけないというのがあって。		
86	KM05	☆え		
87	KM05	<u>だからけっこう大変だったんですけど／去年一回日本の企業受かったんですけど去年は落ちて今年既卒として受かって／みたんですけど去年は時期が遅くて手遅れな企業が多くて[あんまり就職# #できなくてまあ～今年説明会から早く3月から行ったのに既卒の方はキャリアの方に／行ってくださいと言われて。_</u>		自己開示 (経験)
		<中略>		
95	JM05	(笑い)		

<학습자의 침묵 후 대화운영순서>
 대화6 : 자기개시→정보추가→평가표현→정보제공→정보제공...
 대화7 : 자기개시(의견)→자기개시(경험)→평가표현...

침묵이 없고 やりとり가 많은 실제 대화에서는 <표5>와 같이 한쪽이 화제를 제시하면(발화번호96) 다른 한쪽이 발화번호100과 같이 질문을 하거나 반응을 보이고, 다시 원래 화자가 발화번호101과 같이 질문을 하는 등 상호 화제를 발전시켜 가는 모습이 자주 관찰된다.

<표5> 침묵이 없고やりとり가 활발한 대화의 예: 대화D(04)

発話番号	発話者	会話内容	備考
96	KF04	でも、日本ではなんかちゃんと自分の専門を勉強してる、て感じがするんですけど。まあ、私にとってはそうなんですけど。韓国のまあ、C学科だったらなんか自由な感じで、まあ、必須科目とかなくて、まあ###とかもなくてまあ、ちょっと自由な感じなんですけど。 <u>韓国のD大学のCはどうですか。</u>	C:学科名 D:大学名 ###:聞き取り不明
97	JM04	Cは/2個しか授業取ってないからあんまりわかんないんですけど/多分、多分学科の/飲みとかあるらしくてあの、[少し上下関係も少しあったような感じはします。	
98	KF04	☆はい。☆はい、はい。★あ、そうですね。	
99	KF04	ちょっと問題になるのが韓国はまあ、先輩とかにちゃんと尊敬語、敬語を使わなきゃならないルールがあって、まあ、浪人して入った子も先輩に[敬語使わなきゃならない	7分46秒
100	JM04	★同じ、 <u>同じ学年でも先輩になるんですか。</u>	
101	KF04	あ、学年じゃなくてまあ、年は同じなんですけどまあ、[一個上の先輩に対して敬語使わなきゃならないことがあってまあ、ちょっと上下関係が厳しいなって思ったんですけど。 <u>まあ、日本はどうですか。</u>	
102	JM04	★あ、それ。日本も同じような感じです。	
103	KF04	あ、そうですね。	
<中略>			

하지만 침묵 현상이 발생하면 어느 한쪽이 제시한 화제가 상대방의 호응을 얻지 못하고 짧게 종결되어 버리는 경우가 자주 발생한다. 본고는 이러한 상황을 극복하기 위해 한국인 학습자가 어떻게 화제를 제시하고 어떻게 대화를 이끌어 나가는지를 중심으로 침묵 후 학습자의 대화운영 방법을 살펴보았다.

<표6> 본고에서 확인된 침묵 후 학습자의 대화운영 방법

	질문	자기 개시	명확화 요구	평가 (감정)표현	확인 요구	의견 추가	정보 추가	재질문	정보 제공
여성 학습자	9	0	5	6	1	1	0	1	0
남성 학습자	0	6	0	2	0	0	2	0	3
합계	9	6	5	8	1	1	2	1	3

(숫자는 회수를 뜻함)

‘질문’은 상대방에게 친근감을 주어 대화를 진행시키는 수단이 되고, ‘자기개

시'는 첫 대면 대화에서 상대방과 우호적으로 대화를 진행시키고 싶다는 공통의 목적 때문에 사용된다(奥山2003 : 67). 질문과 자기개시 모두 보다 나은 의사소통의 수단(Mckay2009 : 222)임을 본 연구 자료에서 한국인 학습자가 질문과 자기개시로 화제를 제시하여 침묵을 극복하고 있는 것을 통해 한번 더 확인할 수 있었다. 松田(2015:52)는 “남성은 목적을 전달하기 위해 직접적 의사소통스타일을 사용하며 여성은 주변과의 관계를 중시하기 때문에 직접적 의사소통은 피하고 상대방이 알아서(설명 없이) 대처해주는 의사소통스타일을 취한다”고 한바 있듯 남녀의 대화스타일은 차이가 있을 것이다. 이에 침묵 후 한국인 학습자의 남녀 특징을 살펴본 결과 다음과 같은 점을 확인할 수 있었다.

첫째, 수치의 차이는 그다지 크지 않지만 <표6>의 평가(감정)표현의 수치가 많은 것을 통해 여성은 감정을 표현하는 경우가 남성에 비해 많음을 확인할 수 있었다. 또한 여성의 질문 횟수가 많은 것은 여성이 남성에게 발화기회를 주는 행위의 하나로 볼 수 있으며, 이를 통해 “여성은 남성이 리드하기 쉬운 화제로 돌리는 경우가 많다(井出1999:25)”는 선행연구의 결과를 확인할 수 있었다.

둘째, <표6>에서 알 수 있듯이 한국인여성학습자는 남성에 비해 명확화 요구를 침묵 후 자주 사용하여 상대방의 발화를 유도하였다. 명확화요구란 개방형질문(Open · Question)의 형태를 취하는 경우가 많지만(村上1997:150) 본 연구 자료에서 학습자는 “じゃ、何の分野の”와 같이 “何”이라는 의문사를 사용하였다. 또한 화자가 정확히 모르는 개념을 이해하기 위해 질문(矢의 명칭, 일본에서 원룸을 부르는 명칭과 비용)과 자신의 의견(矢의 크기와 무게에 대한 느낌, 특정대학 근처의 고시원은 비싸다는 의견)이 혼합된 형태로 명확화를 요구하였다.村上(1997:150)는 “전혀 이해가 되지 않는 경우는 명확화요구, 어느 정도 이해가 되면 확인요구를 한다”고 진술한 바, 화자가 청자에게 명확화를 요구하면 청자는 화자가 이해할 수 있도록 설명하기 때문에 청자의 발화가 증가할 가능성이 있음을 확인할 수 있었다.

셋째, 침묵 후 제시된 화제로는 한국인 여성은 상대방의 과거의 경험, 한국인 남성은 자신의 의견과 경험에 관한 것이었다. 한국인남성학습자는 침묵 후 상대방에게 질문보다는 자신의 의견과 경험을 자기개시하는 형태로 대화를 진행하였고 상대방이 정보를 요구하지 않았음에도 불구하고 정보를 제공하거나 추가정보를 덧붙여 화제를 전개시키는 모습도 확인되었다.

5. 맺으며

본고는 접촉장면의 이성간의 첫 대면 대화를 연구대상으로 침묵 후 한국인 학습자가 침묵을 극복하기 위해 사용한 대화진행 방법에 초점을 맞추어 연구를 진행하였다. 한국인 학습자의 침묵 후 발화에 초점을 맞춰 정성적 분석을 시도한 결과 학습자가 사용한 침묵 후 대화운영방식이 존재함을 확인할 수 있었다. 한국인 학습자는 일본인모어화자와의 첫 대면 대화에서 침묵이 발생했을 때 명확화요구, 확인요구, 감정표현, 질문 및 의견추가, 자기개시, 정보요구, 정보추가 등 다양한 방법으로 대화를 운영하였다.

본고의 연구 자료는 이성 간의 대화이기에 이성간의 대화운영방식에 차이점이 있는지도 살펴보았다. 본고는 한국인 학습자에 초점을 맞춰 분석하였기에 본고의 분석에서 확인 가능한 한국인 남녀의 특징에 주목하였다. 그 결과 한국인 여성은 침묵 후 상대방에 대해 질문으로 대화를 시도하는 특징이 있음을 알 수 있었다. 한국인 남성은 상대방에게 질문보다는 자신의 의견이나 경험을 먼저 자기개시하는 방법으로 침묵 현상을 극복한다는 점을 확인할 수 있었다. 본고에서 확인된 한국인 상급 학습자의 남녀의 침묵 후 대화진행 방식 차이는 본고의 데이터 수가 적고 고려해야 하는 사항이 많은 점 등 향후 보완할 사항이 많아 일반화하기에는 무리가 있음을 필자도 숙지하고 있다. 이에, 향후 연구 자료를 더 확보하여 분석을 보완해 가는 것을 과제로 삼고자 한다.

【참고문헌】

- 이선옥(2016) 「한일 이성 간 첫 대면 대화의 화제에 관한 연구-한일 문화요소 및 성차요인을 중심으로」 『일본어교육연구』 36, 한국일본어교육학회, pp.53-70.
- _____ (2017) 「한일 이성간 모어화자끼리의 첫 대면 대화 연구-화제 내용을 중심으로」 『일본언어문화』 39, 한국일본언어문화학회, pp.143-161.
- _____ (2018) 「첫 대면 대화의 화제 도입 방법에 관한 연구-한국인 상급 일본어 학습자와 일본어 모어화자의 이성 간 대화를 중심으로-」 『일어일문학』 79, 대한일어일문학회, pp.143-163.
- 박성현(2007) 『한국어 대화 화제 와 말차례 체계 (Vol.7)』 집문당 pp.1-356.
- 曹英南(2013) 「韓国語と日本語の割り込み発話の対照研究-疎の関係の男女の雑談会話をデータとして-」 『일본어문학』 59, 한국일본어문화학회 pp.37-56.
- 井出祥子(1999) 『社会言語学』アルク pp.1-109

- 奥山洋子(2003) 「初対面のポライトネス・ストラテジーにおける韓日比較-大学生同士の会話資料をもとに」 『일본연구』 제17집, 중앙대학교 일본연구소, pp.65-99.
- 堀このみ(2011) 「大学生男女の「沈黙」がコミュニケーションに与える影響」 『東京女子大学言語文化研究』 20, pp.105-121.
- 松田哲(2015) 「コミュニケーションにおける性差についての考察: 「車のエンジンがかからないの」を事例に」 流通経済大学スポーツ健康科学部紀要8, pp.49-54.
- 森本郁代(2013) 「会話の中の「間」と「沈黙」 日本語学, 32(5), pp.49-62.
- 村上かおり(1997) 「日本語母語話者の「意味交渉」に非母語話者との接触経験が及ぼす影響:母語話者と非母語話者とのインターアクションにおいて」 『日本語教育論集』 7, 世界の日本語教育, pp.137-155.
- 柳田直美(2015) 『接触場面における母語話者のコミュニケーション方略』 ココ出版
- 中井陽子(2012) 『インターアクション能力を育てる日本語の会話教育』 ひつじ書房 pp.1-452.
- Gail E. Myers ;Michele Tolela Myers, 임철성 역 (1995) 『대인관계와 의사소통((The dynamics of human communication)』, 집문당.
- Herbert H Clark(1996) “Using language” : Cambridge University Press. pp.1-432.
- Matthew McKay, Martha Davis, Patrick Fanning(2009) “Messages: The communication skills book” : Raincoast Books. pp.1-368.

논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 初対面会話での沈黙克服事例に関する研究
 —韓国入上級日本語学習者の会話運営方法を中心に—

李善玉

本稿は、韓国入女性と日本人男性および韓国入男性と日本人女性の組合わせて韓日異性間の初対面会話を録音し、沈黙後の話題について学習者の立場から分析した研究である。研究対象者は韓国の首都圏在住20代の男女で14名(7ペア)で、各ペアごとの会話時間は35分であり、総会話時間は245分である。上級日本語学習者が沈黙後提示した話題はどんな話題であるか、どのように話題を展開し沈黙を乗り越えたかを事例を通じて分析し、韓国入男女の会話進行方法の違いを確認した。

分析の結果、沈黙後、韓国入女性は質問で話題を提示し、韓国入男性は自己開示で話題を提示し沈黙を乗り越えているのが分かった。韓国入女性が提示した話題は相手の過去の経験についてであり、韓国入男性が提示した話題は自分の意見、経験に関することであった。また話題を展開するときも、韓国入女性は明確化要求、確認要求、感情表現などを使って相手の発話を誘導し話題を展開していた反面、韓国入男性は相手に意見を聞くより自分の意見、経験を自己開示する形で話題を展開していた。性差によって話題導入と展開の仕方は少し異なったが沈黙後、話し手が使った「明確化要求、確認要求、相槌、情報の付け加え、評価表現、自己開示」などは相手の会話を支援する行為であると言える。沈黙後の韓国入男女の会話スタイルの差は少し確認できたが、事例を探って得た結果なので一般化はできないと思われる。しかしこのような結果が日本語教育で応用できると考えられる。

 A Study on the Cases of Overcoming Moments of Silence after First Conversation
 –Focusing on the Conversation Management of Korean Advanced Japanese
 Learners–

Lee, Seon-Ok

This study analyzed the topics after moments of silence after the first conversation between the pairs of a Korean woman and a Japanese man and the pairs of a Korean man and a Japanese woman. The differences in the way of continuing dialogue by Korean men and women learners were identified by analyzing which topic advanced Japanese learners suggested and how they overcame silence.

It has been identified that Korean women overcame silence by suggesting topics in the form of asking questions to Japanese men and Korean men overcame silence by suggesting topics in the form of talking about themselves. The topics suggested by Korean women were about the past experiences of the opponent and the topics suggested by Korean men were about one's own opinions and experiences. In addition, when unfolding topics, Korean women unfolded topics by inducing speech from the opponent after using 'demanding clarification, demanding identification, and expressing emotions (expressing evaluations)' whereas Korean men unfolded topics in the form of talking about their own opinions and experiences. This study identified the gender differences in suggesting and unfolding topics after moments of silence by Korean learners.

日本語依頼表現の丁寧さ

—授受表現「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に—

呉先珠*

(e-mail : drama6952@yahoo.co.jp)

< 목 차 >

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1. はじめに | 3.3 「てもらう形」のアンケート結果及び考察 |
| 2. 先行研究 | 4. 依頼の場にいられる「させてくれる形」「させてもらう形」 |
| 3. 依頼の場にいられる「てくれる形」「てもらう形」 | 4.1 「させてくれる形」のアンケート結果及び考察 |
| 3.1. 調査デザイン | 4.2 「させてもらう形」のアンケート結果及び考察 |
| 3.2. 「てくれる形」のアンケート結果及び考察 | 5. おわりに |

キーワード：依頼(request), 話し手(the speaker), 聞き手(the listener), 依頼内容と負担(the content and burden of request), 恩恵(benefits), 丁寧さの度合い(level of politeness)

1. はじめに

外国語教育の目的は学習言語を母語とする人との円滑なコミュニケーション活動にある。このような観点からすると、日本語学習者は日本語を母語とする人とコミュニケーションをとるために学習していると言えよう。しかし、敬語は日本人にとっても厄介なもので、ましてや外国語として日本語を学ぶ学習者にとっては最難関であることは言うまでもない。日本語の敬語は美化語、尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ、丁寧語に対する理解に加え、ウチとソトの関係といった日本語特有の敬語メカニズムに対する理解が求められ、それが学習者を悩ませる原因の一つとなる。

特に2年制大学の日本語学科及び日本語関連学科の場合、1年の秋学期の終わりから敬語を習うが、多くの学習者が日本語学習歴1年前後と短いため、理解に苦しんでいる様子が見られる。

* 培花女子大学, 兼任教授, 比較言語学

かがえる。また、適切な敬語判断をするための言語能力¹⁾があっても、それぞれの敬語表現がどれほどの丁寧さを有しているのかが判断できないため、言語能力が運用能力や戦略的能力に繋がりにくい。

本稿は依頼の場を用いられる敬語表現の中で、日本語学習歴の短い大学1、2年生が既学習文法と繋げやすい授受関係を含む「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に、表現間の丁寧さの度合いとそれに対する話し手や聞き手の負担と利益を考察することで①言語能力を言語運用や戦略的能力に繋げる方法を探り、②その後の敬語表現学習に役立てたい。

2. 先行研究

まず敬語とは何か、平成19年日本文化庁・文化審議会が発表した敬語の指針(2007:7)によると、敬語はその場の人間関係や場の状況に対する気持ちの在り方を表現するものである。菊地(2010:17)は敬語を、同じ事柄を述べるのに、述べ方を変えることによって、敬意又は丁寧さをあらわす、そのための専用の表現だと述べている。つまり敬語はコミュニケーションの場における話し手の気持ちの表し方であり、場の状況によって聞き手や話題の人物を立てるための戦略であるといえる。草薙(2006:20)は日本語の敬語の種類を丁寧語と上位敬語に2分類し、さらに上位敬語を尊敬語、謙譲語、丁寧語に下位分類している。この3つの上位敬語は話し手が誰に対して敬意をしめすかということと、敬意を表現する手段として、話題になっている行為あるいは状態を表す語を特殊な表現にすることで、相手を「持ち上げたり」話し手自身が「へりくだったり」することと説明している。菊地(2010:30-31)は敬語を尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ、丁寧語、美化語に5分類しているが、尊敬語とは一般に話題の中で行為を行う人に対する敬意の表しであり、謙譲語は行為者側に視点を置き、相手を配慮する話し手の気配り・心掛けの言語手段といえる。

一方、依頼の場を用いられる授受表現に関する研究は大きく、①「てくれる・てもらう」間の使用実態に関する研究、②授受表現のポライトネス²⁾に関する研究、③日本語母語話者と学

-
- 1) 高見沢(2004:44-45)では、コミュニケーション能力は、言語的な能力(=言語能力、competence)、運用能力(=言語運用、performance)、および戦略的な能力(交渉技術、strategy)から構成されると述べている。
 - 2) Brown&Levinson(1987)は‘politeness’に関する理論として最も基本的で代表的なものと言えるが、日本語学ではポライトネスあるいは丁寧さと訳され、円滑なコミュニケーションに必要な配慮や配慮的行動のような広い範囲で用いられている。生田(1997:67-68)によると人間には面子に係わる欲求があり、相互の人間関係の維持を望むならば、それを互いに脅かさないよう行動(言語使用)しようとする。それがポライトネスであると定義している。

習者の比較研究の3つに分けられる。まず、①「てくれる・てもらう」間の使用実態に関する研究として、金股模(2015:19)は、「てもらう」文の用法が決まる要因とその理由について考察しているが、「てもらう」文の用法は、動詞の性質や複文、副詞の共起、参与者の数、格表示の変化、恩恵行為者の性質による事象意味の移行との関係など様々な要因によって決まってくるものであるとしている。また、최명규(2009:128-30)は「恩恵の受け手」と「行為の主体」の一致・不一致と格助詞「に」の有無により考察している。②授受表現のポライトネスに関する研究として、森山(2008:26)は依頼と命令表現における敬語の体系を、普通体(ぞんざい体)「しろ:恩恵非付与」、「してくれ(恩恵付与)」、普通体(非ぞんざい体)「おやり:恩恵非付与」、「して:恩恵付与」、敬体(丁寧体)「しなさい、お～なさい:恩恵非付与」、「してください、お～ください:恩恵付与」、上級敬体(上級丁寧体)「*しなさいませ、お～なさいませ:恩恵非付与」、「して下さいませ、お～下さいませ:恩恵付与」に分けている。崔善喜・姜錫祐(2015:163)は、授受動詞を用いる「てください・お～下さい」「てもらう・いただく」を中心に命令文のポライトネスをLeechの丁寧さの原理と森山(2008)をもとに分類しているが、直接的命令なのか間接的命令なのか、また恩恵付与の有無により現代日本語の命令表現の体系を提示している。③日本語母語話者や学習者の授受表現使用における研究はとして、李讓珍(2016:260)は「させていただく」を中心に日本語母語話者100名と外国人日本語学習者53名の使用を比較研究しているが、外国人日本語学習者は日本語母語話者が「敬意・決まりきった言い方」だと感じる文を違和感を感じたり、攻撃性・自己主張性と感じる時があるとしている。

以上のようにこれまで日本語授受表現は多方面で研究され、多くの成果を蓄積しているが、日本語学習歴の短い人にとっては、特に「てくれる形・てもらう形」の各表現がどれほどの丁寧さを有しているのか使い分けられないため、本稿は「てくれる形・てもらう形」の丁寧さに重点をおいて研究したい。

Leechは「丁寧さの原理」の下位原則として以下の6つの原則を設けているが、これらは次のように対をなして機能する傾向があると述べた。中でも「気配りの原則」が英語圏の社会において最も重要な種類の丁寧さであるとしている。

(I) 気配りの原理

- (a) 他者に対する負担を最小限にせよ。 (b) 他者に対する利益を最大限にせよ。

(II) 寛大性の原理

- (a) 自己に対する利益を最小限にせよ。 (b) 自己に対する負担を最大限にせよ。

(III) 是認の原理

(a)他者の非難を最小限にせよ。 (b)他者に賞賛を最大限にせよ。

(IV)謙遜の原理

(a)自己の賞賛を最小限にせよ。 (b)自己の非難を最大限にせよ。

(v)含意の原理

(a)自己と他者との意見の違いを最小限にせよ。(b)自己と他者との含意を最大限にせよ。

(VI)共感の原理

(a)自己と他者との反感を最小限にせよ。 (b)自己と他者との共感を最大限にせよ。

(邦訳：池上・河上1987：190～191)

本稿で取り上げる依頼の場用いられる敬語の丁寧さは、話し手が依頼を通して聞き手に何か行為的、あるいは精神的負担を働きかけ、利益や恩恵を得るための言語的戦略と定義している。そしてそれは Leech の「丁寧さの原理」の中で「気配りの原理」に当てはまり、最も密接であると思われる。

3. 依頼の場用いられる「てくれる形」「てもらう形」

3.1 調査デザイン

アンケート参加者は福岡県・福岡市在住の20代～70代の女性20名である。アンケート調査対象者を女性に限定した理由は一般に男性より女性の方が言葉づかいに敏感であると言われていることから敬語に於いても男性より丁寧な言葉づかいをしていると思われたからである³⁾。調査対象者の職業は大学院生1名、主婦8名、会社員8名、パート社員3名で、年齢は20代が1名、30代が1名、40代が9名、50代が5名、60代が3名、70代が1名である。

調査時期は2018年7月～8月、調査方法は「てくれる形」「てもらう形」「させてくれる形」「させてもらう形」の用例を提示し、最も丁寧さの度合いが低いと思われる用例から最も丁寧さの度合いが高いと思われる用例まで丁寧さ順に①から⑥、①から⑩のように番号を付けてもらい、必要に応じて口頭で質疑応答を行った。

この際、母語話者の判断によって不自然な用例、又はあまり見聞きしていない用例に関しては番号を付けなくてもよいとし、また母語話者の判断によって同じ程度の丁寧さを有してい

3) 荻野(1983)は、東京都文京区の根津・西片地区の住民488名を対象に、聞き手に対してどうい敬語表現が使われるかを調べ、それぞれの待遇レベルを図で示した。その結果、①女性は男性よりも丁寧なことばづかいをする、②年齢が高いほど丁寧なことばづかいをする、③学歴が高い人ほど聞き手によってことばを使い分けると述べている。今回は荻野(1983)を参考し、調査対象者を女性に限定しているが、これから男性の敬語使用も調査し、両方を比較研究していくつもりである。

ると判断される用例に関しては複数応答も可能にした。

調査に用いられた表現は基本ビジネス日本語教材から抜粋している。ただし、今回研究対象の「てくれる形」「てもらう形」「させてくれる形」「させてもらう形」のアンケート文全体を通してのバランスを考え、筆者が手直している4)。

3. 2 「てくれる形」のアンケート結果及び考察

「てくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果は以下の通りである。

<表1. 「てくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果>

<てくれる形>	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話してくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してくれる？	②	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2
明日電話してくれない？	③	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3
明日電話してください。	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話していただきませんか？	⑤	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
明日電話していただきませんか？	⑥	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
<てくれる形>	番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話してくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してくれる？	②	2	3	3	2	3	2	2	3	2	2
明日電話してくれない？	③	3	2	3	3	2	3	3	2	3	3
明日電話してください。	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話していただきませんか？	⑤	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5
明日電話していただきませんか？	⑥	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6

4) 例えば、「電話してもらおう」、「電話させてもらおう」、「電話させてくれ」のような一部用例は日常生活ではあまり用いられることないが、①文法上あり得る形式である、②アンケート文全体のバランスを考慮に入れると「電話してくれ」と同レベルの丁寧さを有する用例が必要であったため筆者が作った用例である。また、「電話していただきませんか」や「電話していただけませんか」のような「～ませんか」の場合、二重敬語の恐れがあるが、現代日本語書き言葉均衡コーパスの「小納言」で「教えていただけませんか」などの用例が81件ヒットし、またビジネス日本語において「～ませんか」が丁寧な表現であると習った日本語学習者が間違っ使用恐れがあると判断し、依頼の場に用いられる表現として不適切であることを日本語母語話者のアンケートを通して提示したく、筆者が作った用例である。

「てくれる形」は大方<表 1>の提示順番通りに丁寧さが高くなる傾向がみられたが、「②明日電話してくれる?」と「③明日電話してくれない?」に限っては「②明日電話してくれる?」の方が丁寧だと答えた人が7人(35%)、「③明日電話してくれない?」の方が丁寧だと答えた人が13人(65%)であった。このような結果から、③番の方が丁寧だと答えた人は、依頼の場という状況下では肯定形より否定形を用いた方が押し付けがましさを緩和し、相手に対する配慮の気持ちが表せると判断したのであると思われる。

年齢別には40代女性9人のうち4人、50代の女性5人のうち2人、30代女性1人が「②明日電話してくれる?」の方が「③明日電話してくれない?」より丁寧だと答えている。

依頼の場に用いられる「てくれる形」は「依頼者=話し手、行為の主体=聞き手、行為の決定者=聞き手、恩恵の向かう先=話し手」であるため、聞き手を立てながら直接的に恩恵(利益)を求める意が窺え、出来事から恩恵を受けることを直接表したい場合は「てくれる形」を用いた方がいいと考えられる⁵⁾。

<表 1>のアンケート調査の結果を丁寧さ順に並べた上で、話し手の負担と利益、聞き手の負担、文の間接度を纏めると以下の<図 1>の通りになる。

「てくれる形」	話し手の負担	話し手の利益	聞き手の負担	間接度	丁寧さ
①明日電話してくれ。	低	低	高	低	低
②明日電話してくれる?					
③明日電話してくれない?					
④明日電話してください。					
⑤明日電話していただけますか?					
⑥明日電話していただけますでしょうか?	高	高	低	高	高

<図 1. 「てくれる形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ>

<図 1>では話し手の負担と聞き手の負担は反比例している。依頼という状況から話し手の目的は、押し付けがましさを緩和して聞き手に良い印象を与え、話し手の依頼・要請を引き受けてもらえるであろう。そのために聞き手を配慮して、依頼に対する聞き手の負担が低くなる

5) 庵功雄他(2001:121)は「てもらう/てくれる」に対し、恩恵的に捉えていることを積極的に表したい場合、「てもらう」文は動作主に依頼して動作を行ってもらおうという使役的な意味を持っている一方、「てくれる」文には使役の意味はない、出来事から恩恵的な影響を受けることを表す場合「てくれる」文を用いた方が適切な場合があると述べている。

ように工夫する必要がある。その結果、言語構成の過程で否定・可能・推量・終助詞「か」などが介在して間接的な文になるため、言語構成上の話し手の負担は高くなるのである。一方、聞き手の立場からは依頼が用例①のように命令形に近い文になるほど目上の人や上司、つまりビジネス上において自分より身分の高い人からの依頼である可能性が高い。そのため、依頼に対する負担も高いと言え、依頼が丁寧になればなるほど両者の社会的力関係において聞き手が優位にある可能性が高く、依頼に対する聞き手の負担は低くなると言える。

つまり、話し手は依頼を成功させるための戦略的能力は、聞き手を配慮し、聞き手の負担が少ないように、丁寧で間接的な表現を用いるのであり、結果的に聞き手に良い印象を与え、依頼を引き受けてもらえる可能性が高くなるため、話し手の利益も高くなるのである。

3.3 「てもらう形」のアンケート結果及び考察

さて「てもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果は以下のとおりである。

<表2. 「てもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果>

<てもらう形>	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話してもらおう。	①	1		1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してもらえる？	②	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2
明日電話してもらえない？	③	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3
明日電話してもらえないですか？	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話してもらえませんか？	⑤	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5
明日電話していただけですか？	⑥	6	6	7	6	6	7	6	6	6	6
明日電話していただけないですか？	⑦	7	7	6	7	7	5	7	7	7	7
明日電話していただけないでしょうか？	⑧	9	7	9	9	9	8	8	9	8	8
明日電話していただけませんか？	⑨	8	9	8	8	8	9	9	8	9	9
明日電話していただけませんでしょうか？	⑩	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
<てもらう形>	番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話してもらおう。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話してもらえる？	②	2	3	3	2	3	2	2	3	2	3
明日電話してもらえない？	③	3	2	3	3	2	3	3	2	3	2
明日電話してもらえないですか？	④	4	4	5	4	4	4	5	4	4	4
明日電話してもらえませんか？	⑤	5	5	5	7	5	5	4	5	5	5
明日電話していただけますか？	⑥	6	7	7	6	7	6	6	6	6	7
明日電話していただけないです	⑦	7	6	6	5	6	7	7	8	7	6

か？											
明日電話していただけないでしょうか？	⑧	8	10	9	9	8	8	9	9	9	8
明日電話していただけますか？	⑨	9	8	8	10	9	9	8	7	8	9
明日電話していただけないでしょうか？	⑩	10	9	10	8	10	10	10	10	10	10

「てもらう形」においても「②明日電話してもらえる？」と「③明日電話してもらえない？」のうち、②番の方が丁寧だと答えた人が7人(35%)、③番の方が丁寧だと答えた人が12人(60%)であった。また両方とも同じくらいの丁寧さを有りすと答えた人が1人いた。年齢別には40代9人のうち4人が、50代5人のうち3人が、30代1人が「②明日電話してもらえる？」の方が「③明日電話してもらえない？」より丁寧だと答えた。

「⑥電話していただけますか」と「⑦電話していただけないですか」の丁寧さの順番に対して⑥番の方が丁寧だと答えた人は6人(30%)で、⑦番の方が丁寧だと答えた人が12人(60%)と意見が分かれた。年齢別には40代9人のうち4人、30代1人が「⑥電話していただけますか」の方が「⑦電話していただけないですか」より丁寧だと答えた。

⑧番と⑨番も丁寧さに対する意見が分かれたが、「⑧明日電話していただけないでしょうか？」の方が丁寧だと答えた人は10人(50%)で、「⑨明日電話していただけますか？」の方が丁寧だと答えた人は9人(45%)であったが、上記表①から⑩の中で、「⑧明日電話していただけないでしょうか？」が最も丁寧だという意見や「⑨明日電話していただけますか？」の方が最も丁寧だという意見もあった。

年齢別には40代9人のうち5人、50代5人のうち3人、30代1人、20代1人が「⑧明日電話していただけないでしょうか？」の方が「⑨明日電話していただけますか？」より丁寧だと答え、広い年齢代で「⑧明日電話していただけないでしょうか？」がより丁寧だと答えていたことが分かった。

「⑧明日電話していただけないでしょうか？」と「⑨明日電話していただけますか？」の丁寧さについて日本語母語話者の各年齢間で意見の違いが発生しているが、「⑧明日電話していただけないでしょうか？」をより丁寧だと答えた人は、文末に推量・想像する意を表す助動詞「でしょう⁶⁾」が接続し、話し手の依頼・要請をさらに間接的に表すことが

6) 国語大辞典(1993)は、「でしょう」を①一つの事柄を推量・想像する意を表す。推量の助動詞「だろう」の丁寧体。丁寧の助動詞「です」の未然形に推量の助動詞「う」の下接したものであるが、その接続は「です」より広く、独立的に一つの助動詞と認めることができると記述している。また、国語大辞典(1978)は、①「ます」と同じ程度の丁寧な文体に用い、動詞・形容詞・形容動詞・助動詞について、それらの語の表す事態について話し手の推量・疑問などの気持ちを表す。②体言について、断定+推量または疑問などの意、あるいはやわらかい調子の断定を、丁寧の意とともに表す。③相手に対する念押し、または同意を求めるとの意、丁寧

できることからより丁寧さの度合いが高いと認識するに至ったとみられる。反対に「⑨明日電話していただけますか？」の方が丁寧さの度合いが高いと答えた人は、「でしょう」が丁寧の意を含んだやわらかい断定、又は強調の意があることから、⑧番が⑨番より丁寧さの度合いが低いと判断したものと思われる。

一方、「もらう」の場合、「依頼者＝話し手、(表現上)行為の主体＝話し手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」と、実際の行為の主体は聞き手であっても表現上の行為の主体が話し手であるかのように表すことができ、「くれる」より間接的恩恵の意が認められ、それが「いただく」にも引き継がれると思われる。さらに依頼の場において可能・否定・推量・終助詞「か」を重ねて間接的にすることで押し付けがましさを緩和するなど聞き手を配慮することにより、聞き手の依頼に対する負担をも最小限にすることができると思われる。

<表2. 「てもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果>から、今回アンケート調査対象者は「～ませんか」より「～ないでしょうか」の方が丁寧だと答えた人が多かった。その結果を踏まえて、話し手の負担と利益、聞き手の負担、文の間接度、丁寧さを「図2」の通り纏めることができる。

「てもらう形」	話し手の負担	話し手の利益	聞き手の負担	間接度	丁寧さ
①明日電話してもらおう。	低	低	高	低	低
②明日電話してもらえる？					
③明日電話してもらえない？					
④明日電話してもらえないですか？					
⑤明日電話してもらえませんか？					
⑥明日電話していただけますか？					
⑦明日電話していただけないですか？					
⑧明日電話していただけませんか？					
⑨明日電話していただけないでしょうか？					
⑩明日電話していただけませんでしょうか？	高	高	低	高	高

<図2. 「てもらう形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ>

<図2>の通り、「①明日電話してもらおう」のように命令形に近い表現になると両者の社会的力関係により話し手の負担は低いが聞き手の負担は高くなる。一方で聞き手に対す

の意とともに表す。④丁寧の意を含んだ強調・反語などの意を表すことがあると説明している。

る配慮を表すため、文が可能・否定・推量・終助詞「か」を介在し言語構成上複雑になると文生成に伴う話し手の負担は大きくなる反面、文は間接的、かつ丁寧になるため、聞き手の負担は低くなる事が分かる。

4. 依頼の場用いられる「させてくれる形」「させてもらう形」

「させてくれる形」「させてもらう形」は「てくれる形」「てもらう形」に使役の「させる」が介在し、話し手の行為に対する聞き手の許可・同意を求める表現として用いられている。これらは授受関係における日本語特有の婉曲的な依頼表現である故、言語能力があっても学習者が自らこれら表現を用いて文を作り出すのは非常に難しい。実際ビジネス日本語クラスで行ったアンケート調査もこれを裏付けるものであった。2年生の1学期授業で「させてくれる形」「させてもらう形」の授業後、2クラスの学習者42名を対象に「今日は早く帰りたいです」という文を「させてもらう形」を用いて直させたが、42名のうち不正解が16名で約38%を占めていた⁷⁾。このような結果は、言語能力が言語運用や戦略的能力に繋がっていないことを裏付けるものであり、学習者にとっては行為の主体(行為者)に対する把握が難しいようであったため、授受関係を行為の主体と恩恵の授受の面から再度理解させる必要があった。

4. 1 「させてくれる形」のアンケート結果及び考察

「させてくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果は以下の通りであった。

＜表3. 「させてくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果＞

＜させてくれる形＞	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話させてくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話させてくれない？	②	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
明日電話させてください。	③	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3
明日電話させてくださいませんか？	④	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4
明日電話させてくださいませんか？	⑤	5	5	5	3	5	5	5	5	5	5
＜させてくれる形＞	番	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

7) 学習者の不正解の類型をみると、「お帰らせていただきたいです」のように美化語「お」を付けた人が8名、答えを書いていない人が5名、「お帰りになりたいです」のように「お+ます形+になる」の尊敬形を使って直した人が2名、その他1名であった。

	号	60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話させてくれ。	①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話させてくれない？	②	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
明日電話させてください。	③	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
明日電話させてくださいませんか？	④	4	5	4	5	4	4	4	4	4	4
明日電話させてくださいませんか？ うか？	⑤	5	4	5	4	5		5	5	5	5

上記<表3>のように殆どの参加者がアンケートの提示順に丁寧さの度合いが高くなる
と答えた。ただし、40代の女性2人のうち1人は「⑤明日電話させてくださいませんか？
」の場合、日常生活ではあまり使われないとして番号をつけず、もう1人も同じ理由で「
④明日電話させてくださいませんか？」より丁寧さの度合いが低いと答えた。50代女性から
は「③明日電話させてください。」や「④明日電話させてくださいませんか？」より丁寧さ
の度合いが低い上に「ふざけているかわざとらしい」という意見もあった。

前述したように、「させてくれる形」「させてもらう形」の「させる」は使役、つまり他者
に何か行動を働き掛けるという意がある。また、この場合の「くれる形」「もらう形」は行動
の働きかけの主体が他者から話し手の方に移動することを表すため、結果的に「させてくれ
る形」「させてもらう形」には聞き手側の働きかけにより話し手の行動が誘発されるものであ
るかのように見せかける効果がある。そのため、「させてくれる形」「させてもらう形」を用
いる際の話し手の戦略的能力は、話し手の行動に対する許可・同意を聞き手に求める際
に、依頼に対する聞き手の負担を減らす上、話し手の行為が話し手はもちろん聞き手にお
いても利益になるもののように表現することにある。

<表3. 「させてくれる形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果>を踏まえて、話し手の
負担と利益、聞き手の負担と利益、文の間接度、丁寧さを纏めると「図3」の通りになる。

「させてくれる形」	話し手の負担	話し手の利益	聞き手の負担	聞き手の利益	間接度	丁寧さ
①明日電話させてくれ。	低	低	高	低	低	低
②明日電話させてくれない？						
③明日電話させてください。						
④明日電話させてくださいませんか？						
⑤明日電話させてくださいませんか？ うか？	高	高	低	高	高	高

<図3. 「させてくれる形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ>

〈図 3〉から分かるように話し手の負担と聞き手の負担は反比例している。しかし、聞き手に対する配慮を表すために否定・可能・推量・終助詞「か」などが介在し依頼文が間接的、かつ丁寧さの度合いが高くなるほど、話し手の負担は高くなるが聞き手の負担は低くなる。また、使役の「させる」を介在することで話し手の行動が話し手自身はもちろん聞き手にとっても利益であるように表現することができるのが 3 章で取り上げた「てくれる形・てもらう形」との違いであると言える。

4. 2 「させてもらう形」のアンケート結果及び考察

〈表 4〉は「させてもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果である。

〈表 4. 「させてもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果〉

〈させてもらう形〉	番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		20代	50代	40代	50代	50代	40代	40代	60代	70代	60代
明日電話させてもらおう。	①	1		1	1	1	1	1	1	1	1
明日電話させてもらえる？	②	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
明日電話させていただける？	③	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
明日電話させていただけないですか？	④	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
明日電話させていただけないでしょうか？	⑤	6	5	6	5	6	5	6	6	5	5
明日電話させていただけませんか？	⑥	5	6	5	6	5	6	5	5	6	6
明日電話させていただけませんでしょうか？	⑦	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
〈させてもらう形〉	番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		60代	40代	40代	50代	30代	40代	40代	40代	40代	50代
明日電話させてもらおう。	①	1	1	1	1	1		1	1	1	1
明日電話させてもらえる？	②	2	3	2	2	2	4	2	2	2	2
明日電話させていただける？	③	3	2	3	3	3		3	3	3	3
明日電話させていただけないですか？	④	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4
明日電話させていただけないでしょうか？	⑤	5	7	6	6	5		6	6	6	6
明日電話させていただけませんか？	⑥	6	5	5	7	6	6	5	5	5	5
明日電話させていただけませんでしょうか？	⑦	7	6	7	5	7		7	7	7	7

「させてもらう形」の丁寧さも大方提示順であったが、「⑤明日電話させていただけないでしょうか？」と「⑥明日電話させていただけませんか？」のうち、⑤の方が丁寧だと

答えた人は11人(55%)で、⑥番の方が丁寧だと答えた人は8人(40%)であった。年齢別には20代1人、40代6人、50代3人、60代1人と半分以上のアンケート参加者が「⑤明日電話させていただけないでしょうか？」の方が「⑥明日電話させていただきませんか？」より丁寧だと答えた。

以上から⑤番の方がより丁寧だと答えた人は文末に推量・想像する意を表す助動詞「～でしょう」が接続し、話し手の依頼・要請をさらに間接的に表すことができることから丁寧さの度合いが高いと認識するに至ったとみられ、反対に⑥の方が丁寧さの度合いが高いと答えた人は、「～でしょう」が丁寧の意を含んだやわらかい断定の意を表すことができることから、相手に押し付けがましさを与えない⑥の方がより丁寧さの度合いが高いと判断したと思われる。

一方、上記表①から⑦のうち、「⑤明日電話させていただけないでしょうか？」が一番丁寧だと答えた人や「⑥明日電話させていただきませんか？」の方が一番丁寧だと答えた人もいた。その理由として「⑩明日電話させていただきませんか？」の否定形「明日電話させていただきません」の後に「～でしょう」が付く場合、二重敬語の恐れがあり、これを用いることを憚る傾向があり、「馴染まない、使ったことがない」と答えたと思われる。また、「①明日電話させてもらおう」の場合、日常会話ではあまり使うことがないとの理由で番号を付けていない人も2人いた。

庵功雄他(2001:134)によると「させてやる、させてくれる、させてもらう」はXがしようとしていること(または実際にしていること)をYが許容するという出来事を恩恵的に表し、聞き手の許容を前提とした表現形式である「させてもらう」という形をとることで謙譲の意味、つまり動作の主体以外の人物を高めるといった待遇的配慮を表していると述べている。

加えて本稿では、例えば「釜山に行ってもらいます/いただきます」から分かるように「もらう・いただく」はそれ自体使役の意味を持っているとみている。それらに使役の「させる」が加わった「させてもらう・いただく」の形をとることで「させてくれる」と比べて一層相手の負担を減らして間接的に相手の許可・同意を求めることができ、より「気配りの原理」の条件に適した表現になると考える。

さて、〈表4.「させてもらう形」の丁寧さに関するアンケート調査の結果〉を踏まえて、話し手の負担と利益、聞き手の負担と利益、文の間接度、丁寧さを纏めると「図4」の通りになる。

「させてもらう形」	話し手の負担	話し手の利益	聞き手の負担	聞き手の利益	間接度	丁寧さ
①明日電話させてもらおう。	低	低	高	低	低	低
②明日電話させてもらえる？						
③明日電話させていただける？						
④明日電話させていただけないですか？						
⑤明日電話させていただけませんか？						
⑥明日電話させていただけないでしょうか？						
⑦明日電話させていただけませんでしょうか？	高	高	低	高	高	高

＜図 4. 「させてもらう形」の依頼に対する負担と利益、丁寧さ＞

日本語母語話者のアンケート結果を踏まえて「⑥明日電話させていただけませんか」と「⑤明日電話させていただけないでしょうか」の丁寧さの順番を替えて提示した。

＜図 4＞から、「させてもらう形」の戦略的能力は、行動の主体を表面上代え(聞き手から話し手に)、話し手の行動が聞き手の働き掛けにより誘発されたものであるかのように表現することである。そうすることで聞き手の負担を減らすと同時に話し手の行動が話し手自身はもちろん聞き手にも利益になるように表現することにあると言えよう。結果的に上記＜図 4＞の通り、依頼が命令形に近くなるほど話し手の負担は低く、聞き手の負担は高くなる。一方聞き手への配慮を表すために依頼が丁寧、かつ間接的になるほど言語生成上の話し手の負担は高くなるが、聞き手の負担は低く、聞き手の利益も高くなり、依頼成功の可能性が高くなるため、話し手の利益も高くなることが分かる。

5. おわりに

本稿では依頼の場面に用いられる敬語表現のうち、依頼の場に用いられる「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に日本語母語話者 20 人を対象にアンケート調査を行った。その結果、

①依頼の場に用いられる「てくれる形」の「くれる」は「依頼者＝話し手、行為の主体＝聞き手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」であるため、聞き手を

立てながら直接恩恵を求めるとの意図が窺える。

②「てもらう形」の場合、「依頼者＝話し手、(表現上)行為の主体＝話し手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」と、実際の行為の主体は聞き手であっても表現上行為の主体が話し手であるように表現することができる。それが聞き手への配慮と繋がり、「くれる」より間接的恩恵の意が認められる。

③「させてくれる形・させてもらう形」には聞き手側の働きかけにより話し手の行動が誘発されるものであるかのように表現することができる。そのため、「させてくれる形・させてもらう形」を用いる際の話し手の戦略的能力は、話し手が行うであろう行動に対する聞き手の負担を減らすと同時に話し手の行為が話し手自身はもちろん聞き手にとっても利益になるものように表現することにある。

④依頼文が否定・可能・推量・使役・終助詞「か」を介在して間接的、かつ丁寧さの度合いが高くなるほど文構成上の話し手の負担は高くなるが、それが聞き手を配慮し、立てることにつながるため聞き手の負担は低くなる。また、文が丁寧、間接的になるほど依頼の成功確率も高くなるため話し手の利益も高くなると言える。

今回は依頼の場で用いられる授受表現の中で「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に日本語母語話者20名を対象に各表現間の丁寧さの度合いを調べた。しかし、アンケート対象者が全員女性であり、地域も福岡に限定していたため、今後アンケート対象者数を増やして性別、年齢別、地域別の傾向を調べ、研究を拡大していくつもりである。

【参考文献】

- 生田少子(1997)「ボライトネスの理論」『月刊言語』6月号 vol.26、大修館書店,pp.66-71.
 荻野網男(1983)「敬語使用から見た聞き手の位置づけの多様性」『国語学』132,pp.134-124.
 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク,pp.136-138.
 菊地康人(2010)『敬語再入門』,講談社 pp.30-31.
 金田一春彦・池田弥三郎編(1993)『学研国語大辞典』学研研究社,pp.1330.
 草薙裕.(2006)『敬語ネイティブになろう』くろしお出版社,pp.26-64.
 崔善喜・姜錫祐(2015)「授受動詞を用いた命令文とボライトネス」『日本語学研究』44 輯, 東北アジア文化学会,pp.151-165.
 高見沢孟(2004)『新・はじめての日本語教育 2』, アルク
 橋元良明(2001)「授受表現の語用論」『言語』30-5,大修館書店,pp.46-51
 文化審議会国語分科会(2007)「敬語の指針(答申)」, pp.1-70.

- 森山卓郎(2008), 「命令表現をめぐる敬語の体系」 『日本語学』 27-7, 明治書院, pp.18-26.
- Leech, G.N. (1983) "Principles of Pragmatics(池上嘉彦・河上誓作訳 1987 「語用論」)".
紀伊国屋書店, pp.190-191.
- 金股模(2015) 「てもらう」文の用法決定に関わる要因」 『日本語学研究』 44, 韓国日本語学会, pp.3-21.
- 李讓珍(2016) 「「させていただく」の拡大用法の使用実態について—日本語母語話者と外国人日本語学習者の比較を通じて—」 『日本文化研究』 第59輯, 동아시아일본학회, pp.241-264.
- 최병규(2009) 「일본어 수수표현의 사용양상에 관한 분석Ⅱ-〈~てくれる〉〈~てもらう〉문을 중심으로-」 『東洋学』 第41輯, 단국대학교 동양학연구소, pp.127-152.

(参考資料)

- 가네코 히로유키(2016) 「상황별로 배우는 일본어 경어」, 시사일본어사
- 메구로 나오미·김옥희·하야시 요코(2014) 『New 스타일 비즈니스일본어1, 2』, 동양북스
- 강명호(2015) 『관광비즈니스일본어』, 大旺社

)논문 투고 일자 : 2018. 10. 14. 논문 심사 일자 : 2018. 11. 07. 게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 日本語依頼表現の丁寧さ
 —授受表現「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に—

呉先珠

本稿では依頼の場面に用いられる敬語表現うち、「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」を中心に日本語母語話者20人を対象にアンケートを行った。その結果、①依頼の場に用いられる「てくれる形」の「くれる」は「依頼者＝話し手、行為の主体＝聞き手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」であるため、聞き手を立てながら直接恩恵を求めるとの意図が窺える。

②「もらう」の場合、「依頼者＝話し手、(表現上)行為の主体＝話し手、行為の決定者＝聞き手、恩恵の向かう先＝話し手」と、実際の行為の主体は聞き手であっても表現上行為の主体が話し手であるように表現することができ、「くれる」より間接的恩恵の意が認められる。③「させてくれる形・させてもらう形」を用いる際の話し手の戦略的能力は、話し手が行うであろう行動に対する聞き手の負担を減らすと同時に話し手の行為が自身はもちろん聞き手にとっても利益になるもののように表現することにある。④依頼文が否定・可能・推量・使役・終助詞「か」を介在して間接的、かつ丁寧になるほど文構成上の話し手の負担は高くなるが、それが聞き手を配慮し、立てることにつながるため聞き手の負担は低くなる。結果的に依頼を引き受けてもらうという話し手の利益も高くなると言える。

politeness of request expression
 —Focusing on The giving and receiving expression 「てくれる・てもらう形」
 「させてくれる・させてもらう形」—

Oh, Sun-Ju

This paper did a survey for Japanese mother tongue speakers, focusing on the 「てくれる・てもらう形」「させてくれる・させてもらう形」 among the honorific expressions used for the request. As a result,

①The intention of speaker who respected the listener and expressed the request of direct benefit was shown on the 「てくれる形」 used for the request.②「もらう」 can be expressed such that the subject of ostensible behavior is like speaker, even though the subject of real behavior is listener, therefore it shows the intention for more indirect benefit than 「くれる」.③When using 「させてくれる形・させてもらう形」, the speaker's strategy can decrease the burden of listener for the behavior which speaker will perform, and express that speaker's behavior can be beneficial not only for speaker but also for listener. ④When adding denial, possibility, passiveness and final particles 「か」 to the request expressions and making it more indirect and polite, even though the burden of speaker on the sentence organization becomes higher, this will lead to the consideration for listener therefore the burden of listener will become lower. As a result, the possibility of request success, which will cause the benefit of speaker, will become higher.

일본이해 과목에서 학습자 중심 수업실천 사례 보고*

—교수자 부담 경감을 생각하며—

조 선 영**

(e-mail : huyuski@daum.net)

< 목 차 >

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 들어가기 | |
| 2. 선행연구 | 4.1. 수업의 개요 |
| 2.1 학습자 중심 수업이란 | 4.2. 수업진행1: 강의 및 조별활동 |
| 2.2 교양교과목으로서의 일본이해 과목 | 4.3. 수업진행2: 포스터 발표 |
| 3. 연구 목적 및 방법 | 4.4. 평가에 관하여 |
| 3.1. 연구 목적 | 5. 수업 만족도 조사 결과 |
| 3.2. 연구 방법 | 6. 교수자의 부담에 관하여 |
| 4. 수업 실천 사례 보고 | 7. 나가기 |

키워드 : 学習者中心授業(Leaner-centric class), 実践報告(Practical report), 教師の負担(Burden on the teacher), 満足度調査(Satisfaction survey), 4次産業革命(4th Industrial revolution)

1. 들어가기

교육에서 특히 대학교육에서 종래의 교수자의 일방적인 강의가 아닌 학습자 중심의 수업이 진행되어야 할 필요성에 관해서는 주지하는 바이다. “대학혁명”에서 투데스ଟ은 이미 2000년에 학부교육의 미래에 관해서 ‘새로운 학습 패러다임’을 예견하고 있으며 ‘학생은 학습자로, 선생은 디자이너, 코치, 컨설턴트’로 변화하며, ‘학습자 중심대학’으로 발전할 것이라고 보고 있다¹⁾. 한편 학부교

* 본 논문은 2018학년도 배재대학교 교내학술연구비 지원에 의하여 수행된 것임

** 배재대학교 기초교육부, 부교수, 일본어교육

육은 ‘단순히 직업만을 준비’ 하는 곳이 아니라 ‘훌륭한 시민으로서 의미 있는 삶을 준비하는 폭넓은 지적개발’을 목표로 하는 곳으로 남을 것이라는 기대감도 함께 표출하고 있다²⁾.

한편 4차 산업혁명의 흐름은 교육에서도 거세게 불고 있으며 일례로 최근의 학술대회명을 살펴보다라도 ‘4차 산업혁명’이 언급되지 않은 학회를 찾기 힘들 정도이다. 물론 4차 산업혁명에 관한 부정적인 견해도 있지만, 이미 흐름을 거스를 수 없을 것이라는 점에 이견은 없을 것이다. 4차 산업혁명의 핵심인 빅데이터, AI, 사물인터넷 등을 인식하면서 이에 교육에서는 학생들에게 어떤 역량을 함양시켜야 하는 지에 초점을 맞추어야 할 것이다.

『미래전략보고서(미래창조과학부 미래준비위원회 외, 2017)』에서 한국의 상황을 고려하여 제안하는 미래의 일자리에서 필요로 하는 3대 역량은 “①기계와 차별화된 인간 고유의 문제인식 역량 ②인간 고유의 대안 도출 역량 ③기계와 협력하고 소통할 수 있는 역량”이며, 보다 구체적으로 도출된 것은 11대 세부역량이다. 이 중 <인간 고유의 문제 인식 역량>의 하위역량으로서, “유연하고 감성적인 인지력, 능동적 자료탐색 및 학습 능력, 비판적 상황 해석력”을, <인간 고유의 대안 도출 역량>의 하위역량으로서는 “구조화/설계된 휴먼 모니터링 능력, 유인형 협력 능력, 협력적 의사 결정력, 휴먼 클라우드 활용 능력, 시스템적 사고”를, <기계와의 협력적 소통 역량>으로는 “디지털 문해력, 정교한 첨단기술 조작 역량, 휴먼-컴퓨터 조협력”을 도출하고 있다³⁾.

이와 같은 역량은 물론 새로운 것이 아니며 문제를 인식하고 해결할 수 있는 역량과 이를 위해 협업할 수 있는 역량은 가장 기본적인 역량으로 언급되어 왔으며 대학의 학부교육 중 교양강의에서 이러한 기본 역량 향상을 위해서 할 수 있는 것이 무엇인지 고민한 결과가 이 논문에서 보고하는 학습자 중심 수업실천이다. 학생 스스로 문제를 인식하고 해결할 수 있는 능력을 함양하며 이때 서로 협력할 수 있는 장을 제공하는 것을 목적으로 하는 것이다.

한편 니콜라스 카(2010)는 다양한 실험결과를 통하여 인터넷이 우리의 뇌 구조를 바꾸고 있으며 이를 이전의 책을 읽던 뇌로 되돌리는 것은 쉽지 않음

1) 제임스 J. 두데스텝(2000) 『대학혁명-미국 대학 총장의 고뇌-(A University For the 21st Century)』 이철우·이규태·양인 역(2004), 성균관대학교 출판부, p.132

2) 위의 책, p.150

3) 미래창조과학부 미래준비위원회, KISTEP, KAIST(2017) 『미래전략 보고서:10년 후 대한민국 미래 일자리의 길을 찾다』 도서출판 지식공감, pp115-156

것이며, 이를 인정하고 미래를 예측하고 있다⁴⁾. 모바일에 익숙한 학생들에게 보다 친숙한 교수법을 고안해야 하는 필요성이 명확한 것이다.

그런데 실제로 다른 교수자의 수업실천사례를 본인의 수업에서 활용해 보고자 하는 경우 가장 먼저 걸림돌로 생각하는 것은 교수자의 부담이 아닌가 생각된다. 대부분의 새로운 교수법의 적용을 위해서는 사전 준비 뿐 아니라 진행 과정에서도 기존의 강의식 수업에 비해 많은 부담이 추가되는 것이 사실이기 때문이다. 더욱이 새로운 교수법을 시도해 본 교수자도 준비 및 실천에 있어서 다양한 부담의 상승으로 지속하지 못하는 경우도 있는 듯 하다. 한편 이러한 학습자 중심의 수업실천 사례는 특정 대학의 특정 LMS에서만 작동할 수 있는 경우도 있으며, 특정 과목에서만 작동할 수 있는 경우도 있어서 적용에는 한계가 있다. 즉 교수자의 부담을 경감할 수 있고 좀 더 범용적으로 적용할 수 있는 수업 실천 사례의 보고가 필요한 시점이라고 할 수 있다.

이에 학습자 중심으로 수업을 진행하지만 교수자의 부담을 최소한으로 하는 방법을 고민하였으며, 일본 이해 과목을 대상으로 하고 있지만 다른 수업에서도 응용해 볼 수 있도록 가능한 구체적으로 수업에 관해 소개해 보고자 한다.

한편 이 수업 실천사례 보고는 교양과목을 대상으로 하고 있는데, 전공과목에서는 학습자간의 친밀감 및 학습자와 교수자간의 친밀감이 어느 정도 형성되어 있으므로 학습자 중심 수업실천이 보다 용이할 수도 있을 것이다. 그러나 학년과 전공이 모두 섞여 있는 교양과목에서는 교수자의 피로도가 더 클 수도 있다. 교양과목으로 개설된 일본어 강좌 중에는 일본 이해에 관한 수업이 가장 높은 비율을 차지하고 있다는 조사결과(조선영, 2016)가 있으며 이에 이 보고에서도 일본 이해에 관한 수업을 대상으로 하였다.

2. 선행연구

2.1. 학습자 중심 수업이란

학습자와 학습자의 역할을 중시하는 철학은 학습자 중심이라는 개념과 함께 1980년대에 다양한 교육 분야에 등장하였으며, 이러한 교육철학은 지난 50년

4)니콜라스 카(2010) 『생각하지 않는 사람들-인터넷이 우리의 뇌구조를 바꾸고 있다(The Shallows)』 최지향 역, 청림출판, p.60

동안 광범위하게 영향을 미쳐왔다(Richards & Rodgers, 2014).

교수-학습과정을 좀 더 구체적으로 살펴보면, 교수-학습 패러다임이 변화하고 있다고 볼 수 있는 것이다. 즉 과거의 ‘전통적 패러다임’에서는 지식과 경험을 전달하는 역할을 하는 교수자와 이를 수동적으로 수용하는 학습자의 역할이 있었으며, 오늘날의 ‘경험-과학적 패러다임’에서는 이에 추가하여 ‘교사와 학생 간, 학생과 다른 학생 간에 양방향적 상호 의사소통의 과정을 통하여 학생들의 학습을 촉진’하게 되므로 이를 이끌어 갈 수 있는 능력이 중요하게 요청된다고 본다. 다만 이러한 패러다임도 교사의 지식과 경험이 유일한 ‘채널’이 되어 학생들의 학습을 통제하고 관리하고 있다는 점에서는 기존의 패러다임과 다르다고 볼 수 없다. 이에 미래의 패러다임으로 제시되고 있는 것은 ‘공학적 패러다임’으로 이는 ‘사회체제의 특성을 반영한 패러다임이며, 발달된 정보통신기술을 기반’으로 하는 것이라고 보고 있다. 이는 ‘수요자중심’이 되는 것을 의미하며 기존의 교수자-학습자 간, 학습자 간 상호작용에 더하여 학습자는 ‘자신들에게 필요한 지식과 경험을 담고 있는 지식베이스에 다양한 채널을 통하여 접근’하게 되는 것이다⁵⁾.

이 패러다임에서 중시되는 학습자 중심 교육환경의 특징으로는 ‘자기 주도적 학습환경’, ‘열린 학습환경’, ‘협동적 학습환경’이 제공되고 교수-학습과정이 다양해야 한다고 정리되고 있다⁶⁾. 특히 ‘교수-학습과정의 다양화’는 ‘발달된 정보통신기술을 활용’하여 정보의 ‘개방성 및 접근성, 신속성’을 통해 수업의 다양화가 실현된다고 보고 있다.

이러한 패러다임에 관해서 학습자의 관점에서 좀 더 생각해 본다면 ‘자기 주도적인 학습환경’에서 중요한 것은 동기부여가 되어야 할 것이다. 동기부여에서 중요한 것 중의 하나는 ‘성취감’이라고 할 수 있다. 작은 목표를 달성했을 때의 작은 성취감도 필요하고 보다 큰 목표를 달성했을 때의 성취감도 필요하다. 이때 성취감은 외적인 보상이 주어질 때보다 내적인 보상이 주어졌을 때, 즉 스스로 만족감을 가질 수 있을 때 더욱 견고한 것이 된다는 것은 주지하는 바이다. 또한 학습자의 자율성은 학습 동기 및 학습자 정체성과도 연관이 있으며 이는 학습자가 놓여 있는 현재를 함께 살펴보는 것이 유효하다고 보고 있다(G. Murray, X. Gao and T. Lamb, 2011).

서론에서도 언급한 바와 같이 학습자 중심 수업이 앞으로의 시대흐름에서는

5) 백영균 외(2015) 『스마트 시대의 교육방법 및 교육공학(4판)』 학지사, pp.56-60

6) 앞의 책, pp.92-94

필수불가결하다는 것에 이의를 제기할 수는 없을 것이다. 이 논문에서는 이러한 학습자 중심 수업을 실천하기 위하여 필요한 교육환경을 어떻게 제공하였는지 제시하고 이에 관한 학습자의 만족도에 관하여 분석해 보고자 한다.

2.2. 교양교과목으로서의 일본이해 과목

일본 관련 교양교과목의 현황을 30개 대학을 대상으로 조사한 논문에서는 총 125개 과목이 개설되어 있다고 보고하고 있는데 이 중 32%인 40개 과목이 일본문화·문학·역사 등과 관련된 일본이해 과목이었다(조선영, 2016). 이 중에서는 ‘문화’를 키워드로 하는 경우가 가장 많았다.

교양과목으로서 일본 문화 관련 수업에서의 일본문화 교육의 실태를 파악하기 위하여 李南淑(2016)은 일본문화교재를 Finocchiaro and Bononmo 및 Chastain의 문화분류기준에 기초하여 10종의 교재를 분석, 내용의 특징에 관하여 기술하였다. 분류기준의 대분류는 물질문화 및 행동문화, 정신문화로 구분되는데 10종의 교재는 이를 모두 포함하고 있기는 하지만, 소분류 항목에 있어서는 취급하고 있지 않은 항목도 있는 등 차이가 있었다. 예를 들어 ‘교통 및 통신’과 ‘가족의 생활’에 관해서는 2종의 교재에서만 다루고 있었으므로, 李는 보다 객관적이고 폭넓은 문화지식을 취급해야 할 것이라고 제안하고 있다. 이를 통해 일본문화이해 과목의 내용을 전반적으로 파악할 수 있지만, 교재를 분석한 것이므로 실제 수업은 어떻게 진행되고 있는지 구체적으로 알기는 힘들다.

한편 교양일본어 수강생을 대상으로 한 학습동기를 살펴보면 ‘일본문화 및 일본 여행 등의 내발적 동기’와 더불어 ‘장래를 위한 준비 등의 외발적 동기’를 가지고 있음을 엿볼 수 있다(田中·柳, 2011).

많은 대학에서 교양교육과정의 재편성이 이루어지고 있는 흐름에 따라 일본이해과목도 일본문화에 대한 기존 지식을 전수하기 보다는 학생들의 외발적 동기도 충족할 수 있도록 현재의 일본을 이해하고 미래를 예측할 수 있는 교과목으로서 자리매김해 나갈 필요가 있다고 보여진다.

서론에서 언급한 4차 산업혁명의 흐름에 따라 지식을 전달하는 전통적인 교수자의 역할에 추가하여 수요자 중심의 학습도 이루어지는 것이 중요하다. 이에 이 논문에서는 일본이해 과목에서 현재의 일본의 모습을 살펴보고 학생들이 스스로 주도적으로 필요한 것을 학습해 나갈 수 있도록 하기 위하여 실천한 수업사례를 보고하고자 한다.

3. 연구 목적 및 방법

3.1. 연구 목적

이 논문은 크게 두 가지 연구 목적을 가지는 것으로 실천사례보고가 가지는 본연의 목적과 함께 학습자 중심 강의에서 간과되어 온 교수자의 부담을 경감시키는 방법을 찾아보고자 하는 것이 두 번째 목적이다. 먼저 학습자 중심의 강의를 진행한 실천사례 보고를 통하여 학습자 중심 강의 진행에서 필요한 점을 구체적으로 제시하여 다른 수업에서도 응용이 가능하도록 하는 것을 첫 번째 목적으로 한다. 또한 학습자 중심 강의에서는 기존의 지식과 경험의 전달자로서의 교수자의 역할에 추가하여 수요자 중심의 강의를 진행되어야 하는 바 교수자의 부담은 필연적으로 증가할 수밖에 없으며, 이는 기존 연구에서는 간과되어 왔던 부분이다. 이러한 교수자의 부담을 경감할 수 있는 방법은 없는지 모색하는 것을 목적으로 한다. 이는 앞으로 미래역량 함양을 위해서라도 학습자 중심 강의가 중요하게 여겨지는 시대의 흐름에서 반드시 해결해야 하는 문제라고 생각되기 때문이다.

3.2. 연구 방법

학습자 중심 강의를 어떻게 진행해야 하는지 선행연구를 통해 고찰한 것을 토대로 수업 실천한 사례를 보고하고 이러한 수업에 관하여 학생들은 어떻게 생각하는지 만족도 조사결과를 참고로 제시한다. 한편 선행연구에서는 찾아볼 수 없었던 교수자 부담을 경감시키는 방법을 마지막으로 제안하고자 한다.

4. 수업 실천 사례 보고

4.1. 수업의 개요

과목명 및 수업 목표, 개설학기 및 학생 수, 학점 및 시간은 다음 표1과 같다.

1)과목명: 인터넷으로 일본 트렌드 엿보기

2)수업목표:

- (1)일본의 현재 모습, 트렌드를 다양한 측면에서 살펴보고 일본에 대하여 폭넓게 알기
- (2)조별 구성원들과 협동할 수 있고, 이를 통하여 혼자보다 나은 결과물을 산출
- 3)개설학기 및 학생 수: 2014년 1학기부터 개설, 35명 이내
- 4)학점 및 시간 : 2학점(교양선택과목), 주 2시간

<표1>수업 개요

수업목표는 크게 두 가지로 하였으며, 일본의 현재 모습을 다양한 측면에서 살펴보는 것과 함께 협동하여 보다 나은 결과물을 산출하는 것이다. 이는 4차 산업혁명의 흐름에서 필요한 것은 단순 지식의 전수가 아니라는 점과 필요한 인재상의 하나인 협업할 수 있는 능력을 길러주기 위한 것이라는 점에 토대를 둔 것이다. 이를 위하여 구체적인 각 주별 진행은 다음과 같이 구성하였다.

- (1)1주: 강의 안내, 짧은 이야기 나누기 연습
- (2)2주~5주, 9주~12주: 일본 트렌드 강의 및 학생 조별 활동
- (3)6주~7주, 13~14주: 포스터발표 준비 및 실시
- (4)8주 및 15주: 중간 및 기말시험

이 중 2주부터 5주까지 및 9주부터 12주까지 총 8주간 진행된 ‘강의 및 조별 활동’에 관하여 다음 4.2절에서 보고하고, 6주와 7주 및 13주와 14주에 진행된 ‘포스터 발표’에 관하여 4.3절에서 보고하고자 한다.

4.2. 수업 진행1: 강의 및 조별 활동

수업은 다음과 같은 순서 및 시간 배분으로 진행되었다. 이 중 ②~④는 조별활동에 해당된다.

- ①강의(35분)→ ②이야기 나누기(10분)→ ③인터넷 검색 및 의견나누기(40분)
- ④게시판 업로드(10분) → ⑤전체 리뷰(5분)

각각에 대하여 목표 및 내용, 진행시 주의사항, 그리고 선행연구에서 살펴본 교수-학습 패러다임에서 제공되어야 하는 학습환경과 관련되는 점을 고찰해보면 다음과 같다.

(1) 강의

일본의 현재 모습에 관한 이해를 위하여 강의가 진행되었다. 매주 2-3개의 주제를 가지고 개념 정의 및 현황 등에 관한 강의로, 예를 들어 세계문화유산, 도쿄올림픽, 평균수명, 마이넘버제도, 금융사기, IPS세포, 독도문제, 한류 등 다양한 분야에 걸친 내용을 다룸으로써 학생들의 관광이나 애니메이션 등에 편중된 일본이해의 폭을 넓히고자 하였다. 다만 강의는 기초지식 정도의 내용으로 진행하였으며 이는 교수자의 지식전달이라는 전통적인 교수-학습 패러다임에서 벗어나지 않는 부분이다.

(2) 이야기 나누기

강의 내용과 관련하여 자유롭게 탐색할 수 있도록 ‘이야기 나누기’를 하였다. 이때 3명씩 한 개 조로 구성하여 조별활동에서 흔히 문제가 되는 프리라이더가 없도록 유념하였다. 이야기 나누기는 강의 내용과 관련된 자신 혹은 지인의 경험이나 뉴스 등에서 접한 이야기 등이 있다면 서로 공유하여 서로 관심 있는 분야를 탐색해 갈 수 있도록 한 것이다. ‘자기주도적인 학습환경’을 제공하는 첫 단계라고 할 수 있으며 각자의 경험 등에 기초함으로써 이야기나누기가 쉽게 시작되도록 하였다. 교수자는 이때 이야기 나누기가 잘 이루어지지 않는 조에는 개입하여 간단하게 질문하는 등 짧은 시간에 탐색이 이루어지도록 격려한다. 또한 이때 나눈 이야기 내용은 간단히 요약하여 대학 LMS에 게시하도록 하였다. 각 조에서 어떤 이야기 나누기가 이루어졌는지 교수자 뿐 아니라 학습자도 파악할 수도 있고, 또한 학습자들이 요약해서 올리기 위하여 좀 더 적극적으로 이야기나누기를 할 수 있도록 유도하고자 하는 목적도 있다.

(3) 인터넷 검색

학생들이 흥미를 가지고 수업에 적극적으로 참여할 수 있도록 하기 위하여 이야기 나누기 등을 통해서 관심이 생긴 주제를 스스로 선택하여 각자 핸드폰 검색을 통하여 관련 뉴스나 홈페이지 등을 살펴보도록 하였다. 각자 검색한 내용은 조원들 간에 공유하면서 의견을 나누도록 하였다. 마찬가지로 ‘자기주도적인 학습환경’을 보다 적극적으로 제공한 것이라고 할 수 있으며, 또한 열린 학습환경 및 협동적 학습환경도 제공되었다고 볼 수 있다.

또한 이렇게 검색한 내용은 요약하여 검색한 url 및 조원들의 의견과 함께 인터넷 상의 게시판에 업로드 하여 모든 학생들이 공유할 수 있도록 하였다. 이때 주의할 점은 블로그나 카페글은 개인의 의견이 개입될 수 있으므로 지양하도록 하였으며, 이는 업로드한 내용 중의 url을 통해 확인이 가능하다. 또한

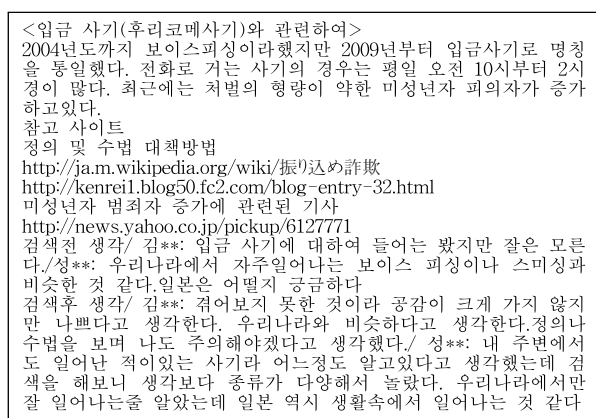
정보 검색에 그치지 않고 반드시 조원들 간에 의견 나누기를 하도록 하여 각자의 생각을 가질 수 있도록 유도하였다. ‘교수-학습과정의 다양화’는 전반적으로 이루어 지고 있다고 볼 수 있다.

(4)게시판 업로드

각 조에서 검색한 내용을 모든 학생이 공유할 수 있도록 인터넷 게시판에 업로드하도록 하였다. 이 수업에서 이용한 것은 linoit.com이라는 무료사이트로 다음 그림1과 같이 각 조의 내용을 메모지에 작성하여 온라인 상의 보드에 붙일 수 있도록 되어 있어, 모든 조의 내용을 한 화면에서 확인할 수 있다는 장점이 있다. 대부분의 대학에서 제공하는 LMS에서는 게시판 등의 기능에서 제목(또는 요약)을 한꺼번에 볼 수는 있지만, 이와 같이 한 화면에서 모든 내용을 확인하기는 쉽지 않다. 이와 같이 다른 조의 내용을 살펴보면서 자신의 조의 내용에 관하여 반성할 수 있는 계기도 마련하였다.



<그림1>lino 게시판 예시



<표2>lino 게시글 내용 예시

(5)전체 리뷰

학생들이 검색한 내용 중에 정보 오류 등이 없는지 확인하고 전체적으로 어떤 내용이 검색되었는지 개괄하기 위하여 간단하게 검색 내용을 소개한다. 모든 조의 내용을 간단하게라도 개괄하도록 주의해야 하며 비슷한 내용이라도 언급하도록 하였다. 이는 모든 조의 학생들에게 성취감을 주어 보다 적극적으로 참여할 수 있도록 유도하기 위함이다.

이와 같이 수업진행1에서는 학습자 중심 교육환경을 제공하고자 강의 및 조별활동을 구성하였다.

4.3. 수업 진행2: 포스터 발표

포스터 발표는 중간시험과 기말시험 직전에 각 1회씩 총 2회 진행되었으며, 6주와 13주에 포스터 준비, 7주와 14주에 포스터 발표가 진행되었다. 이에 대하여 목표 및 내용, 진행시 주의사항, 그리고 제공된 교육환경에 대해 고찰해보면 다음과 같다.

(1)포스터 준비: 6주 및 13주

포스터의 형식은 전지에 유성마커로 작성하도록 하였다(그림2 참조). 이는 수업 시간 이내에 전지를 작성하도록 하기 위한 것이고, 교양수업의 특성상 구성원이 수업 이외 시간에 모이는 부담감을 주지 않기 위함이다. 일본트렌드와 관련하여 관심 있는 주제를 선정하여 3명씩 자율적으로 조를 구성하여, 수업시간을 이용하여 내용을 검색, 정리하도록 하였다. 이 때 주제 선정과정에서 조별로 겹치지 않도록 교수자가 각 조의 내용을 확인하고 조정하였다. 학습자 중심 교육환경의 4가지 요소가 모두 반영된 것으로 볼 수 있다.



<그림2> 포스터발표 준비



<그림3>질의응답 시간

(2)포스터 발표: 7주 및 14주

학회의 포스터 발표와 마찬가지로 강의실의 벽면에 모든 포스터를 부착 후 조별로 3분 이내 발표하도록 하였다. 발표를 들으면서 다른 조의 학생들은 그림4와 같은 개인 평가서를 작성하도록 하였다.

개인 평가서는 각 조에 대하여 3가지 항목에 관하여 0점부터 3점까지 평가하도록 하였으며 평가 항목에 관해서는 발표가 시작되기 전에 설명하였다. 또한 평가의견은 ‘좋았던 점’을 중심으로 기술하도록 하였으며 이는 객관적인 점수로써 평가는 하지만, 긍정적인 관점에서 평가하는 자세도 기르도록 하기 위함이다. 또한 각자 1개 조에 관해서 질문을 기술하여, 이후 질의응답시간에 이중 2개를 선정하여 질문하도록 하였다. 4.4의 평가에서 상술하는 바와 같이 개인 평가서는 조별 점수부여 및 개인 점수 부여에 활용하였다.

조별 발표에 대한 개인 평가서

조 이름 _____

*각 조별 발표에 관하여 각자 평가해 보세요. 평가의견은 좋았던 점을 중심으로 쓰고, 질문도 써주세요.

항목별 평가	1번: 각 주제의 일본 트렌드에 관하여 유용한 정보가 많다.	3	2	1	0
내용	2번: 조원들의 의견이 충실하게 발표되었다.	아주 그렇다	그렇다	조금 부족하다	노력이 필요하다
	3번: 발표준비가 충실하고 내용전달이 잘 되도록 발표하였다.				

각 조별로 항목별 평가점수에 O 표시하고 총점을 쓰세요.

조	항목별 평가	평가 의견(좋았던 점)과 질문																				
1	<table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>1번</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>2번</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>3번</td><td>3</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>총점</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	1번	3	2	1	0	2번	3	2	1	0	3번	3	2	1	0	총점					의견: 질문:
1번	3	2	1	0																		
2번	3	2	1	0																		
3번	3	2	1	0																		
총점																						

<그림4> 개인평가서 앞면(상단 일부)

모든 발표 종료 후 그림3와 같이 질의응답 시간을 가졌으며 각자 관심 있는 2개 조에 찾아가서 질문하도록 하였다. 각 조에서는 1명씩 교대로 포스터 앞에서 대기하면서 질의에 응답하도록 하였다. 질의 응답한 내용은 그림5의 개인 평가서 뒷면에 기입하도록 하였다. 개인평가서 뒷면에는 또한 자신에 대해서도 평가해보도록 하였으며 이는 성적과 무관함을 명기하여 학생 스스로 성찰을 해볼 기회를 가지도록 하였다.

질문 중 2가지만 직접 물어보고, 답변을 적어보세요

조에 대한 질문: 답변:	조에 대한 질문: 답변:
------------------	------------------

자신에 대한 평가 (성적과는 전혀 관계없으므로 솔직하게 써주세요~~)

발표를 준비하는 과정에서의 본인에 관하여 스스로 평가해 보세요.(5단계 중에서 O 표시)

평가 내용	매우 그렇다	그렇다	조금 부족하다	노력이 필요하다
발표 준비하면서 자신의 의견을 잘 표현하였다.				
발표 준비하면서 다른 사람의 의견을 잘 들었다.				
자신의 의견과 다른 의견이 있었을 때 이해하려고 노력하였다.				
기타 잘 한 점:				
기타 아쉬운 점:				

<그림5> 개인평가서 뒷면

4.4. 평가에 관하여

학습자 중심의 수업에서 평가는 또 하나의 어려운 점으로 흔히 지적된다. 이 논문에서 보고한 수업실천에서는 포스터 발표의 조별 점수와 함께 개인별 점수를 주요 평가대상으로 하였다. 이는 교양교과목의 상대평가에 기준한 성적부여 방법의 한계를 고려한 것이다.

구체적으로 살펴보면, 수업진행1에서 이야기나누기 및 인터넷 검색, 게시판 업로드는 참여하였을 경우 토론 점수로서 부여하였다. 즉 출석한다면 이 점수는 모두 부여받는 것으로, 차별화되지 않는 기본 점수이다.

다만, 수업진행1 이후 개별 활동으로 ‘수업 후 과제’를 부여하여 과제제출 여부로 개인별 점수를 부여하였다. 과제는 lino 게시판에 업로드 된 다른 조의 내용을 살펴보고 이에 관해 좀 더 검색한 내용 및 url, 자신의 의견을 LMS의 게시판에 업로드하는 것이다.

수업진행2의 포스터 발표에 관해서는 개인평가서의 항목별점수를 합산하여 조별 순위를 확인, 조별로 5점~1점까지 부여하였다. 또한 개인 평가서의 조별 발표에 대한 의견 및 질문 등 기술내용의 충실도에 따라 5점~1점의 개인별 점수를 부여하였다.

한편 중간시험과 기말시험은 필기시험으로 실시되었으며 이는 수업진행1의 강의내용과 관련된 것이었고, 물론 개인별 점수에 해당된다.

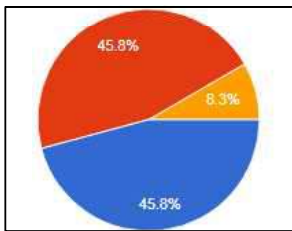
수업에서 조별활동을 하는 경우 학생들은 평가 점수에 민감한 경향이 있으므로 주의할 필요가 있다. 평가와 관련해서 학기 초에 상세한 설명이 반드시 필요하며, 또한 포스터발표 때 다시 한 번 확인할 필요가 있다. 이 수업실천에서는 수업진행1의 조별활동에 대해서는 점수의 차등을 두지 않았으며 이는 학생의 참여를 교수가 신뢰한다는 것도 보여줄 필요가 있다고 생각하기 때문이다. 다만 조원을 3명으로 구성하고 교수자는 모든 조별 구성원의 참여 상황을 시야에 놓고 수시로 지원해주어야 한다. 이는 6장에서 언급할 교수자의 부담과는 관련 있는 것이다.

5. 수업 만족도 조사 결과

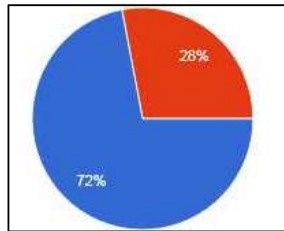
4장에서 보고한 수업실천에 관하여 학생들은 과연 어떻게 생각하였는지 만족도 조사한 결과를 보고한다. 이 만족도조사는 2014년도 1학기(24명 응답)와

2학기(25명 응답)에 실시한 것으로 2개 학기 결과를 함께 참고로 제시한다. 참고로 2014년도 1학기는 본 수업을 처음으로 실천한 학기이다.

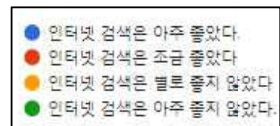
첫 번째로 수업시간에 인터넷 검색을 한 것에 대해 어떻게 생각하는지 설문한 결과는 다음 그림6, 7과 같다. 그림6의 1학기에는 ‘아주 좋았다’가 45.8%, ‘조금 좋았다’가 45.8%였고, ‘별로 좋지 않았다’가 8.3%였다. 그림7의 2학기에는 ‘아주 좋았다’가 72%, ‘조금 좋았다’가 28%였다. 처음으로 실천한 학기에 비해 두 번째 학기에 만족도가 높아진 이유 중의 하나로 교수자의 수업에 대한 부담 경감으로 수업 진행이 원만했기 때문인 것을 들 수 있다.



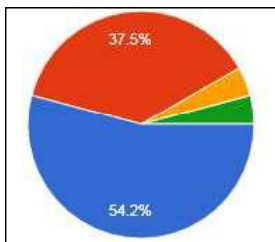
<그림6> 2014-1 설문1



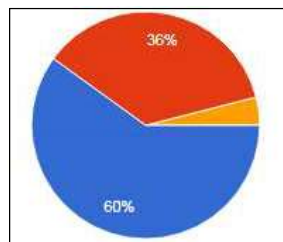
<그림7> 2014-2 설문1



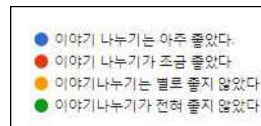
다음으로 검색내용을 토대로 조별로 이야기 나누기 한 것에 관하여 설문한 결과는 다음 그림8, 9와 같다. 그림8의 1학기에는 ‘아주 좋았다’가 54.2%, ‘조금 좋았다’가 37.5%였다. 그림9의 2학기에는 ‘아주 좋았다’가 60%, ‘조금 좋았다’가 36%였다. 1학기과 2학기에 ‘별로 좋지 않았다’가 각각 4.2%, 4% 있었다.



<그림8>2014-1 설문2

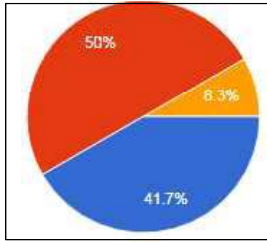


<그림9>2014-2 설문2

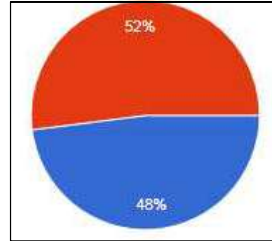


한편 이야기 나누기가 이 수업의 목표 중 하나인 일본 트렌드를 살펴보는 데 도움이 되었는지 설문한 결과는 그림10, 11과 같다. 1학기에는 ‘많은 도움이 되

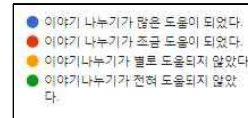
었다'가 41.7%, '조금 도움이 되었다'가 50%였고, '별로 도움이 되지 않았다'가 8.3%였다. 2학기에는 '많은 도움이 되었다' 48%, '조금 도움이 되었다'가 52%로, 부정적인 평가는 없었다.



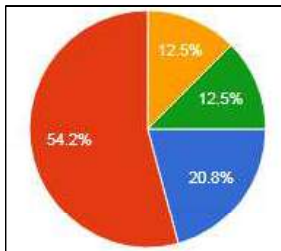
<그림10>2014-1설문3



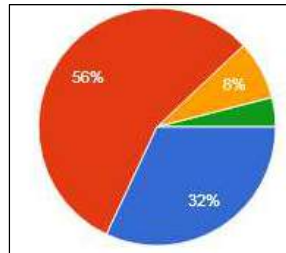
<그림11>2014-2설문3



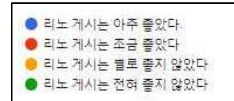
인터넷상의 게시판인 lino에 게시한 것과 관련한 만족도 조사결과는 그림12, 13에서 볼 수 있다. 1학기에는 '아주 좋았다'가 20.8%, '조금 좋았다'가 54.2%였고, '별로 좋지 않았다'가 12.5%, '전혀 좋지 않았다'가 12.5% 있었다. 2학기에는 '아주 좋았다'가 32%, '조금 좋았다'가 56%였고, '별로 좋지 않았다'가 8%, '전혀 좋지 않았다'가 4%였다. 1학기에 비해서 '아주 좋았다'가 10%이상 향상되었고, '좋지 않았다'는 의견은 10%이상 감소 되었다. 리노게시판의 운영에 대한 교수자의 숙달도가 향상된 만큼 만족도도 높아진 것이 아닐까 생각된다.



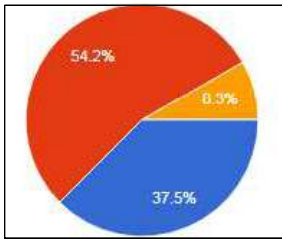
<그림12>2014-1 설문4



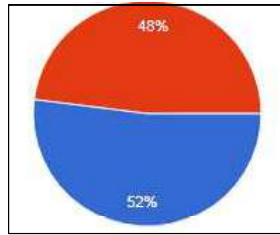
<그림13>2014-2 설문4



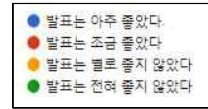
조별 포스터발표와 관련한 만족도는 그림 14, 15에서 살펴볼 수 있다. 1학기에는 '아주 좋았다'가 37.5%, '조금 좋았다'가 54.2%였고, '별로 좋지 않았다'가 8.3%있었으나, 2학기에는 좋지 않았다는 평가는 없었다. 2학기에는 '아주 좋았다'가 52%, '조금 좋았다'가 48%였다.



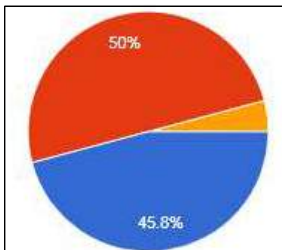
<그림14>2014-1 설문5



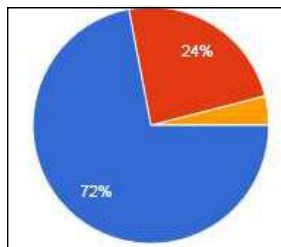
<그림15>2014-2 설문5



마지막으로 전체적으로 이 강좌에 대한 만족도를 살펴본 결과 다음 그림16 및 그림17과 같았다. 1학기에는 ‘아주 좋았다’가 45.8%, ‘조금 좋았다’가 50%였고, ‘별로 좋지 않았다’가 4.2%였다. 2학기에는 ‘아주 좋았다’가 72%, ‘조금 좋았다’가 24%였고 ‘별로 좋지 않았다’가 4%였다. 전체적으로 보았을 때 1학기에 비해 2학기에는 ‘아주 좋았다’는 의견이 26.2% 향상되었음을 알 수 있다.



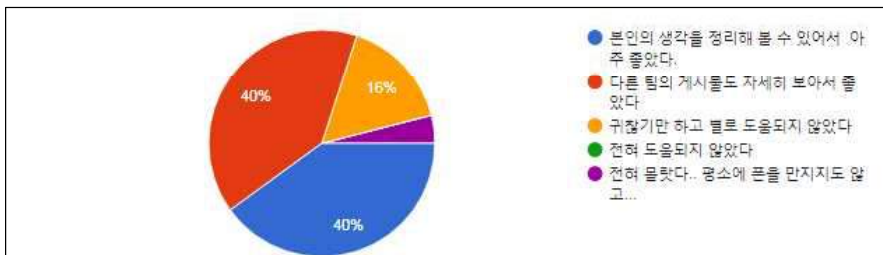
<그림16>2014-1 설문6



<그림17>2014-2 설문6



한편 4.4에서 언급한 수업후 과제는 2014년도 2학기에만 실시하였으며 이에 관한 만족도조사 결과는 다음 그림18과 같다.



<그림18>2014년도 2학기 설문6

본인의 생각을 정리해 볼 수 있어서 좋았다는 응답이 40%, 다른 조의 게시물을 볼 수 있어서 좋았다가 40%로 긍정적인 평가가 80%였다. 하지만 귀찮기만 했다는 응답이 16%, 과제에 대해서 몰랐다는 응답이 4%였다.

6. 교수자의 부담에 관하여

서론에서 언급한 바와 같이 학습자 중심 수업의 중요성과 방법 등에 관해서는 많은 연구가 이루어지고 있지만, 이에 따른 교수자의 부담의 증가에 대해서는 문제점으로 지적되는 경우는 있지만 이에 대한 논의는 찾아볼 수 없었다. 이 논문에서도 학습자 중심 수업을 진행하기 위하여 어떤 실천을 하였는지 4장에서 보고 하였으며 이에 대해서 학습자의 만족도도 높은 편이라는 것을 5장에서 확인할 수 있었다. 그렇다면 교수자의 부담을 경감하기 위해서는 어떤 실천을 했는지 또한 좀 더 필요한 것은 무엇인지 제안해 보고자 한다. 교수자가 주도하게 되는 강의 관련과 평가, 학습자가 보다 중심이 되는 조별활동과 포스터발표로 구분하여 논의한다.

1) 강의 관련

먼저 강의 준비는 35분 분량이 되며, 기존 100분 강의에 비하면 교수자의 지식 전달을 위한 강의 준비에 대한 부담은 줄어든다. 다만 이 수업은 ‘트렌드’에 관한 것이므로 매학기 내용을 최신의 것으로 업데이트할 필요는 있다. 또한 강의진행과 관련하여 대학의 LMS를 세팅하거나 인터넷 게시판인 lino에서 그룹을 개설하는 것은 학기 시작 직전에 완료하고, lino의 그룹에 학생들을 초대하는 것은 수강변경신청 완료 후인 제2주차 수업 내에 완료하게 된다.

2) 평가 관련

중간시험과 기말시험은 기존 강의와 마찬가지로 실시하게 되며 강의 분량이 많지 않으므로 시험 출제에 대한 부담도 약간 줄어든다고 볼 수 있다. 또한 학습자 중심으로 이야기나누기 등의 조별활동으로 수업이 진행되지만 수업 시간 중의 조별 이야기 나누기에 관해서는 성적평가를 하지 않으므로 수업 중에는

보다 학생들을 지원하는 ‘촉진자’ 역할에 충실할 수 있다. 하지만 교양수업의 한계인 상대평가를 실시하기 때문에 점수의 변별화는 필요하며 이를 위해 개인별로 수업후 과제를 부여하여 과제 제출 여부로 점수를 부여한다. 수업 중 검색 및 이야기나누기에 적극적으로 참여한 학생일수록 수업 후 과제에 적극적인 경향이 있었으므로 이 과제여부로 점수를 부여하는 것은 수업 중의 참여도도 어느 정도 확인할 수 있다고 볼 수 있다. 물론 이와 관련해서는 좀더 면밀한 검토가 필요하며 앞으로의 과제로 삼고자 한다.

또한 포스터발표에서는 학생 전원이 부여한 점수를 토대로 하여 조별 점수를 부여하므로 공정성과 객관성의 측면에서도 교수자의 부담이 크지 않다. 한편 개인별 평가서에 관해서는 1점~5점의 점수를 부여하지만 모든 조에 관하여 평가와 질문을 1줄씩 모두 작성한 경우 5점, 2/3이상 작성한 경우 4점, 1/2이상 작성한 경우 3점, 1/2이하로 작성한 경우 2점, 3개조 이하에 관해서 작성한 경우는 1점으로 하는 등, 정확하고 일목요연한 기준을 근거로 하였으므로 개인별 평가서에 대한 교수자의 평가는 일반적인 과제 등에 비해 많은 시간을 요하지 않는다.

다양한 평가항목을 설정하는 것은 기존에는 교수자의 추가부담으로 인식되어 왔으나, 위에서 제시한 바와 같이 사전에 명확한 기준을 가진다면 개인별 평가에도 교수자의 시간과 노력이 종래에 비해 크게 가중되지 않으며 오히려 객관적이고 공정한 평가를 할 수 있다고 생각된다.

3)조별활동 관련

조별활동은 학습자 중심의 활동이지만, 교수자가 ‘촉진자’로서 효과적으로 작용하는 것이 중요하며 무엇보다도 활동누락자가 없도록 하는 것이 중요하다는 것은 주지하는 바이다. 이 수업에서는 3명을 조원으로 구성하여 활동누락자가 없도록 의도하였으며 또한 이야기 나누기 및 인터넷 검색 후 의견 올리기 활동 등에 대하여 모두 기록하도록 하였다. 다만 이를 종이에 기록하도록 하면 수거 및 검토 등에 교수자의 부담이 가중되나, 모든 기록은 인터넷 상에서 이루어지도록 하여 교수자는 실시간으로 수업 중에 점검하여 바로 촉진자로서 개입할 수도 있다. 한편 이러한 인터넷 업로드는 학생들도 모두 공유할 수 있다는 부가적인 장점도 있다.

앞에서도 언급한 바와 같이 학생들의 수업시간 중의 이야기 나누기 및 검색,

의견나누기 등에 관해서는 점수화하지 않으므로 교수자는 평가에 대한 부담 없이 강의실 내를 순회하며 실시간으로 이야기 내용을 확인하고 질문에 대해 응답하고, 또한 내용을 좀 더 확장하는데 도움을 주는 등 확실한 ‘촉진자’로서의 역할에 집중할 수 있다.

4) 포스터 발표 관련

포스터 발표 준비 중에는 조별 내용이 겹치지 않도록 조정하고, 내용의 방향 등에 필요한 경우 도움을 주는 등의 교수자 활동이 필요하나 이는 모두 수업 시간 중에 진행되는 것이다. 또한 포스터 발표 중에는 시간을 측정하는 역할로서 발표 3분과 개인 평가서 작성 1분에 대하여 공지한다. 포스터 발표 결과에 대한 평가와 관련해서는 앞 절에서 살펴본 바와 같이 학생들의 점수를 합산하고, 개인 평가서를 간단하게 평가하면 된다.

7. 나가기

이 논문에서는 일본 이해 수업에서의 학습자 중심 수업실천사례를 보고하였으며 이때 다른 과목에서도 활용해 볼 수 있도록 구체적인 수업실천 방법을 제시하였으며 이는 학습자 중심 교육환경을 제공하기 위해 고안한 것임을 분석하였다. 또한 학습자 중심으로 수업을 진행하는 경우 수업 준비 및 진행에서 교수자의 부담이 클 것이라고 예상되는 경우가 많지만, 전통적인 교수-학습 패러다임에서의 지식전달을 위한 강의 부담을 최소한으로 설정하고 학생들이 익숙한 모바일을 활용하여 조별 활동이 원활하게 이루어지도록 고안한다면 학습자의 만족도도 높은 수업진행이 가능하다는 점을 보고하였다. 한편 성적평가에 있어서도 구체적인 기준이 설정된다면 조별활동의 평가에 대한 부담도 경감될 것으로 기대된다.

이 수업에서는 수업 시간 중에 모바일을 활용하여 학생들의 흥미 또한 함께 자극할 수 있도록 하였으나, 정보의 홍수에 빠지지 않도록 수업시간 이내의 일정 시간 중의 검색에 제한하였다. 포스터발표 준비 또한 수업 시간 중의 검색에 집중하도록 하였다.

마지막으로 서론에서 언급한 미래역량과 관련하여 이 수업에 관해 전망해 보고자 한다. 이 수업에서는 <문제 인식 역량>과 <대안 도출 역량>을 향상시키는데 기여할 수 있을 것이다. 먼저 일본 트렌드에 관한 내용에 관해 강의를 듣고 모바일을 통해 검색하는 것을 통해 <문제 인식 역량>의 하위 역량인 ‘유연하고 감성적인 인지력’ 및 ‘능동적 자료탐색 및 학습 능력’을 기를 수 있을 것이다. 또한 검색 내용에 관한 조별 이야기나누기 및 다른 조의 검색 내용에 대한 검토, 포스터 발표를 통해 ‘비판적 상황 해석력’을 기를 수 있을 것이다. 한편 <대안 도출 역량>의 하위역량으로서는 “구조화/설계된 휴먼 모니터링 능력, 유인형 협력 능력, 협력적 의사 결정력, 휴먼 클라우드 활용 능력, 시스템적 사고”가 제안되고 있는데, 8주에 걸친 조별활동 및 4주에 걸친 포스터 발표는 이러한 역량 향상의 기본 단계라고 볼 수 있다. 이를 위해 교수자는 ‘촉진자’로서의 역할에 중점을 두어야 할 것이며 이와 관련된 면밀한 검토는 앞으로의 과제로 삼고자 한다.

교양교과 수업은 다양한 학년과 전공을 가진 학생들로 구성되어 있음을 최대한의 장점으로 살리기 위해 학습자 중심의 조별활동이 필수적이라고 생각되며 다만 수업 시간 이내를 최대한 활용하는 것 또한 필요하다는 점도 명기하는 바이다. 이때 교수자의 부담을 경감하기 위한 노력도 반드시 고려되어야 한다는 점을 다시 한번 강조한다.

【참고문헌】

- 니콜라스 카(2010) 『생각하지 않는 사람들-인터넷이 우리의 뇌구조를 바꾸고 있다(The Shallows)』 최지향 역, 청림출판, pp.37-63.
- 미래창조과학부 미래준비위원회, KISTEP, KAIST(2017) 『미래전략 보고서:10년 후 대한민국 미래 일자리의 길을 찾다』 도서출판 지식공감, pp.115-156.
- 백영균 · 한승록 · 박주성 · 김정겸 · 최명숙 · 변호승 · 박정환 · 강신천 · 윤성철(2015) 「제2차 교수-학습과정의 이해」 『스마트 시대의 교육방법 및 교육공학(4판)』 학지사, pp.49-95.
- 제임스 J. 두테스텟(2000) 『대학혁명-미국 대학 총장의 고뇌-(A University For the 21st Century)』 이철우 · 이규태 · 양인 역(2004), 성균관대학교 출판부, pp.130-152.
- 조선영(2016) 「교양일본어 강좌의 현황에 관한 일고찰-개설영역 및 과목명을 중심으로」 『대학교양교육연구』 1(1), 배재대학교 주시경교양교육연구소, pp.79-92.
- 李南淑(2016) 「大学の教養科目における日本文化関連授業の教材分析」 『比較日本学』 36, 漢陽大学校日本学国際比較研究所, pp.319-334.

- 田中洋子・柳春善(2011)「動機づけの経時的変化に関する研究-教養課程で学ぶ韓国人大学生を対象に」『日本文化研究』38, 동아시아일본학회, pp.179-198.
- Garold Murray, Xuesong(Andy) Gao and Terry Lamb (2011) “Identity, motivation and autonomy in language learning”, Bristol : Multilingual Matters, pp.57-74.
- Jack C. Richards & Theodore S. Rodgers(2014)“언어 교육의 접근방법과 교수법 3판 (Approaches & Methods in Language Teaching)” 전병만, 오준일, 김영태, 안병규, 오윤자 역(2017), 도서출판 케임브리지, p382.

*논문 투고 일자 : 2018. 09. 30. 논문 심사 일자 : 2018. 11. 07. 게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

<要旨>

日本理解科目における学習者中心授業実践事例報告
—教師の負担軽減を考える—

趙宣映

本稿では学習者中心の授業を実践した事例を報告し、また、教師の負担を軽減するために必要なことについて考察した。まず学習者中心の授業の進行の際に必要な教育環境の提供を心掛け、学習者が積極的に授業に参加するよう促すための工夫を随時いれた。例えば、講義内容についてすぐ意見交換させるのではなく、3人のグループ内で5分ぐらいの話し合いの時間をもうけ、全員がインターネット検索や意見交換に積極的に参加できるよう導いた。さらに、学習者に選択できるようにするためまず資料を提供し、自分で選んでコミュニケーションできる機会を与えた。コミュニケーションの活動中の教師は学習者を支援し、学生のふりかえを促すために自分の活動について評価させた。このような学習者中心の授業に関して学生を対象に満足度調査を実施した結果、肯定的な評価が多かった。

このような学習者中心の授業を進行する際の教師側の負担に関しては、問題点として指摘されながらも、解決策に関しては議論されることがなく、本稿ではこの点に焦点を当てて、講義や評価、グループ活動、ポスター発表に関して実践した内容を中心に提案した。学習者中心の授業を考案する際、教師の負担を軽減する工夫を同時に考えることは、授業を続けるための最優先条件であることを忘れてはいけないと提案する。

Learner-centric classes: A practical case report on Understanding Japanese subjects
—Think about alleviating the burden on the teacher—

Joe, Sun-Young

In this paper, I report examples of practicing a learner-centric approach in classes, and in doing so, I discuss necessary measures to reduce the burden on teachers. First, I devised measures that would encourage learners to actively participate in classes while trying to provide the necessary educational environment during the progress of the learning-centric classes. For example, instead of promptly exchanging opinions on lecture content, after spending about five minutes in discussion within groups of three, I guided everyone to actively participate in subsequent internet search and opinion exchange. Furthermore, in order to make it possible for the learner to choose the topic for discussion, the teacher first provided the material, enabling an opportunity for the students to choose and communicate on their own. During communication activities, the teacher assisted the learners and allowed them to evaluate their activities, thus encouraging reflection from the students. Upon conducting a satisfaction survey for students regarding such learner-centric classes, positive evaluations were obtained as results.

While the burden on the teacher in enabling such a learner-centric class has been indicated, the solution has not been discussed and this article focuses on this point. I showed how I managed lectures, group activities, poster presentation and evaluation. When devising learner-centric classes, it is suggested that thinking measures to reduce the burden on teachers is a condition of the highest priority for continuing classes.

韓国人日本語学習者における日本語のザ行音とジャ行音の習得について

—聞き取り調査を通して—

藤田蘭子*

(e-mail:rankofujital@gmail.com)

<目次>

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. はじめに | |
| 1.1 本研究の背景と問題の所在 | 3.3 分析方法 |
| 1.2 本研究の動機と目的 | 4. 結果と考察 |
| 2. 先行研究 | 4.1 学習者の日本語レベルによる聞き取り能力の差 |
| 2.1 聞き取りによる調査 | 4.2 ザ行音(ザ、ズ、ゾ)間の差 |
| 2.2 聴覚音声学の観点 | 4.3 ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)間の差 |
| 2.3 先行研究の欠点 | 4.4 ザ行音とジャ行音の間の聞き取りの差 |
| 2.4 本研究の課題 | 5. 結論 |
| 3. 調査の方法と分析 | 5.1 まとめ |
| 3.1 調査 | 5.2 今後の課題 |
| 3.2 調査協力者 | |

キーワード：韓国人学習者(Korean learners)、言語習得(Language acquisition)、聞き取り(Listening)、ザ行音(Za-gyō-sounds)、ジャ行音(Ja-gyō-sounds)、対照研究(Contrastive study)

第1章 はじめに

第1章では、本研究の背景と問題の所在、本研究の動機と目的を述べる。

* 名古屋外国語大学、大学院生、日本語教育

1.1 本研究の背景と問題の所在

現在、世界では英語や中国語等の様々な言語教育が行われている。日本語教育は130の国と7の地域で実施されており、日本語教育機関数は約16,200機関にも及んでいる¹⁾。また、1979年から2015年までの36年間で、日本語教育機関は14.1倍、日本語教師数は15.6倍、そして学習者数は28.7倍と大幅に増加している(国際交流基金 2015)。日本語教育が盛んに実施されている国としては、主に韓国や中国などの東アジアが挙げられる。

韓国での日本語教育は、学習者人口の約8割が中学生・高校生で進学のための日本語学習が主な目的である。一方で、高等教育や一般成人教育では、就職や昇進が目的の社会的・経済的な要因が主である。その他にも、韓国では民間の教育機関や学院等での日本語教育も盛んに行われている。しかし、多くの学習要因が自己の進路や将来のためである場合が多く、日本社会や文化による要因は未だに少数である(国際交流基金 2015)。

1.2 本研究の動機と目的

筆者は以前、アジア圏で実施されている日本語教育を自分の目で観察し体験するため、韓国の釜山にある大学に約10か月間留学した。留学中に韓国人日本語学習者と日本語で会話する機会が多々あり、時々であるもののザ行音がジャ行音に聞こえることに気が付いた。その際に、「韓国人日本語学習者はザ行音とジャ行音を発音する場合、それぞれの違いを意識して発音しているのか」また「日本語母語話者が発音したザ行音とジャ行音の聞き分けは出来ているのか」について関心を持った。

1) 国際交流基金では、日本語教育の現状を把握し日本語教育に貢献するため、1974年から「海外日本語教育機関調査」を実施している。また、この調査での対象は「語学教育として日本語を教えている学校やその他の機関」である。そのため、異文化交流活動等が主目的で語学教育を実施していない機関やテレビ・ラジオ・書籍・雑誌・インターネットなどを使用し、日本語を独習している学習者は総数には含まない。

本研究では、韓国人日本語学習者が聞き取りにおいて、語頭に現れるザ行音とジャ行音の区別ができているのかを明らかにすることを目的とする。

第2章 先行研究

本章においてはまず、韓国人日本語学習者の聞き取りにおけるザ行音とジャ行音の識別についての先行研究を読み、どのような結果が出ているかを見ていきたい。そして、それらの研究の結果と残された課題を踏まえ、本研究の研究課題を設定する。

2.1 聞き取りによる調査

中東(1998)は、語頭における有声音と無声音の聞き分けは困難であるが、語中の場合は困難でないと述べている。また、韓国語の破擦音「ス」/j/は語の位置によって発音が変化する。例えば、語頭においては[tc]であるが、語中では[dz]となる傾向が強くみられる。しかし、韓国語には日本語の[dz] [z] が存在しないため、日本語のザ行音とジャ行音の区別が難しいと指摘されている。

さらに、韓国人の大学生を対象に聞き取り調査を行った結果、ジを除いたザ行音の平均正答率は51.2%であるのに対して、ジを含む語の正答率は67.2%であることが明らかになった。この結果から、韓国人日本語学習者にとって、ジ以外のザ行音の識別が困難であることがわかる。

しかし、中東の研究においては、/z(j)V/、/zi/、/ci/、/si/の調査語の比較が同じ語数で行われていない等の調査方法上の問題点も見られる。

次に、二ノ宮他(2010)では、日本語能力試験のN1を取得した韓国人日本語学習者20人を対象に、ザ行音とジャ行音の聴取能力と発話能力の関連性を調査した。聴取テストでは、調査協力者に20回「ザ」と「ジャ」をランダムに並べたものを聞いてもらい、聞こえた方に○をつけてもらう方法で行った。聴取テストの結果、

20 点満点中平均点は 16.8 点で、20 人中 18 人が 15 点以上の高得点群に属していた。このことから、ザとジャを聞き分けていることがわかった。

許(2003)は、ザ行音とジャ行音の発話能力で分けた上級の韓国人日本語学習者を、さらに上位群と下位群 12 名ずつに分け、無意味語を使用した日本語のザ行音とジャ行音の聞き分けテストを実施している。その結果、刺激音全体の聴取正確度は上位群が 81%、下位群が 66%で有意差が見られた。また、ザ行音とジャ行音の聴取正確度においても、上位群が 84%(ザ行音)と 79%(ジャ行音)、下位群が 68%(ザ行音)と 64%(ジャ行音)で各群の間で有意差が見られた。この結果から、両群ともザ行音の聞き取り能力の方が高いとみなせる。論文では、散布図からジャ行音は下位群の方が上位群より高いと主観的に述べているものの、掲載された平均を見ると、ジャ行音に関しては上位群 79%、下位群 64%となり、上位群が高いことがわかる。

2.2 聴覚音声学の観点

丸島他(2011)は、MMN²⁾・N2 b³⁾・P 300⁴⁾の 3 種の ERP 成分を使用し、韓国人日本語学習者のザ行音とジャ行音の識別について脳波実験と聴取テストを行っている。その結果、韓国人日本語学習者は意識的にザとジャの音を識別できてはいないものの、無意識の中で音の物理的な差異を判別している可能性が見られた。また、聞き取りテストで満点を取った場合でも、ザとジャの識別の迷いを感じている可能性があることがわかった。

福盛(2004)は、P 300 を使用してザとジャの識別に関して、丸島他(2011)と同

2) MMN(Mismatch negativity:ミスマッチ陰性電位)とは、無視条件下(inattend condition)のオドボール課題で得られた低頻度刺激の波形から標準刺激の波形を引算した際に現れる ERP 成分のことであり、潜時 100~200ms に出現する陰性電位のことであり、ERP 成分とは、事象関連脳電位のことであり単語を弁別している時に観測される(丸島他 2011:16)。

3) N2b とは、注意条件下(attend condition)のオドボール課題で得られた低頻度刺激の波形から標準刺激の波形を引算した際に現れる ERP 成分のことであり、潜時 200~300ms に出現する陰性電位のことであり(丸島他 2011:16-17)。

4) P300 とは、低頻度刺激の波形から標準刺激の波形を引算した際に現れる正中部(特に頭頂部)優位の ERP 成分のことで、潜時 300~400ms に出現する陽性電位のことであり(丸島他 2011:17)。

様に脳波実験と聴取テストを実施している。この結果から、聴取テストで高得点を獲得した学生は日本人の識別能力と差がないことがわかった。また、聴取テストで満点でない場合も P 300 の出現によりザとジャの識別がほぼできるということが明らかになった。

2.3 先行研究の欠点

以上に述べた先行研究には、様々な欠点がある。まず、聞き取りによる調査の中東(1998)では、韓国語母語話者の英語音声と日本語音声の特徴について述べられているが、人数や学習歴等のインフォーマントの条件に偏りがあった。また、比較している語数に差があったため、語数は全て等しくする必要がある。統計的な検定が行われていない点に関しても、結果に説得力を持たせるために統計的な検定を行う必要がある。

最後に、丸島他(2011)では、研究結果の点数分類方法に不備がある。論文内での点数分類は「15点以下」「19～16点」「20点満点」の3種類に分類されていた。しかし、「19～16点」と「15点以下」の幅が狭いため、点数の分類方法を変える必要があると考えられる。加えて、統計的な検定の対応のない *t* 検定を行う必要もあった。

また、丸島他(2011)、福盛(2004)ともに、調査協力者に関する情報として、滞日情報や日本語のレベル表記に不備があった。

2.4 本研究の課題

本研究で取り組む課題は、以下の4点である。

1. ザ行音とジャ行音は韓国人日本語学習者の日本語レベルによって聞き取りに差があるのか。
2. ザ行音とジャ行音の間に聞き取りの差はあるのか。
3. ザ行音の間に聞き取りの差はあるのか。
4. ジャ行音の間に聞き取りの差はあるのか。

以下、一つひとつの課題に対して、調査結果を述べていく。

第3章 調査の方法と分析

本章では、データの収集の手続きと調査方法、調査協力者の情報と分析方法について述べる。

3.1 調査

本研究では、韓国人日本語学習者が日本語のザ行音とジャ行音の聞き分けが出来ているかを明らかにすることが目的であるため、あらかじめ録音した日本語の音声を対象資料として、韓国人日本語学習者に聞き分けてもらった。

詳細な手順は以下の通りである。

1) 調査方法

全180問、約10分間の聞き取り調査を実施した。筆者他2名が発音したザ行音を含む語、ジャ行音を含む語、ダミー音をランダムに流し、問題用紙にある2択の語のうち聞こえた方に○をつけてもらった。調査語として、以下の5種に該当する語（人工語も含む）を用いた。

1. 語頭のザ行音(ザ、ズ、ゾ)+母音(/a/, /i/, /u/, /e/, /o/)15音

(例) ざあく、ずい、ぞうだん

2. 語頭のジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)+母音(/a/, /i/, /u/, /e/, /o/)15音

(例) じゃあく、じゅい、じょうだん

3. 語頭のザ行音(ザ、ズ、ゾ)+9種の日本語子音(/k/, /g/, /s/, /z/, /n/, /h/, /b/, /m/, /r/)135音

(例) ざかるた、ずがく、ぞさ

4. 語頭のジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)+9種の日本語子音(/k/, /g/, /s/, /z/, /n/, /h/, /b/, /m/, /r/)135音

(例) じゃかるた、じゅがく、じよさ

5. ダミー音8音

(例) さとう、ちゆき

2) 音声資料録音者

日本語母語話者である男性1名、女性2名で録音した。問題ごとの聞き取りの差を小さくするため、1から180の数字を読む女性1名、ザ行音とジャ行音、ダミー音を読みあげる役割を男性1名女性1名の計3名で行った。問題内容は男性女性が交互に読み上げた。

3.2 調査協力者

調査項目180問を日本語母語話者13名に聞いてもらい、判定結果が一致することを調査前に確かめた。

本節では、調査協力者である韓国人日本語学習者43名(初級34名、中級9名)について述べる。学習者のレベル分けは、調査協力大学の日本語クラスの学年に基づいて行った。

<表1> 調査協力者

出身地域	出身地	人数
忠清道	大田	1
京畿道	ソウル/仁川/世宗	5
江原道	記入無し	2
慶尚道	浦項/釜山/蔚山/金海/梁山	32
全羅道	光州	1
記入無し	記入無し	1

表1は、本調査に協力してもらった韓国人日本語学習者34名の出身地を表している。韓国は大きく分けて(1)忠清道、(2)京畿道、(3)江原道、(4)慶尚道、(5)全羅道の5地域に分類できるが、今回の調査では慶尚道の出身者が一番多かった。

3.3 分析方法

本調査では、まずザ+子音、ズ+子音、ゾ+子音とジャ+子音、ジュ+子音、ジョ+子音に関して、得られたサンプルからそれぞれの母集団が正規分布をしているとみなせるかどうかを判断するために正規性の検定⁵⁾を行った。正規性の検定を行った結果、*p*値の値は以下の通りであった。

<表2> 正規性の検定の結果

	ザ+子音	ズ+子音	ゾ+子音	ジャ+子音	ジュ+子音	ジョ+子音
<i>p</i> 値	0.004	0.265	0.432	0.265	0.265	0.265
母集団が正規分布をしているか	×	○	○	○	○	○

表2から、「ザ+子音」以外が*p*値>0.05であり、母集団が正規分布をしているとみなすことができた。しかし、「ザ+子音」のみ*p*値=0.041(<0.05)であるため、正規分布をしていると判定できなかった。そのため、「ザ+子音」に関しては、パラメトリック検定ではなく、ノンパラメトリック検定を行った。

次に、調査対象の、対応するザ行音とジャ行音のそれぞれの母集団の分散が等しいとみなせるかどうかを見るために等分散性を見るバートレット検定⁶⁾を行った。

5) データの母集団が正規分布に従っているかどうかを調べるための検定のことである。

＜表3＞等分散性の検定の結果

	ザとジャ	ズとジュ	ゾとジョ
<i>p</i> 値	0.613	0.373	0.162
等分散性の有無	○	○	○

その結果、それぞれの *p* 値 > 0.05 であることから、対応するザ行音とジャ行音のそれぞれの母集団の分散が等しいとみなせることがわかった。

本論文での4点の課題に対する分析方法は以下の通りである。

- 1) 学習者の日本語レベルによる聞き取りの差
→ 対応のない *t* 検定⁷⁾を行った。
- 2) ザ行音(ザ、ズ、ゾ)間の聞き取りの差
→ 一要因参加者内分散分析⁸⁾を行い、有意であった場合、更に LSD・Bonferroni・Holm の3種の多重比較を行う。
- 3) ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)間の聞き取りの差
→ 一要因参加者内分散分析を行い、有意であった場合、更に LSD・Bonferroni・Holm の3種の多重比較を行う。
- 4) ザ行音とジャ行音間の聞き取りの差
→ 3)と同様に、一要因参加者内分散分析を行う。

第4章 結果と考察

本章では、前述の4点の研究課題に対しての分析結果と考察を述べる。

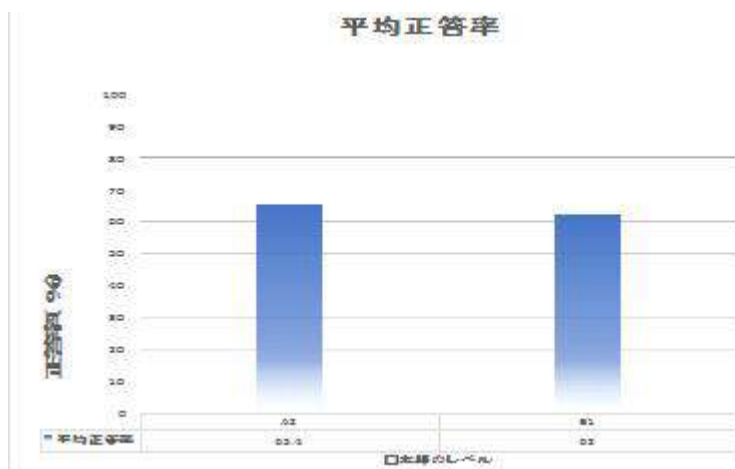
4.1 学習者の日本語レベルによる聞き取り能力の差

まず、初級クラスと中級クラスの平均を算出する。

6) 母集団間や因子水準間の分散の同等性を検定する方法である。

7) 母集団が正規分布に従うと仮定した上で行う。また、対応のない *t* 検定とは、2つの独立した母集団があり、それぞれの母集団から抽出した標本の平均に差があるかどうかを検定することである。

8) 分散分析とは、3群以上からなるデータの母平均の差を検定する検定方法である。



＜図 1＞初級と中級の平均(A2=初級、B1=中級)

図 1 より、初級のほうが中級より平均点が 3 点ほど高くなったが、これが統計的に有意な差なのかどうかを明らかにするために、対応のない t 検定を行った。

＜表 4＞対応のない t 検定(初級と中級の得点)

	初級	中級
平均	65.34705882	62.03333333
分散	57.77165775	232.7075
観測数	34	9
仮説平均との差	0	
自由度	9	
t	0.63126534	
$P(T \leq t)$ 片側	0.271782215	
t 境界線 片側	1.833112933	
$P(T \leq t)$ 両側	0.54356443	
t 境界線 両側	2.262157163	

両側検定の p 値 = 0.54356443 で 0.05 より大きいので、統計的に有意な差があるとはいえないことがわかった。効果量 (r) は 0.60 で効果量は大となった。よって、初級から中級の間では、聞き取り能力における差はないということがわかった。つまり、記述統計における平均値の差の約 3 点はたまたまそうなのであり、統計的には初級から中級にかけて日本語の授業のレベルによる違いはあるものの、聞き取り能力は伸びていないということを表している。よって、以下の分析では初級と中級の調査協力者を同一レベルの学習者とみなし、同じグループとみなして分析を進めることにする。

4.2 ザ行音(ザ、ズ、ゾ)間の差

まず、ザ+子音、ズ+子音、ゾ+子音それぞれの正答率をまとめ、平均正答率を出した。本研究では、アンケート作成に関してミスが見つかり、問題中の子音がいくつか見つかった。そのため、一要因参加者内分散分析を行う前に、正答率が2つ以上出ている子音(k、s、n、h、r)の5つのみを分析対象とし、分析を行った。

<表5> ザ行音(ザ、ズ、ゾ)間の平均正答率

	ザ+子音	ズ+子音	ゾ+子音	平均
k	0.473	0.698	0.62	0.597
s	0.5	0.814	0.605	0.639666667
n	0.372	0.893	0.644	0.636333333
h	0.496	0.872	0.674	0.680666667
r	0.636	0.8835	0.6745	0.731333333
平均	0.4954	0.8321	0.6435	0.657

表5からズ+子音の平均正答率が0.8321と最も高いが、統計的に差があるのかを見るために、一要因参加者内分散分析を行った。

<表6> 一要因参加者内分散分析(ザ行音間)

== Analysis of Variance

S.V	SS	df	MS	F
.....				
subj	0.0312	4	0.0078	
.....				
A	0.2848	2	0.1424	33.06**
sxA	0.0345	8	0.0043	
.....				
Total	0.3505	14		*p<.10**p<.05***p<.01

F値=33.06で*が2つ付いているため、1%水準で統計的に有意な差があることがわかった。効果量(η^2)は0.09で、効果量は中であつた。

さらに、有意差が出たことから多重比較を行った。

<表 7> ザ行音(ザ、ズ、ゾ)間の多重比較

```

===== Multiple Comparisons by LSD =====
(MSe=      0.0043, *p<.05)
(LSD=      0.0957)

.....

A1 <  A2  *
A1 <  A3  *
A2 >  A3  *

.....

===== Multiple Comparisons by Bonferroni =====
(MSe=      0.0043, *p<.05, alpha'=0.0167)
(BONF=     0.1252)

.....

A1 <  A2  *
A1 <  A3  *
A2 >  A3  *

.....

-- Multiple Comparisons by Holm --

(MSe=      0.0043, *p<.05)

-----

A1 <  A2  *   (alpha'- 0.0167)
A1 <  A3  *   (alpha'- 0.0500)
A2 >  A3  *   (alpha'- 0.0250)

-----
    
```

ザ行音は韓国語の音韻体系になく対照分析の予測では難しいということが予測される。しかし、実証的に調査、分析するとそれが支持されなかった。多重比較の結果から特にズは易しく、平均値から判断すると、ズ>ゾ>ザの順で聞き取りが易くなっていることが明らかになった。

4.3 ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)間の差

ザ+子音、ズ+子音、ゾ+子音それぞれの正答率をまとめ、平均正答率を出した。ジャ行音の問題中にも足りない子音がいくつか見つかったため、ザ行音の時と同様、一要因参加者内の分散分析を行う前に、正答率が2つ以上出ている子音(k, g, s, z, d, n, h, b)の8つで分析を行った。

＜表 8＞ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ間の平均正答率)

	ジャ+子音	ジュ+子音	ジョ+子音	平均
k	0.698	0.721	0.570	0.663
g	0.5	0.628	0.488	0.539
s	0.593	0.721	0.500	0.605
z	0.69	0.756	0.558	0.668
d	0.6823	0.640	0.593	0.638
n	0.7675	0.8216	0.663	0.751
h	0.6045	0.783	0.651	0.68
b	0.7053	0.682	0.527	0.638
平均	0.655	0.719	0.569	0.648

表 8 の結果から、ジュ+子音、ジャ+子音、ジョ+子音の順で平均正答率が高いことがわかった。次に、これ統計的に有意な差があるのかを明らかにするため、一要因参加者内分散分析を行った。

＜表 9＞一要因参加者内分散分析(ジャ行音間)

```

== Analysis of Variance ==

S.V      SS      df      MS      F
-----
subj      0.0786   7       0.0112
-----
A          0.0911   2       0.0455  19.85 **
sxA       0.0321  14       0.0023
-----
Total     0.2017  23      +p<.10 *p<.05 **p<.01

```

F 値=19.85 で*が 2 つ付いているため、1%水準で統計的に有意な差があることがわかった。効果量 (η^2) は 0.39 で、効果量は大であった。

次に多重比較を行った。


```

== Multiple Comparisons by Holm ==
(MSe=      0.0023, * p<.05)      167)
-----
A1 < A2 * (alpha'= 0.0500)
A1 > A3 * (alpha'= 0.0250)
A2 > A3 * (alpha'= 0.0167)
-----

```

<表 10> ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)間の多重比較

多重比較の結果、ジャとジュにおいて Bonferroni では ns (not significant) の判定であるため、統計的な有意差は出ていない。しかし、他の二つの多重比較の結果は有意な差が出ている。ジュ>ジャ>ジョの順で聞き取りが易しく、ジャとジュとジョの難易度には差があることが明らかになった。ジャ行音は、韓国語の音韻体系に存在する音にも関わらず、ジュ>ジャ>ジョの順で聞き取りが易しいことがわかった。

4.4 ザ行音とジャ行音の間の聞き取りの差

ザ行音とジャ行音で共通して問題内にあった4つの子音(k, s, n, h)で分析を行った。はじめにザ+子音とジャ+子音から分析する。

<表 11> 平均正答率(ザ、ジャ)

	ザ+子音	ジャ+子音
k	0.473	0.698
s	0.5	0.593
n	0.372	0.7675
h	0.496	0.6045

表 11 から、どの子音でも「ザ+子音」より「ジャ+子音」の方の平均正答率が高くなっていることが分かる。つまり、対照分析の予測通り母語にない子音「ザ+子音」の方が難しく、母語にある子音「ジャ+子音」の方が聞き取りは易しいということがいえよう。

しかし、「ザ+子音」と「ジャ+子音」の間に統計的に有意な差があるかどうかを見るために一要因参加者内分散分析にかけた。

<表 12>一要因参加者内分散分析(ザ、ジャ)

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
subj	0.0020	3	0.0007	
A	0.0845	1	0.0845	8.66 +
ssA	0.0293	3	0.0098	
Total	0.1157	7		+p<.10 *p<.05 **p<.01

F 値=8.66 で、判定に+マークが付いていることから、統計的に有意傾向($p<0.10$)があることが明らかになった。効果量 (η^2) は 0.02 で、効果量は小であった。つまり、統計的には有意な差があるとはいえないが、その傾向、母語にない子音「ザ+子音」よりも母語にある子音「ジャ+子音」の方が聞き取りは易しいという傾向があることがわかった。

次に「ズ+子音」と「ジュ+子音」を分析する。

<表 13>平均正答率(ズ、ジュ)

	ズ+子音	ジュ+子音
k	0.698	0.721
s	0.814	0.721
n	0.893	0.8216
h	0.872	0.783

表 13 から、「子音 k」の場合だけ、「ズ+子音」よりも「ジュ+子音」の方の平均正答率が高かった。逆に、「子音 s、n、h」の場合は、「ズ+子音」よりも「ジュ+子音」の方の平均正答率が高いことがわかった。

次に統計的に有意な差があるのかを見るため、一要因参加者内分散分析を行った。

<表 14>一要因参加者内分散分析(ズ、ジュ)

== Analysis of Variance ==

S.V	SS	df	MS	F
subj	0.0258	3	0.0086	
A	0.0066	1	0.0066	4.46 ns
sxA	0.0045	3	0.0015	
Total	0.0369	7		+p<.10 *p<.05 **p<.01

以上から、 F 値=4.46 で、判定が ns(not significant)であるため、統計的に有意な差があるとはいえないことが明らかになった。効果量 (η^2) は 0.70 で、効果量は大であった。つまり、「ズ+子音」と「ジュ+子音」の間には、表 13 の平均正答率では子音 k, s, n, h で少々差が出ているものの統計的には差があるとはいえず、「ズ+子音」と「ジュ+子音」に関しては同じ程度の聞き取り能力があるといえよう。対照分析の観点から述べると、韓国人日本語学習者の母語にある音「ジュ」でも、ない音「ズ」でも、聞き取りに関してはどちらも同じ程度にでき、差がないということになる。母語にある音は聞き取りが易しい、ない音は難しいという対照分析の予測は当たらないことが明らかになった。

最後にゾ+子音とジョ+子音の分析を行う。

<表 15>平均正答率(ゾ、ジョ)

	ゾ+子音	ジョ+子音
k	0.62	0.570
s	0.605	0.500
n	0.644	0.663
h	0.674	0.651

表 15 から、「子音 n」の場合だけ、「ゾ+子音」よりも「ジョ+子音」の方の平均正答率が高かった。一方で「子音 k, s, h」の場合は、「ジョ+子音」よりも「ゾ+

子音」の方の平均正答率が高いことがわかった。この結果は興味深く、韓国人学習者の母語にない音「ゾ+子音」の方が、母語にある音「ジョ+子音」よりも平均正答率が高いことが明らかになった。これも対照分析の予測と逆の結果になった。

次に、統計的に本当に有意な差があるのかどうかを見るため、一要因参加者内分散分析を行った。

<表 16> 一要因参加者内分散分析(ゾ、ジョ)

-- Analysis of Variance --

S.V	SS	df	MS	F
subj	0.0161	3	0.0054	
A	0.0032	1	0.0032	2.34 ns
ssA	0.0040	3	0.0013	
Total	0.0233	7		+p<.10 *p<.05 **p<.01

F 値=2.34 で、判定が ns(not significant) となっているので、統計的に有意な差があるとはいえないことが明らかになった。効果量 (η^2) は 0.69 で、効果量は大であった。つまり、記述統計上は差があるように見えるが、統計的な検定にかけると有意な差はなく、「ゾ+子音」と「ジョ+子音」は同じ程度の聞き取り能力があるといえよう。対照分析の観点から述べると、韓国人日本語学習者の母語にある音「ジョ」でも、ない音「ゾ」でも、聞き取りに関してはどちらも同じ程度にでき、差がないということになる。母語にある音は聞き取りが易しい、ない音は難しいという対照分析の予測は、「ジョ」と「ゾ」の間では当たらないことが明らかになった。

第5章 結論と今後の課題

第5章では、これまでの研究課題に対する結果をまとめ、今後の課題を述べることにする。

5.1 まとめ

韓国語日本語学習者における日本語のザ行音とジャ行音の調査から、以下のことが明らかになった。まず、本研究での課題4点を再度以下に記す。

<研究課題1> ザ行音(ザ、ズ、ゾ)とジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)は韓国語学習者の日本語レベルによって聞き取り力に差があるのか

まず、韓国語日本語学習者によるザ行音とジャ行音の聞き取り力には、対応のない *t* 検定を行なった結果、初級から中級の間で差はないことがわかった。つまり、初級から中級にかけての日本語の授業のレベルには差があるものの、初級から中級の間では聞き取り能力に差はなく、伸びていないことが明らかになった。

<研究課題2> ザ行音の間に聞き取りの差はあるのか

一要因参加者内分散分析にかけた結果、1%水準で統計的に有意な差があることがわかった。多重比較を行った結果、ザ行音(ザ、ズ、ゾ)の間に有意な差が見られ、ズ>ゾ>ザの順で聞き取りが易しく、聞き取りの難易度に差があることがわかった。対照分析の予測では、ザ行音は韓国語の音韻体系にないため難しいとされていたが、ザ行音(ザ、ズ、ゾ)の間での聞き取りの差に関してはズがゾより有意に易しく、ゾがザより有意に易しく、対照分析での予測と異なる結果が見られた。

<研究課題3> ジャ行音の間に聞き取りの差はあるのか

一要因参加者内の分散分析を行った結果、1%水準で統計的に有意な差があることがわかった。多重比較を行った結果、LSD と Holm の多重比較で有意な差が出ているため、ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)の間に有意な差が見られ、ジュ>ジャ>ジョの順で聞き取りが易くなっており、ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)の間には難易度階層があることが明らかになった。韓国語の音韻体系に存在する音の間にも、聞き取りの難易度に大きな差があった。

<研究課題4> ザ行音とジャ行音の間に聞き取りの差はあるのか

まず「ザとジャ」は統計的に有意傾向にあることがわかった。母語にある音(ジャ+子音)の方が母語にない音(ザ+子音)より易しい傾向があることが明らかになり、対照分析の予測がほぼ支持された。

次に「ズとジュ」に関しては、統計的な有意な差があるとはいえ、学習者は「ズ+子音」と「ジュ+子音」の2つに対して同じ程度の聞き取り能力を持っていることがわかった。つまり、母語にある音は聞き取りが易しい、ない音は難しいという対照分析の予測は当たらなかった。

最後に「ゾとジョ」に関しては、統計的に有意な差があるとはいえ、「ゾ+

子音」と「ジョ+子音」の2つに対しての聞き取り能力は差がないことが明らかになった。つまり、「ゾとジョ」の聞き取りに関しても、母語にある音は聞き取りが易しい、ない音は難しいという対照分析の予測は当たらない結果となった。

以上の結果から、韓国人は日本語の「ザとジャ」に関しては、区別が出来ることがわかった。しかし、「ズとジュ」「ゾとジョ」は、区別ができておらず対照分析の予測にも反していることが明らかになった。

5.2 今後の課題

今回は語頭におけるザ行音とジャ行音の聞き取り (comprehension) の研究を行った。今後は語中や語末における聞き取りや、ザ行音とジャ行音の産出 (production) に注目した研究も行っていきたい。また、韓国語の方言が日本語のザ行音とジャ行音の習得の際に、何らかの影響を持っているのかについても研究をしていきたい。なお、音声資料作成やアンケート作成の際に様々な不注意によるミスが散見されたため、アンケート作成にはより一層慎重に取り組む必要があることを深く認識させられた。

【参考文献】

- 李炯宰(1991)「韓国人の日本語学習者の音声教育に関する研究—発音および聞き取り上の問題を中心に—」『日本語と日本文学』12号、筑波大学、pp. 21-38.
- 稲葉継雄(1978)「韓国人の日本語学習における困難点—発音を中心として—」『外国人と日本語』4号、pp. 63-78.
- 井下田貴子・荒井隆行(2011)「韓国人日本語学習者の外来語発音における問題点と日本語母語話者の聴覚及び語彙認識に関する一考察」『日本文化研究』37号、東アジア日本学会.
- 加納尚之・川村尚生・井上倫夫・中島健二・介中敦子(1997)「事象関連脳電位 (ERP) を用いたコミュニケーションエイド」『電子情報通信学会技術研究報告、HCS、ヒューマンコミュニケーション基礎』97号、一般社団法人電子情報通信学会、pp. 57-64.
- 中東靖恵(1998)「韓国語母語話者の英語音声と日本語音声—聞き取り・発音調査の結果から—」『音声研究』第2巻第1号、日本音声学会、pp. 77-82.
- 二ノ宮崇司・丸島歩・桐越舞・渡辺和希・早川友里恵・福盛貴弘(2010)「韓国人日本語学習者による「ザ行音」「ジャ行音」の聴取・発話能力の関連性」『言語学論叢オンライン版』3、筑波大学応用言語学研究室、pp. 57-73.
- 福盛貴弘(2004)「朝鮮語母語話者における「ザ」と「ジャ」の識別に関する聴覚音声学的研究—P 300を援用した日本語学習者に音声面での評価について—」『茨城大学留学センター紀要』2号、茨城大学留学センター、pp. 61-72.
- 許舜貞(2003)「上級日本語学習者の「ザ行音」及び「ジャ行音」の習得—韓国語母語話者の場

- 合一」『第17回日本語音声学全国大会予稿集』、日本音声学、pp. 201-206.
- 松崎寛(1999)「韓国語話者の日本語音声—音声教育研究の観点から—」『音声研究』第3巻第3号、日本音声学、pp. 26-35.
- 丸島歩・桐越舞・二ノ宮崇司・渡辺和希・早川友里恵・福盛貴弘(2011)「韓国人日本語学習者における「ザ／ジャ」音の識別—MM N、N 2 b、P 300を指標として—」『実験音声学・言語学研究』3号、pp. 12-29.
- 国際交流基金「海外の日本語教育の現状 2015年度日本語教育機関調査より」：
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2015/text.pdf(検索日 2018. 09. 25.)
- 国際交流基金「日本語教育 国・地域別情報」『韓国(2016年度)』：
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2016/korea.html>(検索日 2018. 9. 25.)

。 논문 투고 일자 : 2018. 10. 14.
논문 심사 일자 : 2018. 11. 07.
게재 확정 일자 : 2018. 11. 09.

 <要旨>

 韓国人日本語学習者における日本語のザ行音とジャ行音の習得について
 —聞き取り調査を通して—

藤田蘭子

本論文では、韓国人日本語学習者の日本語のザ行音(ザ、ズ、ゾ)とジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)の習得を聞き取りの面から調査、分析した。大学生を対象に聞き取り調査を実施し、得られた結果を実証的に分析した。本論文の研究課題は、(1)ザ行音とジャ行音は韓国人日本語学習者の日本語レベルによって聞き取りに差があるのか(2)ザ行音(ザ、ズ、ゾ)の間に聞き取りに差はあるのか(3)ジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)の間に聞き取りに差はあるのか(4)ザ行音とジャ行音の間に聞き取りに差はあるのかの4点である。

分析の結果、以下のような結果が得られた。(1)初級から中級にかけては、聞き取り能力に差がなく伸びていない。(2)韓国語の音韻体系にないザ行音(ザ、ズ、ゾ)の間に有意な差があり、ズ>ゾ>ザの順で聞き取りが易しい。(3)韓国語の母語に存在するジャ行音(ジャ、ジュ、ジョ)の間に有意な差がみられ、ジュ>ジャ>ジョの順で聞き取りが易しい。(4)ザ行音とジャ行音の間では、ズとジュ、ゾとジョの間でのみ有意な差があった。ズ>ジュ、ゾ>ジョの順で平均点が高く、学習者の母語にないザ行音の方が母語にあるジャ行音より聞き取りができることが明らかになった。

以上の結果から、日本語のザ行音とジャ行音の聞き取りの習得に関して、韓国語と日本語の対照分析で予測される結果とは異なることが実証的に明らかになった。

An Empirical Study of the Acquisition of the
 Japanese “Za-gyō-sounds” (za, zu, and zo) and “Ja-gyō-sounds” (ja, ju, and jo) by Korean learners.

Fujita, Ranko

This paper empirically investigates and analyzes the acquisition of the Japanese “Za-gyō-sounds” (za, z u, and zo) and “Ja-gyō-sounds” (ja, ju, and jo) by Korean learners.

There are four research questions addressed here: (1) Do Za-gyō-sounds and Ja-gyō-sounds differ in how they are heard by Korean learners depending on their Japanese proficiency level?, (2) is there is a significant difference among the Za-gyō-sounds (za, zu, and zo) as heard by Korean speakers?, (3) is there is a significant difference among the Ja-gyō-sounds (ja, ju, and jo) as heard by Korean speakers?, and (4) is there is a difference between the Za-gyō-sounds and Ja-gyō-sounds as heard by Korean speakers?

The following results were obtained: (1) There was no difference in the hearing ability between Korean learners of Japanese at the beginner and intermediate levels, (2) there was a significant difference among the Za-gyō-sounds (za, zu, and zo), (3) there was also a significant difference among the Ja-gyō-sounds (ja, ju, and jo), and (4) there was no statistically significant difference between the Za-gyō-sounds and Ja-gyō-sounds but there were significant differences between zu and ju and between zo and jo.

From these results, I have empirically demonstrated that the acquisition of Japanese Za-gyō-sounds and Ja-gyō-sounds is different to those predicted in the contrastive linguistic analysis of Korean and Japanese.

合 評 會

- 일본문화Ⅱ -

편 용 우

한국일본문화학회 『日本文化学報』 第79輯의 일본문화 분과에는 총 11편의 논문이 투고 되어 심사위원들의 공정하고 엄격한 심사를 거쳐 정치, 경제, 사회분야에서 7편의 논문이 게재 평가를 받았다. 이번 호에 게재된 7편의 논문에 대하여 심사위원들의 심사평을 정리하면 다음과 같다.

1) 김남은 「미국의 대일압력과 요시다 노선의 대미협조외교에 대한 재고찰」

전후 일본의 대미 관계를 결정한 한 축이었던 요시다 시게루(吉田茂)의 외교 정책인 요시다 노선을 분석한 논문이다. 즉 한국전쟁 발발과 경제적 성장을 기반으로 미국으로부터의 ‘자주성’ 내지는 ‘평등한 협력자’가 되는 것을 외교의 기본목표로 삼고, 1960년 6월 22일 미일 양국이 동반자관계에 기초한 ‘케네디-이케다 공동성명’ 발표를 통해 일본의 지위를 격상시켜 미국과 대등한 동반자의 관계로 발전시켰으며, 전후 상실한 오키나와를 ‘한국·대만 조항’과 핵 반입 밀약, 섬유교섭 등을 통해 반환받는 일련의 미일 외교 사건들을 통해 대미‘협조’외교와 ‘자주’외교라고 하는 대립적인 아이덴티티 사이에서 균형을 맞추려고 했던 요시다 노선의 특징을 명확하게 밝힌 점이 심사위원의 호평을 받았다. 다만 새로운 분석 방법이나 시각이 조금 아쉬웠다는 조언도 있었다.

2) 김영순 「駅弁大会についての考察」

지역 특산물, 여정, 철도의 확장 등을 기반으로 발달한 에키벤(駅弁), 즉 역에서 철도여행자를 대상으로 파는 도시락이 해당 지역의 역을 벗어나 대도시의 유명 백화점과 전국 기차역 매점에서 판매되는 변화를 좇은 논문입니다. 그 중심에는 백화점의 에키벤 대회가 중요한 역할을 했다는 점은 일본문화를 이해하는 한 가지 힌트를 주고 있다. 단 이러한 에키벤의 판매형태 변화가 식문화로서의 에키벤의 위치에 어떠한 영향을 끼쳤는지에 대한 구체적인 언급에 대한 아쉬움이 남는다.

3) 董航 浅井了意における中国明末善書文化の受容—顔茂猷著『廻吉録』を中心に—

근세초기의 가나조시를 대표하는 작가 아사이 료이(浅井了意)의 교훈서 『堪忍記』와 편력소설인 『浮世物語』에 나타난 중국 명대 말기의 선서(善書) 『廻吉録』의 수용양상에 대해 고찰한 논문이다. 논자는 아사이 료이가 중국의 원화를 당시 일본 독자에게 맞추어 소재나 덕목, 평론 등을 바꾸었음을 논증하였다. 특히 양국의 텍스트를 꼼꼼히 분석해 전거의 변화양상을 명확히 했다는 점에서 심사위원의 높은 평가를 받았다. 더불어 지면 제약으로 인해 구체적인 예를 충분히 제시되지 못한 점과, 이에 대한 대안으로 영향관계가 표로 정리되었으면 하는 의견이 있었다.

4) 박동호 「今井正の映画『あれが港の灯だ』に再現された在日朝鮮人への眼差し」

이 논문은 '이승만라인'과 '귀국사업(북송사업)'이라는 역사의 굴곡을 겪은 재일조선인을 소재로 한 이마이 다다시(今井正)의 영화 <あれが港の灯だ>(1961)를 분석하였다. 특히 전전 시기에 국책영화를 제작했던 이마이 감독의 반성과 고민이 잘 드러나 있는 본 영화는 재일조선인들의 낙천적인 모습을 그리고 있는 다른 감독의 영화와 달리, 일본과 한국의 어느 사회에도 속하지 못하는 경계인으로서의 재일조선인을 사실적으로 그리고 있어 70년대 이후 재일조선인 스스로의 정체성 문제를 다룬 영화들의 선구적 작품이라는 점을 밝힌 점이 심사위원들의 평가를 받았다. 한편으로는 본 영화가 한국 영화사적 측면에서 갖는 의미를 밝혀줬으면 하는 아쉬움의 목소리도 있었다.

5) 이상진 「在朝鮮日本人浅川伯教・巧兄弟と柳宗悦の朝鮮伝統文化理解の特質」

조선 도자기 연구가인 아사카와 노리타카(浅川伯教)·다쿠미(巧) 형제와 야나기 무네요시(柳宗悦)의 조선 현지체험에 주목하여, 이들의 조선 전통문화의 이해와 그 특질에 대해 분석한 논문이다. 특히 이들이 남긴 방대한 양의 1차 자료를 면밀히 분석하였다는 점, 그 속에서 조선에서 삶을 영위하며 연구를 병행했던 두 형제의 생활자의 측면과 종교에 심취해 있었던 야나기 무네요시의 특징에 주목한 점이 심사위원의 높은 평가를 받았다. 단 기존의 연구와의 차별점에 대해 지면을 좀 더 할애했으면 하는 편집위원의 지적이 있었다.

6) 이운주 「영화를 통해 본 현대 일본 여성의 비혼화(非婚化) 현상

- 『결혼하지 않아도 괜찮을까』를 중심으로 -」

현대 일본사회의 주요 문제 중 하나인 '비혼'에 대해 영화를 매개체로 분석한 논문이다. 2장에서는 다양한 통계자료를 바탕으로 일본의 비혼 실태를 밝히고 그 원인을 사회 청년층의 고용불안과 전통적 가족 개념의 변화로 보고 있다. 3장에서

는 영화 <결혼하지 않아도 괜찮을까> 내용을 바탕으로, 비혼의 이유에 대해 고령화 사회에 따른 병간호와 청년층의 경제적 문제 등을 들고 있다. 이로 인해 기존의 일본사회를 지탱해 왔던 일본사회의 가치관이 현대일본사회의 새로운 현상들과 만나 생겨나는 문제점과 그 지향점을 지적한 부분이 심사위원들의 주목을 받았다고 할 수 있다. 다만 제목과는 달리 영화 분석이 일부분에 그치고 있다는 점이 보완해야 할 점이다.

7) 이진희 「소셜마케팅을 활용한 공익캠페인 효과

-일본과 국내외 기업문화 사례를 중심으로-

본 논문은 소셜마케팅(Social Marketing)의 개념적 이해와 공익연계마케팅(cause-related marketing)을 통한 사례를 소개하고 분석하고 있다. 논문에서는 기업과 소비자를 위한 기존의 마케팅과는 달리, 기업이 공익을 위해 펼치는 마케팅은 기업 이미지 제고 뿐 아니라 공익에 미치는 영향이 크다는 점에서 기업, 소비자, 사회가 모두 윈,윈,윈할 수 있는 획기적인 방법이라 평하고 있다. 사례 소개와 의미 부여는 본 학술 논문이 학계를 넘어 사회적 가치와 이익을 실현하는데 기여할 수 있다는 점에서 고무적이라고 할 수 있다. 단 논문에서는 사례를 국내와 일본, 해외로 분리를 하고 있는 점에 대해 해외인 일본을 굳이 분리한 이유가 불명확하다는 지적이 있었다.

본 79집은 일본의 외교, 일제강점기 문화는 물론 현대 일본문화의 문제점과 그 해결방안 제시까지, 연구대상이 갈수록 다양해지고 있는 연구 트렌드를 그대로 반영하고 있다. 하지만 빅데이터 시대라고 불리는 데이터 홍수 시대에, 데이터의 선별과 분석이 이루어지고 있는 한편, 이전과 비교해 선행연구의 분석이 미진한 점이 늘고 있다. 또한 데이터 역시 논문에 적합한 의미있는 데이터를 선별하는 작업 역시 분석 이전에 선행되어야 할 작업일 것이다. 새로운 트렌드 역시 보수적인 연구방법을 통해 치밀하게 연구되어야만 지속적인 연구 생명을 부여받을 수 있을 것이다. 그렇게 된다면 여타 학술지보다 사회와 지근거리에서 중요한 시사점을 제시하는 일본문화학보가 될 것이다.

韓國日本文化學會 任員名簿

구분	부서	성명	소속	이메일
총괄	회 장	김영순	건양대	rinkai2005@hanmail.net
	부회장	구건서	평택대	kskoo@ptu.ac.kr
		김용균	중앙대	kygyun@hanmail.net
		윤재석	한밭대	jsyun@hanbat.ac.kr
		이충호	부산외국어대	alphachino@hotmail.com
		이형재	목포대	hjlee@mokpo.ac.kr
		임성규	백석대	imsung@bu.ac.kr
	총 무	신민철	한남대	mcshin68@hanmail.net
		김경호	한남대	kkhbtfy@hanmail.net
	재 무	강연화	대전대	hwa1809@dju.kr
이유희		대전대	manyyh@gmail.com	
실무이사	섭외	형진의	한남대	hjini117@hanmail.net
		김선영	청주대	soyo@cju.ac.kr
	학술	도기홍	한남대	miyako@hanmail.net
		염미란	전주대	ymr5513@hotmail.com
	편집	윤혜영	충남대	yun1971@cnu.ac.kr
		김영아	원광대	larecancile@hanmail.net
		엄기권	한남대	appletree18@hotmail.com
	정보	권 성	한밭대	gabana83@hotmail.com
		조현구	경북대	jhy1000@knu.ac.kr
	평가	박유미	충남대	sabinaz@hanmail.net
박미전		九州大学	ilovemijeon@naver.com	

Journal of Japanese Culture

458

구분	전공	성명	소속	이메일
분과이사	일본문화 I (정치·경제)	강철구	배재대	kcheolgu@pcu.ac.kr
		박창건	국민대	cgpark77@kookmin.ac.kr
	일본문화 II (사회·역사)	김현욱	국민대	hwk33@hotmail.com
		편용우	전주대	pyunsama@gmail.com
	일본어학 (어학,교육학)	곽은심	경기대	kwak5017@naver.com
		최진희	백석문화대	pumpkin98@hanmail.net
	일본문학 (고전,근대)	최태화	경희대	saikun25@gmail.com
		류정훈	고려대	genimarx@naver.com

구분	성명	소속	이메일
감사	이진호	원광대	jhleeh@wonkwang.ac.kr
	안희정	위덕대	hangose@gmail.com
감수이사	黒木了二	대전대	rkurogi@live.co.kr
	松下由美子	한남대	komiyu_nov30@hotmail.com
	所由美	공주대	yumitokoro@yahoo.co.jp
문화교류이사	相沢由佳	성결대	yuka808@hotmail.com
	麻生迪子	東亜大学	asomichi04@gmail.com
	飯干和也	상명대	iiho4@hotmail.com
	伊藤政彦	우송정보대	shinkiku@hanmail.net
	大谷鉄平	長崎外国語大学	teppeikun09@gmail.com
	倉石美都	경기대	reportkochirdesu@gmail.com
	黒木了二	대전대	rkurogi@live.co.kr
	施山緑	수원대	yayoi@suwon.ac.kr
	竹口智之	関西大学	take-chang@mvi.biglobe.ne.jp
	所由美	공주대	yumitokoro@yahoo.co.jp
	林山かおり	대전과학기술대	linshan0507@naver.com
	本多美保	이화여대	mhonda@naver.com
	松下由美子	한남대	komiyu_nov30@hotmail.com
	松橋幸代	금강대	aomori0427@hanmail.net
	宮田麻美	단국대	mamipal1125@yahoo.co.jp

18년도 일반이사

성명	소속	
권경애	한국의국어대	kkwon@cufs.ac.kr
김경혜	인천대	kimkyounghye@incheon.ac.kr
김대성	전남대	khanbyeol@gmail.com
김수희	한양여대	sic1225@daum.net
김윤희	백석예술대	yuly7@hanmail.net
김종완	전주대	tegamikure@hanmail.net
김진영	인하대	ohayo@korea.ac.kr
김학순	한국교통대	harksoon@hotmail.com
도기정	남서울대	kjdo@nsu.ac.kr
峯崎知子	홍익대	minetomoko@hongik.ac.kr
민병찬	인하대	minbc@inha.ac.kr
민병훈	대전대	mbh0301@dju.ac.kr
박균철	전주대	kyooncheol@jj.ac.kr
박상현	경희사이버대	koreaswiss@hanmail.net
박성희	숙명여대	oooooh55@korea.ac.kr
박영숙	수원과학대	pyskk@hanmail.net
박재환	경기대	jhpark7@kyonggi.ac.kr
박찬기	목포대	parkchan@mokpo.ac.kr
박효경	한양사이버대	phk0827@hotmail.com
坂野慎治	제주대	shinji@jejunu.ac.kr
배은정	부산외대	ejbael11@bufs.ac.kr
배정열	한남대	baejy@hnu.kr
백동선	강원대	paekds@kangwon.ac.kr
송숙정	중원대	suejoan@hanmail.net
신은정	중원대	alashin@hanmail.net
신충균	전북대	shinck@chonbuk.ac.kr
안용주	선문대	yjan@sunmoon.ac.kr
안지영	군산대	ajy@daegu.ac.kr
오현정	건국대	hjoh@konkuk.ac.kr
육근화	대전대	yookgh@dju.kr
이성근	수원대	llsk@suwon.ac.kr
이수향	가천대	suhyang1022@naver.com
이정욱	전주대	jukkoo@jj.ac.kr
임지영	전남대	jy-lim@jnu.ac.kr
정향재	한남대	kaoriari@hanmail.net
조강희	부산대	ghcho@pusan.ac.kr
조래철	순천대	chorch@sunchon.ac.kr
조영남	고려대	choyn@korea.ac.kr
조은영	부산외대	choeun215@gmail.com
조치영	부산외대	cycho@bufs.ac.kr
최건식	부경대	kschoi@pknu.ac.kr
최정은	중앙대	momo0515@paran.com
한규안	영산대	han1286@ysu.ac.kr
한중선	유원대	kurume@yd.ac.kr
허곤	강원대	heokon@kangwon.ac.kr

Journal of Japanese Culture

460

18년도 편집위원

성명	소속	이메일
편집위원장 권오엽	충남대	dongsana@hanmail.net
편집간사 윤혜영	충남대	yun1971@cnu.ac.kr
강우원용	카톨릭관동대	kwwy@hanmail.net
고영란	전북대	youngrankoh@hanmail.net
곽은심	경기대	kwak5017@naver.com
곽진오	동북아역사재단	ojkwak@hanmail.net
김난희	제주대	knh2765@jeju.ac.kr
김용균	중앙대	kygyun@hanmail.net
김용의	전남대	yukim@chonnam.ac.kr
노성환	울산대	nosh1@hanmail.net
박강훈	전주대	hun0531@naver.com
박삼헌	건국대	syamony@konkuk.ac.kr
박상현	경희사이버대	koreaswiss@hanmail.net
박회영	대진대	hyp0723@hanmail.net
방윤형	수원대	yh-bang@hanmail.net
배석만	고려대학교	dolbe68@korea.ac.kr
설근수	전북대	sgs@chonbuk.ac.kr
송휘영	영남대	hysong@ynu.ac.kr
신인섭	건국대	seoah@konkuk.ac.kr
이경규	동의대	lk5120@deu.ac.kr
이선희	서울여자대	shlee@swu.ac.kr
이성규	인하대	leesk@inha.ac.kr
이충호	부산외국어대	alphachino@hotmail.com
임상민	동의대	lsm76@deu.ac.kr
장원재	계명대	wonjaec@kmu.ac.kr
조규현	상명대	jgh@smu.ac.kr
조남성	한밭대	chons@hanbat.ac.kr
채성식	고려대	csshhs@korea.ac.kr
최장근	대구대	nihonbu@daegu.ac.kr
편용우	전주대	pyunsama@gmail.com

한국일본문화학회 회칙

제 1 장 총 칙

제1조(명칭) 본 학회는 ‘한국일본문화학회’라 칭한다.

제2조(목적) 본 학회는 일본 관련 제학문의 연구를 위한 국내외 회원 간의 학술 교류를 통하여 일본학 (전통문화와 대중문화) 연구의 활성화와 학문 발전을 도모하고, 국제간 교류를 통한 상호 협력과 이해 증진에 기여하도록 한다.

제3조(사업) 본 학회는 제2조의 목적을 달성하기 위하여 다음 각 항의 사업을 수행한다.

1. 정기적인 학술연구발표회(연 2회)
2. 학술지 발간(연 4회)
3. 학술 진흥을 위한 지역 세미나 및 심포지엄 개최
4. 외국 학회와의 학술교류 및 공동연구
5. 외국의 대학도서관 및 학술단체와 학술지 교류
6. 일본문화의 소개

제4조(위치) 본 학회의 목적을 달성하기 위하여 별도의 학회사무실 및 지부를 두며, 상시 업무를 담당하는 사무국장을 둘 수 있다.

제 2 장 회 원

제5조(자격) 본 학회의 회원은 일본어문학을 비롯한 일본학 즉, 전통문화와 대중문화 연구에 종사하는 자나 관심을 갖고 있는 자로 한다.

제6조(구분) 본 학회 회원의 구분은 「회원 규정」에 따른다.

제7조(가입요건) 본 학회에 신규로 회원가입을 원하는 자는 원칙적으로 기존 회원의 추천을 받아야 한다.

제8조(권리와 의무) 본 학회의 회원은 다음과 같은 권리와 의무를 갖는다.

1. 임원의 선거권 및 피선거권(단, 명예회원은 제외)
2. 학회활동 참여의 권리와 회칙 준수의 의무
3. 회비 납부의 의무

제9조(징계) 회원이 의무를 수행하지 않고 본 학회의 명예를 현저히 손상하였을 경우에는 이사회 결의를 거쳐 회원자격의 박탈이나 정지 등 징계할 수 있다.

제 3 장 기 구 및 임 원

제10조(기구) 본 학회는 다음과 같은 기구를 둔다.

1. 집행위원회(회장, 부회장, 상임이사)

Journal of Japanese Culture

462

2. 이사회
3. 해외지부

제11조(임원) 본 학회는 원활한 운영을 위하여 다음과 같은 임원을 둔다.

회장(1인), 부회장(약간 명), 상임이사(약간 명), 해외이사 및 이사(적정인원), 감사(2인)

제12조(임원의 선출) 회장 및 감사는 총회에서 선출하고, 기타 임원은 회장이 위촉한다.

제13조(임원의 임기) 임원의 임기는 2년으로 하되 연임할 수 있다.

제 4 장 총 회

제14조(종류) 본 학회의 회의에는 총회, 이사회, 각종 위원회가 있다.

제15조(총회의 소집 및 의결)

1. 본 학회는 매년 1회 정기총회를 개최하고, 필요에 따라 회장이 임시총회를 소집할 수 있다.
2. 총회는 다음의 의안을 심의·의결한다.
 - (1) 회장 및 감사의 선출 및 해임
 - (2) 회칙 개정
 - (3) 사업계획의 수립
 - (4) 예산과 결산의 승인
 - (5) 기타 중요사항
3. 총회에서의 의결은 출석회원 과반수 이상으로 한다.

제16조(이사회)의 소집 및 의결)

1. 이사회는 실무 이사회와 확대 이사회가 있으며, 회장이 필요하다고 인정할 시 이를 소집한다.
2. 실무 이사회는 회장, 부회장, 상임이사로 구성하고, 확대 이사회는 회장, 부회장을 포함한 전이사가 대상이 된다.
3. 이사회는 제 규정의 개정, 회칙 개정의 발의, 회장 위임사항의 심의, 자문위원의 추대, 특별 및 명예회원의 승인, 기타 중요한 사항을 처리한다.

제17조(각종 위원회의 구성 및 임무)

1. 회장은 분야별 업무의 능률적 수행을 위해 각종 위원회를 설치할 수 있다.
2. 위원회는 위원장과 위원으로 구성하며, 위원장은 회장의 제청으로 이사회에서 선임한다.
3. 위원회의 안건은 출석 위원 과반수의 찬성으로 의결한다.

제 5 장 사 업

제18조(재정) 본 학회의 재정은 회원의 회비와 기타 수입금으로 한다.

제19조(회비책정) 본 학회의 회비는 총회에서 결정한다.

제20조(회계연도) 본 학회의 회계 연도는 3월부터 다음해 2월까지로 한다.

제21조(국제학술교류상 선정) 본 학회의 학술발전에 지대한 공헌이 인정되는 해외회원을 대상으로 회장의 추천에 의해 이사회에서 결정한다.

제 6 장 부 칙

제22조(회칙개정) 본 회칙의 개정은 정기총회에서 출석인원 3분의 2 이상의 동의를 얻어 확정한다.

제23조(시행세칙) 본 회칙 시행에 필요한 제 규정은 이사회의 의결을 얻어 시행하되, 본 회칙에 명시되지 않은 사항은 관례에 따른다.

제24조(시행일) 본 개정 회칙은 2003년 10월 1일부터 시행한다.

제 25조 개정된 규정은 정기총회의 의결을 거쳐 2007년 5월 1일부터 시행한다.

제 26조 개정된 규정은 정기총회의 의결을 거쳐 2008년 10월 25일부터 시행한다.

한국일본문화학회 편집위원회 규정

제 1 장 총 칙

- 제1조** 본 위원회는 ‘한국일본문화학회 편집위원회’라 칭한다.
- 제2조** 본 위원회는 한국일본문화학회 회칙 제17조에 의거하여 설치한다.
- 제3조** 본 위원회가 관장하는 학회지 『日本文化學報』는 다음과 같은 지침 하에 발행한다.
1. 연 4회(2월호(2월29일), 5월호(5월31일), 8월호(8월31일), 11월호(11월30일))로 발행한다.
 2. 발행 날짜는 해당호의 월 말일을 원칙으로 한다.
 3. 투고일, 심사일, 게재확정일은 일본어/영문초록 앞 장에 표기한다.
예) 투 고 일: 2015.02.28.
심 사 일: 2015.03.31.
게재확정일: 2015.04.30.
 4. 기타 발행 과정은 ‘『日本文化學報』 발행 계획’에 준한다.

제 2 장 편집위원회 구성

- 제4조** 편집위원회는 다음과 같이 구성한다.
위원장, 편집간사, 국내외 위원
- 제5조** 편집위원회 위원장은 편집위원 중에서 회장의 제청으로 이사회에서 선임한다. 편집위원회 위원장은 위원회를 대표하며, 편집간사는 학회지 논문의 심사 및 편집을 통괄한다. 임기는 공히 2년으로 한다.
- 제6조** 편집위원회 위원은 이사회의 인준을 받아 회장이 임명한다. 임기는 2년이며, 본인의 동의 를 얻어 연임 가능하다.
- 제7조** 편집위원은 아래와 같은 기준에 따라 선정한다.
1. 대학의 교수 또는 이에 상응하는 자격을 갖춘 자, 혹은 해당 전공분야에서 10년 이상의 연구경력을 가진 자로서 학술 연구 실적이 우수하고 사회활동에 적극적이고 활발한 국 내외 회원 중에서 선정한다.
 2. 각 학문분야의 대표성을 고려하여 선정한다.
 3. 학술위원회의 분과이사는 당연직으로 임명한다.

제 3 장 기 능

- 제8조** 편집위원회는 학회지 『日本文化學報』의 체제, 발행횟수, 발행부수, 논문의 분량, 투고 및 심사규정 등 학회지 발행과 관련한 제반 사항을 결정한다.
- 제9조** 편집위원회 편집간사는 각 분과이사와 협의 하에 학회에 투고된 논문의 심사위원을 선

Journal of Japanese Culture

465

정·의뢰하고, 편집위원회는 심사위원의 심사결과를 토대로 논문게재 여부를 결정한다.

제10조 제8조에 제시된 사항 이외에 편집위원회가 의결한 사안은 이사회회의 인준을 거친 후에 효력이 발생한다.

제 4 장 편집위원회 회의

제11조 편집위원회 회의는 학회지 발간 계획에 따라 위원장이 소집한다.

제12조 연 4회의 정규 편집회의 이외에 필요할 경우에 위원장이 임시 편집회의를 소집할 수 있다.

제13조 편집회의는 원칙적으로 출석위원 과반수의 찬성으로 의결한다.

제 5 장 논문평가 기준

제14조 게재 논문은 학회에서 구두 발표된 것을 원칙으로 하되(단, 구두 발표 후 2년간 유효), 무발표의 논문도 투고될 경우, 이사회회의 결정에 부합하면 심사 후 게재할 수 있다.

제15조 논문의 심사는 항목별 평가와 종합평가로 이루어진다.

제16조 논문심사에 적용되는 평가 항목은 다음과 같다.

1. 내용의 적절성
2. 내용의 독창성
3. 형식의 적절성
4. 전개의 논리성
5. 연구방법의 적절성

제17조 종합평가는 항목별 평가를 근거로 심사자가 다음의 4등급으로 평가한다.

1. 학술논문으로서 매우 우수하다.
2. 학술논문으로서 우수하나 간단한 수정이 필요하다.
3. 학술논문으로서 내용 및 체제 면에서 많이 미흡하여 편집위원회의 결정에 따라 게재여부를 정한다.
4. 학술논문으로서 부적격하다.

제 6 장 논문심사 기준 및 절차

제18조(심사 기준) 편집위원회에서는 투고 논문에 대한 3인의 책임 심사위원의 심사결과와 지적 사항에 대한 집필자의 처리결과 및 투고 규정의 준수를 바탕으로, 다음과 같이 해당 논문의 게재 여부를 결정한다.

1. 게재
심사위원 평가점수 23-25점인 논문이 대상이 된다.
2. 수정 후 게재
심사위원 평가점수 19-22점인 논문이 대상이 된다.

3. 수정 후 판정

심사 위원 평가점수 15-18점인 논문이 대상이 된다.

4. 게재 불가

심사 위원 평가점수 14점 미만인 논문이 대상이 된다.

5. 1) 최종 게재 여부는 3명의 심사 위원 점수 합계를 근거로 편집위원회에서 결정한다. 단, <게재 불가>나 <수정 후 판정>이 2명 이상인 경우에는 편집위원회 회의에서 게재 여부를 결정한다.

2) 논문 심사 후 수정·가필에 대한 구체적인 요구 사항은 모두 Web상에서 이루어진다.

제19조(심사 절차) 논문심사는 다음과 같은 2단계 절차로 이루어진다.

1. 1차 심사(심사위원 심사)

a. 제출된 논문은 3인의 책임 심사 위원에게 심사를 의뢰한다.

b. 편집위원회에서는 심사 위원 평가점수가 23-25점인 논문은 <게재>, 19-22점인 논문은 <수정 후 게재>, 15-18점인 논문은 <수정 후 판정>, 14점 미만인 논문은 <게재 불가>의 판정을 내린다.

c. 투고자에게 1차 심사 결과보고서와 심사결과를 통보하고, <수정 후 게재> <수정 후 판정>을 받은 논문에 대해서는 수정·가필을 요구한다. <게재 불가> 판정을 받은 논문은 이의 신청을 할 수 있다.

d. <게재> <수정 후 게재> <수정 후 판정>을 받은 논문은 수정·가필하여 <수정 보고서>와 함께 편집위원회에 제출한다.

2. 2차 심사(편집위원회 심사)

a. 1차 심사에서 <수정 후 게재> <수정 후 판정>을 받은 논문에 대하여 2인의 편집 위원에게 수정 이행 및 투고규정 준수 여부의 심사를 의뢰한다.

b. 심사위원회의 평가 평점을 합한 종합평점을 감안하여 게재 논문을 최종 결정하고 투고자에게 통보한다.

c. 논문 심사 결과에 대하여 이의 신청이 있을 경우, 편집위원회가 재심이 필요하다고 인정하는 경우에 학술위원회 분과이사에 재심을 의뢰한다.

d. 투고 논문의 게재율에 관한 편집위원회의 의결 사항은 종합점수에 우선한다.

제20조(심사 시기) 투고된 논문에 대한 심사는 연 4회(3월·6월·9월·12월)에 실시하는 것을 원칙으로 한다.

제21조(논문 게재 호) 집필자가 복수인 경우, 제1필자를 상단에 표기하고 공동필자는 하단에 표기한다.

* 기존의 규정(2015년7.1 제정 부칙 제8조)

2015년 11월 1일부터 시행한 <수정 후 게재 1> <수정 후 게재 2> 를 심사의

Journal of Japanese Culture

467

엄정성과 객관성을 위해 〈수정 후 게재〉 〈수정 후 판정〉으로 변경하여 2016년 2월1일부터 시행한다.

제 7 장 기 타

제22조 편집위원회 및 분과별 업무를 처리하기 위하여 편집위원회와 별도로 학술위원회분과이사를 둔다.

제23조 제출된 논문이 최종심사에 통과되어 본 학회지에 게재되면 학회가 본 논문에 대한 저작권을 갖는다.

제 8 장 부 칙

제1조 본 규정은 이사회의 의결을 거쳐 1999년 10월 9일부터 시행한다.

제2조 본 규정에 명시되지 않은 사항은 일반 관례에 따른다.

제3조 개정된 규정은 이사회의 의결을 거쳐 2002년 3월 1일부터 시행한다.

제4조 개정된 규정은 이사회의 의결을 거쳐 2006년 8월 1일부터 시행한다.

제5조 개정된 규정은 이사회의 의결을 거쳐 2008년 8월 1일부터 시행한다.

제6조 개정된 규정은 이사회의 의결을 거쳐 2011년 3월 1일부터 시행한다.

제7조 개정된 규정은 이사회의 의결을 거쳐 2015년 7월 1일부터 시행한다.

제8조 개정된 규정은 이사회의 의결을 거쳐 2015년 11월 1일부터 시행한다.

제9조 개정된 규정은 이사회의 의결을 거쳐 2016년 2월 1일부터 시행한다.

한국일본문화학회 연구윤리 규정

[2008.08.01. 제정] [한국일본문화학회 규정 2015.12.16. 전면개정]

제1장 총칙

제1조(목적) 본 규정은 한국일본문화학회(이하 “학회”라 칭함)의 학회지 및 학술대회 발표 논문에 관한 연구 윤리의 규정을 엄격히 정하고 명문화함으로써 신뢰 받는 연구 풍토를 확립하고, 회원들의 바른 학술활동을 유도하여 학회의 위상을 효율적으로 제고하기 위함이다.

제2조(적용대상) 본 규정은 원칙적으로 본 학회의 회원으로서 연구 활동과 직·간접적으로 관련 있는 모든 연구자를 적용대상으로 한다.

제3조(적용범위) 본 규정의 적용범위는 인문사회 분야의 연구윤리 확립 및 연구진실성 검증과 관련된 제반 사항으로 한다.

제4조(용어의 정의) 이 규정에서 사용하는 용어의 정의는 다음과 같다.

- 1 “연구부정행위”는 연구의 제안, 수행, 결과 보고 및 발표 등에서 행해진 위조·변조·표절·중복게재·부당한 저자표시 등을 말한다. 이에 대한 범위 및 정의는 제5조에 따른다.
- 2 ‘제보자’는 연구부정행위를 인지하여 인지한 사실 또는 관련 증거를 학회 또는 연구지원기관, 소속기관 등에 알린 자를 말한다.
- 3 ‘피조사자’는 제보 또는 학회의 인지에 의하여 연구부정행위의 조사대상이 된 자 또는 조사 수행과정에서 연구부정행위에 가담한 것으로 추정되어 조사대상이 된 자를 말하며 조사과정에서의 참고인이나 증인은 이에 포함되지 아니한다.
- 4 ‘예비조사’는 연구부정행위의 혐의에 대하여 공식적으로 조사할 필요가 있는지 여부를 결정하기 위한 절차를 말한다.
- 5 ‘본조사’는 예비조사의 결과 공식적인 조사가 필요하다고 판단된 연구부정행위의 혐의 사실을 입증하기 위한 조사절차를 말한다.
- 6 ‘판정’은 조사결과를 최종 확정하고 이를 제보자와 피조사자에게 문서로서 통보하는 절차를 말한다.

제2장 윤리규정

제5조(연구부정행위의 범위) 연구부정행위의 범위 및 정의는 다음 각 호와 같다.

- 1 “위조”는 존재하지 않는 데이터로 연구 결과를 허위로 만들어내는 행위

- 2 “변조”는 연구 자료나 연구 과정 등을 인위적으로 조작하거나 데이터를 임의로 변형, 삭제함으로써 연구 내용 또는 결과를 왜곡하는 행위
- 3 “표절”은 다음 각 목과 같이 일반적 지식이 아닌 타인의 독창적인 아이디어 또는 창작물을 적절한 출처표시 없이 활용함으로써, 제3자에게 자신의 창작물인 것처럼 인식하게 하는 행위
 - 가. 타인의 연구내용 전부 또는 일부를 출처를 표시하지 않고 그대로 활용하는 경우
 - 나. 타인의 저작물의 단어·문장구조를 일부 변형하여 사용하면서 출처표시를 하지 않는 경우
 - 다. 타인의 독창적인 생각 등을 활용하면서 출처를 표시하지 않은 경우
 - 라. 타인의 저작물을 번역하여 활용하면서 출처를 표시하지 않은 경우
- 4 “중복게재”는 저자가 자신의 이전 연구결과와 동일 또는 실질적으로 유사한 저작물을 선행저작물에 대한 출처표시 없이 게재하는 행위
- 5 “부당한 저자표시”는 연구내용 또는 결과에 대하여 공헌 또는 기여를 한 사람에게 정당한 이유 없이 저자 자격을 부여하지 않거나, 공헌 또는 기여를 하지 않은 사람에게 감사의 표시 또는 예우 등을 이유로 저자 자격을 부여하는 행위
- 6 그 밖에 각 학문분야에서 통상적으로 용인되는 범위를 심각하게 벗어나는 행위

제6조(연구자의 역할과 책임)

- ① 연구자는 본 규정 제5조에서 정하고 있는 연구부정행위를 삼가 하여야 한다.
- ② 연구자는 본 규정 제5조에서 정하고 있는 부정행위로 의심되는 사례를 발견했을 경우 적절한 방법으로 이를 학회에 보고해야 한다.
- ③ 연구자는 자신의 이익과 타 연구자 또는 타기관의 이익이 상충하거나 상충할 가능성이 있을 경우 이를 공표하고 적절히 대응해야 한다.

제7조(편집위원의 역할과 책임)

- ① 편집위원은 투고된 논문 저자의 성별, 나이, 소속 기관 또는 사적인 친분에 따른 선입견 없이 논문의 질적 수준과 논문심사규정에 의거하여 공정하게 심사하여야 한다.
- ② 편집위원은 투고된 논문의 평가를 해당 분야의 전문적 지식과 공정한 판단 능력을 지닌 심사위원에게 의뢰하여 객관적인 평가가 이루어질 수 있도록 하여야 한다.
- ③ 편집위원은 투고된 논문의 게재 여부를 결정하되, 저자의 인격과 연구자로서의 독립성을 존중하여야 한다. 탈락된 논문에 대해서는 대외비로 하여야 한다.
- ④ 편집위원은 투고된 논문의 게재가 확정될 때까지 논문 저자에 대한 정보나 논문내용을 비공개로 하여야 한다.

제8조(심사위원의 역할과 책임)

- ① 심사 의뢰를 받은 심사위원은 심사 대상 논문을 심사규정이 정한 기한내에 성실하게 평가하여야 한다.

- ② 심사위원은 논문을 객관적이고 공정하게 평가하여야 한다. 심사자 개인의 이론적 성향이나 관점 등 주관적 요소를 배제하고 객관적 기준에 의해 평가하여야 한다.
- ③ 심사위원은 저자의 인격과 학문적 독립성을 존중해야 한다. 논문의 수정 또는 보완이 필요할 때는 정중한 표현을 사용하여 심사평가서에 그 이유를 상세하게 밝혀야 한다.
- ④ 심사위원은 투고 논문에 대한 게재가 확정될 때까지 논문에 관한 사항을 공개해서는 안 된다.

제3장 연구윤리위원회의 설치 및 운영

제9조(구성)

- ① 연구윤리위원회(이하 “위원회”라 칭함)는 학회장, 부회장, 편집위원장, 총무이사, 학술이사, 편집이사 및 3인 이상의 편집위원을 포함하여 15인 이내로 구성한다. 위원장은 학회장이 겸임하며, 위원은 학회장이 위촉한다.
- ② 위원장 및 위원의 임기는 각기 직책 임기에 따른다. 단, 직책이 없는 위원은 2년으로 하며, 연임할 수 있다.
- ③ 위원장은 위원회를 대표하며, 회의를 주재한다.
- ④ 위원회에는 간사 1인을 두어 제반 행정사항을 처리할 수 있으며, 간사는 위원장이 임명한다.

제10조(기능) 위원회는 다음 각 호의 사항을 심의·의결한다.

- 1. 연구윤리·진실성 관련 제도의 수립 및 운영에 관한 사항
- 2. 연구윤리규정의 제·개정에 관한 사항
- 3. 부정행위 제보 접수 및 조사에 관한 사항
- 4. 제보자 및 피조사자 보호에 관한 사항
- 5. 본조사 착수여부 및 조사결과의 판정, 승인 및 재심의를 관한 사항
- 6. 제재 및 징계결정에 대한 사항
- 7. 연구진실성 검증결과의 처리 및 후속조치에 관한 사항
- 8. 기타 위원장이 부의하는 사항

제11조(운영)

- ① 위원장은 위원회의 회의를 소집하고 그 의장이 된다.
- ② 회의는 재적위원 과반수 출석과 출석위원 3분의 2 이상의 찬성으로 의결한다. 위임장은 위원회의 성립요건인 출석으로는 인정하되 의결권은 부여하지 않는다. 단의결의 형식과 내용을 명시한 위임장의 경우는 의결권을 인정할 수 있다.
- ③ 회의는 비공개를 원칙으로 하되, 필요한 경우 위원이 아닌 해당 분야 전문가를 참석시켜 의견을 청취할 수 있다.

제4장 제보 및 접수

제12조(부정행위 제보 및 접수)

- ① 제보자는 학회에 구술·서면·전화·전자우편 등 가능한 모든 방법을 통하여 실명으로 제보하는 것을 원칙으로 한다.
- ② 증거자료는 반드시 서면으로 제출하여야 하며, 익명으로 제보하고자 할 경우 서면 또는 전자우편으로 연구과제명, 논문명 및 구체적인 부정행위의 자료를 제출하여야 한다.
- ③ 내용이 허위인 줄 알았거나 알 수 있었음에도 불구하고, 이를 신고한 제보자는 보호대상에 포함되지 않는다.

제13조(제보자와 피조사자의 권리보호·비밀엄수)

- ① 어떠한 경우에도 제보자의 신원을 직·간접적으로 노출시켜서는 안 되며, 제보자의 성명은 반드시 필요한 경우가 아니면 제보자 보호차원에서 조사결과 보고서에 포함하지 아니한다.
- ② 제보자가 부정행위 제보를 이유로 신분상 불이익, 근로조건상의 차별, 부당한 압력 또는 위해 등을 받을 경우에는 그 피해를 원상회복하거나 제보자가 필요로 하는 조치를 취하여야 한다.
- ③ 부정행위 여부에 대한 검증이 완료될 때까지 피조사자의 명예나 권리가 침해되지 않도록 주의하여야 하며, 부정행위와 무관한 것으로 판명된 피조사자의 명예회복을 위해 노력하여야 한다.
- ④ 제보·조사·심의·의결 및 건의조치 등 조사와 관련된 일체의 사항은 비밀로 하며, 조사에 직·간접적으로 참여한 자는 직무수행과정에서 취득한 모든 정보에 대하여 누설하여서는 안 된다. 다만, 합당한 공개의 필요성이 있는 경우 위원회의 의결을 거쳐 공개할 수 있다.

제14조(이의제기 및 변론의 기회 보장) 조사위원회는 제보자와 피조사자에게 의견진술, 이의제기 및 변론의 권리와 기회를 동등하게 보장하여야 하며 관련절차를 사전에 알려주어야 한다.

제5장 예비조사

제15조(예비조사의 기간 및 방법)

- ① 예비조사는 원칙적으로 제보접수일로부터 10일 이내에 착수하고, 조사 시작일로부터 30일 이내에 완료한다.
- ② 예비조사에서는 다음 각 호의 사항을 검토한다.
 1. 제보내용이 제5조의 연구부정행위에 해당하는지 여부
 2. 제보내용이 구체성과 명확성을 갖추어 본 조사를 실시할 필요성과 실익이 있는지 여부

제16조(예비조사 결과의 통보)

- ① 예비조사 결과는 위원회의 의결을 거친 후 10일 이내에 제보자에게 문서로 통보하여야 한다. 다만, 제보자가 익명인 경우에는 예외로 한다.
- ② 예비조사 결과보고서에는 다음 각 호의 내용이 포함되어야 한다.
 1. 제보내용
 2. 조사결과
 3. 본조사 실시 여부 및 판단의 근거
 4. 제보자와 피조사자의 진술내용

제6장 본 조사

제17조(본조사의 기간)

- ① 본 조사는 위원회의 본 조사 실시 결정 후 원칙적으로 30일 이내에 착수하여야 한다.
- ② 본 조사는 시작일로부터 90일 이내에 완료한다.
- ③ 제2항의 기간 내에 조사를 완료할 수 없다고 판단할 경우 1회에 한하여 기간을 연장할 수 있다.

제18조(출석·자료제출 요구)

- ① 위원회는 제보자·피조사자·증인 및 참고인에 대하여 진술을 위한 출석을 요구할 수 있으며, 이 경우 해당자는 성실히 조사에 응하여야 한다.
- ② 위원회는 피조사자에게 관련자료 제출을 요구할 수 있으며, 피조사자는 위원회가 요구하는 자료제출에 대해서는 무한책임을 갖고 임해야 한다. 조사에 성실하게 임하지 않으면 학회차원에서의 징계는 물론 해당기관(대학 등)에도 관련 자료의 일체를 이양하여 징계를 요청할 수 있다.

제19조(본조사 결과보고서의 작성)

- ① 위원회는 이의제기 및 변론내용을 토대로 본조사 결과보고서(이하 “최종 보고서”라 한다)를 작성한다.
- ② 최종보고서에는 다음 각 호의 사항이 포함되어야 한다.
 1. 제보내용
 2. 조사결과
 3. 조사위원회의 위원 명단
 4. 해당 연구에서의 피조사자의 역할과 연구부정행위의 사실 여부
 5. 관련 증거 및 증인, 참고인 기타 자문에 참여한 자의 명단
 6. 제보자와 피조사자의 진술내용
 7. 검증결과에 따른 판정 결과

제20조(판정)

- ① 위원회는 이의제기 또는 변론의 내용을 토대로 조사내용 및 결과를 판정, 확정한다.
- ② 그 제재 및 징계내용에 대해서도 결정한다.
- ③ 위의 판정결과, 징계내용을 제보자와 피조사자에게 통보한다.

제21조(이의신청·재심의) 제보자 또는 피조사자가 관정에 불복할 경우에는 통보를 받은 날로부터 30일 이내에 위원회에 그 이유를 서면으로 재심을 요청할 수 있다. 단, 재심의의 결정은 위원회의 전원합의와 학회장의 추인이 있을 경우에 한한다.

제7장 검증 이후의 조치

제22조(조사결과의 통보 및 보고)

- ① 조사결과는 해당 연구자의 소속기관에 통보하며, 소속기관 등의 요청이 있을 경우, 학회장의 승인 하에 조사와 관련된 자료를 제출할 수 있다.
- ② 조사대상이 된 논문이 정부 등 기관의 연구비를 받은 경우, 연구비 지원 기관에 제출한다.

제23조(부정행위에 대한 징계)

- ① 징계 및 제재조치가 결정되면 위원장은 그 사실을 해당 연구자에게 서면으로 통지하여야 한다.
- ② 위원회는 부정행위 관련자에 대해 다음 각 호의 징계를 할 수 있다.
 1. 학회 견책 서한 발송
 2. 해당 연구결과물의 학회지 게재에 대한 취소
 3. 3년간 투고자격 제한
 4. 제명
 5. 소속기관 및 연구지원을 받은 경우 해당기관에 통보
 6. 법률기관에의 고발 등
- ③ 징계 및 제재조치 결과는 학회 홈페이지를 통하여 공지한다.

제24조(기록의 보관·공개)

- ① 예비조사 및 본조사와 관련된 기록은 위원회에서 5년 이상 보관한다.
- ② 본조사의 최종보고서는 관정이 끝난 이후에 공개할 수 있다. 다만, 제보자·조사위원·증인·참고인·자문에 참여한 자의 명단 등 신원과 관련된 정보가 당사자에게 불이익을 줄 가능성이 있을 경우에는 공개하지 않을 수 있다.

제8장 보칙

제25조(경비) 위원회 운영 및 조사에 필요한 예산은 별도로 책정하여 지급할 수 있다.

제26조(심사비) 연구윤리위반 혐의가 인정된 경우, 논문투고 및 심사에 사용한 제반경비를 반환하지 않는 것을 원칙으로 한다.

제27조(준용) 연구진실성 검증과 관련하여 이 규정에서 정하지 않은 사항은 관련법규 및 교육부 훈령 ‘연구윤리 확보를 위한 지침’ 등을 준용한다.

부 칙

제1조(시행일) 본 연구윤리 규정은 2015년 12월 16일부터 시행한다.

『日本文化學報』 논문 투고 규정

1. **투고자격:** 본 학회의 학술대회에서 구두발표를 마친 정회원 및 준회원, 또는 본 학회 회원과의 공동연구자로 한국연구재단에 연구자 등록(공개)을 마친 분으로 한다. 무발표 논문 투고 자격은 회원 가입 후, 3년간 계속해서 회비를 납부한 자에 한하며 2년에 1회로 횟수를 제한한다. 단, 기회원(최소 3년 전 가입)으로서 3년간 회비 미납 시, 일시불로 완납할 경우, 무발표 투고가 가능하다.
2. **논문내용:** 일본문학, 일본어 교육, 한·일어 대조연구, 한·일 비교문학, 일본학 등 광의의 일본 문화(전통문화와 대중문화)와 관련된 참신하고 창의적인 것이어야 한다.
3. **사용언어:** 일본어, 한국어, 영어
4. **교정:** 논문 편집위원회에서는 필요에 따라 집필자에게 원고의 가필·수정을 요구할 수 있으며, 원고의 교정은 집필자가 책임진다.
5. **제출논문 :** ① 심사용 논문은 홈페이지 온라인 논문 투고/심사 시스템을 통해서 제출한다.
② 심사가 완료되어 게재확정 통보를 받은 후에는 심사위원의 의견을 반영한 수정원고를 기간 내에 온라인 투고/심사 시스템을 통해 제출한다.
③ 제출된 논문에 대해서는 원칙적으로 반환하지 않는다.
6. **저작권:** 게재된 논문의 저작권은 원칙적으로 본 학회에 귀속한다.
7. **논문분량:** 원고지 200자×100매 내외로 한다. 이는 논문 작성 요령에 따라 작성한 문서 약 19페이지에 해당하며, 15~20페이지를 원칙으로 한다. 원고가 요지문을 포함하여 20페이지를 초과할 경우에는 1페이지당 1만원의 게재료를 추가로 부담한다.
8. **외래어:** 일본어를 한글로 표기할 때는 한글맞춤법의 <외래어표기법>에 따른다.
9. **심사:** 제출된 논문은 해당분야 전문가 3인이 심사를 하며, 그 심사 결과를 바탕으로 편집위원회에서 게재여부를 최종 결정한다.
10. **심사료 및 게재료:**

심사비	6만원
일반논문	10만원(무발표 15만원)
연구비수혜논문	20만원(무발표 30만원)
20페이지를 초과할 경우 1페이지당 1만원 추가	

* 게재료는 출판사의 편집이 완료된 후, 사무국에서 안내한다.

11. **별쇄본:** 게재된 논문 학회지 2부와 별쇄본 2부를 증정한다. 단, 별쇄본의 추가를 희망할 경우 인쇄비용은 집필자가 부담한다.

Journal of Japanese Culture

475

12. 학회지 발간 : 학회지는 1년에 4회 발행하며 출판일정은 다음과 같다.

	논문 투고 안내	논문 투고 마감	학회지 발행일
5월호	2월 초	2월 28일	5월 31일
8월호	5월 초	5월 31일	8월 31일
11월호	8월 초	8월 31일	11월 30일
2월호	11월 초	11월 30일	이듬해 2월 28일

13. 기타: 복잡한 도표 및 투고 규정 위반 등으로 인하여 출판 비용이 많이 들 경우에는 집필자에게 그에 대한 비용을 청구할 수 있다.

14. 원고 제출처 : 학회 홈페이지 <http://www.bunka.or.kr> (<온라인 투고/심사>로 접수)

15. 심사료 및 게재료 납부처 : 국민은행 724701-01-583607 강연화(한국일본문화학회)

16. 기타 :

- ① 본 규정에 명시되지 않은 사항은 편집위원회의 결정에 따른다.
- ② 복잡한 도표 및 투고 규정 위반 등으로 인하여 출판 비용이 많이 들 경우에는 집필자에게 그에 대한 비용을 청구할 수 있으며, 접수된 원고는 일체 반환하지 않는다.

『日本文化學報』 논문 작성 요령

【편집 용지】 사용자 정의 폭180, 길이255, 위20, 머리말13, 왼쪽23, 오른쪽23, 제본0, 아래15, 꼬리말13 (사용자 정의 : F7)

【논문 제목】 신명조(약자) 20, 진하게, 가운데 정렬, 줄 간격 140

【논문 소제목】 신명조(약자) 15, 가운데 정렬, 줄 간격 140

(4줄 띄움, 단, 소제목이 없으면 5줄 띄움)

【필자명】 신명조(약자) 12, 오른쪽 정렬, 줄 간격 140

(필자가 2인 이상인 경우, 제1필자를 상단에, 공동필자를 하단에 표기한다. 필자명 다음에 *를 입력한 다음 각주를 넣는다. *에 블록을 씌워 [편집]의 [글자 모양]에서 [기본]의 [속성]을 ‘위 첨자’로 지정하고, 각주 번호 1)은 블록을 씌워 [글자모양]에서 [글자색]을 흰색으로 지정하여 감춘다. 그런 다음 아래 각주에 가서는 1)을 *로 바꾸고 소속, 직위, 전공분야를 입력한다. 본문에서 각주가 시작될 때는 [쪽]의 [쪽 모양]에서 [새 번호로 시작]을 선택 후 [번호 종류]를 [각주 번호]로 지정한다.)

【필자 이메일】 신명조(약자) 12, 오른쪽 정렬, 줄 간격 140

【목차】 신명조(약자) 10.5, 진하게, 가운데 정렬, 줄 간격 140

【목차 내용】 신명조(약자) 9, 줄 간격 140

【키워드】 신명조(약자) 9, 줄 간격 140, 주제어(key word) 5~6단어, ‘일본어(영어)’ 형식

(2줄 띄움)

【큰 제목】 신명조(약자) 15, 진하게, 가운데 정렬, 줄 간격 170

(1줄 띄움)

【본 문】 신명조(약자) 10.5, 줄 간격 170

(1줄 띄움)

【예 문】 신명조(약자) 10, 줄 간격 170, 예문 순서대로 (1a, 1b) (2) (3a, 3b, 3b)로 작성

【인용문】 신명조(약자) 10, 줄 간격 170, [편집]의 [문단 모양]에서 [기본]의 [첫 줄] ‘들여쓰기’를 ‘15pt’로 설정하고 입력(예문이 아닌 경우)

(1줄 띄움)

【본 문】 신명조(약자) 10.5, 줄 간격 170

(2줄 띄움)

【큰 제목】 신명조(약자) 15, 진하게, 가운데 정렬, 줄 간격 170

(1줄 띄움)

【작은 제목】 신명조(약자) 12, 진하게, 줄 간격 170

【표 제목】 신명조(약자) 10, 가운데 정렬, 줄 간격 170, 표 순서대로 <표1> <표2> <표3> 로 작성

【표 내용】 신명조(약자) 10, 줄 간격 140, 글자 크기는 표 내용에 따라 10 이하로 조절 가능

(1줄 띄움)

Journal of Japanese Culture

477

【본 문】 신명조(약자) 10.5, 줄 간격 170

【각 주】 신명조(약자) 9, 줄 간격 130

- * 저자명(연도) 「논문명」 『저서명』 게재지 권 호, 발행처, 페이지 순서로 배열
ex) 홍길동(2016) 「홍길동의 인생」 『日本文化学報』 제70집, 한국일본문화학회, p.8
- ex) 전개서(or 앞의 책 or 앞의 논문), 홍길동(2016) p.8
- ex) <http://www.bunka.or.kr> (검색일 : 2016.08.25.)
- ex) 洪吉童(2016) 「洪吉童の人生」 『日本文化学報』 第70輯、韓国日本文化学会、p.8.
- * 각주의 인용문은 인용기호 한국어의 경우- 「」 “ ”로, 일본어의 경우 「」로 표기

【참고문헌】 신명조(약자) 12, 가운데 정렬, 줄 간격 140

(1줄 띄움)

【참고문헌 내용】 신명조(약자) 9, 줄 간격 140

- * 참고문헌이 한 줄이 넘어가는 경우 두 번째 행의 들여쓰기가 일정하게 되도록 하기 위해 [편집]의 [문단 모양]에서 [기본]의 [첫 줄] ‘내어쓰기’를 ‘55pt’로 설정하고 작성
ex) 홍길동(2016) 「홍길동의 출생의 비밀과 성장 배경에 대하여」 『日本文化学報』 제70집, 한국일본문화학회, p.8
 - * 인터넷 인용의 경우는 다음과 같이 입력
ex) 교토대학 조선한국 교육연구네트워크(<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~ksnet/j/j02.html>. 검색일: 2016.06.14.)
 - * DOI 삽입 : DOI가 발급되어 있는 논문은 참고문헌에 DOI를 아래와 같은 형태로 삽입
ex) 李忠奎(2016) 「韓国人からみた日本語の複合動詞-回顧と今後の課題-」 『日本語文学』 第68輯、韓国日本語学会、pp.83-110(<http://dx.doi.org/10.18704/kjll.2016.03.68.83>)
 - * 저자명(연도) 「논문명」 『저서명』 게재지 권 호, 발행처, 페이지 순서로 배열하고 빠짐없이 기재
 - * 모든 참고문헌에는 페이지 수를 p.3 또는 pp.12-25와 같은 형태로 빠짐없이 기재
 - * 모든 참고문헌에는 발행처를 반드시 기재
 - * 문헌 배열 : 국문, 일문, 영문 순으로 하여 저자명을 기준으로 각각 가나다, 오십음, 알파벳 순서
 - * 참고문헌에는 본문에서 언급한 문헌만 기입
- (2줄 띄움)

【논문 투고 일자 · 논문 심사 일자 · 게재 확정 일자】 신명조(약자) 9, 오른쪽 정렬, 줄 간격 140

- * 논문 투고 일자는 투고자가 논문 투고 일을 형식에 맞게 직접 작성함

(쪽을 바꿔서)

【要旨】 신명조(약자) 10.5, 진하게, 가운데 정렬, 줄 간격 130

(1줄 띄움)

Journal of Japanese Culture

478

【요지문 제목】 신명조(약자) 10.5, 가운데 정렬, 줄 간격 130

【요지문 소제목】 신명조(약자) 10.5, 가운데 정렬, 줄 간격 130

(1줄 띄움)

【요지문 필자명】 신명조(약자) 9, 오른쪽 정렬, 줄 간격 130

(1줄 띄움)

【요지문 본문】 신명조(약자) 9, 줄 간격 130

(2줄 띄움)

*요지문은 본문 언어와 상관 없이 일본어와 영어 순으로 작성한다.

*요지문은 각각 1/2장 이내로 하여 반드시 한 페이지에 수록되도록 작성한다.

*일본어 요지문에는 한자 이름으로, 영어 요지문에는 영어 이름 Hong, Kil-Dong으로 표기한다.

※투고 논문 집필 시에는 상기 요령에 맞게 작성한 '논문 작성 예시'를 그대로 활용하시면 됩니다.

『日本文化學報』 논문작성 예시

한·일 대조언어학적 연구

—수동 표현을 중심으로—

홍길동*

(e-mail : Hong-kd@hanmail.net)

<목 차>

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 들어가기 | 3. ○○○ |
| 2. 연구 목적 및 방법 | 3.1. ○○○ |
| 2.1. 연구 목적 | 3.2. ○○○ |
| 2.2. 연구 방법 | 4. 나가기 |

キーワード：文法(Grammar), 文法(Grammar), 文法(Grammar), 文法(Grammar), 文法(Grammar)

1. 들어가기

이 논문에서는 현대 일본어와 한국어의 수동 표현을 대조언어학적 관점에서 고찰하고자 한다.

- (1)a. 子供が犬に噛まれた。
b. 아기가 개에게 물렸다.

이 논문은 현대 일본어와 한국어의 수동 표현을¹⁾~。

2. 연구 목적 및 방법

* 한국일본문화대학교, 조교수, 대조언어학

1) 본고에서는 다음과 같은 형태를 수동 표현으로 인정한다.

Journal of Japanese Culture

480

이 논문은 현대 일본어와 한국어의 수동 표현을~

2.1. 연구 목적

이 논문은 현대 일본어와 한국어의 수동 표현을~

2.2. 연구 방법

이 논문은 현대 일본어와 한국어의 수동 표현을~

〈表1〉 홍길동(2014 : 10)의 하위 분류

언어	일본어	한국어
예문	子供が犬に噛まれた。	아이가 개에게 물렸다.

이 논문은 현대 일본어와 한국어의 수동 표현을~

4. 나가기

이 논문은 현대 일본어와 한국어의 수동 표현을~

【참고문헌】

홍길동(2014) 「한·일 문법화 고찰」 『문화연구』 44, 일본문화학회, pp.3-13.

李翊燮·李相億·蔡琬(2004) 『韓国語概説』大修館書店, p.216.

Stein, Dieter(1995) "Subjectivity" : Cambridge University Press, pp.113-135.

논문 투고 일자 : 0000. 00. 00. 논문 심사 일자 : 출판사 작성 게재 확정 일자 : 출판사 작성
--

학회 발표에 관한 규정

1. (발표자격)

본 학회 정회원으로서 대학원생이거나, 교원 경력 5년 이상인 자, 또는 이사회의 추천을 받은 자로 한다. 단, 석사과정의 대학원생인 경우는 지도교수 혹은 해외지부장의 추천이 필요하며, 발표 요지문을 해당 분과에서 심사 후 채택 여부를 결정한다.

2. (발표신청)

발표신청은 Web에서 하며, 신청 시에는 학회 홈페이지에서 배너 학술발표회 클릭 후 논문 구두발표를 신청하도록 한다.

3. (신청기한)

춘계대회 발표 희망자는 3월 둘째 주 토요일, 추계대회 발표 희망자는 8월 첫째 주 토요일까지 신청하도록 한다.

4. (발표 요지문)

- a. <발표요지문>은 한국어 또는 일본어, 영어로 작성한다.
- b. 분량은 A4용지 5장(가로쓰기) 이내로 한다.
- c. 춘계대회 때는 3월 셋째 주 토요일까지, 추계대회 때는 8월 둘째 주 토요일까지 제출한다.
- d. 원고는 Web에서 하며, 신청 시에는 학회 홈페이지에서 배너 학술발표회 클릭 후, 요지문을 탑재한다.
- e. 발표 요지문은 Web에서 탑재해야 하며, 인쇄비 10,000원은 학회 당일 접수처에서 납부한다.

5. (외국 교류학술지 투고)

구두발표 신청 시 외국 학술교류학회지(일본비교문화학회 『비교문화연구』)에 투고를 희망하는 경우는 국내회원이 대상이 된다. 교류학회 측의 투고요청 희망자수 범위 내에서 본 학회의 내부 선정 기준에 의하여 대상자를 선정·추천한다.

< 게재료 입금처 >

(韓國) 국민은행 724701-01-583607 강연화(한국일본문화학회)

(日本) 当事務局までお問い合わせ下さい。(jbunka@hanmail.net)

외국학회와의 학술교류에 관한 규정

1. (日本) 表現学会

- a. 표현학회는 한국일본문화학회로부터 추천 받은 1명에 대하여, 전국대회(연 1회)에서 연구 발표의 기회를 제공한다.
- b. 한국일본문화학회는 표현학회로부터 추천 받은 수명에 대하여, 학술대회(연 2회)에서 연구 발표의 기회를 제공한다.
- c. 표현학회는 한국일본문화학회로부터 추천 받은 발표 논문에 대하여 학회지 『表現研究』에 게재할 수 있다.
- d. 한국일본문화학회는 표현학회로부터 추천 받은 발표 논문에 대하여 학회지 『日本文化學報』에 게재할 수 있다.

2. 日本比較文化学会

- a. 일본비교문화학회는 한국일본문화학회로부터 추천 받은 회원에 대하여, 전국 대회(연 1회)에서 연구발표의 기회를 제공한다.
- b. 한국일본문화학회는 일본비교문화학회로부터 추천 받은 회원에 대하여, 학술 대회(연 2회)에서 연구발표의 기회를 제공한다.
- c. 일본비교문화학회의 학회지 『比較文化研究』에 한국일본문화학회 국내회원의 논문을 게재할 수 있다.
- d. c항의 논문은 한국일본문화학회에서 구두 발표한 논문 중에서 학회가 추천하며, 투고자의 추천에 있어서는 학회의 내부 규정에 따라 해당자를 선정한다.
- e. 추천 논문의 심사와 게재료는 일본비교문화학회의 규정에 따른다.
- f. 한국일본문화학회는 학회지 『日本文化學報』에 일본비교문화학회로부터 추천 받은 논문을 게재할 수 있으며, 추천 논문의 심사는 해당 학회의 규정에 따른다.
- g. 일본비교문화학회는 전국대회(연 1회)에서 발표하는 한국일본문화학회로부터의 추천 회원에 대하여 1년간의 회비를 면제한다.
- h. 한국일본문화학회는 학술대회(연 2회)에서 발표하는 일본비교문화학회로부터의 추천 회원에 대하여 1년간의 회비를 면제한다.

3. 台灣日本語文学会

- a. 각 학회의 학술적 축적의 교류를 서로의 학문분야에 대한 지적 자극으로 받아들이고, 나아가, 양 학회 및 양 학회 회원 상호의 자주적 교류에 의해 각각의 학술활동이 한층 더 실질화하는 것을 기대한다.
- b. 매년 간행된 양 학회의 학회지에 대하여 상호의 학술교류를 위해 그 연도에 발간된 학회지를 취합하여 연 1회 상호 교환한다. 송료 등은 각 학회의 자기부담으로 한다.

Journal of Japanese Culture

484

- c. 양 학회 회원의 학술교류를 촉진하기 위해 상호 학회로의 투고를 인정한다. 상호의 투고조건 등은 필요에 따라 양 학회의 담당자간 협의 후 절차를 정한다. 또한, 투고와 게재에 관련한 비용 부담은 대등하게 한다. 그리고 상대 학회에 투고할 수 있는 논문 수의 상한에 대해서는 별도 정하기로 한다.
- d. 각 학회의 회원은 상호 학회의 「자매회원」으로서 상호 학회의 전국대회에서의 연구발표에 자유롭게 신청할 수 있는 것으로 한다. 발표의 채택 가부, 종류, 일정 등의 대회 운영에 관해서는 상대국 학회의 결정에 따르는 것으로 한다. 또한, 발표에 관련한 항공료, 체재비, 참가비, 친목회 비용 등은 원칙적으로 발표자 개인의 부담으로 한다.
- e. 각 학회는 상호 학회의 전국대회 개최 시 패널 디스커션, 강연 등에 적합한 회원을 상대 학회의 추천에 의해 초청할 수 있다. 패널 디스커션, 강연 등의 종류, 일정 등의 대회 운영에 관해서는 상대국 학회의 결정에 따르는 것으로 한다. 또한, 초빙에 관련한 항공료, 체재비, 참가비, 친목회 비용 등은 협의를 통해 정한다.

해외이사에 관한 규정

1. (자격)

본 학회에 1회 이상 출석하여 연구발표를 한 외국 학자 중에서, 본 학회의 연구 활동에 관심을 가지고 협력하는 자로 한다.

2. (활동)

- a. 자국 내에 본 학회를 소개하고 학회의 활동 내용이나 정보 등을 제공한다.
- b. 본 학회의 연구발표회에서 발표를 희망하는 자를 모집한다.
- c. 본 학회의 학회지 게재 대상 논문을 심사할 수 있다.
- d. 본 학회의 자국 내 회원을 관리한다.

3. (임기)

2년 단위로 하고, 본인의 동의를 얻어 연장 가능하다.

4. (임명)

이사회에서 심의·결정하고, 회장이 위촉한다.

5. (시행)

본 규정은 1997년 5월 5일부터 시행한다.

해외지부에 관한 규정

1. (취지) 일본 국내에 거주하는 회원의 편의를 도모하기 위하여 본 학회 일본 지부를 둔다.

2. (구성) 일본 지부는 본 학회의 취지에 찬동하고 적극적으로 협조할 수 있는 해외이사를 중심으로 결성한다.

3. (대표자) 일본 국내 회원을 관리하고 일본 지부의 운영을 총괄하는 대표자는 일본 거주 해외이사 중에서 이사회의 추천을 받아 회장이 위촉한다.

4. (임기) 일본 지부 대표자의 임기는 2년이며 본인의 동의를 얻어 연임도 가능하다.

5. (시행) 본 내규는 2011년 6월 3일부터 시행한다.

회원규정

본 학회의 모든 회원은 [국내회원](국내에 소속이나 근무처가 있는 내국인이나 외국인)과 [해외회원](국외에 소속이나 근무처가 있는 외국인이나 내국인)으로 구분하며, 가입 내용에 따라 다음과 같이 분류된다. 단, 한국인 유학생은 국내회원으로 분류한다.

- 1.(정회원) 본 학회의 회원 가입을 필한 자. 단, 3년 간 회비를 납부하지 않을 경우에는 정회원의 자격을 상실한다.
- 2.(준회원) 회원 중 정회원의 자격을 상실한 자.
- 3.(종신회원) 본 학회의 발전에 기여한 회원 중에서 이사회의 동의를 얻은 자로, 소정의 종신회비(30만원)를 납부한 회원으로, 실무이사를 겸하고 있는 경우 이사회비는 2만원으로 한다.
- 4.(특별회원) 본 학회의 발전에 기여한 회원 중에서 이사회의 추천을 받은 자.
- 5.(명예회원) 본 학회 초청강연자 중에서 이사회의 추천을 받은 자.
- 6.(단체회원) 소정의 단체회비(8만원)를 납부하는 국내의 학술단체 및 기관. 단, 해외의 [학술지 교류단체]도 단체회원의 범주에 포함한다.

회원명단 상에 상위점이나 변경사항이 있는 회원께서는 즉시 학회 사무국으로 연락 바라며, 3년 동안 회비를 납부하지 않을 경우에는 회원명단에서 자동 삭제되거나 (재가입 要) 이 점 양지하시고 협조 부탁드립니다.

학회비 납부 안내 (가입비 1만원 / 연회비 3만원)
* 이사회비 년 5만원

(韓國) 국민은행 724701-01-583607 강연화(한국일본문화학회)
(日本) 当事務局までお問い合わせください。 (jbunka@hanmail.net)

『日本文化學報』發行計劃

- 원고투고 의뢰 (2월초·5월초·8월초·11월초)
- 논문원고 마감 (2월28일·5월31일·8월31일·11월30일)
- 논문 심사 마감 (3월31일·6월30일·9월30일·12월31)
- 심사위원 심사결과 통지 (4월 초·7월 초·10월 초·1월 초)
- 논문 수정원고 마감 (4월16일·7월16일·10월15일·12월17일)
- 편집위원회 최종 게재 가부 통지 (4월30일·7월31일·10월31일·1월31일)
- 1차 교정 : 필자
- 2차 교정 : 편집위원회
- 발행 (5월31일·8월31일·11월30일·2월28일)

學會 住所 및 連絡處

☞ 韓國

學會事務局

(34708) 대전광역시 동구 안골로28번길 122 (메트로문화사)

Tel (042)488-9155 Fax (042)488-9156

☞ 日本

本學會의 關東支部 : 東京都日野市大坂上4-1-1 実践女子大学 山内博之研究室

中部支部 : 名古屋市昭和区山里町18番地 南山大学 坂本正研究室

☞ 학회 Homepage address : //www.bunka.or.kr

各種樣式

[제반 양식은 학회 홈페이지에서 다운받아 사용 바랍니다.]

- ◎ 会則および規定
 - ▶ 学会会則
 - ▶ 編輯委員会規定
 - ▶ 投稿規定
 - ▶ 学会発表に関する規定
 - ▶ 海外理事に関する規定
 - ▶ 海外支部に関する規定
 - ▶ 会員規定
- ◎ 『日本文化学報』発行計画
 - ◎ 各種様式
- ◎ 2018年度 学会日程表

韓国日本文化学会 会則

第1章 総則

第1条(名称) 本学会は「韓国日本文化学会」と称する。

第2条(目的) 本学会の目的は、日本に関連する諸学問研究のための国内外相互の学術交流を通じ、日本学研究的の活性化と学問の発展を図り、国際交流を通じた相互協力と理解の増進に寄与することにある。

第3条(事業) 本学会は第2条の目的を達成するために次の各項の事業を行う。

1. 定期学術研究発表会(年2回)
2. 学術誌発刊(年4回)
3. 学術振興のためのセミナー及びシンポジウムの開催
4. 外国学会との学術交流及び共同研究
5. 外国の大学図書館及び学術団体との学術誌交流
6. 日本文化の紹介

第4条(位置) 本学会の目的を達成するため別途に学会事務室及び支部を置き、常時業務を担当する事務局長を置くことができる。

第2章 会員

第5条(資格) 本学会の会員は日本語文学をはじめとする日本学研究に従事する者や関心を持つ者とする。

第6条(区分) 本学会の会員の区分は「会員規定」に従う。

第7条(加入要件) 本学会に新規加入を希望する者は既会員の推薦を受けることを原則とする。

第8条(権利と義務) 本学会の会員は次のような権利と義務を有する。

1. 役員の選挙権及び被選挙権（但し、名譽会員を除く）
2. 学会活動参加の権利と会則遵守の義務
3. 会費納付の義務

第9条(懲戒) 会員がその義務を遂行せず、本学会の名譽を著しく損なった場合は、理事会の決議を経て、会員資格の剥奪または停止などの処分を行うことができる。

第3章 機構及び役員

第10条(機構) 本学会には次のような機構を置く。

1. 執行委員会(会長、副会長、常任理事)
2. 理事会
3. 海外支部

第11条(役員) 本学会の円滑な運営のために次のような役員を置く。

会長(1名)、副会長(若干名)、常任理事(若干名)、海外理事及び理事(適宜)、監事(2名)

第12条(役員を選出) 会長及び監事は総会で選出し、その他の役員は会長が委嘱する。

第13条(役員の任期) 役員の任期は2年とするが再任が可能である。

Journal of Japanese Culture

491

第4章 総会

第14条(種類) 本学会の会議には総会、理事会、各種委員会がある。

第15条(総会の招集及び議決)

1. 本学会は毎年1回の定期総会を開催し、必要に応じて会長が臨時総会を招集することができる。
2. 総会は次の議案を審議・議決する。
 - (1) 会長及び監事の選出・解任
 - (2) 会則の改定
 - (3) 事業計画の樹立
 - (4) 予算及び決算の承認
 - (5) その他の重要事項
3. 総会での議決は出席会員の過半数の賛成による。

第16条(理事会の招集及び議決)

1. 理事会には実務理事会と拡大理事会があり、会長が必要に応じこれを召集する。
2. 実務理事会は会長、副会長、常任理事により構成され、拡大理事会は会長、副会長を含む全ての理事が対象となる。
3. 理事会は諸規定の改定、会則の改正の発議、会長委任事項の審議、諮問委員の迎え入れ、特別・名譽会員の承認、その他の重要事項を処理する。

第17条(各種委員会の構成及び任務)

1. 会長は分野別業務の効率的な遂行のため各種委員会を設置することができる。
2. 委員会は委員長と委員から成り、委員長は会長の任命動議を受け理事会で選任する。
3. 委員会の案件は出席委員の過半数の賛成により可決される。

第5章 財政

第18条(財政) 本学会の財政は会員の会費とその他の収益金による。

第19条(会費) 本学会の会費は総会で決定する。

第20条(会計年度) 本学会の会計年度は3月から翌年2月までとする。

第21条(国際学術交流賞の選定) 本学会の学術発展に多大な貢献が認められる海外会員を対象とし学
会長の推薦により理事会において定める。

第6章 付則

第22条(会則改正) 本学会の会則の改正は定期総会で出席者の3分の2以上の同意を得て確定する。

第23条(施行細則) 本会則の施行に必要な諸規定は理事会の議決を得て施行する。本会則に明示されていない事項については慣例に従う。

第24条(施行日) 本改正会則は2001年10月1日から施行する。

第25条 改正された規定は、定期総会の議決を経て、2007年5月1日から施行する。

第26条 改正された規定は、定期総会の議決を経て、2008年10月25日から施行する。

韓国日本文化学会 編輯委員会規定

第 1 章 総 則

- 第1条** 本委員会は「韓国日本文化学会編集委員会」と称する。
- 第2条** 本委員会は韓国日本文化学会会則第17条に基づき設置する。
- 第3条** 本委員会が管掌する学会誌『日本文化学報』は次のような指針のもとに発行する。
1. 年4回(2月号、5月号、8月号、11月号)発行する。
 2. 発行日は当該月の末日を原則とする。
 3. 投稿日、審査日、掲載確定日はすべて英文要旨の下に明記する。
例) 投 稿 日: 2015.02.28.
審 査 日: 2015.03.31.
掲載確定日: 2015.04.30
 4. その他の発行過程は「『日本文化学報』発行計画」に準ずるものとする。

第 2 章 編集委員会の構成

- 第4条** 編集委員会は次のように構成する。
委員長、編集幹事、国内外委員
- 第5条** 編集委員会委員長は編集委員の中から会長の提案又は要請を受け理事会にて選任する。編集委員会委員長は委員会を代表し、編集幹事は学会誌に投稿された論文の審査及び編集を統括する。任期は共に2年とする。
- 第6条** 編集委員会委員は理事会の承認を受け会長が任命する。任期は2年とし、本人の同意があれば延長が可能である。
- 第7条** 編集委員は次のような基準により選定する。
1. 大学の教授またはこれに相当する資格を持つ者。或いは該当専攻分野で10年以上の研究経歴を持つ者で、学術研究実績が優れ、社会活動において積極的且つ活発な国内外の会員の中から選定する。
 2. 各学問分野の代表性を考慮して選定する。
 3. 分科委員会の分科理事は充職として任命する。

第 3 章 機 能

- 第8条** 編集委員会は学会誌『日本文化学報』の様式、発行回数、発行部数、論文の分量、投稿及び審査規定など学会誌発行と関連した諸事項を決定する。
- 第9条** 編集委員会の編集幹事は各分科理事との合意のもとに投稿論文の審査委員を選定・依頼し、編集委員会は審査委員の審査結果を踏まえて論文掲載の可否を決定する。

第10条 第8条の事項以外に編集委員会が議決した事案は、理事会の承認を経たのちに効力を生ずるものとする。

第4章 編集委員会会議

第11条 編集委員会会議は学会誌の発行計画により委員長が召集する。

第12条 1年4回の定期編集会議以外に、必要に応じて委員長が臨時編集会議を招集することができる。

第13条 編集会議は原則として出席委員の過半数の賛成をもって議決する。

第5章 論文評価基準

第14条 掲載論文は学会の研究発表会で発表されたものとするが(但し、口頭発表後2年間で)、理事会の推薦があった場合にはその寄稿論文も掲載することができる。

第15条 論文の審査は項目別評価と総合評価からなる。

第16条 評価項目は次の通りである。

1. 内容の適切性
2. 内容の独創性
3. 形式の適切性
4. 展開の論理性
5. 研究方法の適切性

第17条 総合評価は項目別評価をもとに審査者が次の4段階で評価する。

1. 学術論文として非常に優秀である。
2. 学術論文として優秀であるが、一部修正を要する。
3. 学術論文として内容・形式面で修正を要する部分が比較的多く、修正後再投稿を要する。
4. 学術論文として不適格である。

第6章 論文審査基準・審査過程

第18条(審査基準) 編集委員会では投稿論文に対する3名の責任審査委員の審査結果、並びに指摘された事柄に対する執筆者の処理の結果及び投稿規定の遵守がなされているかどうかを基準として、次のように論文の掲載の可否を決定する。

1. 掲載
審査委員による評価点が23～25点以上の論文が対象
2. 修正後掲載
審査委員による評価点が19～22点の論文が対象
3. 修正後 判定

審査委員による評価点が15-18点の論文が対象

4. 掲載不可

審査委員による評価点が14点未満の論文が対象

5. 1)最終的な掲載の可否は3名の審査委員による点数の合計をもとに編集委員会で決定する。但し、「掲載不可」並びに「修正後に再審査」の判定が2名以上の場合は編集委員会会議において掲載の可否を決定する。
- 2)論文審査並びに審査後修正・加筆に対する具体的な要求事項の伝達は全てホームページ上で行われるものとする。

第19条(審査過程) 論文の審査は次の2つの段階の手順を通してなされる。

1. 一次審査(審査委員による審査)
 - a. 提出した論文は3名の責任審査委員に審査を依頼する。
 - b. 編集委員会では審査委員による評価点が23-25点以上の論文は「掲載」、19-22点の論文は「修正後掲載」、15-18点の論文は「修正後再審査」、14点未満の論文は「掲載不可」とする。
 - c. 投稿者に一次審査の結果報告書と審査結果を通知し、「修正後掲載」、「修正後再審査」の判定を受けた論文に対しては加筆修正を求める。「掲載不可」となった論文は、その判定に対し異議を申し立てることができる。
 - d. 「掲載可」、「修正後掲載」、「修正後再審査」となった論文は修正・加筆の後「修正報告書」と併せて編集委員会に提出する。
2. 二次審査(編集委員会による審査)
 - a. 一次審査で「修正後掲載」「修正後再審査」と判定された論文に対し、2名の編集委員に、加筆修正要求の内容に従って修正が適切になされているか、且つ投稿規定が遵守されているかどうかについての審査を依頼する。
 - b. 審査委員会による評価点を合計した総合点を勘案して掲載論文を最終決定し、投稿者に通知する。
 - c. 論文の審査結果に対して異議申立がある場合、編集委員会において再審査が必要であると判断する場合は学術委員会の分科理事に再審査を依頼する。
 - d. 投稿論文の掲載率に関する編集委員会の議決事項は総合点の点数に優先する。

第20条(審査時期) 投稿された論文の審査は年4回(3月、6月、9月、12月)実施することを原則とする。

第21条(論文掲載号) 同一筆者の連続掲載も可能である。また、複数著者の論文の場合、第一筆者を上段に表記し、共同筆者は下段に表記する。

既存の規定 (2015年7月1日制定附則第8条)

*2015年11月1日から施行された〈修正後掲載1〉〈修正後掲載2〉を審査の厳正さ・客観性を担保するため、〈修正後掲載〉〈修正後判定〉に変更し、2016年2月1日から施行する。

Journal of Japanese Culture

495

第7章 その他

第22条 編集委員会及び分科別の業務を処理するため編集委員会とは別に学術委員会分科理事を置く。

第23条 最終審査に合格し本学会の学術誌に掲載された論文の著作権は本学会に帰属するものとする

第8章 付 則

第1条 本規定は理事会の議決を経て1999年10月9日から施行する。

第2条 本規定に明示されていない事項については慣例に従う。

第3条 改正された規定は理事会の議決を経て2002年3月1日から施行する。

第4条 改正された規定は理事会の議決を経て2006年8月1日から施行する。

第5条 改正された規定は理事会の議決を経て2008年8月1日から施行する。

第6条 改正された規定は理事会の議決を経て2011年3月1日から施行する。

第7条 改正された規定は理事会の議決を経て2015年7月1日から施行する。

韓国日本文化学会の研究倫理の規定

施行 2015.12.16 韓国日本文化学会規定 2015.12.16 全部改正

第 1 章 総 則

第1条(目的) 本規定は、韓国日本文化学会(以下「学会」と称する)の学会誌、及び学術大会で発表を経た論文に対する研究倫理の規定を厳格に定め明文化することにより、信頼のおける研究風土を確立し、会員たちの望ましい学術活動を導き、学会の位相を効率的に高めていくことを目的とする。

第2条(適用対象) 本規定は、原則的に、本学会の会員として行う研究活動と直接的・間接的に関連のある全ての研究者を対象に適用する。

第3条(適用範囲) 本規定の適用範囲は、人文社会分野の研究倫理の確立、及び研究の真実性の検証に関連する諸般の事項とする。

第4条(用語の定義) 本規定において使用する用語の定義は次の通りである。

1. 「研究不正行為」とは、研究の提案、遂行、結果報告及び発表等における偽造・変造・剽窃・重複記載・不当な著者の表記等を言う。これに対する範囲及び定義は第5条に従う。
2. 「情報提供者」とは、研究不正行為が行われたこと知り、知り得た事実または関連する証拠を学会または研究支援機関、所属機関等に通報した者を言う。
3. 「被調査者」とは、情報の提供、または学会の認知するところによって研究不正行為の調査対象となった者、もしくは、調査遂行過程において研究不正行為に加担したと推定され調査対象となった者を言い、調査過程における参考人や証人はこれに含まない。
4. 「予備調査」とは、研究不正行為の嫌疑に対し、公式的に調査する必要があるかどうかを定めるための調査の手順もしくはその内容を言う。
5. 「本調査」とは、予備調査の結果、公式的な調査が必要と判断された研究不正行為の嫌疑事実を立証するための調査の手順もしくはその内容を言う。
6. 「判定」とは、調査結果を最終確定し、情報提供者と被調査者に文書で通知するその内容を言う。

第 2 章 倫 理 規 定

第5条(研究不正行為の範囲) 研究不正行為の範囲及び定義は次の各号の通りである。

1. 「偽造」とは、存在しないデータでもって研究結果を捏造する行為。
2. 「変造」とは、研究資料や研究過程等を人為的に操作したり、データを任意に変形、削除することによって研究内容または結果を歪曲する行為。
3. 「剽窃」とは、次の各細目に示すように、一般的な知識ではない他人の独創的なアイデア、または創作物を、適切な出処の表記なく活用することによって、第三者にあたかも自身の創作物であるかのように認識させる行為。
- イ. 他人の研究内容の全部、もしくは一部を出処を表記せずそのまま活用する場合。

- ロ. 他人の著作物の単語・文章の構造を一部変形させて使用しながら出処の表記をしない場合。
- ハ. 他人の独創的な考え等を活用しながらも、出処を表記しない場合。
- 二. 他人の著作物を翻訳して活用しながらも、出処を表記しない場合。
- 4. 「重複掲載」とは、著者が自身の以前の研究結果と同一または実質的に類似した著作物を、先行著作物に対する出処の表記なく掲載する行為。
- 5. 「不当な著者の表示」とは、研究内容または結果に対し貢献ないしは寄与した人に、正当な理由なく著者の資格を付与しなかったり、逆に、貢献ないし寄与していない人に、感謝の表示または礼遇等を理由に著者の資格を付与する行為。
- ⑥その他、それぞれの学問分野で通常容認さるべき範囲を著しく逸脱した行為。

第6条(研究者の役割と責任)

- ① 研究者は、須く本規定の第5条に定めるところの研究不正行為を忌避すべきである。
- ② 研究者は、本規定の第5条に定めるところの不正行為と思しき事例を発見した場合、適切な方法でこれを学会に報告しなければならない。
- ③ 研究者は、自身の利益と、他の研究者または他機関のそれが相衝する可能性がある場合、これを公表し適切に対応しなければならない。

第7条(編集委員の役割と責任)

- ① 編集委員は、投稿された論文の著者の性別、年齢、所属機関または私的な交際関係による先入観に関係なく、論文の質的水準と論文審査規定に則り、公正に審査しなければならない。
- ② 編集委員に投稿された論文の評価を、該当分野の専門的知識と公正な判断能力を持つ審査委員に依頼し、客観的な評価がなされるようにしなければならない。
- ③ 編集委員は、投稿された論文の掲載の可否を決定するが、著者の人格ならびに研究者としての独立性を尊重せねばならず、掲載不可となった論文に関して緘口の義務を有する。
- ④ 編集委員は、投稿された論文の掲載が確定する時点まで、著者に対する情報や論文の内容を非公開にしなければならない。

第8条(審査委員の役割と責任)

- ① 審査の依頼を受けた審査委員は、審査対象である論文を審査規定の定めた期限内に誠実に評価しなければならない。
- ② 審査委員は、論文を客観的で公正に評価しなければならない。審査する者一人の理論的性向や観点といった主観的要素を排除し、客観的基準に則って評価しなければならない。
- ③ 審査委員は、著者の人格と学問的な独立性を尊重しなければならない。論文の修正または補完が必要な場合は丁寧な表現を用い、審査評価書にその理由を詳細に示さなければならない。
- ④ 審査委員は、投稿論文の掲載が確定する時点まで論文に関する諸般の事項を公開してはならない。

第3章 研究倫理委員会の設置及び運営

第9条(構成)

- ① 研究倫理委員会(以下「委員会」と称する)は、学会長、副会長、編集委員長、総務理事、学術理事、編集理事及び3名以上の編集委員を含め、15名以内で構成する。委員長は学会長が兼任し、委員は学会長が委嘱する。
- ② 委員長及び委員の任期は、それぞれ職責上定められた任期に従う。但し、職責のない委員は2年とし、任期の延長は可能である。
- ③ 委員長は、委員会を代表し会議を主宰する。
- ④ 委員会には幹事1名を置いて諸般の業務を処理することができ、幹事は委員長が任命する。

第10条(機能) 委員会は次の各号の事項を審議・議決する。

1. 研究倫理・真実性に関連した制度の樹立、及び運営に関する事項。
2. 研究倫理規定の制定・改正に関する事項。
3. 不正行為に対する情報提供の接受、及び調査に関する事項。
4. 情報提供者及び被調査者の保護に関する事項。
5. 本調査着手の可否及び調査結果の判定、承認及び再審査に関する事項。
6. 掲載及び処分に関する事項。
7. 研究の真実性の検証結果の処理、及び後続の措置に関する事項。
8. その他、委員長が付議する事項。

第11条(運営)

- ① 委員長は委員会の会議を招集しその議長となる。
- ② 会議は、在籍委員の過半数の出席と出席委員の3分の2以上の賛成を以て議決する。委任状は委員会の成立要件であるところの出席として認定されるが、議決権は付与されない。但し、委任状に議決の形式と内容が明示されている場合には、議決権が認められることがある。
- ③ 会議は非公開を原則とするが、必要な場合は委員外の該当分野の専門家を参加させ、意見を聴取することができる。

第4章 情報の提供及び接受

第12条(不正行為の情報提供及び接受)

- ① 情報提供者は、学会の口述・書面・電話・電子郵便等、可能な全ての方法を通じ、実名で情報提供することを原則とする。
- ② 証拠資料は必ず書面で提出しなければならず、匿名で情報提供しようとする場合、書面または電子郵便で研究課題名、論文名、及び具体的な不正行為の材料を提出しなければならない。
- ③ 情報提供の内容が虚偽であることを知ったか、もしくは知り得ていたにもかかわらずこれを申告した情報提供者は、保護の対象に含まれない。

第13条(情報提供者と被調査者の権利保護・秘密厳守)

- ① 如何なる場合であれ、情報提供者の身元情報が直接・間接的に公にされてはならず、姓名は必ず必要とする場合を除き、情報提供者を保護する次元から調査結果報告書に含めない。
- ② 情報提供者が不正行為の情報の提供を理由に、身分上の不利益、勤労条件上の差別、不当な圧力もしくは危害等を被る場合には、その被害から原状回復できるようにする等、情報提供者に対し必要な措置を取らなければならない。
- ③ 不正行為であるかどうかの検証がなされるまで、被調査者の名誉や権利が侵害されないよう注意すべきであり、不正行為とは無関係であると判明した場合、被調査者の速やかな名誉回復に努めなければならない。
- ④ 情報提供・調査・審議・議決及び発議における措置等、調査に関連する一切の事項は秘密とし、調査に直接・間接に参与した者は、職務遂行過程において取得した全ての情報につき、それを漏洩してはならない。但し、正当な必要性が認められる場合は委員会の議決を経て公開することができる。

第14条(異議の提起及び弁明の機会の保証) 調査委員会は、情報提供者と被調査者に意見陳述や異議の提起、及び弁明の権利と機会を等しく保証しなければならない。関連手順について事前に通知しなければならない。

第 5 章 予備調査

第15条(予備調査の期間及び方法)

- ① 予備調査は、原則的に情報の提供が受け付けられた日から10日以内に着手し、調査を開始した日から30日以内に完了する。
- ② 予備調査では次の各号の事項を検討する。
 1. 提供のあった情報の内容が、第5条の研究不正行為に該当するか。
 2. 情報の内容が具体性と明確性を持ち、本調査を実施する必要性と実益が認められるものであるか。

第16条(予備調査の結果の通知)

- ① 予備調査の結果は、委員会の議決を経てから10日以内に情報提供者に文書で通知しなければならない。但し、情報提供者が匿名である場合は例外とする。
- ② 予備調査の結果報告書には、次の各号の内容が含まれていなければならない。
 1. 提供された情報の内容
 2. 調査結果
 3. 本調査実施の可否及びそれに対する判断の根拠
 4. 情報提供者と被調査者の陳述内容

第 6 章 本調査

第17条(本調査の期間)

- ① 本調査は、委員会で本調査の実施を決定してから30日以内に着手しなければならない。
- ② 本調査は、開始日から90日以内に完了する。
- ③ 第2項の期間内での調査の完了が不可能であると判断した場合、一回に限り期間を延長することができる。

第18条(出席・資料提出の要求)

- ① 委員会は情報提供者・被調査者・証人及び参考人に対し、陳述のための出席を求めることができ、この

場合該当者は誠実に調査に応じなければならない。

- ② 委員会は被調査者に関連資料の提出を求めることができ、被調査者は、委員会が要請する資料提出に対しては無限責任をもって臨まなければならない。調査に誠意をもって望まない場合、学会次元での懲戒は勿論、該当機関(大学等)にも関連資料の一切を移譲し、懲戒を要請することができる。

第19条(本調査における結果報告書の作成)

- ① 委員会は異議の提起及び弁明の内容をもとに本調査における結果報告書(以下「最終報告書」と言う)を作成する。
- ② 最終報告書には次の各号の事項が含まれていなければならない。
 1. 提供された情報の内容
 2. 調査結果
 3. 調査委員会の委員の名簿
 4. 該当の研究における被調査者の役割と研究不正行為の事実の存否
 5. 関連する証拠及び証人、参考人、その他諮問に参加した者の名簿
 6. 情報提供者と被調査者の陳述内容
 7. 検証結果に基づく判定結果

第20条(判定)

- ① 委員会は、異議の提起または弁明の内容をもとに、調査内容及び結果を判定、確定する。
- ② その制裁及び処分内容に対しても決定する。
- ③ 上の判定の結果、懲戒の内容を情報提供者と被調査者に通知する。

第21条(異議の申立・再審議) 情報提供者または被調査者が判定に不服な場合には、通知を受けた日から30日以内に、委員会にその理由を書面で伝え再審査を求めることができる。但し、再審査の決定は、委員会における全員一致の合意と学会長の追認がある場合に限る。

第7章 検証以後の措置

第22条(調査結果の通知及び報告)

- ① 調査結果は、該当研究者の所属機関に通知し、所属機関等からの要請がある場合、学会長の承認の下で調査に関連した資料を提出することができる。
- ② 調査対象となった論文に対し、政府等の機関による研究費の支援があった場合、研究費支援機関に提出する。

第23条(不正行為に対する懲戒処分)

- ① 懲戒処分及び制裁措置が決定した場合、委員長はその事実を該当研究者に書面で通知しなければならない。
- ② 委員会は不正行為の関連者に対し、次の各項の懲戒処分を行うことができる。
 1. 学会譴責書翰の発送
 2. 該当研究結果物の学術誌掲載の取消

Journal of Japanese Culture

501

3. 3年間にわたる投稿資格の制限
4. 除名
5. 所属機関、及び研究支援があった場合該当機関への通知
6. 法律機関への告発等

③ 懲戒処分及び制裁措置の結果は、学会ホームページを通じ公開する。

第24条(記録の保管・公開)

- ① 予備調査及び本調査に関連した記録は、委員会で5年以上保管する。
- ② 本調査と最終報告書は判定終了後に公開することができる。但し、情報提供者・調査委員・証人・参考人・諮問に参加した者の名簿等、身元に関連した情報が当事者に不利益を与える可能性がある場合には公開しないこともある。

第 8 章 補 則

第25条(経費) 委員会の運営及び調査に必要な予算は、別途に策定し支給することができる。

第26条(審査費) 研究倫理違反の嫌疑が認められた場合は、論文投稿及び審査の際に要した諸般の経費は返却しないことを原則とする。

第27条(準用) 研究における真実性の検証と関連し、本規定で定められていない事項に関しては、関連法規及び教育部訓令「研究倫理確保のための指針」等を準用する。

付 則

第1条(施行日) 本研究倫理規定は、2015年12月16日より施行する。

第2条(規定の廃規) 本学会における既存の研究倫理規定(施行日、2008年8月1日)は、2015年12月16日付けをもって自動的に廃規となる。

『日本文化學報』 投稿規定

【海外会員用】

1. 投稿論文

日本語日本文学、日本語教育、韓国語・日本語対照研究、韓日比較文学、日本学という広義の日本文化(伝統日本文化及び大衆文化)に関連し、斬新で創意的なものでなければならない。

2. 使用する言語

韓国語、日本語、または英語で作成する。

3. 原稿作成

国内外の会員共に必ずワードプロセッサ「アレアハングル」または「MS Word」で作成することを原則とする。原稿は「使用者定義」の「編集用紙」から、幅180、縦255、上20、下15、ヘッダー13、フッター13、左23、右23、製本0に設定してから作成する。論文の題名などを含めた主な論文作成要領は以下の通りである。

【論文の題目】新明朝(略字)20、太字、中央寄せ、行間隔 140

【論文の副題】新明朝(略字)15、中央寄せ、行間隔 140

【筆者名】新明朝(略字)12、右寄せ、行間隔 140

【筆者の E-mail】新明朝(略字)12、右寄せ、行間隔 140

【目次】新明朝(略字)10.5、太字、中央寄せ、行間隔 140

【目次の内容】新明朝(略字)9、行間隔 140

【キーワード】新明朝(略字)9、行間隔 140、主題語5～6語、「日本語(英語)」形式

【大見出し】新明朝(略字)15、太字、中央寄せ、行間隔 170

【本文】新明朝(略字)10.5、行間隔 170

【引用文】新明朝(略字)10、行間隔 170、例文順序に従い(1a, 1b)(2)のように作成

【脚注】新明朝(略字)9、行間隔 130

【小見出し】新明朝(略字)12、太字、中央寄せ、行間隔 170

【表の題目】新明朝(略字)10、中央寄せ、行間隔 170

【表の内容】新明朝(略字)10、行間隔 140

【参考文献】新明朝(略字)12、中央寄せ、行間隔 140

【参考原稿の内容】新明朝(略字)9、行間隔 140

4. 原稿の分量

原稿用紙200字×100枚以内とする。これは論文作成要領に従い作成した文書の約19ページに相当し、15ページから20ページを原則とする。原稿が要旨文を含めて20ページを超える場合は1ページ当たり1万ウォンの掲載料を追加負担する。

5. 要旨文

参考文献の後ろにページを替えて作成する。作成時には以下の事を守ること。

- 1) 要旨文は本文の言語に関係なく日本語と英語の順に作成する。
- 2) 要旨文はそれぞれページの半分を超えないようにし、両方合わせて必ず1ページ内に収まるようにする。要旨文作成の際の要領は以下の通りである。

【要旨】 新明朝(略字)10.5、太字、中央寄せ、行間隔 130

【要旨文の題目】 新明朝(略字)10.5、中央寄せ、行間隔 130

【要旨文の副題】 新明朝(略字)、10.5、中央寄せ、行間隔 130

【要旨文の筆者名】 新明朝(略字)9、右寄せ、行間隔 130

【要旨文の本文】 新明朝(略字)9、行間隔 130

6. 外来語

日本語をハングルで表記する際にはハングル正書法の「外来語表記法」に従う。

7. 原稿の提出

論文は学会指定のホームページ(www.bunka.or.kr)に会員登録後、オンライン論文投稿/審査(<http://bunka.ezshosting.com/intro/>)から投稿する。

8. 原稿の校正

論文編集委員会は必要に応じ論文の筆者に原稿の加筆修正を求めることがある。原稿の校正は筆者が責任を負う。

9. 審査料及び掲載料

論文投稿を希望する者は学会の口座に審査料6万ウォンを振り込み、掲載が決定し出版社による編集が完了した時点で筆者は掲載料(一般論文：10万ウォン(無発表論文：15万ウォン)、研究費支援論文：20万ウォン(無発表論文の場合は30万ウォン)、但し20ページを超過した場合は1ページ当たり1万ウォンを追加負担)を振り込む。掲載料は出版社の編集が完了した段階で事務局が通知する。

10. 抜き刷り

掲載された論文については学会誌2部と抜き刷り20部を贈呈する。但し、抜き刷りの追加を希望する際の印刷費用は筆者の負担となる。

11. その他

複雑な図表及び投稿規定違反などにより出版費用が余分にかさんだ場合は、筆者にその分の費用を請求することがある。また、受け付けた原稿は一切返却しない。

『日本文化學報』 論文作成要領

【編集用紙】 使用者定義 幅180、縦255、上20、下15、ヘッダー13、フッター13、左23、右23、製本0（使用者定義：F7）

【論文題目】 新明朝(略字) 20、太字、中央寄せ、行間隔 140

【副題】 新明朝(略字) 15、中央寄せ、行間隔 140

** 4行空け（但し副題がない場合は5行空け）**

【筆者名】 新明朝(略字) 12、右寄せ、行間隔 140

（筆者が2名以上の場合は、第1筆者を上段に、共同筆者は下段に表記する。筆者名のすぐ次に「*」を入れ、それを選択して右クリック「字の形(様態)」から「属性-上の添字」をクリックすると「*」に変わる。脚注処理をしてから「*」の横の「1」を選択して右クリックした後、「字形」の「基本」タブの字の「色」を「なし(白)」に指定し「設定」ボタンを押すと番号が消える。脚注でも同様に「1」を処理し隠した後、「字の形(様態)」の「基本」タブで字の「色」を「黒」に戻してから「*」を入力し、その横に所属、職位、専攻分野を記入する。本文で最初に脚注を入れる時には、「形(様態)」の「新たな番号から開始」のところで脚注番号を「1」にすると本文の脚注番号がそこを最初として順番に入るようになる。

【e-mail】 新明朝(略字) 12、右寄せ、行間隔 140

** 2行空け **

【目次】 新明朝(略字) 10.5、太字、中央寄せ、行間隔 140

【目次内容】 新明朝(略字) 9、行間隔 140

【キーワード】 新明朝(略字) 9、行間隔 140

主題語(キーワード)5～6語を日本語(英語)の形式で。

** 2行空け **

【大見出し】 新明朝(略字) 15、太字、中央寄せ、行間隔 170

** 1行空け **

【本文】 新明朝(略字) 10.5、行間隔 170

** 1行空け **

【例文】 新明朝(略字) 10、行間隔 170

例文の引用の順に(1a、1b)(2)(3a、3b、3c) というように

** 1行空け **

【引用文】 新明朝(略字) 10、行間隔 170

行頭2字空ける(例文でない場合)

** 1行空け **

【本文】 新明朝(略字) 10.5、行間隔 170

** 2行空け **

Journal of Japanese Culture

505

- 【大見出し】** 新明朝(略字) 15、太字、中央寄せ、行間隔 170
** 1行空け **
- 【小見出し】** 新明朝(略字) 12、太字、中央寄せ、行間隔 170
- 【表の題目】** 新明朝(略字) 10、中央寄せ、行間隔 170、表の順に〈表1〉〈表2〉〈表3〉とする。
- 【表の内容】** 新明朝(略字) 10、行間隔 140、字の大きさは表の内容によって10以下に調節が可能
** 1行空け **
- 【本文】** 新明朝(略字) 10.5、行間隔 170
** 2行空け **
- 【脚注】** 新明朝(略字) 9、行間隔 130
- * 著者名(年度) 「論文名」 『著書名』 掲載誌の巻または号、発行機関、ページ の順に配列
ex) 洪吉童(2016) 「洪吉童の人生」 『日本文化学報』 第70輯、韓国日本文化学会、p.8.
ex) 前掲書(or 前述の書 or 前の論文)、洪吉童(2016) p.8.
ex) <http://www.bunka.or.kr> (検索日 2016.08.25.)
ex) 洪吉(2016) 「洪吉童の人生」 『日本文化学報』 第70輯、韓国日本文化学会、p.8.
 - * 脚注の引用文は引用記号を韓国語の場合は「」 “ ”、日本語の場合は「」 で表記。
- 【参考文献】** 新明朝(略字) 12、中央寄せ、行間隔 140
** 1行空け **
- 【参考文献の内容】** 新明朝(略字) 9、行間隔 140
- * 参考文献が1行を超える場合、次の行から[行頭空け]即ち'残りの行の始まる位置'を利用し、5.5字空いた位置に合わせる。
ex) 洪吉童(2016) 「洪吉童の出生の秘密と成長の背景について」 『日本文化学報』 第70輯、韓国日本文化学会、p.8.
 - * インターネット内容： ex) 京都大学 朝鮮韓国 教育研究ネットワーク：
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~ksnet/j/j02.html>(検索日2016.06.14.)
 - * DOI 番号の挿入： DOI番号がある論文は参考論文にDOI番号を下記のように挿入する。
李忠奎(2016) 「韓国人からみた日本語の複合動詞一回顧と今後の課題一」 『日本語文学』 第68輯、韓国日本語文学会、pp.83-110.
(<http://dx.doi.org/10.18704/kjll.2016.03.68.83>)
 - * 著書名(年度) 「論文名」 『著書名』 掲載誌の巻または号、発行機関、ページの順に配列し、漏れなく記載
 - * 参考文献は、全て、ページ数を p.3、pp.12-25の形式にし、漏れなく記載
 - * 参考文献は、全て、発行機関を必ず記載
 - * 文献の配列：韓国語文、日文、英文の順に著者名を基準にそれぞれが、五十音、アルファベット順
 - * 参考文献には本文で言及した文献のみを記載する。
- ** 2行空け **

Journal of Japanese Culture

506

【論文投稿日・論文審査日・掲載確定日】 新明朝(略字) 9、右寄せ、行間隔 140

* 論文の投稿日は、投稿者が論文の投稿日を形式に従い直接作成すること。

(ページを替えて)

【要旨】 新明朝(略字) 10.5、太字、中央寄せ、行間隔 130

** 1行空け **

【要旨文の題目】 新明朝(略字) 10.5、中央寄せ、行間隔 130

【要旨文の小見出し】 新明朝(略字) 10.5、中央寄せ、行間隔 130

** 1行空け **

【要旨文の筆者名】 新明朝(略字) 9、右寄せ、行間隔 130

** 1行空け **

【要旨文の本文】 新明朝(略字) 9、行間隔 130

** 2行空け **

*要旨文は本文の言語に関係なく日本語と英語の順で作成する。

*要旨文は各々半ページ以下にし、日文と英文両方合わせて必ず1ページ内に収まるようにする。

*日本語の要旨文は漢字名で、英語の要旨文には英語名で Hong, Kil-Dongのように表記する。

※投稿論文を書く際には、上記の要領をもとに作成した「論文作成のサンプル」をそのまま活用されても結構です。

韓・日 対照言語学的研究

—受け身表現を中心に—

洪吉童*

(e-mail : Hong-kd@hanmail.net)

<目次>

1. はじめに	3. ○○○
2. 研究の目的及び方法	3.1. ○○○
2.1. 研究の目的	3.2. ○○○
2.2. 研究の方法	4. おわりに

キーワード：文法(Grammar), 文法(Grammar), 文法(Grammar), 文法(Grammar), 文法(Grammar)

1. はじめに

本稿は現代韓国語と日本語における受け身表現を対象にして、対照言語学的な観点から考察したものである。

- (1)a. 子供が犬に噛まれた。
b. 아기가 개에게 물렸다.

本稿は現代日本語と韓国語における受け身表現を1)～。

* 韓国日本文化大学校, 助教授, 対照言語学

1) 本稿においては以下の形態を受け身表現として認めることとする。

2. 研究の目的及び方法

本稿は現代日本語と韓国語における受け身表現を～

2.1. 研究の目的

本稿は現代日本語と韓国語における受け身表現を～

2.2. 研究の方法

本稿は現代日本語と韓国語における受け身表現を～

〈表1〉 洪吉童(2014: 10)の下位分類

言語	日本語	韓国語
例文	子供が犬に噛まれた。	아이가 개에게 물렸다.

本稿は現代日本語と韓国語における受け身表現を～

4. おわりに

本稿は現代日本語と韓国語における受け身表現を～

【参考文献】

- 洪吉童(2014)「韓・日の文法化に関する考察」『文化研究』44, 日本文化学会, pp.3-13
李翊燮・李相億・蔡琬(2004)『韓国語概説』大修館書店, p.216
Stein, Dieter(1995) "Subjectivity and Subjectivisation": Cambridge University Press.
pp.113-135

論文投稿日：投稿者記入
論文審査日：出版社記入
掲載確定日：出版社記入

学会発表に関する規定

1. **(発表資格)** 口頭発表者の資格は本学会の正会員で、大学院生、教員歴5年以上の者、または理事会の推薦を受けた者とする。但し、修士課程の大学院生の場合は、指導教授か海外支部長の推薦を必要とする。提出した発表要旨文を該当の分科で審査の上、採択の可否を決める。
2. **(発表の申込)** 該当の分科理事や学術理事に口頭で申請可能であるが、可能な限り学会ホームページ上の申請様式を利用するのが望ましい。
3. **(申込期限)** 春季大会は3月第2土曜日、秋季大会は9月第2土曜日までとする。
4. **(発表要旨文)**
 - a. <発表要旨文>は“ハングル”か“MS-Word”を使い、韓国語または日本語で作成する。
 - b. 分量はB5用紙5枚(横書)以内とする。
 - c. 春季大会は3月第3土曜日、秋季大会は9月第3土曜日までに提出することを原則とする。
 - d. 発表要旨文の原稿はE-mail(File添付)で事務局へ提出する。
 - e. 発表予稿集の印刷費として10,000ウォンを学会発表の当日受付にて納める。

<学会の口座>

(韓国) 국민은행 724701-01-583607 강연화(한국일본문화학회)

(日本) 当事務局までお問い合わせ下さい。(jbunka@hanmail.net)

外国学会との学術交流に関する規定

1. (日本) 表現学会

- a. 表現学会は韓国日本文化学会から推薦を受けた1名に対して、全国大会（年1回）における研究発表の機会を提供する。
- b. 韓国日本文化学会は表現学会から推薦を受けた数名に対して、学術大会（年2回）における研究発表の機会を提供する。
- c. 表現学会は韓国日本文化学会から推薦を受けた発表論文を学会誌『表現研究』に掲載することが出来る。
- d. 韓国日本文化学会は表現学会から推薦を受けた発表論文を学会誌『日本文化学報』に掲載することが出来る。

2. 日本比較文化学会

- a. 日本比較文化学会は韓国日本文化学会から推薦を受けた会員に対して、全国大会（年1回）における研究発表の機会を提供する。
- b. 韓国日本文化学会は日本比較文化学会から推薦を受けた会員に対して、学術大会（年2回）における研究発表の機会を提供する。
- c. 日本比較文化学会の学会誌『比較文化研究』に韓国日本文化学会の国内会員の論文を掲載することが出来る。
- d. c項の論文は韓国日本文化学会において口頭発表した論文の中で学会が推薦する。その推薦においては学会の内部規定により候補者を選定する。
- e. 推薦論文の審査および掲載料は日本比較文化学会の規定に従う。
- f. 韓国日本文化学会は学会誌『日本文化学報』に日本比較文化学会から推薦を受けた論文を掲載することが出来る。推薦論文の審査は当該学会の規定に従う。
- g. 日本比較文化学会は全国大会（年1回）において発表をする韓国日本文化学会からの推薦会員に対して1年間の会費を免除する。
- h. 韓国日本文化学会は学術大会（年2回）において発表をする日本比較文化学会からの推薦会員に対して1年間の会費を免除する。

3. 台湾日本語文学会

- a. それぞれの学会における学術的な成果を集成し、その交流により相互の学問分野に対し知的に刺激合い、更に両学会並びに両学会員の相互の自主的交流を通じて、それぞれの学会活動がより一層実質化していくことを目指すものとする。
- b. 各年度に刊行された両学会の学会誌について、相互の学術交流のためにその年度に発刊された学会誌をまとめて年に一回相互に交換する。送料等は各学会の負担とする。

- c. 両学会員の学術交流を促すために、相互の学会への投稿を認める。相互の投稿条件等は必要に応じて両学会の担当者で協議の上にてその手順・内容を定める。また、投稿と掲載に関わる費用負担は対等とする。なお、相手学会へ投稿できる論文数の上限については別に定めるものとする。
- d. それぞれの学会員は、互いの学会の「姉妹会員」として、相互に学会の全国大会での研究発表に自由に申し込むことができるものとする。発表の採択の可否、種類、日程などの大会運営に関しては、相手国の学会の決定に従うものとする。また、発表に関わる渡航費、滞在費、参加費、懇親会費用等は、原則として、発表者個人の負担とする。
- e. それぞれの学会は、相互の学会の全国大会開催に際して、パネルディスカッション、講演などに相応しい会員を相手学会の推薦によって招聘できる。パネルディスカッション、講演などの種類、日程などの大会運営に関しては相手国の学会の決定に従うものとする。また、招聘に関わる渡航費、滞在費、参加費、懇親会費用等は、協議の上これを定める。

海外理事に関する規定

1. **(資格)** 本学会に1回以上出席して研究発表した日本の学者の方で、本学会の研究活動に関心を持ち、ご協力いただける方。
2. **(活動)**
 - (1) 日本国内において本学会を紹介し、学会の活動内容や情報などを提供
 - (2) 韓国国内で行われる年二回の研究発表会で発表を希望する方の窓口としての役割
 - (3) 学会誌掲載対象論文の審査
 - (4) 日本国内の会員の管理
3. **(任期)** 2年単位とし、本人の同意を得て延長可能。
4. **(任命)** 理事会で協議・決定し、会長が委嘱する。
5. **(施行)** 本内規は、1997年5月5日から施行される。

海外支部に関する規定

1. **(趣旨)** 日本国内に居住する会員の便宜を図るために、本学会の日本支部を置く。
2. **(構成)** 日本支部は、本学会の趣旨に賛同し、積極的に協力する海外理事を中心に結成する。
3. **(代表者)** 日本国内の会員を管理し、日本支部の運営を総括する代表者は日本居住の海外理事の中から、理事会の推薦を受け会長が委嘱する。
4. **(任期)** 日本支部代表者の任期は2年で、本人の同意により連任も可能である。
6. **(施行)** 本内規は2011年6月3日から施行する。

会員規定

本学会のすべての会員は、「国内会員」(韓国内に所属や勤務先のある内国人や外国人)と「海外会員」(外国に所属や勤務先のある外国人や内国人)とに分け、加入の内容により次のように分類される。ただし、日本での留学生は国内会員とする。

1. **(正会員)** 本学会の会員として登録を済ませた者。但し、会費が3年間未納の場合は、正会員の資格を失う。
2. **(準会員)** 会員の中で、正会員の資格を失った者。
3. **(終身会員)** 理事会の同意を得た者で、所定の会費(30万ウォン)を納付した会員。
4. **(特別会員)** 本学会の発展に貢献した人の中で、理事会の推薦による方。
5. **(名譽会員)** 本学会の招聘講演者の中で、理事会の推薦による方。
6. **(団体会員)** 所定の会費(年8万ウォン)を納付する国内外の学術団体および機関。但し、海外(日本)の「学術誌交流団体」も団体会員の範囲に含む。

『日本文化學報』発行 計劃

- ・ 投稿 依頼 (2月初・5月初・8月初・11月初)
- ・ 論文原稿 締切り (2月28日・5月31日・8月31日・11月30日)
- ・ 論文審査 (3月31日・6月30日・9月30日・12月31日)
- ・ 審査委員審査結果 通知 (4月初・7月初・10月初・1月初)
- ・ 論文修正原稿 締切り (4月16日・7月16日・10月15日・12月17日)
- ・ 編集委員会 最終掲載可否 通知 (4月30日・7月31日・10月31日・1月31日)
- ・ 1次校正：筆者
- ・ 2次校正：編集委員会
- ・ 発行 (5月31日・8月31日・11月30日・2月28日)

各種様式

[諸様式は学会のホームページからダウンロードしてください。]

2018년도 학회 일정표

	소식지	『일본문화학보』	국제학술대회	상임·편집·학술 이사회
1월				06(토)
2월	05(월) 18-1호 발송	01(목) 제77집 투고 안내	01(목)제54회 발표신청안내	
		28(수) 제77집 투고 마감		
		28(수) 제76집 발간 및 학진등록	28(수)제54회 발표신청마감	
3월			13(화)제54회 발표요지마감	
4월	02(월) 18-2호 발송		21(토)제54회 국제학술대회	07(토)
5월		01(화) 제78집 투고 안내		
		31(목) 제78호 투고 마감		
		31(목) 제77집 발간 및 학진등록		
6월				
7월			01(일)제55회 발표신청안내	07(토)
8월	27(월) 18-3호 발송	01(수) 제79집 투고 안내	04(토)제55회 발표신청마감	
		31(금) 제79집 투고 마감	11(토)제55회 발표요지마감	
		31(금) 제78집 발간 및 학진등록		
9월			08(토)제55회 국제학술대회	01(토)
10월				
11월		01(화) 제80집 투고 안내		
		30(수) 제80집 논문투고 마감		
		30(수) 제79집 발간 및 학진등록		
12월				
2019년도				
1월				05(토)
2월	04(월) 19-1호 발송	01(금) 제81집 투고 안내	01(금)제56회 발표신청안내	
		28(목) 제81집 투고 마감		
		28(목) 제80집 발간 및 학진등록	28(목)제56회 발표신청마감	

Journal of Japanese Culture

日本文化學報

• 第 79 輯 •

発行日 2018년 11월 30일

発行処 韓国日本文化學會
(34708) 122, Angol-ro 28beon-gil, Dong-gu,
Daejeon, Republic of Korea
Tel (042)488-9155 Fax (042)488-9156

<학회계좌번호>
국민은행 724701-01-583607 강연화(한국일본문화학회)

製作処 메트로문화사
Tel (042) 488-9155 Fax (042) 488-9156
e-mail : metrojung@naver.com

※미매품

© 韓国日本文化學會 2018 Printed in korea

ISSN 1226-3605